

上幌内モイ遺跡 (3)

—厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3—

[第1分冊]

2009.2

厚真町教育委員会

上幌内モイ遺跡 (3)

—厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3—

〔第 1 分冊〕

2009.2

厚真町教育委員会

カラー図版1



1. ⅢGP-03擦文文化期土壌墓検出状態(SE→)



2. 封土断面(S→)[Ta-c主体の褐色土が封土 写真左側の封土下の斑状白色土はB-Tm]



3. 長軸セクション北側層境(SE→)



4. 短軸セクション東側層境(S→)

カラー図版2

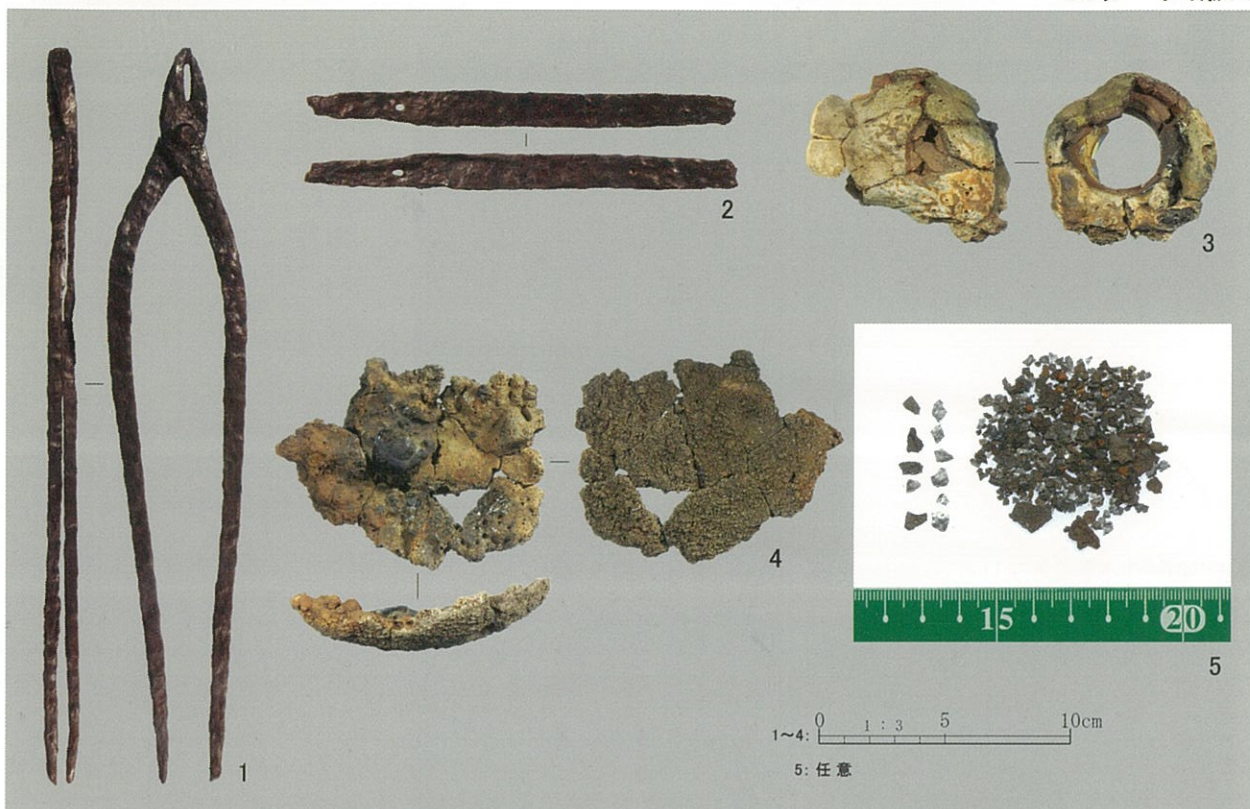


1. III GP-03副葬品



2. 上幌内モイ遺跡出土北方系遺物(1・2: 擦文文化期 3・4: アイヌ文化期[3・4は同一個体])

カラー図版3



1. 上幌内モイ遺跡出土鉄器生産関連遺物(1・2:アイヌ文化期[集中区20] 3~5:擦文文化期[集中区44])

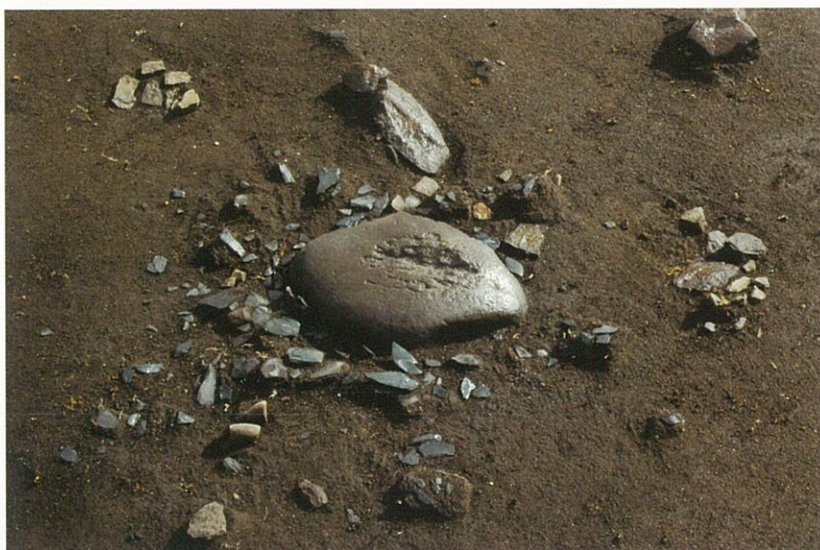


2. 上幌内モイ遺跡出土須恵器・土師器

カラー図版4



1. ⅢBB-51シカ送り場跡検出状態(NW→・アイヌ文化期)



2. ⅢSB-56石器製作址検出状態(N→・集中区52・縄文時代)



3. 平成18年度T₁斜面裾Tピット完掘状態(NE→・縄文時代)

序 文

厚真町は、胆振・日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する農業の町であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物へ恩恵を授ける大切な河川でもあります。この豊かな厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるために、農業用水確保と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が、平成7年度に本格着工されました。

さて、本書はこの厚幌ダム建設に先駆けて、沈み行く地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査された上幌内モイ遺跡の報告書であります。平成16年より始まった本遺跡の調査は数々の新しい発見が続きましたが、本書の刊行をもって調査は完全に終了することとなります。本書は平成18・19年度の調査成果を記載するもので、約350年前のアイヌ文化期では大木に祀られたシカ送り場跡や約500年前の国内最北で道内最古の金鉗、約1,000年前の擦文文化期では北方系の遺物とされるコイル状鉄製品の一部や道内数例の擦文人骨を伴うお墓、道内最古の火打石の使用痕跡、鍛冶職人がこの山間部まで訪れていた証の廃滓場跡などが見つかり、約1,800年前の続縄文文化期では鶴川・沙流川流域を主な産地とする片岩の石鏃加工場跡が道内で初めて見つかるなど極めて多彩な成果が所収されています。厚真町山間部の上幌内モイ遺跡から北海道の歴史を考えるうえでも数々の重要な成果を得ることができました。

厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、今後も数年にわたり継続される予定でございますが、この様な貴重な埋蔵文化財を地域の教育的資源、文化的財産として普及活用を推し進めてまいりたいと思う所存でございます。また、本書が広く埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに関係機関に、真に厚く、感謝申し上げます。

厚真町教育委員会
教育長 兵頭利彦

例言

1. 本書は、平成 18・19 年度に行った厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査された上幌内モイ遺跡(掲載番号：J-13-79)の発掘調査報告書で、縄文時代(V層)から近世アイヌ文化期(Ⅲ層)までについて掲載するものである。
2. 調査は、北海道の委託を厚真町教育委員会が受託し、発掘調査を行った。
3. 調査・整理は以下の体制で行った。

平成 18 年度 調査担当者：乾 哲也・小野哲也・奈良智法
測量技能作業員・写真工：赤井文人・海津孝之・宮崎美奈子
整備技能作業員：小林輝男

平成 19 年度 調査担当者：小野哲也・乾 哲也
調 査 員：天方博章
測量技能作業員・写真工：宮崎美奈子 渡辺博道
整備技能作業員：小林輝男

小野：擦文土器実測・拓影図作成・撮影、金属器・集石構成礫・骨角器・土製品の实測・撮影、遺構図・各種属性表作成・編集(一部天方)、写真図版作成・編集(一部天方)

天方：続縄文土器・縄文土器実測・拓影図作成、礫石器・剥片石器の実測・撮影、

乾：統括、渉外、縄文・続縄文土器撮影、第Ⅰ章挿図作成

調査協力：奈良智法 (平成 19 年度以降)

熊谷 誠 (平成 19 年度 厚真町教育委員会嘱託職員)

4. 本書の編集は乾の協力を得て小野が行い、各節の主な執筆および担当は以下に記す。
Ⅰ章：乾 Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ章、写真図版：小野 Ⅳ・Ⅴ章：天方 Ⅶ章：小野・乾
5. 関連諸科学については、以下の機関および個人に依頼し、玉稿を賜った。

AMS 法 ^{14}C 年代測定：株式会社 パレオ・ラボ
株式会社 加速器分析研究所

古地磁気年代測定：富山大学理学部 酒井英男

古人骨取上げ・同定：札幌医科大学 松村博文・中村宅雄

動物遺存体同定：千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理

炭化種子同定：札幌国際大学博物館 客員研究員 椿坂恭代

土坑土壌分析：北海道開拓記念館 山田悟郎

須恵器胎土分析：大阪大谷大学 三辻利一

擦文土器胎土分析：株式会社 第四紀地質研究所 井上 巖

縄文土器胎土分析：斜里町教育委員会 合地信生

金属製品保存処理分析：岩手県立博物館 赤沼英男・佐々木 整

6. 調査・報告にあたり下記の方々より特段の御指導を賜った。
土器の整理・分類：大沼忠春(北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課)
赤石慎三(苫小牧市博物館)
金属製品の整理・保管方法：田口 尚(財団法人 北海道埋蔵文化財センター)

7. 地形測量の一部、遺物出土状態平面図及び包含層堆積図の作成、復元土器実測の一部、剥片石器の実測は、株式会社 シン技術コンサルに委託した。
8. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会で保管している。
9. 調査・報告にあたって下記の機関および個人より御指導御協力を頂いた、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課、北海道胆振支庁、北海道室蘭土木現業所 厚幌ダム建設事務所・苫小牧道路事務所、財団法人 北海道埋蔵文化財センター、社団法人 北海道ウタリ協会・胆振地区支部連合会、財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構、道立 アイヌ文化研究センター、札幌医科大学、北海道開拓記念館、千歳サケのふるさと館、苫小牧駒澤大学国際文化学部、札幌学院大学人文学部、札幌国際大学、東京大学常呂実習施設、苫小牧市博物館、千歳市埋蔵文化財センター、平取町沙流川歴史館、日高町教育委員会、新ひだか町教育委員会、松前町教育委員会、伊達市教育委員会、富良野市教育委員会、星の降る里百年記念館、深川市教育委員会、名寄市北国博物館、小平町教育委員会、苫前町教育委員会、下川町教育委員会、北見市教育委員会、標津町教育委員会、陸別町教育委員会、浦幌町教育委員会、青森県埋蔵文化財センター、岩手県立博物館、釜石市教育委員会、陸前高田市立博物館、東通村教育委員会、富山大学 酒井研究室、厚真町幌内自治会、(有)講神組

青野友哉、秋野茂樹、阿部義明、天野哲也、石川 朗、出穂雅実、乾 芳宏、井上典子、今井真司、臼杵 勲、右代啓視、大塚和義、大鳥居仁、岡田路明、長田佳宏、小野昌子、小野裕子、葛西智義、加藤博文、川内谷修、川上 淳、神原雄一郎、菊池俊彦、工藤研治、久保 泰、熊谷仁志、熊木俊朗、栗原真宜、講神喜助、越田賢一郎、越田雅司、後藤秀彦、古原敏弘、小林幸二、小針大志、小山卓臣、近藤 修、斉藤大朋、佐藤一夫、佐藤 剛、佐藤智生、澤田健、澤本幸雄、芝田直人、白崎恵介、梶田光明、鈴木邦輝、鈴木琢也、鈴木宏行、鈴木 信、鈴木靖民、瀬川拓郎、関根達人、仙庭伸久、高橋和樹、高橋 健、武田 修、田才雅彦、田中哲朗、種市幸生、田村俊之、鶴丸俊明、土肥研晶、豊田宏良、豊原熙司、直井雅尚、長澤政之、中田裕香、長沼 孝、長町章弘、西 幸隆、西田 茂、西脇対名夫、野月寿彦、長谷山隆博、畑 宏明、林田拓一、平川善祥、広田良成、福井淳一、福田裕二、藤沢隆史、藤田 巧、藤原秀樹、藤原弘明、布施和洋、前田正憲、丸山浩治、丸山直美、松崎水穂、松田淳子、松田浩介、松田 猛、松田 功、松本建速、松谷純一、三浦正人、蓑島栄紀、宮夫靖夫、宗像公司、森 靖裕、森岡健治、藪中 剛司、山浦 清、山田 央、山田悟郎、山田 哲、山田雄正、山原敏朗、渡邊惟平、王 培新

凡 例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

[遺構] 住居址：H 住居内のピット：HP 住居内の焼土：HF 墓塚：GP 土坑：P 焼土：F

灰集中：AS 杭穴：KP SP：小ピット RM：赤色顔料塊 性格不明遺構：X

[遺物] 土器：P 擦文土器：SP 縄文土器：ZP 縄文土器：JP 土製品：CP 剥片石器：FT

礫石器：ST フレイク・チップ：FC 礫：S 石製品：STP 鉄製品：IP 鉄器生産関連遺物(土製品)：ICP

鉄器生産関連遺物(残滓)：SL 銅製品：BP ガラス製品：GP 骨角器：BHP 炭化種子：SD 獣骨：B

[遺物等集中] 土器片集中：PB 剥片石器集中：FTB フレイク・チップ集中：FCB 礫集中：SB 鉄器生産

関連遺物集中：IPB 獣骨集中：BB 炭化物集中：CB

2. 調査区を含めた周辺の河岸段丘面に以下の記号用いた。

標高約 56.2-56.8m(氾濫原)：T₀ 標高約 58m：T₁ 標高約 62m：T₂ 標高約 68m：T₃

標高約 72.5-75m：T₄ 標高約 80-100m：T₅

3. 地層等について下記の略号を用いた。

[堆積土] 樽前 a 砂質降下火山灰 : Ta-a 駒ヶ岳 c2 砂質降下火山灰 : Ko-c2 樽前 b 降下軽石 : Ta-b
 白頭山苦小牧火山灰 : B-Tm 樽前 c 砂質降下軽石 : Ta-c 樽前 d1 細礫質降下スコリア : Ta-d1
 樽前 d2 中礫質降下軽石 : Ta-d2. p 恵庭 a 降下軽石層 : En-a 粘土質黄褐色シルト(いわゆる
 ローム) : L 攪乱 : KR

[色調] 小山・竹原編著(1994)『新版 標準土色帳』に従った。

[注記] 土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については () 内に粒径(単位 : mm)、状態を記載した。

混入土の比率

A + B : A と B が同量比混じる A-B : A を主体に B が多量に混じる

A = B : A を主体に B が少量 A≡B : A を主体に B が微量

φ : 粒径(単位・mm) ↓ : 以下 (状態) : 斑状に混じる・均一に混じる

[層位] 標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や風倒木攪乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また各層の上・中・下位について下記の略号を用いている。

U : 上位 M : 中位 L : 下位

4. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。

遺構周辺図 : 1/100, 1/80, 1/60, 1/40 住居跡 : 1/50 住居跡に付属する柱穴その他の土坑 : 1/20

土坑 : 1/40 焼土 : 1/20 集中遺物出土状態 : 1/10 または 1/20

土器実測図 : 1/3, 1/4 土器拓影図 : 1/3 剥片石器実測図 : 1/2 礫石器実測図 : 1/3, 1/6

5. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いている。

[線種] ----- : オーバーハング - - - - - : 推定線

[柱穴] 平地式住居址柱穴の確認面からの深さ 20cm 以上のものは、平面図中にトーンを用いた。また断面図において、しまりの強い壁面に斜線を用い、土層注記に下記アルファベットによる記号を使用している。

[平面]  : 確認面からの深さが20cm以上の柱穴

[断面]  : 柱穴の壁面周辺が強くしまる部分

[注記] A : IIIb 層主体土 B : IIIc 層主体土 C : IV層主体土 D : V層主体土 E : VI~VII層主体土

[焼土] 被熱による土壤赤色化の度合いの表現に以下のトーンを用いた。

 : 焼土燃焼面範囲  : 付帯黒色部範囲  : 焼土粒範囲
 : 灰層範囲  : 焼骨片分布範囲  : 炭化物集中範囲

[Tピット] 第V章第2節ではTピット堆積図に下記トーンを用いている。

T₂ 検出Tピット

 : VI層  : VII層  : VIIIa層  : VIIIb層

T₁ 検出Tピット

 : V層黒色土層  : 粘土層  : 粘土質シルト層  : シルト層

 : 砂質シルト層  : 砂層  : 礫層

6. 写真図版中の「●」は実測図掲載遺物である。

7. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。

[断面] V———V : たたき痕 |———| : 剥片石器 微細剥離 / 礫石器 擦り痕・滑沢面

[平面]  : 滑沢面範囲  : 被熱による赤色化/付着物範囲

8. 一覧表中の材質については、天方・乾・小野が肉眼観察で分類し、下記の略号を用いた。緑泥片岩は緑色泥岩に含まれている。また、頁岩・泥岩の分類については、粒度による基準ではなく、破断面等の肉眼観察によるものである。

Aga. : メノウ Aga-Sh. : メノウ質頁岩 Amp. : 角閃岩 And. : 安山岩 Bl-Sch. : 青色片岩

Che. : チャート Con. : 礫岩 Dio. : 閃緑岩 Gra. : 花崗岩 Gr-Mud. : 緑色泥岩 Mud. : 泥岩

Obs. : 黒曜石 Qu. : 石英 Qua. : 珪岩 Qu-Sch. : 石英片岩 Sch. : 片岩 Sa. : 砂岩

Ser. : 蛇紋岩 Sh. : 頁岩 Tu. : 凝灰岩 Tu-Sa. : 凝灰質砂岩

Cray : 粘土 Irn. : 鉄 Cu. : 銅 Sn. : 錫 B. : 骨 Jp. : 漆

第1分冊 本文目次

カラー図版	2. 遺跡の位置と周辺の環境 …………… 27
1-1 III GP-03 擦文文化期土壙墓検出状態	3. 調査区内の地形と地質 …………… 31
1-2 III GP-03 封土断面	
1-3 III GP-03 長軸セクション北側層境	
1-4 III GP-03 短軸セクション東側層境	
2-1 III GP-03 副葬品	
2-2 上幌内モイ遺跡出土北方系遺物	
3-1 上幌内モイ遺跡出土鉄器生産関連遺物	
3-2 上幌内モイ遺跡出土須恵器・土師器	
4-1 III BB-51 シカ送り場跡検出状態	
4-2 III SB-56 石器製作址検出状態	
4-3 平成18年度 T ₁ 斜面裾 Tピット完掘状態	
序 文	
例 言	
凡 例	
	第II章 アイヌ文化期の調査
	第1節 平地式住居址と関連遺構 …………… 45
	第2節 建物跡 …………… 87
	第3節 杭 跡 …………… 89
	第4節 土壙墓 …………… 90
	第5節 集中区 …………… 95
	第6節 焼 土 …………… 108
	第7節 集中遺物 …………… 111
	第8節 獣骨集中・焼骨片集中 …………… 113
	第9節 アイヌ文化期包含層出土遺物 …… 120
	第III章 擦文文化期の調査
	第1節 土壙墓 …………… 122
	第2節 溝状遺構 …………… 133
	第3節 集中区 …………… 136
	第4節 土 坑 …………… 236
	第5節 焼 土 …………… 237
	第6節 集中遺物 …………… 242
	第7節 焼骨片集中 …………… 244
	第8節 擦文文化期包含層出土遺物 …… 246
	第IV章 続縄文時代の調査
	第1節 竪穴様遺構 …………… 250
	第2節 集中区 …………… 255
	第3節 焼土 …………… 290
	第4節 集中遺物 …………… 291
	第5節 続縄文時代包含層出土遺物 …… 296
	第V章 縄文時代の調査
	第1節 竪穴住居跡 …………… 306
	第2節 Tピット …………… 317
	第3節 土 坑 …………… 379
	第4節 焼 土 …………… 382
	第5節 集中遺物 …………… 386
	第6節 縄文時代包含層出土遺物 …… 401
第I章 調査の概要	
第1節 調査要項と体制 …………… 1	
1. 調査要項 …………… 1	
2. 調査体制 …………… 1	
第2節 調査に至る経緯 …………… 2	
1. 厚幌ダム建設事業 …………… 2	
2. 発掘調査までの経緯 …………… 2	
第3節 調査の方法 …………… 4	
1. 発掘区の設定と調査区分 …………… 4	
2. グリッド設定 …………… 4	
3. 包含層および遺構調査の方法 …… 7	
4. 整理作業 …………… 10	
第4節 遺物の分類 …………… 10	
1. 土 器 …………… 10	
2. 剥片石器 …………… 12	
3. 礫石器 …………… 13	
4. 鉄器・鉄器生産関連遺物 …… 14	
第5節 平成18・19年度の調査結果の概要 …… 15	
1. T ₂ の調査概要 …………… 15	
2. T ₁ の調査概要 …………… 19	
第6節 遺跡の位置 …………… 21	
1. 厚真町の概要 …………… 21	

第VI章 フローテーション回収遺物		引用・参考文献	435
第1節	作業の流れ	報告書抄録	437
第2節	回収微細遺物	奥付	

挿 図 目 次

第 I 章		図 II-5	8号平地式住居址出土遺物	54
図 I-1	厚幌ダム建設事業関連 埋蔵文化財包蔵地調査地点	図 II-6	建物跡 6・灰集中 13・杭跡平面図 及び断面図	56
図 I-2	調査区内地形図	図 II-7	建物跡 7 平面図	57
図 I-3	調査区年度区分 及びグリッド設定図	図 II-8	IIIH-08 関連遺構出土遺物	58
図 I-4	調査方法区分 及び試掘トレンチ位置図	図 II-9	9号平地式住居址周辺平面図	59
図 I-5	グリッド区分図	図 II-10	9号平地式住居址平面図 及び付属炉跡	61
図 I-6	町内遺跡分布図	図 II-11	9号平地式住居址柱穴断面図	64
図 I-7	遺跡周辺の地形面区分図	図 II-12	9号平地式住居址出土遺物(1)	65
図 I-8	厚真川上中流域と むかわ町穂別地区遺跡分布図	図 II-13	9号平地式住居址出土遺物(2)	66
図 I-9	厚真村村道計画図	図 II-14	9号平地式住居址出土遺物(3)	67
図 I-10	厚真～穂別ルート図	図 II-15	灰集中 11・12	71
図 I-11	調査区内地形区分図 及び包含層堆積図実測ライン	図 II-16	獣骨集中 52 平面図	72
図 I-12	段丘面 T ₂ 基本土層柱状図	図 II-17	III BB-52 出土遺物	73
図 I-13	X ライン土層断面図	図 II-18	10号平地式住居址周辺平面図	75
図 I-14	21 ライン土層断面図	図 II-19	10号平地式住居址平面図	77
図 I-15	33 ライン土層断面図	図 II-20	10号平地式住居址付属遺構	78
図 I-16	平成 18 年度調査区 段丘面 T ₁ 土層断面図	図 II-21	10号平地式住居址出土遺物	79
図 I-17	平成 19 年度調査区 段丘面 T ₁ 土層断面図 (1)	図 II-22	灰集中 14	81
図 I-18	平成 19 年度調査区 段丘面 T ₁ 土層断面図 (2)	図 II-23	集中区 20 平面図 及び遺物出土状態	83
第 II 章		図 II-24	集中区 20 関連遺構 及び出土遺物(1)	84
図 II-1	T ₂ アイヌ文化期遺構配置図	図 II-25	集中区 20 出土遺物(2)	85
図 II-2	T ₁ アイヌ文化期遺構配置図	図 II-26	建物跡 8 平面図及び出土遺物	88
図 II-3	8号平地式住居址周辺平面図	図 II-27	杭跡	90
図 II-4	8号平地式住居址平面図 及び付属施設	図 II-28	4号土壙墓検出時平面図 及び断面図	91
		図 II-29	4号土壙墓平面図及び出土遺物	92
		図 II-30	集中区 21 平面図	93
		図 II-31	集中区 21 出土遺物	96
		図 II-32	集中区 22 平面図	97
		図 II-33	集中区 22 関連遺構	100

図Ⅱ-34	集中区 22 出土遺物	101	図Ⅲ-25	集中区 31 出土遺物	162
図Ⅱ-35	集中区 23 平面図 及び関連遺構断面図	102	図Ⅲ-26	集中区 32 平面図 及び関連遺構断面図	166
図Ⅱ-36	集中区 23 出土遺物	103	図Ⅲ-27	集中区 32 関連遺構及び出土遺物	167
図Ⅱ-37	集中区 24 平面図	105	図Ⅲ-28	集中区 33 平面図	168
図Ⅱ-38	集中区 24 関連遺構	106	図Ⅲ-29	集中区 33 関連遺構及び出土遺物	169
図Ⅱ-39	灰集中 9	107	図Ⅲ-30	集中区 34 平面図	172
図Ⅱ-40	アイヌ文化期焼土(1)	109	図Ⅲ-31	集中区 34 関連遺構	173
図Ⅱ-41	アイヌ文化期焼土(2)	110	図Ⅲ-32	集中区 34 出土遺物	174
図Ⅱ-42	獣骨集中 34 平面図	114	図Ⅲ-33	集中区 35 平面図	177
図Ⅱ-43	獣骨集中 51 平面図	116	図Ⅲ-34	集中区 35 関連遺構(1)	179
図Ⅱ-44	獣骨集中 51 拡大図	117	図Ⅲ-35	集中区 35 関連遺構(2)	180
図Ⅱ-45	焼骨片集中	119	図Ⅲ-36	集中区 35 関連遺構(3)	181
図Ⅱ-46	アイヌ文化期包含層出土遺物	120	図Ⅲ-37	獣骨集中 41	182
			図Ⅲ-38	集中区 35 出土遺物(1)	183
			図Ⅲ-39	集中区 35 出土遺物(2)	184
			図Ⅲ-40	集中区 35 出土遺物(3)	185
			図Ⅲ-41	集中区 36 平面図	189
			図Ⅲ-42	集中区 36 出土遺物	190
			図Ⅲ-43	集中区 37 平面図	193
			図Ⅲ-44	集中区 37 関連遺構	194
			図Ⅲ-45	集中区 37 出土遺物	195
			図Ⅲ-46	集中区 38 平面図	198
			図Ⅲ-47	集中区 38 関連遺構 及び出土遺物(1)	199
			図Ⅲ-48	集中区出土遺物(2)	200
			図Ⅲ-49	集中区 39 平面図	203
			図Ⅲ-50	集中区 39 関連遺構	204
			図Ⅲ-51	集中区 39 出土遺物	205
			図Ⅲ-52	集中区 40 平面図	208
			図Ⅲ-53	集中区 40 関連遺構	209
			図Ⅲ-54	集中区 40 出土遺物	210
			図Ⅲ-55	集中区 41 平面図	212
			図Ⅲ-56	集中区 41 関連遺構	213
			図Ⅲ-57	集中区 41 出土遺物(1)	214
			図Ⅲ-58	集中区 41 出土遺物(2)	215
			図Ⅲ-59	集中区 42 平面図	219
			図Ⅲ-60	集中区 42 出土遺物	220
			図Ⅲ-61	集中区 43 平面図	222
			図Ⅲ-62	集中区 43 関連遺構断面図	223
			図Ⅲ-63	集中区 43 出土遺物	224
			図Ⅲ-64	集中区 44 平面図	228

第三章

図Ⅲ-1	T ₂ 擦文文化期遺構配置図	123
図Ⅲ-2	T ₁ 擦文文化期遺構配置図	125
図Ⅲ-3	3号土壙墓	127
図Ⅲ-4	ⅢGP-03 墓壙内平面図	129
図Ⅲ-5	3号土壙墓出土遺物(1)	131
図Ⅲ-6	3号土壙墓出土遺物(2)	132
図Ⅲ-7	3号土壙墓出土遺物(3)	133
図Ⅲ-8	溝状遺構	134
図Ⅲ-9	ⅢX-05 出土遺物	135
図Ⅲ-10	集中区 25 平面図 及び関連遺構断面(1)	137
図Ⅲ-11	集中区 25 関連遺構断面図(2) 及び出土遺物	138
図Ⅲ-12	集中区 26 平面図	139
図Ⅲ-13	集中区 26 関連遺構	142
図Ⅲ-14	集中区 26 出土遺物	143
図Ⅲ-15	集中区 27 平面図及び関連断面図	146
図Ⅲ-16	集中区 27 出土遺物	147
図Ⅲ-17	集中区 28 平面図及び関連遺構	149
図Ⅲ-18	集中区 28 関連遺構及び出土遺物	150
図Ⅲ-19	集中区 29 平面図	152
図Ⅲ-20	集中区 29 関連遺構断面図	153
図Ⅲ-21	集中区 30 平面図	155
図Ⅲ-22	集中区 30 関連遺構	157
図Ⅲ-23	集中区 30 出土遺物	158
図Ⅲ-24	集中区 31 平面図及び関連遺構	161

図III-65	鉄器生産関連遺物集中	229
図III-66	集中区 44 出土遺物(1)	230
図III-67	集中区 44 出土遺物(2)	231
図III-68	集中区 44 出土遺物(3)	232
図III-69	III IPB-02 種別毎重量分布図	233
図III-70	集中区 44 出土遺物(4)	235
図III-71	擦文文化期土杭	237
図III-72	擦文文化期焼土(1)	239
図III-73	擦文文化期焼土(2)	240
図III-74	擦文文化期焼土(3)	241
図III-75	集中遺物平面図及び出土遺物	243
図III-76	擦文文化期焼骨片集中	245
図III-77	擦文文化期包含層出土遺物(1)	247
図III-78	擦文文化期包含層出土遺物(2)	248

第IV章

図IV-1	続縄文時代遺構配置図	251
図IV-2	堅穴様遺構	253
図IV-3	土器集中 21 出土状態 及び出土遺物	254
図IV-4	集中区 45 平面図	256
図IV-5	集中区 45 関連遺構	257
図IV-6	集中区 45 出土遺物(1)	258
図IV-7	集中区 45 出土遺物(2)	259
図IV-8	集中区 46 平面図	261
図IV-9	集中区 46 出土遺物	262
図IV-10	集中区 47 平面図	263
図IV-11	集中区 47 出土遺物	264
図IV-12	集中区 48 平面図	267
図IV-13	集中区 48 関連遺構断面図	268
図IV-14	集中区 48 出土遺物	269
図IV-15	集中区 49 平面図	272
図IV-16	集中区 49 関連遺構	273
図IV-17	集中区 49 出土遺物(1)	274
図IV-18	集中区 49 出土遺物(2)	275
図IV-19	集中区 50 平面図及び出土遺物	278
図IV-20	集中区 51 平面図	280
図IV-21	集中区 51 関連遺構及び出土遺物	281
図IV-22	集中区 52 平面図及び関連遺構	283
図IV-23	集中区 52 出土遺物	284
図IV-24	集中区 53 平面図及び関連遺構	285
図IV-25	集中区 53 出土遺物	286

図IV-26	集中区 54 平面図及び出土遺物	288
図IV-27	続縄文時代焼土	291
図IV-28	続縄文時代土器集中	293
図IV-29	続縄文時代剥片石器集中	295
図IV-30	続縄文時代包含層出土遺物(1)	297
図IV-31	続縄文時代包含層出土遺物(2)	299
図IV-32	続縄文時代包含層出土遺物(3)	301

第V章

図V-1	T ₂ 縄文時代遺構配置図	307
図V-2	T ₁ 縄文時代遺構配置図	309
図V-3	6号堅穴住居跡及び出土遺物	311
図V-4	7号堅穴住居跡平面図及び断面図	313
図V-5	7号堅穴住居跡及び付属遺構	315
図V-6	7号堅穴住居跡柱穴断面図 及び出土遺物	316
図V-7	Tピット分類別配置図	321
図V-8	TP-42・43	325
図V-9	TP-44・45	326
図V-10	TP-48・49	327
図V-11	TP-50・51	328
図V-12	TP-52・53	329
図V-13	TP-54・55	330
図V-14	TP-56・57	331
図V-15	TP-58~60	332
図V-16	TP-61~63	333
図V-17	TP-65・66	334
図V-18	TP-67~69	335
図V-19	TP-70~72	336
図V-20	TP-73~75	337
図V-21	TP-77~79	338
図V-22	TP-80~82	339
図V-23	TP-83~85	340
図V-24	TP-86~89	341
図V-25	TP-90・91	342
図V-26	TP-92~94	343
図V-27	TP-95・96	344
図V-28	TP-97・98	345
図V-29	TP-99・100	346
図V-30	TP-101~103	347
図V-31	TP-104~106	348
図V-32	TP-107・108	349

図 V-33	TP-109~111	350	図 V-59	縄文時代焼土(1)	383
図 V-34	TP-112・113	351	図 V-60	縄文時代焼土(2)	385
図 V-35	TP-114・115	352	図 V-61	土器集中平面図(1)	387
図 V-36	TP-116~118	353	図 V-62	土器集中平面図(2)	388
図 V-37	TP-119~121	354	図 V-63	土器集中平面図(3)	389
図 V-38	TP-122~124	355	図 V-64	土器集中平面図(4)	392
図 V-39	TP-125~127	356	図 V-65	土器集中出土遺物(1)	393
図 V-40	TP-128~130	357	図 V-66	土器集中出土遺物(2)	394
図 V-41	TP-131~133	358	図 V-67	土器集中出土遺物(3)	395
図 V-42	TP-134~136	359	図 V-68	フレイク・チップ集中出土遺物	399
図 V-43	TP-137~139	360	図 V-69	縄文時代包含層出土土器(1)	404
図 V-44	TP-140~142	361	図 V-70	縄文時代包含層出土土器(2)	405
図 V-45	TP-143・144	362	図 V-71	縄文時代包含層出土土器(3)	406
図 V-46	TP-145~147	363	図 V-72	縄文時代包含層出土土器(4)	407
図 V-47	TP-148~150	364	図 V-73	縄文時代包含層出土土器(5)	408
図 V-48	TP-151~153	365	図 V-74	縄文時代包含層出土剥片石器(1)	416
図 V-49	TP-154・155	366	図 V-75	縄文時代包含層出土剥片石器(2)	417
図 V-50	TP-156~158	367	図 V-76	縄文時代包含層出土礫石器(1)	421
図 V-51	TP-159・160	368	図 V-77	縄文時代包含層出土礫石器(2)	422
図 V-52	TP-161~163	369	図 V-78	縄文時代包含層出土礫石器(3)	423
図 V-53	TP-164~166	370	図 V-79	縄文時代包含層出土礫石器(4)	424
図 V-54	TP-167・168	371	図 V-80	縄文土器数量分布図(1)	426
図 V-55	TP-169~171	372	図 V-81	縄文土器数量分布図(2)	427
図 V-56	TP-172・173	373	図 V-82	縄文土器数量分布図(3)	428
図 V-57	TP-174・175	374	図 V-83	縄文土器数量分布図(4)	429
図 V-58	縄文時代土坑	380	図 V-84	フレイク・チップ、礫重量分布図	430

表 目 次

第 I 章		表 II-3	IIIH-08 付属炉属性表	46
表 I-1	上幌内モイ遺跡	表 II-4	IIIH-08 柱穴属性表	46
	年度別概要一覧表	表 II-5	IIIH-08 出土遺物属性表	54
表 I-2	III層出土遺物一覧表	表 II-6	IIISB-26 属性表	55
表 I-3	V層出土遺物一覧表	表 II-7	建物跡 6 柱穴属性表	57
表 I-4	18・19 年度上幌内モイ遺跡 III 層	表 II-8	建物跡 7 柱穴属性表	57
	遺構群一覧表	表 II-9	杭跡属性表	57
表 I-5	厚真町内遺跡一覧表	表 II-10	IIIAS-13 属性表	57
		表 II-11	IIIH-08 関連遺構出土遺物属性表	58
第 II 章		表 II-12	IIIH-09 属性表	64
表 II-1	アイヌ文化期 遺構群一覧表	表 II-13	IIIH-09 付属炉属性表	64
表 II-2	IIIH-08 属性表	表 II-14	IIIBB-56 属性表	64

表 II-15	IIIH-09 柱穴属性表…………… 64	表 II-55	アイヌ文化期包含層出土遺物 属性表…………… 120
表 II-16	IIIH-09 出土遺物属性表…………… 66		
表 II-17	IIISB-27 属性表…………… 68		
表 II-18	IIISB-32 属性表…………… 69		
表 II-19	IIISB-63 属性表…………… 69		
表 II-20	IIIAS-11・12 属性表…………… 71		
表 II-21	IIIBB-52 属性表…………… 72		
表 II-22	IIIBB-52 出土遺物属性表…………… 73		
表 II-23	IIIH-10 属性表…………… 78		
表 II-24	IIIH-10 付属炉属性表…………… 78		
表 II-25	IIIH-10 柱穴属性表…………… 78		
表 II-26	IIIH-10 出土遺物属性表…………… 80		
表 II-27	IIISB-31 属性表…………… 80		
表 II-28	IIIAS-14 属性表…………… 81		
表 II-29	集中区 20 焼土属性表…………… 82		
表 II-30	集中区 20 出土遺物属性表…………… 85		
表 II-31	IIISB-28 属性表…………… 86		
表 II-32	建物跡 8 柱穴属性表…………… 89		
表 II-33	建物跡 8 出土遺物属性表…………… 89		
表 II-34	杭跡属性表…………… 89		
表 II-35	IIIGP-04 属性表…………… 92		
表 II-36	IIIGP-04 墓標穴・杭跡属性表…………… 92		
表 II-37	IIIGP-04 出土遺物属性表…………… 92		
表 II-38	IIIAS-10 属性表…………… 96		
表 II-39	集中区 21 出土遺物属性表…………… 96		
表 II-40	集中区 22 焼土・灰集中属性表…………… 100		
表 II-41	集中区 22 出土遺物属性表…………… 101		
表 II-42	集中区 23 焼土属性表…………… 102		
表 II-43	集中区 23 炭化物集中属性表…………… 102		
表 II-44	集中区 23 出土遺物属性表…………… 103		
表 II-45	IIISB-25 属性表…………… 103		
表 II-46	集中区 24 焼土属性表…………… 106		
表 II-47	集中区 24 炭化物集中属性表…………… 106		
表 II-48	集中区 24 出土遺物属性表…………… 107		
表 II-49	アイヌ文化期焼土属性表…………… 110		
表 II-50	IIISB-29 属性表…………… 112		
表 II-51	IIISB-30 属性表…………… 112		
表 II-52	IIIBB-34 属性表…………… 113		
表 II-53	IIIBB-51 属性表…………… 115		
表 II-54	アイヌ文化期焼骨片集中属性表…………… 119		
		表 III-1	擦文文化期 遺構群一覧表…………… 121
		表 III-2	IIIGP-03 属性表…………… 129
		表 III-3	IIIGP-03 出土土器属性表…………… 132
		表 III-4	IIIGP-03 出土遺物属性表…………… 133
		表 III-5	IIIX-05 属性表…………… 135
		表 III-6	IIIX-05 出土土器属性表…………… 135
		表 III-7	IIIX-05 出土遺物属性表…………… 135
		表 III-8	集中区 25 焼土属性表…………… 136
		表 III-9	集中区 25 炭化物集中属性表…………… 136
		表 III-10	集中区 25 出土土器属性表…………… 138
		表 III-11	集中区 25 出土遺物属性表…………… 138
		表 III-12	IIISB-36 属性表…………… 138
		表 III-13	集中区 26 土坑属性表…………… 143
		表 III-14	集中区 26 焼土属性表…………… 143
		表 III-15	集中区 26 炭化物集中属性表…………… 143
		表 III-16	集中区 26 出土土器属性表…………… 143
		表 III-17	集中区 26 出土遺物属性表…………… 143
		表 III-18	IIISB-35 属性表…………… 144
		表 III-19	集中区 27 焼土属性表…………… 147
		表 III-20	集中区 27 出土土器属性表…………… 147
		表 III-21	集中区 27 出土遺物属性表…………… 148
		表 III-22	集中区 28 焼土属性表…………… 148
		表 III-23	集中区 28 出土土器属性表…………… 151
		表 III-24	集中区 28 出土遺物属性表…………… 151
		表 III-25	集中区 29 焼土属性表…………… 153
		表 III-26	IIISB-37 属性表…………… 153
		表 III-27	集中区 30 焼土属性表…………… 154
		表 III-28	集中区 30 出土土器属性表…………… 159
		表 III-29	集中区 30 出土遺物属性表…………… 159
		表 III-30	IIISB-41 属性表…………… 159
		表 III-31	IIISB-42 属性表…………… 160
		表 III-32	集中区 31 土坑属性表…………… 163
		表 III-33	集中区 31 焼土属性表…………… 163
		表 III-34	集中区 31 出土土器属性表…………… 163
		表 III-35	集中区 31 出土遺物属性表…………… 163
		表 III-36	IIISB-43 属性表…………… 164
		表 III-37	集中区 32 土坑属性表…………… 165

表IV-10	集中区 46 出土遺物属性表	262	表IV-44	続縄文時代包含層出土剥片石器 属性表	304
表IV-11	集中区 47 出土土器属性表	265	表IV-45	続縄文時代包含層出土礫石器 属性表	304
表IV-12	集中区 47 出土遺物属性表	265	第V章		
表IV-13	集中区 48 焼土属性表	268	表V-1	平成 18・19 年度V層段丘面別 検出遺構・遺物一覧表	305
表IV-14	集中区 48 焼骨片集中属性表	268	表V-2	VH-06 属性表	306
表IV-15	集中区 48 出土土器属性表	269	表V-3	VH-06 出土土器属性表	306
表IV-16	集中区 48 出土遺物属性表	270	表V-4	VH-07 属性表	316
表IV-17	集中区 49 焼土属性表	272	表V-5	VH-07 付属土坑属性表	317
表IV-18	集中区 49 焼骨片集中属性表	272	表V-6	VH-07 付属炉・赤色顔料塊属性表	317
表IV-19	集中区 49 出土土器属性表	274	表V-7	VH-07 柱穴属性表	317
表IV-20	集中区 49 出土遺物属性表	276	表V-8	VH-07 出土遺物属性表	317
表IV-21	III SB-48 属性表	277	表V-9	Tピットグループ別傾向対応表	320
表IV-22	集中区 50 焼土属性表	279	表V-10	Tピット属性表	375
表IV-23	集中区 50 焼骨片集中属性表	279	表V-11	縄文時代土坑属性表	381
表IV-24	集中区 50 炭化物集中属性表	279	表V-12	縄文時代焼土属性表	386
表IV-25	集中区 50 出土土器属性表	279	表V-13	土器集中出土土器属性表	396
表IV-26	集中区 50 出土遺物属性表	279	表V-14	フレイク・チップ集中 出土遺物属性表	400
表IV-27	集中区 51 焼土属性表	281	表V-15	フレイク・チップ集中層位別 出土点数一覧表	400
表IV-28	集中区 51 焼骨片集中属性表	281	表V-16	縄文土器層位・分類別 出土点数一覧表	408
表IV-29	集中区 51 炭化物集中属性表	281	表V-17	縄文時代包含層出土土器属性表	409
表IV-30	集中区 51 出土遺物属性表	282	表V-18	縄文時代包含層出土 剥片石器属性表	418
表IV-31	集中区 52 出土遺物属性表	284	表V-19	縄文時代包含層出土 礫石器・石製品属性表	425
表IV-32	集中区 53 焼土属性表	286	第VI章		
表IV-33	集中区 53 焼骨片集中属性表	286	表VI-1	フローテーション回収 微細遺物属性表	432
表IV-34	集中区 53 出土土器属性表	286			
表IV-35	集中区 53 出土遺物属性表	287			
表IV-36	集中区 54 炭化物集中属性表	289			
表IV-37	III FCB-13 出土遺物属性表	289			
表IV-38	III SB-54 属性表	289			
表IV-39	III SB-58 属性表	290			
表IV-40	続縄文時代焼土属性表	291			
表IV-41	続縄文時代土器集中出土土器 属性表	292			
表IV-42	III FTB-01 出土遺物属性表	294			
表IV-43	続縄文時代包含層出土土器 属性表	302			

第 I 章 調査の概要

第 1 節 調査要項と体制

1. 調査要項

事業名：厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道室蘭土木現業所

受託者：厚真町教育委員会

遺跡名：上幌内モイ遺跡（J-13-79）

所在地：勇払郡厚真町字幌内 395-1

調査面積：平成 16 年度 3,942 m² 平成 17 年度 4,518 m²

平成 18 年度 8,000 m² 平成 19 年度 5,565 m² 合計 22,025 m²

受託期間：平成 16 年 4 月 1 日 ～ 平成 17 年 3 月 31 日

平成 17 年 4 月 1 日 ～ 平成 18 年 3 月 31 日

平成 18 年 4 月 1 日 ～ 平成 19 年 3 月 31 日

平成 19 年 4 月 2 日 ～ 平成 20 年 3 月 31 日

調査期間：（発掘）平成 16 年 5 月 11 日 ～ 平成 16 年 10 月 31 日

（整理）平成 16 年 11 月 1 日 ～ 平成 17 年 3 月 18 日

（発掘）平成 17 年 5 月 10 日 ～ 平成 18 年 10 月 31 日

（整理）平成 17 年 11 月 1 日 ～ 平成 18 年 3 月 17 日

（発掘）平成 18 年 5 月 9 日 ～ 平成 18 年 11 月 10 日

（整理）平成 18 年 11 月 1 日 ～ 平成 19 年 3 月 20 日

（発掘）平成 19 年 5 月 8 日 ～ 平成 19 年 10 月 31 日

（整理）平成 19 年 11 月 1 日 ～ 平成 20 年 3 月 14 日

2. 調査体制

厚真町教育委員会 教育長 幅田 敏夫

生涯学習課 参事 當田 昭則 主幹 中田 守 主査 森田 正樹

学芸員 乾 哲也（調査担当者）

嘱託職員 小野 哲也（調査担当者：平成 18・19 年度、調査員：平成 16・17 年度）

〃 奈良 智法（調査担当者：平成 18 年度、調査員：平成 16・17 年度）

〃 天方 博章（調査員：平成 19 年度）

〃 佐々木 都（事務員）

臨時職員 赤井 文人（平成 18 年度）・海津 孝之・宮崎 美奈子・渡辺 博道
（測量技能作業員）

小林 輝男（整備技能作業員）

平成 16 年度 発掘作業員 44 名 整理作業員 18 名

平成 17 年度 発掘作業員 45 名 整理作業員 21 名

平成 18 年度 発掘作業員 55 名 整理作業員 26 名

平成 19 年度 発掘作業員 40 名 整理作業員 24 名

第2節 調査に至る経緯

1. 厚幌ダム建設事業(図 I-1)

町内を縦貫する厚真川中下流域には約 3,000ha もの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和 45 (1970) 年に現河口より 38km 地点に、農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和 45 年には洪水と渇水、昭和 48・50・56 年にも洪水が発生し、近年においても、平成 12 年春の融雪期と平成 13 年秋に、家屋や農地に被害をおよぼす洪水、平成 18 年にも一部がオーバーフローする事態が発生している。また、昭和 59・60・63 年には深刻な水不足にも見舞われており、平成 19 年は、幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年でもあった。特に田植え時期における農業用水の確保は農業者にとっては勿論、厚真町民にとっても関心事であり、厚真町の基幹産業である農業、豊かな穀倉地帯を築くうえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設が陳情されていた。また、市街地への人口集中の進行による住宅街や苫小牧東港への水道用水の需要が急増し、取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源確保が急務となっている。

これらの状況の抜本的な治水等の改善策として、昭和 52 年に北海道土木現業所により厚幌ダム建設事業の予備調査が着手されている。その後、昭和 61 年に実施設計である「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして、現厚真ダム下流に「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また、同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所が開設され、その後、沿岸漁業団体への説明会や環境アセスメントも実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業用水路再編対策事業(厚幌導水路建設)が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの本格着工として、平成 14 年度からの水没地域内用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで延長開通の計画である。厚幌ダムの規模は、堤体長 480m、高さ 47.2m、下流に面した垂直の重力式コンクリートダムで、上幌内モイ遺跡より約 700m 下流に堤体を建設する計画である。貯水は常時湛水面標高 85.4m、最深湛水面標高 88.1m であり、総貯水量は 47,400 千 m^3 、現在の厚真ダムのおおよそ 4.7 倍の貯水量となり、多方面にわたって絶大な波及効果が想定され、早期完成が望まれている。

2. 発掘調査までの経緯(図 I-1)

厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて、平成 12 年 7 月 6 日に北海道室蘭土木現業所厚幌ダム建設事務所(以下、ダム事務所)より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書(室土厚幌第 158 号)が厚真町教育委員会(以下、町教委)を経て北海道教育委員会(以下、道教委)へ提出された。協議区域は最深湛水面標高 88.1m 以下の区域と道道切替路線幅の合計約 235,500 m^2 におよぶ。まず、平成 13 年 6 月に道教委により道道切替路線の試掘調査が行われた。結果、約 8,250 m^2 の「要発掘調査」面積が回答され、厚幌 1 遺跡(J-13-25)として新規登録された(平成 13 年 7 月 18 日付 教文第 4265 号)。これを受け、厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した

結果、ダム関連の試掘調査までは道教委が行い、厚幌ダム建設に係わる受益者が厚真町 1 町であることから、発掘調査は町教委と北海道室蘭土木現業所で委託契約を結び、町教委が行うこととなった。翌平成 14・15 年度の 2 ヶ年で厚幌 1 遺跡の発掘調査を行っている(厚真町教育委員会 2004)。

ダム本体の水没地域内については、平成 13 年 10 月に踏査(A調査)が行われ、周知の遺跡(オニキシベ 1 遺跡・旧幌内 2 遺跡、上幌内 1 遺跡・旧幌内 3 遺跡)を含め 16 ヶ所、面積 235,500 m²の「要試掘調査」の回答がなされた(平成 13 年 11 月 16 日付 教文第 4532 号)。追加箇所もあるが、以後、平成 19 年度までに 8 回、18 地点の試掘調査が行われ、現在までに 14 遺跡、約 143,000 m²の要発掘・要遺構確認調査地点が確認されている(図 I-1)。

上幌内モイ遺跡については、道教委によって平成 14 年 11 月に高位河岸段丘面 T₄、平成 15 年 10 月に中位段丘面 T₂の試掘調査が行われ、15,650 m²の発掘面積(うち遺構確認調査面積 670 m²)が回答された(平成 15 年 11 月 14 日付 教文第 6492 号)。なお平成 16 年度の発掘調査期間中に T₁-T₂ 段丘崖において遺物を採集したことから、道教委と協議し 10 月に町教委による低位河岸段丘面 T₁の試掘調査を行った。結果、擦文・アイヌ文化期を中心とする遺物包含層を確認し、6,514 m²が追加され調査対象の総面積は 22,164 m²となった(平成 16 年 11 月 22 日付 教文第 4617 号・図 I-3)。

また、平成 16 年度の調査中に、段丘面 T₃において Tピットの坑底面杭穴を調査中に後期旧石器時代の遺物が出土した。調査終了後、T₃と T₄全域の IX 層を対象に試掘調査を行い、295 m²の再調査面積を追加した。

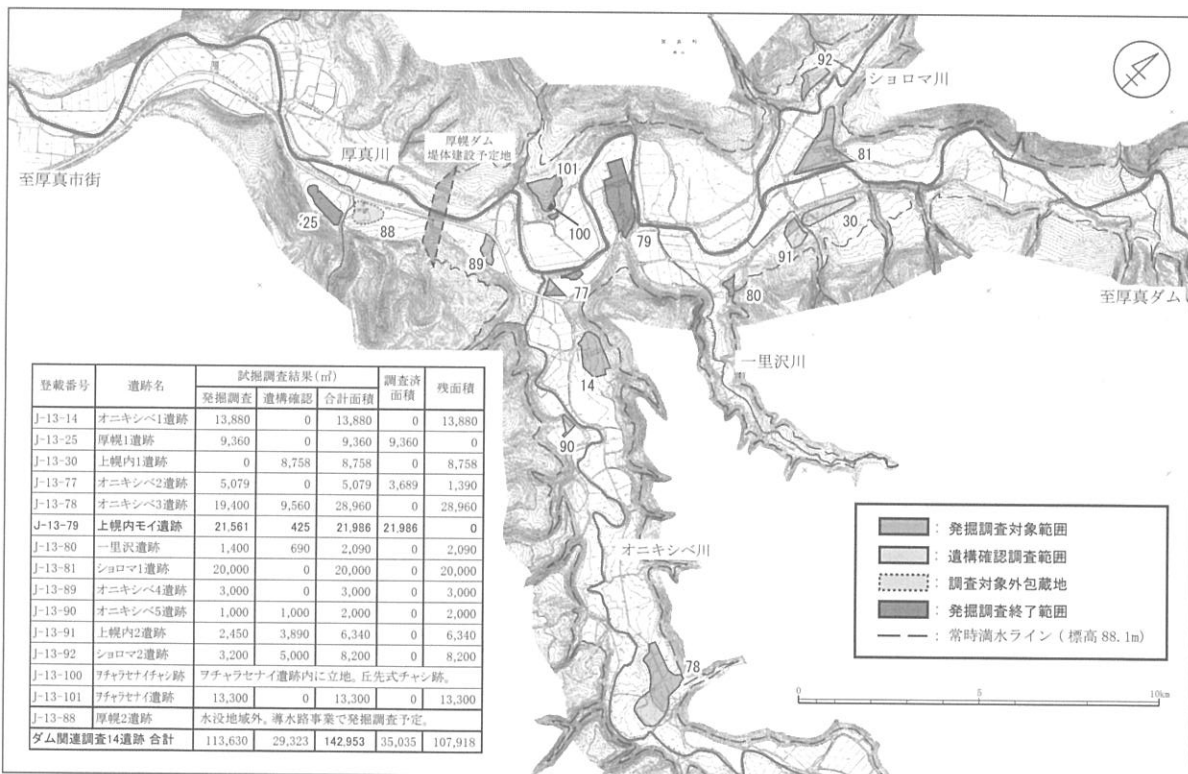


図 I-1 厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地調査地点

第3節 調査の方法

1. 発掘区の設定と調査区分(図 I-3・4)

上幌内モイ遺跡の発掘調査範囲は、ダム水没地域内であることから、遺跡の全面が調査対象となっており、道教委の試掘調査によって回答された「要発掘範囲」に基づいている。平成 16 年度は、半島状に突出する高位段丘面 T_4 および段丘崖、 T_3 の北東側の一部で、 $3,942 \text{ m}^2$ (旧石器包含層 6 m^2 含む) の調査を行い、平成 17 年度は中位段丘面 T_2 の北半部分の $4,518 \text{ m}^2$ と後期旧石器時代の包含層、 289 m^2 (平成 16 年度調査済面積) の調査を行った。 T_4 の調査区は、北東側が厚真川によって浸食されており、崖面崩落の危険性があったことから 1.5m の安全帯を設けた。 T_2 では河川浸食が停滞していることなどから、段丘面縁辺部までの調査区とした。

このうち高位段丘面 T_4 から南側山体に続く尾根状部分の T_4 - T_2 段丘崖は最大仰角が約 40° あり、遺物の流出が想定されたことから、人力調査は尾根基部の狭小な平坦面と段丘崖裾に留め、バックホーを用いた遺構確認調査に切り替えている。V層については一部 25%調査を実施のうえ遺物出土密度を考慮し、道教委と協議した上で重機掘削による遺構確認調査区とした範囲もある。また T_1 のV層については、試掘調査の結果、出土遺物がほとんど無かったことから、南東側の T_1B を重機による遺構確認調査とした。なお北西側の T_1A は段丘面形成時期が樽前 c テフラ降下以降で、樽前 c テフラも水成再堆積層であったことから、V層の調査対象範囲も縮小している (図 I-4)。

2. グリッド設定 (図 I-3・5)

調査区内のグリッドは公共座標 (日本測地系) に従い、遺物包含層が想定される段丘面全てを含む $260\text{m} \times 240\text{m}$ の広域に設定し、 5m 四方のメッシュで区分した。グリッド網の起点 (A-1 区: $X = -136680.000$ $Y = -20120.000$) は北東コーナーとし、南北の X 軸を A・B・C・・・のアルファベット列で、東西の Y 軸ラインを 1・2・3・・・のアラビア数字列とした。各グリッドの呼称も北東コーナーの杭とし、A-1 区、A-2 区・・・とし記した。しかし、平成 16 年度の調査途中に発掘区が西北側へ拡幅したことから、A ラインより北側のものをアルファベット+アラビア数字 (A+1 区、A+2 区・・・) とし、グリッド網も拡幅した。なお、集中区 1・2 や集中区 44 は 1m ないしは 25cm メッシュの細グリッドを設定し、微細遺物の回収を目的とする土壌サンプリングを行っている。前者の中グリッドは 5m 四方グリッドを 1m メッシュの 25 分割したもので、呼称は全てアラビア数字とした。配列としては、東西の Y 軸方向は基点より 1~5 とし、南北の X 軸方向へ折り返し、6~10、11~15・・・としている。集中区 44 は中グリッドをさらに 16 分割したもので、鍛冶関連遺物である鍛造剥片や残滓を土壌ごと回収した (図 I-5 右)。

現地での設定方法は、初年度にグリッド設定基準杭 20 点の設置を(株)シン技術コンサルに委託し、測量技能作業員が光波式トータルステーションを用いて調査区全面のグリッド杭を設置した。

絶対高は、道道上幌内早来停車場線沿いに南西方向へ約 $1,100\text{m}$ に所在する「厚真川 2000 仮 BMNo.22 H=50.437M 北海道室蘭土木現業所」に準拠し、平成 14・15 年度調査の厚幌 1 遺跡との整合性を確保している。

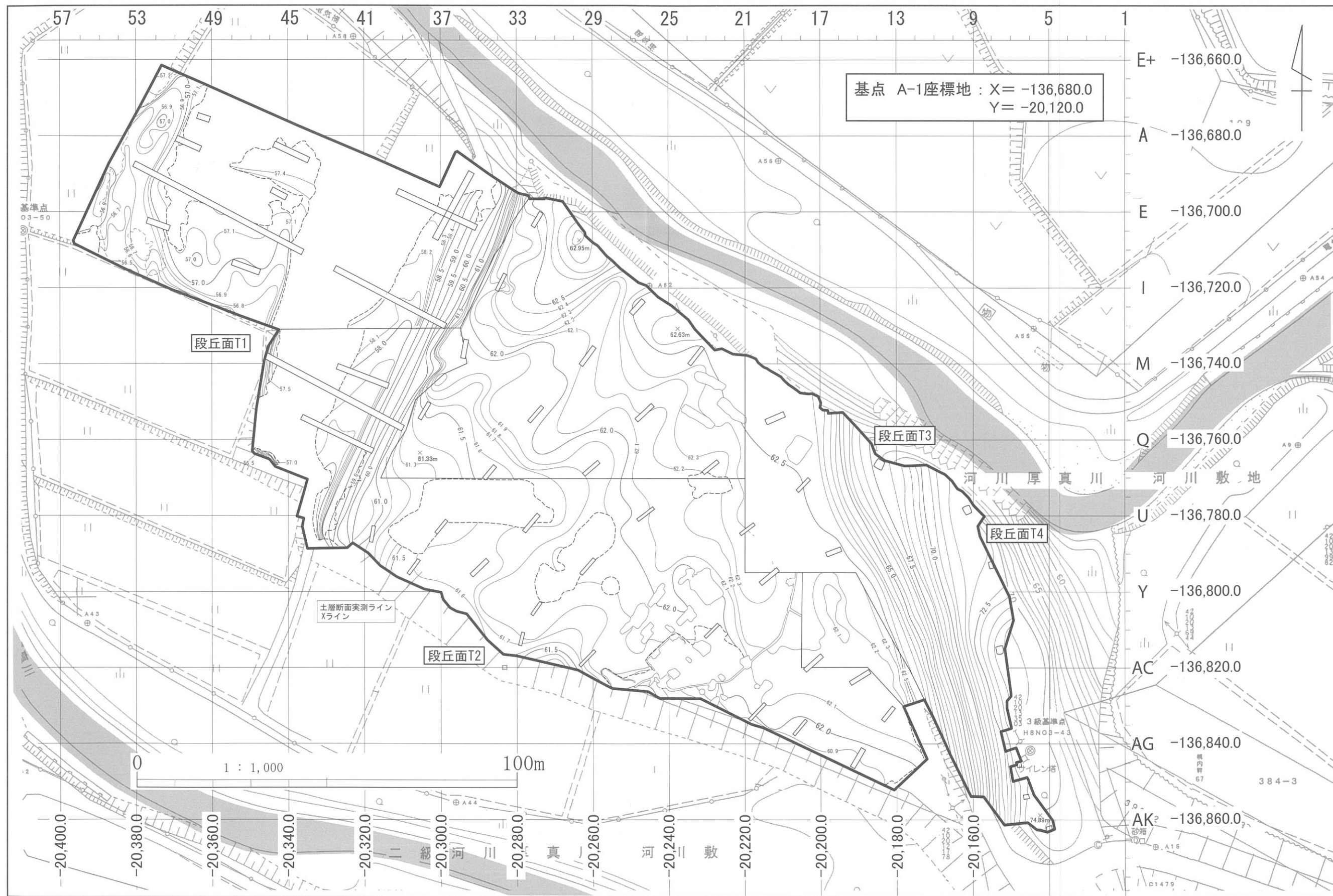


図 I-2 調査区内地形図



図 I-3 調査区年度区分およびグリッド設定図

3. 包含層および遺構調査の方法(図 I-4・5)

調査の準備段階として、調査員立会のもとバックホーにより樹根を残しながら表土と Ta-b 火山灰の除去を行った。Ⅲ層上面でアイヌ文化期の遺構、遺物が検出されることから火山灰は 3cm 前後残し、Ⅲ層上面まではジョレンを用いて人力による清掃作業を行った。平成 18 年度は発掘区全面の火山灰除去が終了した時点でラジヘリを用いた地形測量を(株)シン技術コンサルに委託し、並行して調査区内のグリッド杭設置も行っている。平成 19 年度については、調査日程上の期間が確保できたことから、測量技能作業員による地形測量を行っている。

18 年度の中位段丘面 T₂ の調査については、まず包含層堆積状態の実測ラインを 21 ラインと 33 ラインに設定し、厚真川下流に面した段丘縁辺部南東部から開始した。Ⅲa 層は調査区全面の調査を完了させ、Ⅲb 層以下は、包含層実測ラインにあわせた 3 分割の区域で層位毎・時期毎の面的な調査を行った。19 年度は発掘現場への進入路切替と電柱の移設を調査終了の範囲に行い現道下の 620 m² の調査を行った。

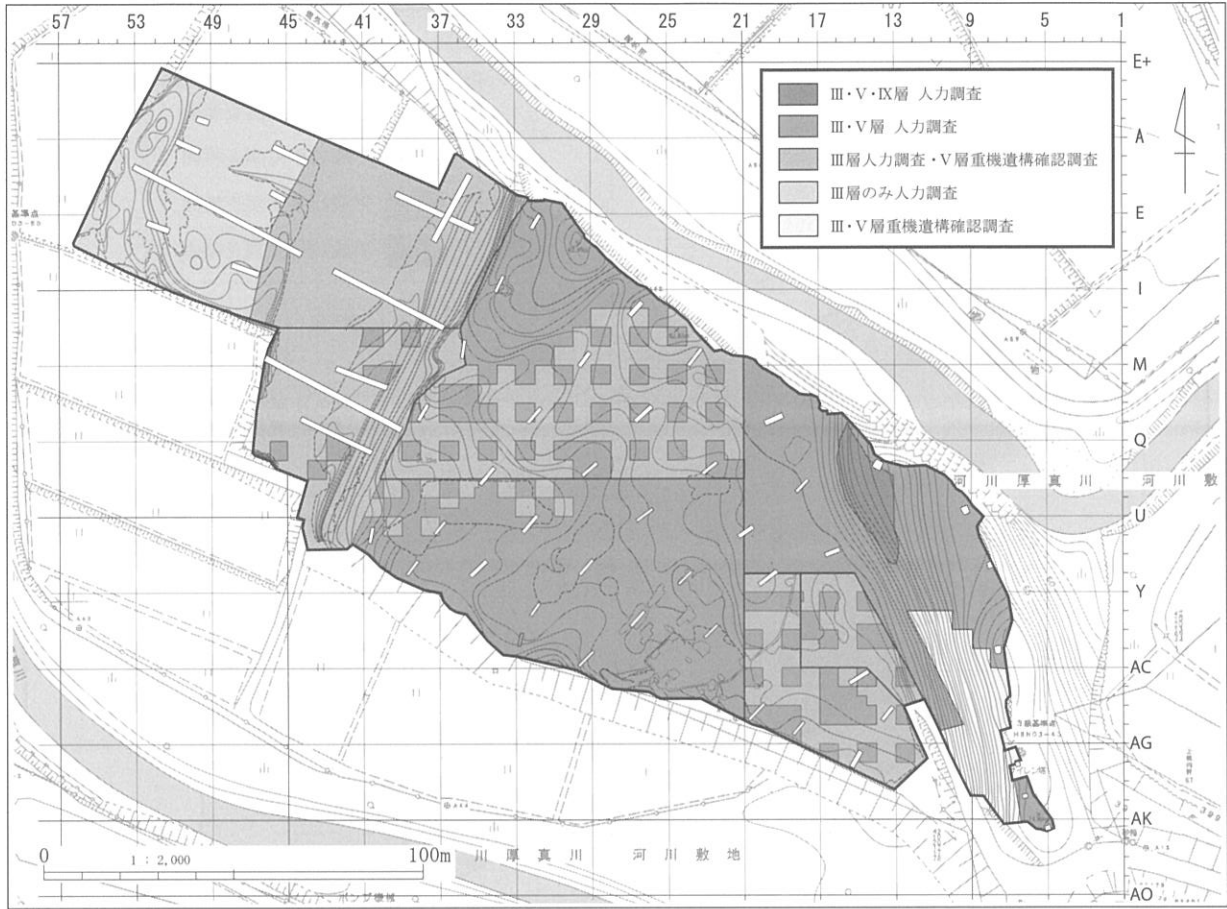


図 I-4 調査方法区分および試掘トレンチ位置図

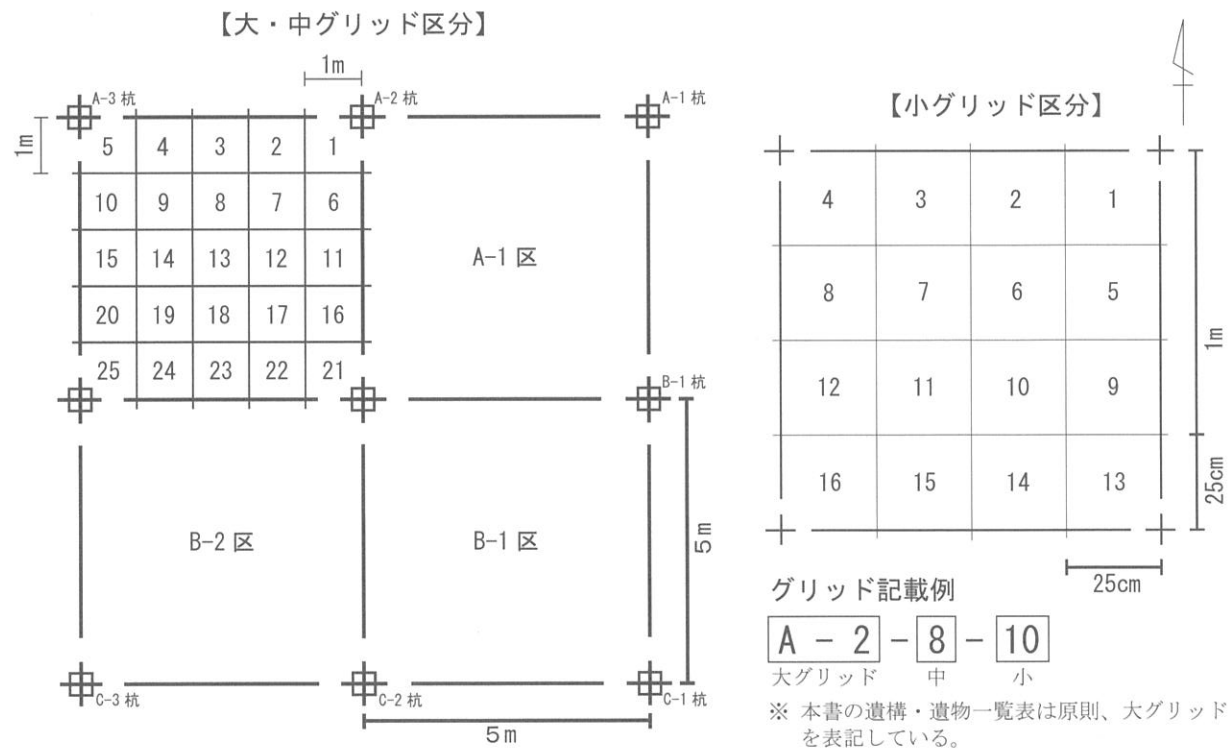


図 I-5 グリッド区分図

調査方法に関しては、これまでの調査結果からⅢ層は、基本的にⅢa層からⅢb層下位にかけては移植ゴテを用いて1~2cm程度ずつ掘り下げた。面的な遺物出土状態などから時期を把握し、新しい時期のアイヌ文化期(Ⅲb層上位・ⅢbU)、古い時期のアイヌ文化期(Ⅲb層中位・ⅢbM)、擦文文化期(Ⅲb層下位・ⅢbL)の3面を考慮したうえでの調査を開始した。遺物の出土状態として、平坦な段丘面に焼土を伴ってブロック的なまとまりで出土する傾向がある。これらは、共伴する擦文土器の有無と焼土の灰層の有無が検出層位とほぼ合致し、アイヌ文化期と擦文文化期の遺物ブロック「集中区」の認定を行った。つまり、Ⅲb層上位のアイヌ文化期では灰層を伴い、周囲からは棒状礫や金属製品が出土するのに対し、擦文文化期の集中区は、焼土や集中出土遺物にⅢb層を3cm前後と厚く被覆し、焼土は燃焼面における灰層の土壌化が進むためか焼骨片のみの検出状態である。

平成18年度は調査段階において須恵器の出土層位と後北C₁式土器の重複地点を検出したことから、続縄文時代の層位(Ⅲc層上位・ⅢcU)の確認もできた。この層位的認識のもと調査担当者間で討議し、時間幅があり時期決定遺物の少ないアイヌ文化期や擦文文化期について、調査段階から上記の4ステージを押さえることができた。調査手順としては、焼土燃焼面に被覆する包含層の厚さを観察するため、Ⅲ層上面で窪地となっている範囲に土層観察用のベルトを設定し、焼土等の平面的な遺構の形成時期の把握に努めた。土坑や柱穴等のⅢb層の落ち込みによって検出される遺構は、Ⅲc層上位から中位にて遺構確認の精査を行っている。なお、平地式住居址に伴う柱穴の確認は困難なものが多く、散水による乾燥状態の差異や土層の垂直スライスなどを行い、数回にわたって精査を行っている。柱穴の認定にあたっては、すべてを半截し、断面状態の観察の結果、判断している。おおよそ半数は、根穴などの自然営力による落ち込みのものであった。

無遺物層のⅣ層(Ta-c)はバックホーとジョレンで除去した。Ⅴ層は25%調査を行いⅥ層までの遺物出土頻度を確認し、一部ジョレンを用いての調査とした。平成18年度の調査の結果、中位段丘面T₂の縄文期(Ⅴ・Ⅵ層)の遺物点数が少ないことから、一部バックホーでⅥ層中までを掘削する遺構確認調査に切り替えた範囲もある(図I-4)。

低位段丘面T₁については、平成18年度はⅣ(Ta-c)層とⅤ層上位に堆積する灰黄褐色の洪水堆積物を1回で除去した。この結果、Ⅴ層中位において洪水堆積層が楕円形に落ち込む状態でTピット群を検出することができた。T₁におけるTピット調査はこの面で行った。包含層については25%調査の結果、出土遺物が極端に少なかったことから、残るⅤ層をバックホーで除去し遺構確認調査とした。平成19年度はⅢ層調査終了後、Ⅳ層とⅤ層をバックホーによる除去を行い、Ⅵ層下位ないしはⅦ層上面を遺構確認面として調査を行っている。

遺構は、住居址など包含層上面から上位で窪みとして確認できたものは、先行トレンチや土層観察ベルトを設定し、できるだけ遺構構築面の把握や構築面での調査を考慮した。焼土や遺物集中区、炭化物集中区等については、燃焼面や形成面のほぼ全量をフローテーションサンプルとして採取し、平成16~19年度の土壌サンプル量は合計6,000以上に及ぶ。処理は作業用の井戸を掘削し、調査期間中にフローテーション処理を行った。記録図化については光波式トータルステーションを用いて平面形およびエレベーションを記録し、堆積状態については調査担当者が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積図作成の実測を行った。各調査経過は35mm一眼レフカメラでデジタル・モノクロ・リバーサル・ネガカラーフィルムで写真記録し、一部は6×7中盤カメラでも撮影を行った。

なお、焼土については、土層の断面実測と燃焼面サンプルを採取後、富山大学理学部教授 酒井 英男 研究室の協力を受け古地磁気年代測定のプロックサンプルを、各焼土につき約 10 点を採取している。結果については、第七章 2 節に玉稿を賜っている。

遺物については、全点に遺物番号を付した。取り上げについては調査員による層位確認と段丘堆積物中の自然礫とを認定区分したうえで、光波式トータルステーションによる XYZ 座標 (XY は旧公共座標日本測地系) をデジタル記録し、取り上げた。この時、手簿 (日付・グリッド・層位・遺物名等) の記載も行い、データ入力ミスの補完を行っている。

4. 整理作業

一次整理は、一部現場段階から水洗、注記作業を行い、整理業務に入ってから各担当の調査員が調査区遺構名や層位、種別、細分類、分類等の台帳確認作業を行った。また並行して、フローテーション作業と処理後の選別作業も行っている。

二次整理は、各種遺物の接合・復元・実測・拓本等の作業を行い、遺構図等の第二原図の作成やトレース作業・編集については、パソコン (Os Windows Adobe IllustratorCS) で行った。なお、金属製品などの脆弱遺物については、パソコン上での写真実測を行っている。写真撮影は 35mm 一眼レフデジタルカメラで行い、パソコン (Os Windows Adobe PhotoshopCS) でのコントラスト補正等を行いつている。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトで行い、本文の Word 文書と合わせて印刷所へデジタル入稿している。

遺物の保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のものは、分類および調査区毎にコンテナに収納し町内の廃校舎に収蔵している。

第4節 遺物の分類

1. 土 器

縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字に群別し、アルファベットで時期細分した。

第Ⅰ群土器 縄文時代早期に属する土器。

- A 類 貝殻文・条痕文土器。
- B 類 早期後半の東釧路式土器群。絡条体圧痕文、組紐圧痕文などを施すもの。
- B1 類 東釧路Ⅱ式に相当するもの。
- B2 類 東釧路Ⅲ式、コッタロ式に相当するもの。
- B3 類 中茶路式に相当するもの。
- B4 類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

第Ⅱ群土器 縄文時代前期に属する土器。

- A 類 縄文丸底・尖底土器群。
- A1 類 美沢 3 式、綱文式土器に相当するもの。

A2 類 トビノ式、静内中野式に相当するもの。

B 類 円筒下層式系土器群。

B1 類 円筒下層 a 式ないしは b 式、虎杖浜 2 遺跡 2 群土器に相当するもの。

B2 類 円筒下層 c 式ないしは d 式、植苗式、大麻 V 式に相当するもの。

第Ⅲ群土器 縄文時代中期に属する土器。

A 類 中期前半の円筒上層式系土器群。

A1 類 円筒上層 a 式または b 式に相当するもの。

A2 類 円筒上層 c 式または d 式、厚真 1 式に相当するもの。

B類 中期後半から末葉の土器群。

B1類 萩ヶ岡1・2式、天神山式に相当するもの。

B2類 柏木川式に相当するもの。

B3類 a 北筒式に相当するもの。

B3類 b 煉瓦台式に相当するもの。

第IV群土器 縄文時代後期に属する土器。

A類 後期初頭の土器群。

A1類 a 古手の余市式土器。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状構成の土器。

A1類 b IV群 A1類 a 土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。

A1類 c 天祐寺式に相当するもの。IV群 A1類 a 土器に併存する。非在地系。

A2類 新しい段階の余市式。タブコブ式の古手。階段状の器表面や斜め下方からの刺突文や縄端圧痕文が施される土器。

B類 後期前葉の土器群。

B1類 新木のタブコブ式。縦位の棒状貼付帯縄線文または地文縄文のみが施されているもの。

B2類 手稲砂山式に相当するもの。

B3類 入江式、大津7群、白坂3式土器。

C類 後期中葉の土器群。

C1類 ウサクマイC式に相当するもの。

C2類 手稲式に相当するもの。

C3類 鮎澗式に相当するもの。

D類 後期後葉の土器群。

D1類 堂林式、御殿山式に相当するもの。

第V群 縄文時代晩期に属する土器群。

A類 晩期前葉の土器群。

A1類 爪形文や刺突文を施すもの。

A2類 大洞B・BC式土器に相当するもの。

B類 晩期中葉の土器群。

B1類 縄線文や円弧文を施すもの。美々3式、ママチI・II群に相当するもの。

B2類 大洞C1・C2式土器に相当するもの。

C類 晩期後葉の土器群。

C1類 ママチIII・IV・V群に相当するもの。

C2類 大洞A・A'式土器に相当するもの。

第VI群土器 続縄文時代に属する土器群。

A1類 砂沢式・二枚橋式に並存する在地の土器。

a:札幌市H37遺跡 丘珠空港地点相当のもの。

b:いわゆる汐見式相当。縄線文が施され、地文に帯縄文発達以前の土器。

A2類 砂沢式・二枚橋式に並存する搬入系土器。

a:砂沢式土器。 b:二枚橋式土器。

B1類 アヨロ2類土器並行の土器。

a:アヨロ2類a相当の土器。

b:アヨロ2類b相当の土器。

B2類 アヨロ3類相当の土器。

C1類 江別太1~3式土器。

C2類 後北B式土器。

C3類 後北C₁式土器。

C4類 後北C₂-D式土器。

D1類 宇津内IIa式土器。

D2類 宇津内IIb式土器。

E1類 北大I式土器。

E2類 北大II式土器。

(天方)

第VII群土器 擦文文化期に属する土器群。

A 北大III式相当

B 甕形

B1:擦文「前期」に相当するもの

主として胴部上半に横走沈線のみを施す一群

B1a:軽い段により頸部を形成した無文も

- しくは数条の横走沈線を廻らすもの
B1b: 多条の横走沈線を施すものもの
B2: 擦文「中期」に相当するもの
主として口縁部文様帯が未形成もしくは
単調な刻みのみの一群
B2a: 横走沈線を地文とし、刻文を重ねる
もの
B2b: 刻文のみのもの
B2c: 無文のもの
B3: 擦文「後期」に相当するもの
主として口縁部文様帯を形成した一群
B3a: 横走沈線を地文とするもの
B3b: 綾杉文主体のもの
B3c: 斜位、あるいは縦位の沈線で鋸歯状
文、「X」字状文等を施すもの
B3d: 胴部文様帯を3段以上に区画した上
でVII B3a～cの文様要素のもの
B3e: 無文のもの
B3f: 口縁部文様帯に数条の沈線を廻らせ
たもの

- C 坏形
C1: 台部を有さないもの
C2: 平底の低い台部を有するもの
C3: 平底の高台部を有するもの
C4: 上げ底の高台部を有するもの
C4a: 口縁部に沈線を有するもの
C4b: 体部に刻文を施すもの
D 鉢形・壺形
E ロクロ成形土器
E1: 甕形
E2: 壺形
E3: 鉢形
E4: 坏形
E4a: 軟質で内面黒色処理を施さないもの
E4b: 軟質で内面黒色処理を施すもの
E4c: 硬質で酸化炎焼成のもの
E4d: 硬質で還元炎焼成のもの
(小野)

2. 剥片石器

ポイント類

長軸4cmを境に石鎌と石槍・石銛とを区分した。

A 「石鎌」

- 1 細身で薄手のもの。
- 2 無茎のもの。
- 3 明瞭な茎部をもつもの。
- 4 不明瞭な茎部を持つもの。
- 5 片岩製で周縁のみに調整加工を施すもの。
続縄文時代に特徴的なもの。

B 「石槍」・「石銛」

- 1 明瞭な茎部をもつもの。
a 茎部端が平ら。 b 茎部端が尖る
- 2 不明瞭な茎部をもつもの。

C 欠損品・未製品

石 錐

- A 剥片の一部に機能部を作出したもの。
- B 柄と機能部の区別が明瞭なもの。
- C 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広なもの。

- D 柄と機能部の区別が不明瞭で棒状のもの。
- E 他石器からの転用品と思われるもの。

ナイフ・スクレイパー類

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

A 「つまみ付きナイフ」

- 1 素材の周縁にのみ加工を施したもの。
- 2 素材の片面全体に加工を施したもの。
- 3 素材の両面全体に加工を施したもの。

B 素材端部に刃部が形成されているもの。

- 1 「ラウンド・スクレイパー」
- 2 「エンド・スクレイパー」

C 素材端部に刃部が形成されていないもの。

- 1 「サイド・スクレイパー」
a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

- 2 「コンケイブ・スクレイパー」
 a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。
 3 「抉入石器」
 D 続縄文時代に伴う「ナイフ状石器」
 E 欠損品
 a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

RF・UF

縁辺部に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分未満の連続的剥離のあるものをRF、

使用によると思われる微細剥離のあるものをUFとして扱っている。

ピエス・エスキーユ

石核

火打石

メノウ、チャート、石英（水晶）を石材とし縁辺部等に微細剥離が観察できるもの。

3. 礫石器

石斧

- A 磨製石斧
 B 未製品1：剥離敲打により完成品に近い大きさまで整形されているもの。
 C 未製品2：礫皮を残すが、擦り切り・剥離・敲打調整で素材礫形状が不明瞭なもの。
 D 未製品3：剥離・敲打調整が部分的に施され、素材礫の形状を大きく残すもの。

たたき石

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

- I 平面形が縦長のもの。
 A 扁平のもの。
 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
 3 1・2を並存するもの。
 B 棒状または角柱状のもの。
 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
 3 1・2が並存するもの。
 II 平面形が方形～不整形で幅広のもの。
 A 扁平のもの。
 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕

を有するもの。

- 3 1・2を並存するもの。
 B 棒状または角柱状のもの
 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
 3 1・2が並存するもの。
 III 平面形が円～楕円形のもの。
 A 扁平のもの。
 B 球形または棒状のもの。
 IV 破片のため上記に分類不可のもの。

擦石

- A 断面三角形の礫の稜に擦り面のあるもの。
 B 断面楕円形の礫の側縁に擦り面のあるもの。
 C 扁平礫の側縁にすり面があるもの。
 D 北海道式石冠
 E その他

砥石

素材礫の形状が変形する研磨面を有するもの。

滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。線條痕はほとんど観察できない。(III層のみ)

線條痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線條痕があるもの。

石皿・台石

便宜的に素材礫の重量が 900 g 以上で、素材礫の平坦面に擦痕・敲打痕があるもの。

滑沢面と敲打痕のある大型礫

- I 表裏面にそれぞれが単独で認められるもの。
- II 一面に両方の痕跡が認められるもの。

加工痕のある礫

加工目的の剥離があるもので、剥離加圧（打点）部分に潰打面が形成されず、側面観が稜線状となるもの。

自然礫

加工痕や明瞭な使用痕が認められないもの。

- I 平面形が縦長のもの。
 - A : 扁平のもの。
 - B : 棒状または角柱状のもの。
- II 平面形が方形～不整形で幅広のもの。
 - A : 扁平のもの。
 - B : 棒状または角柱状のもの。
- III 平面形が円～楕円形のもの。
 - A : 扁平のもの。
 - B : 球形または棒状のもの。

4. 鉄器・鉄器生産関連遺物

平成 18 年度のⅢ層の調査で、鉄器生産関連の遺物が多数出土した。これらがどのような作業の下で残されたかについては、研究者間で意見が分かれているため、今回の報告では遺物の形状を基にした分類を行い、その解釈については本資料を扱う個々の研究者に委ねることとした。以下では鉄器も含めた上での分類を示す。

鉄器

- I 鉄製品
道具として成形されたと判断できるもの。
- II 半製品
道具としての形態には至らないが、それに近い形態のもの。
- III 鉄片
道具としての形態を成さず、またその素材としての利用も困難と考えられる小片。形状により棒状と板状に 2 分できる。

鉄器生産関連用具(鉄製以外)

- 羽口
粘土を素材とする筒形の土製品、もしくはその破片と考えられるもの。

粘土状物質

主として粘土で構成される固体。部分溶融が観察できる資料が多い。形状や比重からさらに以下の 4 つに細分できる。

碗状滓

全体形状が碗のように凹面、凸面で形成された粘土状物質。凹面には釉のかかった状態に近い黒色の光沢がみられるものや、金属質の固体が付着するものも認められる。凸面には砂粒が付着し、凹面に比し均整の取れた曲面を形成している。

塊状滓

不定形の塊で、構成する物質が粘土主体のため比重が小さいもの。磁着しない。

鉄滓

不定形の塊で、構成する物質中に金属質を含むため、比重が大きいもの。磁着するものが多い。

粒状滓

5 mm 以下の大きさで球形のもの。

剥片状物質

薄い板状で、磁着するもの。厚さの違いにより 2 つに細分できる。

剥片状鉄塊 厚さ 1 mm 以上のもの

剥片状鉄滓 厚さ 1 mm 未満のもの。鍛造剥片に相当する。

(小野)

第5節 平成 18・19 年度の調査結果の概要(表 I-1・2)

平成 16 年度からの過去 4 年間の調査では、後期旧石器時代～中近世アイヌ期までの遺構・遺物が検出された。調査面積は、22,025 m²である。平成 16・17 年度調査の後期旧石器時代と縄文時代の一部については平成 17 年度、同一調査区の縄文文化の一部と続縄文時代、擦文文化期、アイヌ文化期については平成 18 年度に本報告書を刊行している(乾他 2006・2007)。ここでは、本書所収の平成 18 年度と平成 19 年度の調査結果について記す。

河岸段丘面 T₂ および T₁ の南側を調査区とした範囲から縄文時代早期から中近世アイヌ文化期の遺構遺物を検出した。なお、Ⅲ層の続縄文時代、擦文文化期、中近世アイヌ文化期については、焼土や土器集中、礫集中などが同一面でまとまって検出する範囲を集中区として報告する。以下に段丘面毎の調査結果の概略を記す。

1. T₂ の調査概要

〔縄文時代〕

中位段丘面 T₂ においては堅穴住居跡 2 軒、Tピット 36 基、土坑 5 基、焼土 16 ヲ所等を検出した。主要時期は縄文時代早期後葉の中茶路式期と後期初頭余市式期であり、TピットとV層上面で検出した縄文晩期前葉のVF-10を除く遺構の多くはこの時期に帰属するものと思われる。層位的には早期後葉の遺物がVI層、後期初頭の遺物がVb層中位から上位にかけて出土している。

住居跡は平成 17 年度調査区にかかる VH-06(中茶路式期)と段丘面縁辺部の VH-07(余市式期)の 2 軒を検出した。VH-06 は方形プランで、平成 16 年度に調査した VH-04 と同様に浅い堅穴住居跡であった。当該期の住居跡は 4 年間の調査で 2 軒目となる。VH-07 は楕円ないしは卵形のプランで、壁面近くの床面直上からは炭化材が出土しており、焼失住居跡と思われる。堅穴の周辺には Ta-d が混じる掘り揚げ土を伴っている。床面からの時期決定可能な資料はないものの、掘り揚げ土基底面層位等より余市式期のものと判断した。当該期の住居跡は 3 軒目の検出となる。

Tピットは直線状ないしは弓状の配列で検出されている。いわゆる「苫東分類」(大泉 1997)を基本とした「厚幌分類」(乾・小野 2004)の A2・B1・B2 型が主体を占めている。数基による配列を組むものはいずれも、概ね南北ないしは北東-南西方向の列である。土坑は長楕円形を主体とし、単独で構築されている。出土遺物もないことから時期や性格などは不明である。

焼土は 16 ヲ所のうち 1 ヲ所が石組炉である(VF-12)。時期は VF-10 のみが Va 層下位で検出されており、縄文時代晩期前葉の土器集中の検出層位と同一レベルであることから、当該期の焼土と思われる。分布状況は VH-07 周辺でややまとまって検出されている。

その他、特筆すべきものとしては、土器集中(VPB-05)がある。余市式土器が風倒木痕のくぼ地を中心にした約 6.1×5.9m の範囲から最小個体数 15 個体が出土している。当該期における廃棄場と考えられ、良好な一括資料である。また、平成 18・19 年度においても胎土に石英結晶粒を多量に含む「仮称富良野盆地系土器」も比較的まとまって出土している。

〔続縄文時代〕

続縄文時代では中位段丘面 T₂ の南側、段丘縁辺部に堅穴様遺構 1 ヲ所(ⅢX-04)と焼土や土器集中などの集中区 9 ヲ所、石鏃集中(ⅢFTB-01)を検出した。主体時期は後北 A～C₁ 式にかけてである。平成 16・17 年度の調査では当該期の遺物はほとんど出土せず、極めて限定された分布状況を示している。これらの焼土や焼骨片集中はシカと思われる陸棲哺乳綱の焼骨片で構成され、サケ科などの

表 I - 1 上幌内モイ遺跡 年度別概要一覽表

項目	4年合計 (のべ数含む)	III 層					V 層					IX 層		
		近世・中世アラス文化期、樺文化期、統縄文時代、縄文時代晩期					縄文時代早・中・後・晩期					後期旧石器時代		
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	合計	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	合計	平成16年度	平成17年度	合計
調査着手面積(m ²)	22,025	3,942	4,518	8,000	5,565	22,025	-	-	-	-	-	-	-	-
発掘調査面積(m ²)	32,898	3,517	4,518	8,000	5,565	21,600	3,517	2,293	2,809	2,384	11,003	6	289	295
遺構確認面積(m ²)	9,087	425	0	0	0	425	425	2,225	2,991	3,021	8,662	0	0	0
調査面積合計(m ²)	41,985	3,942	4,518	8,000	5,565	22,025	3,942	4,518	5,800	5,405	19,665	6	289	295
竪穴住居跡	7	0	0	0	0	0	4	1	1	1	7	0	0	0
平地式住居址	10	1	6	2	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0
建物跡	8	2	3	2	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0
杭列跡	3	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
土壇墓	4	0	2	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0
テピット	169	0	0	0	0	0	21	19	69	60	169	0	0	0
土坑	68	0	21	23	0	44	8	7	4	5	24	0	0	0
焼土	244	20	108	79	13	220	4	3	6	10	23	0	1	1
竪穴様遺構	2	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
灰集中	14	0	6	5	3	14	0	0	0	0	0	0	0	0
炭化物集中	68	31	22	10	0	63	3	2	0	0	5	0	0	0
土器集中	54	6	9	28	0	43	3	0	3	5	11	0	0	0
礫集中	63	6	18	34	4	62	1	0	0	0	1	0	0	0
鉄器集中	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
剥片集中	26	0	1	16	0	17	0	2	3	4	9	0	0	0
獸骨集中	53	2	13	24	14	53	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	円形周溝1	0	虎澤場1 灌状遺構1	3	0	0	0	0	0	0	0	0
遺物点数	114,114	5,794	18,255	36,951	2,221	63,221	13,652	15,795	11,674	8,360	49,481	385	1,027	1,412
表採遺物点数	165													
遺物総点数	114,279													

表 I-2 Ⅲ層出土遺物一覧表

遺物種別	土器	剥片石器	礫石器	金属製品	鉄生産関連遺物	剥片類	礫	骨角器類	その他
小計	8,209	335	400	116	971	14,144	14,976	9	12
合計									39,172

表 I-3 V層出土遺物一覧表

遺物種別	土器	剥片石器	礫石器	土製品	石製品	剥片類	礫	その他	
小計	6,644	636	412	0	0	6,002	6,340	0	
合計									20,034

魚網は微量に限られる(第Ⅶ章 4 節)。また、周囲からは黒曜石や片岩の碎片も多量に出土している。特に集中区 52 では台石、たたき石と共に多量の片岩碎片が出土し、「粗製石鏃」(松田 2007)の製作址と考えられる。出土遺物としては、宇津内Ⅱb 式土器が出土しており、土器胎土に砂粒を多く含む異質な土器片であることからの搬入品と思われる。この他、集中区 49 の続縄文文化期の層位であるⅢc 層より刀子片 1 点が出土している。

〔 擦文文化期 〕

擦文文化期は B-Tm 降下後の後半期を主体とし、中位段丘面 T₂ では焼土や土坑、礫集中などで構成される 18 ヶ所の集中区と人骨を伴う土壙墓 1 基を検出した。これらの出土層位はⅢb 層下位である。4 ヶ年に及ぶ調査で擦文文化期の遺物が約 35,000 点出土しているが、竪穴式住居跡は 1 軒も検出していない。おそらくはこれらの集中区のうちの幾つかが平地式住居址となる可能性があるが、柱穴の配列等は確認できなかった。特に集中区 35 のⅢF-216・224、ⅢSB-47・53 の構成は中世アイヌ文化期の平地式住居址と類似した属性を示していることから、一定の居住空間であった可能性がある。なお、ⅢF-224 からは炭化したキビが 38 粒出土している(第Ⅶ章 5 節)。

土壙墓(ⅢGP-03)はほぼ全身の骨格を残す人骨が伴っていたが、保存状態が悪く、取り上げの結果同定に耐える資料とはならなかった(第Ⅶ章 3 節)。しかし、頭位方向などの埋葬形態と副葬品の出土位置関係が確認でき、当該期における葬送儀礼に関わる重要な資料を得ることができた。また、墓壙内の堆積状態から木棺構造物が推定できた。

土坑はこれまでの調査で検出されていた平面形が円形で開口部が「ろうと」状に開く形態的特徴のものが 11 基検出されており、今年度報告では花粉分析も行った(第Ⅶ章 6 節)。その他、集中区 35 からは風倒木痕揚げ土上を中心にシカの上顎歯列や鹿角で構成される 6 個体以上の頭蓋骨集中を検出し、風倒木痕の窪地内からは坏の破片が 2 個体出土している。道央部擦文文化期のシカの頭蓋骨集中は類例がなく今回の遺構が初例となる。また、集中区 41、ⅢF-183 からはフローテーションの結果、165 粒のキビ(第Ⅶ章 5 節)とチャートのチップが得られた。平成 18 年度に報告した火打石と同一石材であり、火花式発火法がこの焼土にて行われていた可能性が高い。このような検出例は道内において最も古いものである。その他、特筆すべき遺物としては集中区 26 から、北方系資料の可能性が想定されるコイル状鉄製品の渦巻双頭部(図Ⅲ-14-5)が出土している(三浦 2001)。これらの他、包含層からは刀子類を中心とした金属製品や土師器、須恵器などの搬入系遺物が多量に出土している。本遺跡は厚真川上流域の山間部に位置しているが、これらが恒常的に流通する経路が開かれていたものと思われる。

〔 アイヌ文化期 〕

段丘面 T₂ では平地式住居址 3 軒、建物跡 2 軒、集中区 4 ヶ所などを検出している。当該期の遺構遺物群は検出層位より大きく新旧 2 期に細分することが可能である。

表 I-4 平成18・19年度上幌内モイ遺跡 III層遺構群一覧表

遺構名	所属 時期	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸				
ⅢH-08	アイヌ 文化期	405	365	S・T-21・22	ⅢbU	ⅢF-144,ⅢSB-26・34	新アイヌ期
ⅢH-09	アイヌ 文化期	615	510	Y・Z-16~18	ⅢbM	ⅢF-243・244,ⅢSB-27・32・63, ⅢBB-56	古アイヌ期
ⅢH-10	アイヌ 文化期	830	-	AD・AE-14~16	ⅢbM	ⅢF-160・161,ⅢSB-31,ⅢBB-16	最も古い住居址
集中区20	アイヌ 文化期	950	850	AF・AG-16~18	ⅢbM	ⅢF-157~159,ⅢSB-28	金鉗出土
集中区21	アイヌ 文化期	1,900	1,450	E~H-34~36	ⅢbM	ⅢAS-10	ⅢH-02と関連
集中区22	アイヌ 文化期	2,350	1,250	S・T-27~31	ⅢbM	ⅢF-191,ⅢAS-08	ⅢH-06と関連
集中区23	アイヌ 文化期	1,000	500	Z・AA-30・31	ⅢbM	ⅢF-154,ⅢSB-25,ⅢCB-87	
集中区24	アイヌ 文化期	1,200	1,150	V・W-21・22	ⅢbU	ⅢF-145・148,ⅢAS-07・09	ⅢH-01と関連
集中区25	擦文 文化期	825	575	S・T-21	ⅢbL	ⅢF-146・167・180,ⅢCB-83, ⅢPB-23,ⅢSB-36	
集中区26	擦文 文化期	1,300	1,050	T~V-22・25	ⅢbL	ⅢF-162・166,ⅢCB-84,ⅢSB-35	
集中区27	擦文 文化期	900	850	S・T-25・26	ⅢbL	ⅢF-172・173,ⅢPB-26	
集中区28	擦文 文化期	850	700	U・V-26・27	ⅢbL	ⅢF-170・171,ⅢPB-27・28・29	
集中区29	擦文 文化期	900	700	S・T-27・28	ⅢbL	ⅢF-176・179,ⅢSB-37	
集中区30	擦文 文化期	1,200	1,150	S~U-29~31	ⅢbL	ⅢF-193・194・195・196,ⅢPB-40, ⅢSB-41・42	
集中区31	擦文 文化期	800	600	U・V-30・31	ⅢbL	ⅢF-189,ⅢPB-39,ⅢSB-43	
集中区32	擦文 文化期	950	750	W・X-30・31	ⅢbL	ⅢF-186・188,ⅢPB-33・34	
集中区33	擦文 文化期	1,350	1,000	U~W-31~34	ⅢbL	ⅢF-190,ⅢCB-88,ⅢSB-44	
集中区34	擦文 文化期	1,300	700	W~Y-32~34	ⅢbL	ⅢF-185,ⅢBB-25,ⅢPB-35, ⅢSB-40	
集中区35	擦文 文化期	1,500	1,300	T~W-34~36	ⅢbL	ⅢF-192・216・218・219・224, ⅢBB-37・41,ⅢPB-42・52・54, ⅢSB-47・53	擦文平地式住居址? シカ頭骸骨集中
集中区36	擦文 文化期	650	500	Y-34・35	ⅢbL	ⅢF-214,ⅢSB-52	
集中区37	擦文 文化期	750	700	W・X-35・36	ⅢbL	ⅢF-217,ⅢSB-51	
集中区38	擦文 文化期	700	500	V~X-37・38	ⅢbL	ⅢF-210・212・227,ⅢSB-49	
集中区39	擦文 文化期	975	950	V・W-38~40	ⅢbL	ⅢF-209・211・213・215・220・222, ⅢSB-50・57	
集中区40	擦文 文化期	1,050	800	AA~AC-26~28	ⅢbL	ⅢF-168,ⅢPB-24・25	
集中区41	擦文 文化期	1,350	650	AB・AC-28~30	ⅢbL	ⅢF-183・198・202,ⅢBB-23, ⅢCB-86,ⅢPB-31・32・45, ⅢSB-38・39	火花式発火法 チップ出土
集中区42	擦文 文化期	850	800	S・T-38・39	ⅢbL		
集中区43	擦文 文化期	900	750	F・G-47・48	ⅢbL	ⅢF-236・237,ⅢSB-61・62	
集中区44	擦文 文化期	900	600	O・P-41・42	ⅢbL	ⅢIPB-02,ⅢPB-48	廃滓場跡

表 I-4 平成18・19年度上幌内モイ遺跡 III層遺構群一覧表(続き)

遺構名	所属 時期	規模(cm)		グリッド	層位	付属・関連遺構	備 考
		長軸	短軸				
集中区45	続縄文 時代	1,000	745	W・X-33・34	IIIcM	III BB-26・27・28・29・30, III PB-36・44, III SB-46, III FCB-06	
集中区46	続縄文 時代	1,025	765	W・X-35・36	IIIcM	III BB-38・43・44, III PB-55, III FCB-14	
集中区47	続縄文 時代	1,200	765	Z・AA-31・32	IIIcM	III PB-37・43, III FCB-05・07	
集中区48	続縄文 時代	990	640	Y・Z-34・35	IIIcM	III F-203・204・205・229, III BB-24, III FCB-08・17・18	
集中区49	続縄文 時代	865	790	W~Y-36・37	IIIcM	III F-230, III BB-42, III PB-53, III SB-48, III FCB-10	
集中区50	続縄文 時代	815	700	W・X-37・38	IIIcM	III F-225・226, III BB-36, III CB-36, III FCB-15・16	
集中区51	続縄文 時代	950	745	V・W-39・40	IIIcM	III F-221・223, III BB-33・35・39, III CB-90, III FCB-09・11・12	
集中区52	続縄文 時代	640	530	U-40	IIIcM	III SB-56	片岩製石鏃製作址
集中区53	続縄文 時代	1,035	950	AC~AE-21・22	IIIcM	III F-178, III BB-35, III PB-18, III FCB-02	
集中区54	続縄文 時代	975	565	P・Q-41・42	IIIcM	III CB-92, III FCB-13, III SB-54・58	

新しい時期の遺構としては、III H-08、建物跡 6・7、集中区 24 がある。これらは検出層位や住居址の長軸方向、炉の形態から平成 16 年度の調査した III H-01 と同一時期の遺構群で分布状況も 40×25m の範囲にまとまりを見せている良好なユニットと考えられる。

上記以外は古い時期のアイヌ文化期に帰属するものと思われ、楕円形の炉址 2 ヶ所が長軸上に配列されている。長軸方向は概ね南西-北東軸で、平成 17 年度に調査した平地式住居址群と同一方向であり矛盾しない。III H-09・10 は約 30m の距離で位置し、III H-09 は周辺の遺構群とセット関係にあるものと思われる。また III H-10 に関しても、層位などから集中区 20 や灰集中 14 (III AS-14) と同一時期の遺構群と考えられる。なお、集中区 20 からは道内最古の出土例となる金鉗と鋼素材(図 II-25-1・2)が出土している。また、III F-158 からはムギ類、キビ、ヒエの栽培種の炭化種子が出土している(第 VII 章 5 節)。

2. T₁の調査概要

〔縄文時代〕

この段丘面からは T ピット 93 基と土坑 4 基が検出されている。TP-161 を除く全てが東側の T₁B の範囲である。包含層については平成 18 年度に 25% 調査を行ったが、出土遺物は土器片 16 点など計 50 点に留まっている。試掘調査の結果からも V 層の遺物は極少数に限られていたことから、平成 19 年度は重機掘削による遺構確認調査とした。

T ピット群はほとんどが縄文時代中期末葉から後期初頭の洪水堆積層を被覆している。タイプ別構成は A1 型 37 基、A2 型 40 基、B1 型 24 基、B2 型 5 基、C1 型 7 基、C2 型 16 基である。これらのうち 38 基は T₂-T₁ 段丘崖の等高線に直交する長軸方向で、段丘崖裾に配列されている。主体は A2・B1 型で構成されている。このような T ピットの立地条件は道内において初例と思われる。杭跡を有する B2・C2 型は調査区の北側に検出し、配列を構成するものもあった。また、坑底面に工具痕を確認できたもの(TP-154・164)もある。

〔続縄文時代〕

T₂-T₁ 段丘崖裾に礫集中(III SB-54・58)やフレイク・チップ集中(III FCB-13)などで構成される集中区

54 を検出したのみである。Ⅲ層の調査は T_1 全面を移植ゴテによるものだが、これ以外の遺物は皆無に近い。当該期において、河川沿いの低地利用は極めて低いものと思われる。

〔 擦文文化期 〕

T_2 - T_1 段丘崖裾に集中区 44 と溝状遺構(ⅢX-05)、西側の T_1A において集中区 43 を検出した。

集中区 44 のⅢIPB-02 は廃滓場跡で、土製の羽口 10 個体と椀状滓 1 個を主体とする粘土状物質(スラグ)、鍛造剥片、炉壁に使用したと思われる板状礫が風倒木痕に関連して出土している。羽口は未焼成で、鍛冶作業にて被熱する先端部のみが出土している。胎土にはいわゆるスサと呼ばれる繊維を含んでいない。スラグ類は合計約 1,300g が出土している。この北側に約 60cm には擦文土器集中(ⅢPB-48)が出土しており、検出層位からも当該期のものと判断した。これより北西側へ約 10m には長さ 10m、幅 0.5m の溝状遺構(ⅢX-05)も検出されている。構築目的などの性格は不明であるが、構築面層位から擦文土器の小型甕 1 個体が出土している。集中区 43 は自然の窪地を利用したもので焼土(ⅢF-236・237)と礫集中(ⅢSB-61・62)で構成されている。この集中区からは、北方系資料と思われる鎖(図Ⅲ-63-9)が出土している。

〔 アイヌ文化期 〕

T_2 - T_1 段丘崖に集中区 21、土壙墓 1 基、建物跡 1 軒、獣骨集中 2 ヶ所を検出した。

集中区 21 は平成 17 年度に調査したⅢH-02 に伴う廃棄遺物群と思われる段丘崖斜面の中腹から裾にかけて散在した状態で遺物が出土している。層位もⅢb 層中位であることからⅢH-02 との同時期性において矛盾しない。

土壙墓は構築面が水田造成時に削平されており、上部構造は不明である。墓壙内には人骨は遺存していなかったが、土壙墓形態や長軸・墓標穴方向、副葬品等から当該期のものと判断した。副葬品は小柄刀身、漆椀塗膜、針であることから被葬者は女性の可能性がある。他に墓標穴と思われる杭穴が 2 基検出されており、 T_1 に墓域が形成されていた可能性もある。

獣骨集中はⅢBB-34 がエゾシカの頭蓋骨および下顎骨で構成(第Ⅶ章 4 節)され、Ⅲb 層上位の新しい時期のものである。調査区の北東コーナーで検出したⅢBB-51 は大木の樹根に伴って出土したもので、シカのほぼ全身部位が出土している(第Ⅶ章 4 節)。時期は T_a - T_b を直接被覆するもので、本遺跡において最も新しい時期の遺構となる。厚幌 1 遺跡の出土例(乾・小野 2004・ⅢAS-01)と同一時期であり、根跡の東側から出土している状態も共通している。本遺跡でもこの時期の遺構遺物が検出されていないことから、ヒグマでいう狩猟地での「オープンレ」の一種に相当する可能性もある。なお、同時期の遺跡としては厚真川中流域の富里地区のニタツナイ遺跡(奈良・熊谷他 2009)が調査されている。

上記のように、上幌内モイ遺跡は小中河川である厚真川の上流域に形成された遺跡ではあるものの、平成 16 年度からの 4 ヶ年の調査で予想を超えて後期旧石器時代からアイヌ文化期に至るまで多種多様な遺構・遺物が多数検出されている。

第6節 遺跡の位置

1. 厚真町の概要

A 地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振支庁の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川水系に水田地帯が広がる、人口 4,935 人（平成 20 年 10 月 31 日現在）の農業の町である。町域の総面積は 404.56 k m²で、流路 52.3km の二級河川厚真川流域に広がり南北 32.5km、東西 17.3km と細長く、南部は約 6.5km にわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。全国においても、源流部から河口までの 1 河川流域で行政区域を有する自治体は数少ない。北部は、夕張市や由仁町と接し、夕張山地南端域の標高 200~600m の山地が続き、総面積の約 70% を山林が占めている。東には、夕張山地から続く低い山地を挟んで、むかわ町と接し、北西には標高 100m 前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯（以下、苫東）内で苫小牧市と接している。厚真の語源は 3 説ほどあるが、最も有力な説として「アットマム」(at-to-mam 「向こうの湿地帯」) で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという（厚真町 1956）。

町内は、大きく 4 つの地区に分かれ、厚真川沿いに下流域の浜厚真・上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の幌内地区で、むかわ町と接し、入鹿別川流域の鹿沼地区がある。ここでは厚真川流域を中心に概略を述べる。

南部は砂浜が続き、明治期より地引網での鯛漁が盛んであったが、現在では、苫小牧沿岸にかけてホッキ貝の全国一の漁場となっている。かつては標高 10m 前後の砂丘列が発達し、背後には勇払原野の湿地帯が広がっていたが、現在は苫東地区の一部で、苫小牧東港や道内最大の火力発電所、石油備蓄タンク群等の工業用地となっている。また国道や高規格道路、鉄道があり、札幌圏から日高方面への主要幹線路ともなっている。地形的には、苫東地区の静川・源武台地と同じ様相を示し、樹枝状に開折された標高 10~20m 前後の支笏火山・樽前山の火山灰で構成される低平な台地と湿地、湖沼群が見られる。特に厚真川左岸から入鹿別川右岸にかけての厚和地区は静川台地と全く同じ地形・地質様相を呈している（仮称厚和台地・鯉沼台地）。中部には厚真町の中心市街があり、鶴川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差部に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展していた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追山地南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中部以北では、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。北部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部で、本流とシュルク川、幌内川の 3 河川の合流点でもある。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、昭和 5 年から 24 年まで早来駅とを結ぶガソリン機関車軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く。標高 400m 以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との 1 市 2 町の境界線付近、標高 500m 付近の夕張山地南域に源流部がある。

B 歴史的環境

(1) 先史時代

厚真町内には現在 109 ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、平成 17 年度に本遺跡で報告した後期旧石器時代から近世アイヌ文化期にいたるまでである（図 I-6、表 I-6・7）。遺跡の分布傾

向は開発行為の多寡に左右され、南部の苫東地区や厚真川下流域から入鹿別川にかけての仮称厚和台地と仮称鯉沼台地や夕張山地から続く丘陵縁辺部、厚真川中流域の支流沿い、北部の高丘地区および幌内地区にまとまる傾向がある。遺跡の立地は、南部において湿地と隣接する台地縁辺部や湧水地付近、中部では厚真川沿いや小河川との合流点付近の河岸段丘縁辺部に多い。北部の山間部では、頗美宇川流域の高丘地区や厚幌ダム水没地域内に多く分布する。これらは安平町安平地区や夕張市紅葉山地区、むかわ町穂別・稲里地区に抜ける山越えのルート上の遺跡と思われる。

時期的には、縄文時代の最も古いもので、豊沢4遺跡の試掘調査で早期前半の物見台系貝殻文土器片1点が出土している。やや時期が下って、浜厚真3遺跡で東釧路Ⅱ式土器がややまとまって出土している(北海道埋蔵文化財センター2003)。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前半の静内中野式期で、シヨロマ2遺跡(J-13-92)、厚幌2遺跡(J-13-88)、シヨロマ1遺跡(J-13-81)、ニタツナイ遺跡(J-13-104)、豊丘1遺跡(J-13-69)などでは多量の被熱礫や哺乳網の焼骨片が出土しており、厚真町南部から北部に至るまで確認されている。この時期の遺跡は湧水地点に隣接する特徴的な立地で、鹿沼7遺跡(J-13-99)やオッココ1遺跡(J-13-107)では路頭や試掘調査で「盛土遺構」を伴うことが判明している。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期の遺跡数でピークを迎える。縄文時代後期中葉から後葉にかけての遺跡数が激減し、晩期前葉に再び増加する傾向にある。続縄文文化期からアイヌ文化期にかけての遺跡数も少ない。このような各時期における遺跡数の偏りは隣接する苫小牧市における傾向と一致している。

(2) 町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財の調査・研究は、大きく3期に別けることが可能である。

a. 厚真村郷土史研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究(昭和20年代後半から40年代中頃)

最初の記録として、大正5年、現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を、教材として学校に保管する許可書が発行されたことである(厚真村郷土研究会1956)。遺物の多くは縄文晩期初頭の土器片と思われ、数点の土偶片も出土している(厚真村郷土研究会1956、亀井1956、北海道大学附属図書館HP北方資料データベース)。その後、元厚真村長 亀井喜久太郎氏の熱心な働きかけで昭和27年に八幡一郎氏、30年に大場利夫氏等が来村し、町内の遺跡・遺物を実見している。また、亀井氏は昭和28年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報『郷土研究』で遺物の紹介を行い、昭和31年には『厚真村古代史』を刊行している(厚真村郷土研究会1956)。現在、埋蔵文化財保護の基礎資料である埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「昭和31年7月 厚真村郷土研究会『厚真村古代史』」や「昭和47年12月 厚真町郷土史研究会 踏査」の記載で始まるものが32遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残し、礎となっている。町内で初めての組織的な発掘調査は、昭和37年に厚真村郷土史研究会によって朝日遺跡と共和遺跡で行われた。調査に関する詳細は不明だが、縄文時代晩期初頭の土器片を中心とした出土遺物がコンテナにして5箱分、厚真町教育委員会に保管されている。

b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模な行政発掘「苫東調査」(昭和48年から昭和54年)
昭和48年から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、昭和59年までの12年間で厚真町域にかかるもので新規登載14遺跡、調査着手11遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。調査成果として、昭和51年調査の厚真1遺跡(佐藤他1986)では、この地域で初めてのTピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真1式土器」(赤

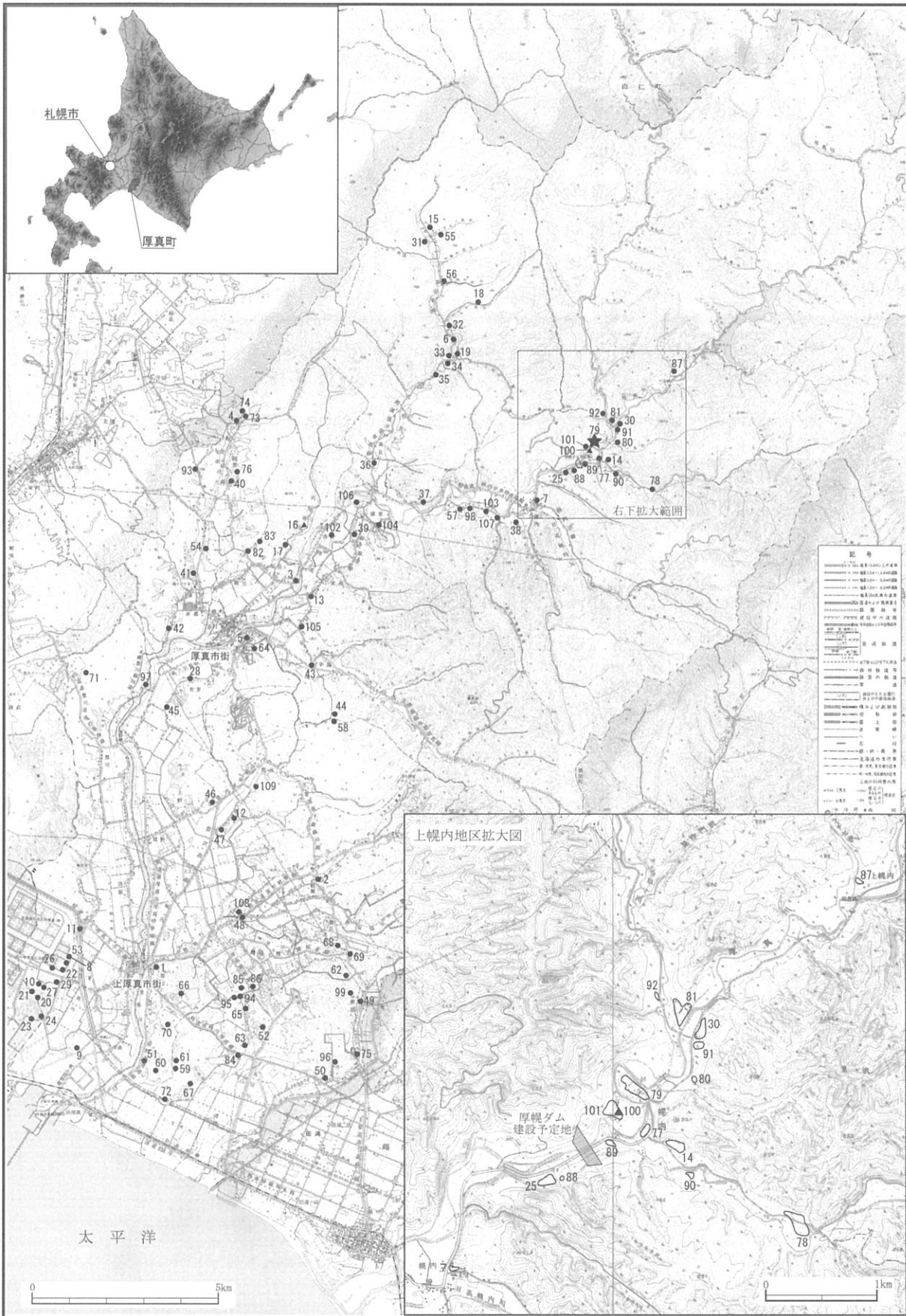


表 I-5 厚真町内遺跡一覧表

掲載番号	種別	名称	時代等	文献等
1	遺物包含地	上厚真遺跡	縄文中～後期・統縄文・擦文	1
2	遺物包含地	軽舞遺跡	縄文中期・統縄文	1. 魚形石器出土?
3	遺物包含地	朝日遺跡	縄文後～晩期・統縄文・擦文、(文献1:振老-近悦府近郊)・晩期土偶	1・2・3. 土偶出土
4	遺物包含地	幌里1遺跡	縄文中・晩期・統縄文(文献1:仁達幌)	1
5	遺物包含地	新町遺跡	縄文中期・統縄文・擦文・アイヌ(文献1:上振内)	1
6	遺物包含地	高丘1遺跡	縄文中期・統縄文	
7	遺物包含地	幌内1遺跡	縄文中期・統縄文(文献1:幌内)	1
8	遺物包含地	共和遺跡	縄文晩期・擦文	1・4
9	遺物包含地	浜厚真遺跡	縄文?	
10	遺物包含地	厚真10遺跡	縄文中・晩期	5
11	遺物包含地	厚真11遺跡	縄文晩期	
12	遺物包含地	豊沢1遺跡	擦文(文献1:当麻内)	1
13	遺物包含地	東和遺跡	縄文中期・統縄文(文献1:東老軽舞)	1
14	集落跡	オニキシベ1遺跡	縄文中～後期・アイヌ期?(旧幌内2遺跡)	1. ダム要発掘
15	遺物包含地	高丘3遺跡	縄文中期	1
16	チャシ跡	桜丘チャシ跡	近世アイヌ期、丘先式	6・7
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	縄文晩期	
18	遺物包含地	高丘2遺跡	縄文?	
19	遺物包含地	高丘10遺跡	縄文?	
20	遺物包含地	厚真1遺跡	縄文中期	5
21	遺物包含地	厚真2遺跡	縄文中期?	5
22	遺物包含地	厚真3遺跡	縄文早・中～晩期・統縄文	8
23	遺物包含地	厚真4遺跡	縄文	
24	遺物包含地	厚真5遺跡	縄文前～晩期・統縄文・擦文	9
25	集落跡	厚幌1遺跡	縄文早～後期・中世アイヌ期	10. 導水路要発掘
26	遺物包含地	厚真7遺跡	縄文早・中～晩期・統縄文・擦文	4
27	遺物包含地	厚真8遺跡	縄文中～晩期	5
28	遺物包含地	美里2遺跡	縄文早・中期・アイヌ期?	
29	遺物包含地	厚真12遺跡	縄文中・晩期・擦文	8
30	遺物包含地	上幌内1遺跡	縄文中期(旧幌内3遺跡)	ダム要発掘
31	遺物包含地	高丘4遺跡	縄文	
32	遺物包含地	高丘5遺跡	縄文?	
33	遺物包含地	高丘6遺跡	縄文?	
34	遺物包含地	高丘7遺跡	縄文?	
35	遺物包含地	高丘8遺跡	縄文?	
36	遺物包含地	高丘9遺跡	統縄文	
37	遺物包含地	富里1遺跡	縄文中～晩期(文献1:楢山)	1. 導水路要発掘
38	遺物包含地	幌内4遺跡	縄文中期?	
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	縄文?	導水路要立会
40	遺物包含地	幌里2遺跡	縄文中期	
41	遺物包含地	本郷1遺跡	縄文中・晩期	
42	遺物包含地	本郷2遺跡	縄文後期	
43	遺物包含地	宇隆1遺跡	縄文・擦文・中世アイヌ期	中世陶器出土
44	遺物包含地	宇隆2遺跡	統縄文	
45	遺物包含地	美里1遺跡	縄文中期(文献1:振内)	1
46	遺物包含地	豊沢2遺跡	擦文	
47	遺物包含地	豊沢3遺跡	統縄文	
48	遺物包含地	鯉沼1遺跡	縄文	1
49	遺物包含地	鹿沼2遺跡	縄文中期	11
50	遺物包含地	鹿沼1遺跡	縄文	11
51	遺物包含地	厚和1遺跡	縄文中期・近世アイヌ期(文献1:周文)	1・2・7
52	遺物包含地	鹿沼3遺跡	縄文中・晩期	
53	遺物包含地	厚真13遺跡	縄文早～中・晩期・統縄文・擦文	12
54	遺物包含地	本郷3遺跡	縄文?	
55	遺物包含地	高丘11遺跡	縄文晩期	
56	遺物包含地	高丘12遺跡	縄文	
57	墳墓	幌内5遺跡	縄文前期・近世アイヌ期	近世アイヌ墓
58	遺物包含地	豊沢4遺跡	縄文早・中～後期	

表I-5 厚真町内遺跡一覧表(続き)

登載番号	種別	名称	時代	文献等
59	遺物包含地	厚和2遺跡	縄文中期	
60	遺物包含地	厚和3遺跡	縄文後期	
61	遺物包含地	厚和4遺跡	縄文中期	
62	遺物包含地	鹿沼4遺跡	縄文	
63	遺物包含地	厚和5遺跡	縄文	
64	遺物包含地	新町2遺跡	縄文中期	
65	遺物包含地	鹿沼5遺跡	縄文後期	
66	遺物包含地	厚和6遺跡	縄文前期	
67	遺物包含地	浜厚真2遺跡	縄文早期	
68	溝穴遺構	鯉沼2遺跡	縄文中期	13
69	遺物包含地	豊丘遺跡	縄文中期	
70	集落跡	厚和7遺跡	縄文後期	
71	集落跡	豊川1遺跡	縄文前・後～晩期	14
72	遺物包含地	浜厚真3遺跡	縄文早・後期、極めて多量のTピット群	15
73	遺物包含地	ニタツポロ沢遺跡	縄文後・晩期	
74	遺物包含地	幌里神社遺跡	縄文早・後期	
75	溝穴遺構	入鹿別沼遺跡	縄文中期?	
76	溝穴遺構	幌里3遺跡	縄文	
77	遺物包含地	オニキシベ2遺跡	縄文中～晩期・続縄文・擦文・中世アイヌ期	ダム要発掘
78	遺物包含地	オニキシベ3遺跡	縄文後期	
79	遺物包含地	上幌内モイ遺跡	旧石器・縄文早・中～後期・続縄文・擦文・中近世アイヌ期	16・17・18. 本報告
80	遺物包含地	一里沢遺跡	縄文前～中期・アイヌ期	6・7・19. ダム要発掘
81	集落跡	シヨロマ1遺跡	縄文前・後期	ダム要発掘
82	遺物包含地	東ニタツポロ1遺跡	縄文中・晩期	
83	遺物包含地	東ニタツポロ2遺跡	縄文中・晩期	
84	遺物包含地	浜厚真4遺跡	縄文中期	
85	溝穴遺構	鯉沼3遺跡	縄文前～後期	20・21
86	溝穴遺構	鯉沼4遺跡	縄文後期	
87	遺物包含地	イクバンドユクチセ遺跡	縄文後期、厚真川最上流域の遺跡	
88	遺物包含地	厚幌2遺跡	縄文前期	導水路要発掘
89	遺物包含地	オニキシベ4遺跡	縄文	ダム要発掘
90	遺物包含地	オニキシベ5遺跡	縄文中期	ダム要発掘
91	溝穴遺構	上幌内2遺跡	縄文・アイヌ期	ダム要発掘
92	遺物包含地	シヨロマ2遺跡	縄文中期	ダム要発掘
93	溝穴遺構	幌里4遺跡	縄文	
94	集落跡	厚和8遺跡	縄文中～後期	
95	遺物包含地	厚和9遺跡	縄文中期	
96	遺物包含地	鹿沼6遺跡	縄文	
97	遺物包含地	豊川2遺跡	続縄文・擦文	
98	遺物包含地	幌内6遺跡	縄文後期	導水路要発掘
99	溝穴遺構	鹿沼7遺跡	縄文早～晩期、前期盛土遺構	
100	チャシ跡	ヲチャラセナイチャシ跡	中世アイヌ期・丘先式	ダム要発掘
101	遺物包含地	ヲチャラセナイ遺跡	縄文早～後期・続縄文・中世アイヌ期	ダム要発掘
102	遺物包含地	吉野1遺跡	縄文中・晩期	
103	遺物包含地	幌内7遺跡	縄文晩期・擦文	導水路要発掘
104	遺物包含地	ニタツポロナイ遺跡	縄文前・晩期	H19導水路発掘
105	遺物包含地	宇隆3遺跡	縄文中期	
106	遺物包含地	富里2遺跡	縄文後・晩期・近世アイヌ期	導水路要発掘
107	遺物包含地	オッコク1遺跡	縄文前～後期・擦文、前期盛土遺構	導水路要発掘
108	遺物包含地	軽舞2遺跡	縄文前期・続縄文	
109	遺物包含地	豊沢5遺跡	縄文後期	導水路要発掘

1:厚真村郷土研究会 1956『厚真村古代史』2:亀井喜久太郎 1957『厚真出土の土偶』『先史時代』3:北海道大学付属図書館HP 北方資料データベース 4:苫小牧市教育委員会 1987『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』II 5:苫小牧市教育委員会 1986『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』I 6:亀井喜久太郎・池田実 1976『厚真の旧地名を尋ねて』7:亀井喜久太郎・池田実 1978『続厚真の旧地名を尋ねて』8:苫小牧市教育委員会 1990『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』III 9:苫小牧市教育委員会 1974『苫小牧東部工業地帯内埋蔵文化財分布調査報告書』10:厚真町教育委員会 2004『厚幌1遺跡』11:鶴川町教育委員会 1977『鶴川町遺跡分布調査報告』12:苫小牧市教育委員会 1992『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』IV 13:厚真町教育委員会 2001『鯉沼2遺跡』14:厚真町教育委員会 2001『豊川1遺跡』15:(財)北海道埋蔵文化財センター 2003『厚真町 浜厚真3遺跡』16:厚真町教育委員会 2006a『上幌内モイ遺跡(1)』17:厚真町教育委員会 2007『上幌内モイ遺跡(2)』18:養島栄紀「松浦武四郎の旅程からみた胆振東部・日高西部の古交通路」『前近代アイヌ民族における交通路の研究(胆振・日高I)』19:松浦武四郎(高倉新一郎校訂・秋葉実解説) 1985『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』中 20:厚真町教育委員会 2005『鯉沼3遺跡』21:厚真町教育委員会 2006b『鯉沼3遺跡(2)』

石 1999) の標識遺跡でもある。厚真 7 遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居址 8 軒の検出と、石狩川中流域で数多く出土する「丸のみ形石斧」も出土している (佐藤他 1987)。また、共和遺跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居址 2 軒が調査されている (佐藤他 1987)。これらの成果は苫小牧市教育委員会により『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』として報告書が刊行されている (佐藤他 1986・1987・1990・1992)。整理・報告後の出土遺物等は平成 13 年度に町教委へ返却・保管されている。

なお、厚真町域における町教委による「埋蔵文化財包蔵地資料整備の一般分布調査」は、昭和 54 年 9 月行われ、52 遺跡の包蔵地カードが作成されている。

c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始 (平成 10 年以降)

近年は火山灰採取などの開発に伴う試掘調査や工事立会調査が増加し、町教委による豊川 1 遺跡 (田才他 2001)、鯉沼 2 遺跡 (西脇他 2001)、鯉沼 3 遺跡 (藤原他 2005・2006b、乾 2008) などの調査が行われた。高規格道路日高自動車道の建設に伴う (財) 北海道埋蔵文化財センターによる浜厚真 3 遺跡の調査では、187 基の T ピットが検出されている (鎌田他 2003)。これらの調査結果では、縄文時代中期後葉以前に T ピットが数多く構築されていることが分かり、周囲には比較的規模の大きい集落跡の存在が想定できる。

平成 12 年には北海道室蘭土木現業所より厚幌ダム建設事業に係る埋蔵文化財保護の事前協議書が提出され所在踏査や試掘調査が開始された。発掘調査は平成 14 年から町教委により継続的に行われ、厚幌 1 遺跡 (乾他 2004)、上幌内モイ遺跡 (乾他 2006a・2007)、オニキシベ 2 遺跡が調査されている。平成 19 年度までの 6 年間の調査面積は約 35,000 m² に及んでいる。

平成 15 年には総延長 24.5km に及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、所在確認踏査や試掘調査が行われている。試掘調査等は未了の箇所があるものの、現在 11 遺跡での要発掘・工事立会調査地点が確認され、平成 19 年度には厚真川中流域富里地区のニタツナイ遺跡で発掘調査を行った。これらの大規模開発に伴う発掘調査は、今後数年にわたり継続して行われる予定である。

(2) 歴史時代

厚真町に係わる最初の記述は、1692 (元禄 5) 年に書かれた「蝦夷記」でシャクシャインの戦いにおいて「於多久具印住處阿津摩ニテ討取ル」というものである (野澤 1692)。厚真中部に位置する桜丘チャシ跡は、壕の上幅 11.8m、深さ 3m で、Ta-b 降下後に構築・使用された可能性がある。その後、寛政年間 (18 世紀末) に八王子千人同心等数名の和人が浜厚真に移り住むが定住することはない。近世アツマ場所の産物としては、干鮭や椎茸、シナ縄が記されているが、詳細な記述はなく、紀行文や測量日誌に交通路であった勇払と鶴川間の厚真川河口周辺の簡単な記述に留まっている。

内陸部まで詳述したものは、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』 (松浦・吉田 1962、松浦・高倉 1985) で、1858 年 (安政 5 年) 6 月に勇払から厚真川河口を経てトンニカ (現富里) にて 2 泊している。この時、町内にはアツマ (厚真川口)、キムンコタン (現厚和・厚和 1 遺跡)、シナイ (現新町・新町遺跡) もしくはケツヘ (現本郷)、トンニカ (現富里)、ニタツナイ (現富里・ニタツナイ遺跡周辺)、ヲフムセナイ (現幌内) の 6 ヲ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいキムンコタンやトンニカコタンでは、アワ、ヒエ、インゲンなどの畑作が盛んで、漆器や刀剣類の宝物が多く、その裕福さに驚いている。しかし、直前に襲った厚真川の氾濫によって、畑地のほとんどが流されていることも記され、かつてより洪水の多い河川であったことが伺える。この他、猟犬としての北海道犬厚真系の活躍も記述している。上流部に関しては聞き取り



図 I-7 遺跡周辺の地形面区分図

による記述で、3 穴の吊耳鉄鍋の残置伝承があるカニシユウ(現幌内・一里沢遺跡)も記述されている。

これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム水没地域内の試掘・発掘調査で確認された厚幌 1 遺跡(乾他 2004)、上幌内 2 遺跡、一里沢遺跡や平成 16～19 年度に調査された上幌内モイ遺跡(乾他 2006・2007・本書)、平成 19 年調査のオニキシベ 2 遺跡、平成 17 年に新規発見されたヲチャラセナイチャシ跡、平成 18 年に厚幌導水路建設事業関連の試掘調査で発見された富里 2 遺跡、平成 19 年調査のニタップナイ遺跡、町公共事業の試掘調査で確認された新町遺跡のほか、厚和 1 遺跡、幌内 5 遺跡では耕作により近世アイヌ墓墳が単独で発見されている。

2. 遺跡の位置と周辺の環境

A 地理的環境

上幌内モイ遺跡の周辺地域を幌内市街地より厚真川上流域で現存する厚真ダムまでの範囲とした。この範囲は行政区画上、厚真町字幌内地番であるが、以後、便宜的に「厚幌地区」と称する。厚幌地区の中で比較的大きな支流であるオニキシベ川、ショロマ川がある。分水嶺を介してオニキシベ川は東方の鶴川水系むかわ町豊田地区へ、ショロマ川は北方の石狩川水系夕張市滝之上地区へのルートが想定される。この他、上幌内モイ遺跡より約 4.3km 上流、厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川も鶴川水系むかわ町穂別地区へのルートとして考えられる。厚幌地区は標高約 150～250m の山地に囲まれ、厚真川が浸食開折した谷状の地形で、“線状”の地域となっており、遺跡群はこれらの流域に形成された河岸段丘上に立地している。

本遺跡は厚真川の河口から約 30km の左岸に所在し、オニキシベ川とショロマ川の合流点の間に位置する。遺跡は南側にある標高約 150m の無名峰から半島状に突出した段丘面 T_4 (標高約 72.5-75m) と T_3 (標高 69m)、段丘面 T_2 (標高約 62m) を中心に形成され、標高約 58m の T_1 には縄文時代の T ピッ

ト群と擦文文化期の包含層が確認されている。遺跡の周辺における厚真川は北東方向からの流路が第三紀の砂岩泥岩を基盤とする半島状に突出した T_4 に阻まれ北西方向へ 90 度に流路を変え、さらに大きく膨らみをもって東方向へ折り返し、S 字状に大きく蛇行している。このため遺跡の立地する河岸段丘は周囲三方向が厚真川に囲まれた舌状に張り出す地形をなしている。このような地形は、アイヌ語で“モイ”と呼ばれていることから遺跡名を付けた。明治 29 年製版の「ライカルマイ」(図 I-9) にも明瞭に記載されており、特徴的な地形と言える。遺物包含層は T_4 (後期更新世) ~ T_1 (完新世) の段丘面に形成され、旧石器包含層は T_3 とされた標高約 69m の段丘面に存在し、対岸のヲチャラセナイ遺跡や上流の一里沢遺跡もこの面にあたる (出穂 2006)。

遺跡の立地環境として、周囲三方向が厚真川により開析されていることから、日照条件も良好で、南の無名峰から地下水が供給され遺跡の南西部の T_2 - T_0 段丘崖には湧水地点も存在している。

なお、本遺跡の北東側対岸にはやや規模の大きい地すべり地形が存在している。遺跡の低位段丘面 T_1 の洪水堆積物から間接的に推定して樽前 c テフラ降下以前に発生したのものと思われる。

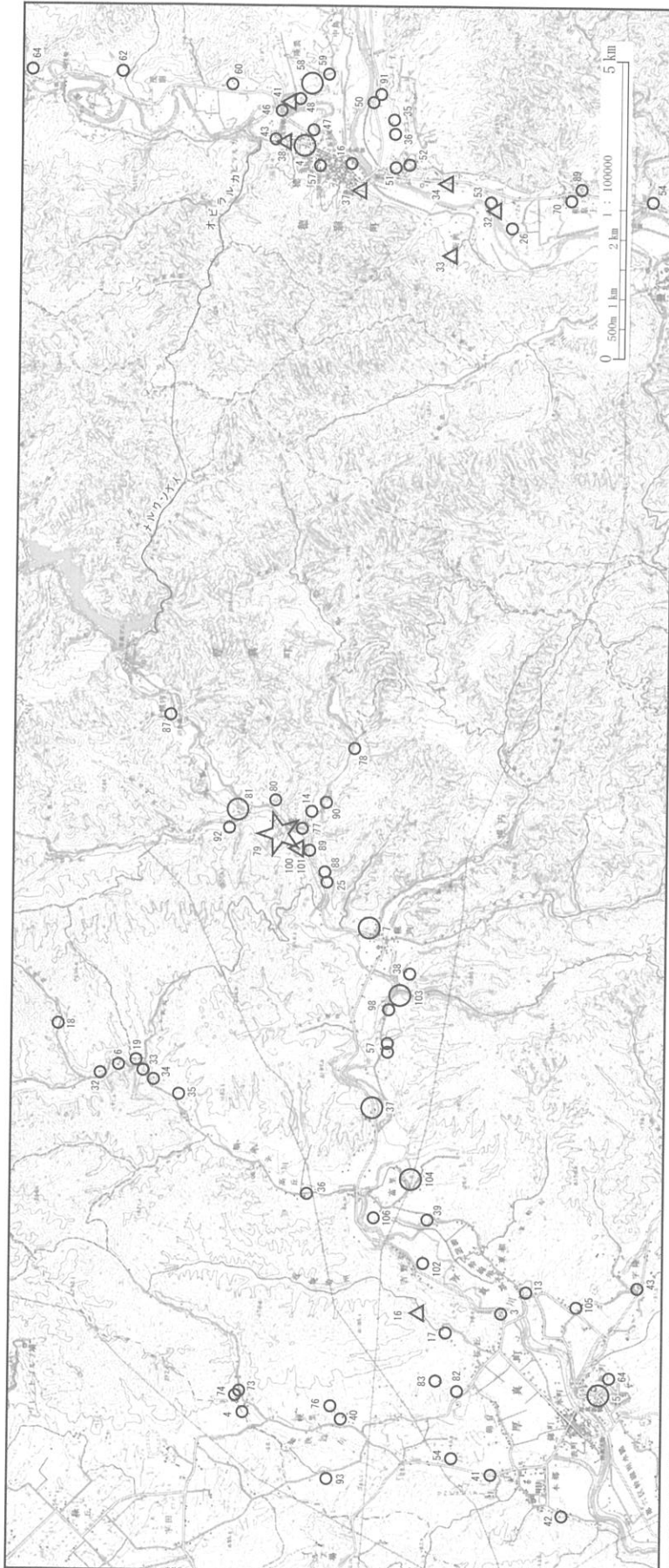
B 歴史的環境

厚幌地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる 15 遺跡が所在する (図 I-6 右下)。最上流のイクバンドユクチセ遺跡 (J-13-87) は河口より約 37km の地点にあるが、地域住民の聞き取り調査から現在の厚真ダム堤体付近にも埋蔵文化財包蔵地が所在していたことがわかっている。遺跡群の時期的な特徴として、縄文時代後期初頭の余市式土器群が各遺跡から出土しており、時期の偏りも見受けられる。比較的規模の大きい遺跡は上幌内モイ・ヲチャラセナイ・シヨロマ 1・オニキシベ 1 遺跡で、試掘調査において住居址などが検出されている。いずれも厚真川本流と規模の大きい支流との合流点に面し、河岸段丘面も比較的広域である。土器型式単位で上幌内モイ遺跡と同時期と考えられる遺跡は、早期の中茶路式で厚幌 1 遺跡のみ、東釧路 IV 式で厚幌 1 遺跡とヲチャラセナイ遺跡の 2 遺跡。中期天神山式期で厚幌 1 遺跡、オニキシベ 2・5 遺跡、シヨロマ 2 遺跡、ヲチャラセナイ遺跡の 5 遺跡。柏木川式で厚幌 1 遺跡、オニキシベ 1 遺跡、シヨロマ 2 遺跡の 3 遺跡。後期初頭余市式期でオニキシベ 1・2・3 遺跡、シヨロマ 1 遺跡、ヲチャラセナイ遺跡、厚幌 1 遺跡、イクバンドユクチセ遺跡の 6 遺跡。続縄文後北 B・C₁ 式期はオニキシベ 2 遺跡とヲチャラセナイ遺跡。擦文文化期後期はオニキシベ 2 遺跡。中近世アイヌ文化期は厚幌 1 遺跡とヲチャラセナイチャシ跡、一里沢遺跡である。発掘調査が行われた遺跡は厚幌 1 遺跡 (乾他 2004) と上幌内モイ遺跡 (乾他 2006・2007)、オニキシベ 2 遺跡 (整理中) のため、厚幌地区における先史時代については未だ不明な点が多く、今後の発掘調査に期待される。

C 松浦武四郎の記録とアイヌ語地名

この地区でのアイヌ文化に係る記録としては、江戸時代末期の 1858 年 (安政 5 年) に厚真を訪れた松浦武四郎の『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』(松浦他 1962、松浦他 1985) が最も古い記録である。ヲチャラセナイやカニシユウ (現一里沢遺跡)、ヲニケレベ (現オニキシベ)、シヨウロマ (現シヨロマ) などが記載されている。このうちカニシユウ (カニ・ス=金属の・鍋、現一里沢遺跡) では、鉄鍋の残地伝承と「其処に木幣を立てて祭り有る也。」とイナウを祀っていたことが聞き取りにより記され、3 穴の吊耳鉄鍋のスケッチも書き残されている (松浦他 1985)。

オニキシベの語源として「入口で・木を・削り・つけている・もの」とあり、「シナの木 (オヒョウニレ) より樹皮を剥き採る場所」を意味するという (厚真村 1956)。ヲチャラセナイチャシ跡の



厚真町埋蔵文化財包蔵地

No.	遺跡名	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	25	54	57	64	73	74	76	77	78	79	80	81	82	83	87	57	64	73	74	76	77	78	79	80	81	82	83	87	88	89	90	92	93	98	100	101	102	103	104	105	106
3	朝日遺跡	高丘5遺跡	高丘6遺跡	高丘7遺跡	高丘8遺跡	高丘9遺跡	富里1遺跡	東和遺跡	オニキシベ1遺跡	桜丘チャシ跡	桜丘1遺跡	高丘2遺跡	高丘10遺跡	厚幌1遺跡	幌内5遺跡	新町2遺跡	ニタツポロ沢遺跡	幌里神社遺跡	幌里3遺跡	オニキシベ2遺跡	オニキシベ3遺跡	チコマナイ遺跡	幌里2遺跡	本郷1遺跡	本郷2遺跡	宇隆1遺跡	本郷3遺跡	幌内5遺跡	新町2遺跡	ニタツポロ沢遺跡	幌里神社遺跡	幌里3遺跡	オニキシベ2遺跡	オニキシベ3遺跡	チコマナイ遺跡	幌里2遺跡	本郷1遺跡	本郷2遺跡	宇隆1遺跡	本郷3遺跡	厚幌2遺跡	オニキシベ4遺跡	オニキシベ5遺跡	シヨロマ2遺跡	幌里4遺跡	フチャラセナイ遺跡	フチャラセナイ遺跡	吉野1遺跡	幌内7遺跡	ニタツポロナイ遺跡	宇隆3遺跡	富里2遺跡		

むかわ町埋蔵文化財包蔵地

No.	遺跡名	48	50	51	52	53	54	57	58	59	60	62	64	43	46	47
4	穂別D遺跡	穂別C遺跡	穂別E遺跡	穂別F遺跡	穂別G遺跡	穂別H遺跡	和泉2遺跡	穂別2遺跡	隆農1遺跡	隆農3遺跡	茂別遺跡	旧柏台遺跡	キウス2遺跡	穂別5遺跡	穂別A遺跡	穂別B遺跡

図1-8 厚真川上中流域とむかわ町穂別地区遺跡分布図

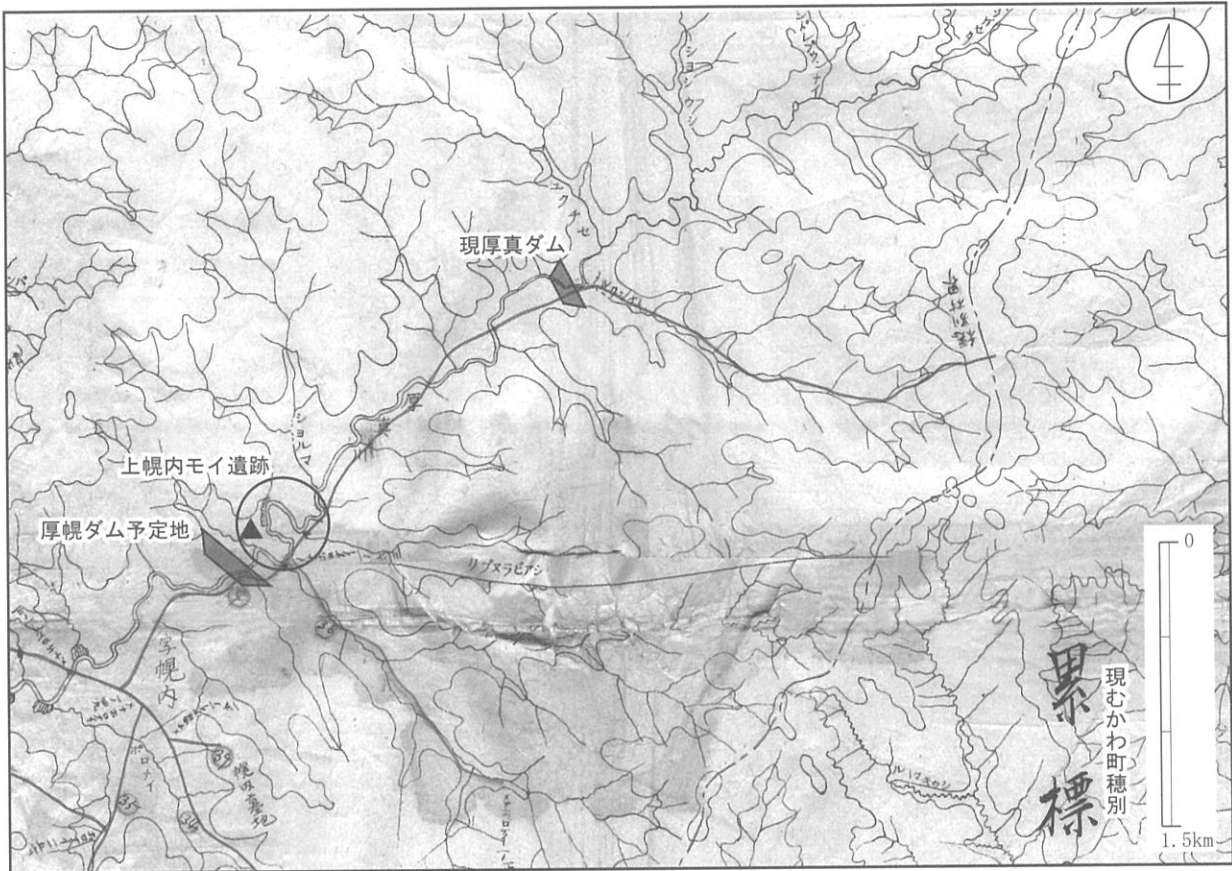


図 I-9 厚真村村道計画図 (大正9年頃作成。厚真町役場建設課土木グループ所蔵)
 (明治29年製版 5万分の1「ライカルマイ」・「累標」を合成・加筆したものを125%拡大)

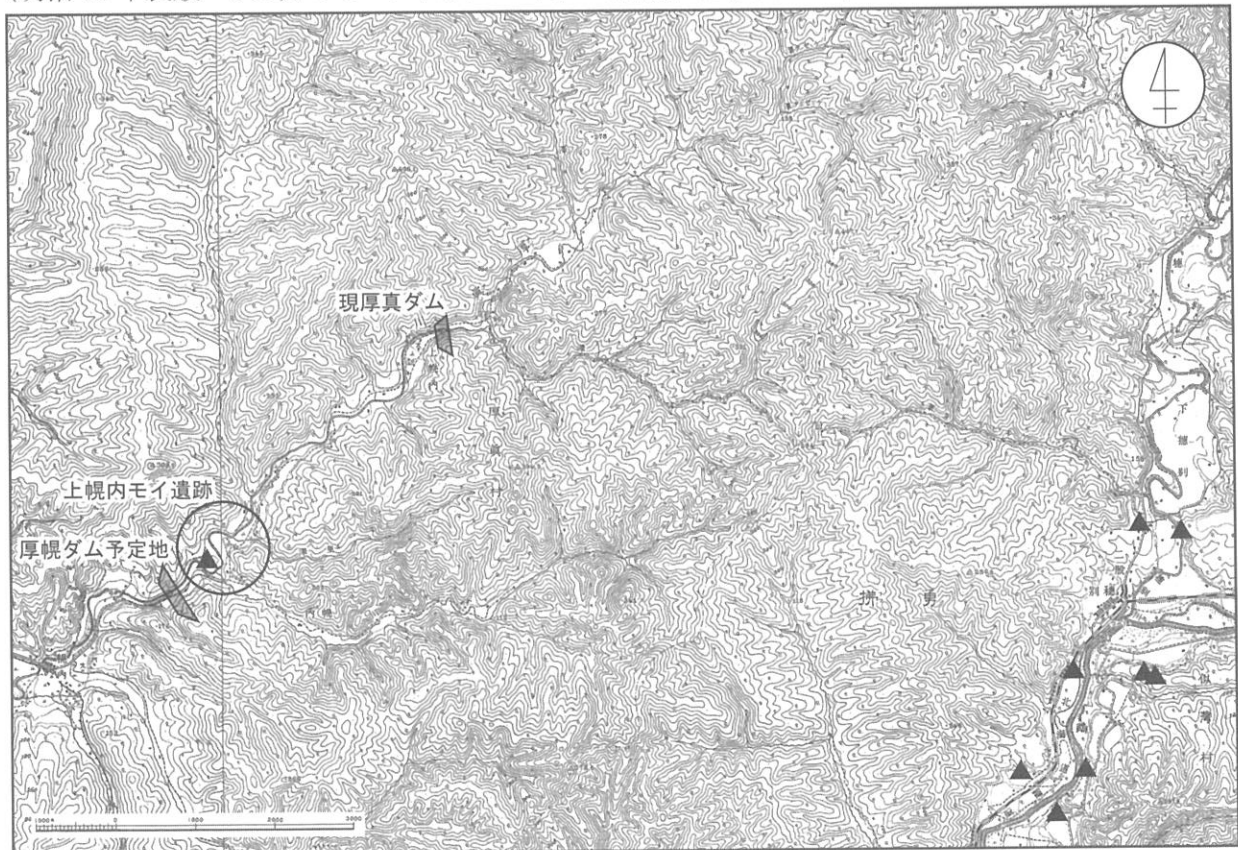


図 I-10 厚真～穂別ルート図 (昭和5年発行 5万分の1「早来」・「穂別」を合成 50%縮小)

存在から、一里沢遺跡の伝承や本遺跡の調査成果と合わせイナウのことを指す可能性もあり、古来より聖地的な場所であった可能性も指摘されている（養島 2005）。

この他、大正年間に作成された「厚真村村道計画路線図」（図 I-9）には厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川よりむかわ町穂別市街の北側へ続く計画路線が記されている。大正 5 年測図の地形図にはこのルートに幅 1m 以下の道も記載されている（図 I-10）。厚真側のメルクンナイの語源は「水路をもつ沢」（厚真村 1956）とされ、筆者の踏査では沢水の流れの中を歩いていくルートであったことから名づけられた地名と思われる。また、分水嶺を越えて鶴川水系穂別地区はパンケオビラルカ沢で、パンケオビラルカは「川下の・川尻が・崖・路・の上」と解されている（扇谷 2003）。分水嶺は地形図から読み取っても周辺地域で最も低平な部分でもあり、厚真川水系、鶴川水系に「ル」（路）の付く地名がセットとなっていることから、古来より利用されている山越えのルートと思われる。現在は室蘭開発建設部苫小牧道路事務所により早来—平取間を結ぶ「道道北進平取線」の敷設工事が進められ、分水嶺には「オビラルカトンネル」（未開通）が建設されている。なお、パンケオビラルカは穂別川のさらに上流に位置するむかわ町穂別稲里地区に所在し、厚真ダムから稲里へ抜ける「炭鉱厚真川林道」と「中穂別林道」で結ばれている。さらに、厚幌地区内のショロマ（現ショロマ川）も厚真村史では「草ソテツの群生するところ」とあるが、ソ（滝）・ル（路）・マ（泳ぎ渡る）とも読み取れる。明治 29 年発行の地形図には「ショルマ」と記載されており、かつては滝瀬の中を道として馬車で木材や木炭を運び出したこと、明治・大正期の夕張山地への熊狩の記録（厚真村史 1956）から、夕張川水系滝ノ上地区於兎牛（おそうし）へのルートが想定される。現在は「厚真川林道」で通り抜ける事が可能である。

これらのルートは厚真川本流とオニキシベ川との合流点付近で 1 本となり、対岸に位置するヲチャラセナイチャシ跡は早来方面と穂別方面、夕張方面への全てのルートが把握できる地点でもある。先述のオニキシベの語源「入口で」とはこれらの山越えのルートを指し、ヒトやモノの流れにおいて厚幌地区が重要な位置にあったことも容易に想定される。

3. 調査区内の地形と地質

平成 16～19 年度に発掘調査が終了した標高約 70 - 75m の T_4 、標高約 68m の T_3 、標高約 62m の T_2 、平成 18・19 年度の調査区域に標高約 58m の T_1 がある（図 I-2・11）。これらの段丘面全面には $Ta-b$ (1667 年降下) が堆積しており、近世以前に離水形成された河岸段丘面である。発掘調査範囲である T_1 - T_4 の微地形については、 $Ta-b$ 火山灰除去後に作成した III 層上面の地形測量図（図 I-11）を参考に高位段丘面 T_4 から解説する。

T_4 ：調査区の東側に位置している。遺跡内で最も高位にあり、南北に細長い尾根状となっている。南端が標高約 75m と一番高く北側へ緩やかに傾斜している。西側の段丘崖は最大仰角が約 40° ある。段丘北側の標高約 71 - 73m は等高線幅も広く、平坦面が形成されている。調査区東側は河川までの比高差が約 19m ある浸食崖であるが、遺物の出土状態などから本来は東に広がっていたと思われる。遺跡周辺の基盤層は地質図幅説明書「早来」（松野・石田 1960）によると「振老層」と称される新第三紀の砂岩泥岩の互層堆積物である。 T_4 の基盤層は泥岩層の層理が発達し、東側の浸食崖で観察することができる。上層には第四紀堆積物である、河岸段丘堆積物、更新世末から現代までの火山活動によって降下した恵庭岳・樽前山などの火山噴出物、黒色腐植土層が堆積している。 $En-a$ テフラ（層厚未計測）は T_4 の一部に確認されているが上部を水成堆積物によって切られている（早田 2006）。

Ta-d は河岸段丘堆積物を被覆し、約 1m 堆積している。黒色腐植土層は Ta-b と Ta-d テフラの間に 2 層が堆積するが、T₂ に比べて発達していない。

T₃ : T₄ の段丘面北西側に形成されている。調査区内でもっとも狭い段丘面である。標高 68m 付近で等高線の幅が広がり、僅かに平坦面を形成している。南側は T₄-T₂ と一連の段丘崖によって急な傾斜が続く。Ta-d テフラの下層には厚真町内で唯一の後期旧石器遺物包含層 (IXc 層) が確認されている。IXc 層より上面は III 層上面に比べ標高 65.3m~65.7m と、ほぼ水平な地形であった。IXc 下層には En-a 軽石を含む氾濫原堆積物があり、上層には斜面堆積物が被覆していた。Ta-d テフラは斜面堆積物を水平に被覆しており、西側段丘崖に向って層厚が減少している。黒色腐植土は T₄ の斜面から T₃ の平坦面にかけて発達している。

T₂ : 調査区の中で面積が最も広い T₂ は本遺跡の主体となる面で、縄文時代・続縄文時代・擦文文化期・アイヌ文化期の遺構・遺物が多数出土している。標高が約 62m で等高線の幅が広く北東 - 南西方向に緩やかな傾斜をもつ地形である。微地形は 21 ライン付近から東西でやや様相が異なり、東側を T₂A、西側を T₂B とする。

T₂A は T₄ の半島状の地形により上流側からの厚真川の影響が弱く、上流側から下流側へ僅かに傾斜する安定的な等高線を示している。これに対し T₂B は北東 - 南西方向の沢状地形が発達している。特に T₂ の北西の段丘先端部側の H-23 区から O-36 区にかけてはより顕著に形成されており、縄文時代の土地利用においても意識され、北筒式期の遺物分布状態において明瞭に区別できる (乾他 2006)。沢状地形は上流側から下流側へいくにつれ不明瞭となる特徴があり、段丘形成時の厚真川の離水状況を示した地形である。沢状地形内は Vb 層が約 40cm と厚く堆積しており、IIIc 層上位はやや明るい色調で粘性を有する。

また、T₂ の全域にわたり、沖積世河岸段丘堆積物である Ta-d 主体の再堆積層が発達し、その下層にフォールユニットの Ta-d テフラが堆積している。再堆積層は T₂A で 50~70cm、T₂B では T ピット壁面においても約 1m 以上の厚さである。Ta-d 主体の再堆積層は河川活動による流路、流速の影響で礫、砂、Ta-d1・2L を含む量に相違がみられ、沢状地形の発達する T₂B では砂層との互層堆積も発達している。T₂ の微地形と堆積状態の詳細な分析は紙数および時間上の都合から割愛するが、約 8,000 年前の Ta-d 降下直後の段丘面形成過程やこの地域における当時の気候変動、火山噴火に関わる河川も含めた災害史を検討するうえで、良好な資料といえる。

上層には Ta-c を挟在する黒色腐植土、V 層 (平均層厚 40cm) と III 層 (平均層厚 20cm) の 2 層が堆積し、縄文時代以降の遺構・遺物が出土している。V 層黒色土の堆積開始とともに段丘面の安定化が進み、人的活動が始まったものと思われる。より上層には耕作等の攪乱を免れた範囲で近世の火山噴出物である Ta-b、Ko-c₂、Ta-a テフラが堆積している。

T₂-T₁ : 比高差約 4m の段丘崖で、堆積状況は段丘崖裾において V 層黒色腐植土が厚く堆積し、基盤浸食崖を被覆し、仰角約 27° から V 層上面の仰角約 20° への緩い斜面を形成している。段丘崖堆積の特徴として、厚真川の浸食離水状況および崩落状況を示すと思われる階段状の堆積が認められる (図 I-16 上段左側)。

T₁ : 調査区の西側に位置し、標高は約 58m で遺跡内において最も低位の段丘面にあたる。基盤層に Ta-d テフラが堆積していないことから、Ta-d 降下後に形成された段丘面である。現代の水田造成により削平されているが、現河川下流方向に緩やかな傾斜をもち T₂ と同様な段丘面要素をもつ。

この面も上流側 A-44 区付近から下流側 I-46 区付近を結ぶ東西で大きく 2 面に分けることができ、縄文時代晩期中葉に降下した Ta-c の堆積で差異が認められる。東側の T₁B ではフォールユニットの Ta-c が堆積し、西側の T₁A では Ta-c が水成二次堆積層であった。また、この面の特徴として、V 層上位にイベント的に発生した洪水堆積物が認められる。この堆積物は遺跡対岸の地すべり地形に起因するものと考えられ、厚真川を堰き止める「土砂ダム」ないしは、一時的に流路が変化した時のものと思われる。層位より縄文時代中期末葉から後期にかけての可能性があり、厚幌 1 遺跡の地すべり堆積物と同時期の所産と思われる。厚幌 1 遺跡では年代測定の結果、約 4,000 年前と想定され、「地すべりの発生時期と馬追断層の最新活動期が重なることは注目される。」(田近他 2004)

T₁B では V 層 T₂-T₁ 段丘崖裾の地形面変換部分は段丘崖に並行する帯状の低地となっており、小規模な旧河道跡とこれに並行する自然堤防の安定した微高地で構成されている。微高地は水田造成時の削平により本来の地形を留めていない。旧河道跡からは T ピット 39 基が等高線に直行する長軸方向で密集して検出されている (図 V-2)。堆積状態は、V 層上位に厚真川対岸の地すべりに起因する灰黄褐色の砂質～粘土質シルトの洪水堆積物が認められる。平成 19 年度のトレンチでは堆積過程は不明だが、T₂-T₁ 段丘崖の中位まで堆積している。なお、T ピット群はこの堆積物を被覆している。

T₁A では標高 57m で平坦面形成し、沢状地形が発達し段丘形成時の離水状況を顕著に表す地形となっている。完全な離水時期は Ta-c 降灰直後と思われ、III 層から安定的な堆積が開始される。Ta-c は全て二次堆積層で、V 層の堆積も薄く、極短期間の安定した時期に限られる。堆積状態から、T₁A-T₁B の小規模な段丘崖裾より 7m 以西の V 層は調査対象外とした (図 I-4)。

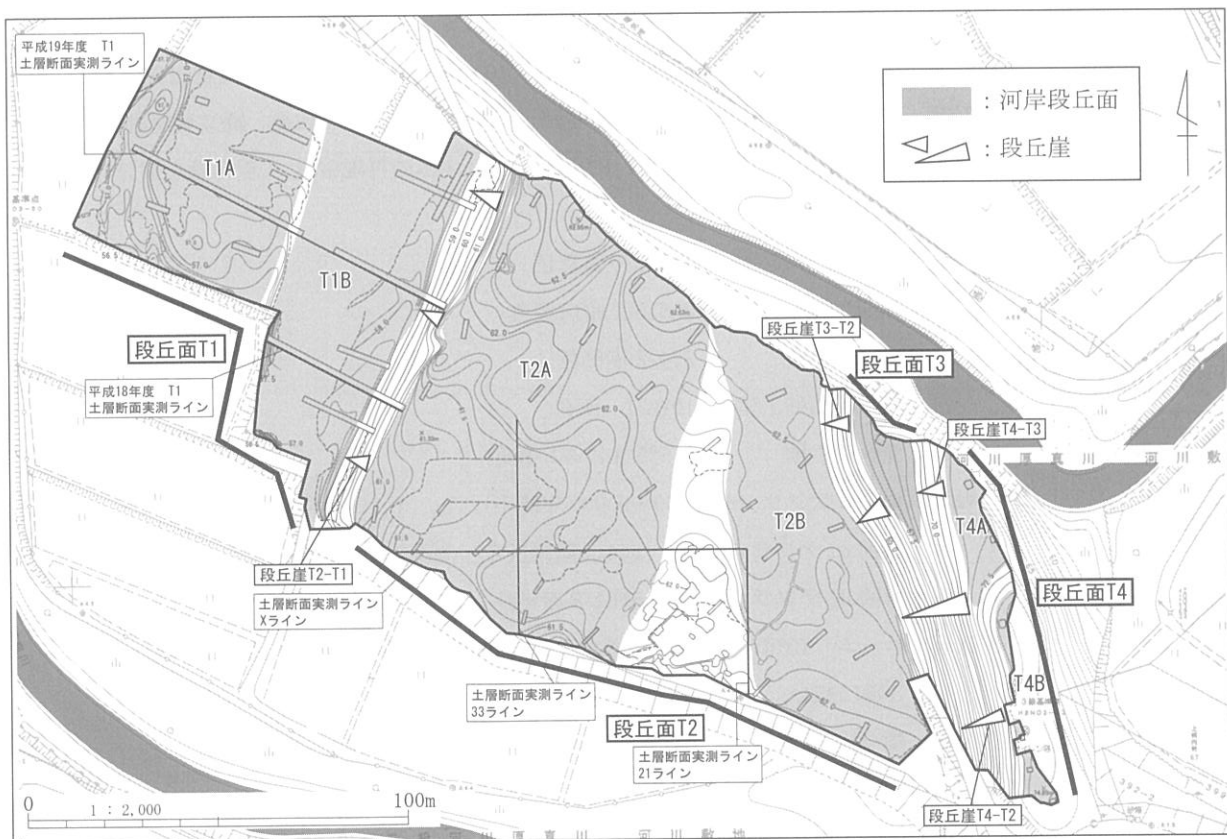
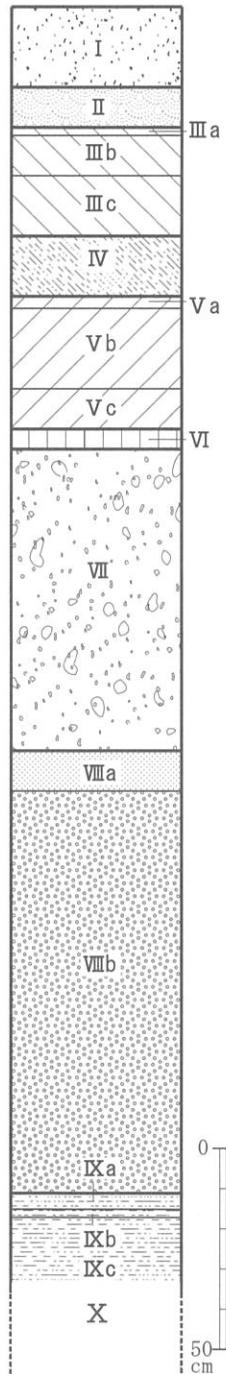


図 I-11 調査区内地形区分図および包含層堆積図実測ライン

〔基本土層〕



0層：攪乱・耕作土

I層：表土 7.5YR2/1 黒色

II層：近世火山噴出物

a ; 樽前 a テフラ (Ta-a) 10YR6/4 にぶい黄橙色 1739 年降下。

耕作により部分的に堆積。

b ; 駒ヶ岳 c₂ テフラ (Ko-c₂) 10YR8/3 浅黄橙色 1694 年降下。部分的に堆積。

c ; 樽前 b テフラ (Ta-b) 2.5Y7/3 浅黄色 1667 年降下。層厚 15cm 前後。

III層：黒色腐植土

a ; 砂質シルト 7.5YR2/1 黒色 II c 層を斑状に含む。層厚 1cm 前後。やや赤み有り。近世初頭遺物包含層。

b ; シルト 7.5YR1.7/1 黒色 やや粘性あり。層厚 5 cm 前後。上位から中位が中近世アイヌ文化期遺物包含層。下位が擦文文化期包含層。III b 層と III c 層との層境に白頭山苦小牧火山灰 (10c 前半～中頃) が部分的に堆積する。

c ; 砂質シルト 10YR2/2 黒褐色 層厚 10cm 前後。続縄文～縄文晩期後葉の包含層。

IV層：樽前 c テフラ (Ta-c) 10YR6/6 明黄褐色 BP2, 500～3, 000 年降下。層厚 10cm 前後。

V層：黒色腐植土

a ; シルト 10YR3/2 黒褐色 層厚 3 cm 前後。縄文晩期遺物包含層。

b ; シルト 10YR1.7/1 黒色 層厚 0～30cm。段丘崖裾では約 80cm、沢状地形では約 40cm 堆積。T₁、T₄では未発達。縄文中・後期遺物包含層。

c ; シルト 10YR2/2 黒褐色 層厚 10cm 前後。縄文前・中期遺物包含層。

VI層：漸移層 2.5Y4/6 褐色 暗褐色シルト。層厚 5 cm 前後。縄文早期遺物包含層。

VII層：沖積世河岸段丘堆積物。T₂に発達。Ta-d 主体の再堆積層。亜角礫を部分的に多量に含む。

a ; Ta-d ローム主体 10YR5/6 黄褐色

b ; Ta-d1 主体 2.5Y5/2 暗灰黄色

c ; Ta-d2 主体 5Y4/8 赤褐色

d ; 段丘堆積砂主体 10Y6/1 灰色

e ; 亜角礫主体 2.5Y6/4 にぶい橙色

VIII層：樽前 d テフラ (BP8, 000～9, 000 年降下)。T₀、T₁には堆積していない。

a ; 樽前 d1 テフラ (Ta-d1) 5G4/1 暗緑灰色 層厚 10cm 前後。

b ; 樽前 d2 テフラ (Ta-d2) 5YR4/8 赤褐色 層厚 100cm 前後。

IX層：ローム 10YR7/3 にぶい黄橙色 T₃に堆積。後期旧石器時代遺物包含層。3層に細分。

X層：礫・砂～シルト 2.5Y5/2 暗灰黄色 En-a 軽石を含む氾濫堆積物。

T₃、T₄に堆積。

XI層：恵庭 a テフラ 黄白色 T₄の一部に確認される。

図 I-12 段丘面 T₂ 基本土層柱状図

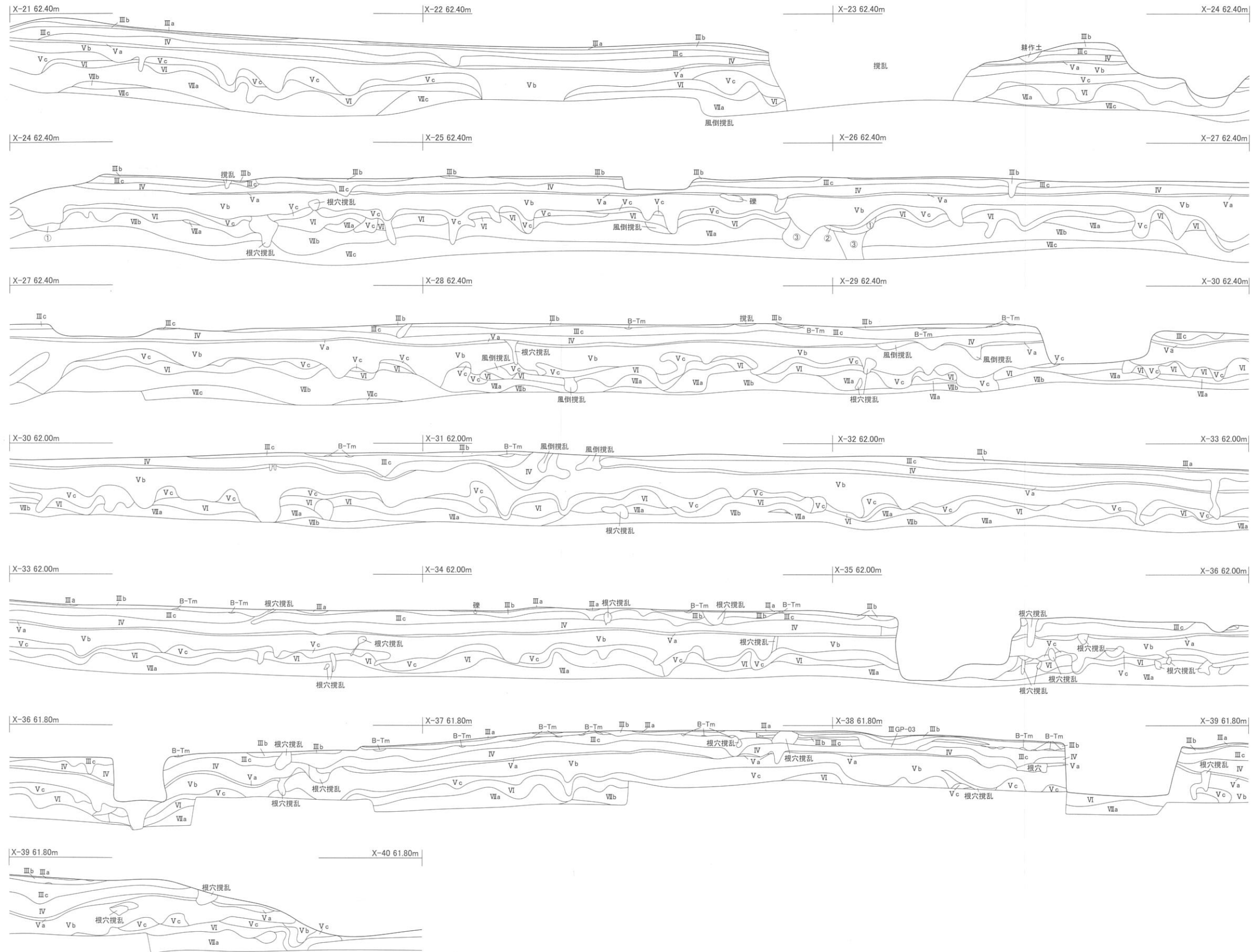


図 I-13 Xライン土層断面図

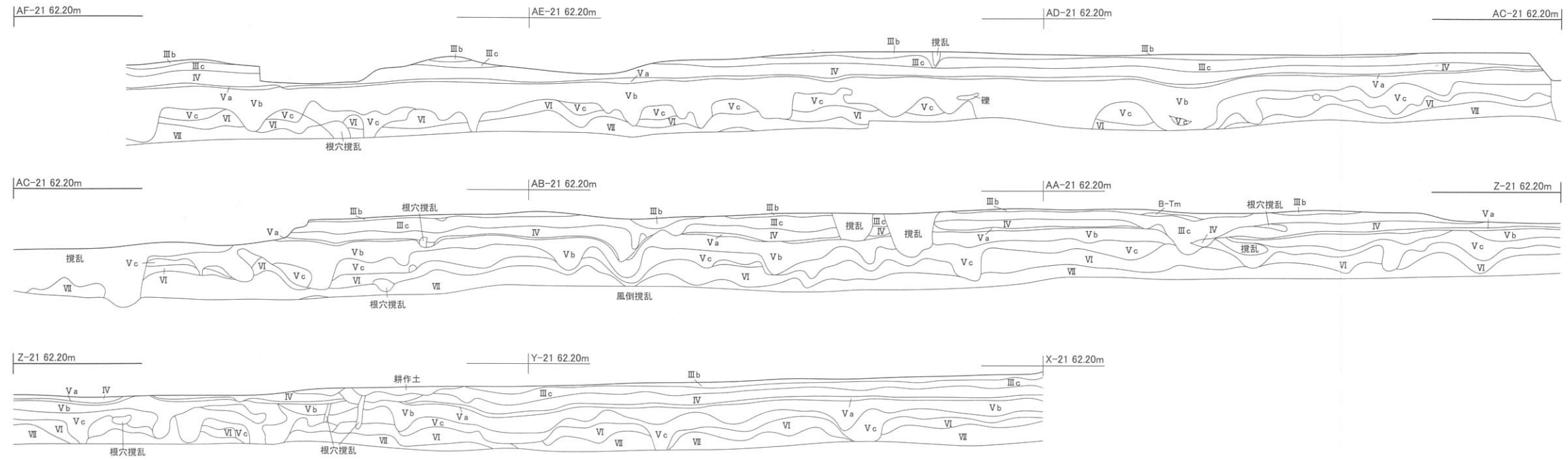


図 I-14 21 ライン土層断面図

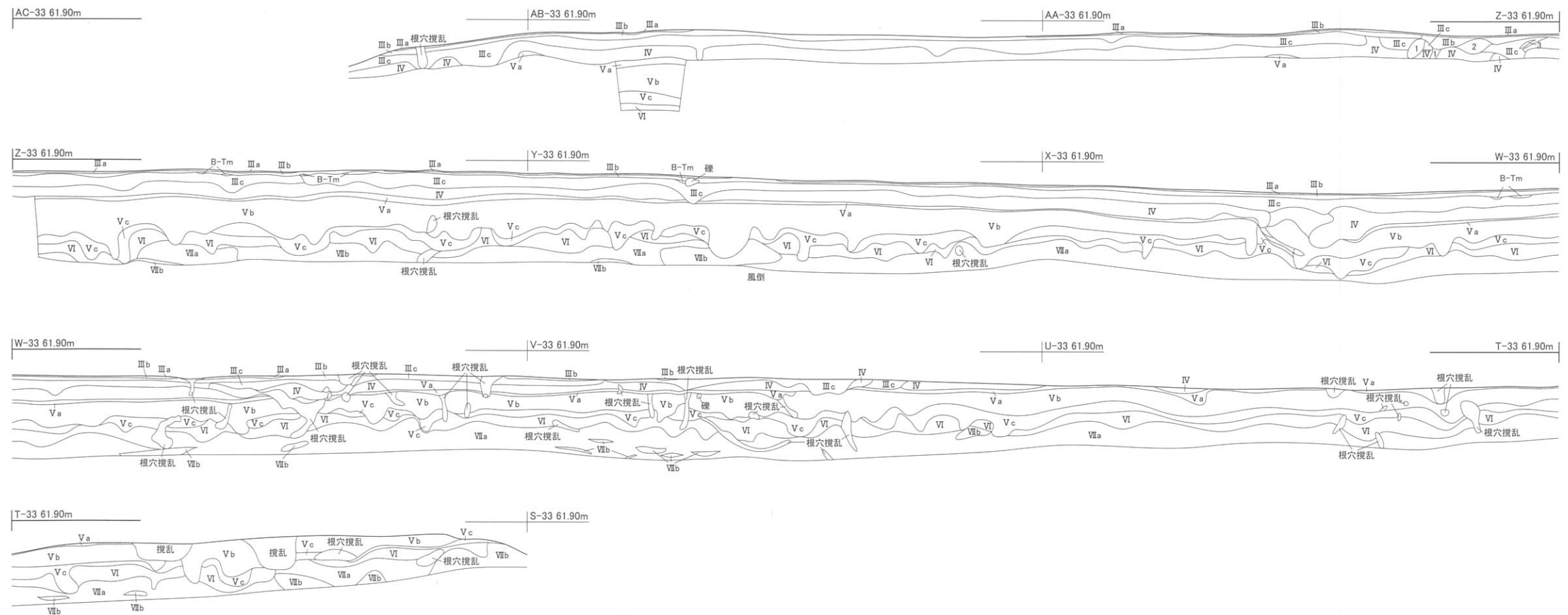


図 I-15 33 ライン土層断面図

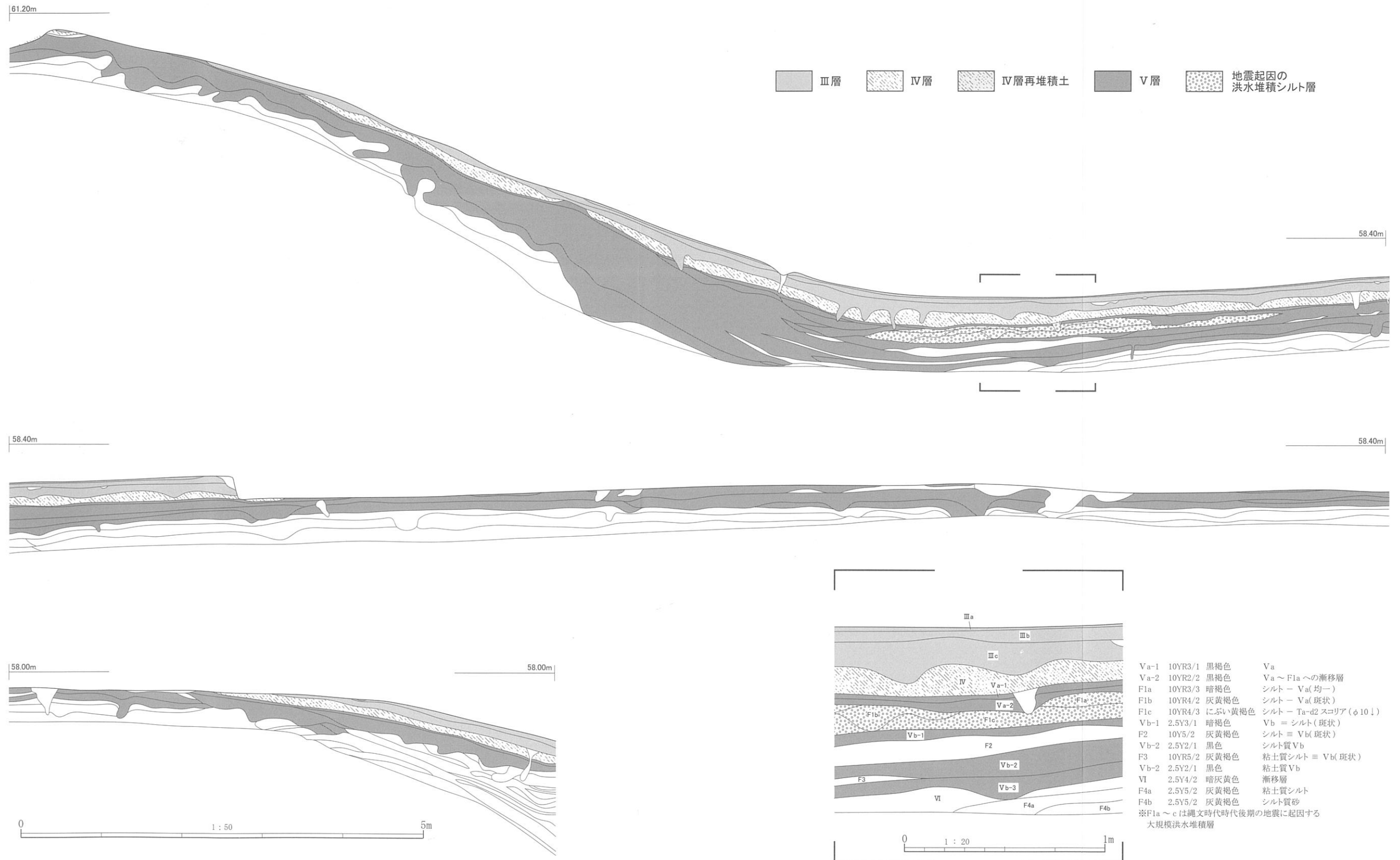


図 I-16 平成 18 年度調査区 段丘面 T₁ 土層断面図

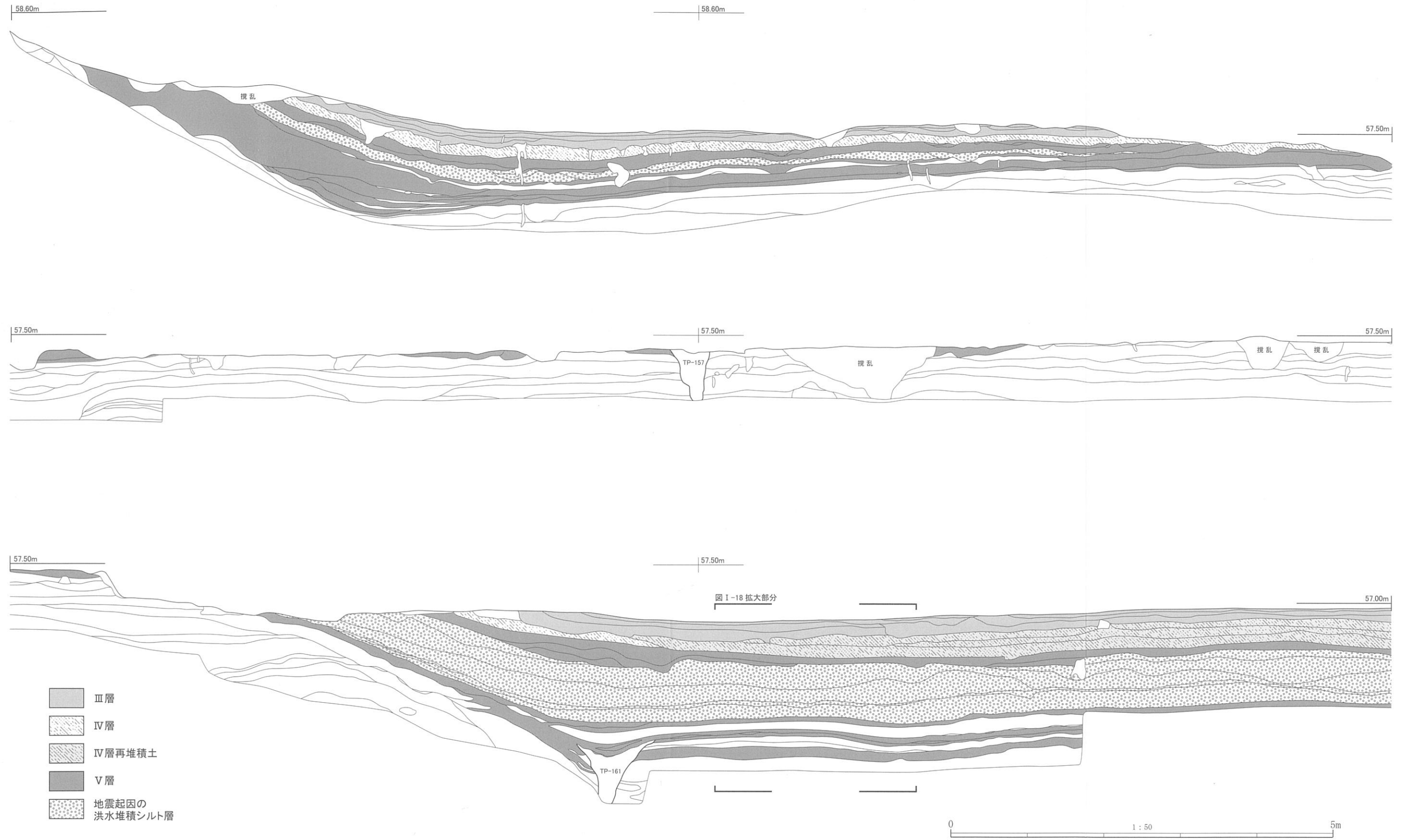
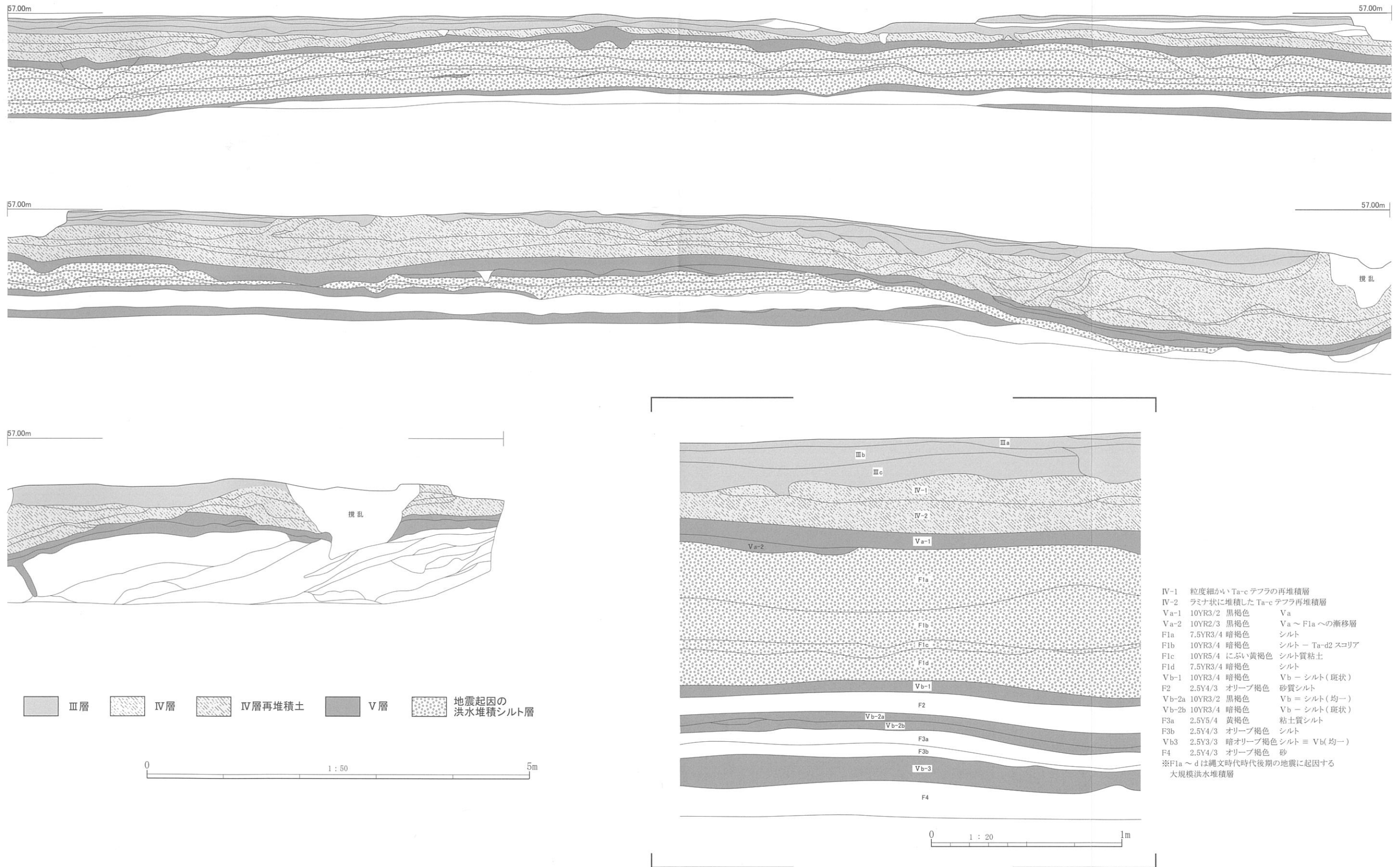


図 I -17 平成 19 年度調査区 段丘面T₁土層断面図(1)



- IV-1 粒度細かい Ta-c テフラの再堆積層
 - IV-2 ラミナ状に堆積した Ta-c テフラ再堆積層
 - Va-1 10YR3/2 黒褐色 Va
 - Va-2 10YR2/3 黒褐色 Va ~ F1a への漸移層
 - F1a 7.5YR3/4 暗褐色 シルト
 - F1b 10YR3/4 暗褐色 シルト - Ta-d2 スコア
 - F1c 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト質粘土
 - F1d 7.5YR3/4 暗褐色 シルト
 - Vb-1 10YR3/4 暗褐色 Vb - シルト (斑状)
 - F2 2.5Y4/3 オリーブ褐色 砂質シルト
 - Vb-2a 10YR3/2 黒褐色 Vb = シルト (均一)
 - Vb-2b 10YR3/4 暗褐色 Vb - シルト (斑状)
 - F3a 2.5Y5/4 黄褐色 粘土質シルト
 - F3b 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト
 - Vb3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 シルト ≡ Vb (均一)
 - F4 2.5Y4/3 オリーブ褐色 砂
- ※F1a ~ d は縄文時代後期の地震に起因する
大規模洪水堆積層

図 I-18 平成 19 年度調査区 段丘面 T₁ 土層断面図 (2)

第II章 アイヌ文化期の調査

上幌内モイ遺跡の平成18・19年度におけるアイヌ文化期の調査では、主な遺構として平地式住居址3軒、土壙墓1基、集中区4ヵ所、シカの獣骨集中2ヵ所等を検出している。これらは、平成16・17年度調査分と同様、擦文文化期終焉後から樽前bテフラ降下以前の年代幅をもつ遺構群である。ただし過年度と比べ遺構・遺物の密度は相対的に低くなっている。調査にあたっては遺構・遺物の検出層位確認を重視し、アイヌ文化期における時期差の把握に努めた。

表II-1 アイヌ文化期 遺構群一覧表

遺構名	規模 (cm)	主体部		グリッド	層位	長軸 方向	付属遺構			関連遺構	備考
		付属施設	長軸				短軸	焼土等	礫集中		
IIIH-08	405		365	S・T-21・22	IIIbU	N-95° E	III F-144	III SB- 26・34	-	建物跡6・7 III AS-13	掲載のIII H中、最も新しい
	-	-									
IIIH-09	615		510	Y・Z-16~18	IIIbM	N-57° E	III F-243・244	III SB- 27・32・63	III BB-56	III AS-11・12 III BB-52	古い段階の住居址
	-	-									
IIIH-10	830		-	AD・AE- 14~16	IIIbM	N-47° E	III F-160・161	III SB-31	III BB-16	III AS-14	最も古い住居址
	-	-									
集中区20	950		850	AF・AG- 16~18	IIIbM	-	III F- 157~159	III SB-28	-	-	金錯出土
集中区21	1,900		1,450	E~H- 34~36	IIIbM	-	III AS-10	-	-	III H-02	
集中区22	2,350		1,250	S・T-27~31	IIIbM	-	III F-191 III AS-08	-	-	III H-06	骨鏃出土
集中区23	1,000		500	Z・AA-30・31	IIIbM	-	III F-154	III SB-25	-	-	
集中区24	1,200		1,150	V・W-21・22	IIIbU	-	III F-145・148 III AS-07・09	-	-	-	

第1節 平地式住居址と関連遺構

8号平地式住居址周辺の概況

8号平地式住居址はT₂の東側、平成16年度に調査した1号平地式住居址の北西に位置する。1号と同様、住居址長軸が東西を向き、付属炉の検出もIIIbUであることから、同時期の住居址と考えられる。このことは第VII章1節の年代測定結果からも追認できる。住居址西側では灰集中(IIIAS-13)の他、建物跡6・7の2基を検出している。灰集中はIIIbUで形成されていることや、検出位置を考慮すると、8号平地式住居址と関連する遺構である可能性が高いため、ここで合わせて記載する。

8号平地式住居址〔IIIH-08〕 (図II-4~5 図版5-1~9)

位置：S・T-21・22区 規模：405×365 cm

長軸方向：N-95° E 付属遺構：炉跡 III F-144 礫集中 III SB-26, 34

確認・調査(図II-4)：重機による火山灰除去の際、T-22区のIIIa層中に斑状に分布する灰を確認した。下位に灰集中が形成されていることを想定し、土層堆積状態観察のためのベルトを灰の広がりに合わせて設定した。IIIa層の掘削を進めたところ、東西に長い灰集中を検出したことからIII F-144として設定した。土壌サンプルを採取しながら灰層を半截した結果、下位に焼土が形成されていることを確認した。また周囲で棒状礫の集中(III SB-26・34)も検出したことから、平地式住居址に伴う炉跡の可能性が高いと判断し、住居址としての調査に切り替えた。床面と想定される付属炉と同一

面の遺物出土状態について実測・撮影を行い、取り上げを行った後、付属炉周辺のみ台状に残し、周囲をⅢcUからⅣ層まで掘削し、柱穴確認作業を進めた。主体部を構成する柱穴列は確認が難しかったが、北西、南東隅を除き検出することができた。柱穴断面の記録後、完掘状態の撮影を行い調査を終了した。

付属炉(図Ⅱ-4)：住居址主体部中央にⅢF-144を検出した。厚さ6cmの灰層はⅢa層を被覆し、灰層下位にⅢb層上面から僅かに窪む焼土面が形成されていた。灰層と焼土面との層境が明瞭であったことから、灰の掻き出しが行われていた可能性が高い。

柱穴(図Ⅱ-4)：検出した柱穴は、10本で、内9本が主体部を構成している。いずれも打込みによってほぼ垂直に立てられている。「前小屋(セム)」の柱穴列は確認できなかったが、主体部より西側に外れた位置で柱穴を1本検出している(ⅢKP-127)。

遺物出土状態(図Ⅱ-4)：ⅢSB-26を含む床面遺物の分布は、入り口側と思われる西側に偏っている。東側では付属炉に隣接して小規模な礫集中であるⅢSB-34を検出した。ⅢSB-26では礫の合間から針(3)が、ⅢSB-26と付属炉の間では棒状鉄片(4~6)、板状鉄片(7・8)が出土している。付属炉の灰層中からは半分欠損した土玉片(1)が出土した他、灰の土壌サンプルをフローテーションにかけてたところ、被熱した中柄片(10)や、剥片状鉄滓(図版97-1-11)を数点回収できた。

出土遺物(図Ⅱ-5)：1は付属炉灰層中より出土した土玉片で、欠損しており半分のみが出土した。穿孔部の径は約2mmである。2はたたき石で、縦長の扁平礫を素材とし、表裏両面に敲打痕が認められる。表面には刀子状の刃物で入れられたかに見える溝状の刻みも認められ、敲打痕形成以前に複数の刻みが一定方向に入れられている。また鉄錆の付着と円形の被熱範囲も確認できた。鉄製の遺物は3の針のみが製品で、他は棒状、板状の小鉄片である。炉の灰層中から剥片状鉄滓を回収したことや、鉄錆が付着したたたき石の出土を考慮すると、この小鉄片は鉄器生産に関わる遺物である可能性が高い。9は厚さ3mmある板状の銅製品で、穴が2ヵ所並列に開けられている。10はシカの中手・中足骨を素材とした中柄片である。被熱により劣化しているが、加工時の面取りが観察でき

表Ⅱ-2 ⅢH-08属性表

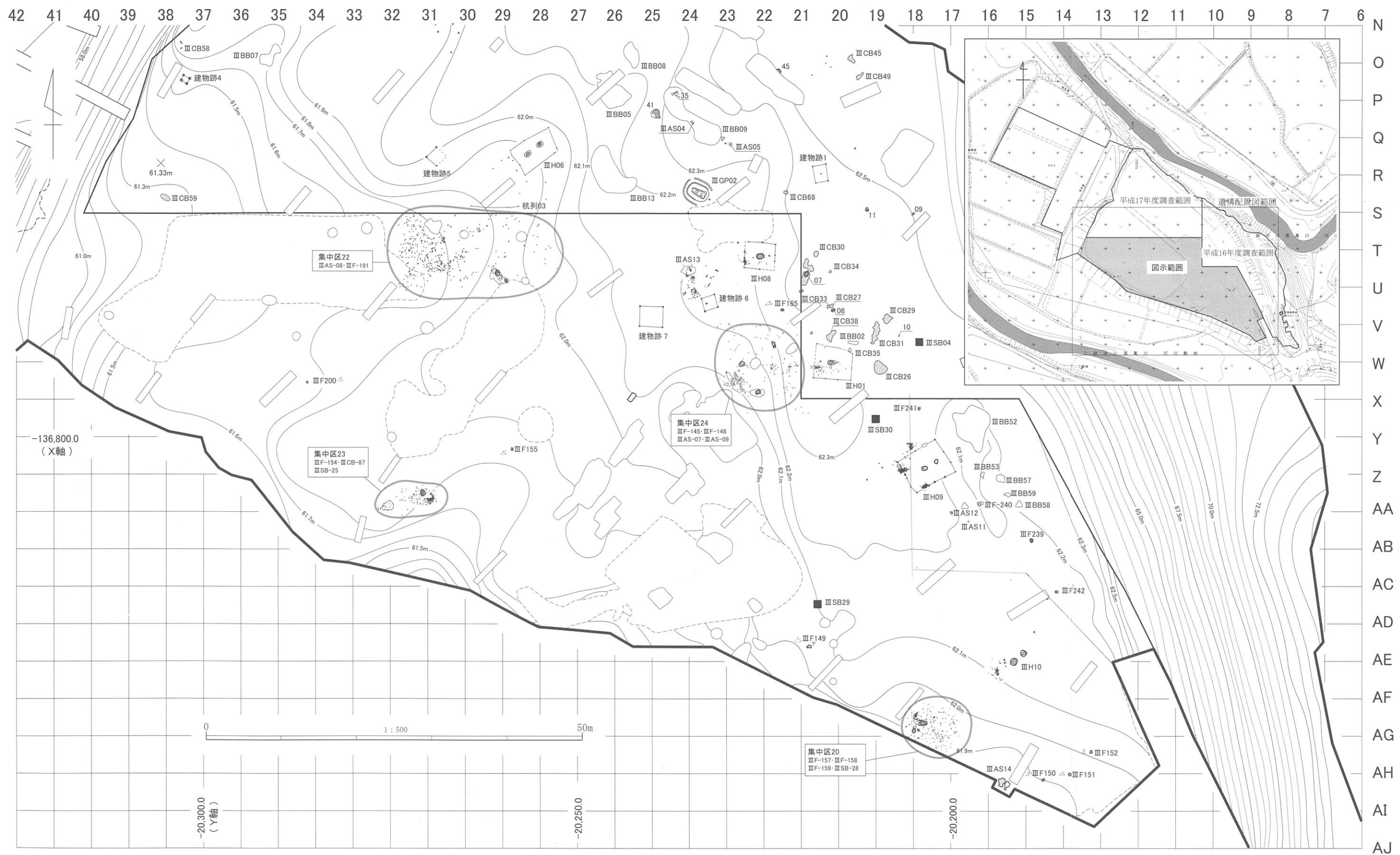
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				柱穴本数			付属遺構
						主体部		付属部		主体	付属	他	
						長軸	短軸	長軸	短軸				
Ⅱ-4	5-1	ⅢH-08	S・T-21・22	ⅢbU	N-95° E	405	365	-	-	9	-	1	ⅢF-144, ⅢSB-26・34

表Ⅱ-3 ⅢH-08付属炉属性表

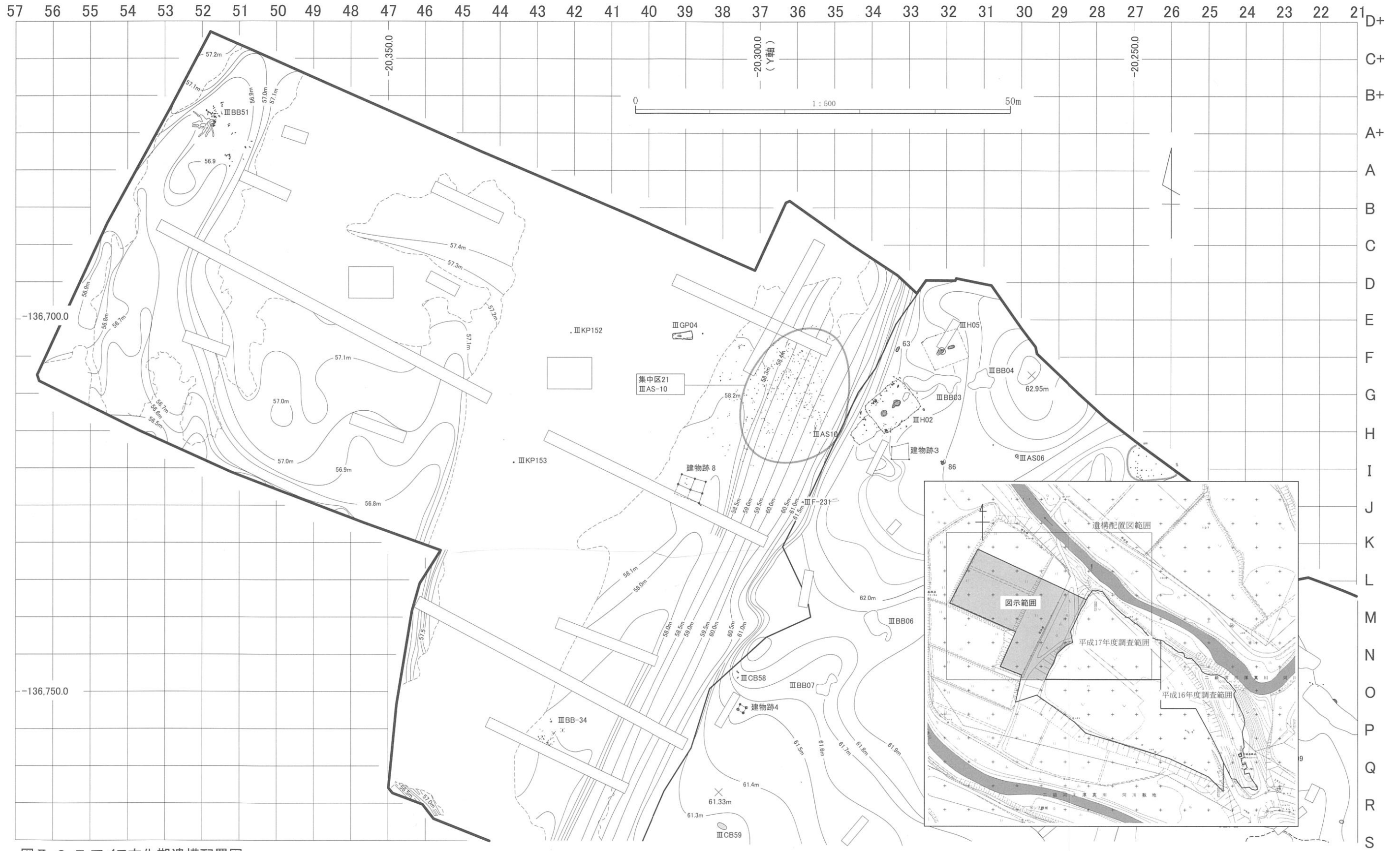
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-4	5-2・3	ⅢF-144	T-21・22	ⅢbU	楕円形	102	74	20	灰・骨	

表Ⅱ-4 ⅢH-08柱穴属性表

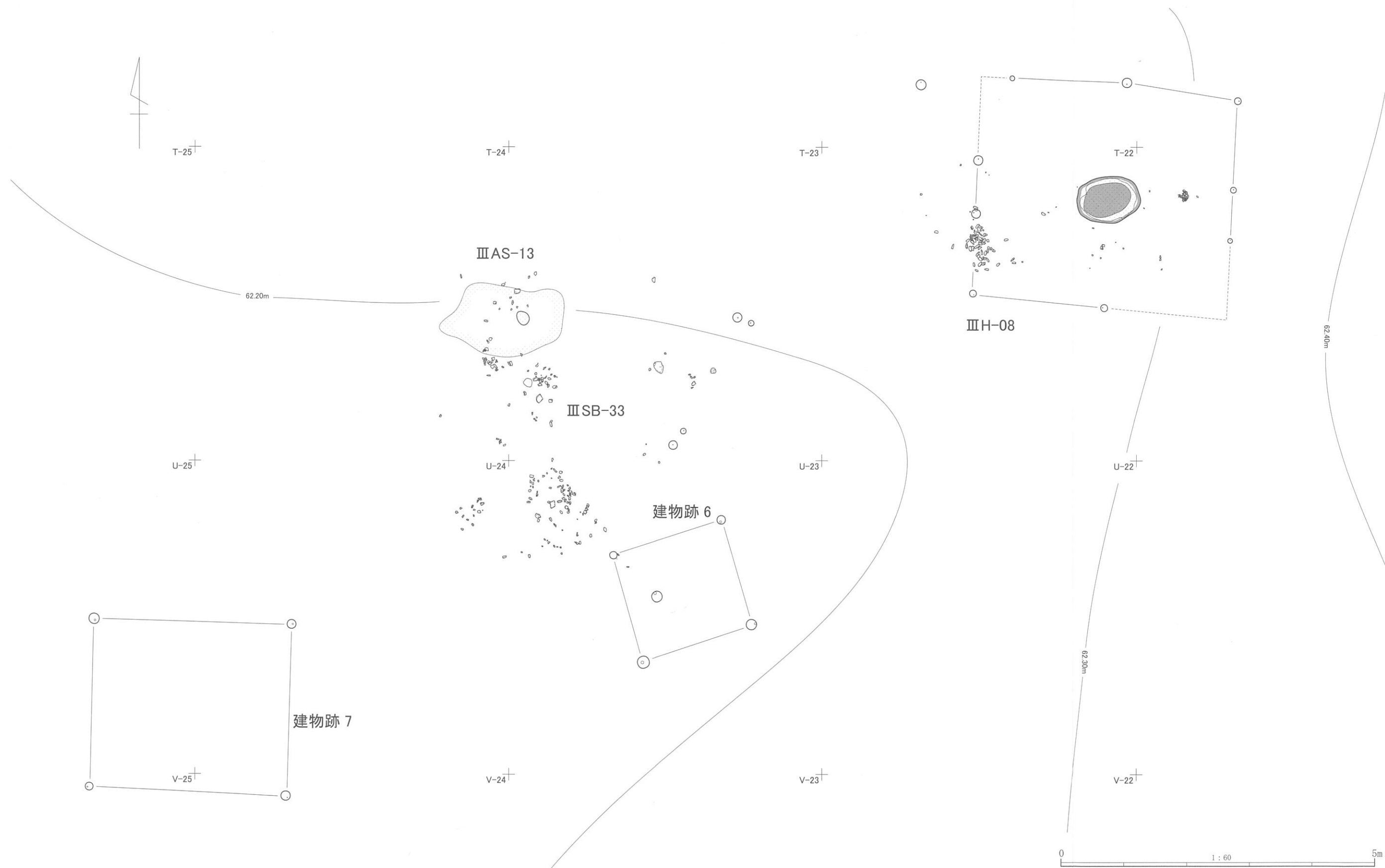
挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅱ-4	5-6	ⅢKP-118	10	3	22	1°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-119	8	2	17	2°	打込み	
Ⅱ-4	5-7	ⅢKP-120	7	2	13	1.5°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-121	10	2	15	3°	打込み	
Ⅱ-4	5-8	ⅢKP-122	10	2	32	1°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-123	13	2	24	9°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-124	13	2	21	3°	打込み	
Ⅱ-4	5-9	ⅢKP-125	8	2	18	3°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-126	16	30	20	7°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-127	14	2	26	5.5°	打込み	



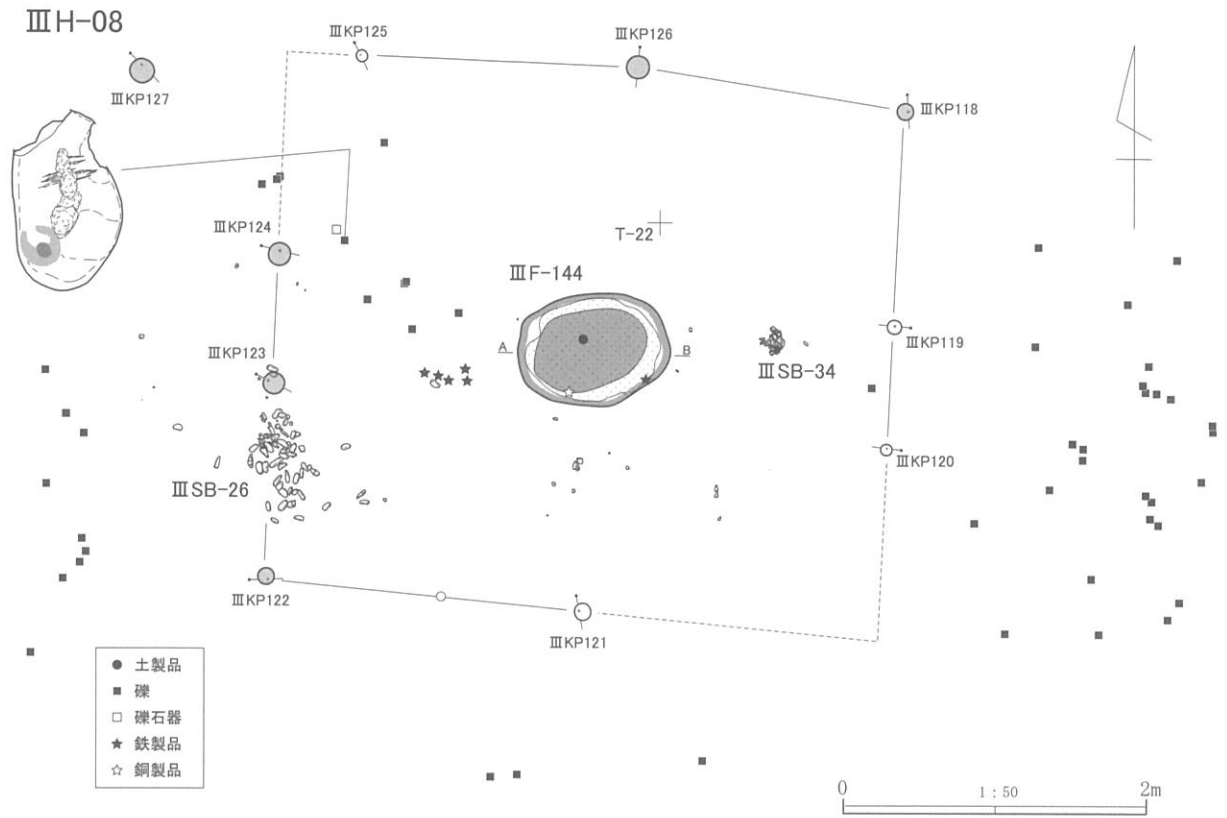
図II-1 T₂アイヌ文化期遺構配置図



図II-2 T1アイヌ文化期遺構配置図



図II-3 8号平地式住居址周辺平面図



III F-144

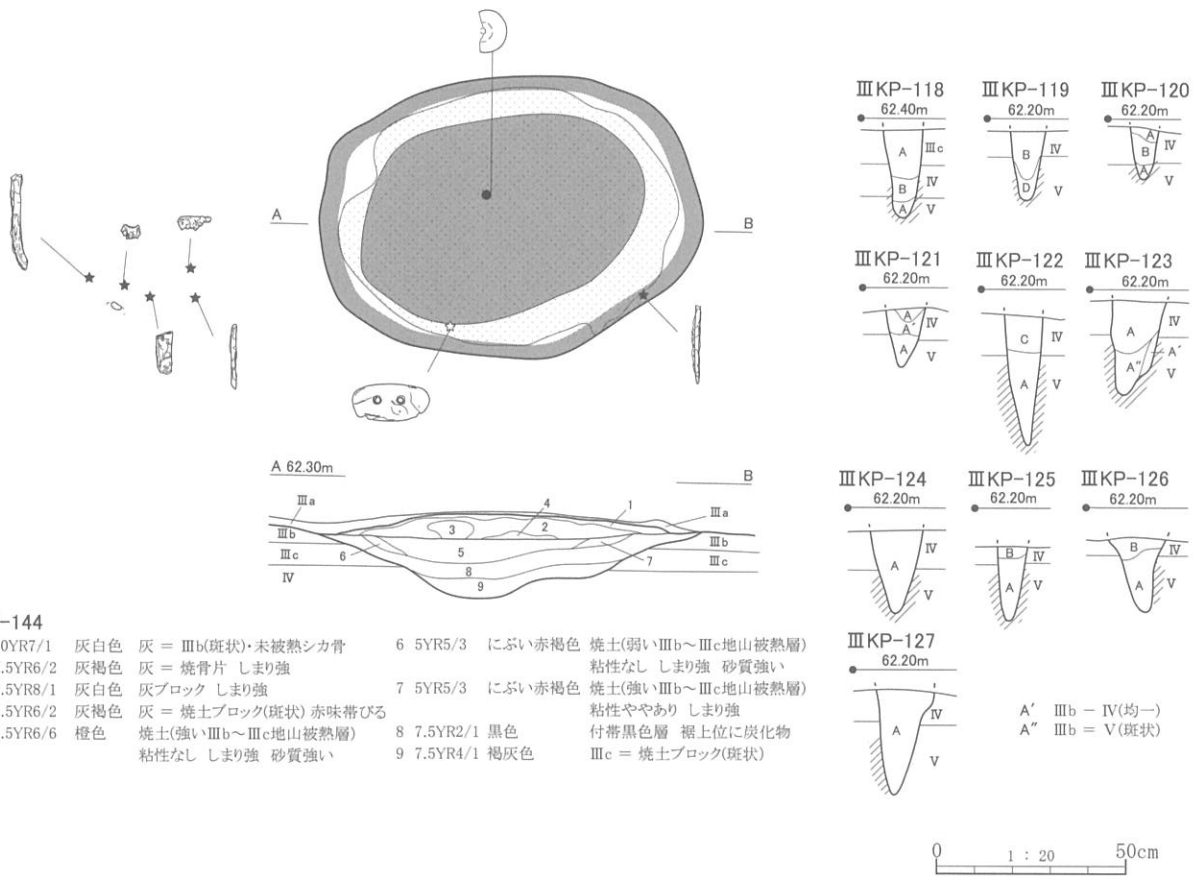


図 II-4 8号平地式住居址(III H-08) 平面図及び付属施設

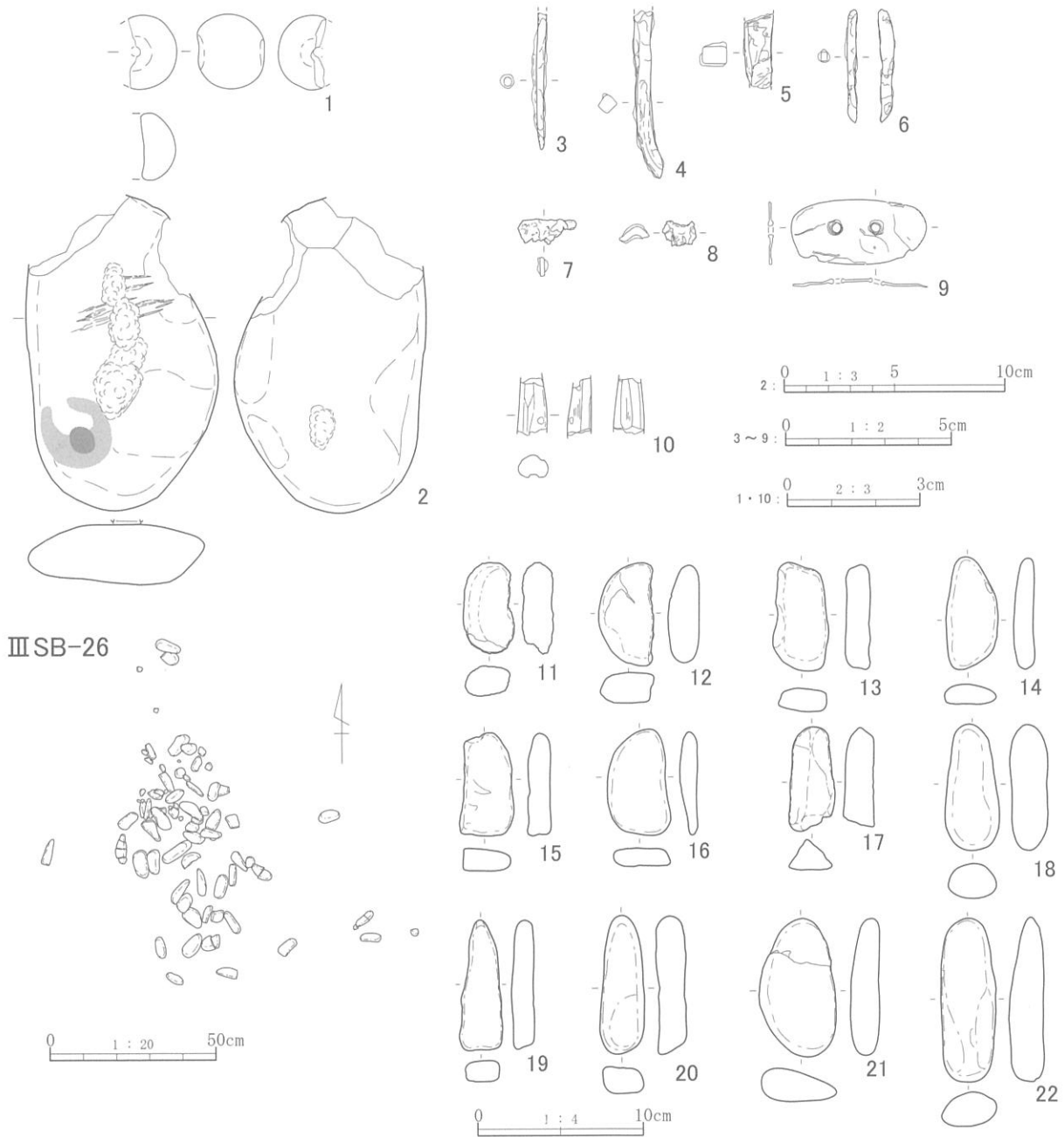


図 II-5 8号平地式住居址出土遺物

表 II-5 IIIH-08出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-5-1	97-1	-	58464	土玉	-	2	III F-144	T-22	15.0	17.0	11.0	2.5	Cray	
II-5-2	97-2	-	55510	たたき石	I a1	III bU	-	T-22	142.0	87.0	27.0	390.0	Sa.	
II-5-3	97-3	-	55234	針	-	1	III F-144	T-22	(41.5)	5.0	4.0	1.4	Irn.	
II-5-4	97-4	-	55235	棒状鉄片	-	III bU	III F-144	T-22	(5.5)	10.0	6.0	4.6	Irn.	
II-5-5	97-5	-	58385	棒状鉄片	-	III bM	-	T-22	(22.5)	9.0	7.0	5.7	Irn.	
II-5-6	97-6	-	58463	棒状鉄片	-	III bM	III SB-26	T-22	34.5	4.0	4.0	1.1	Irn.	
II-5-7	97-7	-	58462	板状鉄片	-	III bM	III SB-26	T-22	18.0	8.0	3.5	0.5	Irn.	
II-5-8	97-8	-	58386	板状鉄片	-	III bM	III SB-26	T-22	10.0	8.0	5.0	0.5	Irn.	
II-5-9	97-9	-	55236	飾金具	-	1	III F-144	T-22	4.0	19.0	3.0	2.3	Cu.	
II-5-10	97-10	-	98671	中柄	-	2	III F-144	T-22	7.0	13.0	7.0	0.4	B.	
-	97-11	-	-	剥片状鉄滓	-	2	III F-144	T-22	-	-	-	<0.1	Irn.	
-	-	III ST0061	61046	たたき石	I a2	III bM	-	T-21	152.3	(70.0)	24.1	320.0	Sa.	

表II-6 III SB-26属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	58387	IIIbU	完形	43.5	-27.3	36.7	5.2	23.6	6.7	1.19	-1.11	47.9	-	Con.	
II-5-11	-	-	58437	IIIbU	完形	54.6	-16.2	26.5	-5.0	16.4	-0.5	2.06	-0.24	44.0	-	Con.	
-	-	-	58434	IIIbU	完形	56.5	-14.3	34.0	2.5	13.0	-3.9	1.66	-0.64	47.6	-	Sa.	
-	-	-	58411	IIIbU	完形	61.6	-9.2	29.0	-2.5	17.3	0.4	2.12	-0.18	31.1	-	Sa.	
II-5-12	-	-	58433	IIIbU	完形	61.9	-8.9	33.4	1.9	18.7	1.8	1.85	-0.45	50.3	-	Sa.	
-	III S1185	58455	IIIbU	略完形	63.5	-7.3	32.5	1.0	8.7	-8.2	1.95	-0.35	23.2	-	Mud.	他1点	
-	-	58431	IIIbU	略完形	63.5	-7.3	34.3	2.8	14.6	-2.3	1.85	-0.45	36.5	-	Sa.	他1点	
II-5-13	-	-	58421	IIIbU	完形	62.0	-8.8	28.7	-2.8	14.5	-2.4	2.16	-0.14	46.6	-	Sa.	
-	-	-	58458	IIIbU	完形	63.3	-7.5	34.4	2.9	18.5	1.6	1.84	-0.46	57.9	-	Sa.	
II-5-14	-	-	58427	IIIbU	完形	68.1	-2.7	31.3	-0.2	11.3	-5.6	2.18	-0.12	28.2	-	Sa.	
II-5-15	-	-	58457	IIIbU	完形	62.6	-8.2	29.2	-2.3	12.9	-4.0	2.14	-0.16	44.5	-	Sa.	
II-5-16	-	-	58389	IIIbU	完形	63.7	-7.1	35.0	3.5	10.5	-6.4	1.82	-0.48	34.2	-	Sa.	
II-5-17	-	-	58420	IIIbU	完形	63.2	-7.6	25.1	-6.4	19.7	2.8	2.52	0.22	33.2	-	Sa.	
II-5-18	-	-	58391	IIIbU	完形	74.7	3.9	30.0	-1.5	22.0	5.1	2.49	0.19	71.2	-	Sa.	
II-5-19	-	-	58390	IIIbU	完形	78.3	7.5	23.0	-8.5	13.3	-3.6	3.40	1.10	39.1	-	Sa.	
II-5-20	-	-	58450	IIIbU	完形	82.9	12.1	24.2	-7.3	16.0	-0.9	3.43	1.13	58.7	-	Sa.	
II-5-21	-	-	58441	IIIbU	完形	83.3	12.5	45.5	14.0	17.1	0.2	1.83	-0.47	77.5	-	Sa.	
II-5-22	-	-	58425	IIIbU	完形	99.3	28.5	33.9	2.4	20.8	3.9	2.93	0.63	78.0	-	Sa.	
-	97-1-12	-	58459	IIIbU	完形	65.5	-5.3	23.8	-7.7	11.2	-5.7	2.75	0.45	28.9	-	Sa.	
-	-	-	58432	IIIbU	完形	66.6	-4.2	34.2	2.7	13.3	-3.6	1.95	-0.35	37.0	-	Sa.	
-	-	-	58442	IIIbU	完形	66.2	-4.6	28.6	-2.9	22.2	5.3	2.31	0.01	56.5	-	Sa.	
-	-	-	58447	IIIbU	完形	65.9	-4.9	25.1	-6.4	17.4	0.5	2.63	0.33	41.8	-	Sa.	
-	-	-	58452	IIIbU	完形	69.0	-1.8	31.8	0.3	21.2	4.3	2.17	-0.13	60.7	-	Sa.	
-	-	-	58424	IIIbU	完形	71.9	1.1	36.4	4.9	14.8	-2.1	1.98	-0.32	55.6	-	Sa.	
-	-	-	58460	IIIbU	略完形	71.5	0.7	19.5	-12.0	14.4	-2.5	3.67	1.37	30.0	-	Sa.	
-	-	-	58406	IIIbU	完形	74.0	3.2	24.1	-7.4	15.9	-1.0	3.07	0.77	41.2	-	Sa.	
-	-	-	58384	IIIbU	完形	72.4	1.6	39.5	8.0	19.7	2.8	1.83	-0.47	67.5	-	Sa.	
-	-	-	58451	IIIbU	完形	74.3	3.5	34.9	3.4	21.8	4.9	2.13	-0.17	78.5	-	Sa.	
-	-	-	58435	IIIbU	完形	75.1	4.3	34.9	3.4	18.6	1.7	2.15	-0.15	73.6	-	Sa.	
-	-	-	58395	IIIbU	略完形	77.1	6.3	40.8	9.3	13.6	-3.3	1.89	-0.41	46.1	-	Sa.	
-	-	-	58453	IIIbU	完形	75.1	4.3	27.0	-4.5	15.4	-1.5	2.78	0.48	27.0	-	Mud.	
-	III S1186	58446	IIIbU	完形	79.4	8.6	45.4	13.9	22.1	5.2	1.75	-0.55	99.5	-	Sa.	他2点	
-	-	58423	IIIbU	完形	79.6	8.8	41.5	10.0	19.7	2.8	1.92	-0.38	96.5	-	Sa.		
-	-	58415	IIIbU	完形	80.2	9.4	33.6	2.1	19.1	2.2	2.39	0.09	66.6	-	Sa.		
-	-	58438	IIIbU	完形	80.4	9.6	19.8	-11.7	21.3	4.4	4.06	1.76	49.4	-	Sa.		
-	-	58439	IIIbU	完形	84.4	13.6	27.5	-4.0	20.1	3.2	3.07	0.77	61.4	-	Sa.		
-	-	58412	IIIbU	略完形	85.7	14.9	31.8	0.3	14.7	-2.2	2.69	0.39	57.8	-	Sa.		

平均 70.8 31.5 16.9 2.3 52.0
総点数 88点 ※完形 37点

る。11~22 はIII SB-26 構成礫の一部で、長軸長の平均値約 71mm のやや小ぶりの礫が主体となっている。また図示していないが付属炉東側で検出したIII SB-34 は泥岩の欠損礫のみで構成されていた。

灰集中 13〔III AS-13〕 (図II-6 図版 6-11・12)

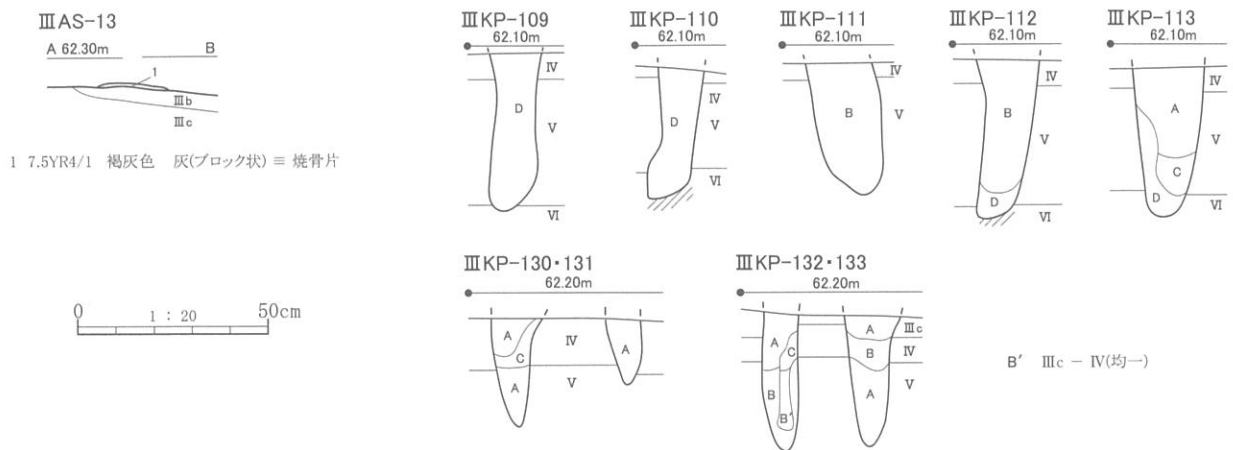
位置：T-23・24 区 規模：24×18×2cm

確認・調査：T-23・24 区のIII a 層を掘削した際、小規模な灰集中を検出した。当初焼土に伴う灰と想定したことから、III F-145 の遺構名を付け調査を進めた。しかし半截した結果下位に焼土を確認できなかったため、投棄された灰集中と判断した。III AS-13 の遺構名は調査終了後、報告書作成段階で改名したものである。灰の周囲では多数の棒状礫がやや散逸した状態で出土したためIII SB-33 と設定し、出土状態の記録を作成し取り上げを行った。

堆積状態(図II-6)：III AS-13 の主要部分では 2 cm 程の厚さで均質な灰が堆積し、その周囲では焼骨片のみが斑状の灰と共に分布していた。灰の下底面はほぼ水平である。

出土遺物(図II-8)：1 は楕円形礫の縁辺が使用されたたたき石。2 は長さ 31 mm のやや大型の刀子である。茎は刃縁付近から肥厚し、整形の粗雑さが目立つ。刀剣類の再加工品の可能性が高い。

建物跡6・ⅢAS-13・ⅢSB-33



図Ⅱ-6 建物跡6・灰集中 13(ⅢAS-13)・杭跡平面図及び断面図

建物跡7

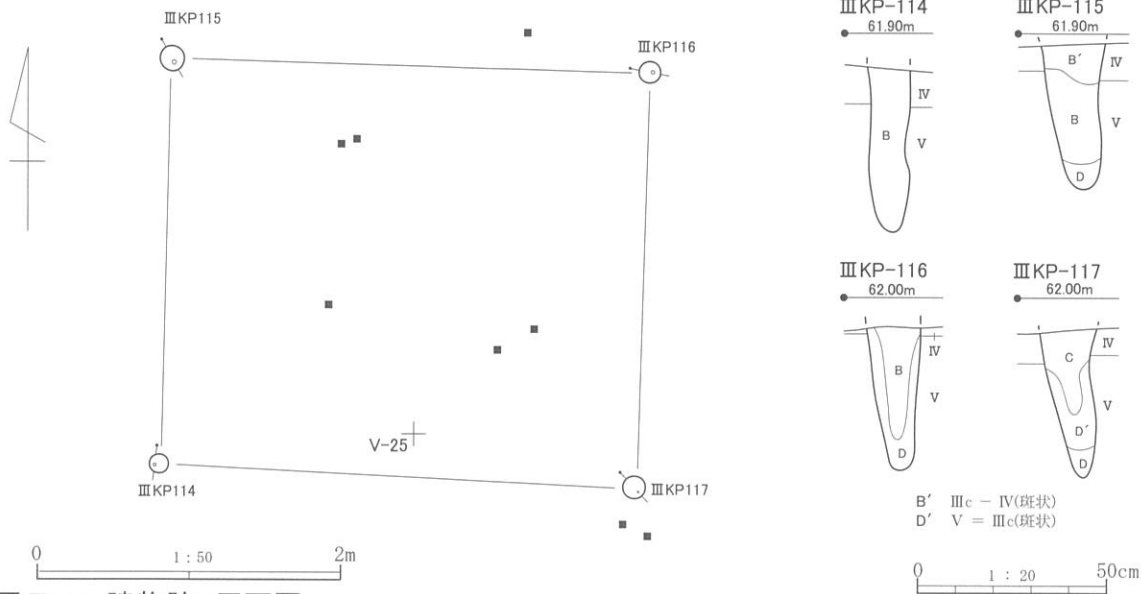


図 II-7 建物跡7平面図

表 II-7 建物跡6柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-6	6-1	IIIKP-109	13	5	39	4°	掘立	
II-6	6-2	IIIKP-110	11	10	33	4.5°	掘立	
II-6	6-3	IIIKP-111	16	4	33	1°	掘立	
II-6	6-4	IIIKP-112	15	8	39	3°	掘立	
II-6	6-5	IIIKP-113	18	6	36	3°	掘立	

表 II-8 建物跡7柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-7	6-6	IIIKP-114	11	3	41	0°	打込み	
II-7	6-7	IIIKP-115	16	5	41	5°	打込み	
II-7	6-8	IIIKP-116	13	5	35	3°	打込み	
II-7	-	IIIKP-117	14	2	37	5°	打込み	

表 II-9 杭跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-6	6-9	IIIKP-130	13	2	27	1°	打込み	
II-6	6-9	IIIKP-131	9	2	22	4.5°	打込み	
II-6	6-10	IIIKP-132	8	2	34	1°	打込み	
II-6	6-10	IIIKP-133	14	2	32	4°	打込み	

表 II-10 IIIAS-13属性表

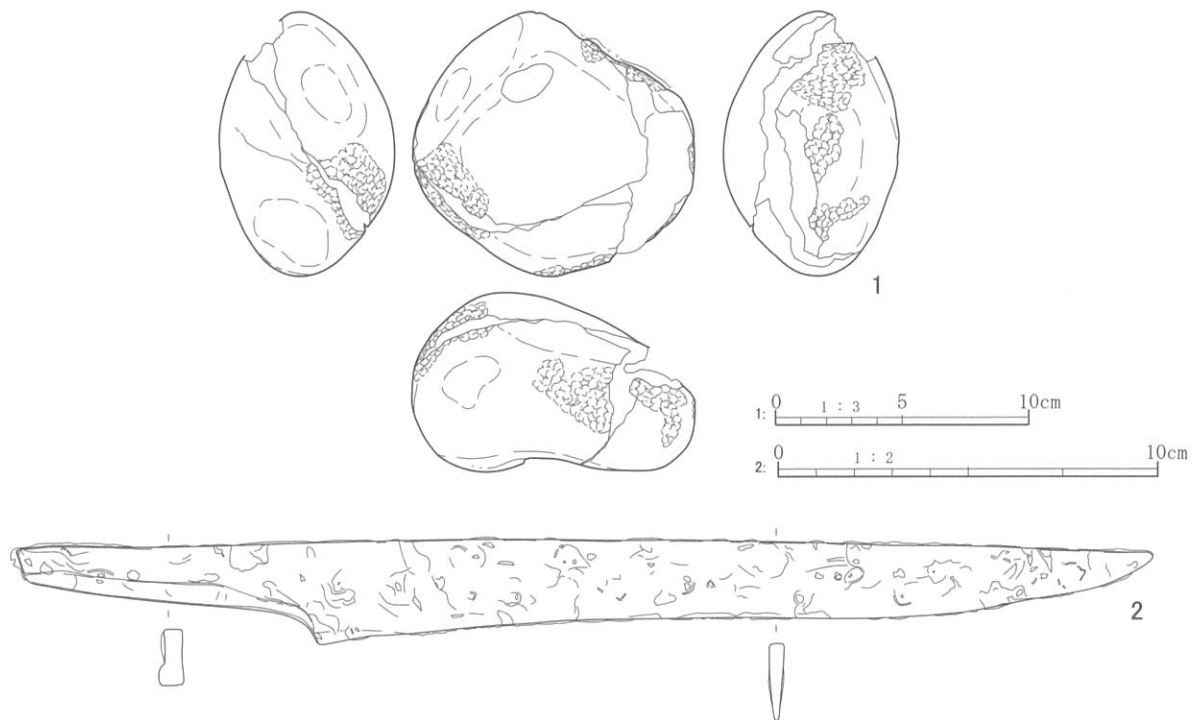
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-6	6-11・12	IIIAS-13	T-23・24	IIIb	不整形	24	18	2	灰・骨	

建物跡6 (図II-6 図版6-1~5)

位置: U-23区 規模: 185×175cm

構成: 5本柱 (IIIKP-109~113)

確認・調査: IIIH-08 南西側のIIIcM~IV層を精査中、円形のIIIb~IIIc層の落ち込みを複数検出した。半截した結果、いずれも確認面からの深さが30cm以上ある杭跡であることが解り、サイコロの5の目状に配列されていたことから建物跡6として設定した。



図Ⅱ-8 ⅢH-08 関連遺構出土遺物

表Ⅱ-11 ⅢH-08関連遺構出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-8-1	97-2-1	-	59241	たたき石	-	ⅢbM	ⅢSB-33	-	111.0	1104.0	71.0	785.0	Sa.	
Ⅱ-8-2	97-2-2	-	55812	刀子	-	ⅢbU	-	T-24	31.0	29.0	6.5	121.2	Irn.	
-	-	-	59248	たたき石	Ⅳ	ⅢbM	ⅢSB-33	-	(92.5)	74.0	75.9	840.0	Sa.	

柱 穴：ⅢKP-109～113 は底面が丸味を帯びているが、底面のみがやや強くしまりをもつ例が認められたことから、掘立柱による建物跡と判断した。

建物跡 7 (図Ⅱ-7 図版 6-6～8)

位置：U・V-24・25区 規模：315×270cm

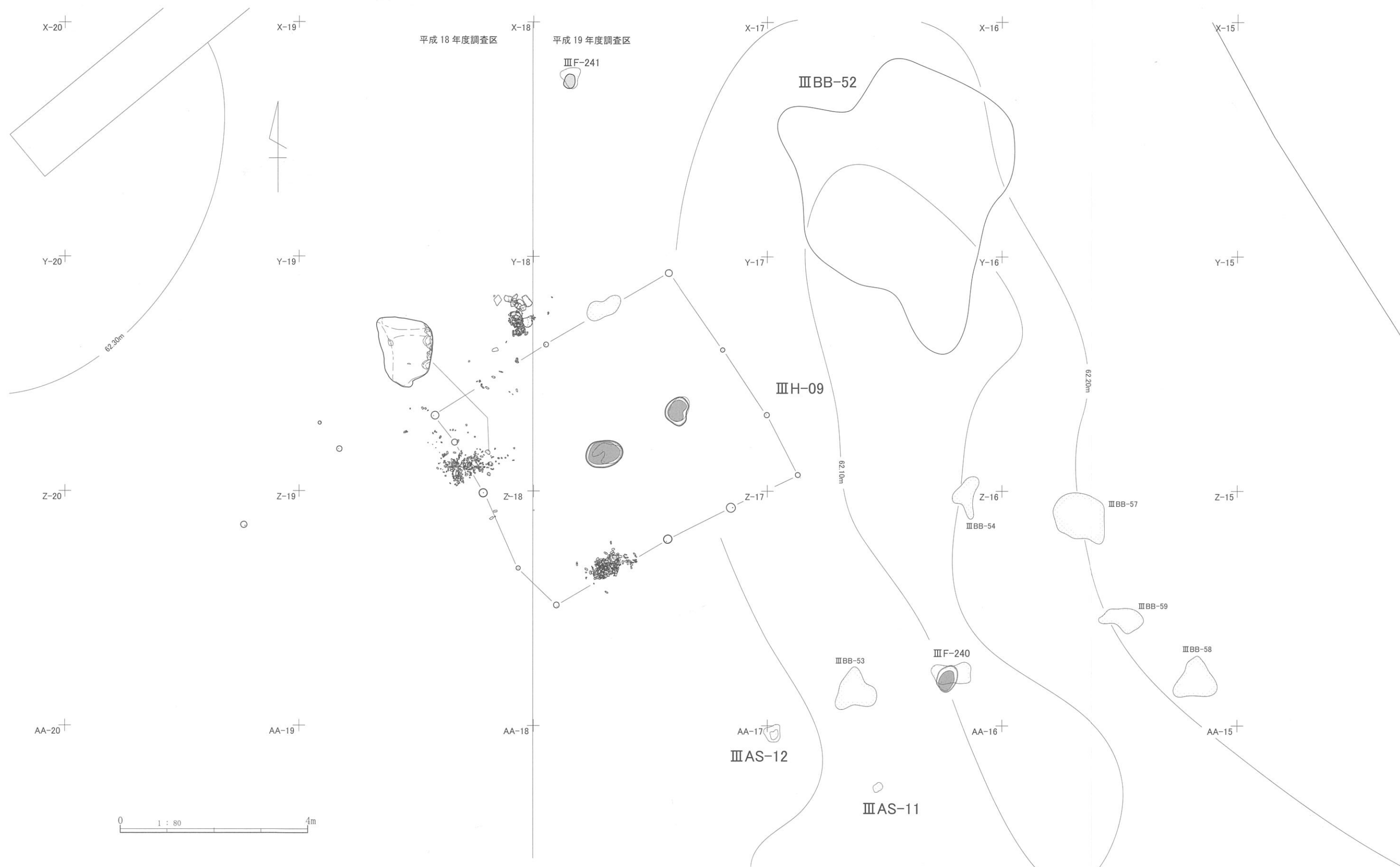
構成：4本柱(ⅢKP-114～117)

確認・調査：ⅢcM～Ⅳ層上面を柱穴検出のため精査中、建物跡 6 の西側 5.4m の位置で円形のⅢc～Ⅳ層の落込みを4ヵ所検出した。半截した結果、いずれも深さ30cm以上の杭跡であることが解り、方形に配列されていたことから建物跡 7 として設定した。

柱 穴：ⅢKP-114～117 は底面が尖る点で建物跡 6 の柱穴とは異なる。壁面のしまりは確認できなかったが、打ち込みによる柱穴と考えられる。

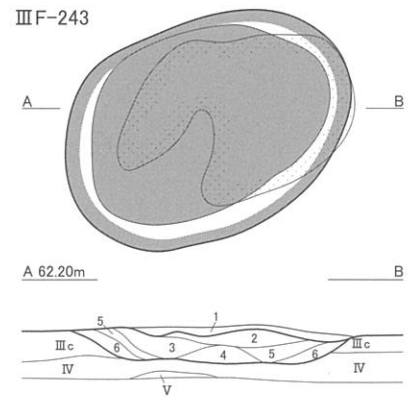
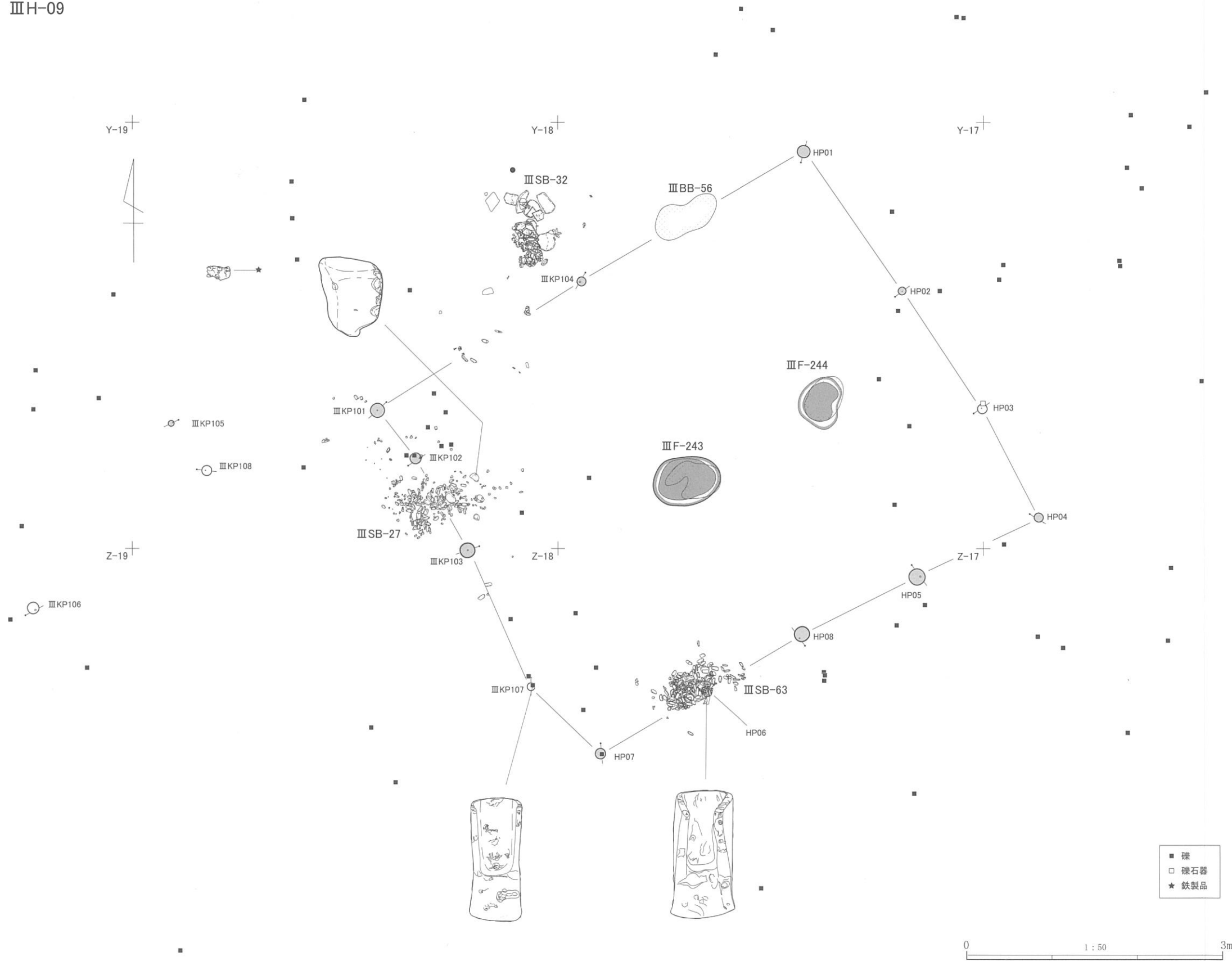
杭 跡 (図Ⅱ-6 図版 6-9・10)

柱穴検出のため T-23 区のⅢc～Ⅳ層上面を精査中、ⅢKP-130～133 の4本の杭跡を検出した。確認面からの深さはⅢKP-131 が22cmで最も浅く、他も30cm前後であり、建物跡 6・7 の柱穴と比べ全体的に浅い。配置はⅢKP-130 と 131、ⅢKP-132 と 133 がそれぞれ2個一対で並んでいるが、規格的な配列を形成していないため、建物跡、杭列とは分け、杭跡として捉えた。

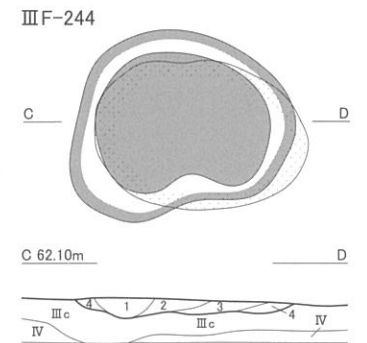


図II-9 9号平地式住居址周辺平面図

III H-09



- III F-243
- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1 7.5YR2/1 黒色 | III b = 焼土(斑状) ≡ 焼骨片(均一) 土壌化灰層 |
| 2 5YR5/6 明赤褐色 | 焼土(強いIIIc地山被熱層) |
| 3 5YR6/4 にぶい橙色 | 焼土(強いIIIc~IV地山被熱層) |
| 4 7.5YR6/8 橙色 | 焼土(弱いIV地山被熱層) |
| 5 5YR3/2 暗赤褐色 | 焼土(弱いIIIc地山被熱層) |
| 6 7.5YR2/2 黒褐色 | 付帯黒色層 |



- III F-244
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 7.5YR3/3 暗赤褐色 | III c = 焼土(斑状) |
| 2 5YR4/8 赤褐色 | 焼土(強いIIIc地山被熱層) |
| 3 7.5YR3/3 暗赤褐色 | 焼土(弱いIIIc地山被熱層) |
| 4 7.5YR2/2 黒褐色 | 付帯黒色層 |



図II-10 9号平地式住居址(III H-09)平面図及び付属炉跡

9号平地式住居址周辺の概況 (図Ⅱ-9)

9号平地式住居址はT₂の南東に位置する。2ヵ所の付属炉を伴い長軸が南西-北東方向を向く。付属炉の検出がⅢbMであることや、第Ⅶ章1節のAMS年代測定結果から、アイヌ文化期の中でも古い段階に位置付けられる住居址である。周囲では、北東側でシカの獣骨集中が、また南東側では灰集中を検出しており、9号平地式住居址と関連する遺構と考え、ここで合わせて記載することとした。

9号平地式住居址〔ⅢH-09〕 (図Ⅱ-10~14 図版7・8)

位置：Y・Z-16~18区

規模：615×510cm 長軸方向：N-57° E

付属遺構：炉跡 ⅢF-243・244 集石 ⅢSB-27・32・63 焼骨片集中 ⅢBB-56

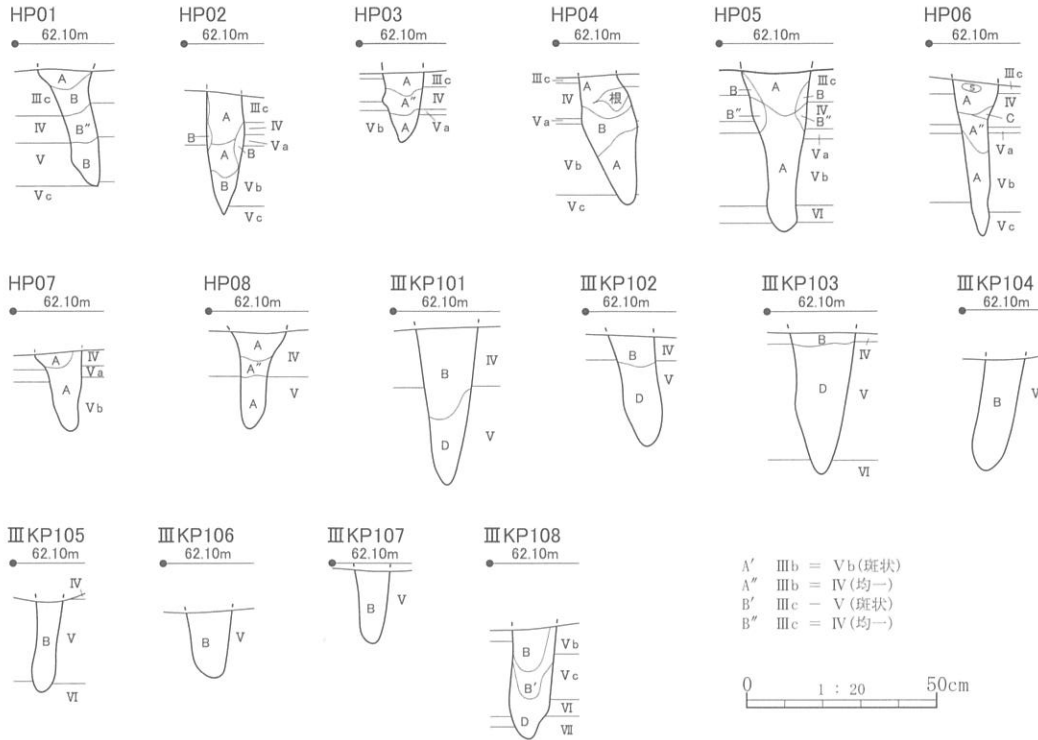
関連遺構：獣骨集中 ⅢBB-52 灰集中 ⅢAS-11・12

確認・調査(図Ⅱ-10)：本住居址は、平成18・19年度の両調査区にまたがる配置で検出した。平成18年度は集石(ⅢSB-27・32)と住居址西側柱穴の一部を検出し、この段階では建物跡の可能性は想定していたが、住居址としての認識はまだなかった。平成19年度の調査において、Y・Z-16~18区のⅢb層調査中に2ヵ所並列した焼土と、棒状礫の集中(ⅢSB-63)を検出したことから住居址の可能性を想定し調査を進めた。炉跡と集石の記録後、周囲を精査したところ、炉を囲む配置で円形のⅢb~Ⅲcの落込みを検出した。半截した結果、いずれも打ち込みによる杭跡であることが判明した。これらは平成18年度検出分と合せ、長方形プランの配列を呈していたことから住居址の柱穴と判断し、9号平地式住居址として設定した。

付属炉(図Ⅱ-10)：2ヵ所の付属炉は長軸方向がやや異なり、ⅢF-243は住居址主体部と同一方向を、ⅢF-244は主体部よりも北よりに長軸方向を向けて形成されている。いずれの炉も明瞭な灰は残されておらず、焼骨片を少量含む土壌が検出面で確認できた。被熱層はⅢF-243で特に良好に形成されており、厚さ8cmを測る。ⅢF-244ではやや未発達であり、Ⅲc主体土が被熱層中に落ち込んでいた。灰の掻き出し行為により被熱層が攪乱された可能性がある。

柱穴(図Ⅱ-11)：主体部を構成する柱穴として13本、また主体部の南西側に外れた位置で3本の柱穴を検出した。主体部を構成する柱穴は、HP01~08、ⅢKP-101~104・107で、そのほとんどが確認面から20cm以上の深さで打ち込まれている。大きく傾いて打ち込まれた柱穴としてHP01・04・07、ⅢKP-102・104があるが、ⅢKP-102を除きいずれも「外ふんばり」の状態で傾いている。ⅢKP-102は南西側に傾いていることから、ⅢKP-105・106・108といった主体部から外れた柱穴とともに、「前小屋(セム)」との関連が想定される。検出した柱穴の中で、HP06はⅢSB-63の礫を取りあげた後、その下位で検出しており、柱穴覆土中にも棒状礫が混入していた。

遺物出土状態(図Ⅱ-10)：床面遺物として、ⅢSB-27・63の2ヵ所の集石がある。共に主体部の柱穴列上で出土しており、特にⅢSB-63は前述のようにHP06の直上で検出したことから、住居使用時の位置から動いていることが把握できる。しかし礫のまとまり方は極めて良好であったため、ほぼ同位置に高く積み上げられていたものが崩れたか、袋状のものに入れられて壁に掛けられていた可能性もある。なおⅢSB-63では礫の合間で鉄斧が出土している。住居址プランの外側では、板状の大型礫を含むⅢSB-32を検出した。構成している礫の内容から、通常住居址に伴うものとは性格の異なる集石と考えられる。



図Ⅱ-11 9号平地式住居址柱穴断面図

表Ⅱ-12 IIIH-09属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				柱穴本数			付属遺構
						主体部		付属部		主体	付属	他	
						長軸	短軸	長軸	短軸				
II-10	7-1	IIIH-09	Y-Z-16・18	IIIbM	N-57° E	615	510	-	-	13	-	3	IIIF-243・244, IIISB-27・63

表Ⅱ-13 IIIH-09付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-10	7-3	IIIF-243	Y-17	IIIbM	楕円形	80	58	8	骨	
II-10	7-5	IIIF-244	Y-17	IIIbM	楕円形	60	51	5	骨	

表Ⅱ-14 IIIBB-56属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
II-10	-	III BB-56	Y-17	IIIbM	長楕円形	80	39	-	被熱	IIIH-09	

表Ⅱ-15 IIIH-09柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-11	-	HP01	15	3	30	15°	打込み	
II-11	-	HP02	9	12	33	0°	打込み	
II-11	8-9	HP03	10	1	17	2°	打込み	
II-11	-	HP04	10	2	34	14°	打込み	
II-11	8-10	HP05	17	5	40	4°	打込み	
II-11	-	HP06	12	2	40	5°	打込み	
II-11	8-11	HP07	11	2	20	11°	打込み	
II-11	-	HP08	14	2	24	5°	打込み	
II-11	8-5	IIIKP-101	15	2	39	2°	打込み	
II-11	8-6	IIIKP-102	11	2	27	7°	打込み	
II-11	8-7	IIIKP-103	16	2	35	2°	打込み	
II-11	8-8	IIIKP-104	10	2	28	11.5°	打込み	
II-11	-	IIIKP-105	7	2	23	5°	打込み	
II-11	-	IIIKP-106	12	6	17	2.5°	打込み	
II-11	-	IIIKP-107	8	2	18	1°	打込み	
II-11	-	IIIKP-108	11	2	28	45°	打込み	



图II-12 9号平地式住居址出土遺物(1)

表 II-16 IIIH-09出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-12-1	98-1	-	58128	たたき石	II b2	III bU	III SB-27	Y-18	111.0	90.0	44.0	620.0	Sa.	
II-12-2	98-3	-	57058	板状製品	-	III bM	-	Y-18	23.0	13.5	1.5	0.5	lrn.	
II-12-3	98-4	-	56615	鉄斧	-	III a	-	Z-18	115.0	51.0	40.5	330.0	lrn.	
II-12-4	98-5	-	123704	鉄斧	-	III bM	III SB-63	Z-17	119.0	59.0	47.5	565.0	lrn.	
-	98-2	-	58116	たたき石	IV	III bU	III SB-27	Y-18	(73.3)	77.9	46.8	280.0	Sa.	
-	-	-	55381	たたき石	II b2	III bU	-	Z-18	140.0	87.8	55.6	790.0	Sa.	
-	-	III ST062	55372	たたき石	II a1	III bU	-	Z-19	135.0	83.0	36.0	500.0	Sa.	

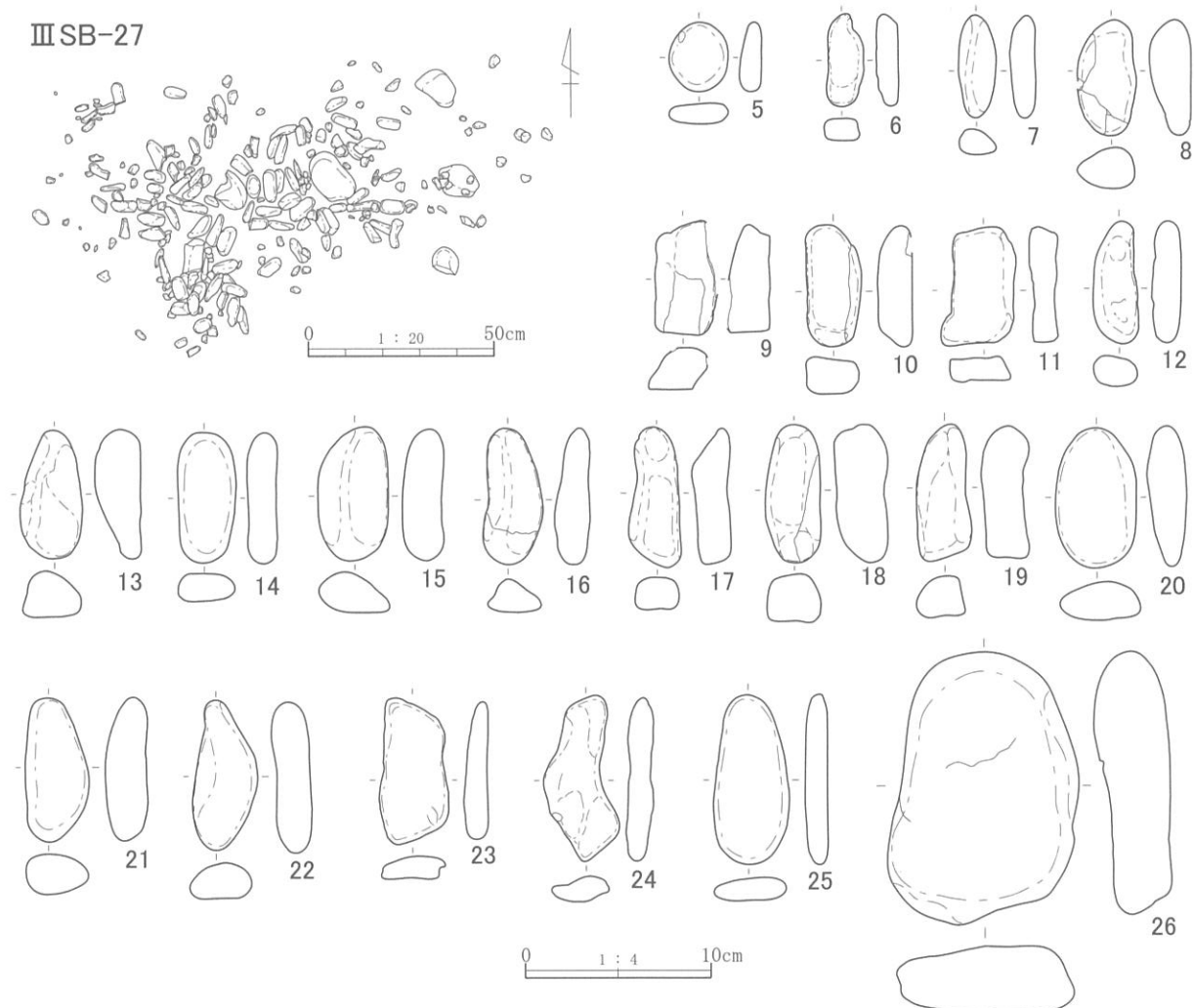
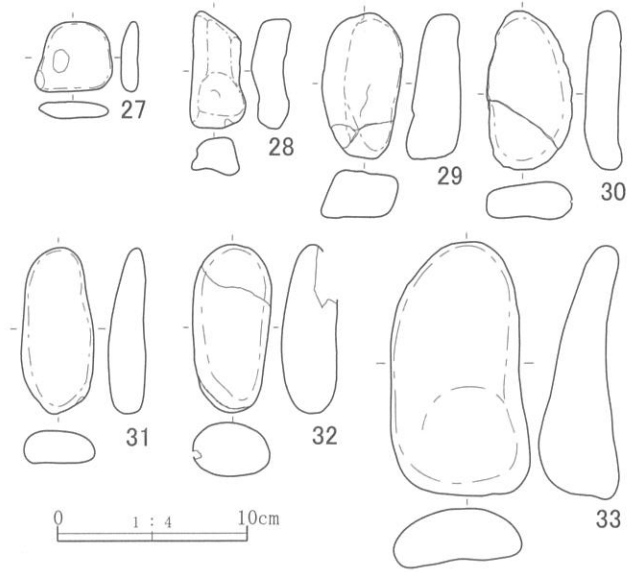
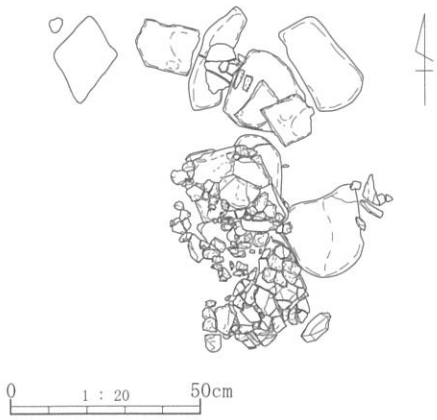


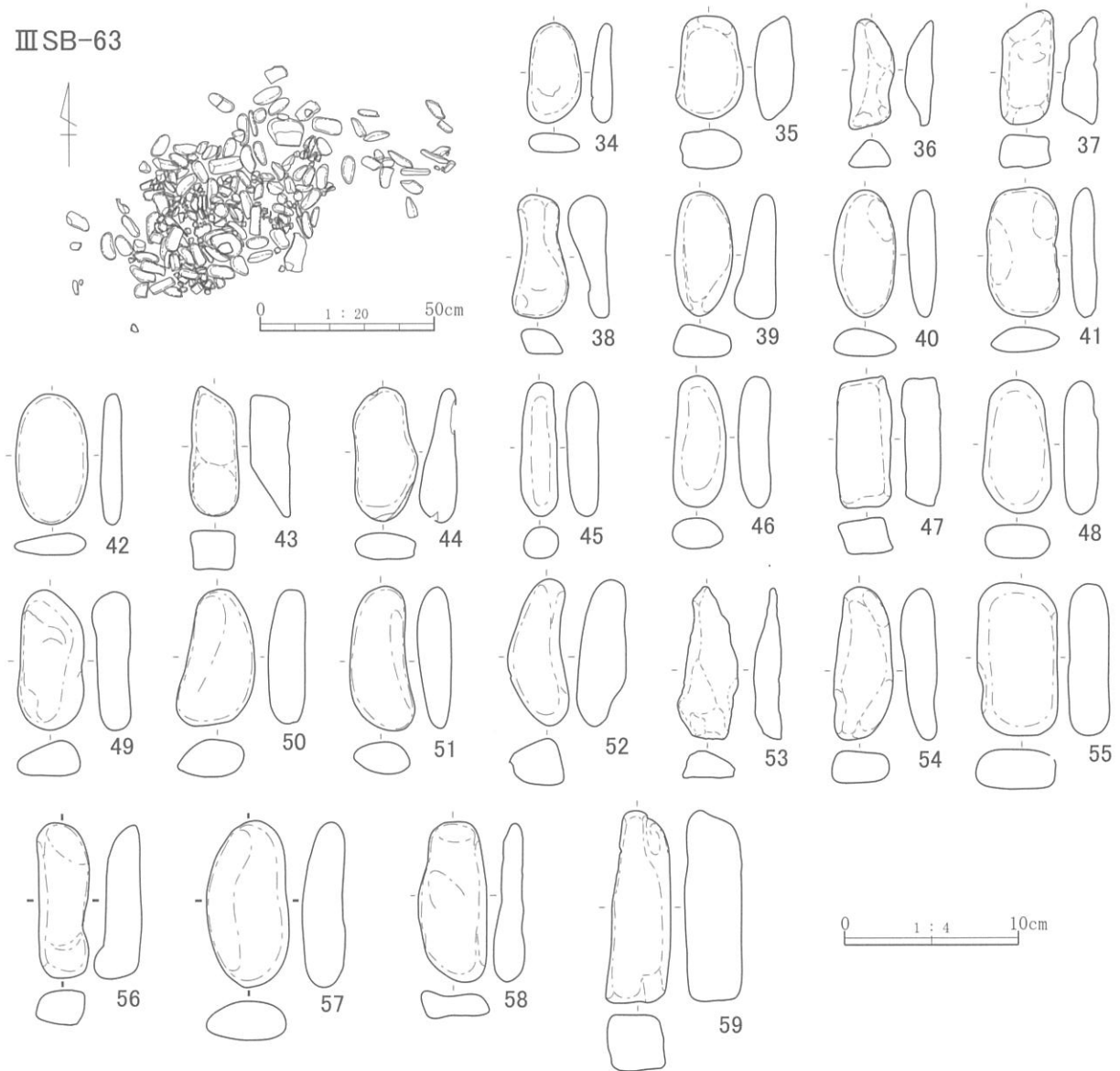
図 II-13 9号平地式住居址出土遺物(2)

出土遺物(図 II-12~14) : 1 は III SB-27 で出土したたたき石で、礫の側縁を使用している。2 は板状鉄片、3・4 は断面「コ」字形の基部をもつ袋状鉄斧である。3 は基部と刃部の境付近に、着柄時に柄を固定するための楔を通したと考えられる穿孔が認められる。4 は 3 よりも厚味があり、重量が 100 g 以上重い。共に刃部の使い減りに偏りがある。5~26 は III SB-27 を構成する礫で、被熱礫の比率がやや高い傾向がある。27~33 は III SB-32 の構成礫で、小型のもののみを図示したが、主体は大型の板状礫である。III SB-27 と同様被熱礫の比率が高い。34~59 は III SB-63 の構成礫で、被熱礫は認められなかった。

III SB-32



III SB-63



図II-14 9号平地式住居址出土遺物(3)

表Ⅱ-17 ⅢSB-27属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
Ⅱ-13-5	—	58474	ⅢbM	完形	37.3	-35.0	31.7	0.4	11.6	-6.2	1.2	-1.3	18.0	-	Sa.		
—	ⅢS1198	58278	ⅢbM	完形	47.2	-25.1	22.0	-9.3	16.3	-1.5	2.1	-0.4	23.3	-	Sa.	他1点	
Ⅱ-13-6	—	58265	ⅢbM	完形	49.4	-22.9	18.8	-12.5	12.2	-5.6	2.6	0.1	17.3	○	Sa.		
—	—	58297	ⅢbM	完形	47.7	-24.6	14.1	-17.2	11.7	-6.1	3.4	0.9	15.7	○	Sa.		
—	—	58157	ⅢbM	完形	50.3	-22.0	22.8	-8.5	10.1	-7.7	2.2	-0.3	17.3	-	Sa.		
—	—	58480	ⅢbM	完形	50.1	-22.2	34.3	3.0	16.6	-1.2	1.5	-1.0	37.6	-	Sa.		
—	—	58277	ⅢbM	完形	52.3	-20.0	18.7	-12.6	11.6	-6.2	2.8	0.3	15.5	○	Sa.		
—	—	58194	ⅢbM	完形	52.6	-19.7	28.5	-2.8	14.8	-3.0	1.8	-0.7	38.7	-	Sa.		
—	—	58257	ⅢbM	完形	52.3	-20.0	30.2	-1.1	21.2	3.4	1.7	-0.8	44.9	○	Sa.		
—	—	58276	ⅢbM	完形	50.9	-21.4	23.8	-7.5	21.9	4.1	2.1	-0.4	48.6	-	Sa.		
Ⅱ-13-7	—	58261	ⅢbM	完形	55.3	-17.0	20.2	-11.1	14.5	-3.3	2.7	0.2	19.8	-	Sa.		
—	—	58182	ⅢbM	完形	56.4	-15.9	33.8	2.5	10.6	-7.2	1.7	-0.8	31.2	○	Sa.		
—	—	58139	ⅢbM	完形	60.0	-12.3	29.0	-2.3	12.4	-5.4	2.1	-0.4	30.6	○	Sa.		
—	—	58485	ⅢbM	完形	61.3	-11.0	30.9	-0.4	13.7	-4.1	2.0	-0.5	46.7	-	Sa.		
Ⅱ-13-8	—	58295	ⅢbM	完形	62.3	-10.0	31.4	0.1	21.4	3.6	2.0	-0.5	50.2	-	Sa.		
Ⅱ-13-9	—	58145	ⅢbM	完形	61.1	-11.2	25.8	-5.5	17.6	-0.2	2.4	-0.1	49.1	○	Sa.		
—	—	58214	ⅢbM	完形	60.6	-11.7	24.6	-6.7	21.5	3.7	2.5	0.0	49.4	-	Mud.		
—	—	58270	ⅢbM	完形	63.9	-8.4	20.5	-10.8	10.0	-7.8	3.1	0.6	18.2	-	Sa.		
—	ⅢS1190	58266	ⅢbM	完形	63.3	-9.0	28.0	-3.3	17.1	-0.7	2.3	-0.2	33.7	-	Sa.	他2点	
—	—	58208	ⅢbM	完形	65.3	-7.0	33.7	2.4	17.3	-0.5	1.9	-0.6	56.8	-	Sa.		
Ⅱ-13-10	—	58158	ⅢbM	略完形	65.4	-6.9	29.2	-2.1	18.9	1.1	2.2	-0.3	55.5	○	Sa.		
—	—	58258	ⅢbM	完形	64.5	-7.8	29.9	-1.4	19.5	1.7	2.2	-0.3	52.7	-	Sa.		
Ⅱ-13-11	—	58202	ⅢbM	完形	62.1	-10.2	31.6	0.3	13.3	-4.5	2.0	-0.5	57.7	-	Sa.		
—	—	58242	ⅢbM	完形	65.4	-6.9	24.1	-7.2	14.4	-3.4	2.7	0.2	39.5	○	Sa.		
—	—	58176	ⅢbM	完形	66.9	-5.4	36.7	5.4	24.7	6.9	1.8	-0.7	86.5	-	Sa.		
—	ⅢS1199	58508	ⅢbM	略完形	67.3	-5.0	24.4	-6.9	19.0	1.2	2.8	0.3	41.3	○	Sa.	他2点	
—	—	58141	ⅢbM	略完形	66.5	-5.8	23.6	-7.7	(15.3)	-33.1	2.8	0.3	45.7	○	Sa.		
Ⅱ-13-12	—	58206	ⅢbM	完形	65.4	-6.9	23.0	-8.3	16.1	-1.7	2.8	0.3	37.8	-	Sa.		
—	—	58132	ⅢbM	完形	68.9	-3.4	39.2	7.9	14.3	-3.5	1.8	-0.7	63.0	○	Sa.		
—	—	58286	ⅢbM	完形	68.4	-3.9	30.1	-1.2	16.9	-0.9	2.3	-0.2	54.4	-	Sa.		
Ⅱ-13-13	—	58195	ⅢbM	完形	69.7	-2.6	32.0	0.7	28.0	10.2	2.2	-0.3	65.0	-	Sa.		
—	—	58234	ⅢbM	略完形	71.4	-0.9	24.5	-6.8	18.4	0.6	2.9	0.4	45.3	○	Sa.		
Ⅱ-13-14	98-6	58155	ⅢbM	完形	70.4	-1.9	31.0	-0.3	15.0	-2.8	2.3	-0.2	58.8	○	Sa.		
—	—	58193	ⅢbM	完形	72.2	-0.1	29.4	-1.9	20.8	3.0	2.5	0.0	55.4	-	Sa.		
—	—	58177	ⅢbM	完形	71.2	-1.1	38.2	6.9	24.1	6.3	1.9	-0.6	82.9	○	Sa.		
Ⅱ-13-15	—	58286	ⅢbM	完形	73.1	0.8	38.5	7.2	22.0	4.2	1.9	-0.6	46.6	○	Sa.		
—	—	58191	ⅢbM	完形	73.1	0.8	34.8	3.5	13.2	-4.6	2.1	-0.4	77.8	○	Sa.		
Ⅱ-13-16	ⅢS1193	58253	ⅢbM	完形	73.6	1.3	29.2	-2.1	18.3	0.5	2.5	0.0	43.5	○	Sa.	他1点	
Ⅱ-13-17	—	58135	ⅢbM	完形	75.6	3.3	24.8	-6.5	17.6	-0.2	3.0	0.5	55.1	○	Sa.		
—	ⅢS1206	58246	ⅢbM	完形	73.5	1.2	30.1	-1.2	20.5	2.7	2.4	-0.1	43.1	○	Sa.	他1点	
—	—	58222	ⅢbM	完形	75.0	2.7	32.8	1.5	14.4	-3.4	2.3	-0.2	50.0	○	Sa.		
Ⅱ-13-18	ⅢS1192	58252	ⅢbM	完形	73.7	1.4	29.8	-1.5	26.4	8.6	2.5	0.0	87.8	○	Sa.	他1点	
Ⅱ-13-19	—	58268	ⅢbM	完形	73.2	0.9	25.9	-5.4	21.0	3.2	2.8	0.3	68.7	-	Sa.		
—	—	58224	ⅢbM	完形	74.4	2.1	45.7	14.4	13.7	-4.1	1.6	-0.9	73.5	○	Sa.		
—	—	58175	ⅢbM	完形	75.6	3.3	27.0	-4.3	17.1	-0.7	2.8	0.3	43.3	○	Sa.		
Ⅱ-13-20	—	58233	ⅢbM	完形	76.0	3.7	43.3	12.0	20.2	2.4	1.8	-0.7	79.1	○	Sa.		
—	ⅢS1191	58146	ⅢbM	完形	77.6	5.3	29.6	-1.7	24.9	7.1	2.6	0.1	68.9	○	Sa.	他1点	
Ⅱ-13-21	—	58200	ⅢbM	完形	77.3	5.0	34.3	3.0	22.4	4.6	2.3	-0.2	77.2	-	Sa.		
—	—	58131	ⅢbM	完形	76.6	4.3	13.1	-18.2	22.7	4.9	5.8	3.3	58.5	○	Mud.		
—	—	58227	ⅢbM	完形	79.2	6.9	22.9	-8.4	14.3	-3.5	3.5	1.0	31.2	○	Sa.		
—	ⅢS1197	58176	ⅢbM	略完形	79.6	7.3	21.8	-9.5	16.6	-1.2	3.7	1.2	29.4	○	Mud.	他2点	
—	ⅢS1196	58275	ⅢbM	完形	78.8	6.5	27.4	-3.9	9.5	-8.3	2.9	0.4	33.6	-	Sa.	他1点	
Ⅱ-13-22	—	58220	ⅢbM	完形	81.1	8.8	33.5	2.2	18.6	0.8	2.4	-0.1	70.3	○	Sa.		
—	—	58205	ⅢbM	完形	81.5	9.2	25.1	-6.2	16.4	-1.4	3.2	0.7	41.1	-	Sa.		
—	ⅢS1195	58271	ⅢbM	完形	86.0	13.7	30.4	-0.9	14.0	-3.8	2.8	0.3	54.2	-	Sa.	他1点	
Ⅱ-13-23	—	58156	ⅢbM	完形	79.1	6.8	35.3	4.0	13.0	-4.8	2.2	-0.3	52.9	○	Sa.		
—	—	58188	ⅢbM	完形	81.0	8.7	34.1	2.8	23.2	5.4	2.4	-0.1	85.3	○	Sa.		
—	—	58192	ⅢbM	完形	81.9	9.6	31.0	-0.3	28.2	10.4	2.6	0.1	122.6	○	Sa.		
—	—	58197	ⅢbM	完形	85.2	12.9	35.7	4.4	20.2	2.4	2.4	-0.1	97.9	-	Sa.		
—	—	58305	ⅢbM	完形	84.5	12.2	38.0	6.7	24.6	6.8	2.2	-0.3	111.0	-	Sa.		
—	—	58201	ⅢbM	完形	86.5	14.2	35.4	4.1	22.7	4.9	2.4	-0.1	106.3	-	Sa.		
Ⅱ-13-24	—	58147	ⅢbM	完形	89.4	17.1	30.9	-0.4	13.6	-4.2	2.9	0.4	45.8	○	Sa.		
—	—	58304	ⅢbM	完形	88.1	15.8	38.7	7.4	23.4	5.6	2.3	-0.2	84.7	-	Sa.		
—	—	58307	ⅢbM	完形	90.2	17.9	45.2	13.9	16.7	-1.1	2.0	-0.5	110.0	-	Sa.		
—	—	58219	ⅢbM	完形	91.1	18.8	37.6	6.3	30.4	12.6	2.4	-0.1	121.2	-	Sa.		

表II-17 III SB-27属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-	98-6	-	58187	IIIbM	完形	88.9	16.6	33.6	2.3	25.9	8.1	2.6	0.1	85.8	○	Sa.	
-		-	58484	IIIbM	完形	91.3	19.0	39.3	8.0	12.1	-5.7	2.3	-0.2	61.0	-	Sa.	
-		-	58137	IIIbM	完形	92.2	19.9	25.2	-6.1	20.5	2.7	3.7	1.2	66.7	○	Sa.	
-		-	58218	IIIbM	欠損	73.6	1.3	47.0	15.7	9.0	-8.8	1.6	-0.9	340.0	○	Sa.	
-		-	58223	IIIbM	完形	89.8	17.5	49.9	18.6	11.4	-6.4	1.8	-0.7	390.0	○	Mud.	
-		-	58165	IIIbM	完形	121.3	49.0	66.4	35.1	35.9	18.1	1.8	-0.7	760.0	○	Sa.	
平均						72.3		31.3		17.8		2.5		75.4			
												総点数	248点	※完形 70点			

表II-18 III SB-32属性表

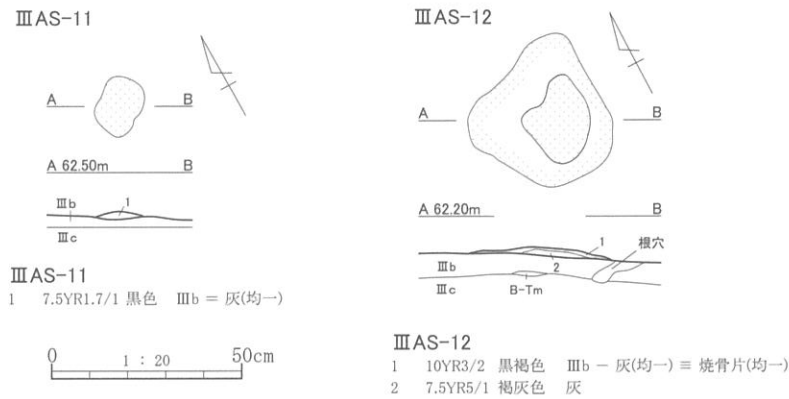
挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差							
II-14-27	99-1	-	57243	IIIbM	完形	36.7	-92.7	37.6	-31.2	8.6	-19.3	1.0	-1.0	18.4	-	Mud.		
II-14-28		-	57246	IIIbM	完形	61.3	-68.1	23.9	-44.9	18.2	-9.7	2.6	0.6	38.2	○	Mud.		
II-14-29		III S1292	57247	IIIbM	完形	76.9	-52.5	34.2	-34.6	23.9	-4.0	2.2	0.2	112.1	○	Sa.	他1点	
II-14-30		-	57242	IIIbM	完形	84.1	-45.3	43.6	-25.2	18.1	-9.8	1.9	-0.1	100.0	○	Sa.		
II-14-31		-	57239	IIIbM	完形	87.4	-42.0	38.1	-30.7	19.3	-8.6	2.3	0.3	87.6	○	Sa.		
II-14-32		III S1293	57248	IIIbM	略完形	88.3	-41.1	39.9	-28.9	28.7	0.8	2.2	0.2	114.9	○	Sa.	他2点	
II-14-33		-	57234	IIIbM	完形	132.5	3.1	67.4	-1.4	32.8	4.9	2.0	0.0	435.0	○	Sa.		
-		III S1291	57259	IIIbM	完形	196.0	66.6	118.6	49.8	27.1	-0.8	1.7	-0.3	1070.0	-	Sa.	他1点	
-		-	57266	IIIbM	完形	215.0	85.6	210.0	141.2	35.7	7.8	1.0	-1.0	2820.0	○	Sa.		
-		-	51270	IIIbM	完形	234.0	104.6	194.0	125.2	46.5	18.6	1.2	-0.8	3180.0	-	Sa.		
-		-	57849	IIIbM	完形	275.0	145.6	131.5	62.7	36.8	8.9	2.1	0.1	2400.0	-	Sa.		
-		-	57265	IIIbM	完形	300.0	170.6	80.3	11.5	39.4	11.5	3.7	1.7	1880.0	-	Sa.		
平均						148.9		84.9		27.9		2.0		1021.3				
												総点数	96点	※完形 12点				

表II-19 III SB-63属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
II-14-34	99-2	-	123732	IIIbM	完形	58.1	-20.4	30.6	-4.2	11.7	-8.9	1.9	-0.5	30.2	-	Sa.	
-		-	123883	IIIbM	完形	59.3	-19.2	29.8	-5.0	22.5	1.9	2.0	-0.4	61.7	-	Sa.	
II-14-35		-	123731	IIIbM	完形	59.9	-18.6	35.6	0.8	23.6	3.0	1.7	-0.7	65.9	-	Sa.	
-		-	123860	IIIbM	完形	62.9	-15.6	37.8	3.0	18.6	-2.0	1.7	-0.7	48.0	-	Sa.	
-		-	123836	IIIbM	完形	65.0	-13.5	35.1	0.3	17.3	-3.3	1.9	-0.5	54.1	-	Sa.	
-		-	123851	IIIbM	完形	63.6	-14.9	25.1	-9.7	21.4	0.8	2.5	0.1	56.0	-	Sa.	
II-14-36		-	123711	IIIbM	完形	61.4	-17.1	23.2	-11.6	16.5	-4.1	2.6	0.2	25.8	-	Sa.	
-		-	123840	IIIbM	完形	67.0	-11.5	25.6	-9.2	17.9	-2.7	2.6	0.2	50.8	-	Sa.	
-		-	123801	IIIbM	完形	65.2	-13.3	39.2	4.4	15.0	-5.6	1.7	-0.7	58.5	-	Sa.	
II-14-37		-	123719	IIIbM	完形	63.9	-14.6	28.9	-5.9	21.1	0.5	2.2	-0.2	58.5	-	Sa.	
-		-	123824	IIIbM	完形	64.5	-14.0	37.2	2.4	18.0	-2.6	1.7	-0.7	69.5	-	Sa.	
-		-	123843	IIIbM	完形	61.4	-17.1	32.9	-1.9	24.2	3.6	1.9	-0.5	75.5	-	Sa.	
-		-	123833	IIIbM	略完形	67.2	-11.3	33.9	-0.9	10.1	-10.5	2.0	-0.4	40.7	-	Sa.	
-		-	123886	IIIbM	略完形	68.5	-10.0	38.1	3.3	17.4	-3.2	1.8	-0.6	59.0	-	Sa.	
-		-	123890	IIIbM	完形	66.8	-11.7	32.5	-2.3	16.8	-3.8	2.1	-0.3	58.5	-	Sa.	
-		-	123749	IIIbM	完形	68.9	-9.6	33.2	-1.6	23.0	2.4	2.1	-0.3	67.0	-	Sa.	
II-14-38		-	123887	IIIbM	完形	70.5	-8.0	27.9	-6.9	12.7	-7.9	2.5	0.1	41.6	-	Sa.	
-		-	123699	IIIbM	完形	70.2	-8.3	32.9	-1.9	19.6	-1.0	2.1	-0.3	61.7	-	Sa.	
-		-	123786	IIIbM	完形	71.4	-7.1	24.7	-10.1	16.1	-4.5	2.9	0.5	41.4	-	Sa.	
-		-	123798	IIIbM	完形	71.3	-7.2	28.7	-6.1	22.3	1.7	2.5	0.1	46.4	-	Sa.	
-		-	123842	IIIbM	完形	71.7	-6.8	35.4	0.6	21.3	0.7	2.0	-0.4	75.1	-	Sa.	
II-14-39		-	123698	IIIbM	完形	70.8	-7.7	32.3	-2.5	17.0	-3.6	2.2	-0.2	62.8	-	Sa.	
-		-	123882	IIIbM	完形	70.9	-7.6	27.8	-7.0	22.6	2.0	2.6	0.2	70.0	-	Sa.	
-		-	123863	IIIbM	完形	71.2	-7.3	35.4	0.6	17.7	-2.9	2.0	-0.4	59.0	-	Sa.	
II-14-40		-	123751	IIIbM	完形	72.2	-6.3	36.0	1.2	16.6	-4.0	2.0	-0.4	53.5	-	Sa.	
-		-	123820	IIIbM	完形	73.0	-5.5	35.9	1.1	24.1	3.5	2.0	-0.4	70.8	-	Sa.	
-		-	123888	IIIbM	完形	72.0	-6.5	32.2	-2.6	24.1	3.5	2.2	-0.2	77.6	-	Sa.	
-		III S1280	123727	IIIbM	完形	74.0	-4.5	35.0	0.2	27.1	6.5	2.1	-0.3	75.3	-	Sa.	他2点
II-14-41		-	123791	IIIbM	完形	74.5	-4.0	39.1	4.3	13.9	-6.7	1.9	-0.5	64.0	-	Sa.	
II-14-42		-	123838	IIIbM	完形	74.9	-3.6	40.9	6.1	12.6	-8.0	1.8	-0.6	51.5	-	Sa.	
-		-	123752	IIIbM	完形	73.8	-4.7	40.3	5.5	26.1	5.5	1.8	-0.6	104.2	-	Sa.	

表 II-19 III SB-63属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
II-14-43	-	-	123892	IIIbM	完形	76.1	-2.4	27.2	-7.6	23.9	3.3	2.8	0.4	66.2	-	Sa.	
II-14-44	-	-	123736	IIIbM	完形	74.5	-4.0	31.5	-3.3	21.6	1.0	2.4	0.0	55.3	-	Sa.	
-	-	-	123734	IIIbM	完形	76.8	-1.7	34.8	0.0	17.0	-3.6	2.2	-0.2	64.9	-	Sa.	
-	-	-	123852	IIIbM	完形	74.9	-3.6	27.7	-7.1	17.0	-3.6	2.7	0.3	54.7	-	Sa.	
-	-	-	123705	IIIbM	完形	75.5	-3.0	35.0	0.2	20.4	-0.2	2.2	-0.2	67.6	-	Sa.	
II-14-45	-	-	123857	IIIbM	完形	76.6	-1.9	19.5	-15.3	18.0	-2.6	3.9	1.5	42.2	-	Sa.	
II-14-46	-	-	123855	IIIbM	完形	75.4	-3.1	28.7	-6.1	17.5	-3.1	2.6	0.2	56.5	-	Sa.	
-	-	-	123757	IIIbM	略完形	76.3	-2.2	42.6	7.8	17.8	-2.8	1.8	-0.6	70.4	-	Sa.	
-	-	-	123721	IIIbM	完形	74.9	-3.6	41.5	6.7	20.9	0.3	1.8	-0.6	100.0	-	Sa.	
-	-	-	123709	IIIbM	完形	75.6	-2.9	28.0	-6.8	14.4	-6.2	2.7	0.3	39.9	-	Sa.	
-	-	-	123745	IIIbM	完形	72.0	-6.5	27.2	-7.6	20.7	0.1	2.6	0.2	67.2	-	Mud.	
-	-	-	123795	IIIbM	完形	75.5	-3.0	27.5	-7.3	15.3	-5.3	2.7	0.3	67.8	-	Sa.	
-	-	-	123793	IIIbM	略完形	71.2	-7.3	35.9	1.1	20.5	-0.1	2.0	-0.4	78.9	-	Sa.	
II-14-48	-	-	123872	IIIbM	完形	76.7	-1.8	37.3	2.5	19.5	-1.1	2.1	-0.3	87.5	-	Sa.	
-	-	-	123695	IIIbM	完形	72.4	-6.1	37.1	2.3	25.4	4.8	2.0	-0.4	94.8	-	Sa.	
II-14-42	-	-	123799	IIIbM	完形	77.1	-1.4	42.9	8.1	22.1	1.5	1.8	-0.6	95.7	-	Sa.	
-	-	-	123891	IIIbM	完形	79.2	0.7	39.7	4.9	16.9	-3.7	2.0	-0.4	78.3	-	Sa.	
II-14-49	-	-	123758	IIIbM	完形	80.7	2.2	36.3	1.5	19.4	-1.2	2.2	-0.2	86.9	-	Sa.	
-	-	III S1267	123717	IIIbM	完形	78.5	0.0	39.0	4.2	33.5	12.9	2.0	-0.4	121.5	-	Sa.	他1点
-	-	-	123724	IIIbM	完形	80.7	2.2	37.8	3.0	26.2	5.6	2.1	-0.3	102.6	-	Sa.	
II-14-50	-	-	123794	IIIbM	完形	78.4	-0.1	38.8	4.0	21.8	1.2	2.0	-0.4	90.0	-	Sa.	
-	-	III S1278	123790	IIIbM	略完形	75.2	-3.3	37.1	2.3	26.3	5.7	2.0	-0.4	76.1	-	Mud.	他2点
-	-	-	123800	IIIbM	完形	78.5	0.0	34.1	-0.7	14.6	-6.0	2.3	-0.1	56.2	-	Sa.	
-	-	-	123697	IIIbM	完形	76.4	-2.1	25.5	-9.3	24.4	3.8	3.0	0.6	81.0	-	Sa.	
-	-	-	123789	IIIbM	完形	82.5	4.0	34.5	-0.3	14.7	-5.9	2.4	0.0	59.4	-	Sa.	
II-24-57	99-2	-	123837	IIIbM	完形	83.0	4.5	32.4	-2.4	19.7	-0.9	2.6	0.2	71.3	-	Sa.	
-	-	-	123766	IIIbM	完形	83.5	5.0	30.8	-4.0	19.1	-1.5	2.7	0.3	79.2	-	Sa.	
-	-	III S1275	123710	IIIbM	完形	84.2	5.7	26.3	-8.5	16.9	-3.7	3.2	0.8	57.9	-	Sa.	他1点
II-14-52	-	-	123797	IIIbM	完形	85.4	6.9	28.8	-6.0	26.9	6.3	3.0	0.6	85.1	-	Sa.	
-	-	-	123856	IIIbM	完形	83.7	5.2	36.6	1.8	24.5	3.9	2.3	-0.1	117.6	-	Sa.	
-	-	-	123862	IIIbM	完形	85.5	7.0	43.3	8.5	25.2	4.6	2.0	-0.4	112.6	-	Sa.	
II-14-53	-	-	123714	IIIbM	完形	87.1	8.6	29.9	-4.9	14.7	-5.9	2.9	0.5	36.9	-	Sa.	
-	-	-	123854	IIIbM	完形	84.4	5.9	37.7	2.9	13.8	-6.8	2.2	-0.2	68.3	-	Sa.	
II-14-54	-	-	123844	IIIbM	完形	88.4	9.9	31.5	-3.3	18.8	-1.8	2.8	0.4	66.2	-	Sa.	
-	-	-	123825	IIIbM	完形	86.1	7.6	30.5	-4.3	23.5	2.9	2.8	0.4	98.9	-	Sa.	
-	-	-	123861	IIIbM	完形	87.7	9.2	41.6	6.8	14.6	-6.0	2.1	-0.3	82.0	-	Sa.	
-	-	-	123723	IIIbM	完形	87.7	9.2	46.1	11.3	23.4	2.8	1.9	-0.5	166.6	-	Sa.	
-	-	-	123873	IIIbM	完形	87.2	8.7	31.0	-3.8	17.6	-3.0	2.8	0.4	85.4	-	Sa.	
-	-	-	123739	IIIbM	完形	85.6	7.1	27.6	-7.2	21.8	1.2	3.1	0.7	106.9	-	Sa.	
-	-	-	123826	IIIbM	完形	90.6	12.1	25.7	-9.1	20.0	-0.6	3.5	1.1	87.9	-	Sa.	
-	-	-	123747	IIIbM	完形	91.0	12.5	30.7	-4.1	27.4	6.8	3.0	0.6	102.0	-	Sa.	他1点
-	-	-	123811	IIIbM	完形	94.8	16.3	27.8	-7.0	16.0	-4.6	3.4	1.0	54.4	-	Sa.	
-	-	-	123858	IIIbM	完形	93.7	15.2	46.3	11.5	23.1	2.5	2.0	-0.4	131.4	-	Sa.	
-	-	-	123702	IIIbM	完形	92.4	13.9	39.4	4.6	20.6	0.0	2.3	-0.1	105.0	-	Sa.	
-	-	-	123803	IIIbM	完形	91.5	13.0	30.0	-4.8	19.3	-1.3	3.1	0.7	75.9	-	Sa.	
-	-	-	123804	IIIbM	完形	92.2	13.7	40.3	5.5	15.5	-5.1	2.3	-0.1	78.4	-	Sa.	
-	-	-	123703	IIIbM	完形	95.9	17.4	32.5	-2.3	18.5	-2.1	3.0	0.6	80.4	-	Sa.	
-	-	-	123738	IIIbM	完形	102.1	23.6	39.1	4.3	29.7	9.1	2.6	0.2	155.3	-	Sa.	
-	-	-	123848	IIIbM	完形	108.3	29.8	32.3	-2.5	31.9	11.3	3.4	1.0	210.0	-	Sa.	
-	-	III S1281	123857	IIIbM	欠損	110.3	31.8	95.9	61.1	45.5	24.9	1.2	-1.2	570.0	-	Sa.	他1点
平均						78.5		34.8		20.6		2.4		82.3			
												総点数 249点		※完形 80点			



図II-15 灰集中 11・12 (IIIAS-11・12)

表II-20 IIIAS-11・12属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-15	—	IIIAS-11	AA-16	IIIbM	楕円形	15	11	2	灰	
II-15	9-7	IIIAS-12	AA-16・17	IIIbM	不整形	40	38	2	灰・骨	

灰集中 11 [IIIAS-11] (図II-15)

位置：AA-16区 規模：15×11×2cm

確認・調査：AA-16区のIIIb層を掘削した際、土壌化した灰の分布を確認した。平面形の記録後、堆積状態確認のためトレンチを入れた。下位に焼土を確認できなかったため投棄された灰と判断し、IIIAS-11として設定した。

堆積状態：IIIAS-11の灰は土壌化の進行により、極めて薄い。灰層の厚さは約2cmで、下底面はやや窪んでいる。

灰集中 12 [IIIAS-12] (図II-15 図版9-7・8)

位置：AA-16・17区 規模：40×38×2cm

確認・調査：IIIb層調査の際、AA-17区杭の脇で未被熱のシカ遺存体と小規模な灰の集積を検出した。平面形の記録後、堆積状態確認のためトレンチを入れた結果、下位に比較的良好な灰集中を確認した。焼土は形成されていなかったため、投棄された灰と判断しIIIAS-12として設定した。

堆積状態：IIIAS-12は上位に土壌化した灰層が堆積し、その下位で良好な灰が僅かに残存していた。灰層の下底面はほぼ水平で、最大で厚さ3cmを測る。

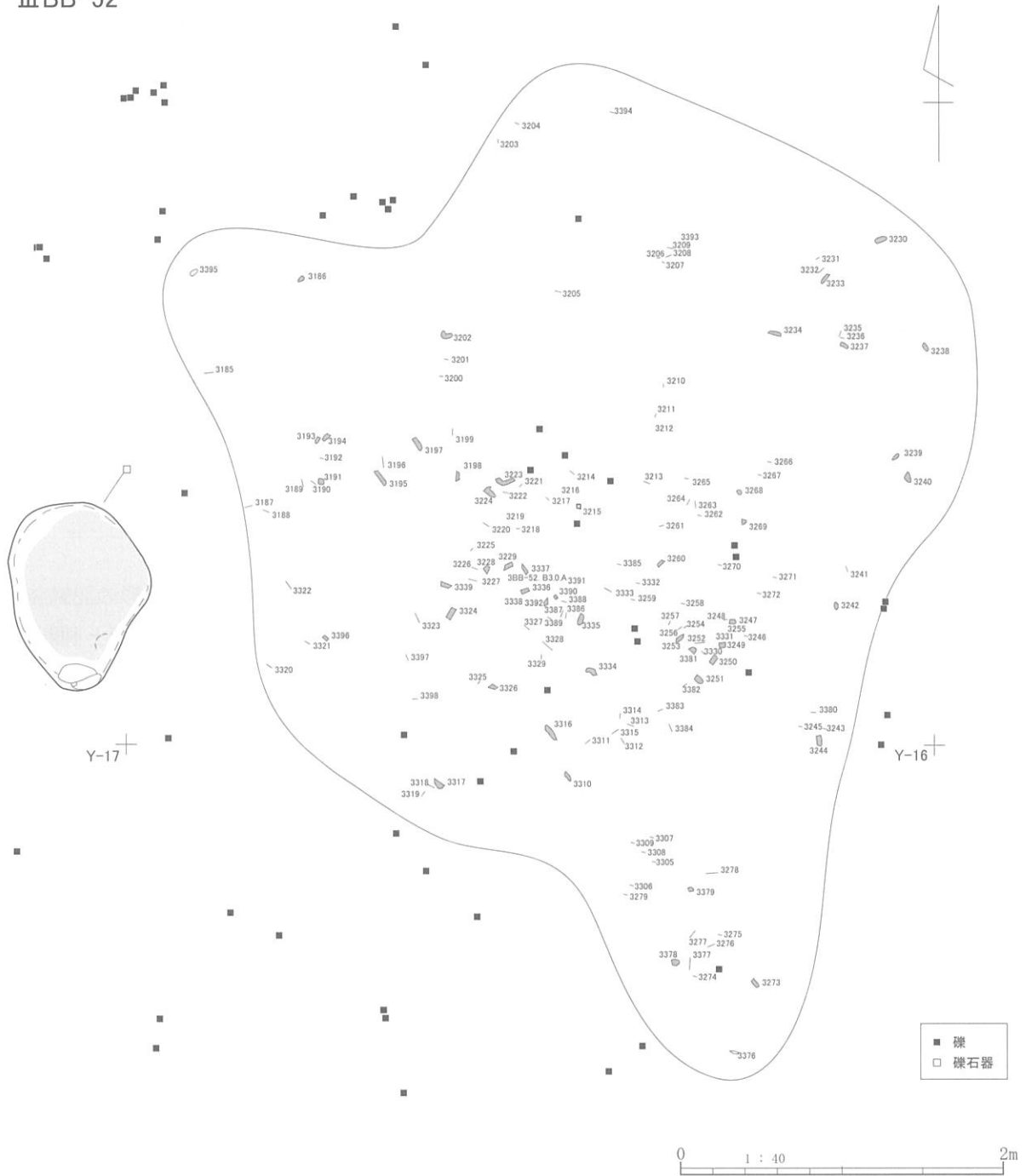
獣骨集中 52 [III BB-52] (図II-16・17 図版9-1~4)

位置：X・Y-15・16区 主体検出層位：IIIbM

規模：668×500cm 主要動物/部位：シカ・頭蓋骨および四肢骨

確認・調査：本獣骨集中は、IIIH-09北東側のIIIb層調査時に検出した。検出地点はT₂-T₃段丘崖裾の低みに位置し、IIIb層が厚く堆積していたためIIIH-09付属炉よりも獣骨検出のタイミングがやや遅れた。しかし検出位置を考慮すると、平成17年度に調査したIIIH-02に伴う獣骨集中III BB-03と同様、住居址に関連する獣骨集中と考えられる。遺存状態が悪かったため、獣骨番号を付番し写真撮影した後は、状態の良いもののみを取り上げ、他は廃棄した。

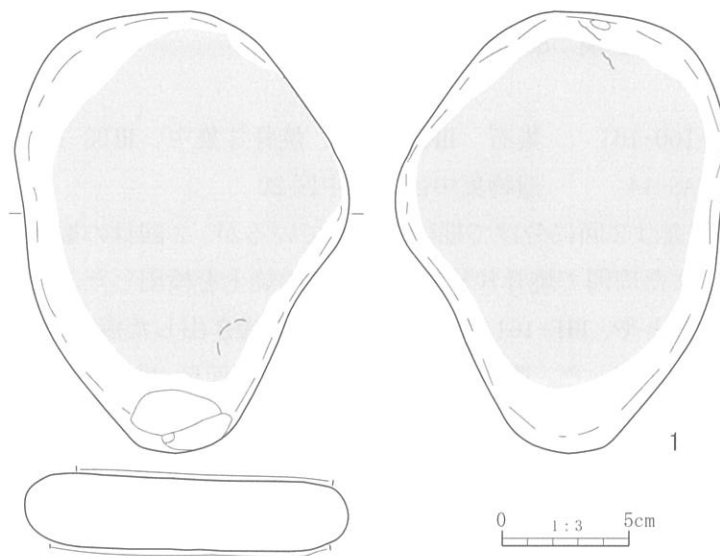
ⅢBB-52



図Ⅱ-16 獣骨集中 52(ⅢBB-52) 平面図

表Ⅱ-21 ⅢBB-52属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備 考
						長軸	短軸				
Ⅱ-16	9-1~4	ⅢBB-52	Y・Z-16・17	ⅢbM	不整形	668	500	頭骨・四肢骨	—	ⅢH-09	



図II-17 III BB-52 出土遺物

表II-22 III BB-52出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-17-1	-	-	123589	滑沢面のある礫	-	III bM	-	Y-16	174.0	132.0	29.0	1160.0	Mud.	

出土状態(図II-16)：獣骨は668×500cmの範囲で出土しているが、その中心の概ね200cm四方の範囲で特に密集している。遺存状態の良好な資料も密集範囲内で検出されており、本来小規模であった集中が遺跡形成過程で移動、拡散したものと考えられる。

獣骨の特徴：出土した獣骨は遺存状態が悪く、部位の同定が可能なものは極めて少なかった。同定し得た資料をみると、四肢骨、臼歯等様々な部位が認められ、特定部位に偏るといった傾向はない。この点も平成17年度に調査したIII BB-03と類似している。

出土遺物(図II-17)：1は獣骨集中の周囲で出土した礫石器で、扁平礫を素材とし、表裏の平坦面に滑沢面が形成されている。

10号平地式住居址周辺の概況(図II-18)

10号平地式住居址はT₂の南東端付近に位置する。付属炉検出が2回目のIII b掘削段階であったため、当初擦文文化期の焼土と考えていたが、この周辺からは擦文土器片が出土していないことや、出土した遺物とB-Tmとの間にIII bの黒色土が堆積していたことから、アイヌ文化期の遺構として判断した。ただし検出面が低いため、アイヌ文化期の中でも特に古い時期に属すると考えられる。この点については第七章1節のAMS年代測定結果からも追認できる。住居址周辺では灰集中や、遺物集中区(集中区20)を検出しているが、いずれも住居址と同様に検出面が低く、古い段階のアイヌ文化期に属する遺構・遺物群である。

10号平地式住居址〔ⅢH-10〕 (図Ⅱ-19～21 図版10・11-1・2)

位置：AD・AE-14・15区 規模：830×—cm

長軸方向：N-47° E

付属遺構：炉跡 ⅢF-160・161 集石 ⅢSB-31 焼骨片集中 ⅢBB-16

関連遺構：灰集中 ⅢAS-14 遺物集中区 集中区20

確認・調査：Ⅲb層の調査は2回に分けて掘削を行っているが、2回目の掘削時にAD・AE-14・15区において集石が出土し、また周囲で焼骨片集中と2ヵ所の焼土を検出した。焼土が北東—南西方向に並列する配置であったことや、ⅢF-161において炉の灰を掻き出した痕跡が認められたことから、住居址に伴う炉の可能性を想定した。遺物の出土状態、炉の平面形・堆積状態の記録を行った後、柱穴確認に努めたが、検出できたのはⅢKP-144の1ヵ所のみであった。住居址プランを形成する配列は確認できなかったが炉と集石の配置を考慮し、報告書作成段階において10号平地式住居址として設定した。

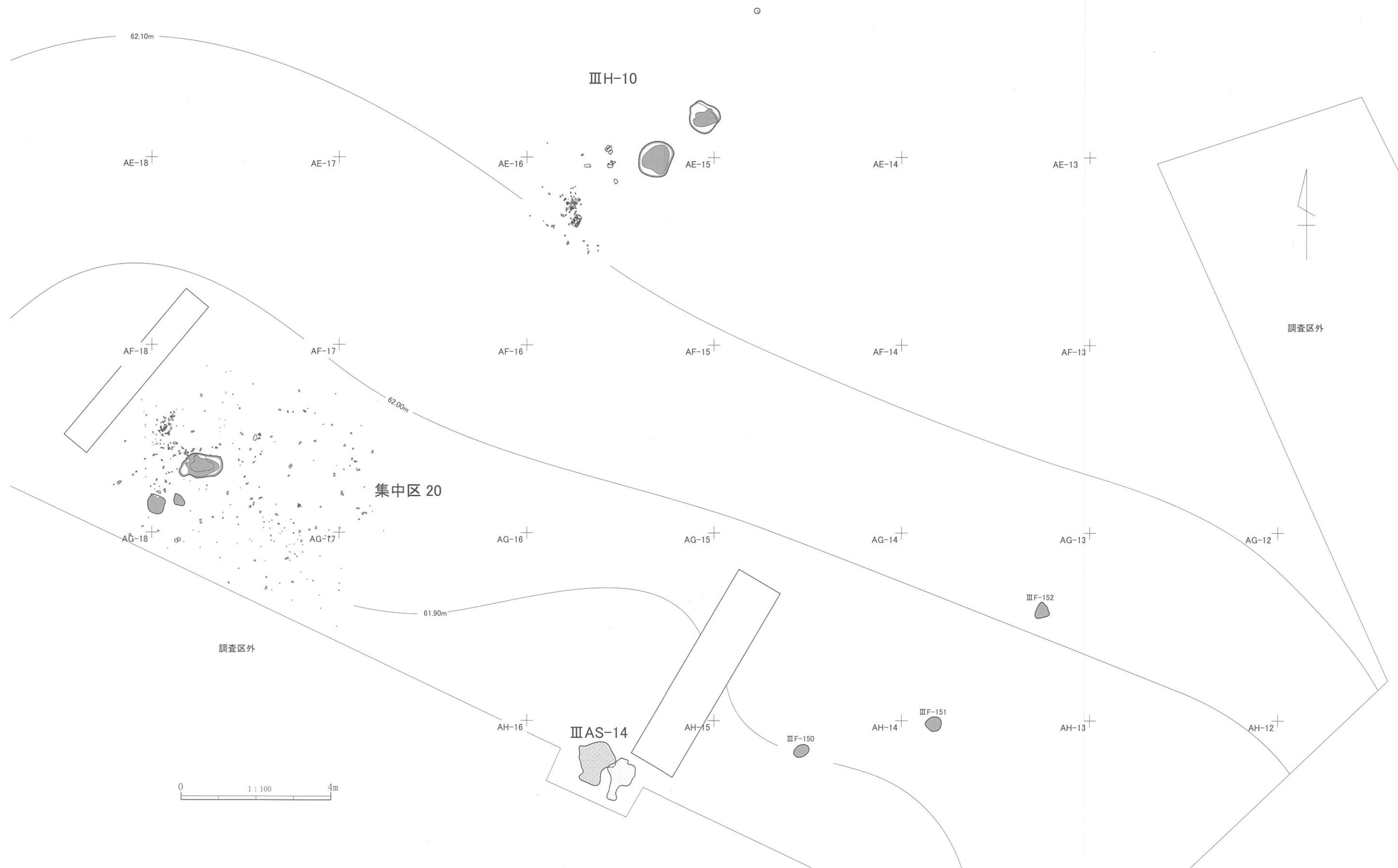
付属炉(図Ⅱ-20)：付属炉はⅢF-160・161の2ヵ所である。ⅢF-160は、不整楕円形で、上位に焼骨片を含む土壌が堆積していたが、明瞭な灰は確認できなかった。また周囲の古い風倒木の影響で焼土中にTa-d2Pとシルト岩片が多く含まれていた。ⅢF-161は検出時焼土中央にⅢbが大きく落込んでいた。当初根による攪乱と考えたが、断面を観察したところ下位に良好な焼土層が認められたため、根の攪乱ではなく元々の焼土面の窪みと判断した。上位のⅢb層と焼土面との間は境が明瞭であり、Ⅲb層中に焼土粒も含まれていたことから人為的な攪乱が行われたと考えられ、灰の掻き出しを行った焼土と判断した。土壌サンプルからはⅢF-160・161共にサケ属を主体とする骨が得られ、またⅢF-160ではムギ類の炭化種子も得ている。

柱穴(図Ⅱ-20)：ⅢKP-144の1本のみを検出した。AD-14区の精査を繰り返し、ジョレンでV層上面付近まで下げた際に確認した。柱穴内覆土は上位にIV層、下位にⅢc層が堆積し、しまりは弱い。覆土の違いからも古いアイヌ文化期の所産と思われる。

焼骨片集中(図Ⅱ-19)：ⅢF-160・161の東側で確認した。大小3つのブロックに分かれており、最も規模の大きいブロックで160×87cmを測る。付属炉よりも高い面で検出しており、炉に伴う焼骨片が浮遊し拡散した可能性が高い。

遺物出土状態(図Ⅱ-19)：床面遺物の分布はⅢSB-31が位置する南西側で密度が高いが、炉跡を中心とする範囲で礫、及び鉄製品が少数出土している。ⅢF-160では焼土面直上で帯金具が出土した。ⅢSB-31は棒状礫を主体とする集石であるが、板状の大型礫も構成礫中に数点含まれている。

出土遺物(図Ⅱ-20)：1は扁平礫を素材とし、平坦面にやや大きく窪む敲打痕が形成されたたたき石である。2・3はⅢSB-31で出土したもので、共に滑沢面と敲打痕が形成された礫である。2は板状礫、3は角柱状礫を素材としている。4は棟区が未形成で茎断面が方形の刀子、5は出土時環状を呈していた鉄製品で、厚さ1mmの幅広い鉄板を巻いたものである。締金具や腕輪等の性格が考えられる。6は楕円形に巻かれた帯金具である。錆で固着しているが、端部の合わせ目が認められる。7～17はⅢSB-31で出土した礫である。棒状礫のみの長軸長平均値は61.8mmで、やや小型の礫が中心となっている。



図II-18 10号平地式住居址周辺平面図

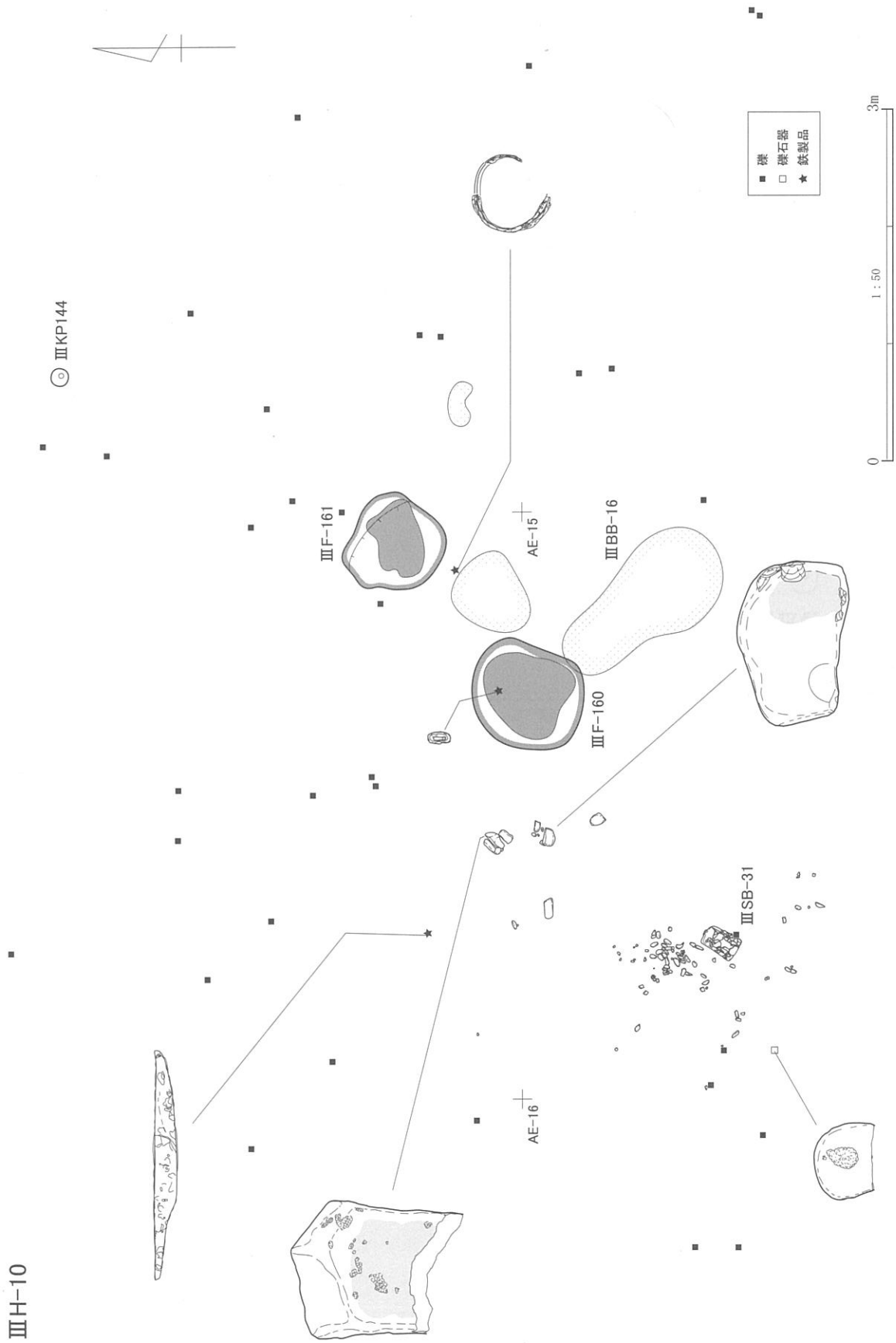


图 II-19 10号平地式住居址(IIIH-10)平面图

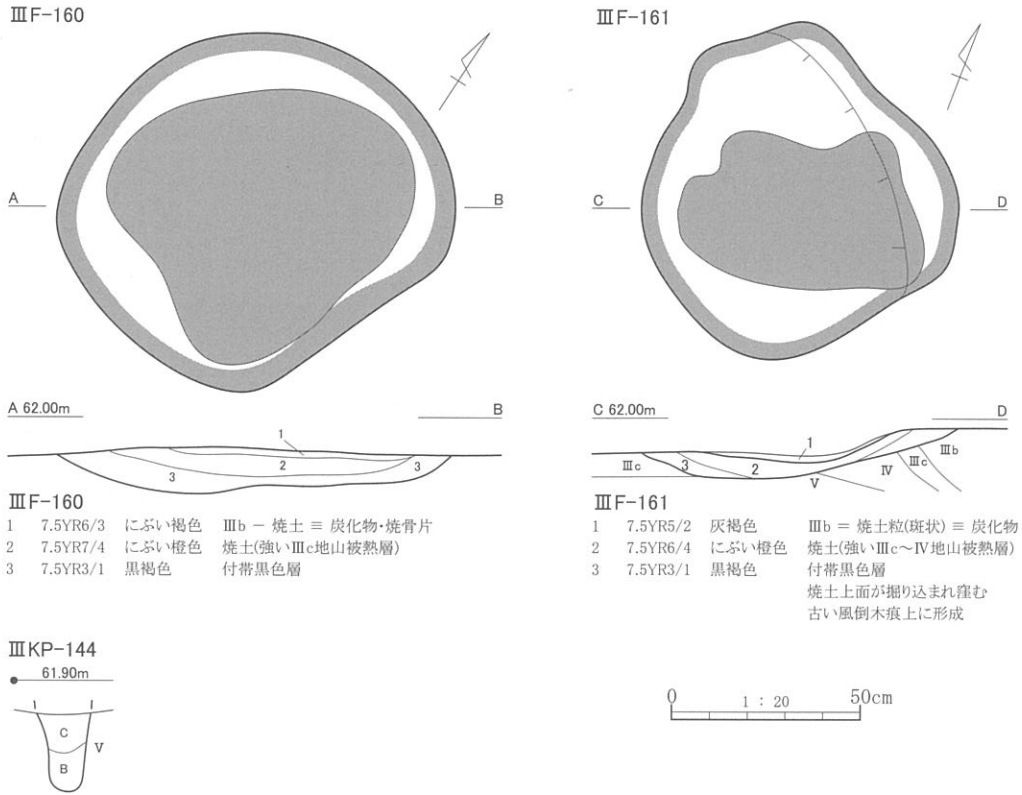


図 II-20 10号平地式住居址付属遺構

表 II-23 III H-10属性表

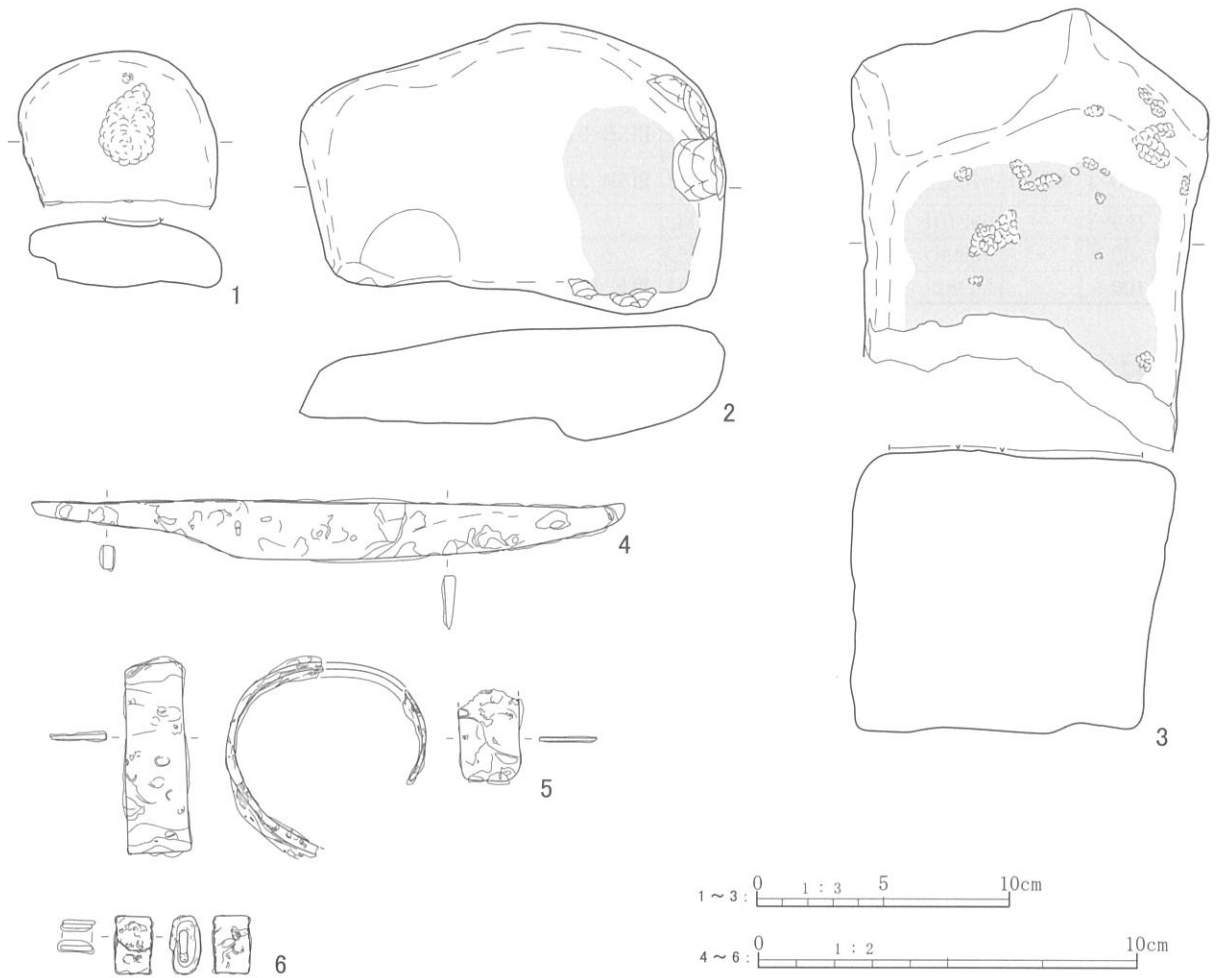
挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸 方向	規模 (cm)				柱穴 本数			付属遺構
						主体部		付属部		主体	付属	他	
						長軸	短軸	長軸	短軸				
II-19	10-1	III H-10	AD・AE-14・15	III bM	N47° E	830	-	-	-	1	-	-	III F-160・161, III SB-31

表 II-24 III H-10付属炉属性表

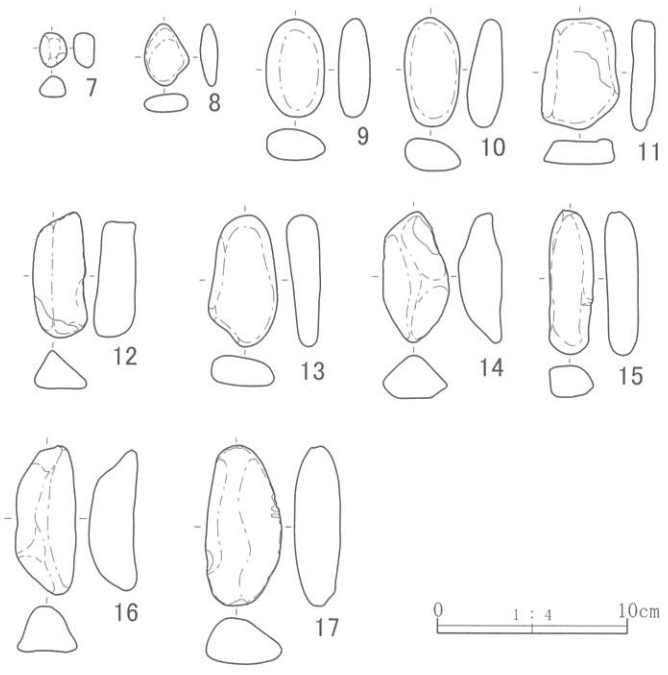
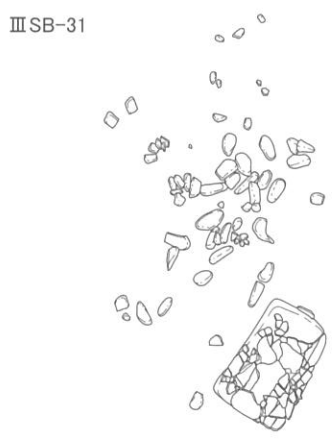
挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-20	10-2・3	III F-160	AE-15	III bL	楕円形	105	96	12	-	
II-20	10-4・5	III F-161	AD-15	III bL	楕円形	94	90	6	-	

表 II-25 III H-10柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-19	11-2	III KP-144	13	7	19	3°	打込み	



III SB-31



図II-21 10号平地式住居址出土遺物

表Ⅱ-26 ⅢH-10出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-21-1	100-1	-	56293	たたき石	Ⅳ	ⅢbM	-	AE-15	61.0	78.0	26.0	180.0	Sa.	
Ⅱ-21-2	100-3	-	57629	滑沢面と 敲打痕のある礫	Ⅰ	ⅢbM	ⅢSB-31	AE-15	115.0	168.0	44.0	1150.0	Sa.	
Ⅱ-21-3	100-4	ⅢS1281	57637	滑沢面と 敲打痕のある礫	-	ⅢbM	ⅢSB-31	AE-15	(175.0)	142.0	111.0	3600.0	Sa.	
Ⅱ-21-4	100-5	-	59210	刀子	-	ⅢbL	-	AD-15	156.0	17.0	4.0	18.3	Irn.	
Ⅱ-21-5	100-6	-	56596	締金具?	-	ⅢbL	-	AD-15	(53.0)	18.0	7.3	10.8	Irn.	
Ⅱ-21-6	100-7	-	56981	帯金具	-	ⅢcM	ⅢF-160	AD-15	15.5	10.5	9.0	1.7	Irn.	

表Ⅱ-27 ⅢSB-31属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
Ⅱ-21-7	-	-	57562	ⅢbM	完形	18.5	-54.1	13.4	-24.4	10.9	-9.2	1.4	-0.6	3.4	-	Sa.		
-	-	-	57630	ⅢbM	完形	22.2	-50.4	15.7	-22.1	7.8	-12.3	1.4	-0.6	3.6	○	Sa.		
Ⅱ-21-8	-	-	57605	ⅢbM	完形	32.1	-40.5	23.4	-14.4	9.2	-10.9	1.4	-0.6	7.4	-	Sa.		
-	-	-	57557	ⅢbM	完形	37.0	-35.6	22.5	-15.3	9.7	-10.4	1.6	-0.4	10.0	-	Sa.		
-	-	-	57574	ⅢbM	完形	47.3	-25.3	31.4	-6.4	18.0	-2.1	1.5	-0.5	39.5	-	Sa.		
Ⅱ-21-9	-	-	57550	ⅢbM	完形	52.1	-20.5	31.1	-6.7	16.2	-3.9	1.7	-0.3	33.8	-	Sa.		
-	-	-	57580	ⅢbM	完形	52.3	-20.3	34.7	-3.1	12.5	-7.6	1.5	-0.5	29.4	-	Sa.		
-	-	-	57579	ⅢbM	完形	54.9	-17.7	31.4	-6.4	17.3	-2.8	1.7	-0.3	39.9	-	Sa.		
-	-	-	57603	ⅢbM	完形	57.8	-14.8	34.5	-3.3	25.0	4.9	1.7	-0.3	71.6	-	Sa.		
Ⅱ-21-10	-	-	57554	ⅢbM	完形	57.5	-15.1	28.7	-9.1	16.3	-3.8	2.0	0.0	36.9	-	Sa.		
Ⅱ-21-11	-	-	57557	ⅢbM	完形	57.9	-14.7	39.9	2.1	12.5	-7.6	1.5	-0.5	42.9	-	Sa.		
-	-	ⅢS1286	57594	ⅢbM	完形	60.7	-11.9	35.2	-2.6	17.8	-2.3	1.7	-0.3	62.7	-	Sa.	他2点	
Ⅱ-21-12	-	ⅢS1282	57606	ⅢbM	完形	64.8	-7.8	27.3	-10.5	25.4	5.3	2.4	0.4	43.1	○	Sa.	他1点	
-	-	-	57610	ⅢbM	完形	64.9	-7.7	37.1	-0.7	20.6	0.5	1.7	-0.3	66.9	-	Sa.		
-	-	-	57609	ⅢbM	完形	67.9	-4.7	43.6	5.8	12.9	-7.2	1.6	-0.4	57.0	-	Sa.		
Ⅱ-21-13	-	-	57614	ⅢbM	完形	69.4	-3.2	34.0	-3.8	15.2	-4.9	2.0	0.0	41.2	○	Sa.		
-	-	-	57602	ⅢbM	完形	68.5	-4.1	32.0	-5.8	22.5	2.4	2.1	0.1	66.1	○	Sa.		
Ⅱ-21-14	-	ⅢS1285	57558	ⅢbM	略完形	69.1	-3.5	31.1	-6.7	22.8	2.7	2.2	0.2	43.4	○	Sa.	他1点	
-	-	-	57378	ⅢbM	完形	68.2	-4.4	23.4	-14.4	17.7	-2.4	2.9	0.9	45.1	○	Sa.		
-	-	-	57593	ⅢbM	完形	73.8	1.2	28.7	-9.1	25.3	5.2	2.6	0.6	70.6	-	Sa.		
-	-	-	57626	ⅢbM	完形	74.3	1.7	32.3	-5.5	25.7	5.6	2.3	0.3	67.2	-	Sa.		
-	-	-	57589	ⅢbM	完形	77.6	5.0	26.1	-11.7	18.7	-1.4	3.0	1.0	53.8	-	Sa.		
-	-	-	57590	ⅢbM	完形	78.3	5.7	42.2	4.4	18.6	-1.5	1.9	-0.1	81.9	-	Sa.		
Ⅱ-21-15	-	-	57607	ⅢbM	完形	76.2	3.6	22.7	-15.1	16.1	-4.0	3.4	1.4	41.9	-	Sa.		
Ⅱ-21-16	-	-	57572	ⅢbM	完形	78.7	6.1	31.5	-6.3	23.6	3.5	2.5	0.5	64.2	-	Sa.		
-	-	-	57560	ⅢbM	完形	78.6	6.0	25.8	-12.0	16.0	-4.1	3.0	1.0	50.1	-	Sa.		
-	-	-	57548	ⅢbM	完形	86.1	13.5	36.9	-0.9	18.0	-2.1	2.3	0.3	61.4	-	Mud.		
Ⅱ-21-17	-	-	57639	ⅢbM	完形	83.7	11.1	39.3	1.5	24.4	4.3	2.1	0.1	94.3	-	Sa.		
-	-	-	57635	ⅢbM	完形	133.5	60.9	61.4	23.6	60.0	39.9	2.2	0.2	985.0	-	Gra.		
-	-	-	57579	ⅢbM	完形	315.0	242.4	216.0	178.2	45.3	25.2	1.5	-0.5	4800.0	-	Sa.		
平均						72.6		37.8		20.1		2.0		237.1				
													総点数	104点	※完形	30点		

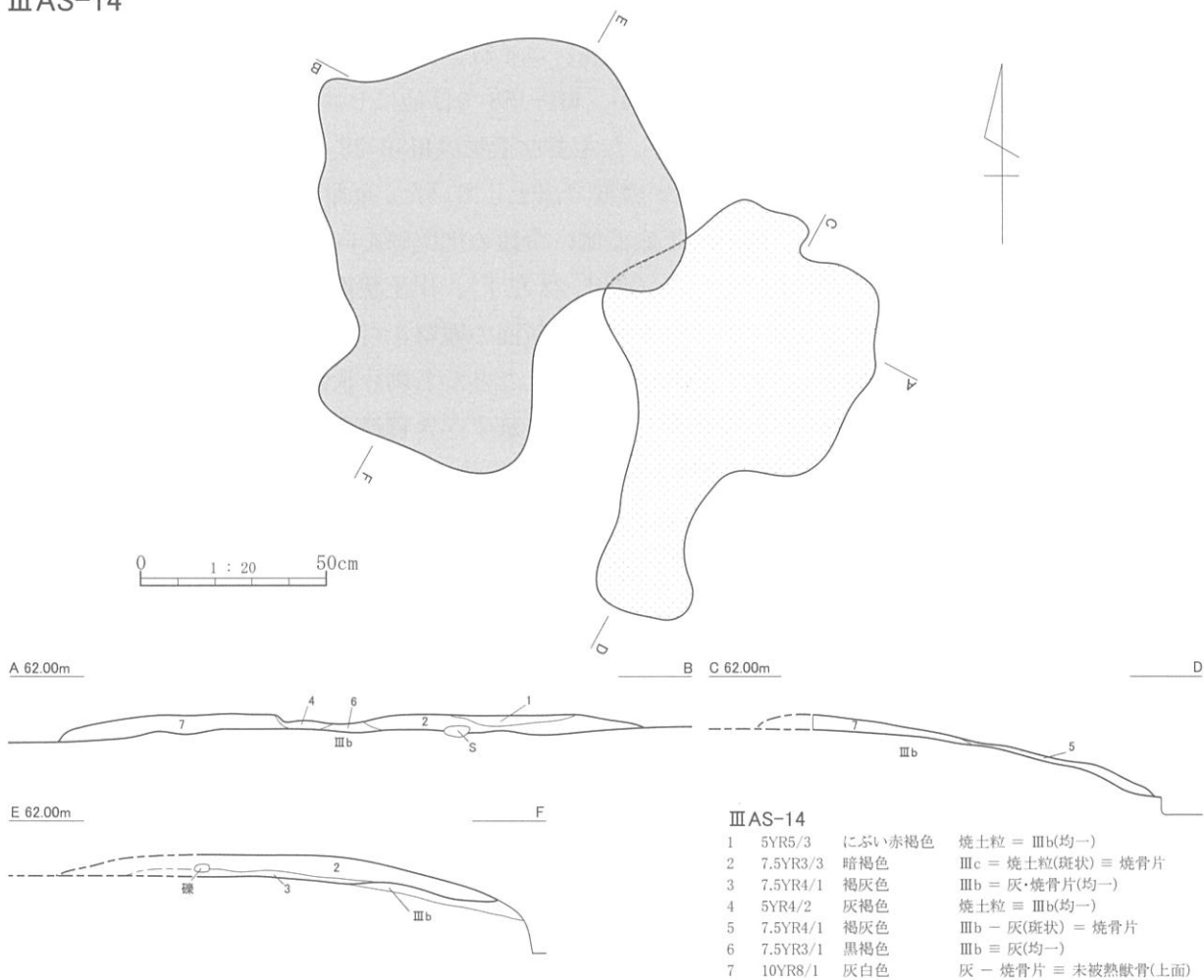
灰集中 14〔ⅢAS-14〕 (図Ⅱ-22 図版 11-3・4)

位置：AH-15区 規模：114×66×7cm

確認・調査：AH-15区のⅢb層調査の際、T₂縁辺の調査区外にまたがる位置で灰の集積を検出した。調査は発掘区内にかかっている範囲を先行して進め、その後発掘区を拡張し、残りの範囲の記録を行った。灰集中はT₀-T₂段丘崖に一部かかっており、灰の一部が斜面下方に向けて流れ落ちていた。また本遺構は灰集中のみでなく、Ⅲcと焼土粒から成るブロックも形成されていた。調査は灰集中部分、焼土粒集中部分それぞれの記録を作成し、土壌サンプルを採取している。

堆積状態：ⅢAS-14は東側の灰集中部分と、西側の焼土粒集中部分の2つにブロックが分かれる。共に約7cmの厚さで堆積し、灰集中は焼土粒集中の一部を被覆している。灰集中部分では上位に少数の未被熱シカ遺存体が出土し、また斜面下に向けては土壌化した灰が流れ出していた。焼土粒集中はⅢc主体土の焼土粒が堆積していた。

ⅢAS-14



図Ⅱ-22 灰集中 14(ⅢAS-14)

表Ⅱ-28 ⅢAS-14属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-22	11-3・4	ⅢAS-14	AH-15	ⅢbM	不整形	114	66	7	灰	

集中区 20 (図 II-23~25 図版 11-5, 12-1~6)

位置: AF・AG-16~18 区 規模: 950×850cm 層位: IIIbM

関連遺構: 焼土 IIIF-157~159 集石: III SB-28

確認・調査: 10号平地式住居址南西のIIIb層を調査中、やや大型の鉄製品の一部を確認した。製品の大半が土中に埋まっていたため、その場では全体の形状を把握できなかった。2回目のIIIb層掘削時、鉄製品以外に周囲で多数の礫が出土した他、3ヵ所の焼土を検出した。焼土は平面形・堆積状態を記録し、土壌サンプルを採取した。集石は出土状態のデジタル写真実測を委託し、取り上げを行った。また当初より確認していた鉄製品は、全体を検出した結果金鉗と半製品の2つが重なって出土したことから、出土状態の図面を作成した上で取り上げを行った。2回目のIIIb層掘削で検出しているため、IIIH-10と同様アイヌ文化期でもかなり古い時期の集中区と考えられる。

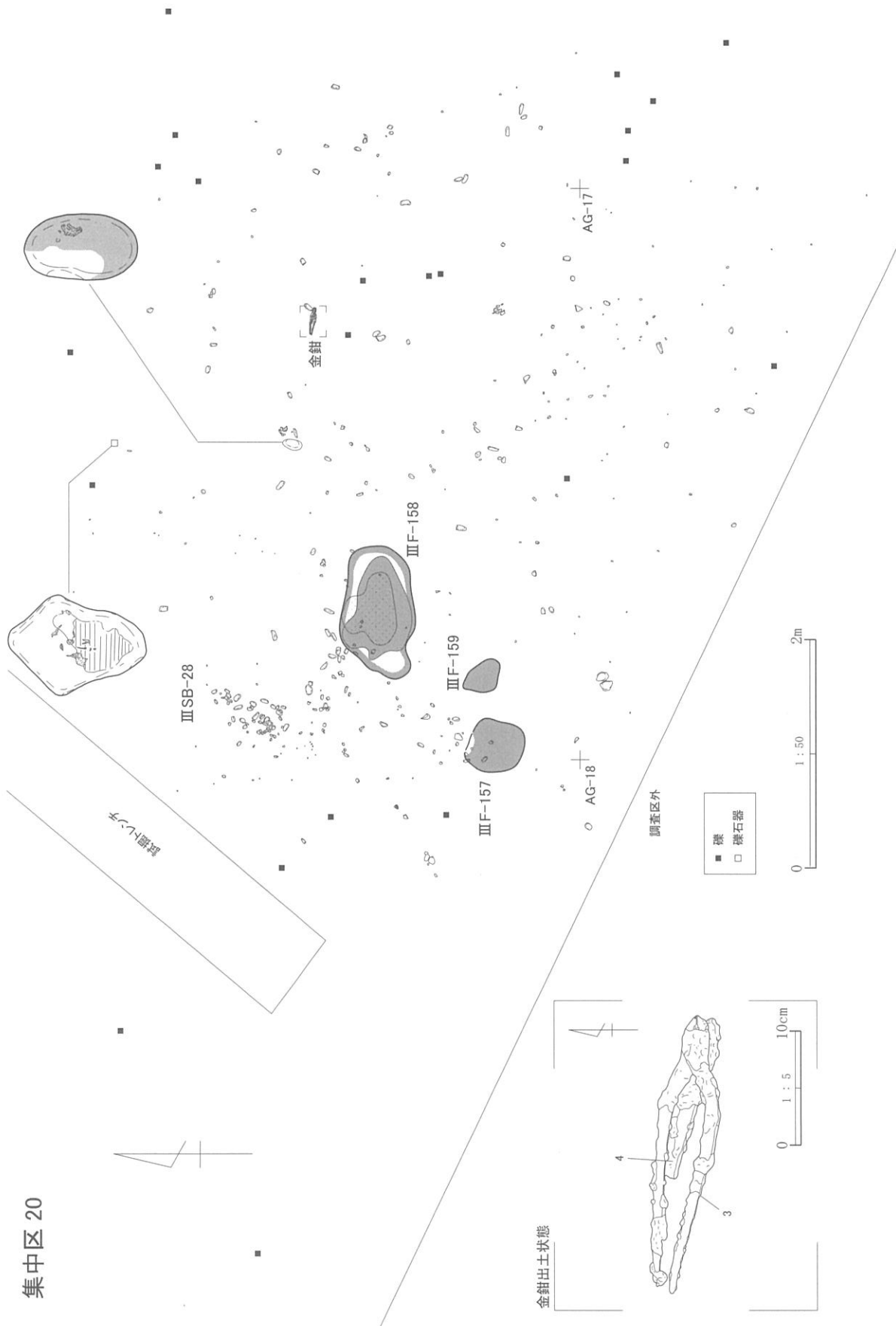
焼土(図 II-24): IIIF-157・159 は2つ並ぶ配置で検出した。いずれも焼骨片は伴わなかったが、焼土層の形成は良好であった。III F-158 はIII F-157・159 よりも規模が大きく、焼土上位に多量の焼骨片を含む土壌化灰層を伴っていた。焼土面はやや大きく窪み、III cM まで下がった位置に形成されていた。土壌サンプルからはIII F-158 においてサケ属、コイ科、哺乳綱の骨が多数得られた。また炭化種子に関してはIII F-157・158 でムギ類、キビが、III F-158 では他にヒエ属の種子も得ている。

遺物出土状態(図 II-23): 集中区 20 で出土した主要な遺物はIII SB-28 の礫である。集中区内全体に広がっているが、III F-158 の北側で最も高い密度で出土していた。金鉗と半製品はIII F-158 の東側で出土した。出土位置は浅く窪み、窪みの下底面側に金鉗の把握部を向ける状態で、半製品が下位に、金鉗がその上位に重なって出土していた(図 II-23 左下)。出土状態を見る限り、無造作に置かれたとは考え難い。窪みについてはトレンチを開けて断面の観察を行ったが、人為的に形成されたものかを判断することはできなかった。金鉗が出土したことから剥片状鉄滓等の鉄器生産関連遺物の出土を想定し、焼土周辺のサンプルを採取したが、特筆すべき資料を得ることはできなかった。

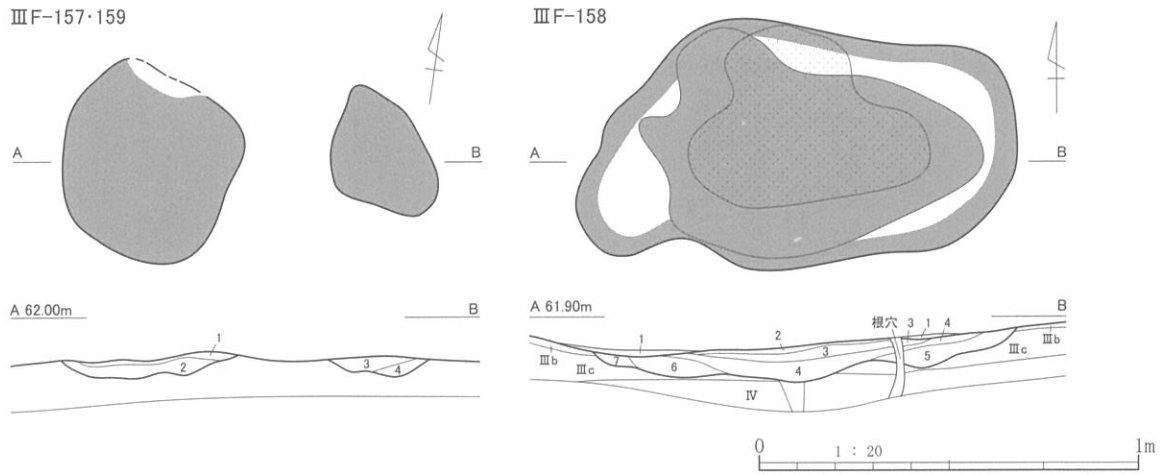
出土遺物(図 II-24・25): 1 は板状礫を素材とし、表面に線状痕が形成された礫である。2 は楕円形礫の1面に小規模な敲打痕が形成された台石で、全体に被熱の痕跡が認められる。3 は金鉗で全体に成形時の敲打による浅い凹凸が認められる。把握部と機能部からなる2本の部品が支点でビス止めされている。把握部は断面方形で、支点部分が最も幅広く成形されている。把握部の断面形を除き、現代の鍛冶職人が使用する金鉗と同じ形態である。4 は小刀の半製品で、目釘穴となる穴が穿孔されているが、刃部は形成されず、断面は方形である。茎に相当する範囲は成形時の敲打によりめくれ上がり、肥厚している。図示していないがIII SB-28 を構成する礫は長軸の長さにはばらつきをもち、被熱礫の比率が高い。

表 II-29 集中区20焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-24	12-3・4	III F-157	AF-17	III bL	楕円形	56	49	6	-	
II-24	12-1・2	III F-158	AF-17	III bL	長楕円形	118	74	10	灰	
II-24	12-4	III F-159	AF-17	III bL	楕円形	37	26	5	-	



図II-23 集中区 20 平面図及び遺物出土状態



III F-157-159

- | | | | |
|---|----------|--------|----------------------|
| 1 | 7.5YR5/2 | 灰褐色 | IIIb - 焼土粒(斑状) = 炭化物 |
| 2 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | 焼土(強いIIIc地山被熱層) |
| 3 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | IIIb - 焼土粒(斑状) = 炭化物 |
| 4 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | 焼土(強いIIIc地山被熱層) |

III F-158

- | | | | |
|---|----------|--------|---|
| 1 | 7.5YR5/1 | 褐灰色 | IIIb = 炭化物・焼骨片 |
| 2 | 7.5YR5/2 | 灰褐色 | 灰 - IIIb = 焼骨片 |
| 3 | 7.5YR6/2 | 灰褐色 | 灰 - 焼骨片 |
| 4 | 5YR7/4 | にぶい橙色 | 焼土(強いIIIc地山被熱層)
根により上部灰層がブロック状に落ち込む
付帯黒色層 |
| 5 | 5YR2/1 | 黒褐色 | 付帯黒色層 |
| 6 | 5YR3/1 | 黒褐色 | 付帯黒色層 |
| 7 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | 焼土(やや強いIIIb~IIIc地山被熱層)
IIIb下位から浅く掘り込んで焼土面が形成 |

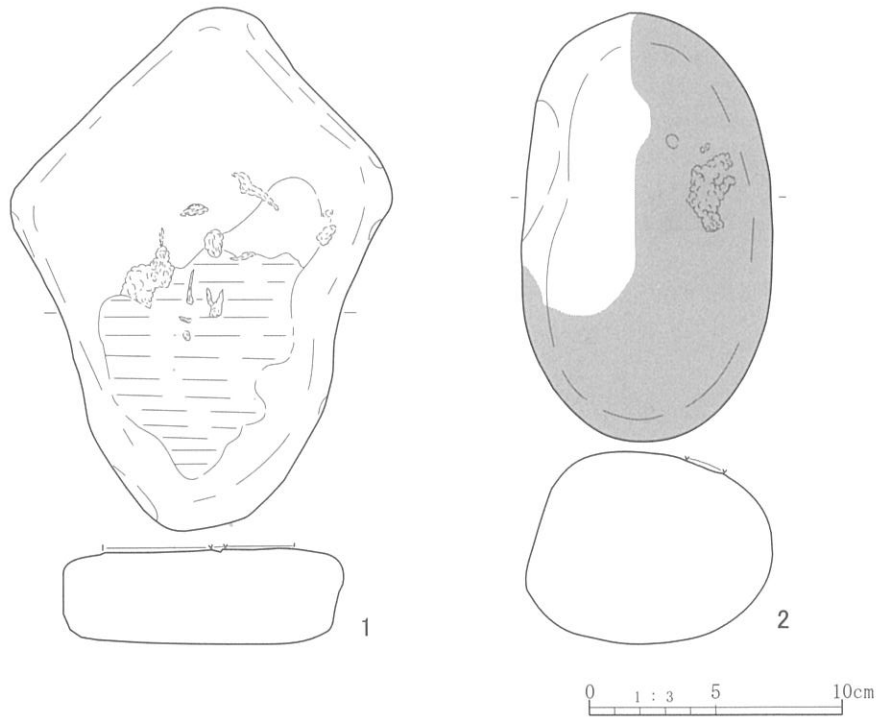
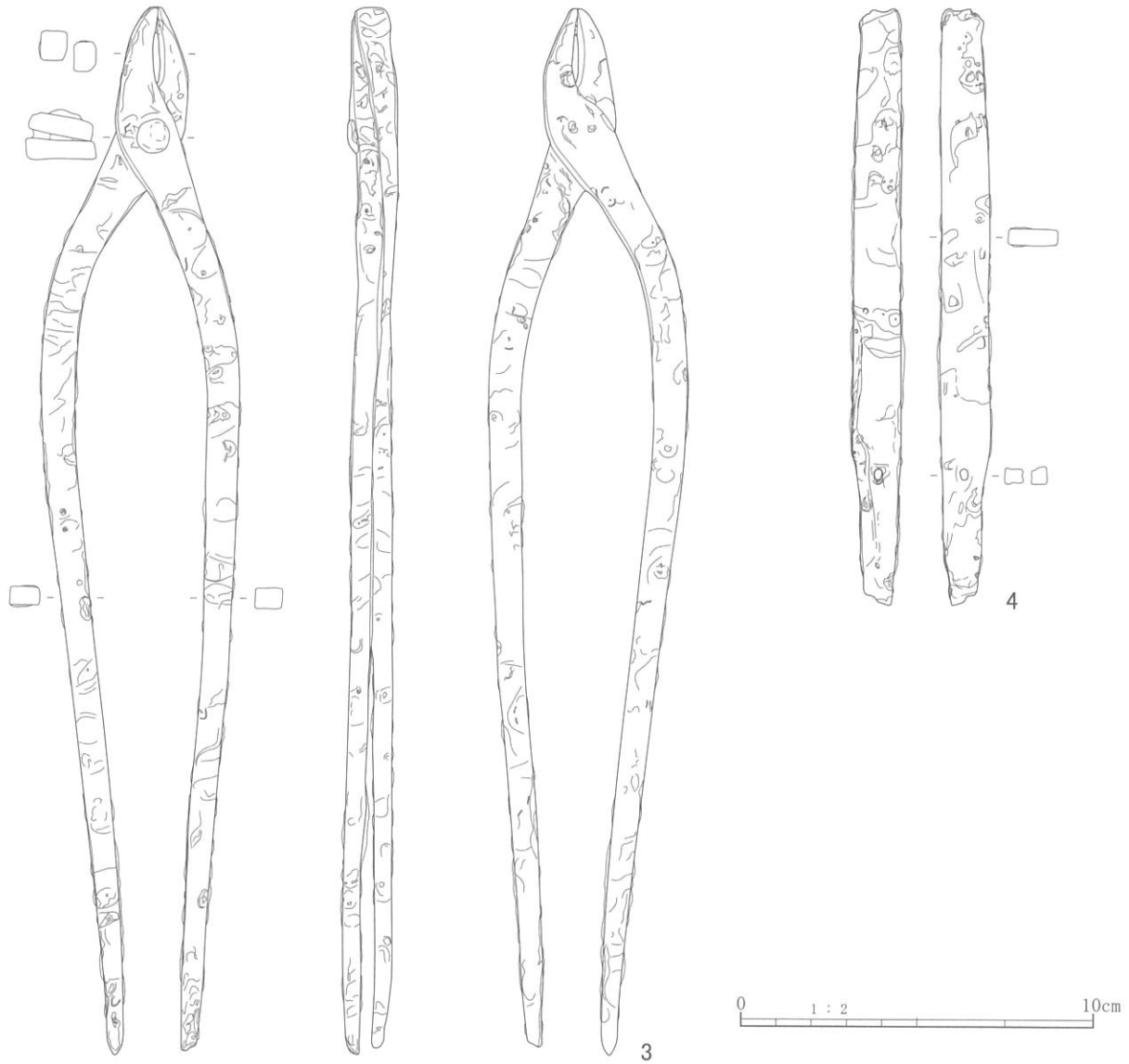


図 II-24 集中区 20 関連遺構及び出土遺物(1)



図II-25 集中区20出土遺物(2)

表II-30 集中区20出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-24-1	101-2	-	58520	線状痕のある礫	-	IIIbL	III SB-28	-	206.0	151.0	38.0	1390.0	Sa.	
II-24-2	101-3	-	59101	台石	-	IIIbL	III SB-28	-	169.0	100.0	77.0	1720.0	Sa.	
II-25-3	101-4	-	57011	金鉗	-	IIIbL	-	AF-17	296.0	52.5	15.0	192.9	Irn.	
II-25-4	101-5	-	57012	小刀半製品	-	IIIbL	-	AF-17	169.5	16.0	4.5	55.7	Irn.	
-	101-1	III ST052	57913	たたき石	II a3	IIIbL	III SB-28	-	156.0	119.0	43.7	950.0	Sa.	

表 II -31 III SB-28属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	59189	IIIbM	完形	23.7	-39.1	17.4	-14.2	9.6	-7.2	1.4	-0.6	4.7	-	Sa.	
-	-	-	59207	IIIbM	完形	24.3	-38.5	22.5	-9.1	10.2	-6.6	1.1	-0.9	7.2	○	Sa.	
-	-	-	59055	IIIbM	完形	24.6	-38.2	21.1	-10.5	16.7	-0.1	1.2	-0.8	9.6	-	Sa.	
-	-	-	59177	IIIbM	完形	24.4	-38.4	23.9	-7.7	15.0	-1.8	1.0	-1.0	15.1	-	Che.	
-	-	-	57930	IIIbM	完形	31.8	-31.0	26.1	-5.5	6.6	-10.2	1.2	-0.8	9.9	-	Sa.	
-	-	-	59026	IIIbM	完形	33.6	-29.2	23.6	-8.0	9.5	-7.3	1.4	-0.6	10.2	-	Sa.	
-	-	-	57934	IIIbM	完形	34.4	-28.4	22.0	-9.6	15.5	-1.3	1.6	-0.4	13.0	-	Sa.	
-	-	-	59044	IIIbM	完形	35.8	-27.0	30.9	-0.7	12.0	-4.8	1.2	-0.8	16.8	-	Sa.	
-	-	-	57922	IIIbM	完形	41.0	-21.8	26.9	-4.7	8.8	-8.0	1.5	-0.5	13.8	-	Sa.	
-	-	-	59185	IIIbM	完形	41.9	-20.9	30.9	-0.7	7.6	-9.2	1.4	-0.6	13.9	-	Sa.	
-	-	-	57919	IIIbM	完形	42.1	-20.7	23.2	-8.4	14.9	-1.9	1.8	-0.2	19.2	-	Sa.	
-	-	-	57940	IIIbM	完形	44.2	-18.6	29.4	-2.2	16.9	0.1	1.5	-0.5	26.1	○	Sa.	
-	-	-	59178	IIIbM	完形	43.4	-19.4	32.7	1.1	13.3	-3.5	1.33	-0.7	27.8	-	Sa.	
-	-	-	57967	IIIbM	完形	44.2	-18.6	24.9	-6.7	11.4	-5.4	1.8	-0.2	17.4	○	Sa.	
-	-	-	57928	IIIbM	完形	44.7	-18.1	41.1	9.5	14.3	-2.5	1.1	-0.9	29.7	-	Sa.	
-	-	-	57946	IIIbM	完形	45.8	-17.0	21.8	-9.8	15.7	-1.1	2.1	0.1	20.7	-	Sa.	
-	-	-	59028	IIIbM	完形	46.2	-16.6	24.2	-7.4	15.5	-1.3	1.9	-0.1	23.1	○	Sa.	
-	-	-	57909	IIIbM	完形	49.5	-13.3	22.7	-8.9	14.0	-2.8	2.2	0.2	18.2	-	Sa.	
-	-	-	59093	IIIbM	完形	50.0	-12.8	40.3	8.7	8.8	-8.0	1.2	-0.8	23.8	-	Sa.	
-	-	-	59082	IIIbM	完形	50.2	-12.6	35.6	4.0	11.8	-5.0	1.4	-0.6	26.1	-	Sa.	
-	-	-	59187	IIIbM	完形	50.7	-12.1	32.3	0.7	7.8	-9.0	1.6	-0.4	18.6	-	Sa.	
-	-	-	59033	IIIbM	完形	52.2	-10.6	28.2	-3.4	8.9	-7.9	1.9	-0.1	15.9	○	Tu.	
-	-	-	59188	IIIbM	完形	53.2	-9.6	36.5	4.9	7.6	-9.2	1.5	-0.5	23.5	-	Sa.	
-	-	-	57995	IIIbM	完形	52.4	-10.4	29.8	-1.8	9.7	-7.1	1.8	-0.2	21.5	○	Sa.	
-	-	-	59020	IIIbM	完形	51.2	-11.6	25.2	-6.4	25.4	8.7	2.0	0.0	54.6	○	Sa.	
-	-	III S1239	59025	IIIbM	完形	51.1	-11.7	30.6	-1.0	19.5	2.8	1.7	-0.3	38.2	○	Sa.	他1点
-	-	-	57894	IIIbM	完形	53.5	-9.3	34.0	2.4	20.5	3.8	1.6	-0.4	44.3	-	Sa.	
-	-	-	59017	IIIbM	完形	54.3	-8.5	32.5	0.9	9.7	-7.1	1.7	-0.3	25.9	○	Sa.	
-	-	-	59012	IIIbM	完形	55.1	-7.7	28.4	-3.2	12.7	-4.1	1.9	-0.1	28.8	○	Sa.	
-	-	-	59036	IIIbM	完形	55.5	-7.3	33.5	1.9	17.0	0.3	1.7	-0.3	38.7	○	Sa.	
-	-	-	57887	IIIbM	完形	57.9	-4.9	29.8	-1.8	22.5	5.8	1.9	-0.1	58.1	-	Sa.	
-	-	III S1241	59015	IIIbM	略完形	58.3	-4.5	30.9	-0.7	14.3	-2.5	1.9	-0.1	34.0	○	Sa.	他1点
-	102-2	-	57912	IIIbM	完形	56.9	-5.9	20.5	-11.1	12.5	-4.3	2.8	0.8	16.2	-	Sa.	
-	-	-	57925	IIIbM	完形	56.6	-6.2	15.5	-16.1	9.2	-7.6	3.7	1.7	10.9	-	Sa.	
-	-	III S1250	59078	IIIbM	完形	55.3	-7.5	35.0	3.4	17.0	0.3	1.6	-0.4	37.5	-	Mud.	他1点
-	-	III S1238	57998	IIIbM	完形	55.3	-7.5	30.3	-1.3	30.0	13.3	1.8	-0.2	67.0	○	Sa.	他1点
-	-	-	59053	IIIbM	完形	58.3	-4.5	30.6	-1.0	15.8	-0.9	1.9	-0.1	37.7	-	Sa.	
-	-	-	59208	IIIbM	完形	58.4	-4.4	34.9	3.3	16.7	-0.1	1.7	-0.3	49.0	○	Sa.	
-	-	-	59021	IIIbM	完形	59.0	-3.8	37.5	5.9	15.0	-1.8	1.6	-0.4	46.1	○	Sa.	
-	-	-	59048	IIIbM	完形	59.8	-3.0	27.8	-3.8	16.1	-0.6	2.2	0.2	43.7	-	Sa.	
-	-	-	57988	IIIbM	完形	61.8	-1.0	29.8	-1.8	13.9	-2.9	2.1	0.1	34.4	○	Sa.	
-	-	-	59041	IIIbM	完形	57.3	-5.5	37.1	5.5	17.0	0.3	1.5	-0.5	46.8	○	Sa.	
-	-	-	57992	IIIbM	完形	59.4	-3.4	27.8	-3.8	21.4	4.7	2.1	0.1	34.5	○	Sa.	
-	-	-	59088	IIIbM	完形	59.4	-3.4	38.7	7.1	22.3	5.6	1.5	-0.5	64.1	-	Sa.	
-	-	-	59090	IIIbM	完形	62.1	-0.7	25.3	-6.3	18.2	1.5	2.5	0.5	38.9	-	Sa.	
-	-	-	57955	IIIbM	完形	63.2	0.4	26.2	-5.4	17.0	0.3	2.4	0.4	38.9	○	Sa.	
-	-	-	59047	IIIbM	完形	62.8	0.0	23.0	-8.6	18.4	1.7	2.7	0.7	37.8	○	Sa.	
-	-	-	59206	IIIbM	完形	61.5	-1.3	27.6	-4.0	23.4	6.7	2.2	0.2	49.1	○	Sa.	
-	-	III S1236	59075	IIIbM	完形	61.3	-1.5	34.4	2.8	24.7	8.0	1.8	-0.2	63.8	-	Sa.	他1点
-	-	III S1240	57878	IIIbM	完形	61.6	-1.2	26.2	-5.4	22.6	5.9	2.4	0.4	48.3	-	Sa.	他1点
-	-	-	57892	IIIbM	完形	63.6	0.8	28.7	-2.9	13.4	-3.4	2.2	0.2	30.3	-	Mud.	
-	-	-	59014	IIIbM	略完形	63.7	0.9	30.8	-0.8	15.7	-1.1	2.1	0.1	35.6	○	Sa.	
-	-	-	59171	IIIbM	完形	63.3	0.5	40.5	8.9	15.4	-1.4	1.6	-0.4	48.2	-	Sa.	
-	-	-	56594	IIIbM	完形	63.2	0.4	28.2	-3.4	12.9	-3.9	2.2	0.2	27.8	-	Sa.	
-	-	-	59172	IIIbM	完形	64.5	1.7	28.3	-3.3	22.2	5.5	2.3	0.3	46.6	-	Sa.	
-	-	-	59091	IIIbM	完形	65.0	2.2	36.6	5.0	15.5	-1.3	1.8	-0.2	49.6	-	Sa.	
-	-	-	59202	IIIbM	完形	66.5	3.7	26.0	-5.6	21.2	4.5	2.6	0.6	46.6	-	Sa.	
-	-	-	59008	IIIbM	完形	66.9	4.1	26.3	-5.3	12.4	-4.4	2.5	0.5	39.8	○	Sa.	
-	-	-	59069	IIIbM	完形	66.5	3.7	31.1	-0.5	21.8	5.1	2.1	0.1	55.6	-	Sa.	
-	-	-	57973	IIIbM	完形	66.7	3.9	29.3	-2.3	20.4	3.7	2.3	0.3	45.7	-	Mud.	
-	-	-	57954	IIIbM	完形	69.5	6.7	42.1	10.5	18.9	2.2	1.7	-0.3	59.2	○	Sa.	
-	-	-	57997	IIIbM	完形	69.2	6.4	35.2	3.6	15.0	-1.8	2.0	0.0	54.3	○	Sa.	
-	-	-	59063	IIIbM	完形	68.0	5.2	31.8	0.2	17.9	1.2	2.1	0.1	63.3	-	Sa.	
-	-	-	57984	IIIbM	完形	70.2	7.4	32.7	1.1	10.8	-6.0	2.1	0.1	42.8	○	Sa.	
-	-	-	57993	IIIbM	完形	70.9	8.1	29.6	-2.0	17.5	0.8	2.4	0.4	51.3	○	Sa.	

表II-31 III SB-28属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	57900	IIIbM	完形	73.3	10.5	26.4	-5.2	19.5	2.8	2.8	0.8	48.1	-	Sa.	
-	-	-	59174	IIIbM	完形	72.6	9.8	45.2	13.6	19.8	3.1	1.6	-0.4	86.3	-	Sa.	
-	-	-	57911	IIIbM	完形	64.7	1.9	45.9	14.3	40.7	24.0	1.4	-0.6	197.0	-	And.	
-	-	-	57956	IIIbM	完形	73.5	10.7	32.8	1.2	17.4	0.6	2.2	0.2	63.3	○	Sa.	
-	-	-	59076	IIIbM	完形	73.3	10.5	32.4	0.8	26.5	9.8	2.3	0.3	101.4	-	Sa.	
-	-	-	57901	IIIbM	完形	74.3	11.5	39.5	7.9	15.3	-1.5	1.9	-0.1	51.4	-	Sa.	
-	-	-	59173	IIIbM	完形	74.6	11.8	39.1	7.5	18.5	1.8	1.9	-0.1	72.4	-	Sa.	
-	-	-	59043	IIIbM	完形	71.6	8.8	42.4	10.8	12.3	-4.5	1.7	-0.3	65.2	○	Sa.	
-	-	-	59029	IIIbM	完形	76.1	13.3	39.9	8.3	17.6	0.9	1.9	-0.1	64.7	○	Sa.	
-	-	-	57951	IIIbM	完形	78.7	15.9	30.0	-1.6	17.3	0.6	2.6	0.6	52.5	○	Sa.	
-	-	-	59027	IIIbM	完形	77.9	15.1	28.3	-3.3	13.5	-3.3	2.8	0.8	43.2	-	Sa.	
-	-	-	59065	IIIbM	完形	80.5	17.7	27.5	-4.1	20.2	3.5	2.9	0.9	85.1	-	Sa.	
-	-	-	57933	IIIbM	完形	86.9	24.1	36.9	5.3	23.8	7.1	2.4	0.4	83.5	-	Sa.	
-	102-1	III S1247	59067	IIIbM	完形	87.5	24.7	35.1	3.5	20.9	4.2	2.5	0.5	86.2	-	Sa.	
-	-	-	59085	IIIbM	完形	87.7	24.9	30.5	-1.1	13.6	-3.2	2.9	0.9	57.6	-	Mud.	
-	-	-	59070	IIIbM	完形	89.8	27.0	36.2	4.6	25.6	8.9	2.5	0.5	95.1	-	Sa.	
-	-	-	59072	IIIbM	完形	89.8	27.0	40.2	8.6	11.3	-5.5	2.2	0.2	56.3	-	Sa.	
-	-	-	59071	IIIbM	完形	89.1	26.3	29.2	-2.4	25.0	8.3	3.1	1.1	111.3	-	Sa.	
-	-	-	57975	IIIbM	完形	89.7	26.9	56.2	24.6	12.6	-4.2	1.6	-0.4	84.4	-	Che.	
-	-	-	59042	IIIbM	完形	92.3	29.5	33.2	1.6	23.7	7.0	2.8	0.8	96.8	○	Sa.	
-	-	III S1244	57923	IIIbM	完形	89.5	26.7	37.3	5.7	19.4	2.7	2.4	0.4	81.4	-	Sa.	他1点
-	-	-	59037	IIIbM	完形	89.7	26.9	33.9	2.3	19.3	2.6	2.6	0.6	89.4	○	Sa.	
-	-	-	59170	IIIbM	完形	93.2	30.4	31.9	0.3	20.7	4.0	2.9	0.9	74.4	-	Sa.	
-	-	-	57949	IIIbM	完形	92.5	29.7	29.8	-1.8	21.9	5.2	3.1	1.1	67.4	○	Sa.	
-	-	-	59066	IIIbM	完形	97.3	34.5	32.6	1.0	14.0	-2.8	3.0	1.0	53.3	-	Mud.	
-	-	III S1245	59094	IIIbM	欠損	108.3	45.5	33.9	2.3	16.5	-0.3	3.2	1.2	82.6	○	Sa.	他6点
平均						62.9		31.6		16.8		2.0		47.3			
													総点数 279点 完形90点				

第2節 建物跡

方形プラン等の規格的な配置で並んだ柱穴列を建物跡とした。平成18・19年度調査区内では、第1節で記載した4本柱(建物跡7)、5本柱(建物跡6)の例の他、9本柱の建物跡8を検出しており、合計3件の建物跡が見つかった。ここでは単独で検出した建物跡8について記載する。

建物跡8 (図II-26 図版13-1~7)

位置：I-38・39区 規模：350×310cm

構成：9本柱? (III KP-145~151)

確認・調査：平成19年度調査区T₁-T₂段丘崖裾のIIIb層調査を終了し、柱穴確認のためIIIc層をジョレンで精査した際、I-38・39区で円形のIIIb落込みを確認した。半截して断面を確認した結果、いずれも杭跡と判断した。配置は一部試掘時のトレンチで失われているが、「田」字形に9本柱で構成される建物跡と想定できたため、建物跡8として設定した。

柱穴：III KP-145~151はいずれも打ち込みによる柱穴で、覆土上位にIIIb主体土が厚く堆積する例がほとんどであることから、アイヌ文化期の中でも比較的新しい時期に属すると考えられる。構成する柱穴の内5本は確認面からの深さが50cm以上ある深いものであった。

出土遺物：直接この建物跡に伴うとは限らないが、建物跡プラン内とその周辺で遺物が出土している。1は楕円形礫の2頂端部に滑沢面が形成された泥岩製の石器である。2・3は刀子片で、同一個体かと思われたが、断面の厚さが異なるためそれぞれ別個体の破片である。3は刀身部に緩やかな反りが形成されている。

建物跡 8

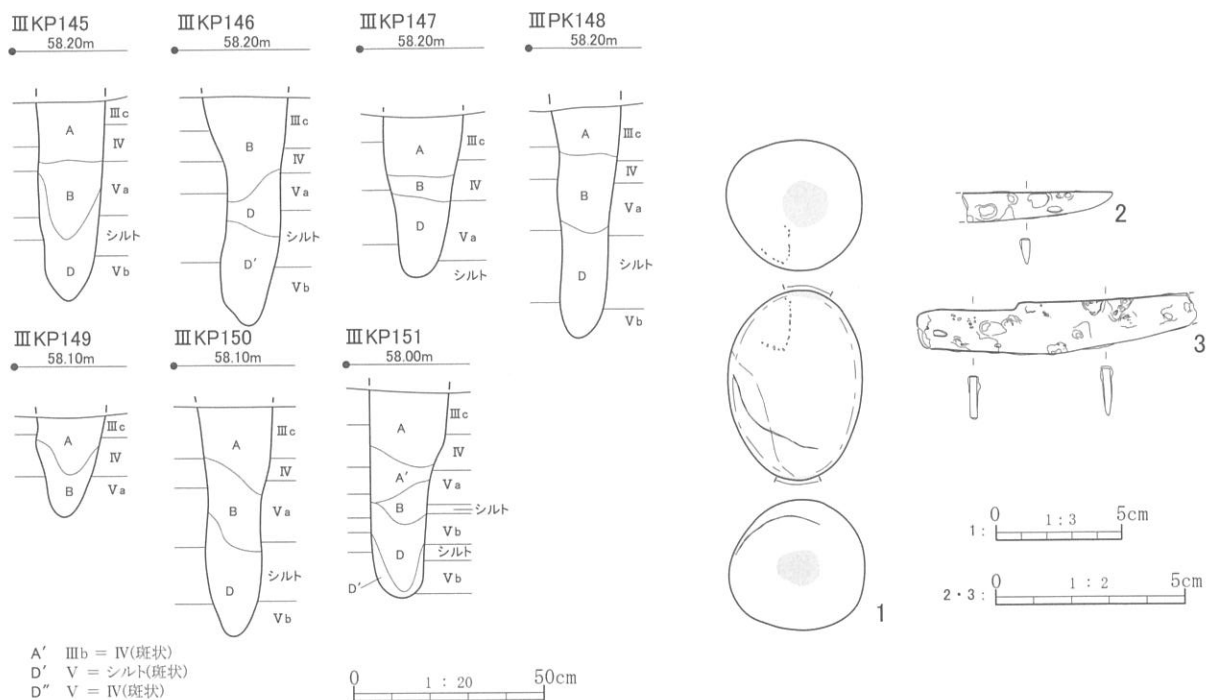
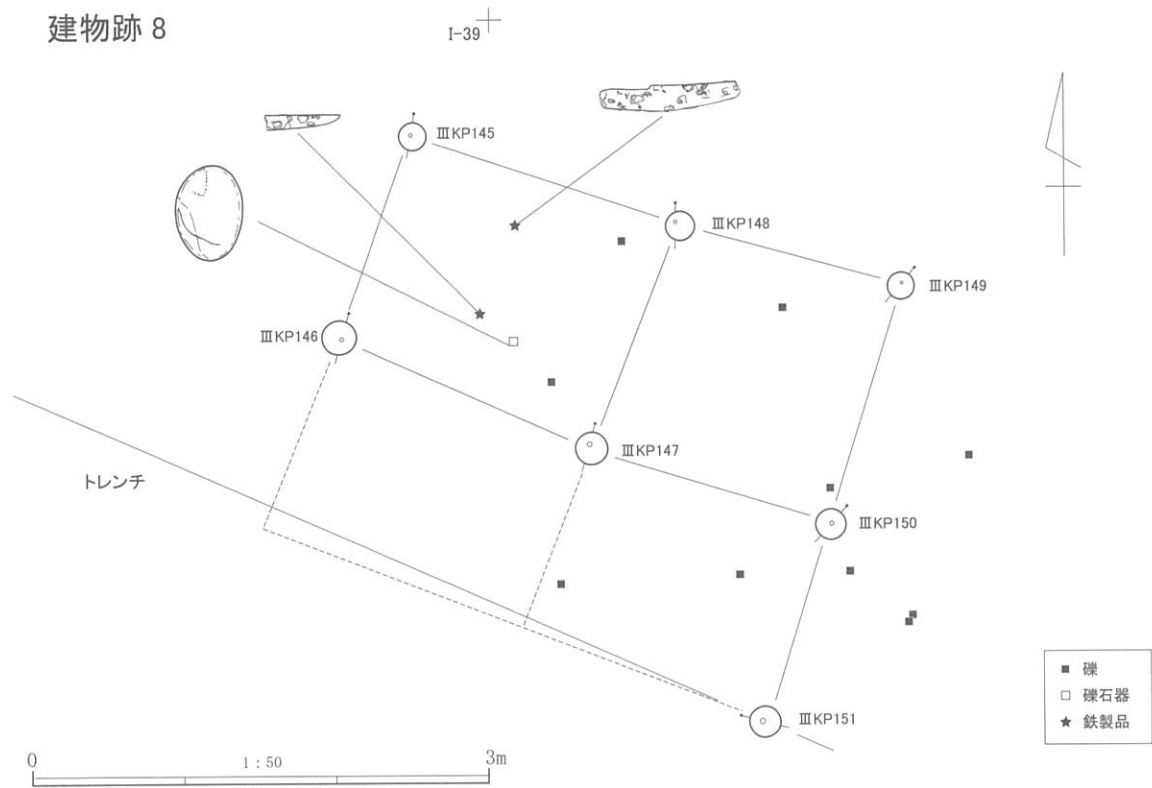


図 II-26 建物跡8平面図及び出土遺物

表II-32 建物跡8柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-26	13-1・2	IIIKP-145	17	3	54	2°	打込み	
II-26	13-3	IIIKP-146	21	4	57	0°	打込み	
II-26	13-4	IIIKP-147	20	7	40	3°	打込み	
II-26	13-5	IIIKP-148	17	5	57	2°	打込み	
II-26	—	IIIKP-149	17	4	25	4°	打込み	
II-26	13-6	IIIKP-150	19	4	51	1°	打込み	
II-26	13-7	IIIKP-151	20	9	51	2°	打込み	

表II-33 建物跡8出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-26-1	102-2-1	—	115359	滑沢面のある礫	—	IIIbM	—	I-38	75.2	53.1	51.7	290.0	Mud.	
II-26-2	102-2-2	—	115373	刀子切先	—	IIIbM	—	I-39	(40.5)	8.5	3.0	2.8	Irn.	
II-26-3	102-2-3	—	115374	刀子片	—	IIIbM	—	I-38	(73.5)	16.0	4.0	9.4	Irn.	

第3節 杭跡 (図II-27 図版13-8・9)

平成18・19年度調査区においても、16・17年度と同様にIIIb層調査終了後、炉跡を伴わない建物跡の存在を考慮し、調査区内全体をIIIc層上面においてジョレン精査した。その際、建物跡として捉え得る方形プランや列を構成せず、単独に打ち込まれたものを杭跡として捉え、本節で扱う。なお一部アイヌ文化期の杭跡(IIIKP-134~137)を第III章6節でも報告しているので、参照されたい。

E-42、H-43区：IIIKP-152・153の2本を確認した。検出位置は近代以降の造成により、V層下位まで削平された範囲であり、確認面はV層より下位のシルト層面であった。同じ面で確認した遺構として後述するIII GP-04があり、いずれもシルト層中にIII層の土が落ち込む状態で検出した。III KP-153・154はいずれも杭跡周囲がグライ化しており、III GP-04墓標穴と類似する状態であった。2本の杭跡は共に離れた位置で単独で形成され配列を構成しておらず、T₁では建物跡8を除き住居址が構築された痕跡が認められない。以上の状況から、この2本の杭跡は、III GP-04と同様の墓標穴であった可能性がある。

表II-34 杭跡属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
III-72	46-4	IIIKP-134	16	8	26	0°	掘立?	
III-72	46-4	IIIKP-135	15	2.2	38	6.5°	打込み	
III-72	46-4	IIIKP-136	17	1.4	29	4°	打込み	
III-72	46-4	IIIKP-137	18	9	28	0°	掘立?	
II-27	13-8	IIIKP-152	9	4	(3)	0°	打込み	
II-27	13-9	IIIKP-153	13	6.5	51	0°	打込み	

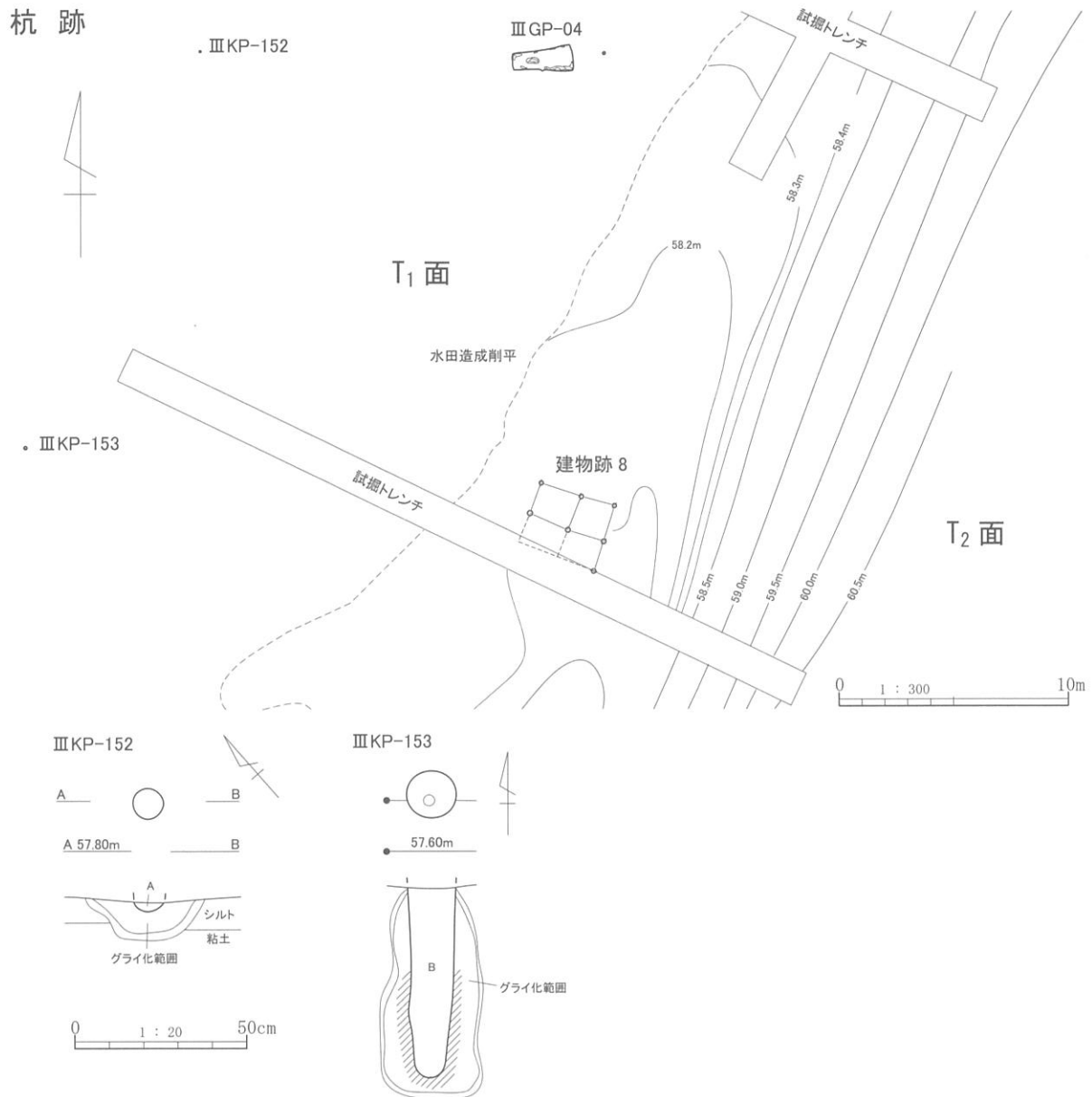


図 II-27 杭 跡

第4節 土 墳 墓

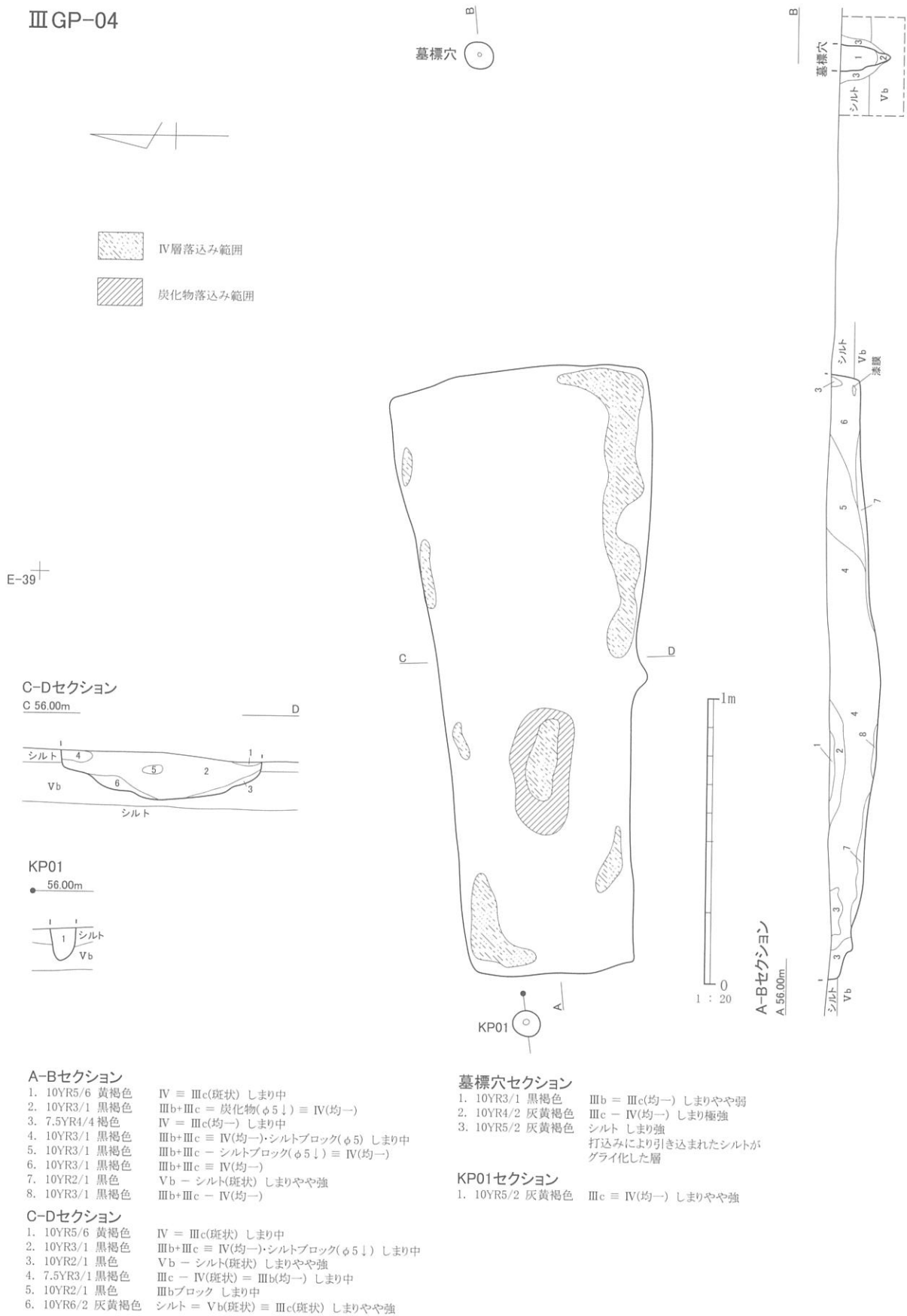
4号土墳墓〔III GP-04〕 (図 II-28・29 図版 14)

位 置 : E-38・39 区 規 模 : 214×90/76cm×(18) cm

主体部平面形 : 長台形 長軸方向 : N-89° E

確認・調査 : 平成 19 年度 T₁ 調査区の表土・火山灰除去中、E-38・39 区において長台形プランのⅢ層の落込みと、その東に直径約 10cm の円形の落込みを確認した。検出位置は V 層が削平されており、表土直下は V 層より下位の灰白色シルト層であったため、この場所でのⅢ層黒色土の落込みによるプランは極めて明瞭に把握できた。プランからアイヌ文化期の墓壇と判断できたため、III GP-04 として設定した。調査は墓壇主体部の長軸・短軸方向に堆積状態確認のためのセクションラインを十字に設定し、ベルトに区切られた区画ごとに掘削を進めた。過年度の調査例から遺体が残されている可能性が想定されたため土層断面の記録を作成した後、遺体の確認に努めた。結果本墓壇に遺体は

III GP-04



図II-28 4号土壌墓(III GP-04)検出時平面図及び断面図

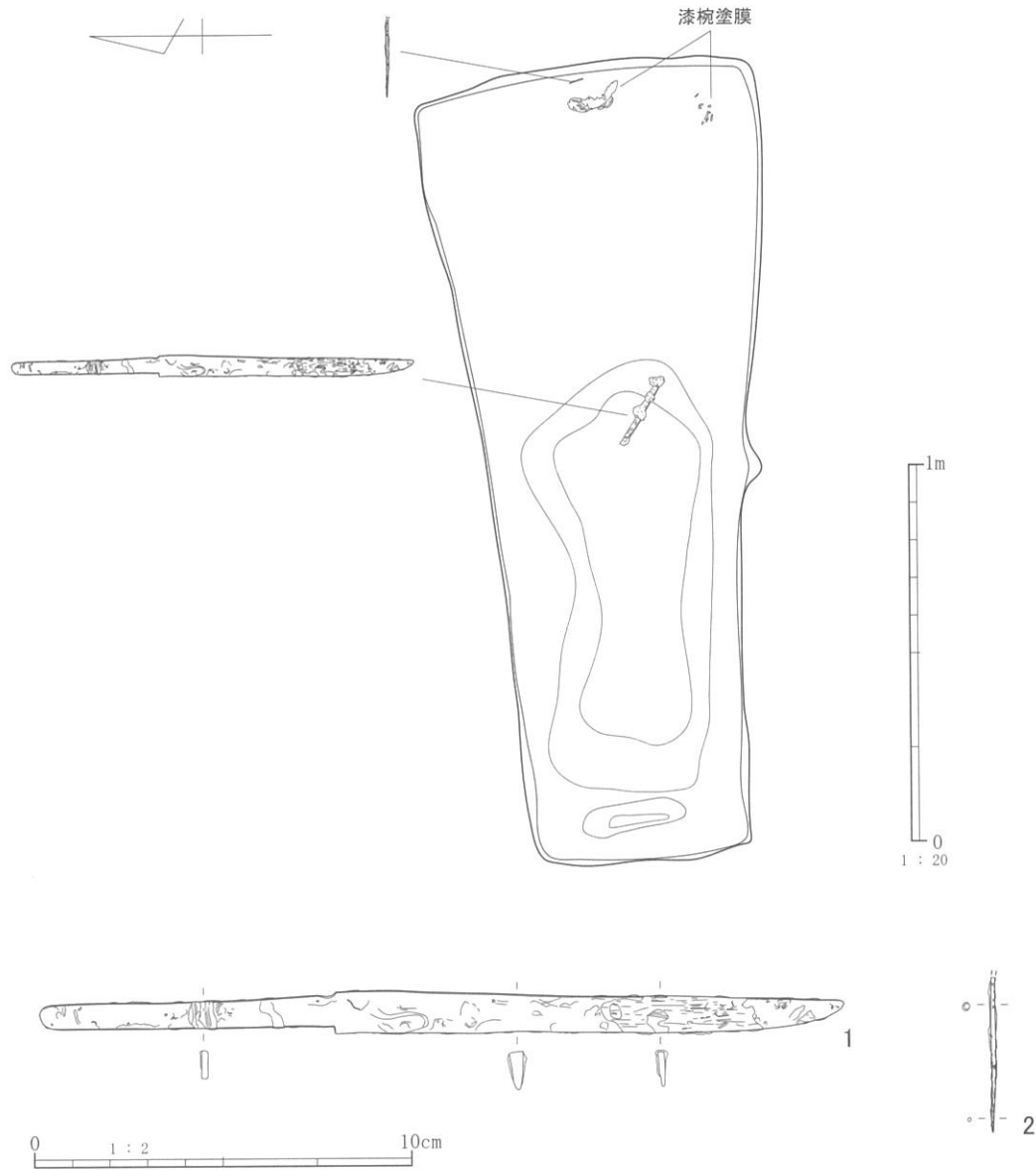


図 II-29 4号土壌墓平面図及び出土遺物

表 II-35 III GP-04属性表

挿図番号	図版番号	層位	グリッド	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	備考
				調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸			
II-28・29	14-1~7	IIIb	D-38・39	長台形/長台形	214	90	210	89	18	N-89°W	

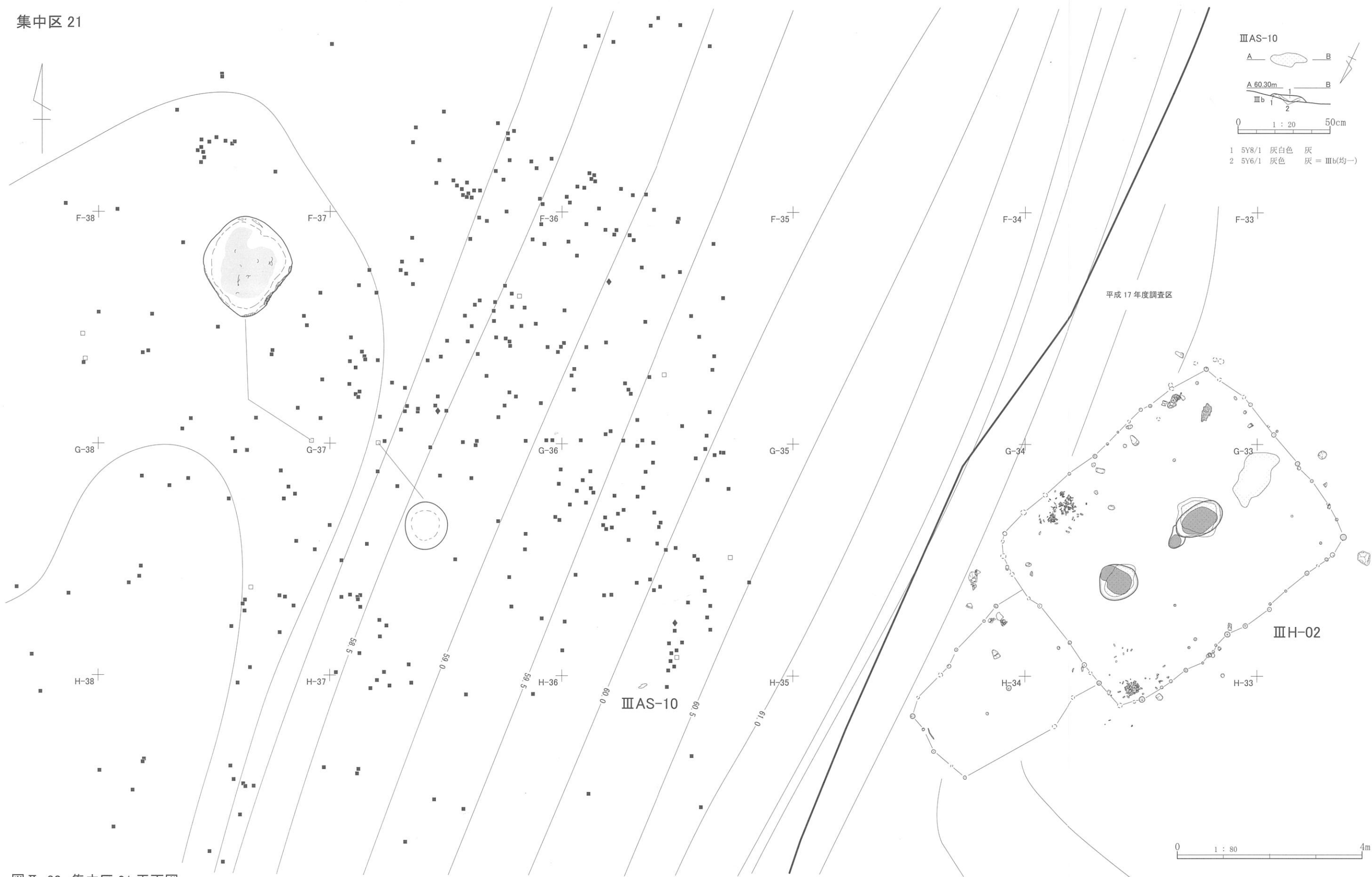
表 II-36 III GP-04墓標穴・杭跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-28	14-4	墓標穴	9	1	18	0°	打込み	
II-28	-	KP01	9	2	11	3°	打込み	

表 II-37 III GP-04出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-29-1	103-1	-	116353	小柄刀身	-	2L	III GP-04	E-39	212.5	12.0	5.0	10.9	Iron.	
II-29-2	103-2	-	116354	針	-	2L	III GP-04	E-38	(41.0)	2.5	2.5	0.2	Iron.	
-	14-6・7	-	116355	漆器碗塗膜	-	2L	III GP-04	E-38	-	-	-	-	Jp.	

集中区 21



図II-30 集中区 21 平面図

残存していないことが把握できたため、墓壙底面の検出を進めたところ、副葬品の刀子、針、漆器塗膜を検出した。副葬品出土状態と墓壙形態の記録を作成した後、墓標穴、及び墓壙西側で検出した杭跡の断面観察のためトレンチを設定し、堆積状態の記録を行った。また墓壙底面が水平でなく浅い窪みが形成されていたことから、トレンチを設定して墓壙下位の堆積状態を確認したが、造成等の痕跡を確認することは出来なかった。

主体部形態(図II-29)：主体部は東側が広く、西側に向けて狭くなる長台形プランを呈する。主体部南壁の中程で一部プランが乱れているが、根穴ではないため、墓壙掘削時の工具痕の可能性がある。また底面の西半分が広い範囲で浅く窪み、西端には墓壙プランに沿う配置で溝状の落込みが形成されていた。いずれも墓壙構築時に形成されたものと判断した。

堆積状態(図II-29)：堆積土はⅢbとⅢcが主体である。ただし検出時、墓壙縁辺付近に帯状に廻るIV層主体土の堆積が観察できた。また墓壙中央やや西よりの位置で炭化物を含む土壌が堆積していた。前者は主体部形態の項で記載した溝状の落ち込みと共に、既報告のⅢGP-01で想定した、木棺構造に関連する堆積の可能性が高い。

墓標穴：主体部の東側114cmのところ検出した。確認面からの深さは約20cmで、周囲の土壌は若干グライ化が進んでいた。覆土はしまりの弱いⅢb主体土である。

杭跡：主体部の西側で検出した。確認面からの深さは12cm程で、覆土はしまりのあるⅢc層が主体を占めていた。性格は不明である。

副葬品出土状態(図II-29)：副葬品の配置は、遺体の腰付近と思われる位置で刀子(1)が出土し、東壁際で針(2)と漆器塗膜片が出土した。漆器塗膜片は主体部中央軸線上に椀1個体分の塗膜が見つかった他、南東隅でも極僅かに塗膜片が出土している。塗膜の量から複数個体があったとは考えにくいため、後から塗膜が動いたものと考えられる。

出土遺物(図II-29)：1は刀子で全長約212mmを測る。両区で茎部分が細長く形成されていることから、小柄の刀身部と思われる。2は断面の直径2.5mmの縫い針である。糸通しの穴は確認できなかった。図化していないが墓壙内東側で出土した漆器塗膜は漆塗り椀の塗膜のみが残ったもので、外面は黒色漆の上に赤色漆で植物の文様を描き、内面は赤色漆が塗られていた。

第5節 集中区

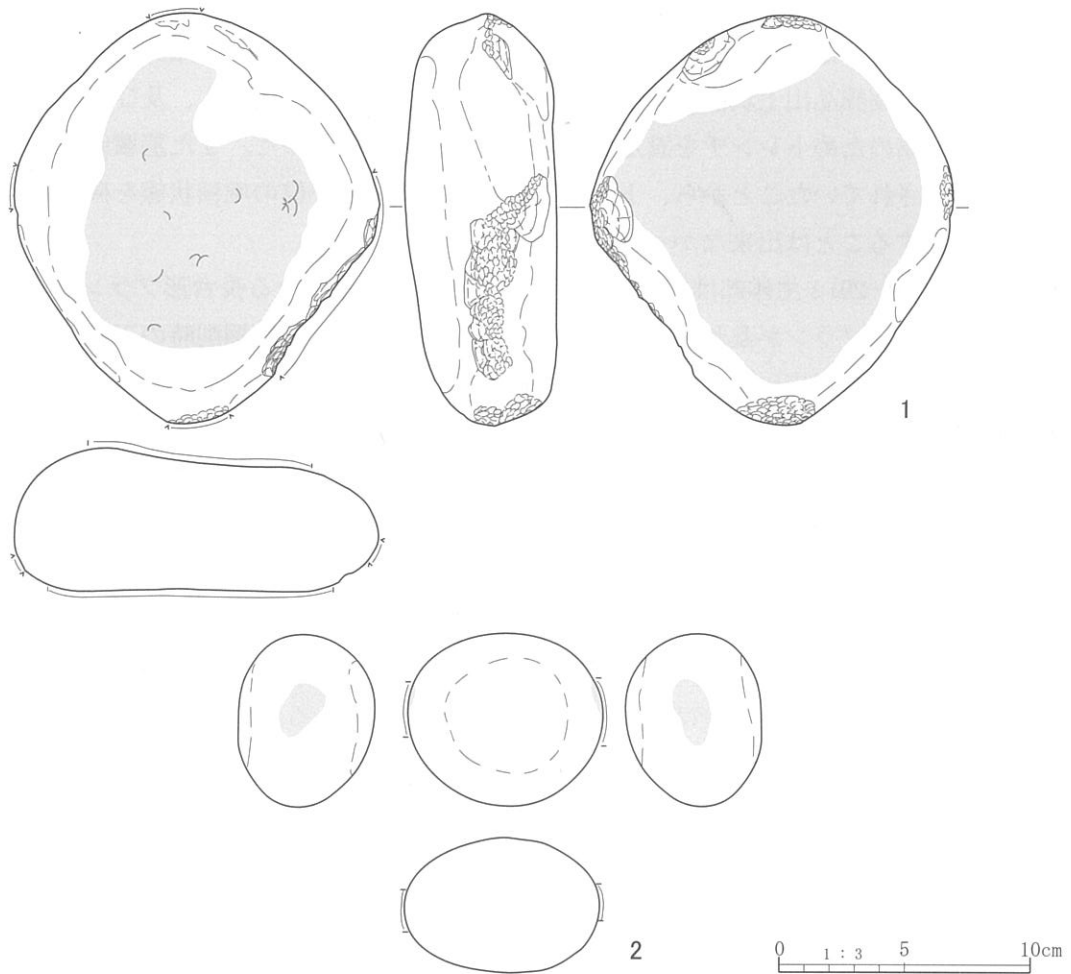
アイヌ文化期に属する集中区は5ヵ所検出した。このうち、集中区20については既に10号平地式住居址と合わせて報告したため、ここでは残りの集中区21~24について記載する。これらアイヌ文化期の集中区は、その位置関係から平地式住居址と関連すると考えられ、集中区21は過年度報告分の2号平地式住居址と、集中区22は6号平地式住居址と、集中区24は1号平地式住居址とそれぞれ関連すると考えられる。

集中区21 (図II-30・31 図版15-1・2)

位置：E~H-34~37区 規模：1,900×1,450cm 層位：ⅢbM

関連遺構：灰集中 IIIAS-10

確認・調査(図II-30)：E~H-34~37区を調査中、T₁-T₂段丘崖のⅢbMで棒状礫を中心とする多数の遺物が出土した。遺物は斜面を中心に分布し、斜面裾では少ないため、上方のT₂から流れた遺物で



図Ⅱ-31 集中区 21 出土遺物

表Ⅱ-38 ⅢAS-10属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-30	15-2	ⅢAS-10	F-33	Ⅲb	不整形	20	8	4	灰	

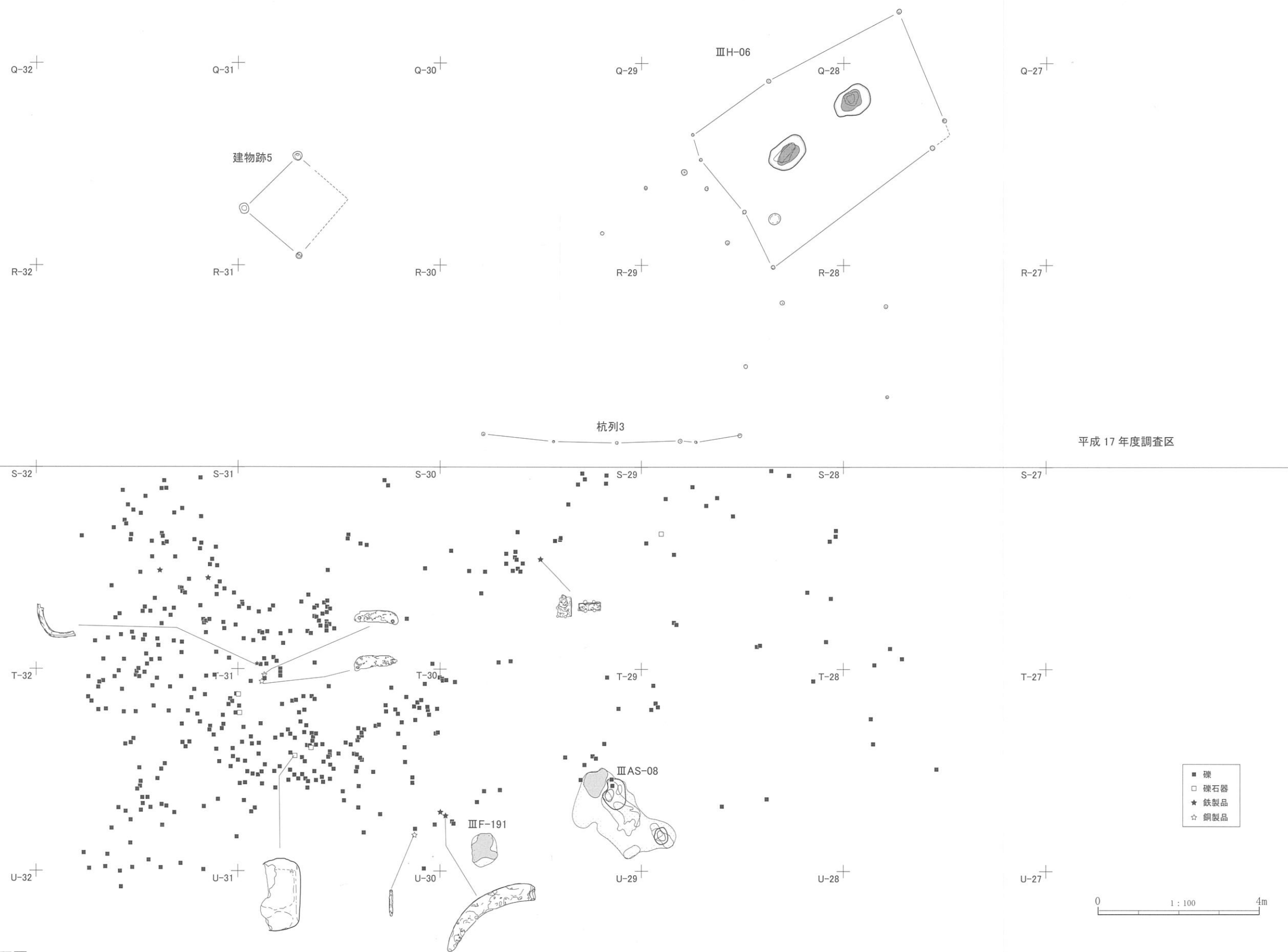
表Ⅱ-39 集中区21出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-31-1	103-2-1	-	115290	たたき石	Ⅱa2	ⅢbM	-	F-37	164.0	144.0	57.0	1820.0	Qu-Sh.	
-	103-2-2	-	115125	たたき石	Ⅳ	ⅢbM	-	F-36	(71.0)	(79.0)	57.0	280.0	Sa.	
-	103-2-3	-	115599	たたき石	Ⅱa2	ⅢbM	-	G-35	75.0	64.0	21.0	125.0	Sa.	
Ⅱ-31-2	103-2-4	-	115296	滑沢面のある礫	-	ⅢbM	-	F-36	76.0	68.0	53.0	380.0	Sa.	
-	103-2-5	-	115300	滑沢面のある礫	-	ⅢbM	-	F-35	280.0	181.0	71.0	3800.0	Sa.	
-	103-2-6	-	115302	台石	-	ⅢbM	-	G-35	(124.0)	91.0	49.0	960.0	Sa.	
-	103-2-7	-	115392	たたき石	Ⅲb	ⅢbM	-	F-38	38.0	36.0	33.0	60.0	Sa.	
-	-	-	115391	たたき石	Ⅱb2	ⅢbM	-	F-38	(96.0)	59.0	62.0	500.0	Sa.	

あることが想定された。この集中区の上方には既報告の2号平地式住居址が位置し、この住居址に関連する遺物である可能性が高いため、報告書作成段階において集中区として設定した。集中区内では遺物の他、小規模な灰集中も検出した(ⅢAS-10)。灰集中については平面形・堆積状態を記録した上で土壌サンプルを採取している。

灰集中(図Ⅱ-30)：ⅢAS-10 が関連する灰集中である。T₁-T₂ 段丘崖上位で検出した小規模な灰集中である。焼骨片は含まれておらず、灰のみが約3cmの厚さで、長軸を斜面部等高線に直交する方

集中区 22



図II-32 集中区 22 平面図

向に向けて堆積していた。

出土遺物(図II-31)：1は扁平な礫を素材とし、側縁と頂端を使用したたたき石である。表裏2面に滑沢面が形成されている。2は楕円形礫の頂端部に滑沢面が形成された礫である。

集中区 22 (図II-32～34 図版 15-3～6, 16-1～6)

位置：S・T-27～31区 規模：2,350×1,250cm 層位：IIIbM

関連遺構：焼土 IIIF-191 灰集中：IIIAS-08

確認・調査(図II-32)：T-28・29区のIIIa層調査中、灰集中の一部を確認した(IIIAS-08)。IIIb層を被覆していたため、全体形状の検出はIIIb層調査に入ってから行った。周囲のIIIb層調査を進めたところ、IIIAS-08に近接してIIIF-191を確認したため、共に平面形・堆積状態の記録を作成した後、土壌サンプルを採取した。両遺構の西側には礫を中心に多数の遺物が出土していたため、報告書作成段階において遺構・遺物出土範囲を集中区として設定した。

焼土(図II-33)：本集中区に関連する焼土はT-29区において検出したIIIF-191である。プランは不整形で、堆積状態を観察したところ、下底面が水平であったことから、投棄された焼土と判断した。土壌サンプルからはウグイと思われるコイ科の骨を多数得ている。

灰集中(図II-33)：IIIAS-08は長さ266cm、幅164cmの範囲で焼骨片が広がり、その範囲内に合計3カ所の灰ブロックと、1カ所の焼土粒ブロックが形成されている。灰ブロックは最大のもので長さ84cm、幅44cm、焼土粒ブロックは長さ74cm、幅54cmを測る。灰ブロックの下位には灰を斑状に含むIIIb主体土が堆積していた。灰層からは未被熱シカ遺存体が僅かに出土した他、シカ中手・中足骨を素材とした骨鏃が出土している。土壌サンプルからは哺乳綱、コイ科、サケ属の骨を多く得ている。

出土遺物(図II-34)：1は角柱状礫を素材としたたたき石で、頂端部に敲打痕が形成されている。2～4は鉄製品で、2は着柄部が巻き返されるタイプの鎌である。刃部の幅は約16mmで端部が丸味を帯びている。3・4は小札片で、共に折り返しが認められる。5は現存部形状がL字形に曲がった断面方形の棒状鉄片である。鉤状製品の半製品かもしれない。6～8は銅製品である。6・7は同種のもので、両端部付近に穿孔がみられる。8は鞋状のものだが、穿孔は一端のみである。いずれも武具等の部品と思われる。9はIIIAS-08の灰をフローテーションにかけた際に検出したもので、加工痕のある骨片である。骨角器の一部と思われるが、製品の種類を把握するには至らなかった。10はIIIAS-08灰層中から出土した骨鏃である。シカの中手・中足骨を素材とし、基部はやや幅広に、鏃部分は柳葉形に形成されている。灰層中に埋まっていたためか、遺存状態は極めて良好である。

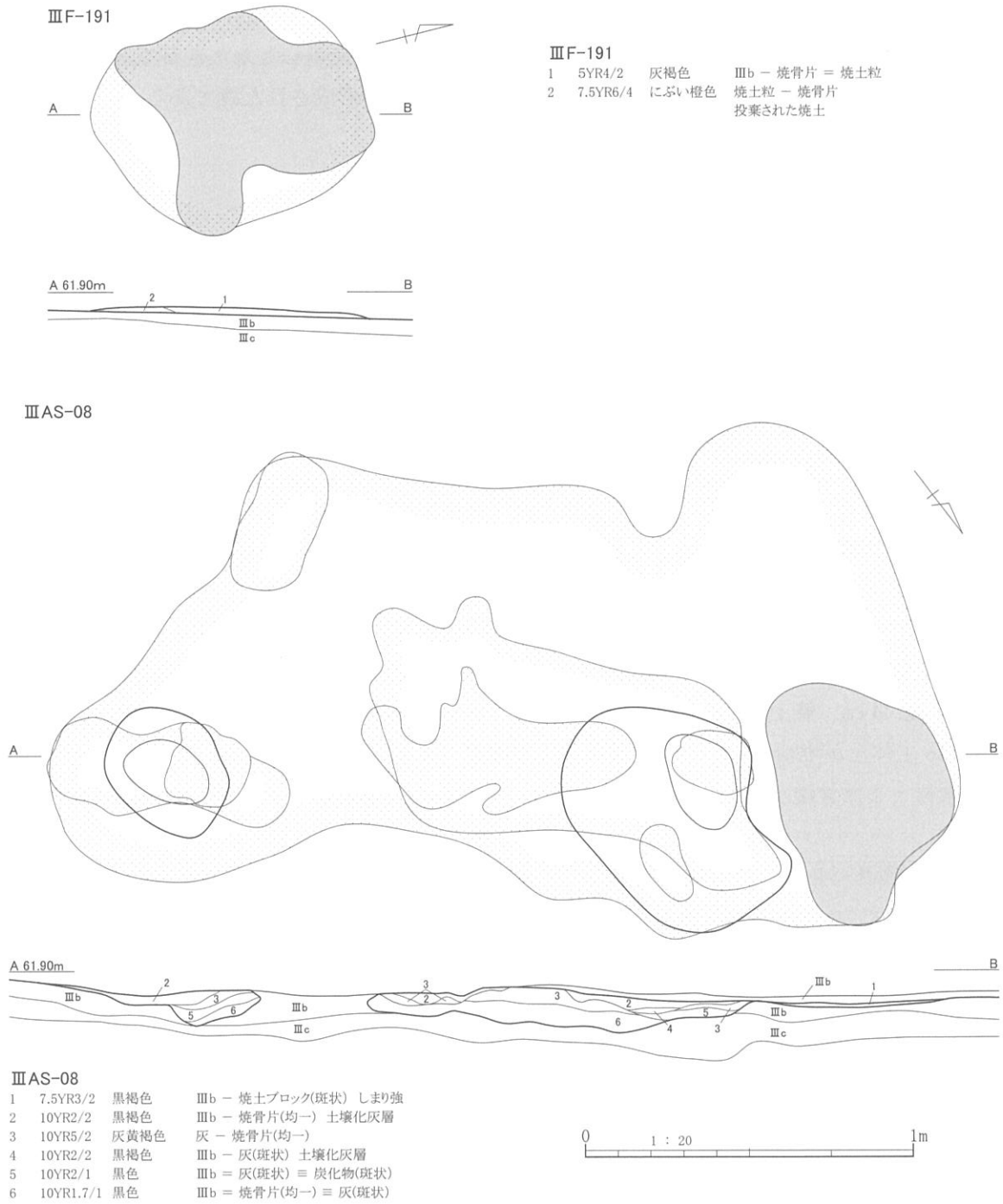
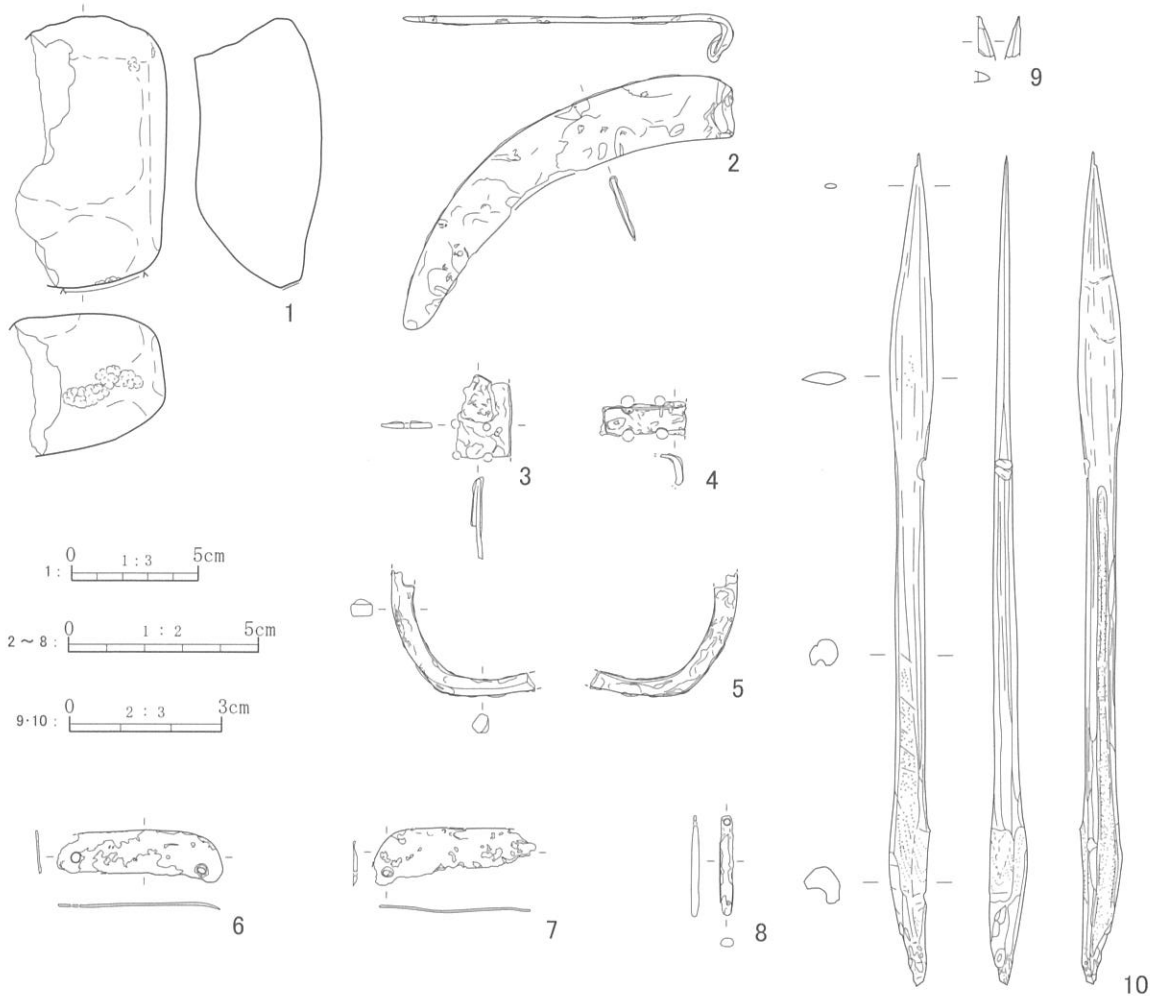


図 II-33 集中区 22 関連遺構

表 II-40 集中区22焼土・灰集中属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-33	16-1~3	III F-191	T-29	IIIbM	不整形	96	70	2	骨	焼土粒
II-33	16-4~6	III AS-08	T-28-29	IIIbM	不整形	266	164	13	灰・骨	



図II-34 集中区22出土遺物

表II-41 集中区22出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-34-1	103-3-1	-	67194	たたき石	IV	IIIbM	-	T-30	107.0	(58.3)	54.6	400.0	Sa.	
II-34-2	103-3-3	-	63135	鎌	-	IIIbM	-	T-29	86.5	68.0	2.5	13.0	Irn.	
II-34-3	103-3-4	-	55001	小札	-	IIIbU	-	S-29	(23.0)	14.0	3.5	1.2	Irn.	
II-34-4	103-3-5	-	55001	小札	-	IIIbU	-	S-29	(19.0)	23.0	6.0	1.1	Irn.	
II-34-5	103-3-6	-	55002	鉤状製品片	-	IIIbU	-	S-30	(33.5)	38.0	4.0	4.0	Irn.	
II-34-6	103-3-7	-	55007	飾金具?	-	IIIbU	-	T-30	(44.0)	14.0	2.0	1.5	Cu.	
II-34-7	103-3-8	-	63137	飾金具?	-	IIIbM	-	T-30	(43.0)	(15.0)	2.0	1.2	Cu.	
II-34-8	103-3-9	-	63136	留金具?	-	IIIbM	-	T-30	21.0	4.0	4.0	0.9	Cu.	
II-34-9	103-3-10	-	98674	骨角器	-	2	IIIAS-08	T-28	8.0	3.0	2.5	0.1	B.	
II-34-10	103-3-11	-	64819	骨鏃	-	2	IIIAS-08	T-28	16.6	7.2	6.6	6.0	B.	
-	103-3-2	-	61862	たたき石	-	IIIbM	-	T-31	(115.6)	70.9	48.1	390.0	Sa.	

集中区23 (図II-35・36 図版16-7・8)

位置: Z-AA-30~32区 規模: 1,000×500cm 層位: IIIbM

関連遺構: 焼土 IIIF-154 炭化物集中: IIIbCB-87

確認・調査(図II-35): アイヌ文化期の遺構・遺物が希薄なT₂南側段丘縁で検出した集中区である。Z-30区のIIIa層調査時に、棒状礫の一部を確認した。集石と判断できたためIIIbSB-25として設定した。礫の大半はIIIb層中に埋まっていたが、この範囲のみIIIb層調査を先行し、集石全体の検出に努めた。検出の際、周囲の土壤に炭化物が多く混入していたため、土壤サンプルを採取している。

集中区 23

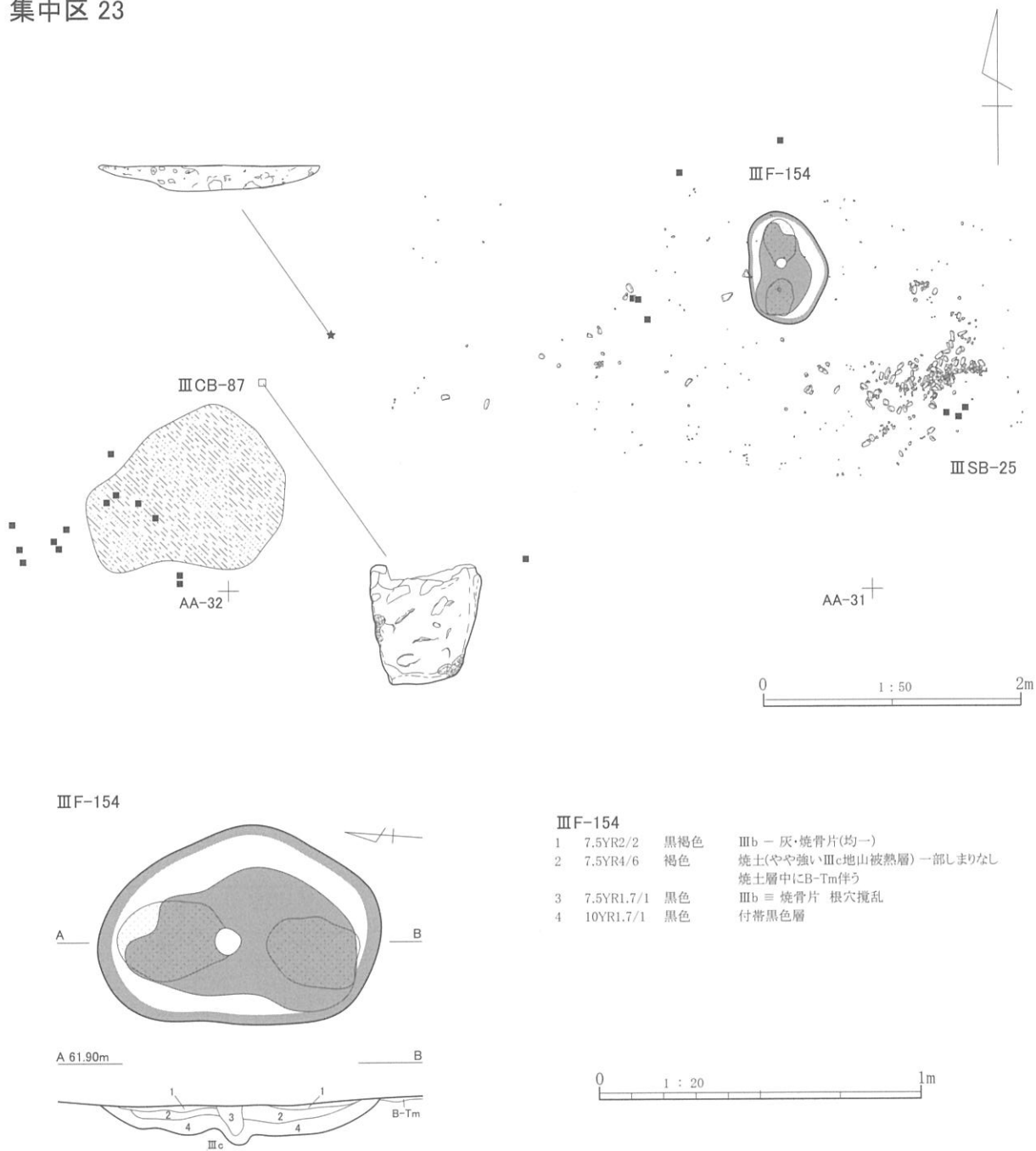


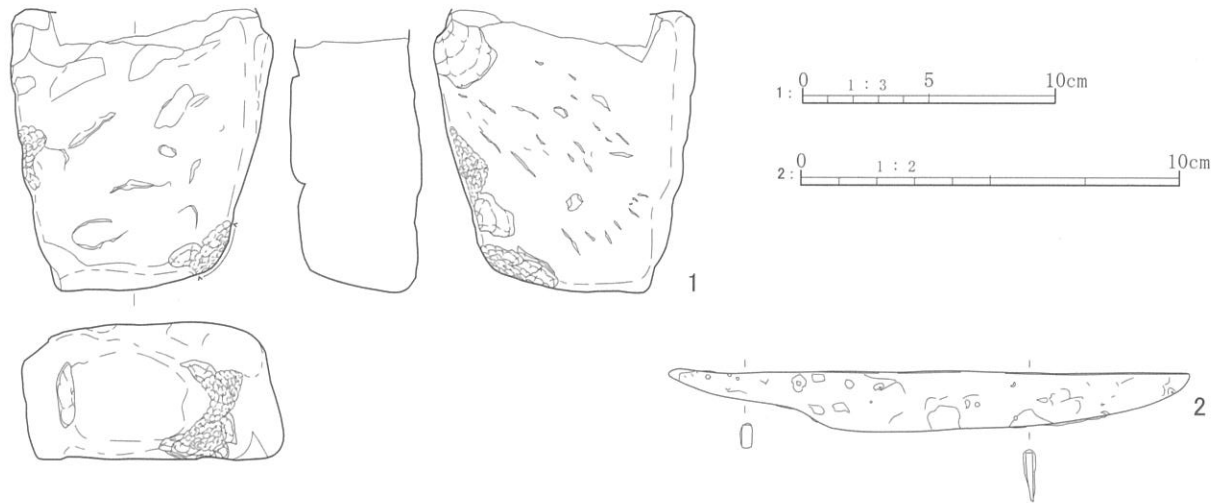
図 II-35 集中区 23 平面図及び関連遺構断面図

表 II-42 集中区23焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-35	16-8	III F-154	Z-31	IIIbL	楕円形	88	62	12	灰	

表 II-43 集中区23炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
II-35	-	III CB-87	Z-31・32	IIIbM	不整形	155	130	



図II-36 集中区23出土遺物

表II-44 集中区23出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-36-1	104-1-2	-	57009	たたき石	IV	IIIbM	-	T-32	111.0	103.0	50.0	890.0	Sa.	
II-36-2	104-1-3	-	63502	刀子	-	IIIbM	-	Z-31	137.0	17.0	3.5	19.2	Irn.	
-	104-1-1	-	63770	たたき石	I a3	IIIbM	-	Z-29	164.0	67.0	36.0	510.0	Sa.	
-	-	-	63941	砥石	-	IIIbM	-	AB-32	(143.0)	(47.1)	(16.0)	290.0	Sa.	

表II-45 IIIbM-25属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-	-	-	62344	IIIbM	完形	32.4	-24.5	20.2	-5.9	9.4	-9.3	1.6	-0.7	9.9	○	Sa.	
-	-	-	62222	IIIbM	完形	33.8	-23.1	24.8	-1.3	12.9	-5.8	1.4	-0.9	14.5	○	Sa.	
-	-	-	62252	IIIbM	完形	41.0	-15.9	17.4	-8.7	9.9	-8.8	2.4	0.1	10.4	○	Sa.	
-	-	-	56576	IIIbM	略完形	39.4	-17.5	27.3	1.2	17.4	-1.3	1.4	-0.9	25.0	○	Sa.	
-	-	-	62211	IIIbM	完形	41.9	-15.0	21.6	-4.5	18.7	0.0	1.9	-0.4	20.6	○	Sa.	
-	-	-	62223	IIIbM	完形	45.1	-11.8	25.8	-0.3	19.9	1.2	1.7	-0.6	31.6	○	Sa.	
-	-	-	62250	IIIbM	完形	44.2	-12.7	26.3	0.2	23.7	5.0	1.7	-0.6	34.7	○	Sa.	
-	-	III S1165	62253	IIIbM	完形	44.6	-12.3	22.5	-3.6	18.2	-0.5	2.0	-0.3	26.9	○	Sa.	他1点
-	-	-	62249	IIIbM	完形	47.0	-9.9	27.2	1.1	19.9	1.2	1.7	-0.6	21.5	○	Sa.	
-	-	-	62248	IIIbM	完形	50.5	-6.4	18.7	-7.4	16.9	-1.8	2.7	0.4	22.7	○	Sa.	
-	-	-	62276	IIIbM	完形	50.9	-6.0	29.6	3.5	17.4	-1.3	1.7	-0.6	29.5	-	Sa.	
-	-	-	61750	IIIbM	完形	46.4	-10.5	26.5	0.4	21.9	3.2	1.8	-0.5	45.2	-	Sa.	
-	-	-	62273	IIIbM	完形	50.3	-6.6	33.8	7.7	19.7	1.0	1.5	-0.8	49.3	-	Sa.	
-	-	-	62274	IIIbM	完形	55.3	-1.6	23.1	-3.0	19.6	0.9	2.4	0.1	35.7	-	Sa.	
-	-	-	62190	IIIbM	完形	56.2	-0.7	41.3	15.2	15.5	-3.2	1.4	-0.9	49.5	-	Sa.	
-	-	-	62358	IIIbM	完形	54.8	-2.1	34.2	8.1	24.7	6.0	1.6	-0.7	55.2	-	Sa.	
-	104-1-4	III S1164	62157	IIIbM	略完形	55.6	-1.3	27.3	1.2	26.3	7.6	2.0	-0.3	64.2	○	Sa.	他1点
-	-	-	62326	IIIbM	略完形	55.7	-1.2	27.1	1.0	14.1	-4.6	2.1	-0.2	42.1	-	Sa.	
-	-	-	61751	IIIbM	略完形	58.4	1.5	27.9	1.8	17.5	-1.2	2.1	-0.2	35.3	○	Sa.	
-	-	-	62241	IIIbM	完形	60.6	3.7	26.3	0.2	16.0	-2.7	2.3	0.0	41.6	○	Sa.	
-	-	III S1171	62262	IIIbM	略完形	62.1	5.2	19.7	-6.4	19.4	0.7	3.2	0.9	28.3	-	Mud.	他1点
-	-	-	62141	IIIbM	完形	60.8	3.9	25.2	-0.9	17.6	-1.1	2.4	0.1	48.3	○	Sa.	
-	-	-	62340	IIIbM	完形	62.1	5.2	28.7	2.6	22.5	3.8	2.2	-0.1	65.2	○	Sa.	
-	-	-	62192	IIIbM	完形	62.1	5.2	26.4	0.3	19.4	0.7	2.4	0.1	49.7	○	Sa.	
-	-	-	62388	IIIbM	完形	62.2	5.3	20.9	-5.2	21.7	3.0	3.0	0.7	47.6	-	Sa.	
-	-	-	62155	IIIbM	完形	58.1	1.2	32.1	6.0	12.8	-5.9	1.8	-0.5	36.8	-	Mud.	
-	-	III S1175	62341	IIIbM	完形	65.5	8.6	26.4	0.3	14.6	-4.1	2.5	0.2	39.8	○	Sa.	他1点
-	-	-	62176	IIIbM	略完形	70.3	13.4	33.8	7.7	17.1	-1.6	2.1	-0.2	50.9	○	Sa.	
-	-	-	62325	IIIbM	完形	72.0	15.1	27.3	1.2	14.2	-4.5	2.6	0.3	39.0	-	Sa.	
-	-	-	62289	IIIbM	略完形	62.8	5.9	35.4	9.3	24.6	5.9	1.8	-0.5	63.5	-	Sa.	
-	-	-	62292	IIIbM	完形	62.6	5.7	37.3	11.2	24.4	5.7	1.7	-0.6	78.9	-	Sa.	
-	-	-	62363	IIIbM	完形	67.2	10.3	39.1	13.0	17.7	-1.0	1.7	-0.6	59.3	-	Sa.	

表 II-45 III SB-25属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
-	-	-	62270	IIIbM	略完形	68.0	11.1	29.1	3.0	14.9	-3.8	2.3	0.0	57.8	-	Sa.		
-	-	-	62227	IIIbM	略完形	70.0	13.1	31.2	5.1	20.4	1.7	2.2	-0.1	57.0	○	Sa.		
-	-	III S1168	62317	IIIbM	完形	66.0	9.1	34.9	8.8	20.7	2.0	1.9	-0.4	76.0	-	Sa.	他3点	
-	-	-	62242	IIIbM	略完形	69.2	12.3	27.7	1.6	18.8	0.1	2.5	0.2	46.0	○	Mud.		
-	-	-	62391	IIIbM	完形	71.5	14.6	29.1	3.0	17.6	-1.1	2.5	0.2	59.4	○	Sa.		
-	-	-	62263	IIIbM	完形	73.3	16.4	20.3	-5.8	20.9	2.2	3.6	1.3	51.7	-	Sa.		
-	-	III S1166	62196	IIIbM	完形	72.0	15.1	33.6	7.5	20.1	1.4	2.1	-0.2	49.7	○	Mud.	他1点	
-	-	III S1170	62346	IIIbM	完形	71.6	14.7	22.7	-3.4	15.1	-3.6	3.2	0.9	40.0	-	Mud.	他2点	
-	-	-	62180	IIIbM	完形	76.1	19.2	35.9	9.8	18.0	-0.7	2.1	-0.2	66.5	○	Sa.		
-	-	-	62258	IIIbM	完形	74.3	17.4	23.4	-2.7	16.9	-1.8	3.2	0.9	53.9	○	Sa.		
-	-	III S1167	62170	IIIbM	完形	76.5	19.6	19.8	-6.3	11.8	-6.9	3.9	1.6	31.5	○	Mud.	他1点	
-	-	-	62243	IIIbM	完形	77.4	20.5	26.8	0.7	11.8	-6.9	2.9	0.6	44.6	○	Sa.		
-	-	-	62281	IIIbM	完形	79.3	22.4	27.6	1.5	15.2	-3.5	2.9	0.6	39.2	-	Sa.		
-	-	-	62277	IIIbM	完形	73.7	16.8	34.4	8.3	21.6	2.9	2.1	-0.2	74.8	○	Sa.		
-	-	-	62231	IIIbM	欠損	73.7	16.8	30.9	4.8	19.3	0.6	2.4	0.1	68.9	○	Sa.		
-	-	III S1174	62305	IIIbM	完形	80.7	23.8	34.4	8.3	18.7	0.0	2.3	0.0	65.9	-	Mud.	他8点	
-	-	-	62343	IIIbM	完形	78.8	21.9	36.3	10.2	16.9	-1.8	2.2	-0.1	85.0	○	Sa.		
-	-	-	62280	IIIbM	完形	79.5	22.6	27.2	1.1	26.0	7.3	2.9	0.6	58.8	○	Sa.		
-	-	-	62381	IIIbM	完形	77.3	20.4	30.9	4.8	27.9	9.2	2.5	0.2	119.7	-	Sa.		
-	-	-	62239	IIIbM	完形	84.9	28.0	24.4	-1.7	16.6	-2.1	3.5	1.2	55.7	-	Sa.		
平均						56.9		26.1		18.7		2.3		48.5				
													総点数 295点	※完形 51点				

また集石の脇で焼土を検出したため(III F-154)、その平面形・堆積状態の記録を行った。III SB-25、III F-154 の調査終了後、周囲のIII b 層掘削を行った際、III F-154 の西側約 4m の位置でクルミを主体とする炭化物集中を検出した。III CB-87 として設定し、範囲を記録し、土壌サンプルを採取した。集中区としての設定は報告書作成段階に行った。

焼土(図 II-35) : III F-154 はIII bM に形成された焼土で、上位に僅かに灰が堆積している。厚さ 6cm の良好な焼土層が形成されている。

礫集中(図 II-35) : III SB-25 は棒状礫で構成され、総点数 295 点、内完形個体 51 点であった。被熱礫の比率が極めて高い集石であり、周囲の土壌には炭化物が多量に含まれていた。

炭化物集中(図 II-35) : III CB-87 は炭化クルミ殻を主体とする炭化物集中で、長さ 160cm、幅 130 cm の範囲でまとまって検出した。同じ位置で続縄文時代のフレイク・チップ集中 III FCB-07 が出土しているが、III CB-87 がIII bM で最も密度が高く、III c には達していなかったのに対し、III FCB-07 は下位に掘削を進めるに従い密度が高くなっていったため、両遺構の時期が異なることを把握できた。

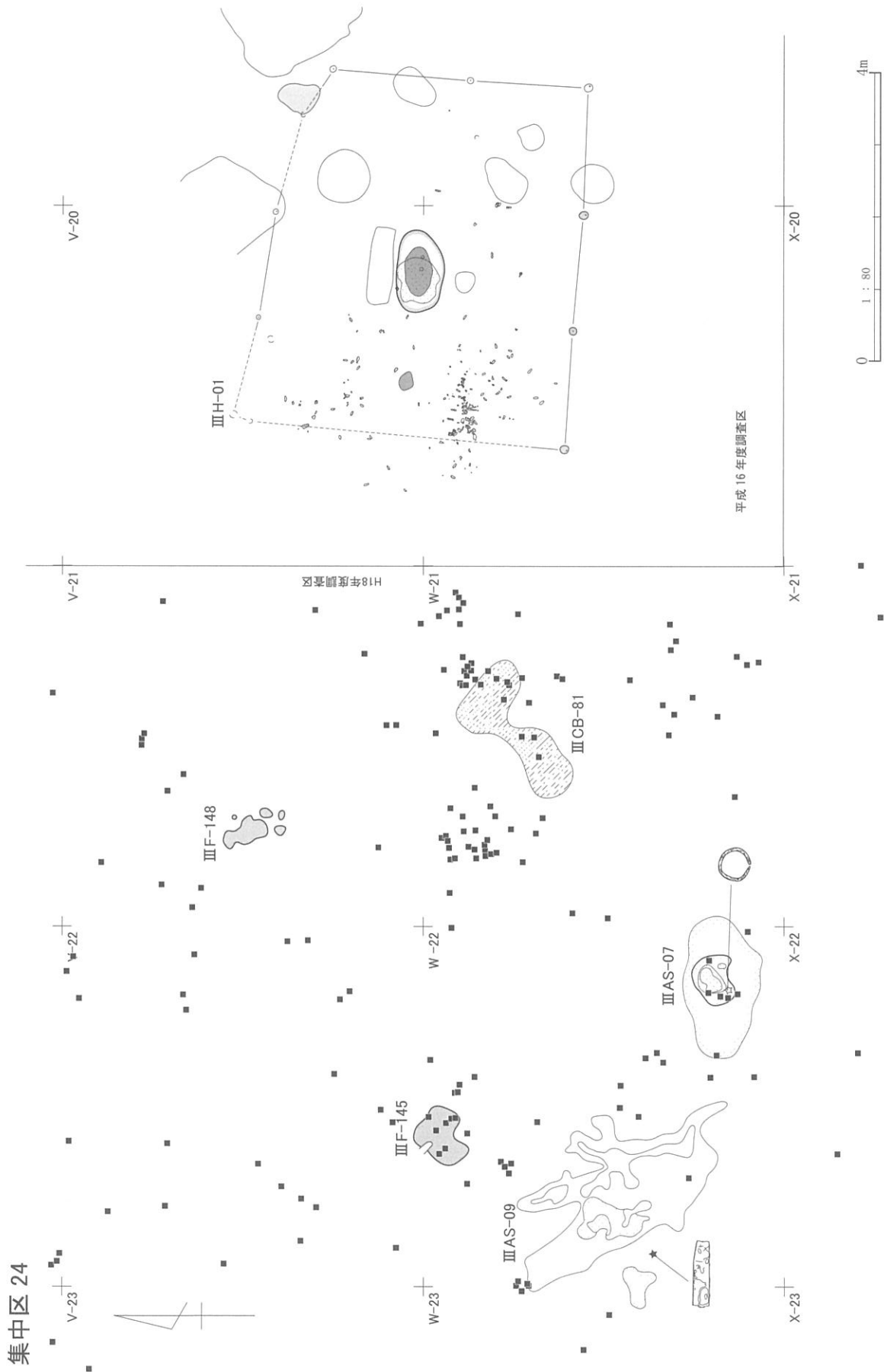
出土遺物(図 II-36) : 1 はたたき石で、角柱状礫の稜と頂端部が使用されている。2 は棟区のない刀子である。茎は断面方形で端部が尖る。

集中区 24 (図 II-37~39 図版 17-1~8)

位置 : V~X-21~23 区 規模 : 1, 200×1, 150cm 層位 : III bU

関連遺構 : 焼土 III F-145・148 灰集中 : III AS-07・09

確認・調査(図 II-37) : V~X-21~23 区のIII a 層を掘削した際、多数の礫と共に焼土 2 ヲ所(III F-145・148)と灰集中 2 ヲ所(III AS-07・09)を確認した。各遺構についてはそれぞれ平面形・堆積状態の記録を作成した後、土壌サンプルを採取した。これらを検出した位置は、平成 16 年度に調査を行った 1 号平地式住居址(III H-01)の西側で、位置関係や層位より、関連する遺構群である可能性が高い。そ



図II-37 集中区 24 平面図

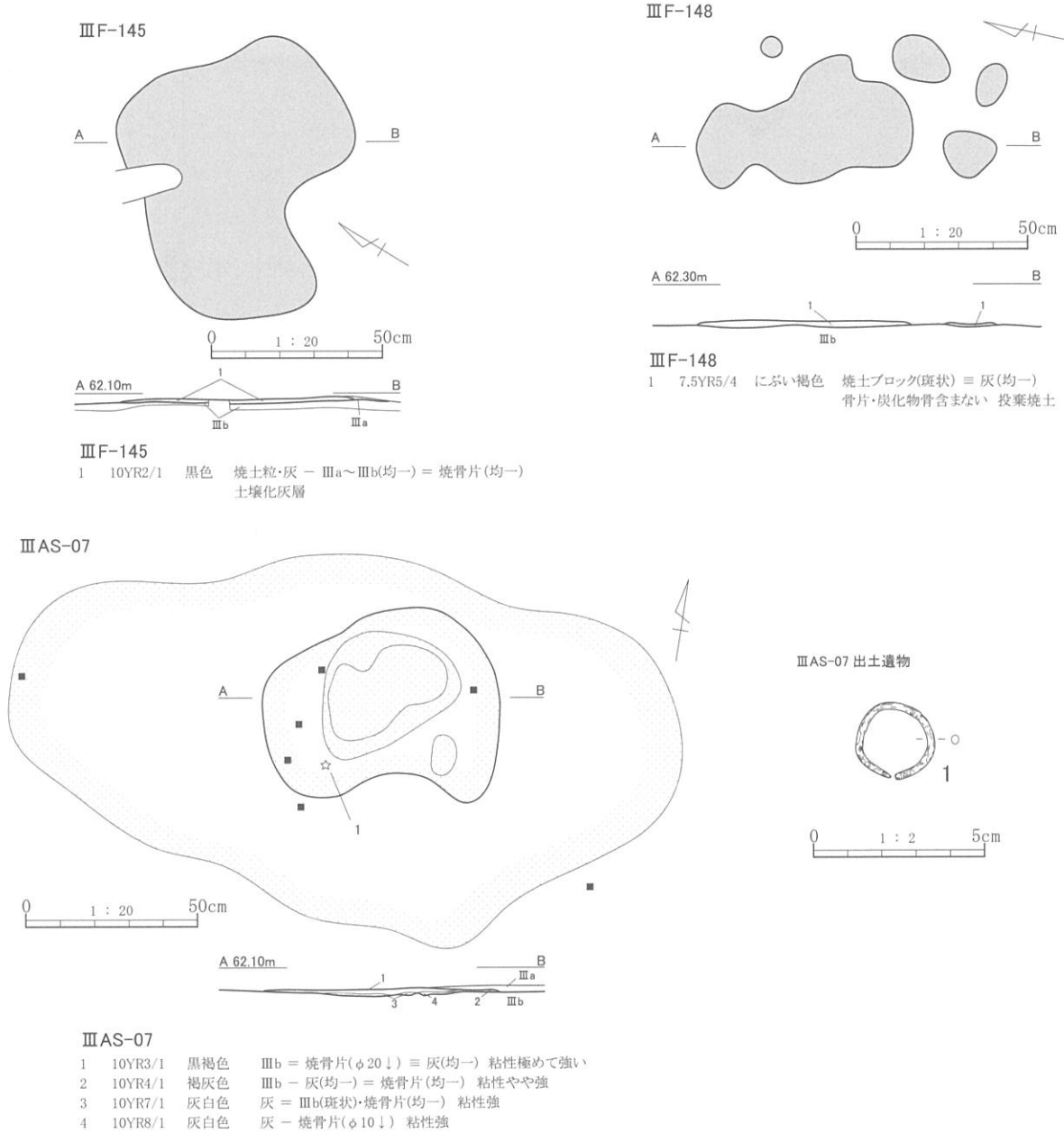


図 II-38 集中区 24 関連遺構

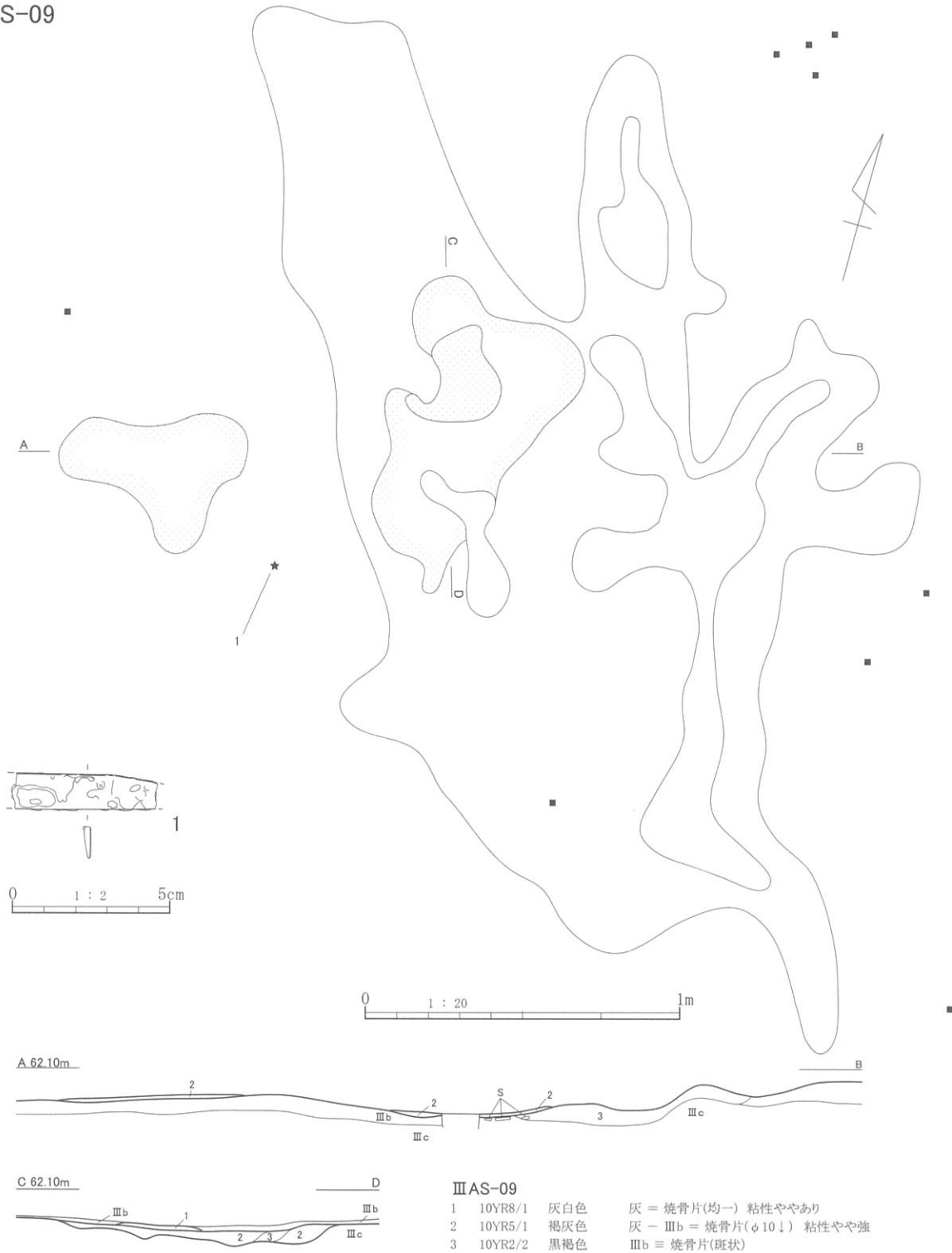
表 II-46 集中区24焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-38	17-1・2	III F-145	W・V-22	IIIbU	不整形	88	84	2	-	焼土粒
II-38	17-3・4	III F-148	V-21	IIIbU	不整形	44	38	2	-	
II-38	17-5~7	III AS-07	W-21・22	IIIbU	不整形	186	108	2	灰・焼骨片	
II-39	17-8	III AS-09	W-22・23	IIIbU	不整形	100	64	7	灰・焼骨片	

表 II-47 集中区24炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
II-37	-	III CB-81	W-21	IIIbM	不整形	192	112	

III AS-09



図II-39 灰集中9 (III AS-09)

表II-48 集中区24出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-38-1	104-5	-	56003	ニンカリ	-	III a	III AS-07	W-22	23.0	22.0	2.0	1.3	Cu.	
II-39-1	104-6	-	55960	刀子片	-	III bU	-	W-22	(47.0)	12.5	3.0	4.2	Irn.	

こで遺構調査と遺物の取り上げを終了した後、ⅢH-01 前小屋に関連する柱穴の検出に努めたが、確認には至らなかった。

焼土(図Ⅱ-38)：ⅢF-145はⅢAS-09の北側に位置する。焼土粒と灰が主体で、断面を観察した結果、下底面が水平であったことから投棄された焼土と判断した。長さ88cm、厚さ2cmの規模で堆積していた。ⅢF-148は不整形プランの焼土で、堆積状態を観察した結果、下底面が水平であったためⅢF-145と同様投棄された焼土であると判断した。約2cmの厚さで灰を僅かに含む焼土粒が堆積していた。

灰集中(図Ⅱ-38)：ⅢAS-07は長さ44cm、厚さ1cmの規模を測る灰ブロックと、その周囲に広がる焼骨片からなる。焼骨片は灰ブロック上位で最も密度が高く分布していた。灰層上面でニンカリが1点出土している。ⅢAS-09は長さ30cm、厚さ1.5cmの灰ブロックと焼骨片の分布からなる。周囲はⅢAS-09の形成より新しい樹木根の痕跡があり、灰を混入したⅢbが灰ブロック下位に押し込まれていた。周囲で刀子片1点が出土している。

出土遺物(図Ⅱ-38・39)：38-1は銅製のニンカリで、直径約20mm、断面の径は2mmを測る。輪の途切れた部分では約1mmの間隔が開き、端部は一方が尖り、一方は平坦につくり出されている。39-1は刀子の刀身部片である。

第6節 焼土(図Ⅱ-40・41 図版18, 19, 20-1~4)

ⅢbU~ⅢbMで検出した焼土をアイヌ文化期に属するものとして扱う。既刊報告書の中でアイヌ文化期の焼土の傾向として、a. 灰層を伴うこと、b. 焼土縁辺に明瞭な付帯黒色層が観察できること、c. 燃焼面が窪むこと、の3つをあげた。今回の報告分でも良好な遺構の検出は少ないが、こうした傾向を追認できる。以下で個別に記載していく。

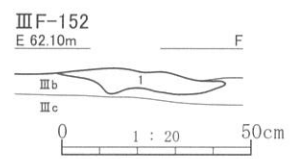
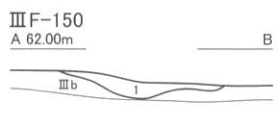
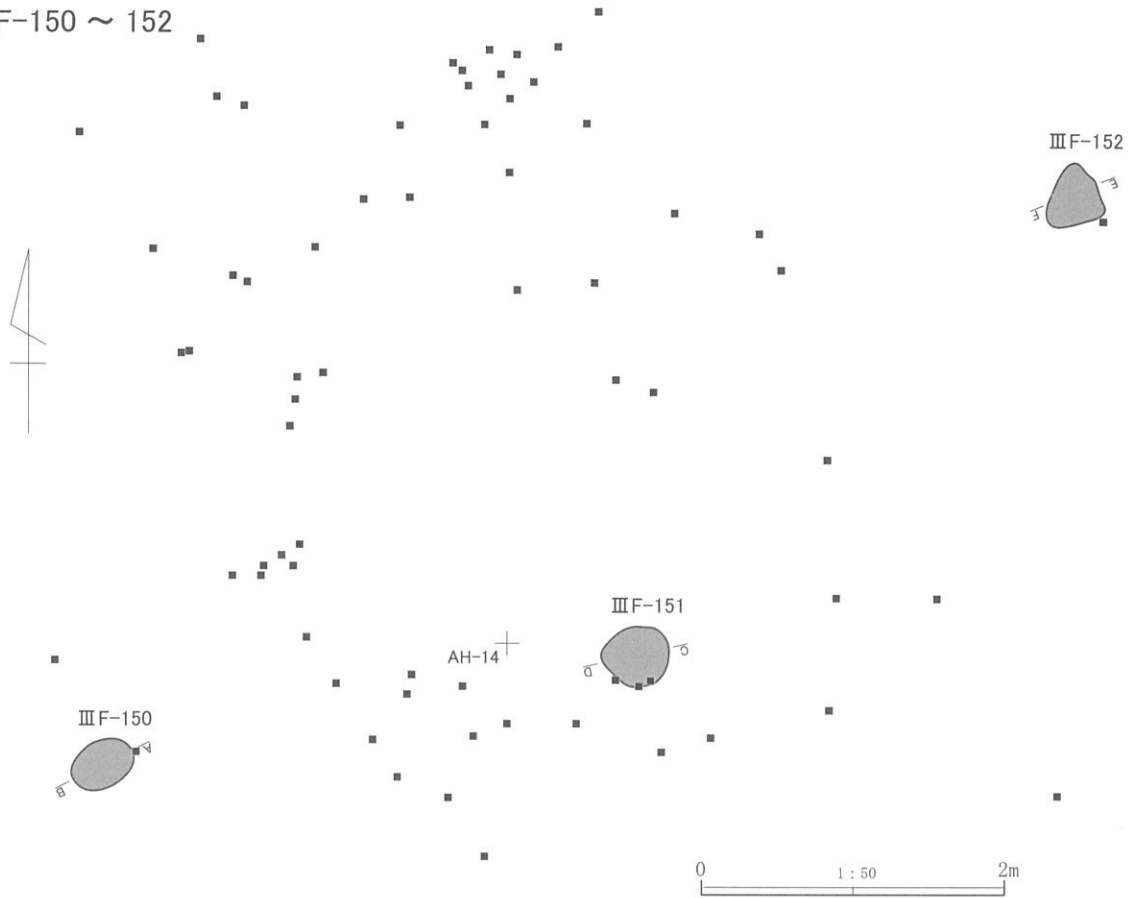
ⅢF-149(図-40)

AD-20区のⅢa調査中に検出した。不整形プランを呈し、焼土粒主体土で形成されている。堆積状態では、焼土下底面が水平で、投棄された焼土と判断した。上位には遺存状態の良い炭化物が多く認められる。ⅢaL~ⅢbUが形成面で、アイヌ文化期の中でも新しい段階に属する遺構と考えられる。

ⅢF-150~152(図-40)

AG・AH-13・14区のⅢaを掘削した際、ⅢF-150・151・152の3ヵ所の焼土を検出した。いずれもⅢbUの形成で、焼骨片は極僅かしか伴わないが、良好な焼土層が形成されている。同一面で形成されている他の焼土はほとんどが灰、または焼骨片を伴う中で、これら様相の異なる焼土のみが3ヵ所近接して検出されていることから、通常の生業活動とは異なる行為にこの場所が使用されていた可能性が想定される。周囲では不定形な礫が散逸して出土しているのみで、特筆する出土状態ではなかった。

III F-150 ~ 152



III F-150

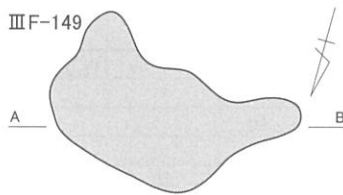
1 7.5YR6/4 にぶい橙色 焼土(やや強いIIIb地山被熱層)
- IIIb(斑状) = 炭化物
骨片含まない

III F-151

1 5YR6/6 橙色 焼土(やや強いIIIb地山被熱層)
- IIIb(斑状) = 炭化物

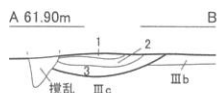
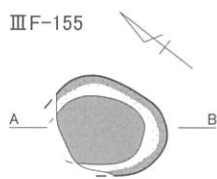
III F-152

1 5YR5/4 にぶい赤褐色 焼土(強いIIIb地山被熱層)
= IIIb(斑状)・炭化物



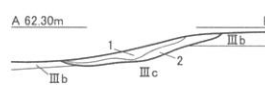
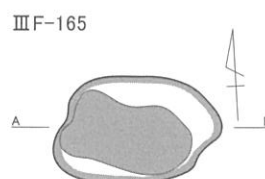
III F-149

1 10YR4/1 褐灰色 IIIb = 焼土ブロック(斑状)・炭化物
2 5YR6/6 橙色 焼土(強いIIIb地山被熱層)
3 5YR3/1 黒褐色 焼土(弱いIIIb地山被熱層)



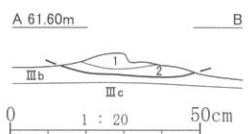
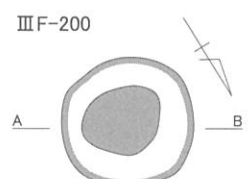
III F-155

1 10YR1.7/1 黒色 IIIb - 焼骨片(均一) = 焼土粒(斑状)
2 7.5YR4/4 褐色 焼土(弱いIIIb地山被熱層) ≡ 焼骨片
3 7.5YR2/1 黒色 付帯黒色層



III F-165

1 7.5YR7/4 にぶい橙色 焼土(IIIb地山被熱層) = 炭化物(斑状)
2 10YR1.7/1 黒色 付帯黒色層



III F-200

1 7.5YR5/4 にぶい褐色 焼土(弱いIIIb地山被熱層)
2 7.5YR2/1 黒色 付帯黒色層

図II-40 アイヌ文化期焼土(1)

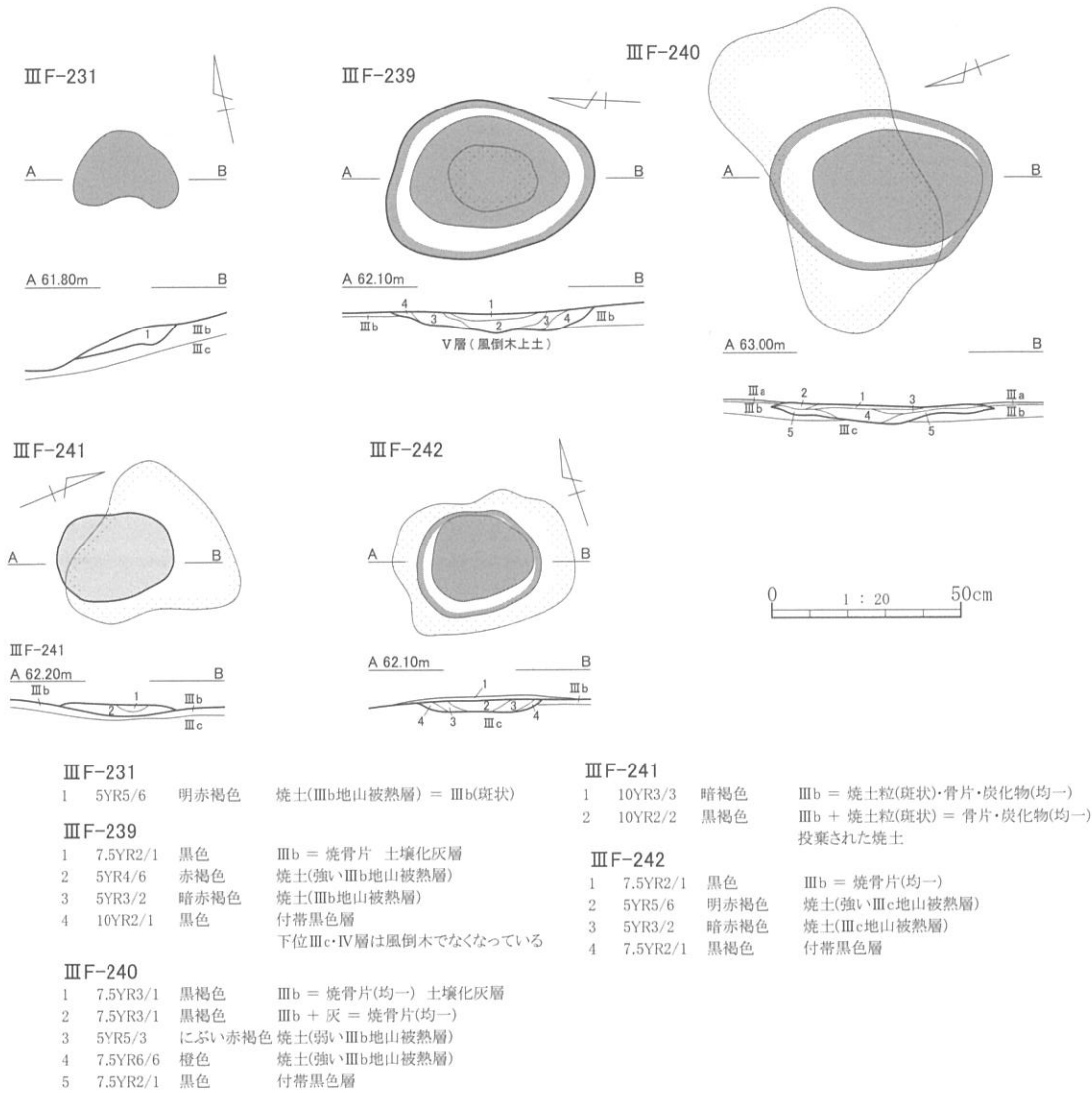


図 II-41 アイヌ文化期焼土 (2)

表 II-49 アイヌ文化期焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-40	19-1	III F-149	AD-20	IIIbU	不整形	66	48	2	-	焼土粒
II-40	18-1~3	III F-150	AH-14	IIIbU	楕円形	44	32	4	-	
II-40	18-5	III F-151	AH-13	IIIbU	楕円形	44	44	3	-	
II-40	18-6・7	III F-152	AG-13	IIIbU	楕円形	44	42	6	-	
II-40	19-2・3	III F-155	Y-28	IIIbM	-	(18)	27	6	骨	
II-40	19-4・5	III F-165	U-21	IIIbU	楕円形	47	29	4	-	
II-40	-	III F-200	-	IIIb	円形	35	34	6	-	
II-41	19-6	III F-231	I-35	IIIbM	楕円形	28	22	6	-	
II-41	19-7	III F-239	AA-14	IIIbM	楕円形	56	42	6	骨	
II-41	20-1・2	III F-240	Z-16・AA-14	IIIbM	長楕円形	59	42	5	骨	
II-41	-	III F-241	X-17	IIIbM	楕円形	33	23	3	骨	焼土粒
II-41	20-3・4	III F-242	AC-14	IIIbM	楕円形	33	28	3	骨	

III F-155 (図-40)

Y-28区で検出した。IIIbUの形成で西側が根による攪乱を受けている。焼土は浅く窪み、上位に焼骨片を含むIIIbが堆積していた。

ⅢF-165(図-40)

U-21 区において検出した。検出が遅れ上部を削平したため時期は明確ではないが、残存部分で厚さ 4 cm の焼土が形成されていた。近接する平成 16 年度調査区において古い段階のアイヌ文化期の焼土を検出しているため、同時期の可能性が高い。

ⅢF-200(図-40)

W-34 区で検出した。周囲はⅢbM 付近まで耕作により削平されており、焼土上部も削られていた。ただし焼土層がⅢc まで達していないことから、アイヌ文化期の焼土と考えた。

ⅢF-231(図-41)

I-35 区 T₁-T₂ 段丘崖上方のⅢbM で検出した。斜面で検出したことから、投棄された焼土粒の可能性を想定したが、断面を観察したところレンズ状の焼土層が確認できたため、この場所で形成された焼土と判断した。焼骨片は伴わない。

ⅢF-239(図-41)

AA-14 区の T₂-T₄ 段丘崖裾のⅢbM で検出した。燃焼面は窪み、上位に焼骨片を含むⅢb が堆積していた。土壌サンプル中からは哺乳綱の骨を得ている。

ⅢF-240(図-41)

Z-16 区のⅢbM で検出した。燃焼面は僅かに窪み、上位に焼骨片が分布していた。ⅢH-09 の南東方向に位置し検出層位も同じであるため、住居址に関連する遺構の可能性はある。土壌サンプルからは哺乳綱の骨を得ている。

ⅢF-241(図-41)

X-17 区のⅢbM で検出した。堆積状態の観察では、下底面がやや窪むが、レンズ状ではなかったため、投棄された焼土と判断した。ⅢH-09 の北側に位置するため住居址に関連する遺構の可能性はある。土壌サンプル中からは哺乳綱の骨を得ている。

ⅢF-242(図-41)

AC-14 区のⅢbM で検出した。焼土層の厚さは約 3cm で、上位に焼骨片を伴う。

第7節 集中遺物 (図Ⅱ-1 図版 35-1~4, 89-2, 91-2)

調査区内で他の遺構や遺物集中と関連することなく単体で出土した集中遺物は、ⅢSB-29・30 の 2 ヶ所である。以下で個別に記載する。

ⅢSB-29 (図Ⅱ-1)

位置：AC-20 区 層位：ⅢbM

確認・調査：AC-20 区のⅢb 調査時に検出した。320×130cm の範囲で 64 点の棒状を主体とする礫

表 II-50 III SB-29属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
—	—	—	56585	IIIbM	完形	21.5	-51.0	18.7	-12.6	9.5	-10.0	1.1	-1.4	5.6	—	Sa.	
—	—	—	56546	IIIbM	完形	25.4	-47.1	18.9	-12.4	14.3	-5.2	1.3	-1.2	10.7	—	Sa.	
—	—	III S1256	56574	IIIbM	完形	53.4	-19.1	27.4	-3.9	18.3	-1.2	1.9	-0.6	31.7	—	Sa.	他1点
—	—	—	56576	IIIbM	完形	56.9	-15.6	32.6	1.3	11.0	-8.5	1.7	-0.8	29.6	—	Sa.	
—	—	—	56531	IIIbM	完形	60.9	-11.6	26.1	-5.2	25.4	5.9	2.3	-0.2	56.9	—	Sa.	
—	—	—	56586	IIIbM	完形	61.8	-10.7	28.3	-3.0	18.6	-0.9	2.2	-0.3	48.1	—	Sa.	
—	—	—	56532	IIIbM	完形	66.9	-5.6	22.4	-8.9	27.4	7.9	3.0	0.5	56.3	—	Sa.	
—	—	—	56563	IIIbM	完形	65.6	-6.9	28.2	-3.1	12.3	-7.2	2.3	-0.2	33.4	—	Sa.	
—	—	—	56564	IIIbM	完形	71.1	-1.4	26.2	-5.1	10.4	-9.1	2.7	0.2	27.4	—	Sa.	
—	—	—	56572	IIIbM	完形	72.3	-0.2	37.9	6.6	16.6	-2.9	1.9	-0.6	63.7	—	Sa.	
—	—	—	56538	IIIbM	完形	76.5	4.0	39.0	7.7	18.9	-0.6	2.0	-0.5	67.1	—	Sa.	
—	—	III S1253	56589	IIIbM	欠損	79.1	6.6	36.0	4.7	28.4	8.9	2.2	-0.3	108.0	—	Sa.	他2点
—	—	—	56550	IIIbM	完形	91.8	19.3	23.7	-7.6	22.7	3.2	3.9	1.4	55.7	—	Mud.	
—	—	—	56565	IIIbM	完形	91.6	19.1	34.3	3.0	26.9	7.4	2.7	0.2	112.4	—	Sa.	
—	—	III S1252	56542	IIIbM	完形	94.3	21.8	37.0	5.7	21.3	1.8	2.5	0.0	94.5	—	Sa.	他1点
—	—	III S1254	56533	IIIbM	完形	98.5	26.0	33.4	2.1	10.0	-9.5	2.9	0.4	50.6	—	Sa.	他1点
平均						72.5		31.3		19.5		2.5		56.8			
														総点数 64点 ※完形 15点			

表 II-51 III SB-30属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
—	—	—	58104	IIIbM	完形	18.7	-45.1	11.8	-22.3	7.6	-10.2	1.6	-0.4	2.1	—	Sa.	
—	—	—	58103	IIIbM	完形	35.7	-28.1	19.7	-14.4	15.5	-2.3	1.8	-0.2	11.0	—	Sa.	
—	—	—	58028	IIIbM	完形	45.2	-18.6	20.1	-14.0	11.7	-6.1	2.2	0.2	14.4	—	Sa.	
—	—	—	58040	IIIbM	完形	45.8	-18.0	33.1	-1.0	11.1	-6.7	1.4	-0.6	28.0	—	Sa.	
—	—	—	58084	IIIbM	完形	48.1	-15.7	24.3	-9.8	14.2	-3.6	2.0	0.0	22.4	—	Sa.	
—	—	—	58022	IIIbM	完形	50.9	-12.9	38.7	4.6	20.3	2.5	1.3	-0.7	33.1	—	Sa.	
—	—	—	58078	IIIbM	完形	51.2	-12.6	26.6	-7.5	17.8	0.0	1.9	-0.1	33.3	—	Sa.	
—	—	—	58029	IIIbM	完形	51.1	-12.7	30.0	-4.1	12.4	-5.4	1.7	-0.3	28.5	—	Sa.	
—	—	—	58030	IIIbM	完形	51.9	-11.9	22.6	-11.5	14.5	-3.3	2.3	0.3	25.0	—	Sa.	
—	—	—	58038	IIIbM	完形	55.5	-8.3	32.9	-1.2	19.1	1.3	1.7	-0.3	42.6	—	Sa.	
—	—	—	57471	IIIbM	完形	55.1	-8.7	24.1	-10.0	21.3	3.5	2.3	0.3	37.7	—	Sa.	
—	—	—	58026	IIIbM	完形	57.2	-6.6	31.9	-2.2	16.7	-1.1	1.8	-0.2	38.5	—	Con.	
—	—	—	58056	IIIbM	完形	57.0	-6.8	36.3	2.2	13.9	-3.9	1.6	-0.4	45.3	—	Sa.	
—	—	—	57466	IIIbM	完形	57.6	-6.2	26.0	-8.1	14.8	-3.0	2.2	0.2	25.7	—	Sa.	
—	—	—	58312	IIIbM	完形	59.4	-4.4	35.1	1.0	10.8	-7.0	1.7	-0.3	30.8	—	Sa.	
—	—	—	58090	IIIbM	完形	60.8	-3.0	42.1	8.0	19.4	1.6	1.4	-0.6	48.5	—	Sa.	
—	—	—	58313	IIIbM	完形	60.6	-3.2	29.7	-4.4	11.2	-6.6	2.0	0.0	32.6	○	Sa.	
—	—	—	58009	IIIbM	完形	63.5	-0.3	23.3	-10.8	23.0	5.2	2.7	0.7	37.6	—	Sa.	
—	—	—	58069	IIIbM	完形	61.4	-2.4	21.8	-12.3	14.0	-3.8	2.8	0.8	23.8	—	Sa.	
—	—	—	58071	IIIbM	完形	60.7	-3.1	42.2	8.1	20.6	2.8	1.4	-0.6	57.4	—	Sa.	
—	—	—	57498	IIIbM	完形	59.3	-4.5	36.3	2.2	29.2	11.4	1.6	-0.4	77.4	—	Sa.	
—	—	—	58072	IIIbM	完形	64.2	0.4	38.4	4.3	11.4	-6.4	1.7	-0.3	39.0	—	Sa.	
—	—	—	58077	IIIbM	完形	63.3	-0.5	32.7	-1.4	19.4	1.6	1.9	-0.1	46.3	—	Sa.	
—	—	—	58094	IIIbM	完形	64.9	1.1	30.7	-3.4	18.9	1.1	2.1	0.1	47.2	—	Sa.	
—	—	—	57484	IIIbM	完形	65.5	1.7	36.2	2.1	21.1	3.3	1.8	-0.2	60.5	—	Sa.	
—	—	—	58089	IIIbM	完形	68.2	4.4	35.5	1.4	14.2	-3.6	1.9	-0.1	46.0	—	Sa.	
—	—	—	58068	IIIbM	完形	65.3	1.5	31.1	-3.0	23.7	5.9	2.1	0.1	44.4	—	Sa.	
—	—	III S1266	57487	IIIbM	完形	67.4	3.6	23.0	-11.1	23.6	5.8	2.9	0.9	72.0	—	Sa.	
—	—	—	57468	IIIbM	完形	66.6	2.8	22.7	-11.4	21.4	3.6	2.9	0.9	38.2	—	Sa.	他1点
—	—	—	58085	IIIbM	完形	69.6	5.8	41.7	7.6	20.4	2.6	1.7	-0.3	80.5	—	Sa.	
—	—	—	57497	IIIbM	完形	72.1	8.3	32.7	-1.4	23.0	5.2	2.2	0.2	67.9	—	Sa.	
—	—	—	58046	IIIbM	完形	83.3	19.5	38.2	4.1	23.0	5.2	2.2	0.2	90.0	—	Sa.	
—	—	—	57494	IIIbM	完形	102.2	38.4	33.0	-1.1	18.5	0.7	3.1	1.1	54.7	—	Sa.	
—	—	—	58105	IIIbM	完形	210.0	146.2	155.0	120.9	29.0	11.2	1.4	-0.6	1630.0	—	Sa.	
平均						63.8		34.1		17.8		2.0		88.6			
														総点数 143点 ※完形 34点			

が出土している。出土状態は散逸しており、住居址に伴う礫集中と比べてまとまりが悪い。完形個体は15点で、欠損率が高い集石である。

III SB-30 (図II-1)

位置：X-18・19区 層位：IIIbM

確認・調査：X-18・19区のIIIb層調査時に検出した。周囲は攪乱が著しく、島状に残されたIIIb残存範囲で出土している。300×220cmの範囲で143点の棒状礫が出土している。出土状態はやや散逸している。完形の個体は34点で、やや欠損率が高い。

第8節 獣骨集中・焼骨片集中

本節では、包含層調査中に平地式住居址から距離をおき、スポット的に検出した骨の集中について記載する。これらはいずれもIII BBの遺構名を付けているが、大きく2つの種類に分けられる。1つは未被熱の獣骨で構成されるもので「獣骨集中」として報告する。もう1つは焼骨片で構成されるもので「焼骨片集中」として報告する。獣骨集中及び調査区内で出土した個々の未被熱獣骨については、1破片毎にNo.を付し、台帳に層位と推定部位等を記入し、トータルステーションで位置を記録した。また必要に応じ微細図を作成している。取り上げについては遺存状態が良好で、部位同定が可能と思われる資料のみ、希釈した木工用ボンドで補強し、土壌ごと取り上げている。焼骨片集中に関しては、分布範囲を記録した上で、土壌サンプルを採取した。

獣骨集中 34 [III BB-34] (図II-42 図版20-5~7)

位置：O・P-42区 主体検出層位：IIIbU

規模：366×333cm 平面形：不整形

主体動物／部位：シカ／頭蓋骨

確認・調査：III BB-34はT₁-T₂段丘崖裾のO・P-42区で検出した。IIIa層の掘削を開始してすぐに散逸した状態で多数の骨の出土を確認したことから、全体形状の検出に努めた。出土した骨はすべてIIIb層上面に位置していたため、アイヌ文化期でも新しい時期のものであると判断できた。調査中、トレンチの縁に位置していた一部の骨が大雨の際にトレンチ壁面と共に崩落したが、他の資料については補強した上で取り上げを行っている。

分布・出土状態：散逸した分布であるが、試掘トレンチに近い南側でやや密度が高い。平成16年度に行ったT₁の試掘調査でもトレンチ内で多数の獣骨を確認したため、トレンチ付近が分布の中心であったと考えられる。集中範囲内に複数個体のシカ下顎骨がそれぞれ距離を置いて出土していた。

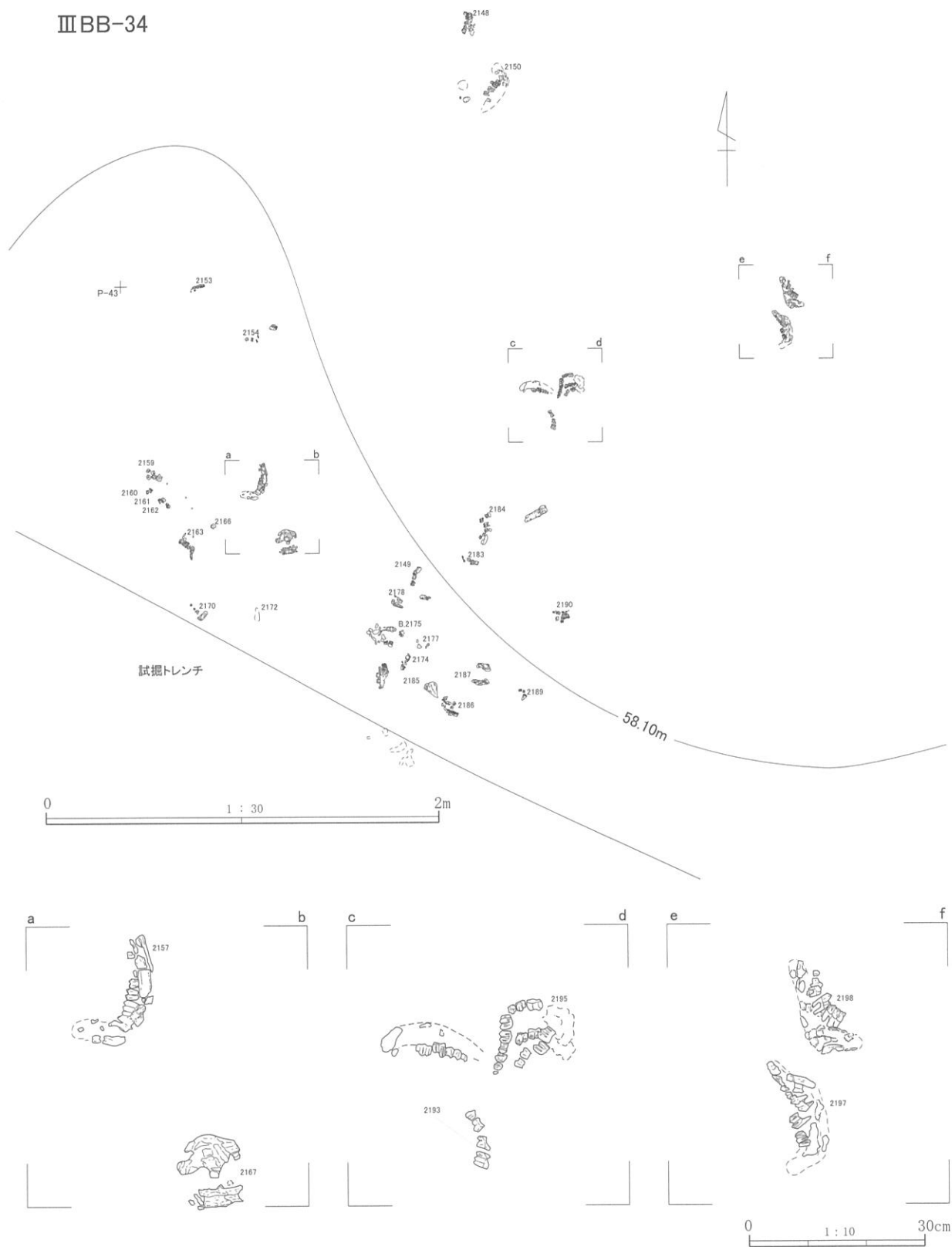
獣骨の特徴：同定結果では、シカの角座、上顎・下顎歯などの頭蓋骨に由来する部位が主体で、四肢骨等胴体部分の骨はほとんど含まれていない。また遺存状態は上・下顎骨が比較的良好な状態で遺存するものから、臼歯冠列のみが遺存するものまで、個体ごとに差が認められた。

性格：四肢骨等胴体部分の骨が極端に少ないことからシカ頭部のみが意図的に集められ、また下顎骨を伴うことからこの場に持ち込まれた時点では骨のみでなく肉や皮膚も残っていた可能性が

表II-52 III BB-34属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
II-42	20-5~7	III BB-34	O・P-42,P-43	IIIbU	不整形	366	333	上・下顎骨	—	—	

ⅢBB-34



図Ⅱ-42 獣骨集中34 (ⅢBB-34) 平面図

高い。以上の状況から遺跡内、もしくはごく近縁で解体し、その直後のシカ頭部を用いた「送り儀礼」的行為により残された集中と考えられる。時期については、検出層位からモイ遺跡が集落として営まれた最も新しい時期に相当する。

獣骨集中 51〔III BB-51〕 (図II-43・44 図版21)

位置：A+B+51・52区 主体検出層位：III aU

規模：885×450cm 平面形：不整形

主体動物／部位：シカ全身骨

確認・調査：重機による火山灰除去中、T₁北西端部で検出した。獣骨集中の位置はIV層(Ta-c)降下時まで流れていた旧河道跡の中州状の高まりに相当する。II c 層(Ta-b)を直接被る状態で出土したことから、周囲の火山灰除去は人力で慎重に行った。骨の検出を進めた結果、樹木根痕とその東脇に1個体、南に離れた位置で1個体の計2個体分のシカの骨を確認した。骨と樹木痕との関係を把握するため、樹木痕に堆積状態観察用のトレンチを設定したところ、II c の堆積は全体を被覆しているが、腐食した根痕中への混入は極僅かであることが解った。以上よりこの樹木痕は獣骨集中が形成された Ta-b 降下時にまだ生育していたか、あるいは立ち枯れ状態であった立木の痕跡であると判断した。獣骨の調査は写真撮影の後、微細図を作成した後取り上げを行った。

分布・出土状態：出土した2個体の内、樹木脇の1個体(個体A)はほぼ全身の骨が残され、比較的まとまり良く出土していた。アイヌ文化期の他の獣骨集中ではみられない部位の末節骨や椎骨などの体幹骨が出土しているのが特徴である。南に離れて出土した別個体(個体B)の骨は、頭蓋骨と僅かな四肢骨で構成され、散逸した状態で出土していた。獣骨が樹木痕内に落込んでいないことから、獣骨集中と樹木痕との同時性が追認できる。

獣骨の特徴：詳細は第七章第4節で報告されているが、出土したシカは4歳前後の成獣で、特筆すべき点として個体Aの角幹に小動物による噛み痕が残されていた。

性格：出土した獣骨は直接II c を被覆していたことから、1667年直前頃に残された集中と判断できる。上幌内モイ遺跡における焼土等の他の遺構は、いずれもIII a 層を除去した後に検出され、III bU 形成のものが最も新しいため、集落としての利用は1667年よりも数十年程古い17世紀初頭頃までであったと考えられる。従って本遺構は遺跡が集落としての機能を終えた後に残されたことになる。また4歳前後の大きく成長したシカの全身骨が出土していることから、狩猟後長距離を移動したとは考え難く、近くで狩猟した後すぐに解体され、肉、皮のみを得た残りと考えられる。以上より、本遺構は集落から離れた狩猟場における、大木を意識した「送り場」としての性格が想定される。

表II-53 III BB-51属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備考
						長軸	短軸				
II-43	21	III BB-51	A・B-50・51	III aU	不整形	885	450	シカ全身	—	—	樹木根痕に伴う



図 II-43 獣骨集中 51 (III BB-51) 平面図

III BB-51

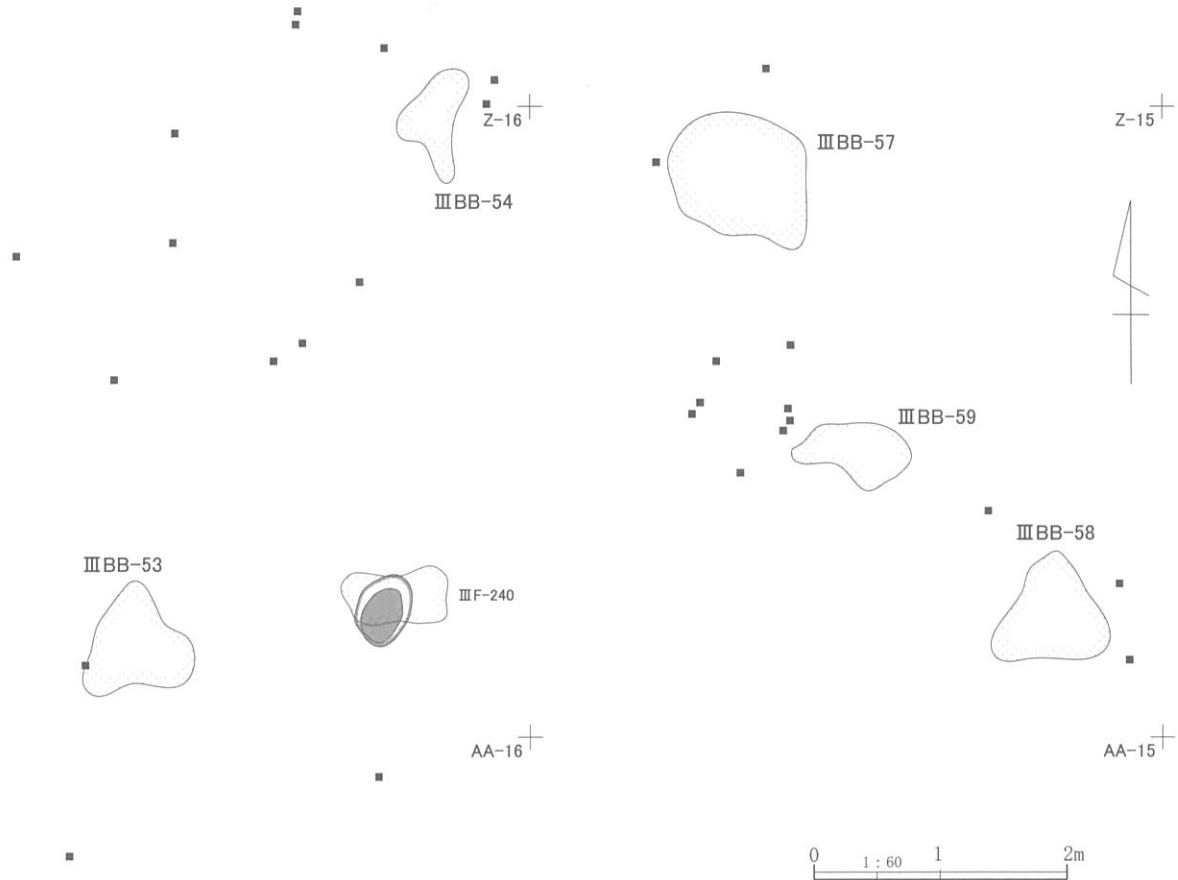


図II-44 獣骨集中51(III BB-51)拡大図

焼骨片集中 53・54・57～59〔ⅢBB-53・54・57～59〕 (図Ⅱ-45)

確認・調査等：いずれも Z-15・16 区のⅢbM で検出した焼骨片集中である。ⅢBB-53・54・59 の土壌サンプル中からは哺乳綱の骨を得ている。ⅢH-09 の南東側に位置し、それぞれの土壌サンプルから得た骨の構成に魚骨が含まれていない点がⅢH-09 付属炉と共通することや検出層位より、住居址と関連する遺構群の可能性はある。

ⅢBB-53・54・57～59



図Ⅱ-45 焼骨片集中

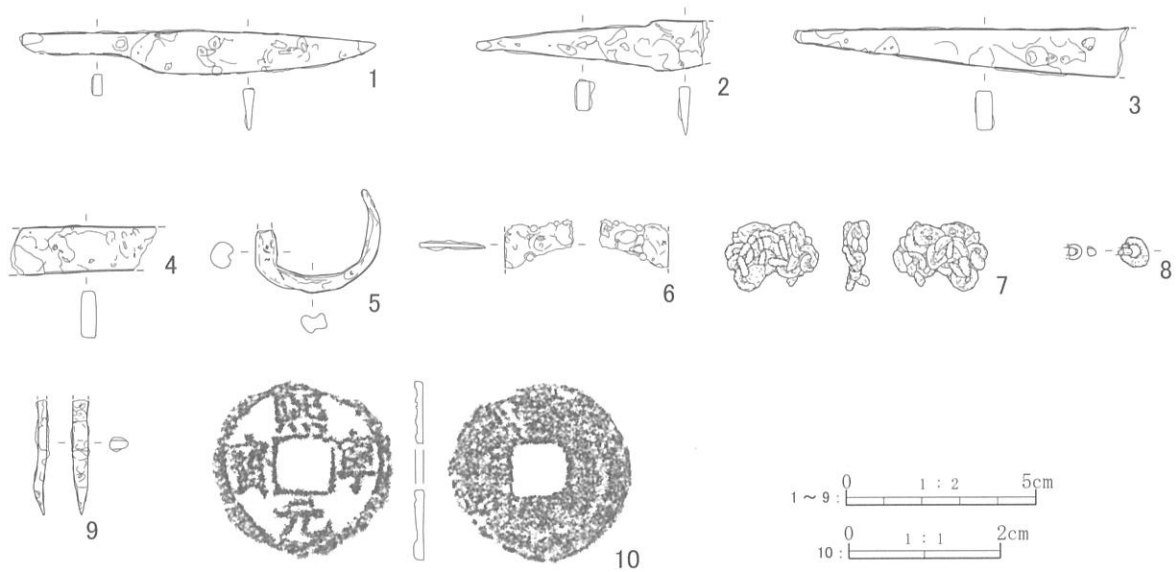
表Ⅱ-54 アイヌ文化期焼骨片集中属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備考
						長軸	短軸				
Ⅱ-45	—	ⅢBB-53	Z-16	ⅢbM	不整形	93	90	—	○	—	
Ⅱ-45	—	ⅢBB-54	Y・Z-16	ⅢbM	不整形	90	75	—	○	—	
Ⅱ-45	—	ⅢBB-57	Z-15	ⅢbM	不整形	132	102	—	○	—	
Ⅱ-45	—	ⅢBB-58	Z-15	ⅢbM	不整形	93	84	—	○	—	
Ⅱ-45	—	ⅢBB-59	Z-15	ⅢbM	不整形	96	54	—	○	—	

第9節 アイヌ文化期包含層出土遺物

金属製品 (図Ⅱ-46 図版 104-2)

1~4 は刀子及び刀子片である。1 は棟区のない比較的小型のもの、2~4 は茎部分で2 には棟区、刃区の両方が形成されている。いずれも茎部の断面形は方形である。5 は表採資料の鉤状製品で表裏関係にある2面に浅い溝が入り断面形が「H」字形になっている。6 は小札片で径2mmの穴が開けられている。7・8 は同一個体の鎖形製品で、8 は鎖を構成する鉄製の輪の1つである。鎖の連結方法に特徴があり、直径約8mmある鉄製の輪同士を、径の異なる別の輪を用いて連結している。同様の構造をした製品は、陸別町ユクエピラチャシ跡(大鳥居 2007)で出土している。9 は棒状鉄片で、端部が尖り、若干折れ曲がっている。断面形が長方形であることから、鋸片の可能性はある。ⅢH-08に近いS-21 区のⅢbU で出土している。10 は1068年初鑄の「熙寧元寶」である。



図Ⅱ-46 アイヌ文化期包含層出土遺物

表Ⅱ-55 アイヌ文化期包含層出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-46-1	104-2-1	-	56282	刀子	-	ⅢbM	-	AG-15	94.0	12.5	3.0	7.1	Irn.	
Ⅱ-46-2	104-2-2	-	55003	刀子片	-	ⅢbU	-	U-34	(62.0)	13.0	5.0	7.6	Irn.	
Ⅱ-46-3	104-2-3	-	55004	刀子茎	-	ⅢbU	-	V-34	(38.0)	8.0	5.0	16.8	Irn.	
Ⅱ-46-4	104-2-4	-	73673	刀子茎	-	ⅢbM	-	K-36	38.0	13.0	5.0	3.1	Irn.	
Ⅱ-46-5	104-2-5	-	-	鉤状製品	-	ⅢbM	-	表採	33.0	27.0	7.0	4.9	Irn.	
Ⅱ-46-6	104-2-6	-	55239	小札片	-	ⅢbU	-	U-22	8.0	(18.0)	3.0	0.7	Irn.	
Ⅱ-46-7	104-2-7	-	73674	鎖型製品	-	ⅢbM	-	K-36	24.8	18.0	6.8	3.1	Irn.	
Ⅱ-46-8	-	-	73674	鎖型製品	-	ⅢbM	-	K-36	8.1	8.0	4.0	0.3	Irn.	
Ⅱ-46-9	104-2-8	-	55507	鋸片	-	ⅢbU	-	S-21	(30.0)	5.0	4.0	0.5	Irn.	
Ⅱ-46-10	104-2-9	-	73880	古銭	-	ⅢbL	-	V-40	23.0	23.0	1.0	2.2	Cu.	

第Ⅲ章 擦文文化期の調査

擦文文化期の調査では、合計 57 ヲ所の焼土や土器・礫石器を中心に多数の遺構・遺物が出土している。これらは無関係に分布しているのではなく、ある程度のまとまりをもった集中区を形成している。平成 18・19 年度の調査区では擦文文化期に属する集中区が合計 20 ヲ所で認められた。この中には鉄器生産関連遺物の集中も含まれている。また特筆すべき遺構として、擦文文化期としては事例の少ない土壙墓を 1 基検出している。

表Ⅲ-1 擦文文化期 遺構群一覧表

遺構名	規模 (cm)		グリッド	層位	付属遺構						備考
	長軸	短軸			土坑	焼土等	獣骨 集中	炭化物 集中	土器 集中	礫集中	
集中区25	825	575	S・T-21	ⅢbL		ⅢF-146・ 167・180		ⅢCB-83	ⅢPB-23	ⅢSB-36	
集中区26	1,300	1,050	T~V- 22・25	ⅢbL	ⅢP-23・ 25・27・ 28・29	ⅢF- 162・166		ⅢCB-84		ⅢSB-35	
集中区27	900	850	S・T- 25・26	ⅢbL		ⅢF- 172・173			ⅢPB-26		
集中区28	850	700	U・V- 26・27	ⅢbL		ⅢF- 170・171			ⅢPB- 27・28・29		
集中区29	900	700	S・T- 27・28	ⅢbL		ⅢF- 176・179				ⅢSB-37	
集中区30	1,200	1,150	S~U- 29~31	ⅢbL		ⅢF-193・ 194・195・ 196			ⅢPB-40	ⅢSB- 41・42	
集中区31	800	600	U・V-30・ 31	ⅢbL	ⅢP-47	ⅢF-189			ⅢPB-39	ⅢSB-43	
集中区32	950	750	W・X- 30・31	ⅢbL	ⅢP-31	ⅢF- 186・188			ⅢPB- 33・34		
集中区33	1,350	1,000	U~W-31 ~34	ⅢbL	ⅢP-32	ⅢF-190		ⅢCB-88		ⅢSB-44	
集中区34	1,300	700	W~Y- 32~34	ⅢbL		ⅢF-185	ⅢBB-25		ⅢPB-35	ⅢSB-40	
集中区35	1,500	1,300	T~W-34 ~36	ⅢbL	ⅢP-40・ 41・44・45	ⅢF-192・ 216・218・ 219・224	ⅢBB- 37・41		ⅢPB- 42・52・54	ⅢSB- 47・53	
集中区36	650	500	Y-34・35	ⅢbL	ⅢP-35・ 36・39	ⅢF-214				ⅢSB-52	
集中区37	750	700	W・X- 35・36	ⅢbL	ⅢP-33・ 34a・34b・ 38	ⅢF-217				ⅢSB-51	
集中区38	700	500	V~X- 37・38	ⅢbL	ⅢP-37a・ 37b	ⅢF-210・ 212・227				ⅢSB-49	
集中区39	975	950	V・W- 38~40	ⅢbL	ⅢP-42・ 43・46	ⅢF-209・ 211・213・ 215・220・ 222				ⅢSB- 50・57	
集中区40	1,050	800	AA~ AC-	ⅢbL		ⅢF-168			ⅢPB- 24・25		
集中区41	1,350	650	AB・AC- 28~30	ⅢbL		ⅢF-183・ 198・202	ⅢBB-23	ⅢCB-86	ⅢPB- 31・32・45	ⅢSB- 38・39	
集中区42	850	800	S・T- 38・39	ⅢbL							ⅢX-02と関 連?
集中区43	900	750	F・G- 47・48	ⅢbL		ⅢF- 236・237				ⅢSB- 61・62	
集中区44	900	600	O・P- 41・42	ⅢbL					ⅢPB-48	ⅢPB-02	

第1節 土壙墓

3号土壙墓〔ⅢGP-03〕 (図Ⅲ-3~7 カラー図版 1-1~5、図版 22-1~7、23-1~8)

位置：W・X-37・38区

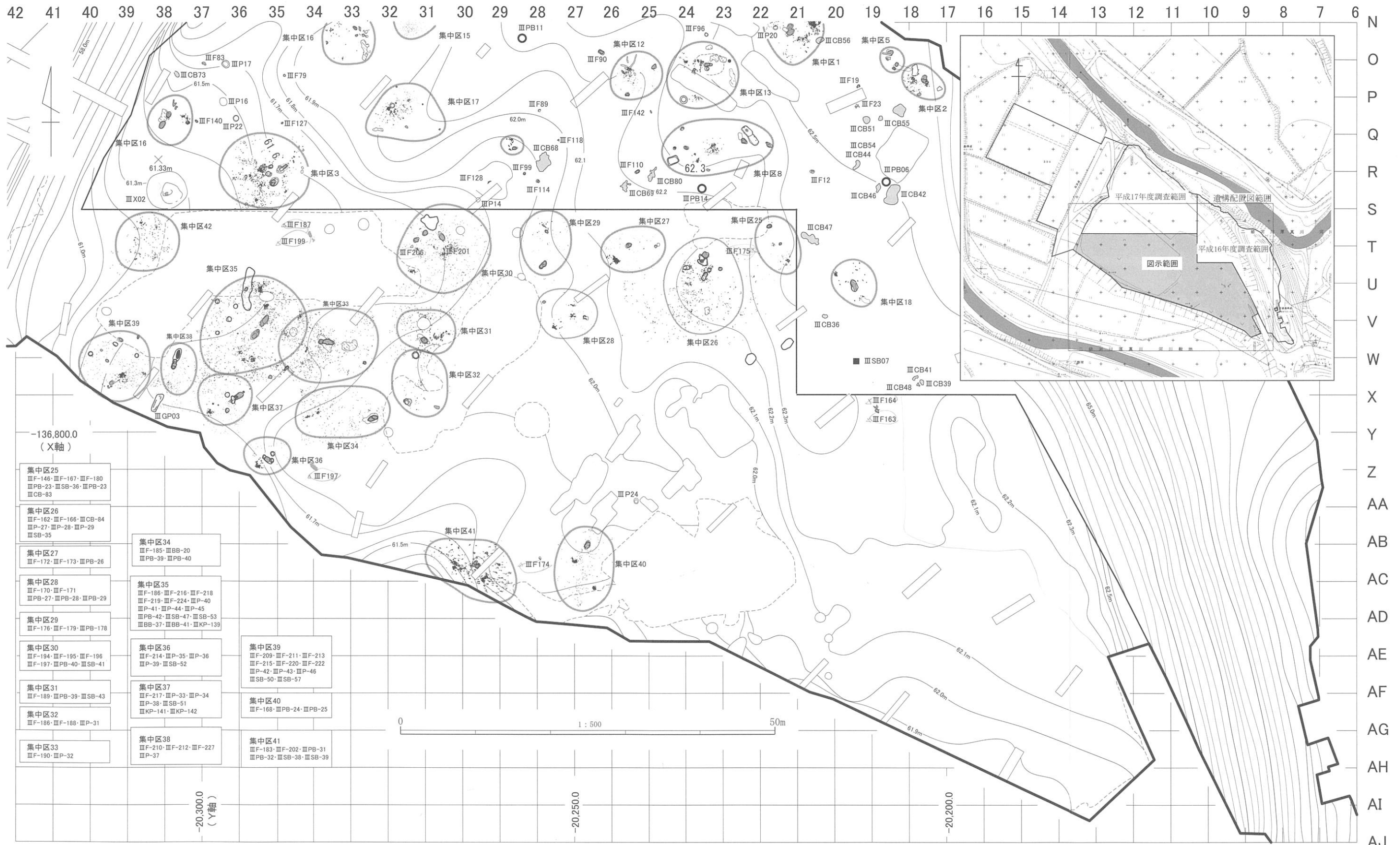
規模：〔主体部〕 262×94×30cm 〔封土〕 328×ー×4cm

遺構の用語：〔土壙墓〕 遺構全体に対する呼称 〔主体部〕 遺体を埋葬した土坑部分
〔封土〕 主体部を覆うマウンド

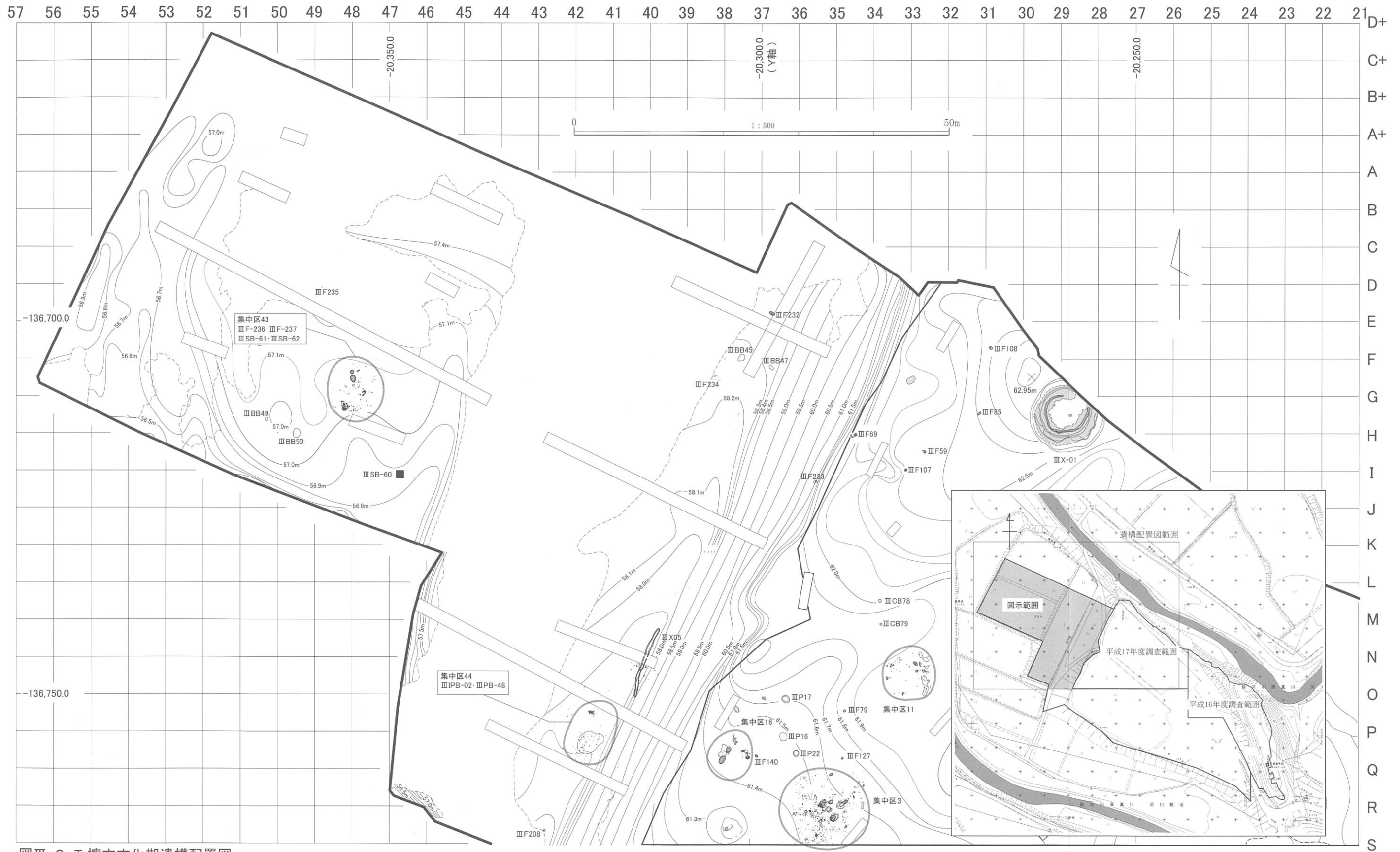
主体部平面形：不整長方形 長軸方向：N-27° E

確認・調査：Ⅲ層の調査が進み、包含層掘削がⅣ層上面まで達した際、X-38区においてⅢc主体土の落込みを確認した。性格を把握するためトレンチを設定し、堆積状態の確認を行った。その際、プランが調査区メインセクションベルトと一部重なっていたことから、ベルトに沿わせてトレンチを設定した(E-Fライン)。調査を進めたところ、トレンチ内Ⅲc落込み中から金属製品と、その下位でヒトの歯冠片を確認したため、土壙墓であることが判明した。土壙墓の主体部プラン確認のため周囲のⅣ層上面の精査を行った結果、北東-南西方向に長い不整長方形プランを検出した。またE-Fラインと包含層メインセクションで堆積状態の観察を行い、主体部構築時に掘り上げたTa-c主体土の堆積を確認した。同質の土は主体部上位を覆う状態で堆積していたことから封土と判断した。検出面では主体部プランに沿う配置で認められるTa-c主体土の溝状の落込みが確認できたため、記録を行った。また土壙墓確認以前に周囲で検出した土器集中が墓に関連する可能性が想定されたため、メインセクションにかかるⅢPB-51について封土との関係を観察した。結果封土に直接乗る状態で土器集中が形成されていたことから、副葬品であると判断した。主体部の調査はプランに合わせて十字のセクションラインを設定し内部を4分割し、1区画ごとに進めた。遺体が残存していることが解っていたため、最初の掘削は壙底面まで下げず、堆積土の粘性が高く遺体に近いと思われる面で止めた。堆積状態を記録しながら各区画の掘削を進めたところ、主体部中央付近で鉄製品が2点、北東壁際で黒曜石転礫、北側で擦文土器小型甕が出土した。遺体層直上まで全体が下がった段階で、副葬品出土状態の図面作成と撮影を行い、その後遺体の検出に入った。遺体検出は脚部側から始め、情報量の多い歯を伴う頭部の検出を最後に行う手順で進め、途中5%と20%濃度のバインダー溶液を用いて人骨を補強しながら行った。人骨の遺存状態は悪く骨粉化が進んではいたが、ほぼ全身の部位が把握できる状態であった。すべての部位の検出を終了した後、検出状態の撮影と図面作成を行い、副葬品の取り上げを行った。遺体の取り上げは、頭蓋骨等の主要部位については札幌医科大学中村宅雄氏に依頼し、他の部位については氏の指導に従い調査員が行った。取り上げた遺体は補強した後梱包し、札幌医科大学松村博文氏に鑑定を依頼した上で、大学にて保管していただいている(第Ⅶ章3節)。遺体取り上げ後、墓壙の構造把握のため壙底及び壁面にトレンチを複数設定し、堆積状態の観察を行った。特に遺体周囲で杭跡状のしまりのないⅢc主体土の落込みを複数確認していたため、その性格把握に努めたが、いずれも下端部が横方向に曲がって落込んでいたため根痕として判断した。また遺体の直下にもしまりのない土が堆積していたが、これも根による攪乱である可能性がある。

主体部形態(図Ⅲ-3・4)：主体部は北東隅がやや張り出す不整長方形プランを呈する。長さ262cm、幅94cmの規模を測り、確認面からの深さは約22cm、セクション面E-Fラインで観察できる構築面からの深さは約37cmである。壙底面は、北側と東西両壁面付近で段状の平坦部が認められ、南側か

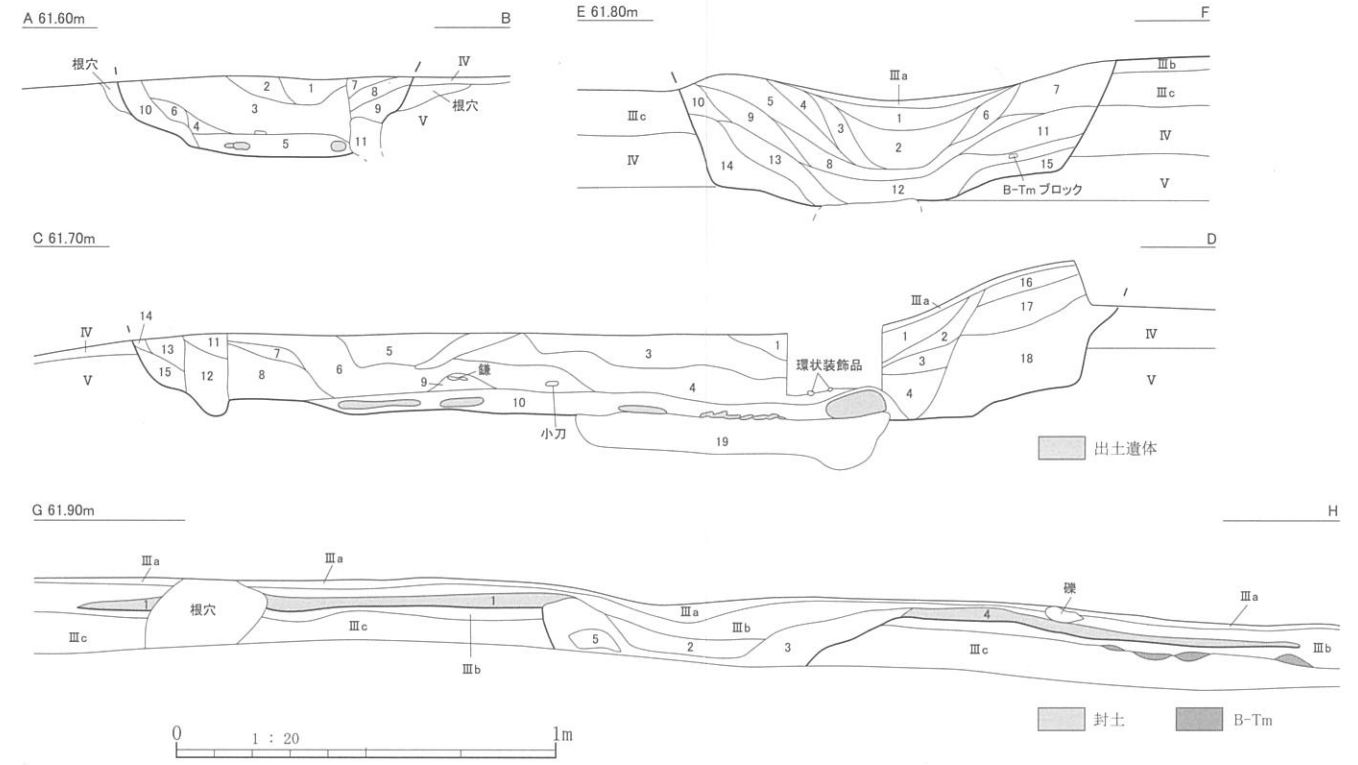
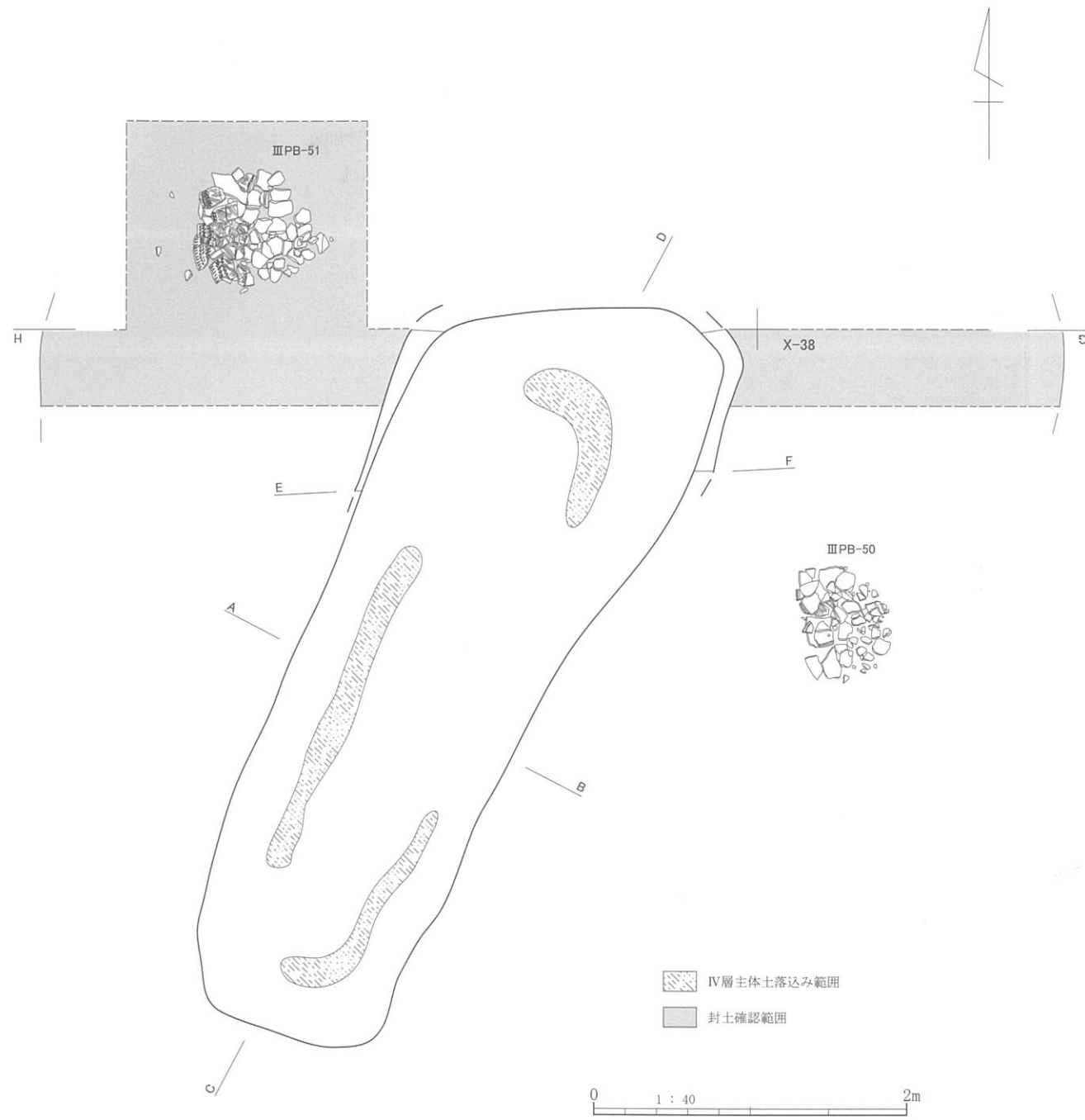


図Ⅲ-1 T₂擦文文化期遺構配置図



図III-2 T₁擦文文化期遺構配置図

III GP-03



A-Bラインセクション

- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| 1. 10YR3/1 黒褐色 | IIIc = V(斑状) しまりやや強 粘性中 |
| 2. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = IV(斑状) しまり中 粘性弱 |
| 3. 10YR3/1 黒褐色 | IIIc = V(均一) = IV(斑状) しまり弱 粘性弱 |
| 4. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = IV(均一) しまり弱 粘性中 |
| 5. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = V(均一) しまりやや強 粘性やや強 |
| 6. 10YR2/1 黒色 | Vブロック |
| 7. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc - IV(均一) しまりやや強 粘性中 |
| 8. 10YR2/1 黒色 | Vブロック |
| 9. 10YR5/4 にぶい黄褐色 | IV - IIIc(均一) しまりやや強 粘性弱 |
| 10. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | IIIc - IV(均一) しまりやや弱 粘性弱 |
| 11. 10YR2/1 黒色 | V = IV(斑状) しまり極弱 粘性中 |

E-Fラインセクション

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 10YR2/1 黒色 | IIIb しまり中 粘性弱 |
| 2. 10YR2/1 黒色 | IIIb = IV・V(斑状)・小礫(φ20↓) しまりやや弱 粘性弱 |
| 3. 10YR3/1 黒褐色 | IIIb - V(斑状) しまり中 粘性中 |
| 4. 10YR2/2 黒褐色 | IIIc = IIIb(斑状) しまり中 粘性中 |
| 5. 10YR4/2 灰黄褐色 | IIIc - IV(斑状) しまり弱 粘性弱 |
| 6. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = IV(斑状)・V(均一) しまり中 粘性中 |
| 7. 10YR3/1 黒褐色 | IIIc = IV(均一) しまりやや強 粘性弱 |
| 8. 10YR2/2 黒褐色 | IIIc = IV(均一)・V(斑状) しまり中 粘性中 |
| 9. 10YR2/1 黒色 | Vブロック = 小礫(φ20↓) しまり中 粘性やや強 |
| 10. 10YR3/1 黒褐色 | V = IIIc(斑状) しまり中 粘性やや強 |
| 11. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | IV = IIIc(均一) しまり弱 粘性弱 |
| 12. 10YR2/2 黒褐色 | IIIc - IV(均一) = V(斑状)・B-Tmブロック しまりやや弱 粘性弱 |
| 13. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc - IV・V(斑状) しまり中 粘性中 |
| 14. 10YR2/2 黒褐色 | V - IIIc(斑状) = IV(斑状) しまり中 粘性中 |
| 15. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc - IV(均一) = V(斑状) しまりやや弱 粘性弱 |

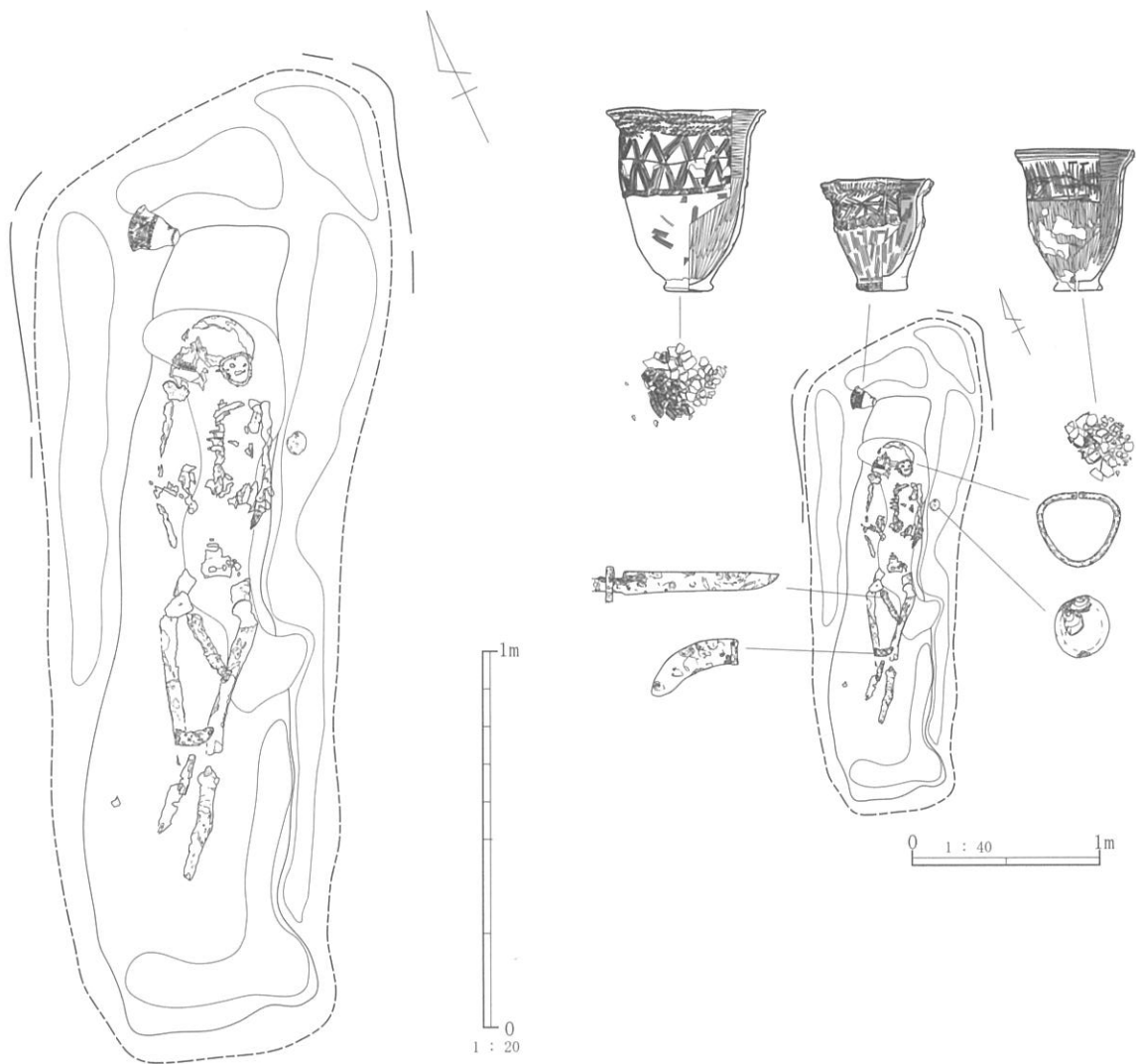
C-Dラインセクション

- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 1. 10YR2/1 黒色 | IIIb = V(斑状) しまり中 粘性やや弱 |
| 2. 19YR2/2 黒褐色 | IIIc = IV(斑状) しまり弱 粘性やや弱 |
| 3. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = IV(均一) しまり弱 粘性やや弱 |
| 4. 10YR2/2 黒褐色 | IIIc - V(斑状) = IV(斑状) しまり弱 粘性中 |
| 5. 10YR4/2 灰黄褐色 | IIIc - IV(均一) しまり中 粘性やや弱 |
| 6. 10YR2/2 黒褐色 | IIIc - V(均一) しまり弱 粘性中 |
| 7. 10YR3/1 黒褐色 | V - IV(斑状) = IIIc(均一) しまりやや弱 粘性やや弱 |
| 8. 10YR3/1 黒褐色 | V = IIIc(均一) しまりやや弱 粘性中 |
| 9. 10YR4/2 灰黄褐色 | IIIc - IV(均一) しまり中 粘性弱 |
| 10. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = V(均一) しまり中 粘性やや強 |
| 11. 10YR3/1 黒褐色 | IIIc - V(均一) しまりやや弱 粘性中 |
| 12. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = V(斑状) しまり極弱 粘性弱 |
| 13. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = V(斑状) しまりやや弱 粘性弱 |
| 14. 2.5Y5/4 黄褐色 | IV = IIIc(斑状) しまりやや弱 粘性弱 |
| 15. 10YR3/1 黒褐色 | IIIc - V(均一) しまり中 粘性中 |
| 16. 10YR3/3 暗褐色 | IIIc = IV(斑状) しまり中 粘性やや弱 |
| 17. 10YR4/2 灰黄褐色 | IV - IIIc(均一) しまり中 粘性弱 |
| 18. 10YR4/3 にぶい黄褐色 | IV = IIIc(均一) しまり中 粘性弱 |
| 19. 10YR3/3 暗褐色 | V = IIIc(均一)・Ta-d2スコリア 根による攪乱 |

G-Hラインセクション

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 10YR4/2 灰黄褐色 | IIIc主体 - IV(均一) |
| 2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 | IV - IIIc(斑状) |
| 3. 10YR2/2 黒褐色 | IIIc = IV(斑状) |
| 4. 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = IV(均一) |
| 5. 10YR3/3 暗褐色 | IV - IIIc(均一) |
- ※1:封土 2:封土落込み 3:封土落込みと埋土 5:埋土

図III-3 3号土壌墓検出状態平面図及び断面図



図Ⅲ-4 ⅢGP-03墓壙内平面図

表Ⅲ-2 ⅢGP-03属性表

挿図 番号	図版 番号	検出	グリッド	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	備考
				調査面/ 坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅲ-3・4	カラー1 22・23	IV	W・X-38	不整長方形/ 不整長方形	262	94	214	55	30	N-27° E	

ら南東側壁面付近には浅い溝状の落込みが確認できた。壁面は鉢状に開きながら立ち上がっている。

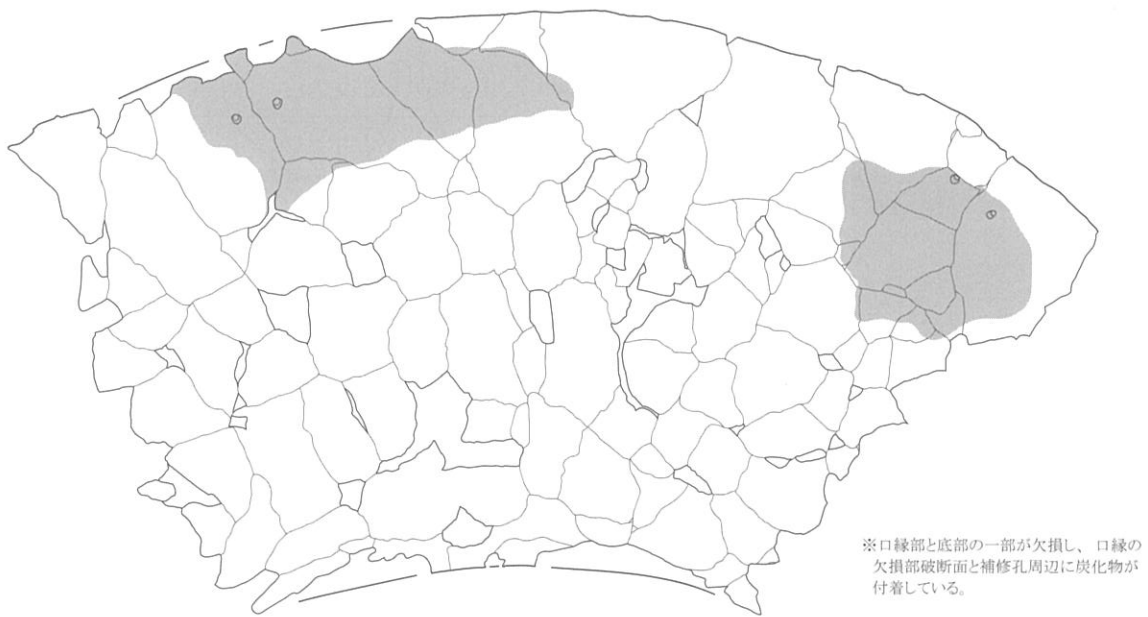
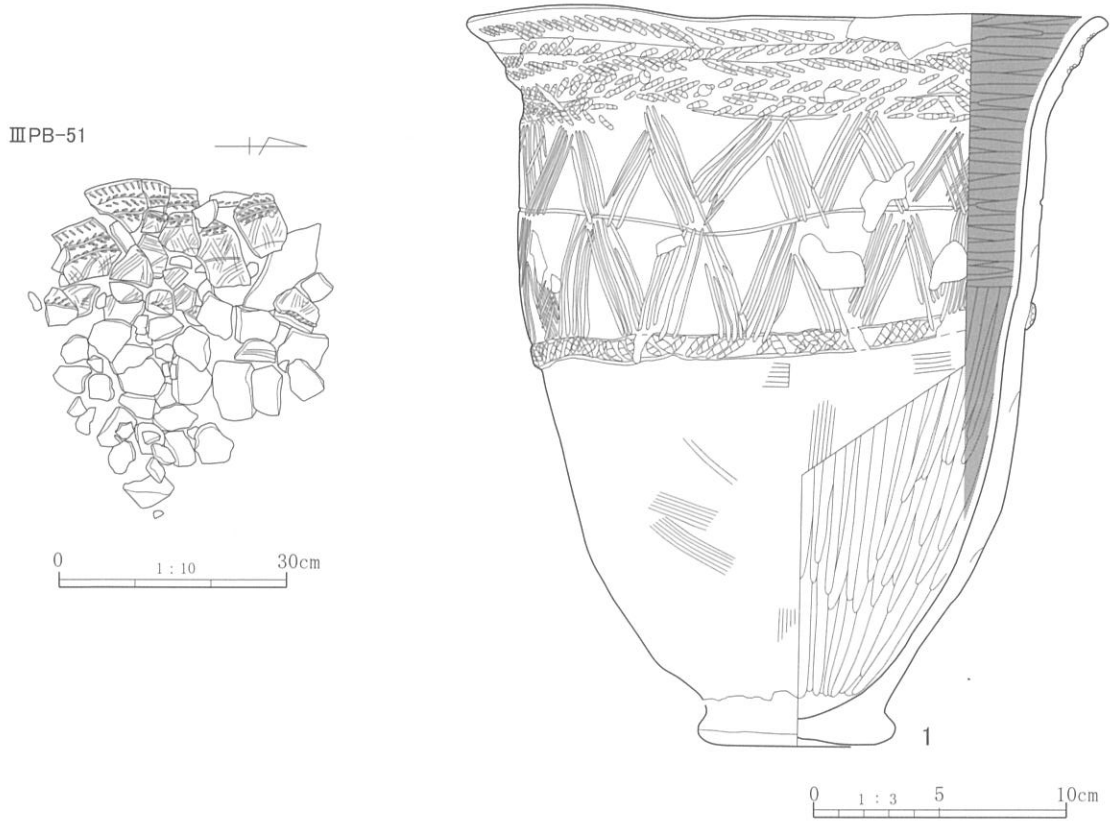
堆積状態(図Ⅲ-3)：堆積土はⅢcとⅣ層が主体である。特筆すべき堆積状態として、A-BラインとC-Dラインセクションの壁際付近において層の明瞭な境が観察できた。この位置は主体部検出時溝状に確認できたTa-c主体土の落込みと対応する。またE-Fラインでは主体部上位のⅢbが大きく落込む状態が観察できた。以上の特徴よりこの土壙墓は、構築当時木棺が用いられ内部が空洞であり、その上に封土が盛土されていたと判断した。層の境は木棺の仕切りによる堆積過程の違いを示し、Ⅲbの深い落込みは空洞部への封土陥没後の自然堆積と判断した。以下ではA-Bライン、C-Dラインを対象に、分層した各堆積土について上記判断の下での解説を記載する。C-Dラインの1・2は土壙

墓埋没後のⅢb 自然堆積。A-B ラインの 1~6、C~D ラインの 3~9 は埋没時における主体部内部への封土落込み。A-B ラインの 7~9・10、C-D ラインの 11~18 は主体部壁面と木棺との間の間隙を埋めた壁面起源の土。

出土遺体(図Ⅲ-4)：遺体は身長約 150 cm。第七章第 3 節の報告によれば性別は不明だが壮年(20~40 歳)とのことであった。埋葬姿勢は北北東頭位の仰臥伸展葬で、顔面は西に向けていた。腕は腹部付近で掌が重なるであろう状態に軽く曲げられており、また若干肩をすぼめている印象を受けた。脚は両膝が接し、内股の状態になっていた。主体部の広さに反して窮した姿勢といえる。

副葬品出土状態(図Ⅲ-3・4)：副葬品の配置は、遺体頭部の北側約 20 cmの位置で擦文土器小型甕(3)、頭部直上で環状装飾品(8)、左肩付近の主体部壁際で黒曜石転礫(4)、股付近で小刀(5)と帯金具(6)が組み合わさった状態で、膝上で鎌(7)が出土している。これらの内、小型甕は出土時横倒しの状態で、下位に封土起源の土が堆積していたため、本来封土上、あるいは封土中に置かれたものが埋没時に主体部内に落込んだものと考えられる。また小刀と鎌も下位に封土起源の土が堆積していたため、同じく封土上か、木棺上に置かれ封土を被覆する位置に置かれていた可能性が考えられる。黒曜石は木棺壁の想定位置よりも外側で出土していることから、木棺と主体部壁面との間隙埋土に置かれていた可能性が高い。木棺内に副葬されたと考えられるものは環状装飾品で、輪の切れ目を左耳にあてる位置で出土していた。この他主体部外では擦文土器甕が副葬されており、主体部から北西方向約 40 cmの位置の封土上にⅢPB-51の土器(1)が、東側 60 cmの位置でⅢPB-50の土器が、共に破片位置が殆ど乱れることなくその場で潰れたままの状態出土している。

出土遺物(図Ⅲ-5~7)：1~3 はⅦB3c の甕である。1 はⅢPB-51 としたもので、出土した破片のほぼ全てが接合したが、口縁部と底部の一部が欠損している。整形は粗雑で胴部表面の凹凸が著しい。口縁部と胴部貼付帯の文様に特徴があり、櫛歯状工具による刻みが矢羽状に施されている。同様の文様は管見の限り道央部の擦文土器には確認できない。道東の標津町伊茶仁チシネ第 2 遺跡出土の擦文土器に櫛歯状工具による施文(佐原・福田 1978)が認められるが、工具の櫛歯形態がやや異なる。ほぼ同類の工具で施文されたと考えられる文様は、刻文期のオホーツク式土器(例：北構 1992)に認められる。時期、地域ともに大きく異なるが、興味深い特徴といえる。土器外面をみると、口縁部の欠損部分と補修孔周辺を中心に炭化物の付着が認められ、欠損部割れ口にも炭化物が付着していることから、欠損後も煮焚きに使われていたことが判る。2 はⅢPB-50 で出土した。当初副葬品とは考えていなかったが、周囲で出土している土器と比べ形態的に新しい時期に属し、墓の他の土器と同時期と判断したことや、ⅢPB-51 と同様に破片位置の乱れが少ない出土状態であったため、報告段階において副葬品の 1 つとして扱うこととした。胴部上半の文様は沈線ではなく、整形時のミガキに用いられる工具で描かれている。3 は主体部内で出土した小型の甕で、口縁部に粘土瘤が間隔を置いて貼付され、胴部貼付帯と共に馬蹄形圧痕文が施文されている。底部は直立が困難な程に丸味をもち、縁辺に刻みが廻らされている。内面に炭化物が付着しており、1 と同様煮焚きに使用された可能性がある。4 は卵形の黒曜石転礫で、上下両端部に剥離が認められるが、上面側の剥離に打面が確認できるのに対し、下面側は潰れによる剥離と考えられることから、両極打法によると考えられる。5 は小刀で、6 は出土時 5 の茎部に組み合わさっていた。5 は棟区、刃区共に形成され、茎には目釘穴があげられている。茎の断面は刀身部と同様に刃側に向かって薄くなっている。刃部は使い減りが顕著である。7 は曲刃タイプの鎌で、刃部先端が丸みを帯び、使い減りが著しい。折



図Ⅲ-5 3号土壙墓出土遺物（1）

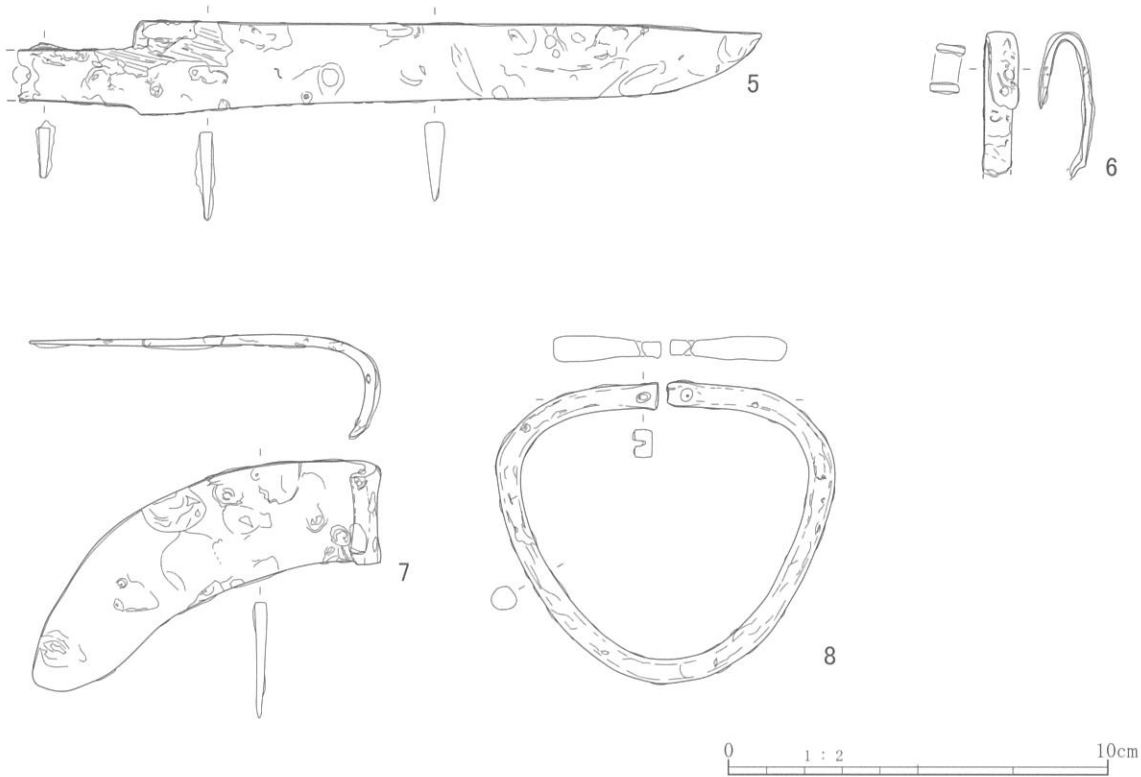
り返して形成されている着柄部の傾きから、柄と刃との間隔の狭い鎌と考えられる。8 は隅丸三角形を呈する鉄製環状装飾品で、断面は円形であるが、輪の途切れ部付近のみ断面方形に成形され、端部2カ所に斜方向の穿孔が認められる。類例として、標津町伊茶仁B遺跡と根室市トーサムポロ遺跡の同じく擦文文化期土壙墓副葬品があり、前者は錫製、後者は銅製と報告されている（石附他 1973）。



図Ⅲ-6 3号土壌墓出土遺物(2)

表Ⅲ-3 ⅢGP-03出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-5-1	カラー 1-1	SP158A	ⅧB3c	80635.80700.88613他	ⅢbL	ⅢPB-51	W-38	甕	口縁～ 底部	ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	49	
				81761.81763.81765他	ⅢbL	ⅢPB-51	W-038					1	
				80625	ⅢbL	ⅢSB-53	U-35					1	
				83605	ⅢbU	—	S-27					1	
Ⅲ-6-2	カラー 1-2	SP090A	ⅧB3c	79999.80019.81597他	ⅢbL	ⅢPB-50	X-37	甕	口縁～ 底部	ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	44	
				80158.80189.80197他	ⅢbL	ⅢSB-50	W-39					6	
				80095	ⅢbL	ⅢSB-51	X-36					1	
				88695	Ⅲc	—	W-37					1	
				85524	ⅢcM	—	X-37					1	
Ⅲ-6-3	カラー 1-3	SP165A	ⅧB3c	88575	ⅢbL	ⅢGP-03	X-38	甕	口縁～ 底部	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	1	



図Ⅲ-7 3号土壌墓出土遺物(3)

表Ⅲ-4 ⅢGP-03出土遺物属性表

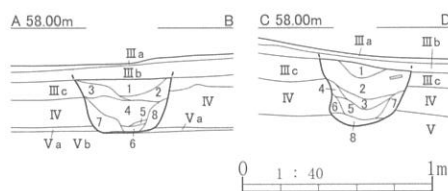
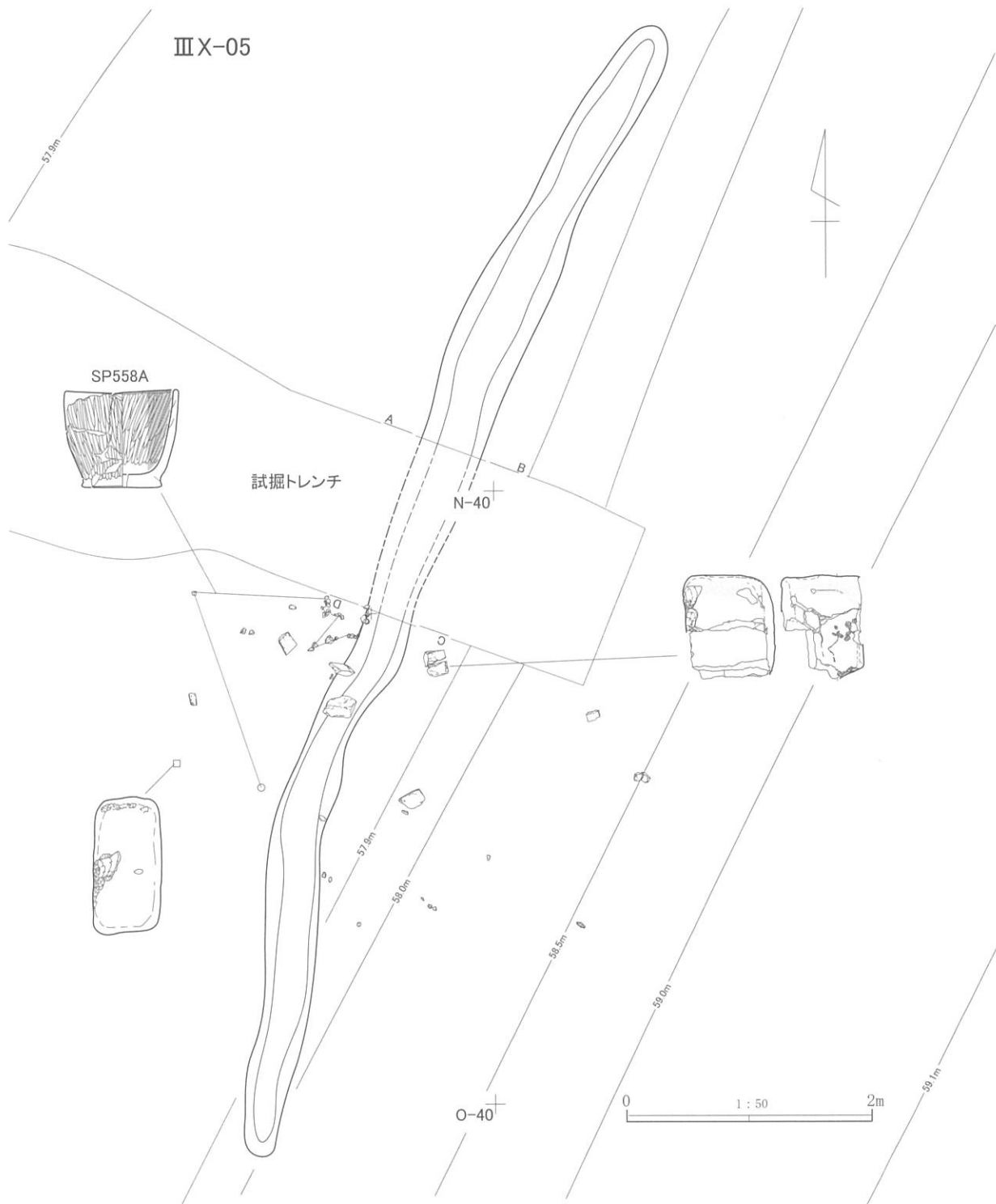
挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-6-4	カラー 2-1-4	-	88577	黒曜石転礫	-	ⅢbL	ⅢGP-03	X-38	66.3	58.2	47.3	204.0	Obs.	
Ⅲ-7-5	カラー 2-1-5	-	88579	小刀	-	ⅢbL	ⅢGP-03	X-38	(196.0)	25.0	4.0	51.9	Irn.	
Ⅲ-7-6	カラー 2-1-5	-	88578	帯金具	-	ⅢbL	ⅢGP-03	X-38	(38.5)	10.0	13.5	4.2	Irn.	
Ⅲ-7-7	カラー 2-1-6	-	88580	鎌	-	ⅢbL	ⅢGP-03	X-38	91.5	60.5	22.0	35.7	Irn.	
Ⅲ-7-8	カラー 2-1-7	-	88576	環状装飾品	-	ⅢbL	ⅢGB-03	X-38	90.0	80.5	7.0	44.8	Irn.	

第2節 溝状遺構

溝状遺構〔ⅢX-05〕 (図Ⅲ-8・9 図版 36~38-1・2)

位置：M・N-39・40 区 規模：975×60×(55) cm

確認・調査：平成16年度に行ったT₁の試掘調査の際、トレンチ壁面でⅢbL~Ⅲc付近からV層上面まで掘り込まれた溝状の落込みを確認した。位置はT₁-T₂段丘崖裾にあたる。溝覆土より擦文土器も出土していたことから、擦文文化期の遺構であると確認し、本調査を待った。平成18年度の本調査で、試掘トレンチの脇で多数の礫と擦文土器片が出土したため、溝状遺構に伴う遺物と考え出土状態の記録を行った。遺物が出土したⅢbL面では溝のプランを認識できなかったため、IV層上面までジョレンで掘削しプランの検出に努めた。検出プランは段丘崖に沿う方向に細長い溝状の落込みであった。セクション面を試掘トレンチ壁面に設定し、堆積状態の記録を行った後、溝の掘削を開始した。溝は全ての場所でV層を浅く掘り込む程度で坑底に達し、覆土中に遺物も含まれていなかったため、掘削はスムーズに進んだ。坑底面検出後、平面形の記録を取り調査を終了した。



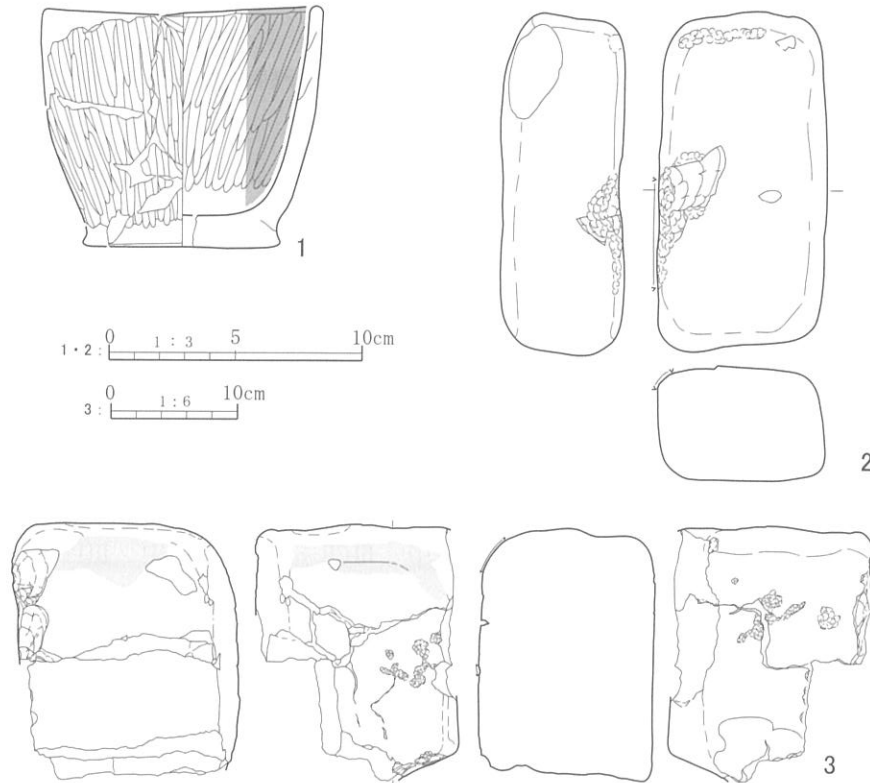
A-Bラインセクション

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 10YR3/2 黒褐色 | IIIb = 水性シルト(斑状) |
| 2 10YR3/1 黒褐色 | IIIc = IIIb(均一) |
| 3 10YR4/2 灰黄褐色 | IIIc = 水性シルト(斑状) |
| 4 10YR2/1 黒色 | IIIc = 水性シルト(斑状) |
| 5 10YR4/2 灰黄褐色 | IIIc = IV(均一) |
| 6 10YR3/1 黒褐色 | IIIc |
| 7 10YR5/3 にぶい黄褐色 | IV - IIIc(均一) |
| 8 10YR3/2 黒褐色 | IIIc - IV(斑状) |

C-Dラインセクション

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 10YR2/2 黒褐色 | IIIb = 水性シルト(斑状) |
| 2 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = IIIb(斑状) |
| | IIIc = 水性シルト(斑状) |
| 3 10YR3/1 黒褐色 | IIIc |
| 4 10YR4/2 灰黄褐色 | IIIc = IV(斑状) |
| 5 10YR2/2 黒褐色 | IIIc = 水性シルト(斑状) |
| 6 10YR4/2 灰黄褐色 | IIIc - IV(斑状) |
| 7 10YR4/2 灰黄褐色 | IIIc - IV(斑状) |
| 8 10YR4/1 褐灰色 | IIIc - 水性シルト(均一) |

図III-8 溝状遺構(III X-03)



図III-9 III X-05 出土遺物

表III-5 III X-05属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸		
III-8	24-1~4	III X-05	O-40	III b	長楕円形	975	60	955	35	55	

表III-6 III X-05出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
III-9-1	105-1	SP558A	VII D1	76134.76140.76150.他	III cU	III X-05	N-40	坏	口縁～ 底部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	23	
				12046	III bL	K.BTR- 02	N-40					1	

表III-7 III X-05出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
III-9-2	105-2	-	76118	たたき石	II b2	III cU	III X-05	-	134.0	67.0	45.0	760.0	Sa.	
III-9-3	105-4	III ST0059	76128	台石	-	III cU	III X-05	-	(204.0)	(161.0)	173.0	3600.0	Sa.	
-	105-3b	-	76119	たたき石	IV	III cU	III X-05	-	(98.0)	62.0	(56.0)	460.0	Sa.	

溝形態：段丘崖に沿って緩やかな弓形に湾曲した平面形で、壁面の立ち上がりは溝中央付近では比較的垂直気味だが、両端付近は緩やかな立ち上がりであった。坑底面は部分的な凹凸は認められたが、総じて平坦に形成されていた。

出土遺物(図III-9)：1は鉢形の擦文土器で、内外面共にミガキが施され、内面は黒色処理されている。2は角柱状礫の縁辺を使用したたたき石、3は台石で縁辺の稜に滑沢面が形成されている。

第3節 集中区 (図Ⅲ-10～70 図版 24～45)

擦文文化期の遺構・遺物検出面であるⅢbLからは、多数の資料が得られているが、その分布をみると、調査区各所である程度のまとまりをもって出土している。今回の報告においても昨年度報告分と同様これらまとまりを集中区として捉え、計20ヵ所の集中区を設定した。設定にあたっては、①遺構密度が高いこと、②遺物密度が高いこと、③遺構と集中遺物とが共伴すると考えられる配置及び同一面層位で検出されていること、の3点を考慮した。なお今回設定した擦文文化期の集中区は各集中区間が近接し、明確な境界を示せない例が多い。また集中区として合わせて報告する遺構・遺物は、必ずしもそのすべてが共伴するとは限らない点を明記しておく。

集中区 25 (図Ⅲ-10・11 図版 24-5～8・25-1～4)

位置：S・T-20・21区 規模：825×575cm

関連遺構：焼土 ⅢF-146・167・180 炭化物集中 ⅢCB-83 土器集中 ⅢPB-23
礫集中 ⅢSB-36

確認・調査：S・T-20・21区のⅢb層調査中、焼土2ヵ所(ⅢF-146・167)と土器集中1ヵ所(ⅢPB-23)を検出し、さらにその南側で円形のⅢb落込みを確認した。焼土、土器集中の記録後、落込みに十字ベルトを設定し、掘削を行った。掘削開始後まもなく多数の棒状礫と共にカバ属の樹皮と思われる炭化樹皮片が3点出土したためⅢSB-36として設定した。遺物を取り上げながらさらに掘削を進めたところ、落込みの中央で焼土(ⅢF-180)を検出したため、その記録を行い、最後に性格を把握するため、十字ベルトに沿うトレンチを設定し、堆積状態の観察を行った。結果この落込みは人為的に構築されたものではなく、焼土形成以前の風倒木痕の窪みであることが確認できたため堆積状態の記録を取り、調査を終了した。

焼土(図Ⅲ-10)：ⅢF-146・167は共に焼骨片を伴う焼土で、焼土層も良好に形成されていた。風倒木窪みの中で検出したⅢF-180は焼土下面がレンズ状でないことや、焼土中に焼骨片が含まれていることから投棄された焼土ブロックと判断した。

炭化物集中(図Ⅲ-10)：ⅢCB-83はⅢF-146の東側約1mの位置で検出した。炭化材が主体の炭化物集中であるが、フローテーションの結果ではクルミ属が少量含まれていた。

土器集中(図Ⅲ-5)：ⅢF-167の西側で検出した。細片化した土器片の集中で復元は殆どできなかったが、個体数は坏1個体のみであった。

表Ⅲ-8 集中区25焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-10	25-1・2	ⅢF-146	S-21	ⅢbL	長楕円形	72	50	6	骨	
Ⅲ-10	25-3	ⅢF-167	S-21	ⅢbL	楕円形	42	30	4	骨	
Ⅲ-10	24-7・8	ⅢF-180	T-21	ⅢbL	不整形	33	28	3	—	焼土粒

表Ⅲ-9 集中区25炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
Ⅲ-10	-	ⅢCB-83	S-21	ⅢbL	不整形	145	86	

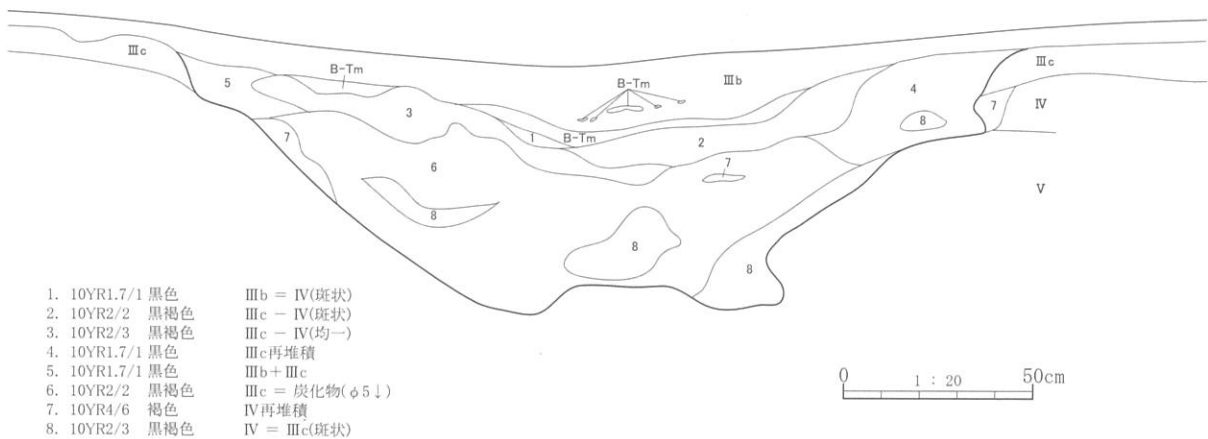
集中区 25



図 III-10 集中区 25 平面図及び関連遺構断面(1)

ⅢSB-36

G 62.50m



- 1. 10YR1.7/1 黒色
 - 2. 10YR2/2 黒褐色
 - 3. 10YR2/3 黒褐色
 - 4. 10YR1.7/1 黒色
 - 5. 10YR1.7/1 黒色
 - 6. 10YR2/2 黒褐色
 - 7. 10YR4/6 褐色
 - 8. 10YR2/3 黒褐色
- Ⅲb = IV(斑状)
 - Ⅲc = IV(斑状)
 - Ⅲc - IV(均一)
 - Ⅲc再堆積
 - Ⅲb+Ⅲc
 - Ⅲc = 炭化物(φ5↓)
 - IV再堆積
 - IV = Ⅲc(斑状)



図Ⅲ-11 集中区 25 関連遺構断面図 (2) 及び出土遺物

表Ⅲ-10 集中区25出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-11-1	105-1-1	SP172A	VIB	61398	ⅢbL	ⅢSB-36	T-21	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	1	
Ⅲ-11-2	105-1-3	SP553A	VIC	60015.60025.60048他	ⅢbL	ⅢPB-23	S-21	坏	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	8	
Ⅲ-11-3	105-1-2	SP563A	VIC	61088.61094	ⅢbL	-	T-21	坏	口縁	ミガキ 黒色処理	ミガキ	2	

表Ⅲ-11 集中区25出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
-	105-1-4	-	58580	滑沢面のある碟	-	ⅢbL	-	T-21	118.0	105.0	68.0	1210.0	Ser.	
-	24-6	-	61366	カバ属炭化樹皮	-	ⅢbL	ⅢSB-36	T-21	-	-	-	-	Cw.	
-	-	-	61367	カバ属炭化樹皮	-	ⅢbL	ⅢSB-36	T-21	-	-	-	-	Cw.	
-	-	-	62070	カバ属炭化樹皮	-	ⅢbL	ⅢSB-36	T-21	-	-	-	-	Cw.	

表Ⅲ-12 ⅢSB-36属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-	105-2-5	-	61388	ⅢbL	完形	21.5	-46.2	15.3	-14.7	6.7	-11.4	1.4	-0.8	2.4	○	Mud.	
		-	61356	ⅢbL	完形	24.7	-43.0	18.6	-11.4	16.8	-1.3	1.3	-0.9	10.0	-	Mud.	
		-	61353	ⅢbL	完形	52.5	-15.2	29.3	-0.7	23.6	5.5	1.8	-0.4	46.1	-	Sa.	
		-	61364	ⅢbL	完形	59.8	-7.9	40.3	10.3	19.3	1.2	1.5	-0.7	51.5	-	Sa.	
		-	61354	ⅢbL	完形	67.4	-0.3	22.4	-7.6	13.4	-4.7	3.0	0.8	32.4	-	Sa.	
		-	61361	ⅢbL	完形	70.9	3.2	35.0	5.0	16.0	-2.1	2.0	-0.2	51.9	-	Sa.	
		-	61348	ⅢbL	完形	88.1	20.4	25.5	-4.5	12.8	-5.3	3.5	1.2	37.1	-	Sa.	
		-	61350	ⅢbL	完形	93.4	25.7	45.1	15.1	25.7	7.6	2.1	-0.1	112.4	-	Sa.	
	ⅢS1357	61358	ⅢbL	完形	130.6	62.9	38.6	8.6	28.4	10.3	3.4	1.2	147.4	-	Sa.	他1点	

平均 長軸 67.7 短軸 30.0 厚さ 18.1 長短比 2.22 重量 54.6 総点数 60点 ※完形 9点

集中区 26



図III-12 集中区 26 平面図

礫集中(図Ⅲ-10)：ⅢSB-36 は風倒木窪み中に形成された礫集中である。総点数 60 点の内、完形個体は 9 点のみであり、欠損率の高い礫集中であった。散逸していることからⅢF-180 同様に投棄された可能性がある。

出土遺物(図Ⅲ-11)：1～3 は擦文土器片である。1 はⅢSB-36 で出土した甕口縁部片。2 はⅢPB-23 で出土した坏口縁部片である。口縁下外面に段状沈線が廻っている。3 もⅢSB-36 近くで出土した坏口縁部片で、2 と同じく段状沈線が廻る。

性格：窪みの性格は、欠損率の高い礫で構成されるⅢSB-36 の出土や焼土ⅢF-180 の投棄が窪み内に集中していることから、風倒木の窪みを意識した廃棄の場と考えられる。特異な遺物は出土していないが、アイヌ文化期の遺跡に多い堅穴上層遺構に類するものである可能性が考えられる。

集中区 26 (図Ⅲ-12～14 図版 25-5～7・26-1～7)

位置：T～V-22・25 区 規模：1,300×1,050cm

関連遺構：土坑 ⅢP-23・25・27・28・29 焼土 ⅢF-162・166 炭化物集中 ⅢCB-84
礫集中 ⅢSB-35

確認・調査：T～V-22・25 区のⅢb 層調査において、棒状礫を中心とする多数の遺物が広範囲に出土し、その分布範囲で焼土 2 ヲ所(ⅢF-162・166)と炭化物集中 1 ヲ所(ⅢCB-84)を検出した。遺物は一部密集した範囲についてⅢSB-35 の遺構名を付し、焼土は個別に調査を進めた。焼土調査中周囲で焼骨片を含む灰混じりのⅢb 落込みを確認したため半截したところ、不整形であるが人為的に掘り込まれたと考えられる土坑群を検出したため、それぞれ堆積状態と平面形の記録を行った。

遺構配置(図Ⅲ-12)：広範囲に広がる遺物分布範囲の北端に焼土と土坑が位置する。2 ヲ所ある焼土の南西側に小規模な土坑が近接して形成されている。遺物は土坑検出位置の上位で特に密集しており、この範囲の遺物に対してⅢSB-35 を設定した。

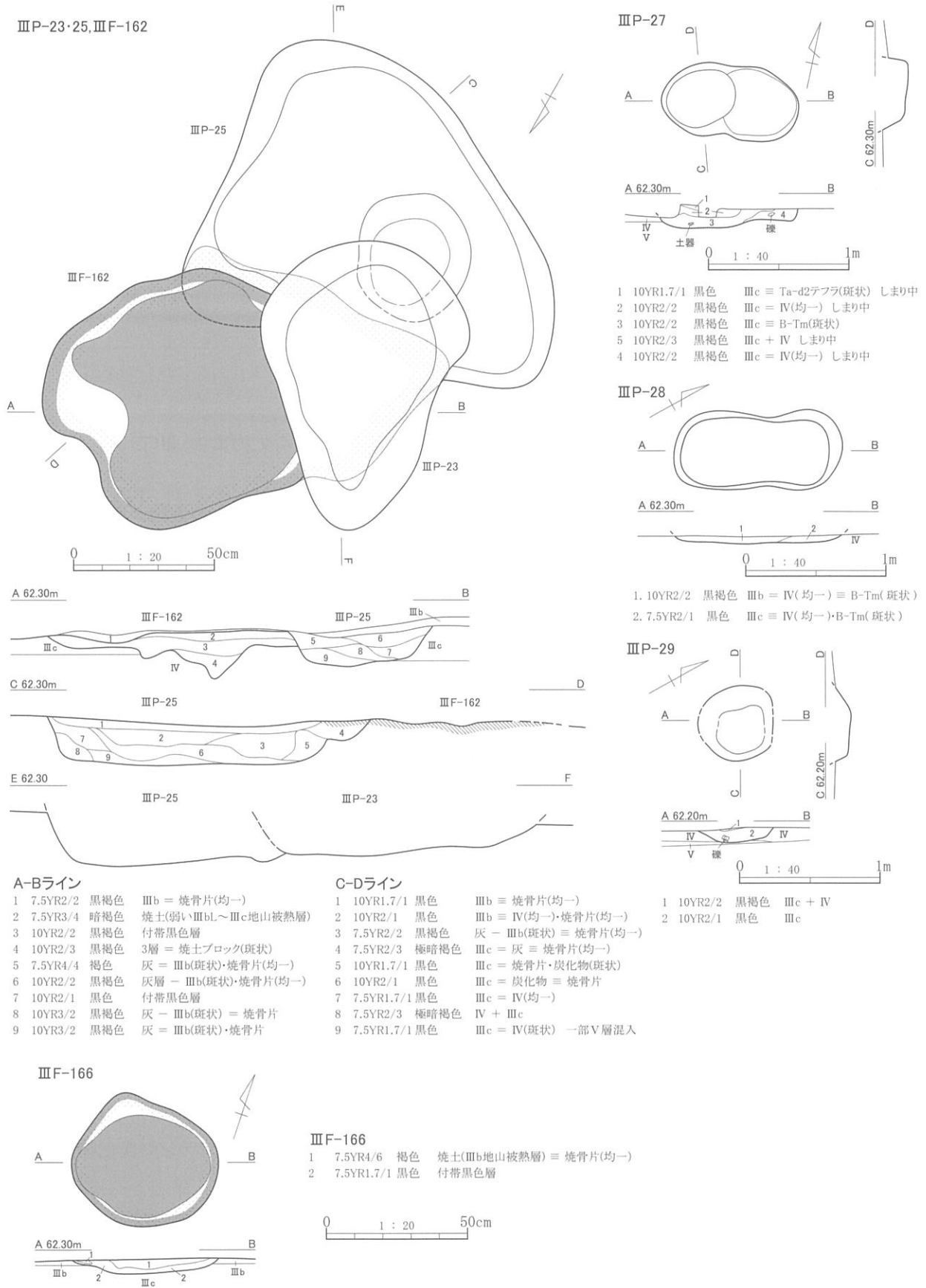
土坑(図Ⅲ-13)：ⅢP-23・25 はⅢF-162 を切る配置で検出した土坑である。共に平面形は不整形だが、覆土に焼骨片を含む土が堆積し、坑底面が平らなことから、人為的に掘り込まれたものと判断した。形態や覆土の様相は平成 17 年度調査時に検出した集中区 3 に関連する土坑と類似する。ⅢP-27～29 はⅣ層上面で確認した。ⅢP-27 はⅢF-162 の南西側に位置する。坑底面の段差とプランの形状から 2 基の土坑が切り合ったものである可能性が高い。ⅢP-28 は埋土に B-Tm ブロックが含まれているためⅢbL の形成であることが把握できた。ⅢP-29 は確認時既に掘削が進み、プランの一部のみを把握できたに過ぎなかったが、円形に近い土坑と思われる。底面付近で棒状礫が出土した。

焼土(図Ⅲ-13)：ⅢF-162 は長軸約 100cm の焼骨片を伴う焼土で、南西側をⅢP-23 によって切られている。ⅢF-166 は長軸 52 cm で、同じく焼骨片を伴う。土壌サンプルからはⅢF-162 でコイ科、サケ属といった魚骨を中心とする多数の骨の他、ムギ類、キビといった炭化種子も得られた。

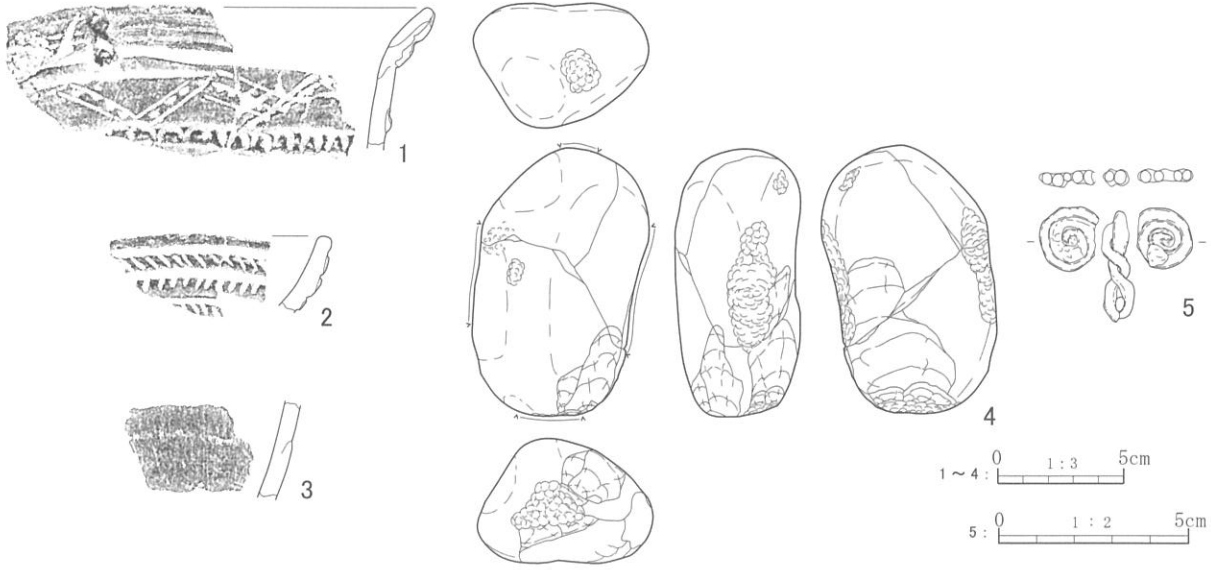
炭化物集中(図Ⅲ-12)：ⅢCB-84 は遺物分布範囲の南側で検出した不整形プランの炭化物集中で、土壌サンプル中からはクルミ属の炭化種子を得ている。

礫集中(図Ⅲ-12)：ⅢSB-35 は棒状礫を主体に構成される礫集中で、礫個体総数 212 点中、完形個体 88 点であり、完形の比率は遺跡内出土礫集中の平均的な値である。

出土遺物(図Ⅲ-14)：1～3 はⅧB に分類される擦文土器片で、1 は胴部に貼付帯が廻らされている他、口縁部にも縦位の粘土紐が貼付されている。共に馬蹄形圧痕文が施文されている。2・3 は同一



図III-13 集中区 26 関連遺構



図Ⅲ-14 集中区 26 出土遺物

表Ⅲ-13 集中区26土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-13	26-4	ⅢP-23	T-23	ⅢbL	不整形/不整形	102	74	-	-	10	-	1.38	-	-	
Ⅲ-13	26-6・5	ⅢP-25	T-23	ⅢbL	不整形/不整形	148	116	-	-	24	-	1.28	-	-	
Ⅲ-13	-	ⅢP-27	T-23・24	IV	楕円/楕円	98	54	92	48	180	N-85° E	1.81	1.92	-	
Ⅲ-13	-	ⅢP-28	T-23	IV	長楕円/楕円	120	58	106	48	6	N-30° E	2.07	2.21	-	
Ⅲ-13	-	ⅢP-29	T-23	IV	円形/円形	54	54	36	32	12	N-30° E	1.00	1.13	-	

表Ⅲ-14 集中区26焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-13	25-6・7	ⅢF-162	T-23	ⅢbL	不整形	(96)	92	5	骨	
Ⅲ-13	26-1・2	ⅢF-166	T-23	ⅢbL	楕円形	52	48	6	骨	

表Ⅲ-15 集中区26炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
Ⅲ-12	-	ⅢCB-84	U-23	ⅢbL	不整形	114	78	

表Ⅲ-16 集中区26出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-14-1	105-2-1	SP093A	ⅦB3c	59353	ⅢbM	ⅢSB-33	U-23	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ナデ 黒色処理	ハケメ ナデ	1	
				59932.59937.59942他	ⅢbL		U-23					7	
Ⅲ-14-2	105-2-2	SP131B	ⅦB3	59954	1	ⅢP-23	T-23	甕	口縁	ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	1	
				59238	ⅢbL		ⅢPB-22					T-23	
Ⅲ-14-3	105-2-3	SP152A	ⅦB	62973	3	ⅢP-25	T-23	甕	胴部	ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	1	

表Ⅲ-17 集中区26出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-14-4	105-2-4	-	61165	たたき石	Ⅱb2	ⅢbL	-	U-23	106.0	65.0	49.0	420.0	Sa.	
-	105-2-4	-	58615	滑沢面のある礫	-	ⅢbL	-	V-22	(47.0)	(72.0)	(12.0)	40.0	Sa.	
-	-	-	58639	たたき石	IV	ⅢbL	-	V-24	(43.7)	69.2	57.9	205.0	Sa.	
Ⅲ-14-5	105-2-6	-	58637	コイル状装飾品	IP	ⅢbM	-	V-23	295.0	40.0	4.5	5.7	Iron.	

表Ⅲ-18 ⅢSB-35属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
-	-	-	61295	ⅢbL	完形	39.7	-17.6	37.0	5.2	10.7	-4.7	1.1	-0.8	21.5	-	Sa.	
-	-	-	61301	ⅢbL	完形	40.8	-16.5	34.1	2.3	11.2	-4.2	1.2	-0.7	24.0	-	Sa.	
-	-	-	61210	ⅢbL	完形	43.8	-13.5	28.1	-3.7	15.7	0.3	1.6	-0.3	25.9	-	Sa.	
-	-	-	61331	ⅢbL	完形	43.0	-14.3	37.1	5.3	8.6	-6.8	1.2	-0.7	21.0	-	Sa.	
-	-	-	61324	ⅢbL	完形	41.9	-15.4	39.0	7.2	16.6	1.2	1.1	-0.8	41.0	-	Sa.	
-	-	-	62408	ⅢbL	完形	44.9	-12.4	23.0	-8.8	19.1	3.7	2.0	0.1	31.3	-	Sa.	
-	-	-	61223	ⅢbL	完形	46.2	-11.1	35.5	3.7	17.6	2.2	1.3	-0.6	37.0	-	Sa.	
-	-	-	62409	ⅢbL	完形	44.1	-13.2	38.0	6.2	10.6	-4.8	1.2	-0.7	26.2	-	Sa.	
-	-	-	61214	ⅢbL	完形	38.6	-18.7	36.4	4.6	12.9	-2.5	1.1	-0.8	30.5	-	Sa.	
-	-	-	61280	ⅢbL	完形	43.0	-14.3	39.6	7.8	16.7	1.3	1.1	-0.8	41.7	-	Sa.	
-	-	-	61321	ⅢbL	完形	43.9	-13.4	30.2	-1.6	13.5	-1.9	1.5	-0.4	24.7	-	Sa.	
-	-	-	61239	ⅢbL	完形	43.1	-14.2	33.5	1.7	14.4	-1.0	1.3	-0.6	28.1	-	Sa.	
-	-	-	61254	ⅢbL	完形	47.0	-10.3	18.8	-13.0	11.8	-3.6	2.5	0.6	15.2	-	Sa.	
-	-	-	61282	ⅢbL	完形	47.8	-9.5	25.8	-6.0	20.9	5.5	1.9	0.0	31.2	-	Sa.	
-	-	-	61315	ⅢbL	完形	45.0	-12.3	38.3	6.5	11.7	-3.7	1.2	-0.7	33.2	-	Con.	
-	-	-	61232	ⅢbL	完形	46.6	-10.7	37.8	6.0	13.4	-2.0	1.2	-0.7	37.5	-	Sa.	
-	-	-	61211	ⅢbL	完形	49.1	-8.2	30.5	-1.3	19.5	4.1	1.6	-0.3	34.7	-	Sa.	
-	-	-	61235	ⅢbL	完形	47.7	-9.6	39.6	7.8	17.4	2.0	1.2	-0.7	43.3	-	Sa.	
-	-	-	62440	ⅢbL	完形	48.8	-8.5	26.9	-4.9	25.2	9.8	1.8	-0.1	47.3	-	Sa.	
-	-	-	62425	ⅢbL	完形	48.4	-8.9	20.1	-11.7	9.5	-5.9	2.4	0.5	16.3	-	Sa.	
-	-	-	61322	ⅢbL	完形	48.3	-9.0	39.7	7.9	10.1	-5.3	1.2	-0.7	24.8	-	Sa.	
-	-	-	62402	ⅢbL	完形	49.3	-8.0	30.7	-1.1	15.4	0.0	1.6	-0.3	30.2	-	Sa.	
-	-	-	61243	ⅢbL	完形	49.3	-8.0	39.0	7.2	18.5	3.1	1.3	-0.6	53.5	-	Sa.	
-	-	-	61253	ⅢbL	完形	48.5	-8.8	38.1	6.3	22.1	6.7	1.3	-0.6	57.7	-	And.	
-	-	-	61303	ⅢbL	完形	50.6	-6.7	38.2	6.4	10.4	-5.0	1.3	-0.6	38.3	-	Sa.	
-	-	-	61242	ⅢbL	完形	53.3	-4.0	33.5	1.7	22.9	7.5	1.6	-0.3	55.3	-	Sa.	
-	-	-	62446	ⅢbL	完形	51.1	-6.2	27.8	-4.0	18.5	3.1	1.8	-0.1	32.1	-	Sa.	
-	-	-	61293	ⅢbL	完形	52.1	-5.2	34.6	2.8	13.4	-2.0	1.5	-0.4	24.6	-	Sa.	
-	-	-	61327	ⅢbL	完形	48.3	-9.0	38.6	6.8	14.7	-0.7	1.3	-0.6	35.8	-	Sa.	
-	-	-	61305	ⅢbL	完形	45.9	-11.4	40.0	8.2	8.8	-6.6	1.1	-0.8	28.7	-	Sa.	
-	-	-	61241	ⅢbL	完形	48.0	-9.3	29.2	-2.6	18.9	3.5	1.6	-0.3	33.2	-	Sa.	
-	-	-	61313	ⅢbL	完形	50.0	-7.3	24.2	-7.6	14.6	-0.8	2.1	0.2	27.6	-	Sa.	
-	106-1	-	61252	ⅢbL	完形	51.6	-5.7	25.4	-6.4	20.6	5.2	2.0	0.1	34.4	-	Sa.	
-	-	-	61310	ⅢbL	完形	53.1	-4.2	23.4	-8.4	10.4	-5.0	2.3	0.4	11.7	-	Sa.	
-	-	-	61228	ⅢbL	完形	52.9	-4.4	31.0	-0.8	21.7	6.3	1.7	-0.2	36.5	-	Sa.	
-	-	-	61304	ⅢbL	完形	53.2	-4.1	34.2	2.4	13.0	-2.4	1.6	-0.3	31.8	-	Sa.	
-	-	-	61244	ⅢbL	完形	52.5	-4.8	33.7	1.9	17.4	2.0	1.6	-0.3	36.6	-	Sa.	
-	-	-	61227	ⅢbL	完形	54.0	-3.3	28.7	-3.1	14.8	-0.6	1.9	0.0	32.0	-	Sa.	
-	-	-	61231	ⅢbL	完形	51.5	-5.8	50.4	18.6	11.8	-3.6	1.0	-0.9	55.3	-	Sa.	
-	-	-	61238	ⅢbL	完形	45.9	-11.4	34.5	2.7	20.2	4.8	1.3	-0.6	46.1	-	Sa.	
-	-	-	62416	ⅢbL	完形	54.7	-2.6	18.8	-13.0	14.5	-0.9	2.9	1.0	27.1	-	Sa.	
-	-	-	61345	ⅢbL	完形	55.7	-1.6	36.7	4.9	13.4	-2.0	1.5	-0.4	35.9	-	Sa.	
-	-	-	61248	ⅢbL	完形	55.7	-1.6	21.3	-10.5	18.4	3.0	2.6	0.7	25.6	-	Sa.	
-	-	-	62406	ⅢbL	完形	54.4	-2.9	36.0	4.2	14.3	-1.1	1.5	-0.4	39.1	-	Sa.	
-	-	-	61307	ⅢbL	完形	58.5	1.2	40.5	8.7	7.2	-8.2	1.4	-0.5	24.1	-	Sa.	
-	-	-	62429	ⅢbL	完形	52.2	-5.1	47.0	15.2	14.5	-0.9	1.1	-0.8	59.6	-	Sa.	
-	-	-	61259	ⅢbL	完形	53.5	-3.8	41.8	10.0	13.2	-2.2	1.3	-0.6	37.3	-	Sa.	
-	-	-	61251	ⅢbL	完形	54.7	-2.6	29.3	-2.5	16.8	1.4	1.9	0.0	33.6	-	Sa.	
-	-	-	61332	ⅢbL	完形	55.1	-2.2	28.9	-2.9	16.3	0.9	1.9	0.0	40.6	○	Sa.	
-	-	-	61219	ⅢbL	完形	56.7	-0.6	31.9	0.1	21.5	6.1	1.8	-0.1	47.4	-	Sa.	
-	-	-	61325	ⅢbL	完形	57.5	0.2	34.0	2.2	14.3	-1.1	1.7	-0.2	36.6	-	Sa.	
-	-	-	61292	ⅢbL	完形	57.1	-0.2	21.5	-10.3	17.0	1.6	2.7	0.8	30.0	-	Sa.	
-	-	-	61291	ⅢbL	完形	56.5	-0.8	28.1	-3.7	21.4	6.0	2.0	0.1	44.4	-	Sa.	
-	-	-	61287	ⅢbL	完形	57.5	0.2	31.2	-0.6	14.0	-1.4	1.8	-0.1	31.5	-	Sa.	
-	-	-	61290	ⅢbL	完形	56.8	-0.5	38.7	6.9	12.4	-3.0	1.5	-0.4	36.4	-	Sa.	
-	-	-	61218	ⅢbL	完形	59.6	2.3	31.1	-0.7	17.5	2.1	1.9	0.0	44.2	-	Sa.	
-	-	-	62404	ⅢbL	完形	59.0	1.7	29.8	-2.0	16.9	1.5	2.0	0.1	36.0	-	Sa.	
-	-	-	61277	ⅢbL	完形	61.6	4.3	18.5	-13.3	11.4	-4.0	3.3	1.4	14.9	-	Sa.	
-	-	-	62447	ⅢbL	完形	63.9	6.6	38.7	6.9	14.2	-1.2	1.7	-0.2	41.0	-	Sa.	
-	-	-	61306	ⅢbL	完形	49.8	-7.5	49.1	17.3	11.1	-4.3	1.0	-0.9	44.6	-	Sa.	
-	-	-	61288	ⅢbL	完形	61.4	4.1	21.6	-10.2	19.6	4.2	2.8	0.9	43.9	-	Sa.	
-	-	-	62414	ⅢbL	完形	61.7	4.4	30.2	-1.6	13.0	-2.4	2.0	0.1	39.1	-	Sa.	
-	-	ⅢS1359	61278	ⅢbL	完形	62.2	4.9	34.3	2.5	24.1	8.7	1.8	-0.1	84.7	-	Sa.	他1点
-	-	-	62405	ⅢbL	完形	63.2	5.9	19.7	-12.1	13.8	-1.6	3.2	1.3	21.2	-	Mud.	
-	-	-	62417	ⅢbL	完形	61.7	4.4	40.8	9.0	11.8	-3.6	1.5	-0.4	39.4	-	Sa.	

表Ⅲ-18 ⅢSB-35属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
-		-	62441	ⅢbL	完形	63.2	5.9	30.3	-1.5	9.9	-5.5	2.1	0.2	29.5	-	Sa.		
-		-	61328	ⅢbL	完形	65.3	8.0	31.3	-0.5	14.1	-1.3	2.1	0.2	39.2	-	Sa.		
-		-	62401	ⅢbL	完形	64.7	7.4	39.0	7.2	27.2	11.8	1.7	-0.2	84.6	-	Sa.		
-		-	61326	ⅢbL	完形	65.5	8.2	19.6	-12.2	14.6	-0.8	3.3	1.4	22.1	-	Sa.		
-		-	61330	ⅢbL	完形	67.9	10.6	22.7	-9.1	12.5	-2.9	3.0	1.1	27.1	-	Sa.		
-		-	61247	ⅢbL	完形	67.4	10.1	32.0	0.2	20.7	5.3	2.1	0.2	61.7	-	Sa.		
-		ⅢS1360	61339	ⅢbL	完形	66.9	9.6	37.5	5.7	14.2	-1.2	1.8	-0.1	50.2	-	Sa.	他1点	
-		-	61255	ⅢbL	完形	67.5	10.2	29.3	-2.5	13.6	-1.8	2.3	0.4	32.7	-	Sa.		
-		-	61302	ⅢbL	完形	70.1	12.8	37.4	5.6	10.0	-5.4	1.9	0.0	40.4	-	Sa.		
-		-	62436	ⅢbL	完形	68.9	11.6	38.8	7.0	9.0	-6.4	1.8	-0.1	43.1	-	Sa.		
-		-	61245	ⅢbL	完形	68.8	11.5	14.5	-17.3	14.2	-1.2	4.7	2.8	22.3	-	Sa.		
-	106-1	-	62403	ⅢbL	完形	70.8	13.5	25.2	-6.6	22.7	7.3	2.8	0.9	50.9	-	Sa.		
-		-	61217	ⅢbL	完形	71.2	13.9	27.5	-4.3	15.9	0.5	2.6	0.7	44.4	-	Sa.		
-		-	61283	ⅢbL	完形	76.0	18.7	33.1	1.3	17.1	1.7	2.3	0.4	49.9	-	Sa.		
-		-	61281	ⅢbL	完形	75.4	18.1	35.6	3.8	25.9	10.5	2.1	0.2	87.4	-	Sa.		
-		-	61236	ⅢbL	完形	77.2	19.9	29.7	-2.1	8.8	-6.6	2.6	0.7	37.7	-	Sa.		
-		-	61343	ⅢbL	完形	78.7	21.4	31.0	-0.8	22.0	6.6	2.5	0.6	48.7	-	Gin.		
-		-	61229	ⅢbL	完形	81.8	24.5	21.9	-9.9	17.5	2.1	3.7	1.8	32.1	-	Sa.		
-		-	61233	ⅢbL	完形	83.2	25.9	27.5	-4.3	18.7	3.3	3.0	1.1	61.3	-	Sa.		
-		-	61314	ⅢbL	完形	82.2	24.9	31.8	0.0	25.9	10.5	2.6	0.7	109.6	-	Sa.		
-		-	62434	ⅢbL	完形	90.7	33.4	25.2	-6.6	12.6	-2.8	3.6	1.7	38.2	-	Sa.		
-		-	62412	ⅢbL	完形	91.1	33.8	30.6	-1.2	22.4	7.0	3.0	1.1	67.7	-	Sa.		
-		-	62422	ⅢbL	完形	98.7	41.4	31.1	-0.7	17.1	1.7	3.2	1.3	56.0	-	Sa.		
平均						57.5		31.9		15.7		1.9		39.0				

総点数 212点 ※完形 88点

個体の可能性がある土器片で、2はⅢP-23で、3はⅢP-25で出土した。2はⅦBcに分類できる。4は楕円形礫の側縁と頂端を使用したたたき石。5はいわゆるコイル状装飾品と呼ばれているものの1つで、平取町二風谷遺跡出土資料（三浦他 1986）と同形態の資料である。2本の鉄線を絡め、端部をゼンマイ状に巻いている。鉄線の直径は約2mmである。

集中区 27 (図Ⅲ-15・16 図版 27)

位置：S・T-25・26区 規模：900×850cm 平面形：楕円形

関連遺構：焼土 ⅢF-172・173 土器集中 ⅢPB-26

確認・調査：S・T-25・26区のⅢb層調査時に焼土2カ所(ⅢF-172・173)と土器集中1カ所(ⅢPB-26)を検出した。検出段階において焼土と土器集中との関連性が伺えたため、合わせて写真撮影を行った後、個々の記録を作成した。

焼土(図Ⅲ-15)：ⅢF-172は長軸80cmの楕円形プランを呈し、焼骨片の他、僅かに灰を伴う焼土である。焼土層は厚さ10cmで、極めて良好に形成されている。ⅢF-173は長軸44cmを測る円形プランの焼土である。灰と焼骨片を伴い、焼土層も厚さ6cmで比較的良好に形成されていた。共に土壌サンプルよりサケ属を主体とする魚骨を得ている。

土器集中(図Ⅲ-15)：ⅢPB-26は細片化した281点の破片で構成される土器集中である。SP155の破片のみで構成され、集中区28のⅢPB-27・28との間で接合関係をもつ。

出土遺物(図Ⅲ-16)：1はⅦB2eに分類される無文の擦文土器である。外面は短い単位のハケメ調整痕が観察でき、内面は黒色処理を施している。2はⅦB3cの口縁部～胴部片で、断面は比較的厚みがあり、胴部に4条一対の沈線が鋸歯状に施文されている。口縁部の隆起部分に幅広の刻みが廻り、形態は大きく開いた後、内湾して立ち上がる。内面は顕著なミガキ調整の後、黒色処理を施してある。3は板状礫の表面に滑沢面が形成された礫である。

集中区 27



図III-15 集中区 27 平面図及び関連断面図



図Ⅲ-16 集中区 27 出土遺物

表Ⅲ-19 集中区27焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-15	27-2・3	ⅢF-172	S-25	ⅢbL	楕円形	80	52	10	骨・灰	
Ⅲ-15	27-4・5	ⅢF-173	T-24	ⅢbL	円形	44	38	6	骨	

表Ⅲ-20 集中区27出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-16-1	106-2-1	SP155A	ⅦB2e	61477.61570.61669他	ⅢbL	ⅢPB-26	T-25	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ	13	
				62718.62756.62769他	ⅢbL	ⅢPB-27	T-25					10	
				62957	ⅢbL	ⅢPB-28	U-26					1	
Ⅲ-16-2	106-2-2	SP105A	ⅦB3c	61676.61677	ⅢbU	-	T-25	甕	口縁	ミガキ 黒色処理	ナデ	2	
				60441.55560	ⅢbL		T-26					2	

表Ⅲ-21 集中区27出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-16-3	106-2-3	-	59544	滑沢面のある礫	-	ⅢbL	-	S-24	(168.2)	133.6	52.0	2000.0	Sa.	

集中区 28 (図Ⅲ-17・18 図版 28)

位置：U・V-26・27 区 規模：850×700cm

関連遺構：焼土 ⅢF-170・171 土器集中 ⅢPB-27・28・29

確認・調査：U・V-26・27 区のⅢb 調査時に焼土 2 ヲ所(ⅢF-170・171)と土器集中 3 ヲ所(ⅢPB-27・28・29)を近接した位置で検出した。それぞれ関連する遺構の可能性を想定したため、検出状態の撮影を行ってから個々の記録を作成した。

焼土(図Ⅲ-17)：ⅢF-170 は根による攪乱を受けており、灰が地山被熱層の下位まで押し込まれていた。ⅢF-171 は焼骨片を僅かに伴う弱い焼土である。土壌サンプルからは共に哺乳綱の骨を多く得ている。

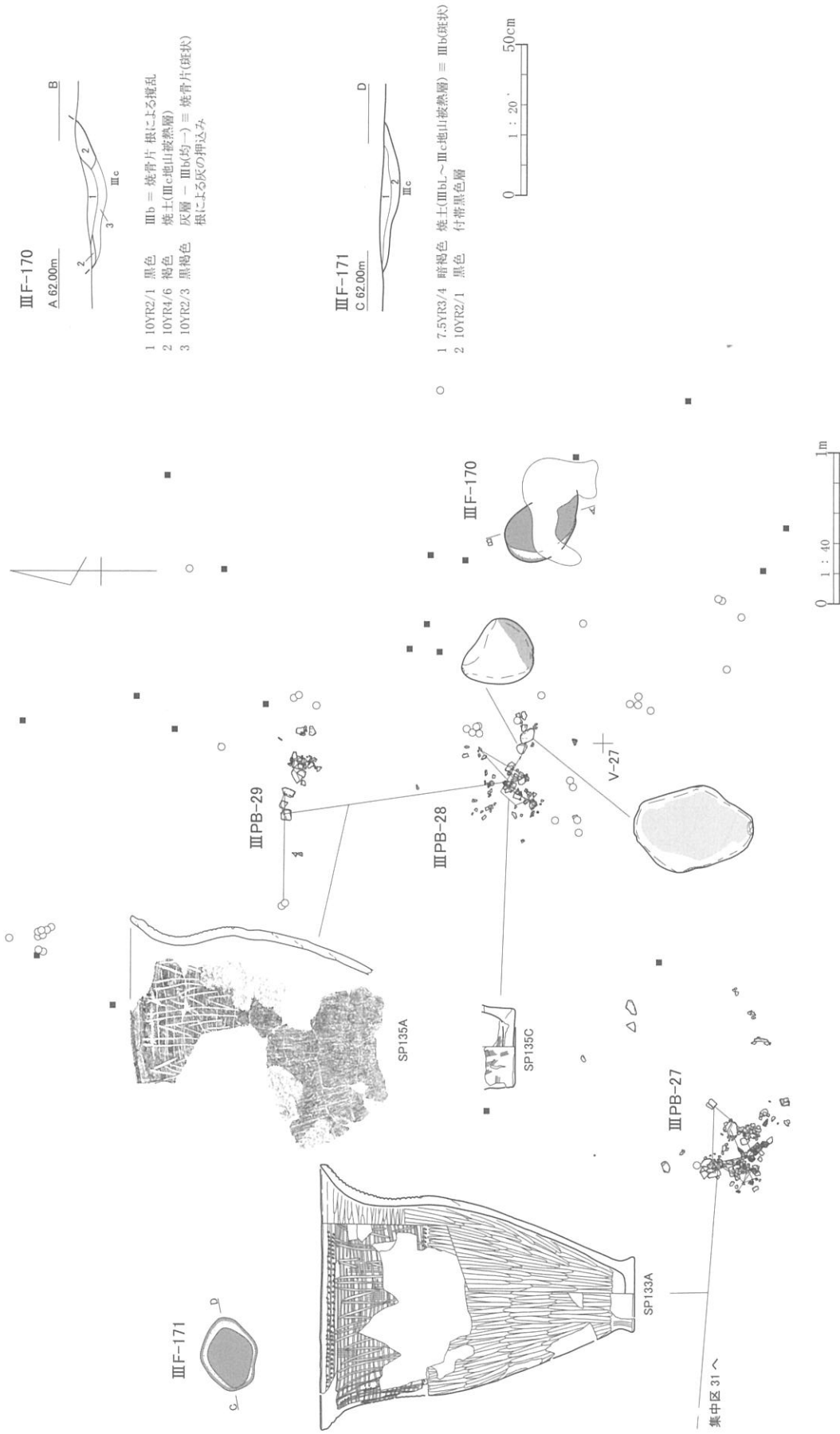
土器集中(図Ⅲ-18)：ⅢPB-27 は 265 点の土器片で構成され、1 の甕が主体となる他、集中区 27 の SP155 の破片も少数含まれていた。ⅢPB-28 は 164 点、ⅢPB-29 は 58 点の土器片で構成され、共に 2・3 の SP135 の同一個体片が主体となっている他、ⅢPB-28 では極僅かにⅢPB-27 と同様 SP155 の破片も含まれていた。出土状態及び接合関係より集中区 27 と同時期の可能性もある。

出土遺物(図Ⅲ-18)：1～3 はⅦB2a の甕で、2・3 は同一個体である。1・2 は共に横走沈線に樹枝状文を重ねているが、1 が明瞭な沈線で施文されているのに対し、2 は浅い不明瞭な沈線で構成されている。1 の調整は内面がミガキ調整の後、黒色処理が行われ、外面もミガキ調整が行われている。一方 2 では内面ではハケメ調整の後ミガキが行われ黒色処理は施されておらず、外面は砂粒の動きが顕著な強めのハケメ調整が行われている。接合状態をみると、1 は集中区 31 のⅢPB-39 出土土器片と接合し、広範囲での接合関係が確認できるのに対し、2・3 はⅢPB-28・29 の近接した範囲内での接合に止まっていた。4・5 は礫側縁と頂端部が使用されたたたき石である。4 は扁平な礫を素材とし、表面に滑沢面が形成されている。5 は不整形礫を素材とし、廃棄後に敲打部分が被熱し黒色化している。

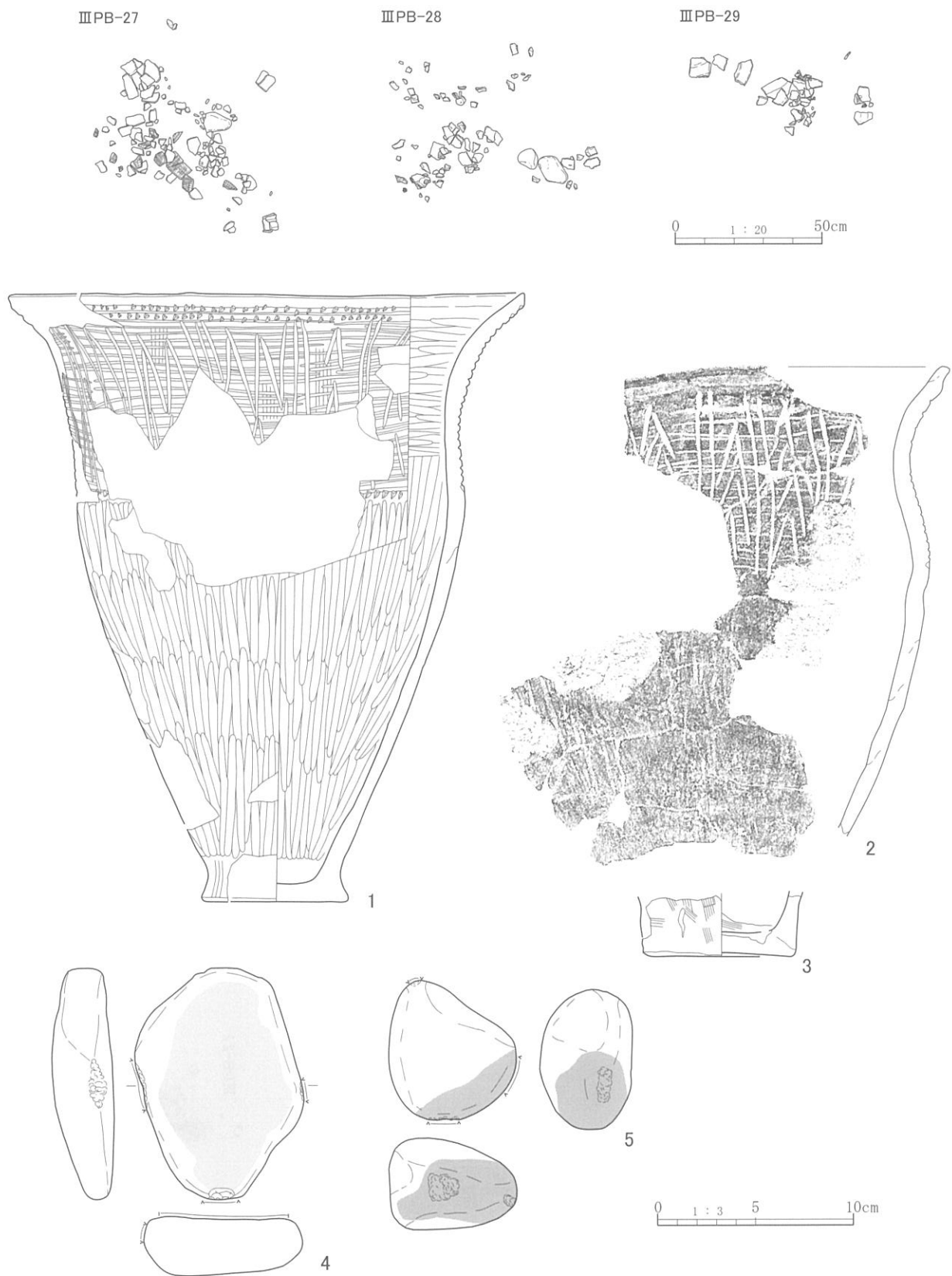
表Ⅲ-22 集中区28焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-17	28-2	ⅢF-170	U-26	ⅢbL	楕円形	(58)	38	5	骨	
Ⅲ-17	28-3	ⅢF-171	U-27	ⅢbL	長楕円形	59	38	6	骨	

集中区 28



図III-17 集中区 28 平面図及び関連遺構



図Ⅲ-18 集中区 28 関連遺構及び出土遺物

表Ⅲ-23 集中区28出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-19-1	107-1	SP133A	ⅦB2a	61680.62028.62117他	ⅢbL	ⅢPB-27	V-27	甕	口縁へ 底部	ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	37	
				65762.65680.65768他	ⅢbL	ⅢPB-39	U-30					35	
				62000	ⅢbM	—	T-31					1	
Ⅲ-19-2	107-2	SP135A	ⅦB2a	62790.62834.62849他	ⅢbL	ⅢPB-28	U-27	甕	口縁へ 胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ (ケズリ?)	16	
				62872.62873.62907他	ⅢbL	ⅢPB-29	U-27					4	
Ⅲ-19-3	107-3	SP135C	ⅦB2a	62844.62950.62951他	ⅢbL	ⅢPB-28	U-27	甕	底部	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	10	

表Ⅲ-24 集中区28出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-18-4	107-4	—	62868	たたき石	Ⅱb2	ⅢbL	ⅢPB-28	U-27	118.0	81.2	31.0	440.0	And.	
Ⅲ-18-5	107-5	—	62869	たたき石	Ⅱb2	ⅢbL	ⅢPB-28	U-27	70.0	64.0	46.0	330.0	And.	
—	—	—	62102	黒曜石転礫	—	ⅢbL	ⅢPB-27	V-27	31.4	30.3	20.3	15.0	Obs.	

集中区 29 (図Ⅲ-19・20 図版 29-1~4)

位置：S・T-27・28区 規模：900×700cm

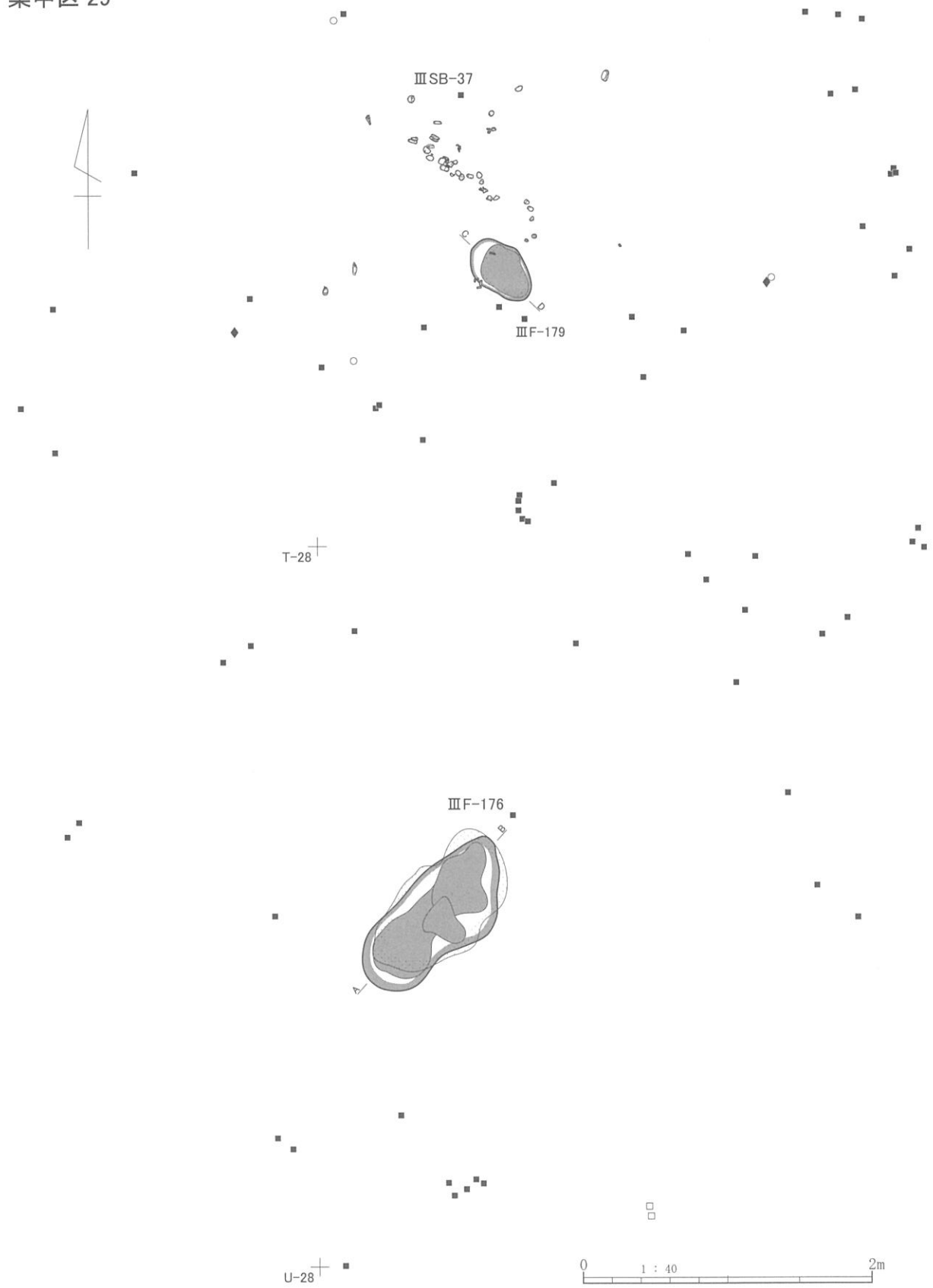
関連遺構：焼土 ⅢF-176・179 礫集中 ⅢSB-37

確認・調査：S・T-27・28区のⅢb層調査中、焼土2カ所(ⅢF-176・179)と礫集中1カ所(ⅢSB-37)を検出した。調査時は個々に記録を作成しており、集中区としての認識はなかった。また今回設定した他の集中区と比べても遺物出土数は少ない。ただしこの北側の平成17年度調査区において集中区10と複数の擦文文化期の焼土が検出されていたため、それらとの関連を想定し、集中区として設定した。

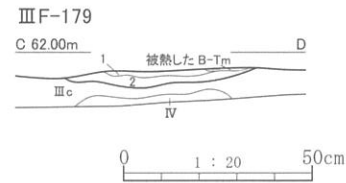
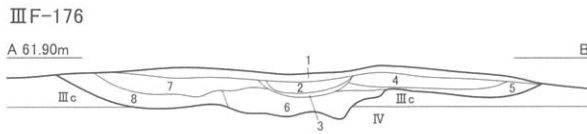
焼土(図Ⅲ-19・20)：ⅢF-176はⅢF-179、ⅢSB-37からやや南に離れた位置で検出した。長さ129cmを測る規模の大きい焼土だが、断面の観察から3つの焼土が重なっていることを確認した。上位には焼骨片の他、僅かに灰も堆積していた。ⅢF-179は僅かに焼骨片を伴う弱い焼土である。断面の観察においてB-Tmが被熱していることを確認できたため、確実にB-Tmより新しい焼土といえる。土壌サンプルには共に魚骨が多く含まれ、ⅢF-176ではシソ属とクルミ属の炭化種子も得られた。

礫集中(図Ⅲ-19)：ⅢSB-37はⅢF-179の北側に隣接して検出した。総点数57点中完形個体12点で、欠損率の高い礫集中である。

集中区 29



図Ⅲ-19 集中区 29 平面図



III F-176

- 1 10YR2/1 黒色 IIIb = 焼骨片(均一) ≡ 灰(斑状)
- 2 10YR4/4 褐色 焼土(IIIc地山被熱層) - 焼骨片(均一) = 灰(均一) 焼土①
- 3 10YR2/2 黒褐色 付帯黒色層 焼土①
- 4 7.5YR5/6 明褐色 焼土(IIIc地山被熱層) 焼土②
- 5 10YR2/1 黒色 付帯黒色層 焼土②
- 6 10YR1.7/1 黒色 IIIc ≡ IV(均一) 根による攪乱
- 7 7.5YR4/6 褐色 焼土(IIIbL~IIIc地山被熱層) 焼土③
- 8 7.5YR1.7/1 黒色 付帯黒色層 焼土③

III F-179

- 1 7.5YR4/4 褐色 焼土(IIIbL~B-Tm地山被熱層) ≡ 焼骨片(斑状)
- 2 7.5YR2/1 黒色 付帯黒色層

図 III-20 集中区 29 関連遺構断面図

表 III-25 集中区29焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
III-19	29-1・2	III F-176	T-27	IIIbL	長楕円形	129	60	12	骨	
III-19	29-3・4	III F-179	S-27	IIIbL	長楕円形	56	35	5	骨	

表 III-26 III SB-37属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-	-	-	60695	IIIbL	完形	42.9	-10.4	30.7	-1.2	14.1	-0.4	1.4	-0.6	28.2	-	Sa.	
-	-	-	60733	IIIbL	完形	44.9	-8.4	33.5	1.6	8.4	-6.1	1.3	-0.6	19.7	-	Sa.	
-	-	-	60736	IIIbL	完形	43.6	-9.7	38.5	6.6	18.5	4.0	1.1	-0.8	38.2	-	Sa.	
-	-	-	60734	IIIbL	完形	48.4	-4.9	37.5	5.6	9.5	-5.0	1.3	-0.7	25.3	-	Sa.	
-	-	III S1364	60622	IIIbL	完形	48.4	-4.9	28.2	-3.7	14.3	-0.2	1.7	-0.2	27.2	-	Sa.	他1点
-	-	-	60710	IIIbL	完形	52.1	-1.2	25.0	-6.9	14.9	0.4	2.1	0.1	25.6	-	Sa.	
-	107-6	-	60708	IIIbL	欠損	52.9	-0.4	43.8	11.9	25.3	10.8	1.2	-0.8	74.8	-	Sa.	
-	-	-	60702	IIIbL	完形	53.7	0.4	35.2	3.3	11.7	-2.8	1.5	-0.4	32.8	-	Sa.	
-	-	-	60715	IIIbL	完形	54.0	0.7	38.6	6.7	10.9	-3.6	1.4	-0.6	33.9	-	Sa.	
-	-	-	60718	IIIbL	完形	57.5	4.2	39.0	7.1	10.5	-4.0	1.5	-0.5	30.2	-	Sa.	
-	-	-	60709	IIIbL	完形	59.5	6.2	20.5	-11.4	10.8	-3.7	2.9	0.9	14.3	-	Mud.	
-	-	-	60730	IIIbL	完形	65.5	12.2	33.7	1.8	10.6	-3.9	1.9	0.0	35.1	-	Sa.	
-	-	-	60744	IIIbL	完形	74.1	20.8	17.9	-14.0	14.5	0.0	4.1	2.2	31.9	-	Mud.	
						58.1		35.2		14.5		1.96		34.8			
												総点数 57点	※完形 12点				

集中区 30 (図 III-21~23 図版 29-5~8)

位置 : S~U-29~31 区 規模 : 1,200×1,150cm

関連遺構 : 焼土 III F-193・194・195・196 土器集中 III PB-40

礫集中 III SB-41・42

確認・調査 : S~U-29~31 区の III b 層で、礫を中心とする多数の遺物が出土した。出土遺物に被熱礫が含まれていたため、焼土がある可能性を想定し慎重に調査を進めたところ、S-30・31 区において 4 ヶ所の焼土を検出した(III F-193~196)。また III F-194 の上位で土器片がまとまって出土したため III PB-40 として設定し、礫についても焼土群南東側に近接した位置で比較的分布密度が高かったため、III SB-41・42 の 2 ヶ所を礫集中として設定した。集中遺物は平面図を記録した上で、取り上げを行った。焼土は平面形及び断面の記録を行い、土壌サンプルを採取した。

焼土(図 III-21・22) : 4 ヶ所の焼土の内 III F-193・194・196 は焼骨片を伴い、焼土層も良好に形成さ

れている。ⅢF-195 は焼骨片を伴うが焼土層は不明瞭なため、投棄された焼土か極短期間使用された焼土の可能性はある。土壌サンプルからはそれぞれシカと思われる哺乳綱の骨が得られているほか、ⅢF-193・196 ではコイ科、ⅢF-194 ではサケ属の魚骨が得られた。またⅢF-196 ではキビの炭化種子を得ている。

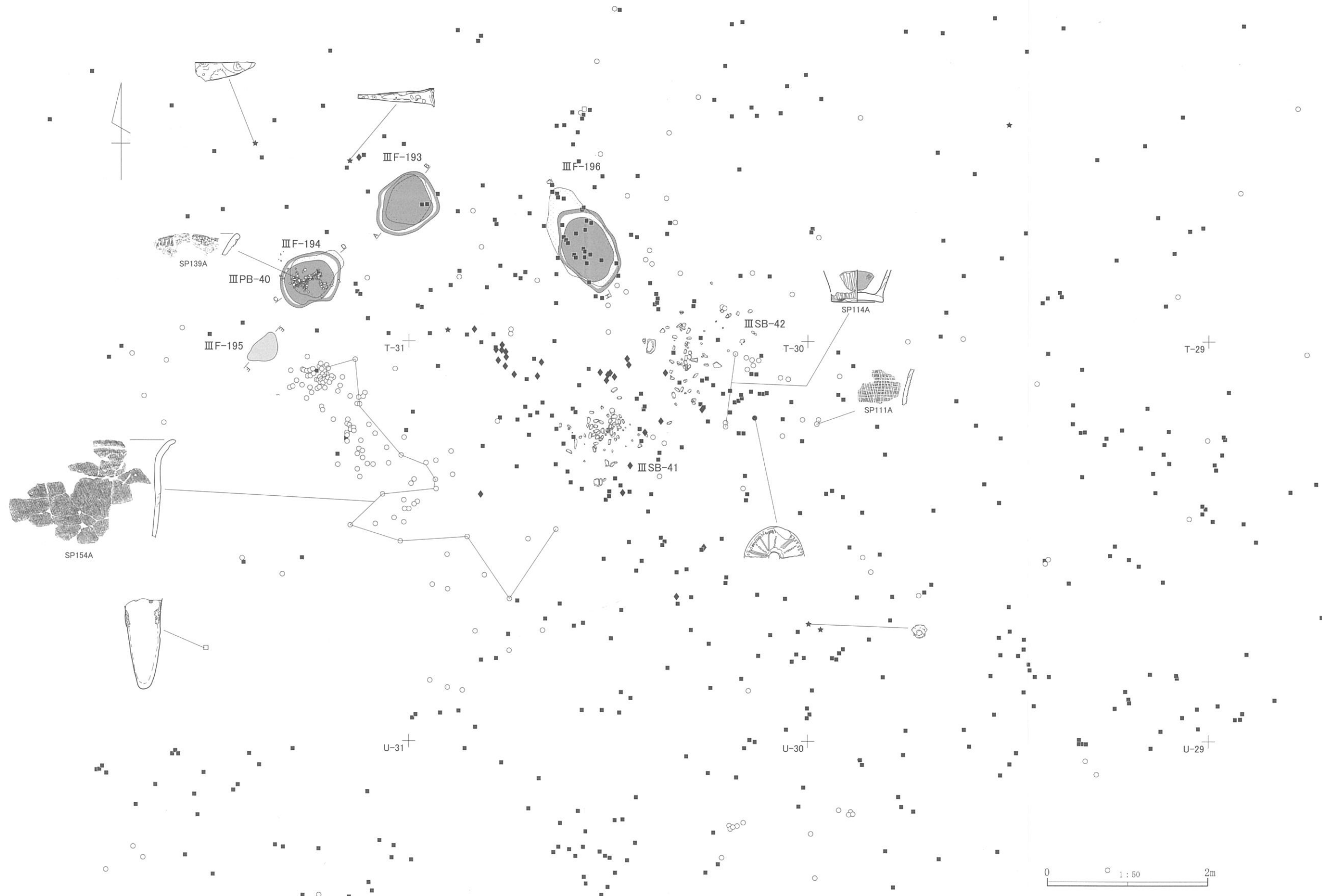
土器集中 (図Ⅲ-22) : ⅢPB-40 では、75×30cm の範囲で 206 点の土器片が密集して出土した。ⅢF-194 の上位で出土したが、間に若干間層を挟むことや、土器片に 2 次的な被熱を確認できないことから、焼土形成時期とは異なると考えられ、この集中区が複数回の行為の累積によって形成されたことが把握できる。

出土遺物 (図Ⅲ-23) : 1 はⅢSB-42 で出土した甕底部片である。外面はミガキ調整が施され、内面は黒色処理が行われている。底面に笹状の葉脈痕が認められる。2 は集中区平面図範囲から若干東に外れた位置で出土した小型の坏で、底部は全体の 1/2 が残存している。内外面共粗雑な整形のままにミガキ調整が行われており、粘土の継目を残している。3 は焼土群の南側で出土した無文の甕で、外面は粗いハケメ整形の後、粗雑なミガキ調整が行われ、内面は基本的にナデによる整形の後、口縁部付近のみミガキ調整が行われている。4 はⅢPB-40 で出土した甕口縁部片である。外面に篋状工具の端部を用いたとみえる深い刻みが廻らされ、内面はミガキ調整の後黒色処理が行われている。5 は甕口縁部片で、口唇部は欠損している。外面に 2 条一対の沈線により樹枝状と思われる文様が施文され、口唇部には刻みが入られている。6 はⅧB2a と思われる甕胴部片である。7 は紡錘車片で、下面に沈線と列点による放射状の文様が施文され、縁辺に列点が廻らされている。胎土は擦文土器と似ているが、径 3 mm 以下の小礫を多く含む点で若干様相が異なる。8 はⅢSB-41 で出土した加工痕のある礫。9 はⅢSB-42 で出土した砥石で、砥面が粗く材質は砂岩である。10 はたたき石で棒状礫の稜部分を使用している。11 は刀子片で、切先が若干折れ曲がっている。12 は刀子茎で折損後に再加工したと思われ、折損部や上面がたたき潰されている。13 は板状の製品で、厚さ 1.5 mm の鉄片の両面に別の板状鉄片が密着している。鋸が通されていた可能性があるが、X 線写真からは判断できなかった。

表Ⅲ-27 集中区30焼土属性表

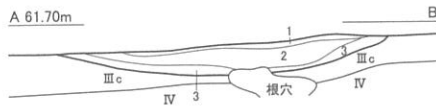
挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-21	29-6	ⅢF-193	S-31	ⅢbL	楕円形	95	74	8	骨	
Ⅲ-21	29-6	ⅢF-194	S-31	ⅢbL	不整形	88	72	10	骨	
Ⅲ-21	29-6	ⅢF-195	T-31	ⅢbL	楕円形	44	30	4	—	
Ⅲ-21	29-7	ⅢF-196	S-30	ⅢbL	不整形	112	72	10	骨	

集中区 30



図III-21 集中区 30 平面図

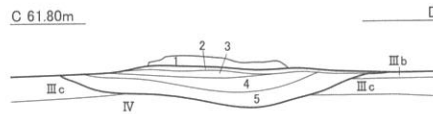
ⅢF-193



ⅢF-193

- | | | | |
|---|---------|-----|------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲb = 焼骨片(均一) 粘性有 |
| 2 | 10YR4/6 | 褐色 | 焼土(Ⅲc地山被熱層) |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 付帯黒色層 |

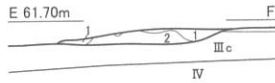
ⅢF-194



ⅢF-194

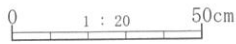
- | | | | |
|---|----------|-----|------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲb = 焼骨片(均一) ⅢPB-46が出土 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Ⅲb = 焼骨片(均一) = 灰(均一) |
| 3 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | 焼土(Ⅲb地山被熱層) |
| 4 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | 焼土(Ⅲc地山被熱層) |
| 5 | 7.5YR5/8 | 黒褐色 | 付帯黒色層 |

ⅢF-195

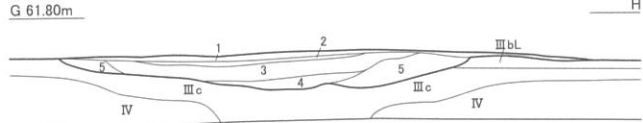


ⅢF-195

- | | | | |
|---|---------|-----|----------------------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲb = 焼骨片(均一・φ3↓) |
| 2 | 10YR4/6 | 褐色 | 焼土(弱いⅢcの被熱)
投棄された焼土か使用期間の短い焼土 |



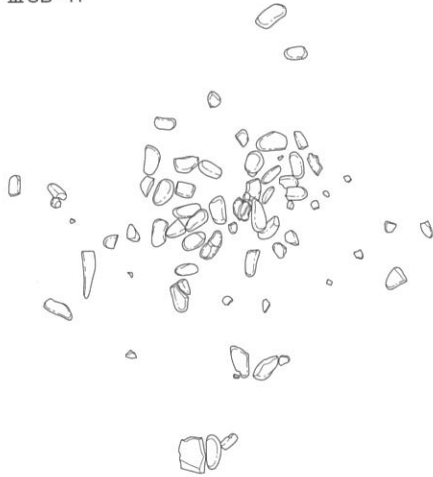
ⅢF-196



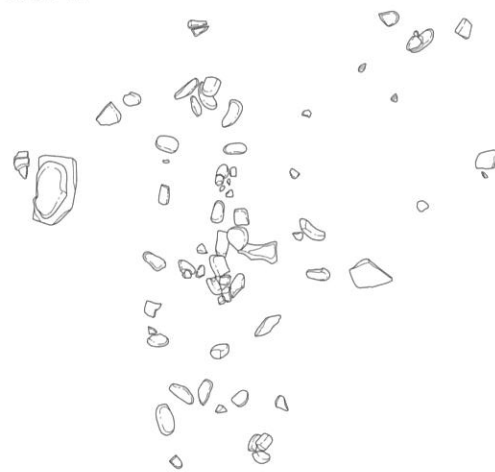
ⅢF-196

- | | | | |
|---|-----------|-------|--------------------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Ⅲb = 焼土(斑状)・焼骨片 |
| 2 | 7.5YR6/4 | にぶい橙色 | 焼土(Ⅲb地山被熱層) = 焼骨片(均一) |
| 3 | 7.5YR4/6 | 褐色 | 焼土(Ⅲc地山被熱層) = Ⅲbブロック(斑状) |
| 4 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | 付帯黒色層 = 焼土(斑状) |
| 5 | 7.5YR2/1 | 黒褐色 | 付帯黒色層 粘性やや有 |

ⅢSB-41



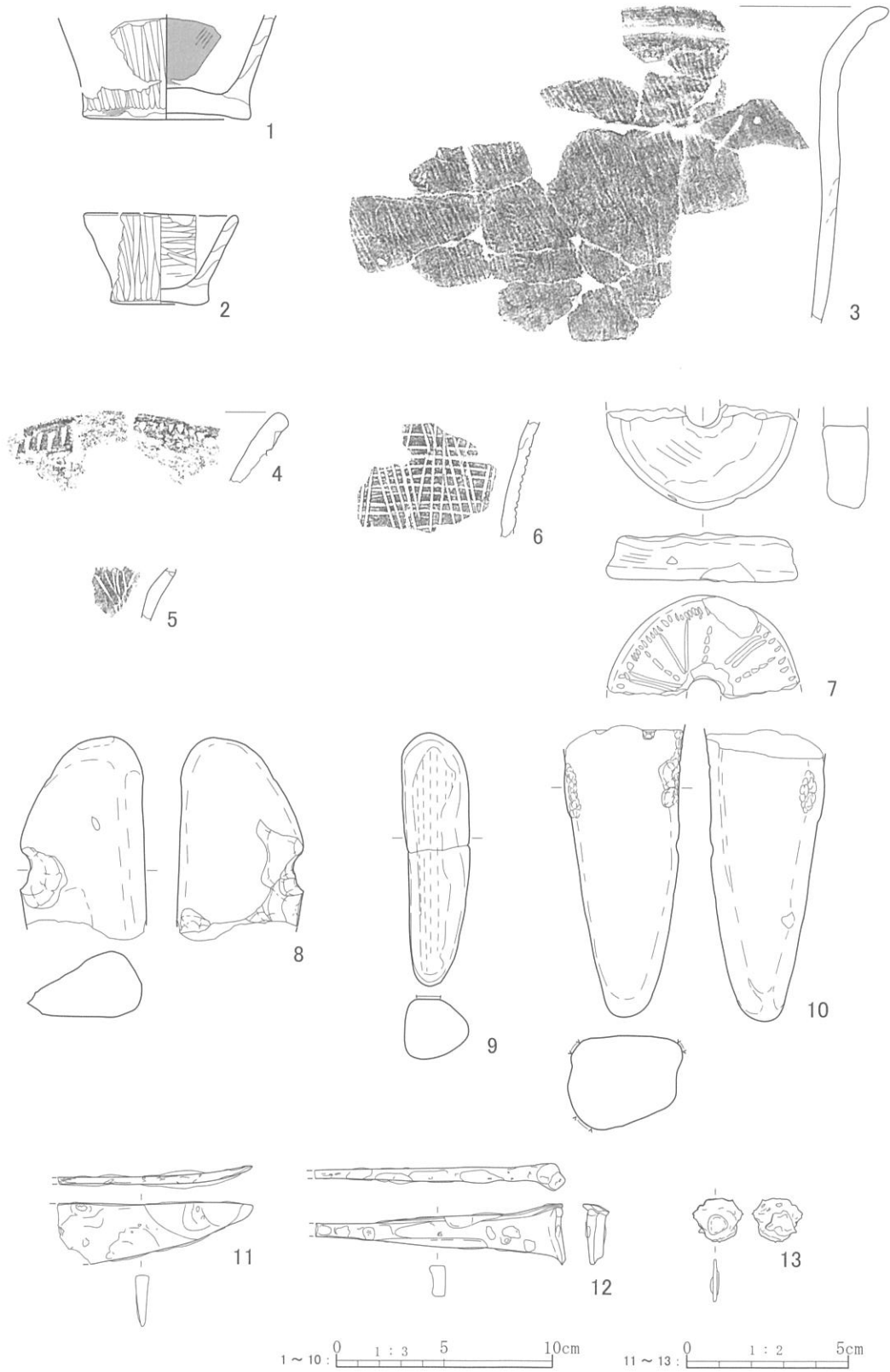
ⅢSB-42



ⅢPB-40



図Ⅲ-22 集中区 30 関連遺構



図Ⅲ-23 集中区 30 出土遺物

表Ⅲ-28 集中区30出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-23-1	108-5	SP114A	ⅦB	69242.69246	ⅢbL	ⅢSB-42	-	甕	底部	ナデ	ハケメ	2	
				67892.67893.71002	ⅢbL					T-30	黒色処理		
Ⅲ-23-2	108-6	SP556A	ⅦC2	66475	ⅢbL	-	T-29	坏	口縁～ 台部	ミガキ 黒色処理?	ミガキ	1	
Ⅲ-23-3	108-1	SP154A	ⅦB3e	66156.66196.66208他	ⅢbM	-	T-30	甕	口縁～ 胴部	ハケメ	ハケメ	6	
				66664.67926.68204他	ⅢbL		T-31			ミガキ	9		
Ⅲ-23-4	108-2	SP139B	ⅦB3	69339.69345.69350	ⅢbL	ⅢPB-40	-	甕	口縁	ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	3	
Ⅲ-23-5	108-3	SP121A	ⅦB2b	61975	ⅢbM	-	T-31	甕	口縁	ナデ	ナデ	1	
Ⅲ-23-6	108-4	SP111A	ⅦB2a	67887.67888.67890	ⅢbL	-	T-29	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	3	

表Ⅲ-29 集中区30出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-23-7	108-7	-	68192	紡錘車	-	ⅢbL	-	T-30	8.7	3.9	2.1	26.9	Cray.	
Ⅲ-23-8	108-12	-	69154	加工痕のある礫	-	ⅢbL	ⅢSB-41	T-30	(94.0)	58.0	30.0	200.0	Sa.	
Ⅲ-23-9	108-13	-	69368	砥石	-	ⅢbL	ⅢSB-42	T-30	117.0	32.0	27.0	140.0	Sa.	
Ⅲ-23-10	108-11	-	66531	たたき石	I b2	ⅢbL	-	T-31	(135.0)	52.5	43.0	380.0	Sa.	
-	108-8	-	67570	たたき石	II b2	ⅢbL	-	S-30	131.0	81.0	51.0	645.0	Mud.	
-	108-9	-	66562	たたき石	II a2	ⅢbL	-	T-29	138.0	117.0	49.0	1100.0	Sa.	
-	108-15	-	64816	台石	-	ⅢbL	-	S-29	(156.0)	(107.0)	58.0	990.0	Sa.	
Ⅲ-23-11	108-16	-	66728	刀子片	-	ⅢbL	-	S-31	(61.0)	19.5	4.0	7.4	Irn.	
Ⅲ-23-12	108-17	-	69058	刀子茎	-	ⅢbL	-	S-31	(77.0)	19.0	5.0	12.9	Irn.	
Ⅲ-23-13	108-18	-	65472	板状鉄片	-	ⅢbL	-	T-29	14.0	16.0	3.0	0.6	Irn.	鋳付?

表Ⅲ-30 ⅢSB-41属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						長短比
-	-	-	69174	ⅢbL	完形	53.3	-21.2	30.9	-7.3	24.9	-0.9	1.7	-0.5	53.1	-	Sa.	
-	-	-	69151	ⅢbL	完形	56.9	-17.6	30.1	-8.1	20.3	-5.5	1.9	-0.3	43.4	-	Sa.	
-	-	-	69158	ⅢbL	欠損	59.7	-14.8	36.0	-2.2	16.0	-9.8	1.7	-0.5	47.0	○	Sa.	
-	-	ⅢS1386	69146	ⅢbL	完形	66.1	-8.4	39.5	1.3	23.1	-2.7	1.7	-0.5	66.8	-	Sa.	他2点
-	-	-	69142	ⅢbL	完形	67.4	-7.1	34.3	-3.9	24.1	-1.7	2.0	-0.2	77.7	-	Sa.	
-	-	-	69184	ⅢbL	完形	71.1	-3.4	39.7	1.5	35.2	9.4	1.8	-0.4	143.0	-	Sa.	
-	-	-	69160	ⅢbL	完形	73.3	-1.2	35.7	-2.5	20.3	-5.5	2.1	-0.1	76.3	-	Sa.	
-	-	-	69140	ⅢbL	完形	73.7	-0.8	41.6	3.4	32.3	6.5	1.8	-0.4	109.7	-	Sa.	
-	-	-	69131	ⅢbL	完形	74.4	-0.1	45.4	7.2	26.5	0.7	1.6	-0.5	95.8	-	Sa.	
-	-	-	69133	ⅢbL	完形	73.1	-1.4	42.5	4.3	31.7	5.9	1.7	-0.5	154.6	-	Sa.	
-	109-19	-	69152	ⅢbL	完形	75.2	0.7	28.9	-9.3	23.0	-2.8	2.6	0.4	75.2	-	Sa.	
-	-	-	69137	ⅢbL	完形	78.9	4.4	33.5	-4.7	19.1	-6.7	2.4	0.2	78.9	-	Sa.	
-	-	-	69136	ⅢbL	欠損	76.3	1.8	45.4	7.2	18.7	-7.1	1.7	-0.5	91.6	-	Sa.	
-	-	-	69178	ⅢbL	完形	74.3	-0.2	40.8	2.6	24.8	-1.0	1.8	-0.4	104.0	-	Sa.	
-	-	-	69143	ⅢbL	完形	77.2	2.7	43.2	5.0	25.2	-0.6	1.8	-0.4	115.3	-	Sa.	
-	-	-	69144	ⅢbL	完形	81.0	6.5	38.4	0.2	24.2	-1.6	2.1	-0.1	110.5	-	Sa.	
-	-	-	69125	ⅢbL	完形	85.1	10.6	34.5	-3.7	16.3	-9.5	2.5	0.3	74.9	-	Sa.	
-	-	-	69157	ⅢbL	完形	87.7	13.2	44.4	6.2	19.6	-6.2	2.0	-0.2	116.1	-	Sa.	
-	-	-	69177	ⅢbL	完形	89.8	15.3	43.7	5.5	20.1	-5.7	2.1	-0.1	111.8	-	Sa.	
-	-	-	69150	ⅢbL	完形	89.6	15.1	38.0	-0.2	29.5	3.7	2.4	0.2	128.2	-	Sa.	
-	-	-	69179	ⅢbL	完形	94.7	20.2	39.2	1.0	14.9	-10.9	2.4	0.2	93.3	-	Sa.	

平均 83.1 42.4 25.8 2.18 103.5
総点数 81点 ※完形 17点

表Ⅲ-31 ⅢSB-42属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	69239	ⅢbL	完形	31.0	-34.4	27.0	-6.3	14.3	-5.1	1.1	-0.9	13.3	-	Sa.	
-	-	-	69212	ⅢbL	完形	45.0	-20.4	39.0	5.7	14.7	-4.7	1.2	-0.9	38.3	○	Sa.	
-	-	-	69221	ⅢbL	完形	53.2	-12.2	35.5	2.2	11.4	-8.0	1.5	-0.6	22.7	-	Tu.	
-	-	-	69225	ⅢbL	完形	51.4	-14.0	23.6	-9.7	15.0	-4.4	2.2	0.1	29.8	-	Sa.	
-	-	-	69240	ⅢbL	完形	57.1	-8.3	42.1	8.8	12.8	-6.6	1.4	-0.7	43.9	-	Sa.	
-	-	-	69224	ⅢbL	完形	59.0	-6.4	38.5	5.2	25.3	5.9	1.5	-0.5	86.9	-	Sa.	
-	-	-	69211	ⅢbL	完形	62.4	-3.0	30.1	-3.2	17.0	-2.4	2.1	0.0	55.9	-	Sa.	
-	-	ⅢS1396	69189	ⅢbL	完形	62.8	-2.6	41.3	8.0	28.9	9.5	1.5	-0.5	91.9	-	Sa.	他1点
-	-	-	69199	ⅢbL	完形	68.5	3.1	34.2	0.9	14.0	-5.4	2.0	-0.1	47.4	-	Sa.	
-	-	-	69230	ⅢbL	完形	68.7	3.3	23.8	-9.5	17.3	-2.1	2.9	0.8	31.8	-	Sa.	
-	-	-	69193	ⅢbL	完形	70.6	5.2	36.1	2.8	21.3	1.9	2.0	-0.1	49.3	-	Sa.	
-	109-20	-	69367	ⅢbL	完形	71.3	5.9	34.8	1.5	26.6	7.2	2.0	0.0	81.2	-	Sa.	
-	-	-	69187	ⅢbL	完形	73.0	7.6	35.0	1.7	13.2	-6.2	2.1	0.0	53.4	-	Sa.	
-	-	-	69219	ⅢbL	完形	78.6	13.2	37.0	3.7	15.6	-3.8	2.1	0.1	65.5	-	Sa.	
-	-	-	69218	ⅢbL	完形	80.1	14.7	32.3	-1.0	15.7	-3.7	2.5	0.4	55.8	-	Sa.	
-	-	ⅢS1397	69201	ⅢbL	略完形	80.6	15.2	32.5	-0.8	21.1	1.7	2.5	0.4	71.1	○	Sa.	他1点
-	-	-	69233	ⅢbL	完形	81.4	16.0	21.0	-12.3	20.8	1.4	3.9	1.8	56.4	-	Sa.	
-	-	-	69186	ⅢbL	完形	83.3	17.9	41.5	8.2	30.7	11.3	2.0	-0.1	143.7	-	Sa.	
-	-	-	69236	ⅢbL	完形	83.5	18.1	46.0	12.7	26.5	7.1	1.8	-0.3	145.3	-	Sa.	
-	-	-	69194	ⅢbL	完形	83.2	17.8	31.0	-2.3	11.0	-8.4	2.7	0.6	37.6	-	Mud.	
-	-	-	69208	ⅢbL	完形	82.8	17.4	34.5	1.2	20.0	0.6	2.4	0.3	77.3	-	Sa.	
-	-	-	69229	ⅢbL	完形	87.2	21.8	38.0	4.7	17.8	-1.6	2.3	0.2	75.0	-	Sa.	
-	-	-	69223	ⅢbL	完形	152.7	87.3	80.3	47.0	30.3	10.9	1.9	-0.2	460.0	-	Sa.	
平均						72.5		36.3		19.2		2.07		79.7			
																総点数 75点 ※完形 23点	

集中区 31 (図Ⅲ-24・25 図版 30-1~6)

位置：U・V-30・31 区 規模：800×600cm 平面形：楕円形

関連遺構：土坑 ⅢP-47 焼土 ⅢF-189 土器集中 ⅢPB-39

礫集中 ⅢSB-43

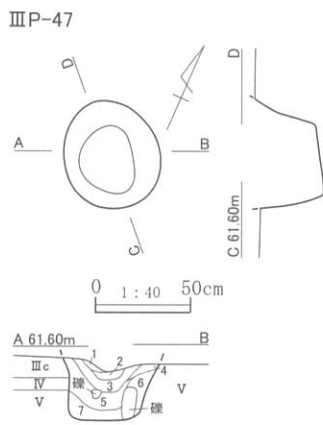
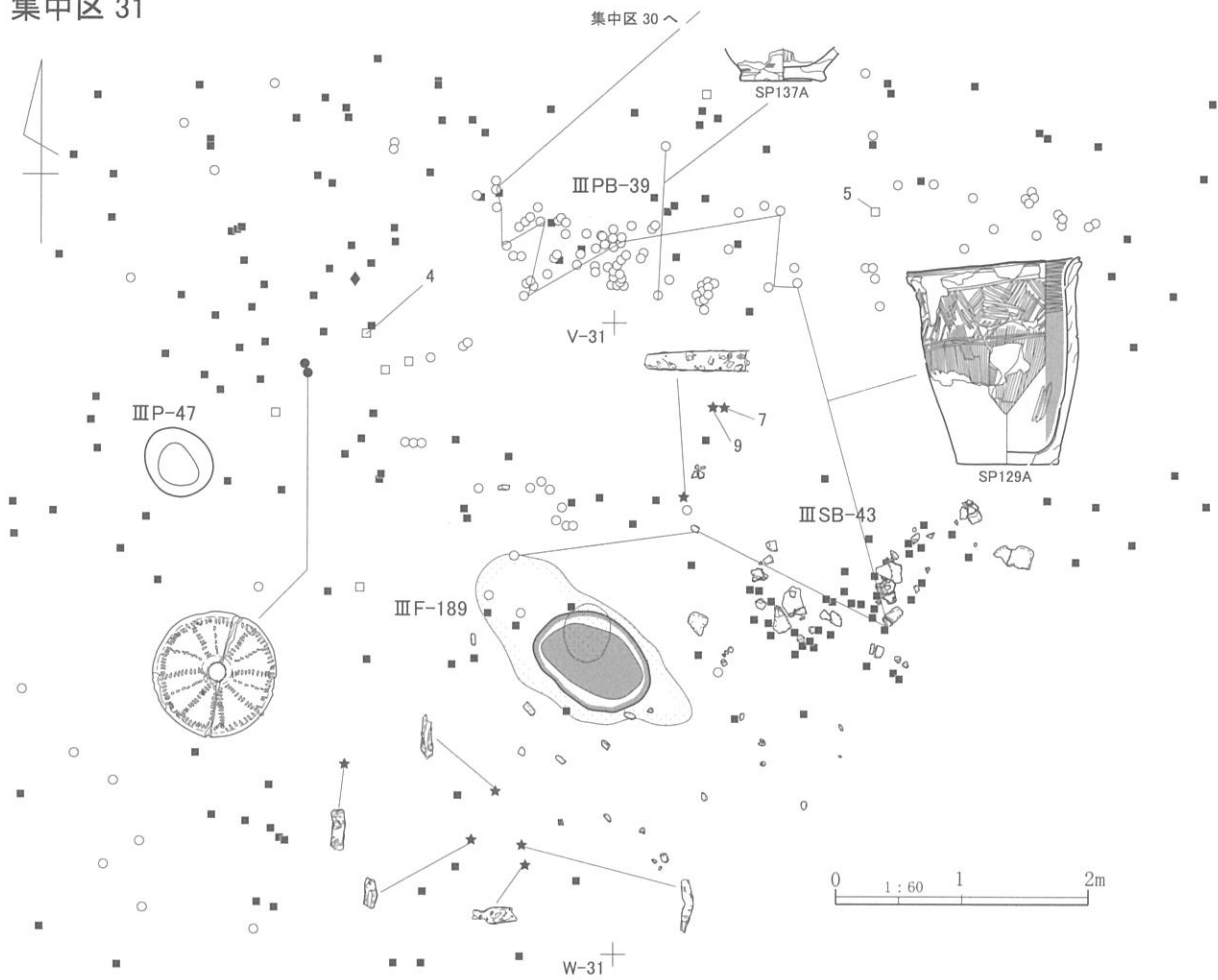
確認・調査：U・V-30・31 区のⅢb層調査時に長楕円形に広がる焼骨片と斑状の灰を確認した。掘削を進めたところ下位で焼土を検出し(ⅢF-189)、周囲では土器、及び礫の集中を確認したため(ⅢPB-39・43)、関連する遺構群と判断し写真撮影を行った。遺物を取り上げ、焼土の記録を作成した後、周囲をⅢc面まで掘削した際、ⅢF-189の北西側でⅢbの円形の落込みを検出した。半截した結果、底面が平らな円形の土坑であることが確認できたため、ⅢP-47として設定した。堆積状態の記録後完掘し、調査を終了した。

土坑(図Ⅲ-24)：ⅢP-47は開口部で約60cmの径を測る円形の土坑である。堆積土7層は壁面の崩れによると思われる、自然埋没した土坑と考えられる。また土坑内には壁面崩落時に流れ込んだと考えられる礫が少数出土している。

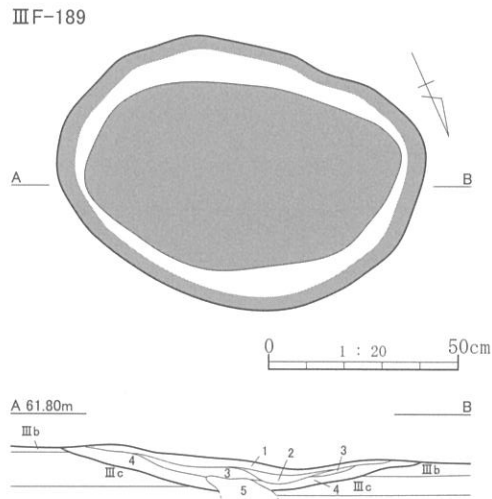
焼土(図Ⅲ-24)：ⅢF-189は長軸98cmの規模を測る。上位に焼骨片と僅かな灰を含むⅢb主体土が堆積し、炭化したクルミ片も確認できた。燃焼面は浅く窪み、焼土層は厚さ2cm程で平面規模に比べやや薄い。土壌サンプルからはサケ属とシカの骨の他、ムギ類、ヒエ属、クルミ属をはじめとする炭化種子も多く得られた。また特筆すべき点として、少量ではあるが板状の小鉄片も抽出している。

土器集中(図Ⅲ-24)：ⅢPB-39は200×90cmの範囲で115点の土器片が出土した。1のSP129個体片が主体となっている他、集中区28のSP133個体片も多数含まれていた。

集中区 31

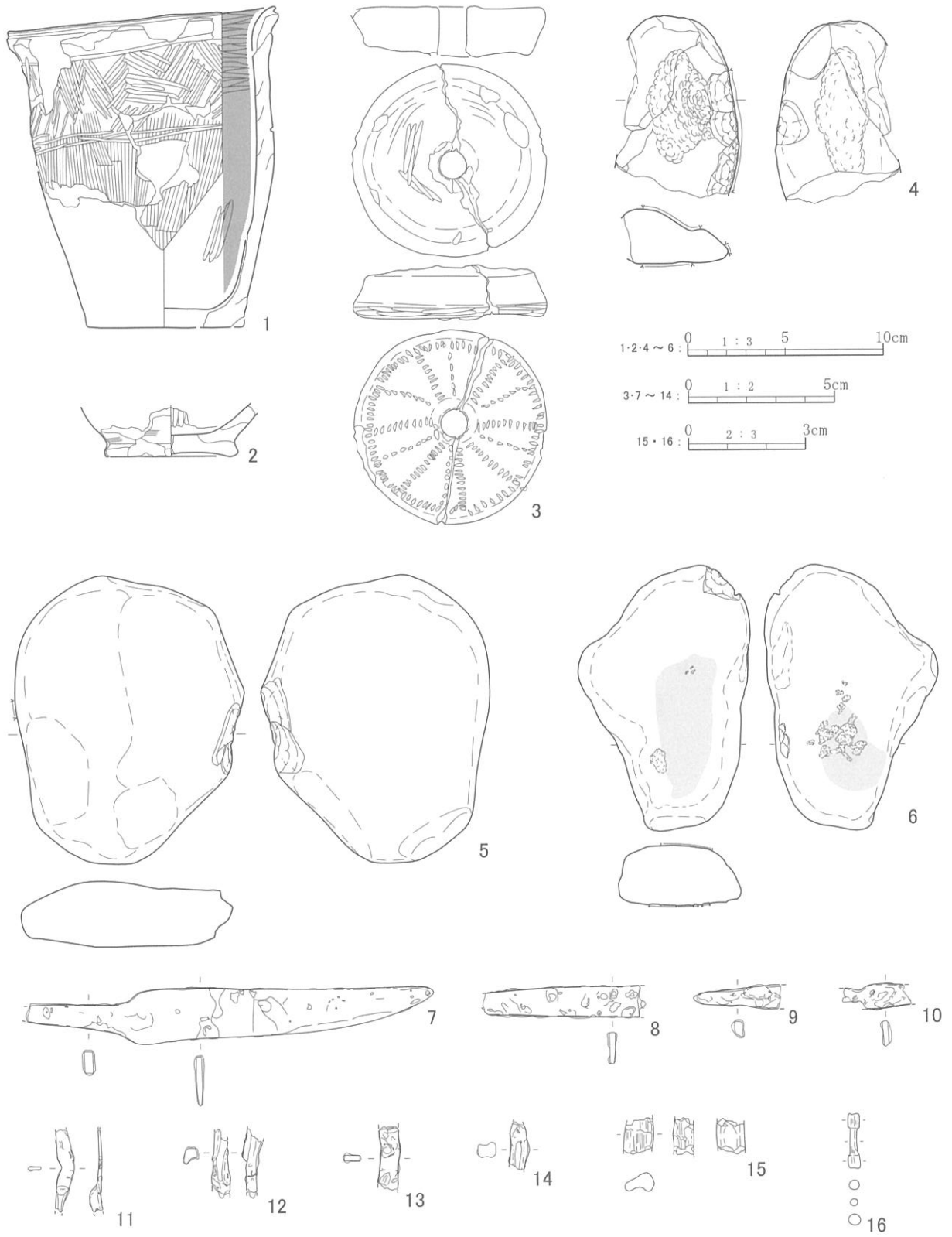


- III P-47**
- | | | |
|---|-------------|---------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | IIIb |
| 2 | 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = IV(斑状) |
| 3 | 10YR3/1 黒褐色 | IIIc = Vb(均一) |
| 4 | 10YR3/1 黒褐色 | Vb = IIIc(斑状) |
| 5 | 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = Vb(斑状) |
| 6 | 10YR2/2 黒褐色 | IIIc = Vb(均一) |
| 7 | 10YR3/2 黒褐色 | IIIc = IV(均一) |



- III F-189**
- | | | |
|---|-------------|---------------------|
| 1 | 10YR2/2 黒褐色 | IIIb - 焼骨片 = 炭化クルミ片 |
| 2 | 10YR4/4 褐色 | IIIb - 焼骨片 = 灰(均一) |
| 3 | 7.5YR4/6 褐色 | 焼土(IIIc地山被熱層) |
| 4 | 10YR3/1 黒褐色 | 付帯黒色層 |
| 5 | 10YR2/2 黒褐色 | 根によるIIIc・IVの落込み |
- ※ 2層は掘り返しによる灰の堆積

図III-24 集中区 31 平面図及び関連遺構



図Ⅲ-25 集中区 31 出土遺物

表Ⅲ-32 集中区31土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸					
Ⅲ-24	30-5・6	ⅢP-47	V-31	Ⅲc	N-38° W	58	50	34	29	34	1.16	1.17	—	

表Ⅲ-33 集中区31焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-24	30-3・4	ⅢF-189	V-30・31	ⅢbL	楕円形	98	74	9	骨・灰	

表Ⅲ-34 集中区31出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考	
										内側	外側			
Ⅲ-25-1	110	SP129A	ⅦB3c	65672.65724.65745他	ⅢbL	ⅢPB-39	U-31	甕	口縁～ 底部	ミガキ 黒色処理	ハケメ	16		
				65558	ⅢbL							T-28		1
				65585	ⅢbL							T-29		1
				65941.65443.65444他	ⅢbU							T-30		4
				64443.64445	ⅢbL							U-29		2
				64440.65971.66614他	ⅢbL							U-30		9
				65979.65985	ⅢbL							U-31		2
65993	ⅢbL	V-31	1											
Ⅲ-25-2	110	SP137A	ⅦC4	65676	ⅢbL	ⅢPB-39	U-30	甕	底部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	3		

表Ⅲ-35 集中区31出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-25-3	—	—	65994	紡錘車	CP	ⅢbL	—	V-31	6.6	6.6	1.8	77.8	Cray	
Ⅲ-25-4	110-7	—	65991	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	V-31	(93.0)	64.0	27.0	205.0	Sa.	
Ⅲ-25-5	110-8	—	65957	加工痕のある礫	—	ⅢbL	—	U-30	146.0	118.0	34.0	870.0	Sa.	
Ⅲ-25-6	110-9	—	91603	滑沢面と敲打痕 のある礫	Ⅱ	1	ⅢP-47	—	271.0	177.0	61.0	3400.0	Sa.	
—	110-4	—	65617	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	V-30	(58.0)	(42.0)	34.0	70.0	Sa.	
—	110-6	—	65627	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	V-31	(71.0)	41.0	43.0	135.0	Sa.	
—	110-5	—	65642	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	V-31	(60.0)	51.0	34.0	135.0	Sa.	
—	—	ⅢST0071	65954	台石	—	ⅢbL	—	U-30	(78.9)	15.4	18.8	110.0	Sa.	
—	—	—	65993	たたき石	Ⅱb2	ⅢbL	—	V-31	114.1	(95.3)	69.5	800.0	Mud.	
Ⅲ-25-7	109-10	—	63129	刀子	—	ⅢbL	—	V-30	(139.0)	20.0	5.0	22.3	Irn.	
Ⅲ-25-8	109-11	—	63128	刀子茎	—	ⅢbL	—	V-30	(55.5)	11.0	3.5	5.5	Irn.	
Ⅲ-25-9	109-12	—	67240	刀子茎	—	ⅢbL	—	V-30	(30.0)	8.5	5.0	1.8	Irn.	
Ⅲ-25-10	109-13	—	63130	板状鉄片	—	ⅢbL	—	V-31	(23.0)	9.0	4.0	1.5	Irn.	
Ⅲ-25-11	—	—	63131	棒状鉄片	—	ⅢbL	—	V-31	(28.0)	7.0	2.0	0.7	Irn.	
Ⅲ-25-12	109-14	—	63133	棒状鉄片	—	ⅢbL	—	V-31	(24.0)	6.0	6.0	1.5	Irn.	
Ⅲ-25-13	109-15	—	63134	棒状鉄片	—	ⅢbL	—	V-31	(22.0)	8.5	4.0	1.3	Irn.	
Ⅲ-25-14	109-16	—	63132	棒状鉄片	—	ⅢbL	—	V-31	(16.5)	7.0	5.0	1.3	Irn.	
Ⅲ-25-15	109-17	—	98673	中柄?	—	ⅢbL	ⅢF-189	V-31	8.0	1.0	8.0	0.3	B.	FLT
Ⅲ-25-16	109-18	—	101340	糸巻き	—	ⅢbL	ⅢF-189	V-31	14.0	2.5	3.0	0.2	B.	FLT
—	—	—	—	板状鉄片	—	ⅢbL	ⅢF-189	V-31	—	—	—	—	Irn.	FLT

礫集中(図Ⅲ-24)：ⅢSB-43は280×120cmの範囲でまとまって出土した礫集中である。総数126点の内完形個体は22点で欠損率の非常に高い礫集中であった。また構成している礫も板状の大型礫を多く含む点で、同時期の他の礫集中とは様相を異にしていた。

出土遺物(図Ⅲ-25)：1はⅢPB-39で出土した甕で、集中区30出土土器片と接合する。器壁に厚みがあり、胴部外面は粗いハケメ調整後、鋸歯状の文様が描かれ、内面はミガキの後黒色処理が行われている。2もⅢPB-39から出土した。坏の底部片で、上げ底気味に成形されている。3は紡錘車

表Ⅲ-36 ⅢSB-43属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	65936	ⅢbL	完形	18.3	-47.2	10.9	-26.9	8.0	-14.0	1.7	0.0	2.3	-	Gra.	
-	-	-	65934	ⅢbL	完形	21.2	-44.3	17.1	-20.7	6.2	-15.8	1.2	-0.5	2.2	-	Mud.	
-	-	-	65844	ⅢbL	完形	24.2	-41.3	21.6	-16.2	10.6	-11.4	1.1	-0.6	6.7	-	Sa.	
-	-	-	65692	ⅢbL	完形	31.2	-34.3	25.3	-12.5	13.7	-8.3	1.2	-0.5	13.9	-	Che.	
-	-	-	65917	ⅢbL	完形	33.9	-31.6	14.8	-23.0	17.9	-4.1	2.3	0.6	13.5	-	Sa.	
-	-	-	65933	ⅢbL	完形	35.5	-30.0	29.3	-8.5	8.8	-13.2	1.2	-0.5	13.0	-	Sa.	
-	-	-	65935	ⅢbL	完形	36.1	-29.4	28.2	-9.6	8.0	-14.0	1.3	-0.4	12.4	-	Sa.	
-	-	-	65907	ⅢbL	完形	41.9	-23.6	34.0	-3.8	12.8	-9.2	1.2	-0.5	25.4	-	Sa.	
-	-	-	65906	ⅢbL	完形	42.1	-23.4	27.9	-9.9	10.6	-11.4	1.5	-0.2	18.3	-	Sa.	
-	-	-	65876	ⅢbL	完形	57.2	-8.3	24.4	-13.4	13.5	-8.5	2.3	0.6	26.0	-	Sa.	
-	-	-	65908	ⅢbL	完形	60.5	-5.0	37.8	0.0	24.9	2.9	1.6	-0.1	68.1	-	Sa.	
-	110-19	ⅢS1418	65872	ⅢbL	完形	62.8	-2.7	39.9	2.1	31.8	9.8	1.6	-0.1	107.7	-	Sa.	他1点
-	-	-	65913	ⅢbL	完形	64.8	-0.7	49.5	11.7	32.3	10.3	1.3	-0.4	129.8	-	Sa.	
-	-	-	65878	ⅢbL	完形	67.1	1.6	41.9	4.1	35.7	13.7	1.6	-0.1	117.5	-	Sa.	
-	-	-	65928	ⅢbL	完形	71.5	6.0	36.6	-1.2	26.5	4.5	2.0	0.3	82.5	○	Sa.	
-	-	-	65875	ⅢbL	完形	75.7	10.2	25.5	-12.3	24.6	2.6	3.0	1.3	73.0	-	Sa.	
-	-	-	65693	ⅢbL	完形	101.9	36.4	42.3	4.5	23.4	1.4	2.4	0.7	136.0	-	Sa.	
-	-	-	65914	ⅢbL	完形	105.3	39.8	54.1	16.3	35.1	13.1	1.9	0.2	320.0	-	Sa.	
-	-	ⅢS1415	65874	ⅢbL	完形	104.0	38.5	94.7	56.9	35.5	13.5	1.1	-0.6	525.0	○	Sa.	他1点
-	-	-	65938	ⅢbL	完形	113.5	48.0	52.5	14.7	30.3	8.3	2.2	0.5	225.0	○	Sa.	
-	-	-	65937	ⅢbL	完形	115.7	50.2	58.5	20.7	40.3	18.3	2.0	0.3	330.0	○	Sa.	
-	-	-	65871	ⅢbL	完形	162.0	96.5	91.1	53.3	33.0	11.0	1.8	0.1	890.0	-	Sa.	
平均						65.7		39.0		22.0		1.7		142.6			
														総点数	126点	※完形	22点

で、下面に観察できる放射状と縁辺を廻る列点文は、沈線の有無の違いはあるが、集中区 30 出土のものと同様構成が同じである。4 は表裏両面と側縁が使用されたたたき石。5 は側縁に加工痕がみられる礫。6 は表裏両面に敲打痕と滑沢面が形成された礫である。7 は刀子、8・9 は共に刀子茎片でいずれも基部断面は方形である。10～14 はⅢF-189 の南西側で比較的密集して出土したもので、いずれも用途不明な鉄片である。10 は一端が潰れて歪んだ板状のもの。11～14 は棒状のもので、11 は潰れが、12・14 では溝状の窪みが認められる。ⅢF-189 土壌サンプル中から得られた板状鉄片と共に、鉄器生産に関わる遺物の可能性がある。15・16 はⅢF-189 の土壌サンプル中より検出した骨角器で、15 はシカ中手・中足骨を素材とした中柄片、16 は糸巻き状の製品で、長さは 14 mm を測り、軸の両端が太く加工され杵状を呈している。断面は円形で、軸部分で 1.5 mm、両端部で 3 mm の径を測る。

集中区 32 (図Ⅲ-26・27 図版 31-1~8)

位置：W・X-30・31区 規模：950×750cm

関連遺構：土坑 ⅢP-31 焼土 ⅢF-186・188 土器集中 ⅢPB-33・34

確認・調査：W・X-30・31区のⅢb層調査時に焼土2カ所と土器集中2カ所を検出した。それぞれ関連する遺構と判断したため、検出状態の撮影を行った後に個々の記録を作成した。遺物取り上げ後、Ⅲc上面まで掘削が進んだ際、W-31区でⅢb層の円形の落込みを検出した。半截した結果底面が平らでほぼ垂直に壁面が立ち上がる土坑であることを確認したため、ⅢP-31として設定した。平成17年度に調査したⅢP-10と類似する形態をしていたため、堆積状態の記録後、残り半分を掘削する際、坑底直上の土壌サンプルを採取し、花粉分析を委託することとした。サンプル採取後完掘状態の記録を作成し、調査を終了した。

土坑(図Ⅲ-27)：ⅢP-31は開口部での径64cmを測る円形プランの土坑で、確認面からの深さは34cmであった。堆積土はⅢc主体土で構成され、壁面の崩落による自然堆積土と考えられる。この内、最下位に堆積する7層は若干粘性のある土であった。花粉分析用サンプルとして、6層下位と7層からサンプルを採取しており、7層中から花粉・孢子が検出された。詳細は第七章第6節を参照されたい。

焼土(図Ⅲ-26)：ⅢF-186・188共に焼骨片を伴う焼土である。ⅢF-186は焼土層中に焼骨片が混入し、焼土下位にも焼骨片を含むⅢc主体土が堆積しているため、掘り返されながら使用された焼土と判断した。ⅢF-188も地山被熱層は小規模で、大半は焼土粒主体の焼土であったことから、攪拌されながら使用された可能性が高い。土壌サンプルからはⅢF-186ではコイ科の骨が、ⅢF-188では哺乳綱の骨が含まれていた。またⅢF-186からはキビの炭化種子も得ている。

土器集中(図Ⅲ-26)：ⅢPB-33は21点の土器片で構成される土器集中で、集中区34のⅢPB-35との間で接合関係にある。主体がⅢPB-35であるため出土遺物については集中区34の項にて記載する。ⅢPB-34は86×64cmの範囲に広がる土器集中で、SP136個体片による38点の土器片で構成されている。細片化が著しく接合し得たのは底部のみであった。

出土遺物(図Ⅲ-27)：1はⅢPB-34で出土した甕の底部片で内外面共にナゲ調整が行われている。

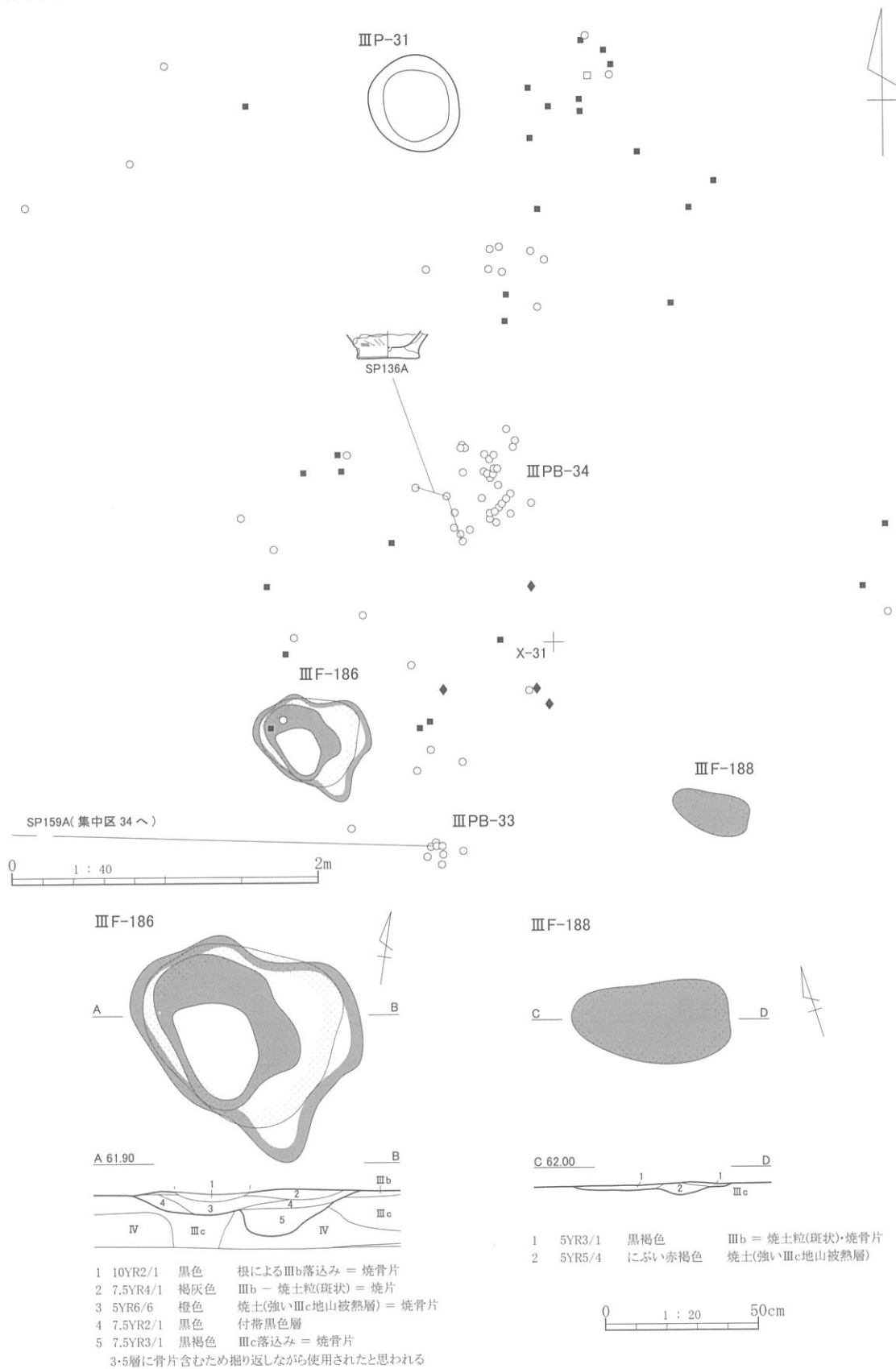
表Ⅲ-37 集中区32土坑属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	調査面長短比	坑底面長短比	出土遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸					
Ⅲ-27	31-7・8	ⅢP-31	W-31	Ⅲ	N-20° W	64	60	48	42	34	1.07	1.14	—	

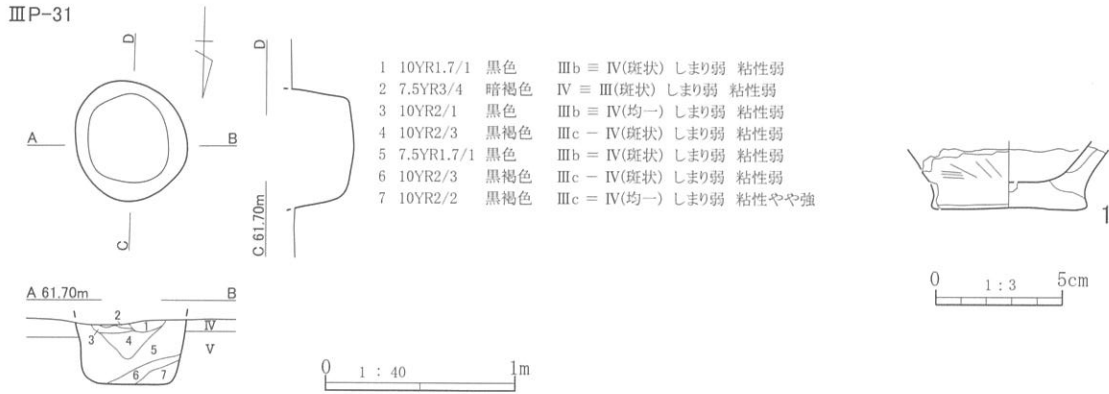
表Ⅲ-38 集中区32焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-26	31-2・3	ⅢF-186	X-31	ⅢbL	不整形	78	60	15	骨	
Ⅲ-26	31-2・4	ⅢF-188	X-30	ⅢbL	長楕円形	52	28	4	骨	

集中区 32



図Ⅲ-26 集中区 32 平面図及び関連遺構断面図



図Ⅲ-27 集中区 32 関連遺構及び出土遺物

表Ⅲ-39 集中区32出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-26-1	111-1	SP136A	ⅣB	63627.63630.63631他	ⅢbL	ⅢPB-34	W-031	甕	底部	ナデ	ナデ	4	

集中区 33 (図Ⅲ-28・29 図版 32-1~4)

位置：U~W-31~34 区 規模：1,350×1,000cm

関連遺構：土坑 ⅢP-32 焼土 ⅢF-190 炭化物集中 ⅢCB-88
礫集中 ⅢSB-44

確認・調査：V-32 区のⅢb 層調査時に、広範囲に及ぶ焼骨片の広がりを確認した。慎重に掘削を進めたところ、下位で焼土を検出したためⅢF-190 とした。また周囲では礫を中心に多数の遺物が出土しており、特にⅢF-190 の西側で棒状礫がまとまって出土したことから、ⅢSB-44 とし、出土状態の記録を作成した。遺物取り上げ後、周囲の掘削をⅢc まで進めた際、ⅢF-190 の南東方向で小規模なⅢb の落込みを確認した。半截したところ、底面が水平で壁面が鉢状に開く小型の土坑であることを確認したため、ⅢP-32 とした。エレベーションと平面形の記録のみを作成し、調査を終了した。集中区としての設定は報告書作成段階において行っている。

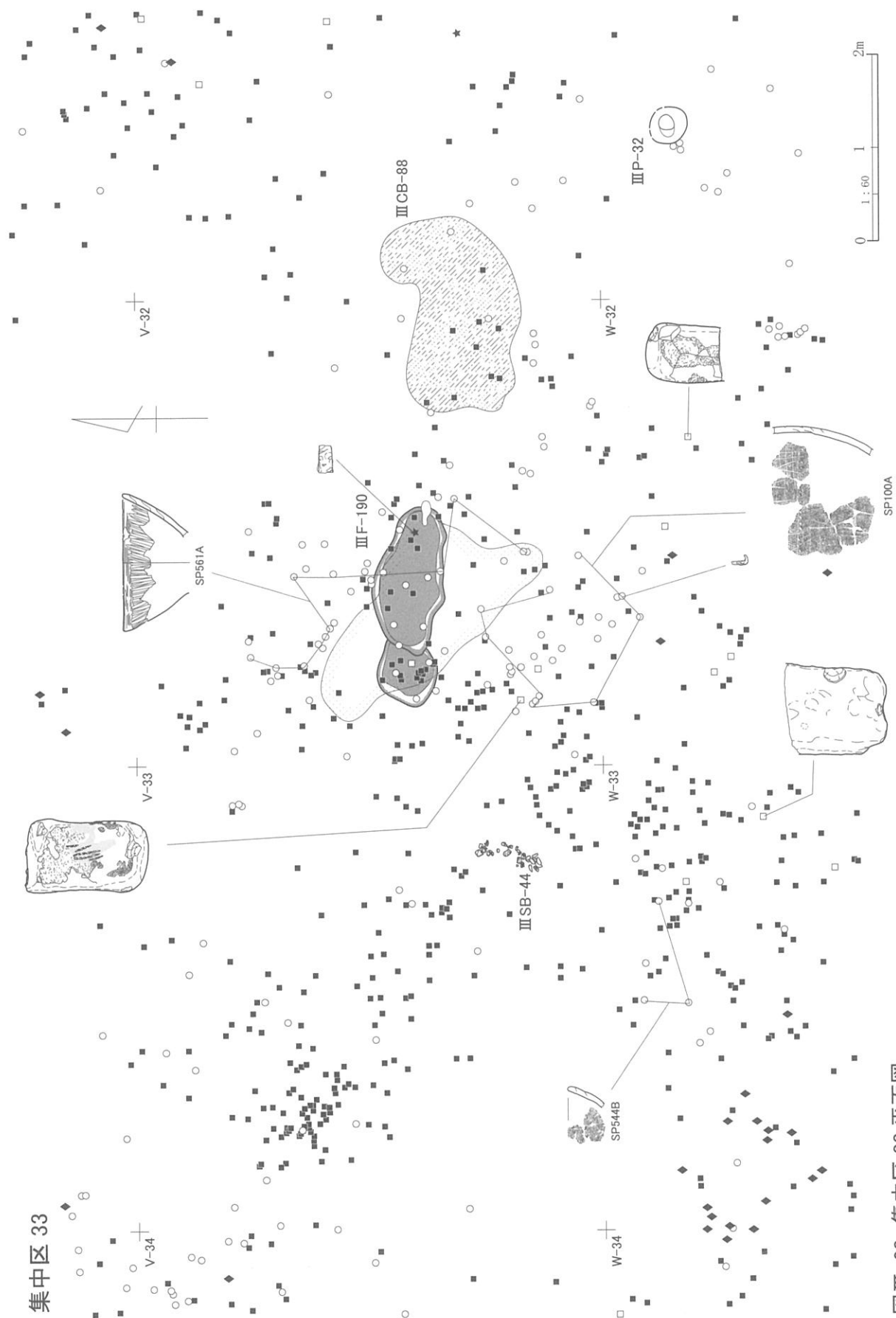
土坑(図Ⅲ-29)：ⅢP-32 は開口部で 40 cm の規模を測り、本遺跡検出例の中では比較的小型の土坑である。坑底面は径 16cm で、西側はゆるやかに立ち上がる。

焼土(図Ⅲ-29)：ⅢF-190 は長軸 212 cm を測る規模の大きい焼土である。断面と平面形の観察から、2 つの焼土が重なって形成されたものと判断した。上位に焼骨片を伴い燃焼面は浅く窪み、直上で被熱礫が出土している。また厚さ 6 cm の良好な焼土層が形成されていた。土壌サンプルからはウグイ、サケ属、哺乳綱の骨と、キビ、クルミ属をはじめとする炭化種子が得られた。

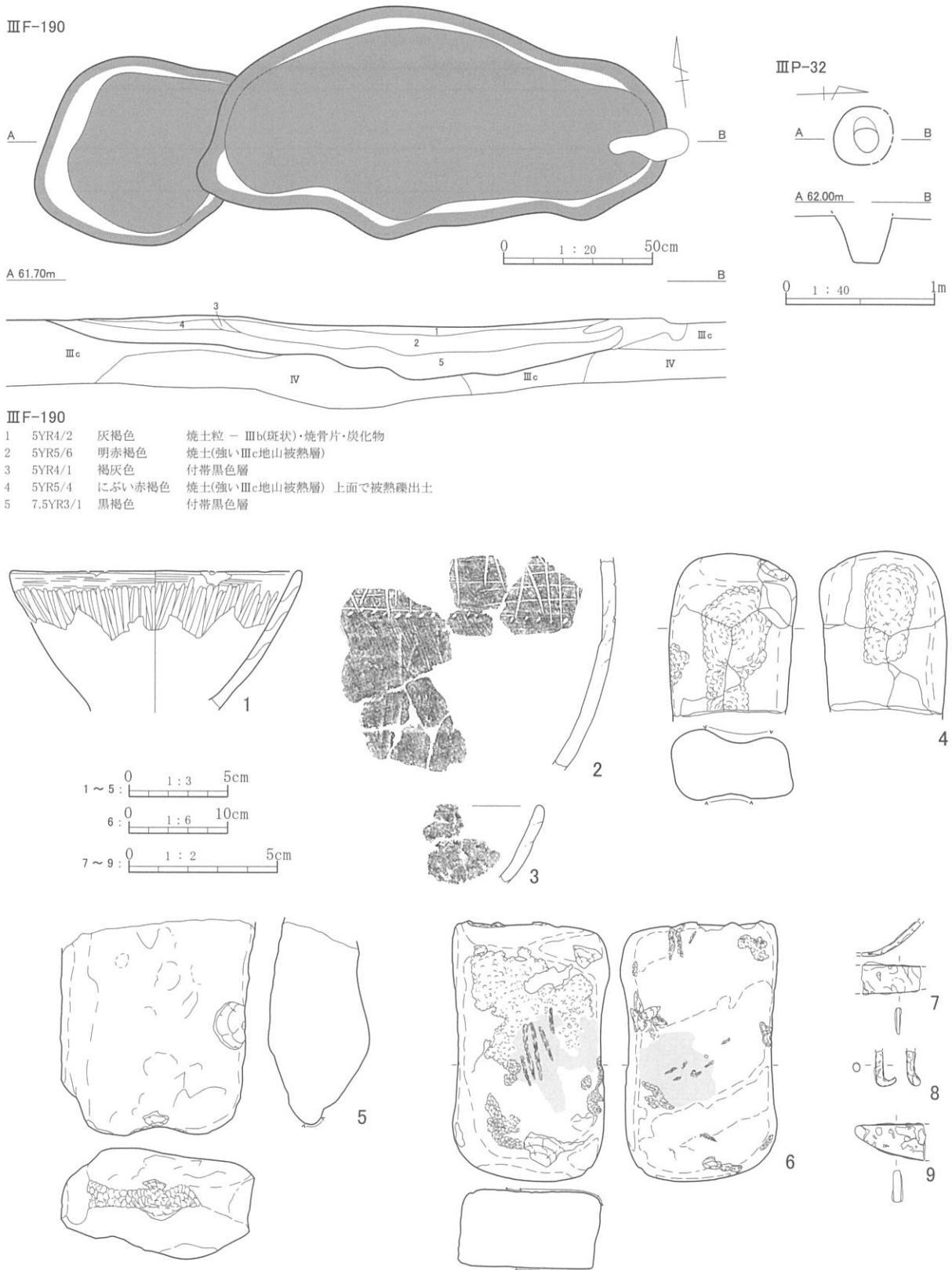
炭化物集中(図Ⅲ-28)：ⅢCB-88 はⅢF-190 の東側で検出し、長さ 220 cm、幅 144 cm の範囲に広がる炭化物集中である。含まれる炭化物は炭化材が中心で、土壌サンプルからも少量のブドウ科種子以外に目立った資料は得られていない。

礫集中(図Ⅲ-28)：ⅢSB-44 は 72×30 cm の範囲に広がる礫集中である。棒状礫を中心に 37 点の礫が出土した。完形個体は 10 点で、棒状礫の集中としては平均的な欠損率である。

出土遺物(図Ⅲ-29)：1 は坏の口縁~体部片で、内外面共にミガキ調整が行われている。破片の一部はⅢF-190 の直上で出土した。2 は甕の胴部片で横走沈線に斜位の沈線を重ね、文様帯下縁に列



図Ⅲ-28 集中区 33 平面図



図III-29 集中区 33 関連遺構及び出土遺物

表Ⅲ-40 集中区33土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸					
Ⅲ-29	—	ⅢP-32	W-31	Ⅲ	N-31° W	40	40	16	16	32	1.00	1.00	—	

表Ⅲ-41 集中区33焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-28・29	32-1~3	ⅢF-190a	V-32	ⅢbL	長楕円形	160	78	18	骨	
Ⅲ-28・29	32-1~3	ⅢF-190b	V-32	ⅢbL	—	(82)	68	10	骨	

表Ⅲ-42 集中区33炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
Ⅲ-28	—	ⅢCB-88	V-31・32	ⅢbL	不整形	220	144	

表Ⅲ-43 集中区33出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-29-1	111-2	SP561A	VIC	65369, 65378, 65417他	ⅢbL	ⅢF-190	V-32	坏	口縁~ 体部	ナデ	ナデ	9	
				67520	ⅢcU	—	V-32			ミガキ	ミガキ	1	
Ⅲ-29-2	111-3	SP100A	VIB2a	65355, 65405, 65411他	ⅢbL	ⅢF-190	V-32	甕	胴部	ハケメ	ハケメ ナデ	8	
Ⅲ-29-3	111-4	SP544B	VIC	63371, 63377, 63378	ⅢbL	—	W-33	坏	口縁	ハケメ ナデ	ナデ	3	

表Ⅲ-44 集中区33出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-29-4	111-6	—	64293	たたき石	IV	ⅢbL	—	W-32	(82.0)	64.0	35.0	260.0	Sa.	
Ⅲ-29-5	111-9	—	66405	たたき石	IV	ⅢbL	—	W-33	109.0	97.0	52.0	660.0	Sa.	
Ⅲ-29-6	111-10	—	66401	滑沢面と 敲打痕のある礫	II	ⅢbL	—	V-32	264.0	158.0	79.0	6200.0	Sa.	
Ⅲ-29-7	111-11	—	65421	刀子片	IP	ⅢbL	ⅢF-190	V-32	(20.0)	11.0	2.5	1.8	Ir.	
Ⅲ-29-8	111-12	—	66452	釣針?	IP	ⅢbL	—	W-32	(12.0)	7.0	3.0	0.3	Ir.	
Ⅲ-29-9	111-13	—	79396	板状製品	IP	ⅢbL	ⅢF-190	V-32	(24.0)	13.0	4.0	2.0	Ir.	
—	111-8	—	66394	たたき石	IV	ⅢbL	—	W-32	(75.0)	62.0	34.0	225.0	Sa.	
—	111-7	—	63363	たたき石	IV	ⅢbL	—	W-33	(98.0)	48.0	37.0	265.0	Sa.	
—	—	—	66400	たたき石	I b1	ⅢbL	—	V-32	(132.6)	61.3	48.8	470.0	Sa.	
—	—	—	66429	砥石	—	2	ⅢF-190	V-32	(65.0)	(65.0)	18.4	100.0	Sa.	

表Ⅲ-45 ⅢSB-44属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
—	—	—	67008	ⅢbL	完形	59.9	-6.4	41.4	5.6	20.4	-3.2	1.4	-0.5	73.5	—	Sa.		
—	—	—	57606	ⅢbL	略完形	62.0	-4.3	43.8	8.0	24.9	1.3	1.4	-0.5	90.6	—	Sa.		
—	—	—	64999	ⅢbL	完形	62.9	-3.4	44.2	8.4	16.1	-7.5	1.4	-0.5	66.5	—	Sa.		
—	—	—	67001	ⅢbL	完形	73.0	6.7	29.5	-6.3	22.7	-0.9	2.5	0.5	79.1	—	Sa.		
—	111-14	—	67002	ⅢbL	完形	76.8	10.5	52.2	16.4	24.3	0.7	1.5	-0.5	110.4	—	Sa.		
—		—	57604	ⅢbL	完形	80.7	14.4	43.8	8.0	24.9	1.3	1.8	-0.1	131.5	—	Sa.		
—		—	65000	ⅢbL	完形	81.3	15.0	32.8	-3.0	29.2	5.6	2.5	0.5	106.3	—	Sa.		
—		—	67004	ⅢbL	完形	85.1	18.8	29.7	-6.1	22.7	-0.9	2.9	0.9	90.4	—	Sa.		
—		—	67005	ⅢbL	完形	84.7	18.4	44.4	8.6	28.8	5.2	1.9	-0.1	123.1	—	Sa.		
—		—	67168	ⅢbL	完形	94.6	28.3	41.8	6.0	22.0	-1.6	2.3	0.3	117.7	—	Sa.		
平均							76.1		40.4		23.6		1.96		98.9			

総点数 37点 ※完形 10点

点が廻る。内外面共にハケメ調整痕が残る。3 は坏の口縁部片で、器表面の調整は粗雑で凹凸が顕著である。4・5 はたたき石で、4 は表裏両面が使用され、敲打痕により顕著な窪みが形成されている。5 は厚味のある礫を素材とし、稜を使用している。6 は敲打痕と滑沢面が形成された礫で、角柱状礫を素材とし、表裏両面が使用されている。7～9 は鉄製品で、7 は湾曲した刀子片、8 は釣針状の製品、9 は板状の鉄片である。

集中区 34 (図Ⅲ-30～32 図版 32-5～8)

位置：W～Y-32～34 区 規模：1,300×700cm

関連遺構：焼土 ⅢF-185 焼骨片集中 ⅢBB-25 土器集中 ⅢPB-35
礫集中 ⅢSB-40

確認・調査：X-32 区の調査中、広範囲に広がる焼骨片の分布を確認した(ⅢBB-25)。周囲を精査したところ下位から焼土を検出したため、平面形及び断面の記録を作成した。焼土の調査終了後、Ⅲb 層調査が X-33 区に及んだ際、複数の土器集中と礫集中を検出した。この場所では下位の続縄文時代の遺物も多数浮上がっていたため、遺構の所属時期を慎重に判断した結果、ⅢPB-35 とⅢSB-40 を擦文文化期に属する集中遺物として設定した。集中区の設定は報告書作成段階において行った。

焼土(図Ⅲ-31)：ⅢF-185 は検出時長軸 170 cm を測る規模の大きい焼土であった。しかし平面形・断面の観察を行った結果、2 つの焼土が重なったものであると判断した。周囲には焼骨片が広範囲に分布しており、ⅢBB-25 として設定したが、この焼土に伴う骨片が浮遊し拡散したものと考えられる。焼土層の厚さは最大で 6 cm を測り、良好に形成されていた。土壌サンプルからはシカ、コイ科、サケ属の骨と、キビ、クルミ属をはじめとする炭化種子が得られた。

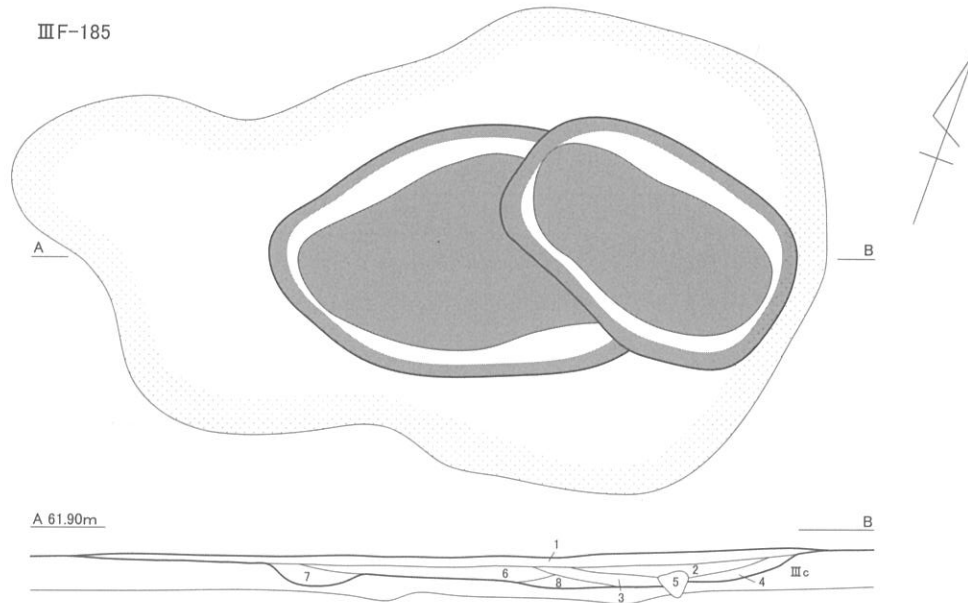
土器集中(図Ⅲ-31)：ⅢPB-35 は 64×40 cm の範囲で出土し、61 点の土器片で構成される。1 の SP159 個体片の内、主として胴部上半の破片で構成されている。

礫集中(図Ⅲ-31)：ⅢSB-40 は 60×25 cm の範囲で出土した礫集中である。22 点の礫片が出土しているが、構成礫の主体である石英の破片はすべて同一個体が割れたもので、接合した結果長軸約 190 mm の石英塊となった。個々の破片縁辺に摩滅痕等は認められず、火打石として利用の可能性は低いと思われる。

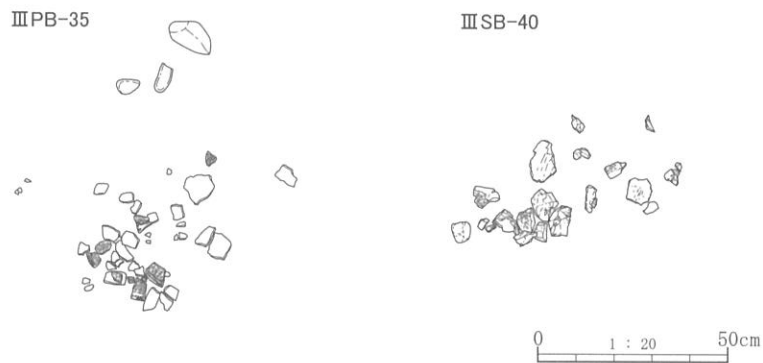
出土遺物(図Ⅲ-32)：1 はⅢPB-35 で出土したⅦB3a の甕で、集中区 32 のⅢPB-33 出土土器片と接合する。横走沈線の上に 2 条一対の縦位の沈線を重ね、その間に鋸歯状文を施文している。文様帯下縁にも 2 条一対の沈線による鋸歯文が加えられている。胴部外面は細かなハケメ調整が施され部分的にミガキ調整が加えられている。内面はミガキ調整の後、黒色処理が行われている。2 はⅦC2 の坏で、口縁部に段状沈線が廻る。3 は甕口縁部片で、口唇部は丸みを帯び、内外面共ミガキ調整が行われ、内面は黒色処理が施されている。4 は集中区平面図上からはやや西に外れた位置で出土した甕胴部片で、深く明瞭な沈線で文様が描かれている。遺跡内で出土している他の個体に比べ薄手に成形されている。5 は坏の底部片と思われる資料で、上げ底に成形されている。6 は坏口縁～体部片で、内外面共ミガキ調整が加えられているが、整形は粗雑で、器表面の凹凸が顕著である。また胎土にも径 1 mm 程の小礫が目立つ。7～9 はたたき石で、いずれも礫の平坦部が使用され、9 では側縁も使用されている。10 は集中区平面図からやや北西に外れた位置で出土した鉄製品で、刀子の茎である。断面の一部が肥厚し成形の粗雑さが把握できる。



図III-30 集中区 34 平面図



- ⅢF-185
- | | | | |
|---|----------|------|------------------------|
| 1 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ⅲb - 焼土粒(斑状)・灰・焼骨片・炭化物 |
| 2 | 5YR6/6 | 橙色 | 強く赤化した焼土 |
| 3 | 5YR4/1 | 褐灰色 | 焼土(強いⅢc地山被熱層) 焼土① |
| 4 | 5YR3/1 | 黒褐色 | 付帯黒色層 焼土① |
| 5 | 5YR5/2 | 灰褐色 | 根による焼土落込み |
| 6 | 5YR5/6 | 明赤褐色 | 焼土(強いⅢc地山被熱層) 焼土② |
| 7 | 5YR3/1 | 黒褐色 | 付帯黒色層 焼土② |
| 8 | 5YR2/1 | 黒褐色 | 付帯黒色層 焼土② |
- ※ 焼土①(新)と焼土②(旧)が重なる



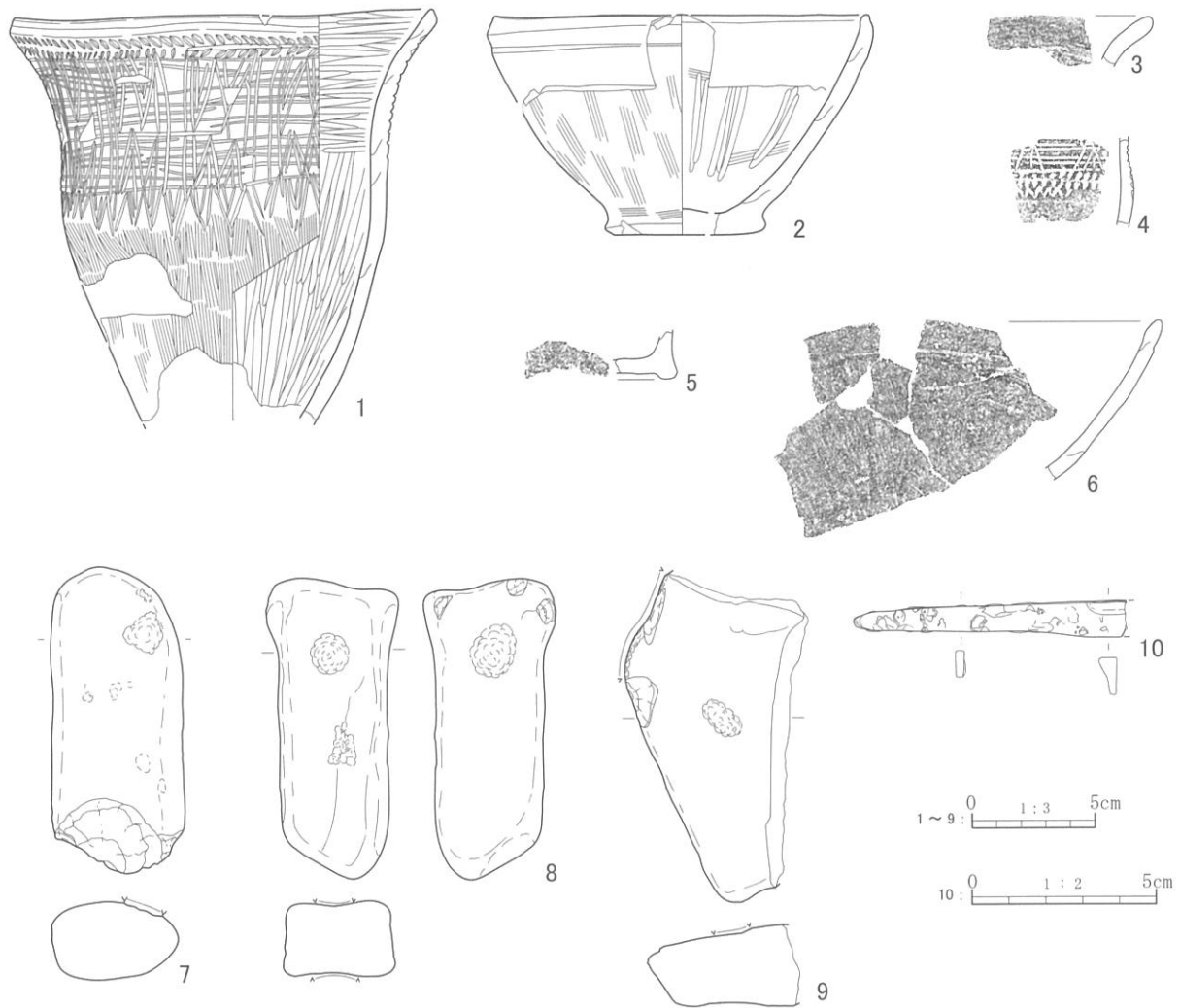
図Ⅲ-31 集中区 34 関連遺構

表Ⅲ-46 集中区34焼土属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-31	32-5・6	ⅢF-185a	X-32	ⅢbL	楕円形	79	53	7	骨	
Ⅲ-31	32-5・6	ⅢF-185b	X-32	ⅢbL	楕円形	(96)	66	8	骨	

表Ⅲ-47 集中区34焼骨片集中属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備考
						長軸	短軸				
Ⅲ-30	—	ⅢBB-25	X-32・33	ⅢbL	不整形	462	151	—	被熱	ⅢF-185	



図Ⅲ-32 集中区 34 出土遺物

表Ⅲ-48 集中区34出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-32-1	112-1	SP159A	VII B3a	63650.63652.63654他	ⅢbL	ⅢPB-33	X-31	甕	口縁～ 胴部	ミガキ	ハケメ	10	
				69060.69086.69121他	ⅢbL	ⅢPB-35	X-33					43	
Ⅲ-32-2	112-2	SP546A	VII C2	64006.64011.65818他	ⅢbL	-	X-32	坏	口縁～ 台部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	10	
				65118.75022	ⅢbL		X-33					2	
				67049.67051.75019他	ⅢbL		Y-33					4	
Ⅲ-32-3	112-3	SP125A	VII B	63989	ⅢbL	-	X-32	甕	口縁	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	1	
Ⅲ-32-4	112-4	SP123A	VII B3a	67097	Ⅲc	-	X-34	甕	胴部	ミガキ	ナデ	1	
Ⅲ-32-5	112-5	SP120A	VII B?	65212	ⅢbL	-	X-34	甕	底部	ナデ	ナデ	1	
Ⅲ-32-6	112-6	SP153A	VII C	65209.65216.67095他	ⅢbL	-	X-34	甕	口縁～ 体部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	5	

表Ⅲ-49 集中区34出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-32-7	112-7	—	73467	たたき石	IB2	ⅢbL	—	X-33	125.1	54.7	31.7	315.0	Sa.	
Ⅲ-32-8	112-8	—	63980	たたき石	I b1	ⅢbL	—	X-32	122.0	53.0	30.0	305.0	Sa.	
Ⅲ-32-9	112-9	—	65044	たたき石	IV	ⅢbL	—	X-33	(134.0)	(75.0)	33.0	330.0	Sa.	
Ⅲ-32-10	112-17	—	63139	刀子茎	—	ⅢbL	—	W-34	(74.0)	10.0	5.0	7.6	Sa.	
—	112-10	—	65801	たたき石	IV	ⅢbL	—	X-32	(77.0)	50.0	(15.0)	90.0	Sa.	
—	112-12	—	65093	たたき石	IV	ⅢbL	—	X-33	(64.0)	60.0	(27.0)	160.0	Sa.	
—	112-13	—	65804	加工痕のある礫	—	ⅢbL	—	X-32	(59.0)	(55.0)	28.0	120.0	Sa.	
—	112-14	—	68812	加工痕のある礫	—	ⅢbL	—	X-34	110.0	74.0	28.0	270.0	Sa.	
—	112-15	—	65778	たたき石	IV	ⅢbL	—	Y-32	(103.0)	(71.0)	29.0	360.0	Sa.	
—	112-16	—	68186	台石	—	ⅢbL	—	X-33	(125.0)	127.0	52.0	1500.0	Sa.	
—	—	—	65783	加工痕のある礫	—	ⅢbL	—	Y-32	89.4	(56.5)	22.7	140.0	Sa.	
—	—	—	65035	たたき石	IV	ⅢbL	—	Y-33	(59.0)	55.0	(20.0)	90.0	Sa.	
—	—	—	65144	たたき石	IV	ⅢbL	—	X-34	(59.8)	50.4	34.5	140.0	Sa.	

表Ⅲ-50 ⅢSB-40属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
—	112-18	—	66389	ⅢbL	完形	49.1	-186.1	31.7	-122.2	35.8	-57.4	1.5	0.0	102.7		Sa	
—		ⅢS1401	66381	ⅢbL	欠損	186.0	-49.1	122.2	-31.7	57.4	-35.8	1.5	0.0	1336.0		Qu.	他12点
						235.1		153.9		93.2		1.5		1438.7			
													総点数	21点	※完形	1点	

集中区 35 (図Ⅲ-33~40 図版 33~36)

位置：T~W-34~36区 規模：1,500×1,300cm

関連遺構：土坑 ⅢP-40・41・44・45 焼土 ⅢF-192・216・218・219・224

杭跡 ⅢKP-139 獣骨集中 ⅢBB-37・41 土器集中 ⅢPB-42・52・54

礫集中 ⅢSB-47・53

調査・確認：U・V-35区のⅢb層調査中、同一軸線上に並列した2カ所の長大な焼土と(ⅢF-216・224)、その周囲で土器集中1カ所(ⅢPB-52)、礫集中1カ所(ⅢSB-53)を検出した。焼土と集中遺物の位置関係がアイヌ文化期の住居址と良く似ていたことから関連性の高いものと判断し、検出状態の撮影を行った。さらに周囲を同一面まで掘削したところ、他に3カ所の焼土(ⅢF-192・218・219)と2カ所の土器集中(ⅢPB-42・54)、1カ所の礫集中(ⅢSB-47)を検出した。先に検出した遺構と共に個々の記録を作成し、遺物の取り上げを行った。調査が進みⅢc層上面まで掘削が進んだ際、ⅢF-216・224の西側で円形のⅢbの落込みを4カ所確認した。半截した結果いずれも円形の土坑と判断し、堆積状態、平面形の記録を行い調査を終えた。集中区としての設定は、検出時に関連性のあるものとして把握した遺構群に、調査進行過程で検出した他の遺構を合わせ、報告書作成段階で設定した。

土坑(図Ⅲ-34)：ⅢP-40・41・44・45は開口部で約60cm、確認面からの深さ50cm前後の規模を測る円形プランの土坑である。形態は類似するが、堆積土が若干異なり、ⅢP-40・44・45は坑底面直上に壁面の崩落土が堆積し、ある程度埋没してから人為的な埋め戻しが行われているが、ⅢP-41では坑底面直上に埋土が認められる。

焼土(図Ⅲ-35)：ⅢF-216・224 は並列した配置で検出した。共に長さ 160 cm以上、層厚 10cm 以上の規模を測る長大な焼土である。上位に焼骨片を伴い、燃焼面は浅く窪む。ⅢF-192・219 は集中区の南東部に、ⅢF-218 は北東部に位置し、いずれも焼骨片を伴っている。ⅢF-218 は広範囲に広がる焼骨片集中ⅢBB-37 と重なることから、ⅢBB-37 の骨片はⅢF-218 で形成されたものと考えられる。土壌サンプルからはいずれもコイ科、サケ属、哺乳綱の骨を得ているが、ⅢF-216 ではイトウの骨も認められた。また炭化種子ではⅢF-216・224 のみキビを伴っている。同じ集中区の中でもこの 2 ヶ所の焼土は特異な様相を呈している。

杭跡(図Ⅲ-35)：ⅢKP-139 はⅢF-224 の西側約 150 cmの位置で検出した。確認面からの深さは約 30 cmあり、VI層まで達した杭跡である。下端部に向けて細くなるため、打込みによって立てられたものと考えられる。上位の堆積土はⅢc 主体土であった。

獣骨集中(図Ⅲ-37)：ⅢBB-41 はⅢF-216 の北側約 4m の位置で検出した。ⅢPB-52 と近接し、その土器片や礫と共に未被熱の獣骨がまとまって出土した。遺構下位に古い風倒木痕が位置しており、これらの獣骨はこの風倒木の揚げ土を意識して集められたものと考えられる。第Ⅶ章第 4 節の報告によれば、構成する獣骨はシカの角、上顎骨及びその臼歯が主体であり、下顎骨を伴わない角のついたオスの頭蓋骨が多かったとされている。特定部位の集中であるため、「送り」的的行為が行われた場所である可能性が高い。ただし下顎骨を伴わないことから既に白骨化した頭蓋骨が集められていたと考えられ、Ⅱ章で報告したアイヌ文化期の「送り場」とは様相が異なる。

土器集中(図Ⅲ-36)：ⅢPB-52 はⅢBB-41 に隣接して出土した土器集中で、70×30 cmの範囲に 645 点の土器片が密集して出土した。構成する土器片には複数個体が含まれ、SP142・143・144・145・539・564 の 6 個体分がある。ⅢBB-41 と関連し、「送り」的的行為の中で形成された土器集中の可能性はある。ⅢPB-42 はⅢF-216 の東側約 4mの位置で出土した。90×50 cmの範囲に SP033 の個体片で構成される 54 点の土器片が出土した。ⅢPB-54 はⅢF-224 の南側約 3m の位置で出土した。80×40 cmの範囲に SP148・156 の個体片で構成される 75 点の土器片が出土した。これら 3 ヶ所の土器集中の内、ⅢPB-52 出土土器片は、ⅢF-216・224 との関連が最も高いと想定されるⅢSB-53 出土土器片との間で接合関係をもつ。一方ⅢPB-42・54 は同一個体片が土器集中以外の広範囲で出土しているものの、ⅢSB-53 出土土器片とは接合していない。また出土遺物の項で記載しているように、構成している個体は、ⅢPB-52 とⅢPB-42・54 とで時期差があると考えられる。従って近接して検出したが、ⅢF-216・224 と直接関わる土器集中はⅢPB-52 のみと考えられる。またⅢPB-52 の土器片取り上げ中に、下位よりシカの上顎歯列も検出している。

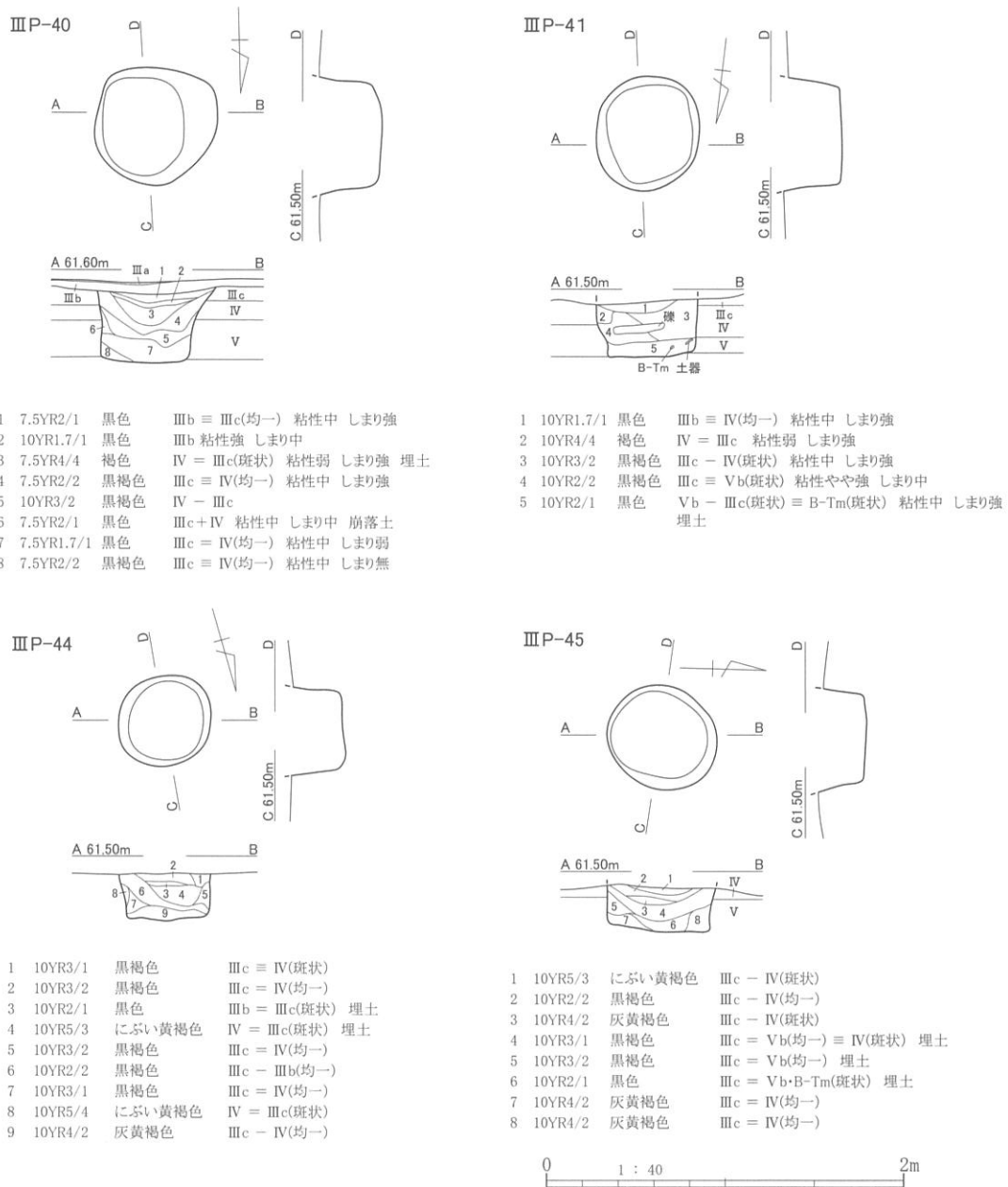
礫集中(図Ⅲ-36)：ⅢSB-53 はⅢF-216 の北側に隣接して検出した棒状礫の集中である。100×80 cmの範囲から計 87 点の礫が出土した。完形個体は 21 点で欠損率がやや高い。ⅢSB-47 はⅢF-224 の南側で検出した。不定形でやや大きめの礫で構成され、欠損率も非常に高い。ⅢSB-53 はⅢF-216・224 との関連性が高いと考えられるが、ⅢSB-47 はⅢPB-54 と同様時期の異なる礫集中の可能性が高い。

出土遺物(図Ⅲ-38~40)：1・2・3・9・10・13 はⅢPB-52 から出土したもので、1・2・3・13 はⅧB2a の甕、9・10 はⅧC2 の坏である。この 4 個体の甕はいずれも浅くやや不明瞭な沈線で文様が描かれており、胴部調整は内外面共にミガキが行われている。さらに 1・2 の内面は黒色処理が施されている。9 は集中区 3 出土土器片と接合している。4 はⅢF-224 の周囲で出土したⅧB2a の甕口縁～胴部片で、沈線は浅いが明瞭に引かれている。5 はⅢPB-42 で出土したⅧB3c の甕で、深く鋭利な工具で沈線が描

集中区 35



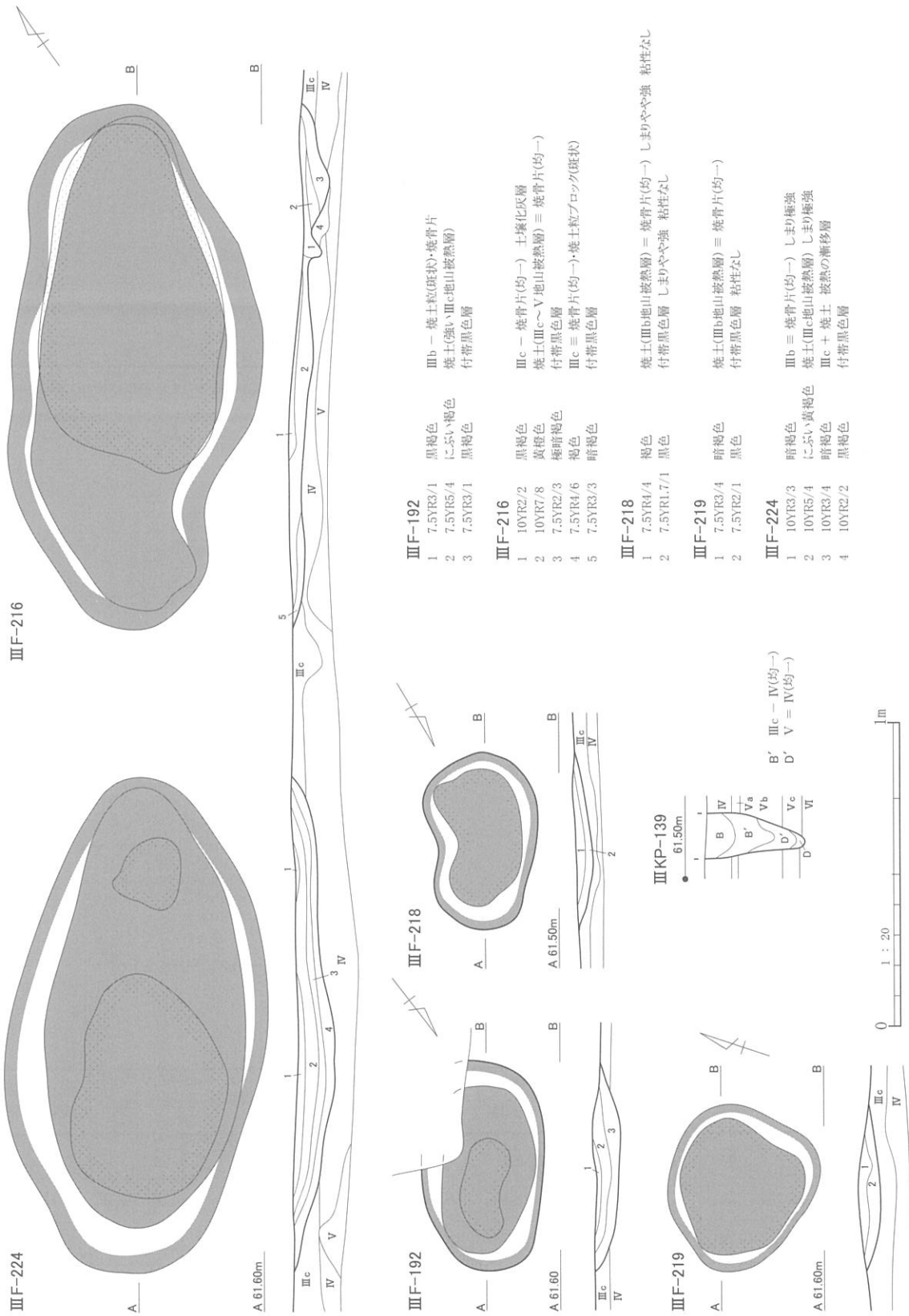
図III-33 集中区 35 平面図



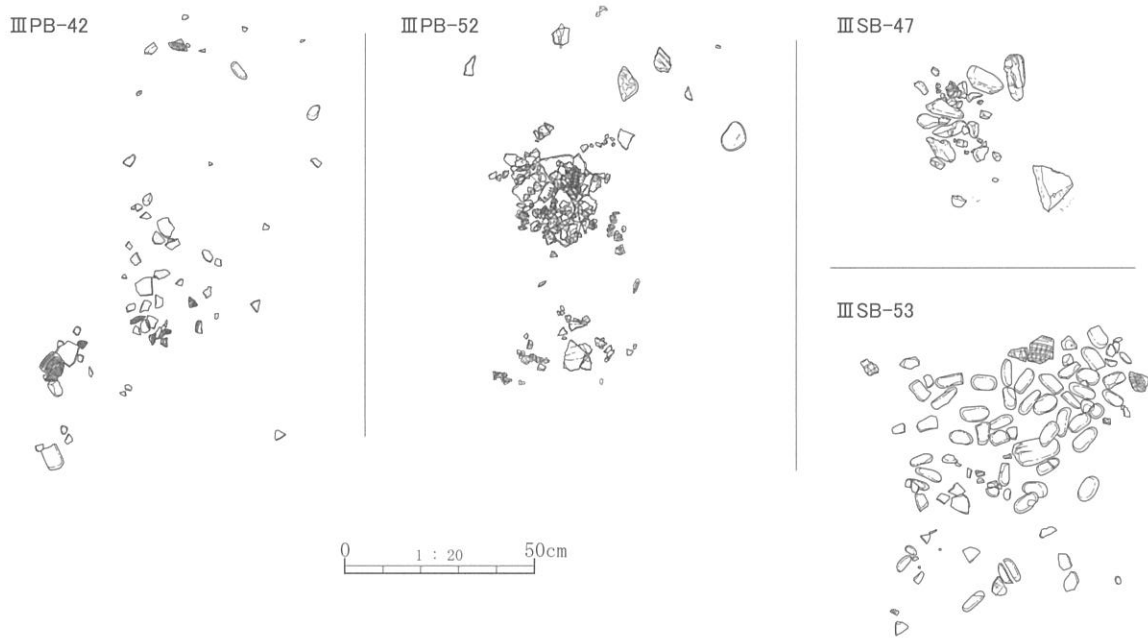
図Ⅲ-34 集中区 35 関連遺構(1)

表Ⅲ-51 集中区35土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/ 坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-34	35-1・2	ⅢP-40	V-35・36	Ⅲc	楕円形/ 楕円形	68	66	56	46	56	N-4° W	1.03	1.22	—	
Ⅲ-34	35-3・4	ⅢP-41	V-35・36	Ⅲc	楕円形/ 楕円形	64	58	58	54	52	N-24° E	1.10	1.07	土器片	
Ⅲ-34	35-5・6	ⅢP-44	V-36	IV	楕円形/ 楕円形	56	52	46	44	50	N-61° E	1.08	1.05	—	
Ⅲ-34	35-7・8	ⅢP-45	V-35	IV	楕円形/ 楕円形	64	56	56	48	46	N-3.5° E	1.14	1.17	—	



図III-35 集中区35 関連遺構 (2)



図III-36 集中区 35 関連遺構 (3)

表III-52 集中区35焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
III-35	36-1・2	III F-192	W-34	III bL	長楕円	69	40	8	骨	
III-35	33-2・4	III F-216	V-35	III bL	長楕円	174	86	10	骨	
III-35	36-3・4	III F-218	U-35	III bL	長楕円	58	38	6	骨	
III-35	36-5・6	III F-219	W-35	III bL	楕円形	55	50	7	骨	
III-35	33-3	III F-224	V-35	III bL	長楕円	164	87	12	骨	

表III-53 集中区35杭跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模 (cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
III-35	36-6	III KP-139	15	2	33	3°	打込み	

表III-54 集中区35獣骨集中属性表

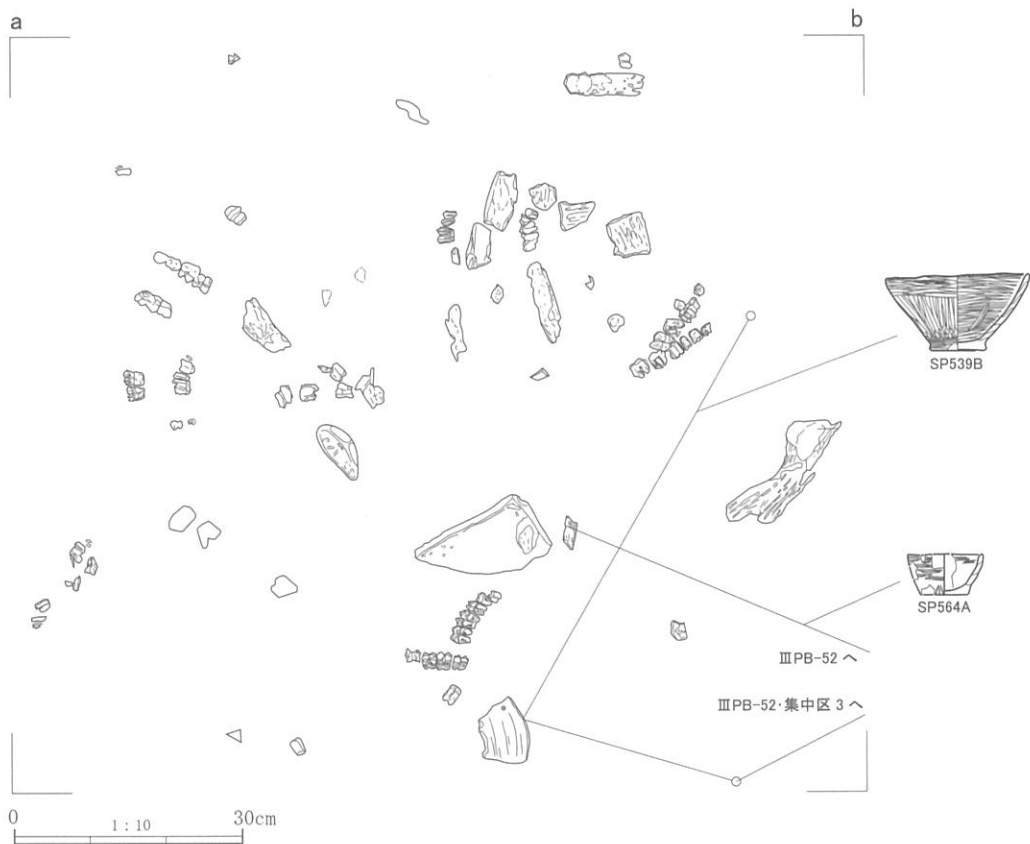
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
III-33	—	III BB-37	T・U-35	III bL	不整形	462	120	—	被熱	III F-218	
III-33	34-3~6	III BB-41	T・U-35	III bL	不整形	238	83	シカ上顎骨	—	III PB-52	

かれ、胴部外面はハケメ痕を残す。口縁部文様帯は隆帯上に刻みを廻らせ、口縁部形態は湾曲して立ち上がる。先のIII PB-52 出土土器よりも新しい時期の要素と思われる。6 はIII PB-54 出土のVII B3c の甕で、細く鋭利な工具で沈線が引かれ、胴部外面の調整は文様帯下位付近のみミガキが施されている。口縁部文様帯は細長い刻みを矢羽状に配置し、口縁部形態も5と同様立ち上がる。同じく新しい要素を伴っている。7 は小型の土器で、器壁は薄く、横位の沈線が廻る。8 は甕の底部片で、外面はケズリによる成形が行われたと思われ、器表面に面取の痕が残されているが、ナデ調整により砂粒の動きは明瞭ではない。11 は須恵器の壺で調査区全体に広く破片が散っていた。第VII章7節の胎土分析の結果、五所川原産と推定される。12 は土師器坏で内面は黒色処理が施されている。14・15・21 はVII B2a の甕で14・15の沈線は深く明瞭に引かれている。16 はVII B3a の甕片で細いが深く明瞭な沈線で文様が構成されている。17・18・20・23 はVII B3 で20・23は同一個体である。19 はVII B2 の口縁部片。22 はIII P-41 で出土した甕胴部片。24 はVII C の坏口縁部片である。

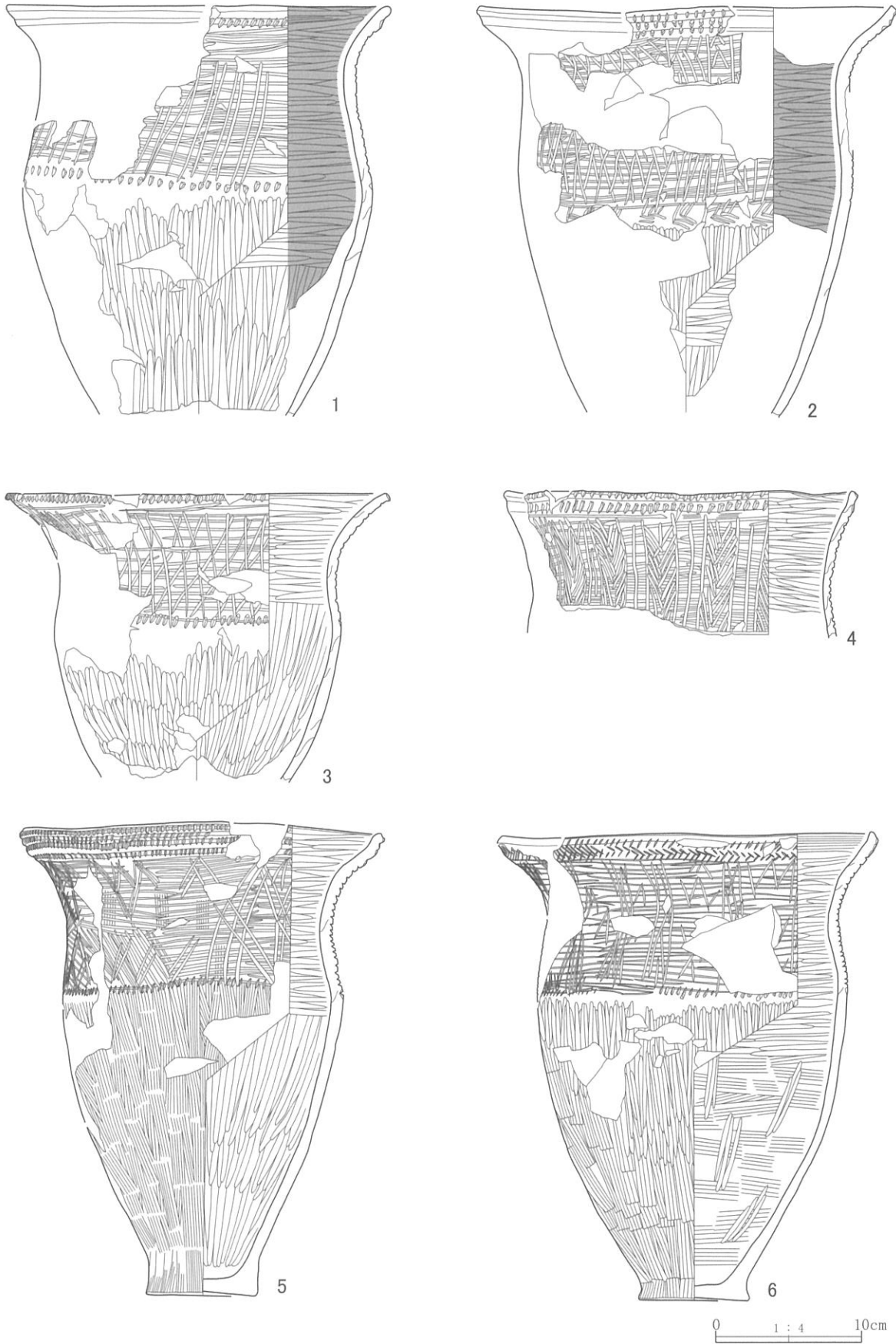
ⅢBB-41



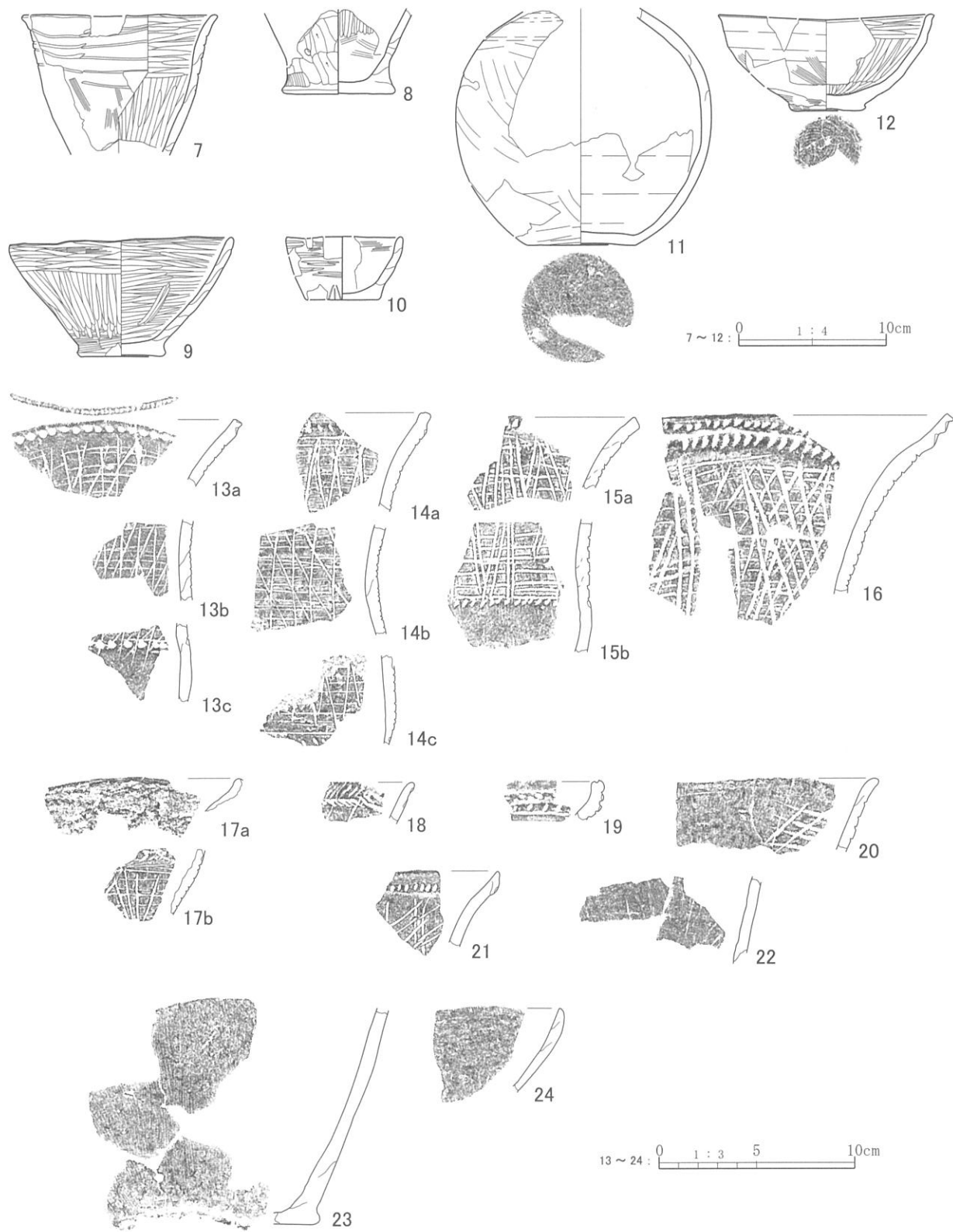
- | | | | | | |
|----------------|-----------------------------|-------------------|-------------|------------------|-----------------------|
| 1. 10YR2/2 黒褐色 | Ⅲb = Ta-d2.p
(上面一部・根による) | 10. 2.5Y2/1 黒色 | Ⅲc = IV(斑状) | 20. 2.5Y4/2 暗灰黄色 | Ⅲc |
| 2. 10YR2/2 黒褐色 | Ⅲb = B-Tm(斑状) | 11. 2.5Y2/1 黒色 | Ⅲc = IV(斑状) | 21. 2.5Y3/1 黒褐色 | V |
| 3. 10YR2/2 黒褐色 | Ⅲb = IV(均一) | 12. 2.5Y3/1 黒褐色 | Ⅲc = IV(斑状) | 22. 2.5Y2/1 黒色 | V = IV(斑状) |
| 4. 10YR3/1 黒褐色 | Ⅲc = IV(斑状) | 13. 2.5Y6/4 にぶい黄色 | IV = Ⅲc(均一) | 23. 2.5Y3/1 黒褐色 | V = IV(均一) |
| 5. 10YR3/2 黒褐色 | Ⅲc = IV(均一) | 14. 2.5Y5/4 黄褐色 | IV = Ⅲc(斑状) | 24. 2.5Y3/2 黒褐色 | V = IV(均一) |
| 6. 2.5Y3/1 黒褐色 | IV = Ⅲc(斑状) | 15. 2.5Y4/1 黄灰色 | Ⅲc = IV(均一) | 25. 10YR2/1 黒色 | V = IV(斑状) |
| 7. 2.5Y3/1 黒褐色 | Ⅲc = IV(斑状) | 16. 2.5Y4/2 暗灰黄色 | IV = Ⅲc(均一) | 26. 10YR3/2 黒褐色 | V = IV(均一) |
| 8. 2.5Y2/1 黒色 | Ⅲc = IV(斑状) | 17. 2.5Y3/2 黒褐色 | Ⅲc = IV(均一) | 27. 10YR2/1 黒色 | V = IV(斑状) しまりあり |
| 9. 2.5Y5/4 黄褐色 | IV = Ⅲc(斑状) | 18. 2.5Y5/4 黄褐色 | IV = Ⅲc(斑状) | 28. 10YR2/1 黒色 | V = IV(斑状) しまりなし |
| | | 19. 2.5Y5/4 黄褐色 | IV | | ※1・2: Ⅲb 26・27: 風倒木揚土 |



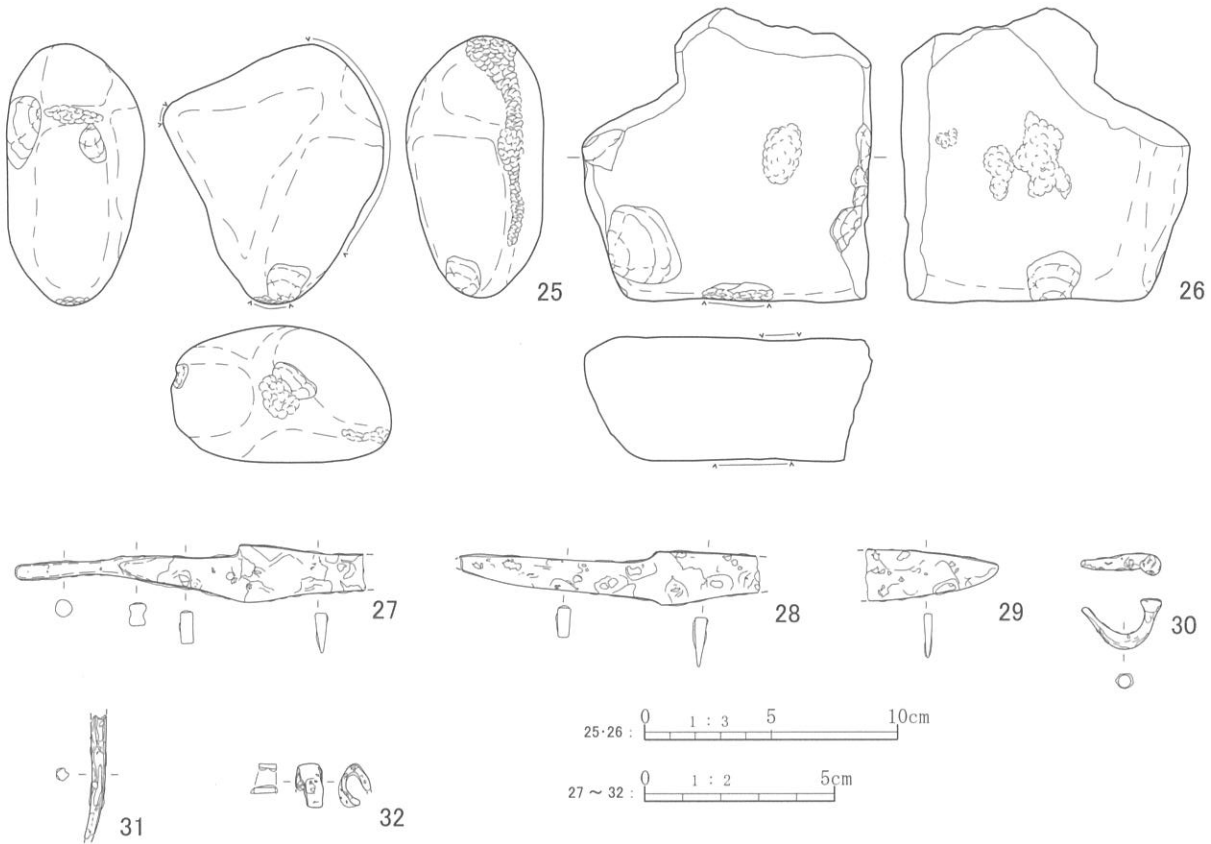
図Ⅲ-37 獣骨集中 41(ⅢBB-41)



図Ⅲ-38 集中区 35 出土遺物(1)



図Ⅲ-39 集中区 35 出土遺物 (2)



図Ⅲ-40 集中区 35 出土遺物(3)

性格：2ヵ所の焼土が同一軸線上に並び、近接して礫集中が出土する検出状態は、本遺跡ではアイヌ文化期における平地式住居址の検出パターンとして捉えられる特徴である。また配列の検出には至らなかったが、焼土近くで杭跡も1本検出した。本遺跡では擦文文化期の遺構・遺物が多数出土しているが、竪穴住居址は確認していない。土壌墓や、集中区44の項で記載する鍛冶作業の存在、検出される焼土の規模を考慮すると、短期間のキャンプサイトとは考え難い。遺跡内に長期間居住したと考えた場合、住居址は平地式であったと想定され、検出状態を考慮すると本集中区がその痕跡である可能性が高い。

時期：集中区内では時期が異なると考えられる擦文土器が出土している。しかし先述のとおりその出土状態をみると、集中区の主体的遺構となるⅢF-216・224、ⅢSB-53と関連する土器群はⅧB2の擦文文化期中期のものが中心である。この点は、第Ⅶ章第1節のAMS年代測定結果が他地域で蓄積された年代観と合致していることから追認できる。周囲で出土しているⅧB3の土器群は、新しい時期に残されたものと思われる。

表Ⅲ-55 集中区35出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-38-1	113-1	SP143A	VII B2a	81229.82741.83091他	ⅢbL	ⅢPB-52	U-35	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ミガキ	30	
Ⅲ-38-2	113-2	SP145A	VII B2a	82748	ⅢbL	ⅢBB-41	T-35	甕	口縁～ 胴部	ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	1	
				74765	ⅢbL	ⅢF-216	V-35					1	
				81239.81287	ⅢbL	ⅢPB-52	U-35					2	
				80600.80622.80623他	ⅢbL	ⅢSB-53	U-35					5	
				81749	Ⅲc	ⅢSB-56	U-40					1	
				77182.77211.79164他	ⅢbL		U-35					10	
				64893	ⅢbL	-	V-34					1	
				74242	ⅢbL		W-35					2	
74093.74095.74097他	ⅢbL		X-35	4									
Ⅲ-38-3	113-3	SP142A	VII B2a	74749	ⅢbL	ⅢF-216	V-35	甕	口縁～ 胴部	ミガキ	ナデ ミガキ	1	
				81349.81406.83169他	ⅢbL	ⅢPB-52	U-35					24	
				80603.80616.80618他	ⅢbL	ⅢSB-53	U-35					5	
				75229.77171.79162他	ⅢbL		U-35					14	
				77167	ⅢbL	-	V-35					1	
				73888	ⅢbL		V-36					1	
74408	ⅢbL		W-36	1									
Ⅲ-38-4	113-4	SP161A	VII B2a	74374.74375.77758他	ⅢbL		V-35	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	6	
				77766	Ⅲc		V-35					1	
				73900	ⅢbL	-	V-36					1	
				77029	ⅢbL		W-35					1	
74108.74109	ⅢbL		X-35	2									
Ⅲ-38-5	113-5	SP033A	VII C2a	68840.68880.68894他	ⅢbL	ⅢPB-42	U-34	甕	口縁～ 底部	ミガキ	ハケメ	45	
				68835	ⅢbL		AA-34					1	
				67589	ⅢbL		T-30					1	
				66085	ⅢbM		T-31					1	
				64380	ⅢbL		U-31					1	
				67507.67508	ⅢcU		U-33					2	
				64943.66332.71551他	ⅢbL	-	U-34					12	
				79175	ⅢbL		U-35					1	
				63274.67156.67165他	ⅢbL		V-33					6	
				63402.64863.64888他	ⅢbL		V-34					15	
				63380	ⅢbL		W-33					1	
63430.65230	ⅢbL		W-34	2									
Ⅲ-38-6	113-6	SP156A	VII B3a	78469.79027.79147他	ⅢbL	ⅢPB-54	W-35	甕	口縁～ 底部	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ	37	
				74376.77008.77761他	ⅢbL		V-35					7	
				73884.73892.73900他	ⅢbL		V-36					7	
				64854.71092	ⅢbL		W-34					2	
				74250.77088.79092他	ⅢbL	-	W-35					33	
				75353.81744.83042他	ⅢbL		W-37					4	
				65213.68807.67098他	ⅢbL		X-34					4	
				74092.74102.74107他	ⅢbL		X-35					6	
78997	Ⅲc		Y-36	1									
Ⅲ-39-7	113-15	SP096A	VII B2b	80610.80614.80619	ⅢbL	ⅢSB-53	U-35	甕	口縁～ 胴部	ミガキ	ハケメ ナデ	4	
Ⅲ-39-8	114-24	SP091A	VII B	79158	ⅢbL		U-35	甕	口縁～ 底部	ハケメ ミガキ	ケズリ ミガキ?	1	
				79963	ⅢbL	-	W-35					1	
				76867	ⅢbL		W-37					1	
				78915	ⅢbL		Y-36					1	

表Ⅲ-55 集中区35出土土器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-39-9	114-27	SP539B	ⅦC2	82765.83072	ⅢbL	ⅢPB-52	U-35	坏	口縁～ 台部	ミガキ	ミガキ	1	
				82867.82868.82869		ⅢBB-41	U-35					3	
				82873		ⅢBB-41	U-35					1	
				25331.28361		ⅢSB-13	R-35					2	
Ⅲ-39-10	114-28	SP564A	ⅦC1	81255.81265.82755他	ⅢbL	ⅢPB-52	U-35	坏	口縁～ 台部	ハケメ ナデ	ハケメ ミガキ	8	
				101384	表採	—	BTR					1	
				79156	ⅢbL	—	U-35					1	
Ⅲ-39-11	114-26	SP902A	ⅦE2	105126	表採	—	—	壺	胴部～ 底部	ロクロナデ	ロクロナデ ヘラケズリ	1	
				69115	ⅢbL	ⅢF-193	T-30					1	
				66493	ⅢbL	—	S-30					1	
				64817.64818.65583	ⅢbL	—	T-29					3	
				66338.66339	ⅢbL	—	U-34					2	
				65632.65634.65636他	ⅢbL	—	V-31					4	
				63432.63433.65231	ⅢbL	—	W-34					3	
Ⅲ-39-12	114-30	SP910B	ⅦE4B	77788	ⅢbL	ⅢPB-55	W-35	坏	口縁～ 台部	ロクロナデ	ロクロナデ 黒色処理	1	
				75279	ⅢbL	—	T-35					2	
				64946.66326	ⅢbL	—	U-34					2	
				77181.77247	ⅢbL	—	U-35					2	
				63275.63277	ⅢbL	—	V-33					2	
				63400.63403	ⅢbL	—	V-34					2	
				74381	ⅢbL	—	V-35					1	
				74246	ⅢbL	—	W-35					1	
				74740.75453	ⅢbL	—	W-36					2	
Ⅲ-39-13a	113-9	SP144A	ⅦB2a	81438.81441.81442	ⅢbL	ⅢPB-52	U-35	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	3	
Ⅲ-39-13b	113-10	SP144B	ⅦB2a	81448	ⅢbL	ⅢPB-52	U-35	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	1	
				77233	ⅢbL	—	U-35					1	
Ⅲ-39-13c	113-11	SP144C	ⅦB2a	81451	ⅢbL	ⅢPB-52	U-35	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	1	
Ⅲ-39-14a	113-20	SP115C	ⅦB2a	101386	表採	—	BTR	甕	口縁	ハケメ	ハケメ ナデ	1	
Ⅲ-39-14b	113-21	SP115B	ⅦB2a	75454	ⅢbL	—	W-36	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	1	
Ⅲ-39-14c	114-22	SP115A	ⅦB2a	77684.77685	ⅢbL	—	V-36	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	2	
Ⅲ-39-15a	113-7	SP127A	ⅦB2a	77676	ⅢbL	—	V-36	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ	1	
Ⅲ-39-15b	113-8	SP127B	ⅦB2a	75111	ⅢbL	—	X-37	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	1	
Ⅲ-39-16	113-12	SP146A	ⅦB2a	74724.74727	ⅢbL	—	V-35	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ	2	
				75460.75462.75474他	ⅢbL	—	W-36					6	
Ⅲ-39-17a	113-13	SP148A	ⅦB	79145	ⅢbL	ⅢPB-54	W-35	甕	口縁	ハケメ ミガキ	—	1	
Ⅲ-39-17b	113-14	SP148B	ⅦB2a	77763.	ⅢbL	—	V-35	甕	胴部	—	ナデ	1	
				75466.75467.76218	ⅢbL	—	W-36					3	
Ⅲ-39-18	113-18	SP122A	ⅦB2a	80613	ⅢbL	ⅢSB-53	U-035	甕	口縁	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	1	
Ⅲ-39-19	113-19	SP149A	ⅦB	77232	ⅢbL	—	U-35	甕	口縁	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	1	
Ⅲ-39-20	113-17	SP092A	ⅦB2b	79160.79163	ⅢbL	—	U-35	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	2	
Ⅲ-39-21	113-16	SP101E	ⅦB2b	77727	ⅢbL	—	U-36	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	1	
Ⅲ-39-22	114-23	SP171A	ⅦB3a	81811	4	ⅢP-41	U-36	甕	胴部	ハケメ 黒色処理	ハケメ	2	
Ⅲ-39-23	114-25	SP101A	ⅦB2b	81492	ⅢbL	—	U-35	甕	胴部～ 底部	ハケメ ミガキ	ハケメ	1	
				75213.75218.81497	ⅢbL	—	U-36					3	
Ⅲ-39-24	114-29	SP547A	ⅦC1	64889	ⅢbL	—	V-34	坏	口縁	ハケメ	ハケメ ミガキ	1	

表Ⅲ-56 集中区35出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-40-25	114-31	-	77026	たたき石	Ⅱb2	ⅢbL	-	V-35	102.0	87.0	54.0	565.0	And.	
Ⅲ-40-26	114-32	-	79179	台石	-	ⅢbL	-	U-35	116.0	115.0	49.0	940.0	Sa.	
Ⅲ-40-27	114-33	-	80549	刀子片	-	ⅢbL	ⅢSB-53	U-35	(92.0)	15.5	4.5	12.0	Irn.	
Ⅲ-40-28	114-34	-	74646	刀子片	-	ⅢbL	-	V-36	(79.5)	16.0	4.5	9.0	Irn.	
Ⅲ-40-29	114-35	-	74332	刀子切先	-	ⅢbL	-	V-35	(35.0)	14.0	2.0	3.0	Irn.	
Ⅲ-40-30	114-36	-	63138	釘	-	ⅢbL	-	U-34	21.0	13.5	4.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-40-31	114-37	-	76743	棒状鉄片	-	ⅢbL	-	U-35	(33.0)	6.0	3.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-40-32	114-38	-	82744	帯金具	-	ⅢbL	ⅢBB-41	T-35	11.5	7.5	8.0	0.6	Irn.	
-	-	-	80538	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	U-35	(59.7)	95.9	(43.1)	350.0	Gra.	
-	-	-	64896	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	V-34	(68.0)	42.0	(17.0)	60.0	Sa.	
-	-	-	64900	たたき石	I a3	ⅢbL	-	V-34	102.0	50.8	21.1	125.0	Mud.	
-	-	-	75399	たたき石	I a1	ⅢbL	-	W-36	128.2	52.5	27.0	260.0	Sa.	

表Ⅲ-57 ⅢSB-47属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
-	114-39	-	80386	ⅢbL	完形	88.4	-14.3	47.9	6.3	29.1	0.1	1.8	-0.7	119.6	-	Ser?		
-		-	80369	ⅢbL	完形	103.6	0.9	42.0	0.4	29.0	0.0	2.5	-0.1	220.0	-	Sa.		
-		-	80378	ⅢbL	完形	103.7	1.0	30.2	-11.4	30.1	1.1	3.4	0.9	190.1	-	Sa.		
-		ⅢS1414	80379	ⅢbL	完形	114.9	12.2	46.4	4.8	27.7	-1.3	2.5	-0.1	156.0	-	Sa.	他3点	
平均						102.7		41.6		29.0		2.56		171.4				

総点数 38点 ※完形 4点

表Ⅲ-58 ⅢSB-53属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	114-40	-	80575	ⅢbL	略完形	57.2	-12.8	29.4	-6.5	27.3	4.8	1.9	-0.1	87.4	-	Sa.	
-		-	80559	ⅢbL	完形	62.0	-8.0	36.2	0.3	23.3	0.8	1.7	-0.3	68.6	-	Sa.	
-		-	80574	ⅢbL	完形	66.7	-3.3	41.7	5.8	22.9	0.4	1.6	-0.4	100.6	-	Sa.	
-		-	80564	ⅢbL	完形	66.8	-3.2	40.2	4.3	22.8	0.3	1.7	-0.3	85.6	-	Sa.	
-		-	80581	ⅢbL	完形	63.7	-6.3	33.9	-2.0	20.9	-1.6	1.9	-0.1	74.3	-	Sa.	
-		-	80584	ⅢbL	完形	63.4	-6.6	41.3	5.4	24.9	2.4	1.5	-0.5	95.9	-	Sa.	
-		-	80568	ⅢbL	略完形	(64.8)	-	39.0	3.1	24.0	1.5	-1.7	-3.7	70.8	-	Sa.	
-		-	80598	ⅢbL	完形	67.0	-3.0	27.6	-8.3	20.3	-2.2	2.4	0.4	62.9	-	Sa.	
-		-	80565	ⅢbL	完形	64.6	-5.4	30.0	-5.9	27.1	4.6	2.2	0.2	75.8	-	Sa.	
-		-	80551	ⅢbL	略完形	69.1	-0.9	42.0	6.1	31.5	9.0	1.6	-0.4	121.2	-	Sa.	
-		-	80573	ⅢbL	完形	72.2	2.2	43.8	7.9	16.6	-5.9	1.6	-0.4	78.8	-	Sa.	
-		-	80585	ⅢbL	完形	71.6	1.6	24.4	-11.5	24.7	2.2	2.9	0.9	79.2	-	Sa.	
-		-	80553	ⅢbL	完形	71.7	1.7	35.8	-0.1	20.7	-1.8	2.0	0.0	79.2	-	Sa.	
-		-	80570	ⅢbL	完形	69.0	-1.0	33.8	-2.1	17.6	-4.9	2.0	0.0	81.6	-	Sa.	
-		-	80571	ⅢbL	完形	71.9	1.9	29.9	-6.0	16.0	-6.5	2.4	0.4	53.6	-	Sa.	
-		-	80595	ⅢbL	完形	74.3	4.3	39.4	3.5	16.6	-5.9	1.9	-0.1	87.5	-	Sa.	
-		-	80576	ⅢbL	完形	75.0	5.0	38.6	2.7	20.4	-2.1	1.9	-0.1	104.5	-	Sa.	
-		-	80569	ⅢbL	完形	74.7	4.7	48.4	12.5	28.4	5.9	1.5	-0.5	135.1	-	Sa.	
-		-	80554	ⅢbL	完形	78.9	8.9	32.8	-3.1	31.5	9.0	2.4	0.4	134.2	-	Sa.	
-		-	80580	ⅢbL	完形	82.1	12.1	30.4	-5.5	17.2	-5.3	2.7	0.7	62.8	-	Sa.	
-	-	80578	ⅢbL	完形	82.5	12.5	38.4	2.5	21.7	-0.8	2.1	0.1	117.0	-	Sa.		
平均						63.8		36.0		22.7		1.84		88.4			

総点数 87点 ※完形 21点

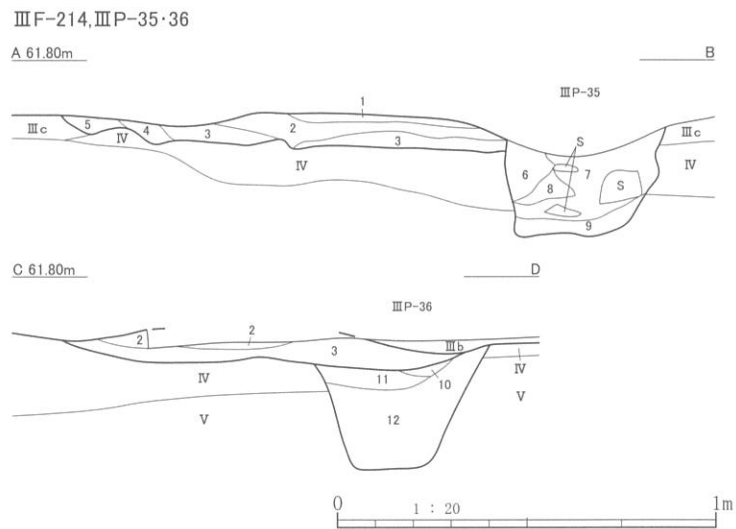
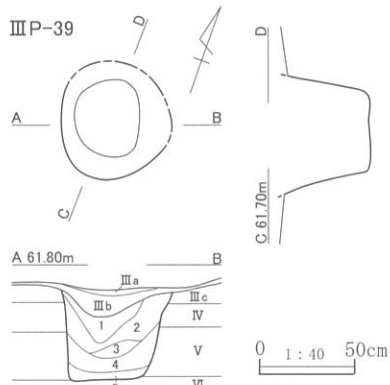
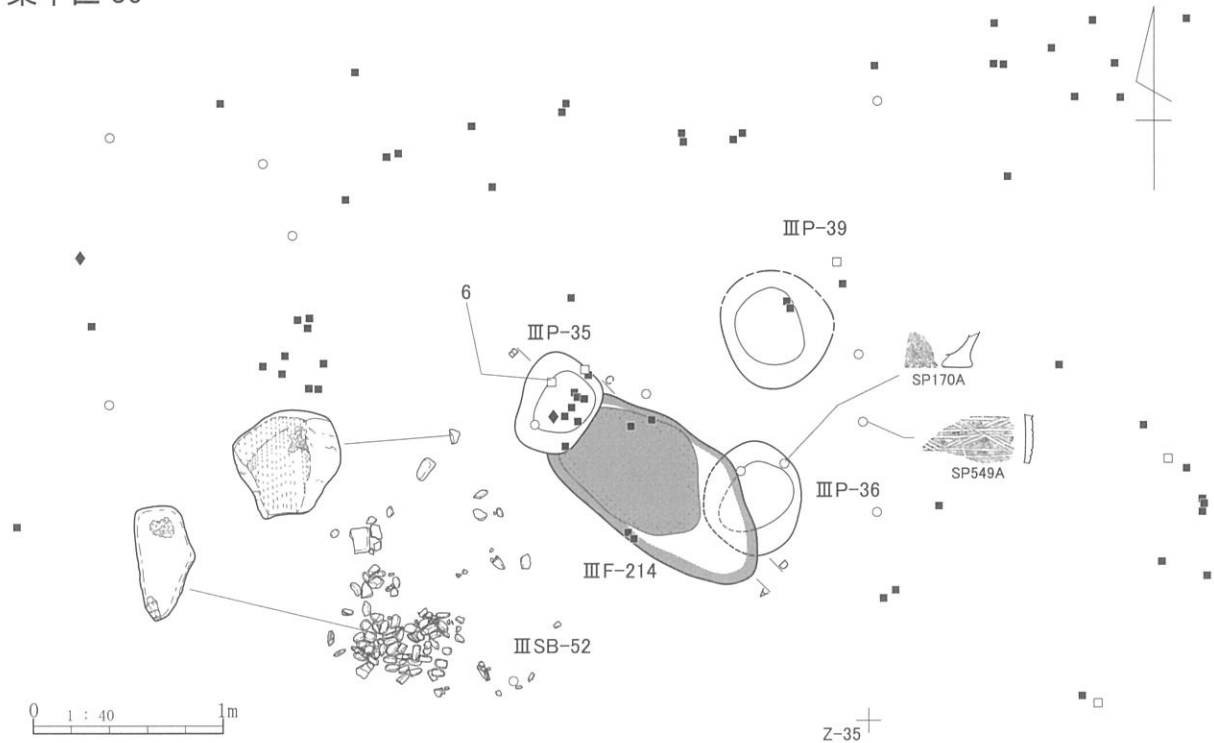
集中区 36 (図Ⅲ-41・42 図版 37)

位置 : Y-34・35 区 規模 : 650×500 cm

関連遺構 : 土坑 ⅢP-35・36・39 焼土 ⅢF-214 礫集中 ⅢSB-52

調査・確認 : Y-34・35 区のⅢb層調査時に、焼土 1カ所(ⅢF-214)と礫集中 1カ所(ⅢSB-52)を検出した。この内、ⅢSB-52については出土状態の撮影後、デジタル写真実測を委託した。遺物取り上げ後、焼土の調査を行った際、周囲でⅢbの円形の落込みを 3カ所検出した。内 2カ所は焼土のセ

集中区 36



III P-39

- | | |
|----------------|--------------------------------------|
| 1 10YR2/1 黒色 | IIIb ≡ IV + IIIc(均一) 粘性強 しまり中 |
| 2 7.5YR2/1 黒色 | IIIc = IV(均一) ≡ 炭化物(φ2↓・斑状) 粘性中 しまり中 |
| 3 10YR4/4 褐色 | IV = IIIc(均一) 粘性弱 しまり弱 |
| 4 10YR2/3 黒褐色 | IIIc = IV(均一) 粘性中 しまり中 |
| 5 7.5YR2/2 黒褐色 | IIIc = IV(均一) 粘性強 しまり弱 やや保湿性あり |

III F-214, III P-35・36

- | | | | |
|-----------------|----------------------------------|----------------|------------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐色 | IIIb = 焼骨片(均一) ≡ 焼土粒(斑状) 土壌化灰層 | 7 7.5YR2/2 黒褐色 | IIIb ≡ 焼骨片(均一) |
| 2 7.5YR4/6 褐色 | 焼土(IIIc地山被熱層) = IIIbブロック(均一) 粘性強 | 8 10YR3/3 暗褐色 | IIIc ≡ IV・焼骨(均一) 粘性強 |
| 3 7.5YR2/3 極暗褐色 | 付帯黒色層 = 炭化物 粘性やや強 | 9 10YR3/1 黒褐色 | IIIc = IV(均一) |
| 4 7.5YR4/4 褐色 | 焼土(IIIc~IV地山被熱層) | 10 10YR2/2 黒褐色 | IIIc = B-Tm(斑状) |
| 5 10YR3/4 暗褐色 | 付帯黒色層 | 11 7.5YR4/4 褐色 | IIIc - 焼土粒(斑状) ≡ 焼骨片(斑状) 粘性強 |
| 6 10YR2/3 黒褐色 | IIIb - 焼土粒(斑状) III P-35の覆土 | 12 10YR2/2 黒褐色 | IIIc = 焼骨片(均一) 粘性強 |

1~5: III F-214, 6~9: III P-35, 10~12: III P-36

図III-41 集中区 36 平面図



図Ⅲ-42 集中区 36 出土遺物

クッションライン上に重なっていたことからそのラインを用い、残りの1ヵ所は半截した上で、それぞれ堆積状態を観察した。その結果、底面がほぼ平らで基本土層が掘り込まれていることが確認できたため、土坑として判断した(ⅢP-35・36・39)。堆積状態の記録後完掘し、調査を終えた。

土坑(図Ⅲ-41)：ⅢP-35・36 は共にⅢF-214 と重なって検出した土坑で、堆積状態の観察からⅢP-36 はⅢF-214 より古く、ⅢP-35 は新しいと判断した。坑底面はⅢP-35 でやや起伏が認められるがほぼ平らで、壁面は鉢状に開きながら立ち上がっている。いずれも堆積土中に焼骨片が含まれてい

表Ⅲ-59 集中区36土坑属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/ 坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-41	37-2	ⅢP-35	Y-35	ⅢbL	楕円形/ 楕円形	52	42	33	26	25	N-43° E	1.24	1.27	-	
Ⅲ-41	37-3	ⅢP-36	Y-35	ⅢbL	楕円形/ 楕円形	58	54	40	30	29	N-58° E	1.07	1.33	-	
Ⅲ-41	37-4	ⅢP-39	Y-35	ⅢbL	楕円形/ 楕円形	62	60	40	38	49	N-4° E	1.03	1.05	-	

表Ⅲ-60 集中区36焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-41	37-1	ⅢF-214	Y-35	ⅢbL	楕円形	(130)	64	8	骨	

表Ⅲ-61 集中区36出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-42-1	115-1	SP170A	ⅣB	79997	1	ⅢP-36	Y-35	甕	底部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	1	
Ⅲ-42-2	115-2	SP549A	ⅣC	79217	Ⅲc	-	Y-35	坏	体部	ミガキ	ナデ	1	

表Ⅲ-62 集中区36出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-42-3	115-5	-	81122	たたき石	I a1	ⅢbL	ⅢSB-52	Y-35	91.0	47.0	31.0	200.0	Sa.	
Ⅲ-42-4	115-8	-	68838	たたき石	Ⅱ b1B	ⅢbL	-	AA-34	98.0	73.0	41.0	370.0	Sa.	
Ⅲ-42-5	115-11	-	81092	砥石	-	ⅢbL	ⅢSB-52	Y-35	86.0	85.0	40.0	380.0	Sa.	
Ⅲ-42-6	115-13	-	79212	滑沢面と敲打痕の ある大型礫	Ⅱ	1	ⅢP-35	Y-35	271.0	131.0	87.0	4400.0	Sa.	
Ⅲ-42-7	115-12	-	68815	滑沢面のある礫	-	ⅢbL	-	Y-33	251.0	146.0	88.0	5400.0	Sa.	
-	115-3	-	74024	台石	-	ⅢbL	-	Y-35	(47.0)	(62.0)	(34.0)	140.0	Sa.	
-	115-4	-	64149	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Y-34	(79.6)	48.0	32.0	170.0	Sa.	
-	115-6	-	68742	たたき石	Ⅱ a1	ⅢbL	-	Z-34	58.0	54.0	9.0	45.0	Sa.	
-	115-7	-	67034	たたき石	Ⅱ b1	ⅢbL	-	Y-33	95.0	81.0	53.0	510.0	Sa.	
-	115-9	-	81093	たたき石	Ⅳb	ⅢbL	ⅢSB-52	Y-35	77.0	(61.0)	61.0	725.0	Sa.	
-	115-10	-	79971	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Y-35	127.0	84.0	47.0	450.0	Sa.	
-	-	-	64147	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Y-34	(59.0)	54.0	29.0	110.0	Sa.	
-	-	-	68718	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Z-37	(78.0)	42.3	32.7	155.0	Sa.	
-	-	-	68733	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Z-35	(90.5)	47.0	25.5	140.0	Sa.	
-	-	-	68736	たたき石	Ⅳ	ⅢcU	-	Z-34	(95.8)	57.1	30.8	250.0	Sa.	
-	-	-	68832	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	Z-34	(76.7)	92.9	24.8	190.0	Sa.	
-	-	-	68831	たたき石	Ⅱ b2	ⅢbL	-	Z-34	15.3	85.3	53.3	560.0	Sa.	
-	-	-	79214	台石	-	1	ⅢP-35	Y-35	140.9	18.1	57.6	980.0	Sa.	

ることから、人為的に埋め戻されたと考えられる。一方ⅢP-39は壁面がほぼ垂直に立ち上がり、堆積土も壁面崩落土が主体で自然埋没したと考えられることから、先の2基とは性格を異にしている。

焼土(図Ⅲ-41)：ⅢF-214は北西端をⅢP-35に切られているが、長さ130cm以上、焼土層の厚さ8cmを測る規模の大きい焼土である。上位に焼骨片を伴い、その一部はⅢP-35・36の覆土中にも混入している。土壌サンプルからはシカを主体とする骨と少量のコイ科、サケ属の骨が得られた他、キビ、クルミ属をはじめとする炭化種子も得ている。

礫集中(図Ⅲ-41)：ⅢSB-52はⅢF-214の南東に隣接する位置で検出した。92×52cmの範囲で132点の棒状を主体とする礫が出土している。完形個体は34点でやや欠損率が高い。

表Ⅲ-63 ⅢSB-52属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備 考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
-	-	-	82328	ⅢbL	完形	41.5	-28.3	30.0	-8.7	25.6	1.3	1.4	-0.4	46.0	-	Sa.		
-	-	-	81195	ⅢbL	完形	48.3	-21.5	34.1	-4.6	21.4	-3.4	1.4	-0.4	46.2	-	Sa.		
-	-	-	81111	ⅢbL	完形	49.7	-20.1	33.7	-5.0	24.1	-0.7	1.5	-0.4	56.7	-	Sa.		
-	-	-	81124	ⅢbL	完形	58.6	-11.2	44.9	6.2	26.1	1.3	1.3	-0.5	74.3	-	Mud.		
-	-	-	81133	ⅢbL	完形	68.8	-1.0	39.7	1.0	26.9	2.1	1.7	-0.1	89.4	-	Sa.		
-	-	-	81160	ⅢbL	完形	55.5	-14.3	54.3	15.6	25.6	0.8	1.0	-0.8	102.6	-	Sa.		
-	-	-	81128	ⅢbL	完形	61.2	-8.6	33.0	-5.7	23.1	-1.7	1.9	0.0	65.7	-	Sa.		
-	-	-	81189	ⅢbL	完形	60.9	-8.9	33.0	-5.7	21.3	-3.5	1.8	0.0	58.6	-	Sa.		
-	-	-	81196	ⅢbL	完形	62.4	-7.4	32.0	-6.7	24.3	-0.5	2.0	0.1	61.6	-	Sa.		
-	-	-	81191	ⅢbL	完形	62.7	-7.1	36.9	-1.8	23.0	-1.8	1.7	-0.1	57.8	-	Mud.		
-	-	-	82319	ⅢbL	完形	61.4	-8.4	38.0	-0.7	21.9	-2.9	1.6	-0.2	79.1	-	Sa.		
-	-	-	81181	ⅢbL	完形	66.8	-3.0	43.7	5.0	26.3	1.5	1.5	-0.3	90.1	-	Sa.		
-	-	-	81173	ⅢbL	完形	66.5	-3.3	40.3	1.6	22.3	-2.5	1.7	-0.2	76.4	-	Sa.		
-	-	-	81167	ⅢbL	完形	66.0	-3.8	28.6	-10.1	25.4	0.6	2.3	0.5	73.1	-	Sa.		
-	-	ⅢS1325	81144	ⅢbL	完形	67.3	-2.5	41.5	2.8	23.3	-1.5	1.6	-0.2	69.4	-	Mud.	他1点	
-	-	-	81152	ⅢbL	完形	68.0	-1.8	42.4	3.7	22.9	-1.9	1.6	-0.2	109.9	-	Sa.		
-	115-14	-	81169	ⅢbL	完形	71.8	2.0	33.3	-5.4	33.9	9.1	2.2	0.3	91.5	-	Sa.		
-	-	-	82320	ⅢbL	完形	72.7	2.9	41.4	2.7	18.6	-6.2	1.8	-0.1	73.7	-	Sa.		
-	-	-	81174	ⅢbL	完形	72.6	2.8	30.6	-8.1	18.7	-6.1	2.4	0.5	49.4	-	Mud.		
-	-	-	81159	ⅢbL	完形	73.3	3.5	33.2	-5.5	23.2	-1.6	2.2	0.4	70.0	-	Sa.		
-	-	-	81164	ⅢbL	完形	76.4	6.6	47.8	9.1	25.6	0.8	1.6	-0.2	133.7	-	Sa.		
-	-	ⅢS1320	81171	ⅢbL	完形	73.9	4.1	38.7	0.0	22.3	-2.5	1.9	0.1	99.4	-	Sa.	他1点	
-	-	-	81177	ⅢbL	完形	75.6	5.8	45.0	6.3	22.4	-2.4	1.7	-0.2	111.2	-	Sa.		
-	-	-	81123	ⅢbL	完形	74.1	4.3	38.7	0.0	33.1	8.3	1.9	0.1	140.3	-	Sa.		
-	-	-	81185	ⅢbL	完形	76.1	6.3	42.0	3.3	26.2	1.4	1.8	0.0	69.1	-	Mud.		
-	-	-	81109	ⅢbL	完形	75.8	6.0	37.1	-1.6	37.0	12.2	2.0	0.2	100.7	-	Sa.		
-	-	-	81095	ⅢbL	完形	77.4	7.6	50.4	11.7	28.2	3.4	1.5	-0.3	130.4	-	Sa.		
-	-	-	81157	ⅢbL	完形	78.9	9.1	41.1	2.4	23.5	-1.3	1.9	0.1	107.3	-	Sa.		
-	-	-	81186	ⅢbL	完形	80.3	10.5	38.9	0.2	24.3	-0.5	2.1	0.2	91.6	-	Sa.		
-	-	-	81175	ⅢbL	完形	80.0	10.2	39.5	0.8	34.1	9.3	2.0	0.2	113.9	-	Sa.		
-	-	-	81190	ⅢbL	完形	85.9	16.1	37.5	-1.2	21.3	-3.5	2.3	0.5	92.7	-	Sa.		
-	-	-	81127	ⅢbL	完形	82.5	12.7	42.8	4.1	19.3	-5.5	1.9	0.1	96.4	-	Sa.		
-	-	-	81161	ⅢbL	完形	84.4	14.6	37.6	-1.1	26.9	2.1	2.2	0.4	108.5	-	Sa.		
-	-	-	81126	ⅢbL	完形	97.3	27.5	35.7	-3.0	22.3	-2.5	2.7	0.9	91.0	-	Sa.		
平均						69.8		38.7		24.8		1.83		86.1				
														総点数 132点 ※完形 34点				

出土遺物(図Ⅲ-42) : 1 はⅢP-36 覆土上位で出土した擦文土器甕底部片である。外面はミガキ調整が施され、内面は黒色処理が行われている。2 はⅢC の坏体部片で、文様は深く明瞭な沈線で施文されている。3・4 はたたき石でいずれも素材礫の平坦面が使用され、4 は側縁と頂端部も使用されている。5 は砥石で、砂岩を素材とし、粗い砥面が形成されていたため鉄器とは別のものを対象に使用されたと思われる。3・5 は共にⅢSB-52 で出土した。6 は滑沢面と敲打痕、7 は滑沢面が形成された角柱状の礫で、6 はⅢP-35 より出土した。

集中区 37 (図Ⅲ-43~45 図版 38)

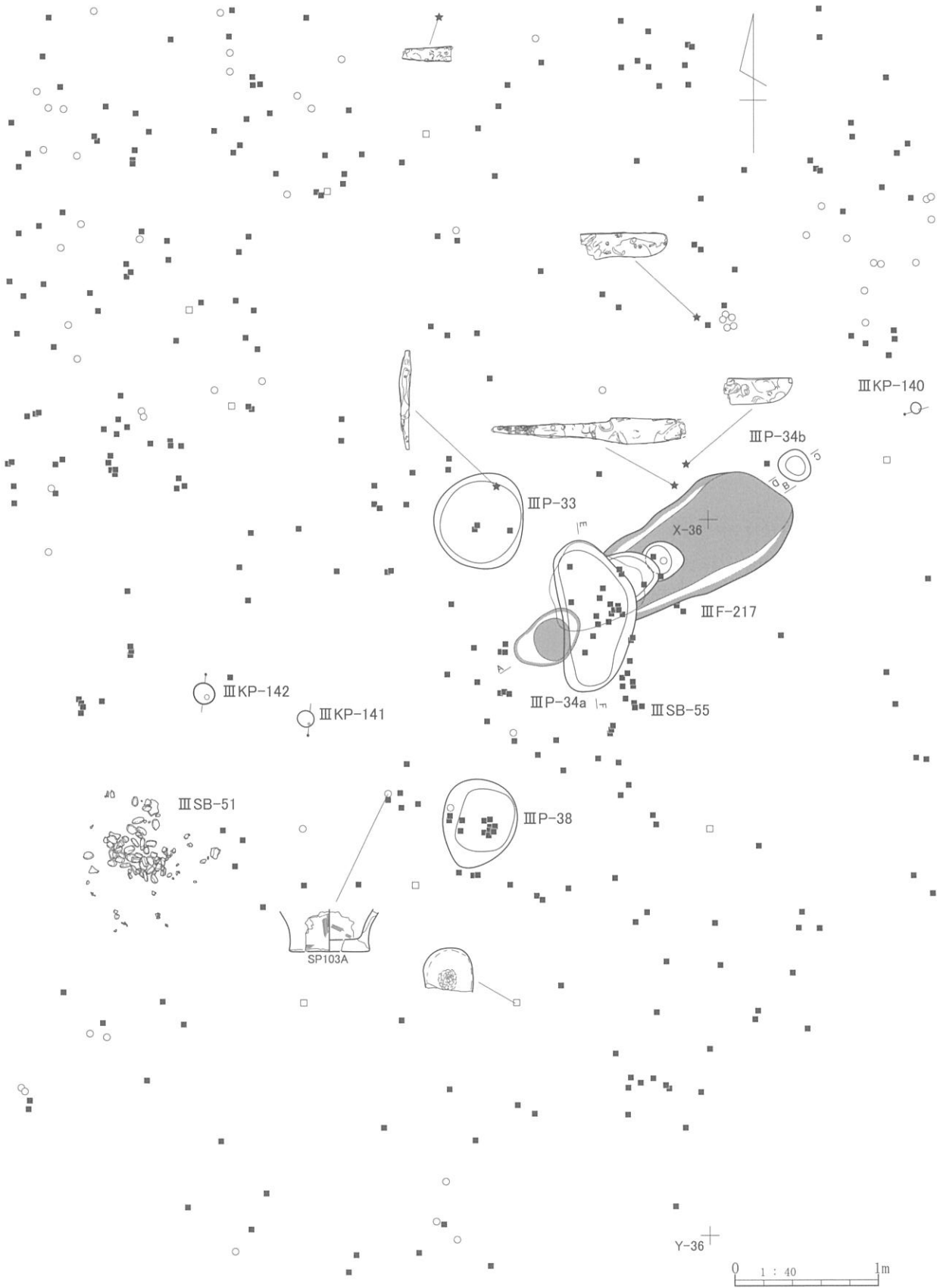
位置 : W・X-35・36 区 規模 : 750×700 cm

関連遺構 : 土坑 ⅢP-33・34a・34b・38 焼土 ⅢF-217 杭跡 ⅢKP-140・141・142

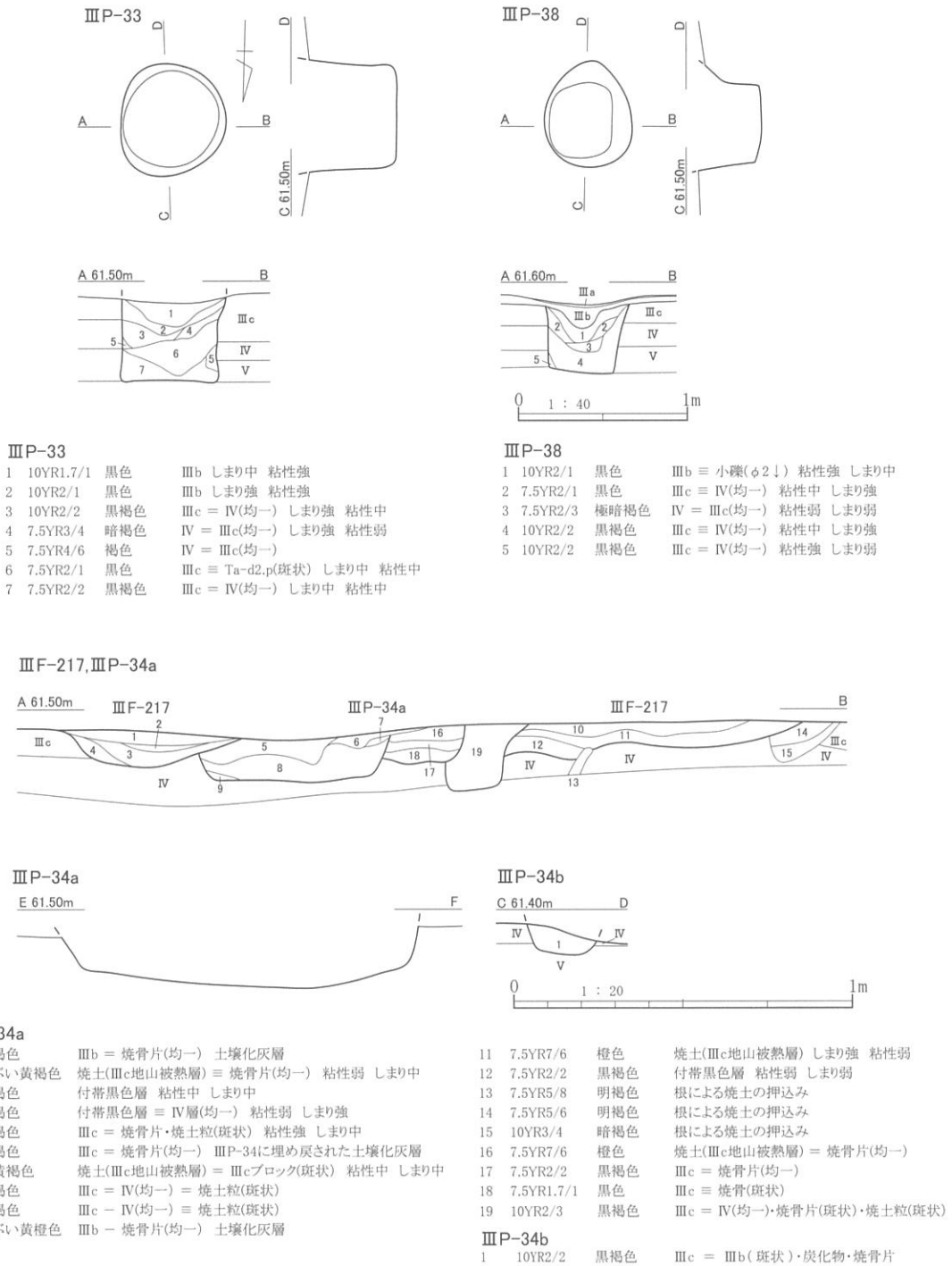
礫集中 ⅢSB-51

調査・確認 : W・X-35・36 区のⅢb 層調査時に長大な焼土(ⅢF-217)を1カ所、礫集中(ⅢSB-51)を1カ所検出した。また焼土の調査中、焼土と重なる位置で1カ所、近接した位置で1カ所、焼骨片を含むⅢc 主体土の落込みを確認したため半截したところ、基本土層が掘り込まれていることを確認した。土坑と判断し、ⅢP-34a・34b と設定して調査を行った。また周囲をⅢc 層上面まで掘削した際、

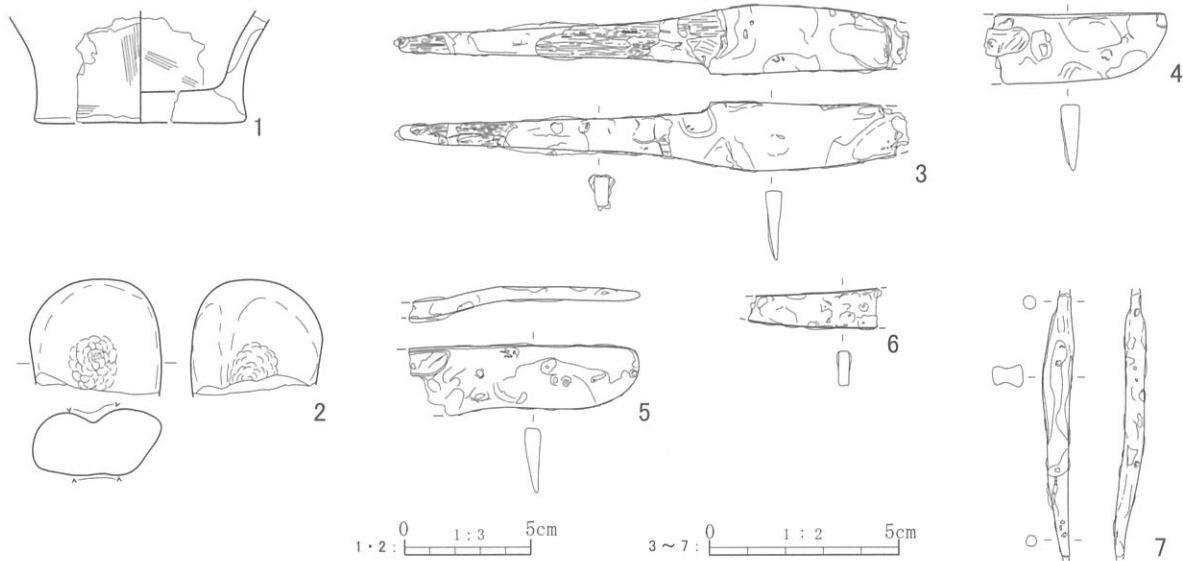
集中区 37



図Ⅲ-43 集中区 37 平面図



図Ⅲ-44 集中区 37 関連遺構



図Ⅲ-45 集中区 37 出土遺物

表Ⅲ-64 集中区37土坑属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/ 坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-43	38-1・4	ⅢP-33	X-35・36	Ⅲc	円形/ 円形	68	64	60	56	52	N-47° E	1.06	1.07	—	
Ⅲ-43	38-1・5	ⅢP-38	X-36	Ⅲb	楕円形/ 楕円形	64	52	44	36	36	N-32° E	1.23	1.22	—	
Ⅲ-43	38-1	ⅢP-34a	W-35	Ⅲc	楕円形/ 楕円形	103	50	94	43	12	N-11° W	2.06	2.19	—	
Ⅲ-43	38-1	ⅢP-34b	V-35	Ⅳ	円形/ 円形	24	22	14	12	20	N-44° W	1.09	1.17	—	

表Ⅲ-65 集中区37焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-43	38-2	ⅢF-217	X-36	ⅢbL	長方形	(136)	74	10	骨	

表Ⅲ-66 集中区37杭跡属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-43・44	—	ⅢKP-140	7	1.5	18	5.5°	打込み	
Ⅲ-43・44	—	ⅢKP-141	10.5	2	30	8°	打込み	
Ⅲ-43・44	—	ⅢKP-142	14	7	18	5°	打込み	

表Ⅲ-67 集中区37出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-45-1	116-1	SP103A	ⅦB	85501	ⅢcM	—	X-36	甕	底部	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	1	

焼土の北側で1カ所、南西側で1カ所、Ⅲbの落込みを検出したため、これらも半截し、同じく土坑として判断した(ⅢP-33・38)。それぞれの遺構は関連するものと想定したため、各遺構の完掘後、全体写真を撮影した。なおⅢSB-51は出土状態の図化を委託している。

土坑(図Ⅲ-44)：ⅢP-34aはⅢF-217と重複し、ⅢP-34bは北東側に近接している。共に底面はほぼ水平で、壁面は皿状に開く。ⅢP-34aの断面を観察したところ、ⅢF-217の内、北側の古い焼土を切るが南側の焼土は土坑覆土上位に形成されていることが把握できた。焼土の使用継続中に構築された土坑と考えられる。ⅢP-34a・34b共に堆積土中に焼骨片を多く含むため、同時期の形成と考え

表Ⅲ-68 集中区37出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-44-2	116-2	—	74187	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	X-36	(46.0)	52.0	26.0	85.0	Sa.	
Ⅲ-44-3	116-7	—	76745	刀子片	—	ⅢbL	ⅢF-217	W-36	(135.5)	19.0	7.5	18.6	Irn.	
Ⅲ-44-4	116-8	—	74272	刀子切先	—	ⅢbL	ⅢF-217	W-36	(48.0)	19.0	5.0	11.5	Irn.	
Ⅲ-44-5	116-9	—	74305	刀子切先	—	ⅢbL	—	W-36	(61.0)	18.0	4.5	14.6	Irn.	
Ⅲ-44-6	116-10	—	76744	刀子茎	—	ⅢbL	—	W-36	(35.5)	11.0	4.0	2.3	Irn.	
Ⅲ-44-7	116-11	—	74790	棒状鉄片	—	ⅢbL	ⅢP-33	W-36	(69.5)	9.0	6.0	5.7	Irn.	
—	116-3	—	74067	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	X-35	(61.0)	62.0	36.0	110.0	Sa.	
—	116-4	—	74185	たたき石	Ⅱa1	ⅢbL	—	X-36	111.0	67.0	36.0	325.0	Sa.	
—	116-5	—	76227	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	W-36	(102.0)	(52.0)	(23.0)	170.0	Sa.	
—	116-6	—	75996	たたき石	Ⅱb2	ⅢbL	—	X-37	137.0	116.0	74.0	1200.0	Sa.	
—	—	—	75410	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	W-36	(98.7)	50.6	26.9	180.0	Sa.	
—	—	—	74230	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	W-35	(63.4)	56.8	30.9	150.0	Sa.	
—	—	—	74271	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	W-35	—	—	—	510.0	Sa.	
—	—	—	74081	たたき石	Ⅰb1	ⅢbL	—	X-35	134.0	46.9	35.8	280.0	Sa.	
—	—	—	75997	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	X-36	(64.2)	57.5	(13.1)	70.0	Sa.	
—	—	—	75105	たたき石	Ⅱb1	ⅢbL	—	X-37	99.6	52.7	42.8	350.0	Sa.	
—	—	—	75386	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	W-36	(62.1)	(88.2)	72.0	380.0	Sa.	
—	—	—	75360	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	—	W-36	(71.5)	55.5	22.8	135.0	Sa.	
—	—	—	—	剥片状鉄滓	—	ⅢbL	ⅢF-217	W-36	—	—	—	—	Irn.	FLT

表Ⅲ-69 ⅢSB-51属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考			
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差		
—	116-12	—	80093	ⅢbL	完形	57.0	-14.4	35.3	-6.2	19.8	-4.2	1.6	-0.2	77.0	—	Sa.			
—		—	80076	ⅢbL	完形	62.3	-9.1	47.1	5.6	27.2	3.2	1.3	-0.5	102.6	—	Sa.			
—		—	80077	ⅢbL	完形	60.3	-11.1	44.8	3.3	23.8	-0.2	1.3	-0.5	99.8	—	Sa.			
—		—	80109	ⅢbL	完形	66.7	-4.7	36.2	-5.3	18.9	-5.1	1.8	0.0	69.7	—	Sa.			
—		—	ⅢS1312	80089	ⅢbL	完形	65.8	-5.6	34.5	-7.0	27.8	3.8	1.9	0.1	95.6	—	Sa.	他1点	
—		—	—	80112	ⅢbL	完形	63.1	-8.3	33.4	-8.1	19.8	-4.2	1.9	0.1	76.9	—	Sa.		
—		—	—	80105	ⅢbL	完形	69.7	-1.7	40.3	-1.2	26.4	2.4	1.7	-0.1	97.5	—	Sa.		
—		—	—	80066	ⅢbL	完形	71.9	0.5	50.6	9.1	15.1	-8.9	1.4	-0.4	74.1	—	Sa.		
—		—	—	ⅢS1314	80071	ⅢbL	完形	73.4	2.0	43.8	2.3	34.0	10.0	1.7	-0.1	132.3	—	Sa.	他1点
—		—	—	80108	ⅢbL	完形	70.9	-0.5	40.9	-0.6	25.7	1.7	1.7	-0.1	101.0	—	Sa.		
—		—	—	80080	ⅢbL	完形	71.7	0.3	40.1	-1.4	30.0	6.0	1.8	0.0	103.8	—	Sa.		
—		—	—	80096	ⅢbL	完形	71.4	0.0	41.7	0.2	24.5	0.5	1.7	-0.1	101.6	—	Sa.		
—		—	—	80094	ⅢbL	完形	72.9	1.5	52.9	11.4	29.1	5.1	1.4	-0.4	152.0	—	Sa.		
—		—	—	80101	ⅢbL	完形	72.6	1.2	29.7	-11.8	23.5	-0.5	2.4	0.6	79.8	—	Sa.		
—		—	—	80114	ⅢbL	完形	76.3	4.9	42.3	0.8	21.4	-2.6	1.8	0.0	104.0	—	Sa.		
—		—	—	80091	ⅢbL	完形	72.1	0.7	38.7	-2.8	16.3	-7.7	1.9	0.1	82.7	—	Sa.		
—		—	—	80090	ⅢbL	完形	72.0	0.6	52.0	10.5	23.1	-0.9	1.4	-0.4	122.7	—	Sa.		
—		—	—	80104	ⅢbL	完形	77.4	6.0	49.5	8.0	23.1	-0.9	1.6	-0.2	114.0	—	Sa.		
—		—	—	80079	ⅢbL	完形	78.4	7.0	47.8	6.3	21.1	-2.9	1.6	-0.2	99.7	—	Sa.		
—		—	—	80081	ⅢbL	完形	78.2	6.8	53.4	11.9	22.4	-1.6	1.5	-0.3	104.2	—	Sa.		
—		—	—	80134	ⅢbL	完形	79.5	8.1	23.2	-18.3	27.8	3.8	3.4	1.6	95.4	—	Sa.		
—		—	—	80082	ⅢbL	完形	86.1	14.7	33.9	-7.6	26.8	2.8	2.5	0.7	97.2	—	Sa.		

平均 71.4 41.5 24.0 1.80 99.2
総点数 143点 ※完形 22点

られる。ⅢP-33・38 は共に壁面が垂直に立ち上がる筒型の土坑で、堆積土は共に壁面崩落、もしくは掘り上げ土(ⅢP-33:4・6層)の流れ込みによる自然埋没土と考えられる。ⅢP-33については堆積土6層及び7層から土壌サンプルを採取し、北海道開拓記念館 山田悟郎氏に花粉分析を依頼した。詳細は第七章第6節を参照されたい。

焼土(図Ⅲ-43・44) : ⅢF-217 は間にⅢP-34a を挟み新旧2ヵ所の焼土で構成され、全体で長さ212cmを測る長大な焼土である。焼土層の厚さは約4cmと規模の割に薄い、然焼面が大きく窪んでい

るため掘り返されながら使用されたと考えられる。焼骨片が焼土上位と、III P-34a・34b 内で多く認められた。土壌サンプルからはシカ、ウグイ、サケ属の骨と、キビ、クルミ属をはじめとする炭化種子が得られた。また特筆すべき点として、少量ではあるが集中区 44 で報告するものと同じ鉄器生産関連遺物の剥片状鉄滓も抽出している。

杭 跡(図III-43・44) : III F-217 の北東側で 1 ヶ所(III KP-140)、南西側で 2 ヶ所(III KP-141・142)の杭跡を検出した。周囲にアイヌ文化期の遺構・遺物は検出されておらず、また杭跡覆土に III b 主体土が堆積していないことから擦文文化期のものとして捉え、本集中区に関連するものとして判断した。いずれも打込みによる杭跡である。

礫集中(図III-43) : III SB-51 は III F-217 の南西側で検出した。100×70 cmの範囲で棒状を中心とする 143 点の礫が出土しており、完形個体は 22 点で欠損率が極めて高い礫集中である。

出土遺物(図III-45) : 1 は III P-38 の西側で出土した甕底部片で、内外面共にハケメ調整後にナデ調整が行われている。2 は III P-38 の南側で出土したたたき石で、扁平な礫の両面が深く窪むまで使用されている。3~6 は刀子片で、3 は区部から茎にかけて柄の木質が残る。4・5 は刀子切先と考えたが、切先にあたる部分が丸く断面も厚みがあり、また共に折損部側に鉄片と思われる突起物が付着しているため、刃部を伴う別の製品の可能性もある。6 は茎部分で断面は方形である。7 は III P-33 の覆土上位で出土した棒状鉄片で表裏面に溝状の窪みが形成され、両端部は尖り、断面は円形である。

集中区 38 (図III-46~48 図版 39)

位置 : V~X-37・38 区 規模 : 700×500cm

関連遺構 : 土坑 III P-37a・37b 焼土 III F-210・212・227 礫集中 III SB-49

確認・調査 : V・W-37 区の III b 層調査時に長楕円形の焼土 1 ヶ所とその南西側で III b の落込みを検出した。落込みにかかる位置に焼土セクションラインを設定し半截したところ、落込み中からさらに III F-210 と 227 の 2 ヶ所の焼土を検出した。半截後堆積状態の観察を行った結果、基本土層が掘り込まれていることを確認したため土坑と判断した。またこの土坑は、深さの異なる 2 基の土坑が切り合ったものと判断したため、III P-37a・37b として設定し調査を行った。これら遺構の南側では棒状を中心とする礫集中が出土したため III SB-49 として設定し、図化は行わずに取上げを行った。

土坑(図III-46・47) : III P-37b は浅く、37a に切られている。37a は長さ 102 cmの楕円形で、深さは 48 cmを測り、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。37a・37b 共に人為的に埋め戻されており、37b では III

表 III-70 集中区38土坑属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	調査面長短比	坑底面長短比	出土遺物	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
III-46	39-4~7	III P-37a	W・V-37	III bL	長楕円形/長楕円形	102	60	60	50	48	N-23° E	1.70	1.20	-	
III-46	39-4~7	III P-37b	W・V-37	III bL	長楕円形/長楕円形	(62)	54	(21)	36	10	N-21° E	-	-	-	

表 III-71 集中区38焼土属性表

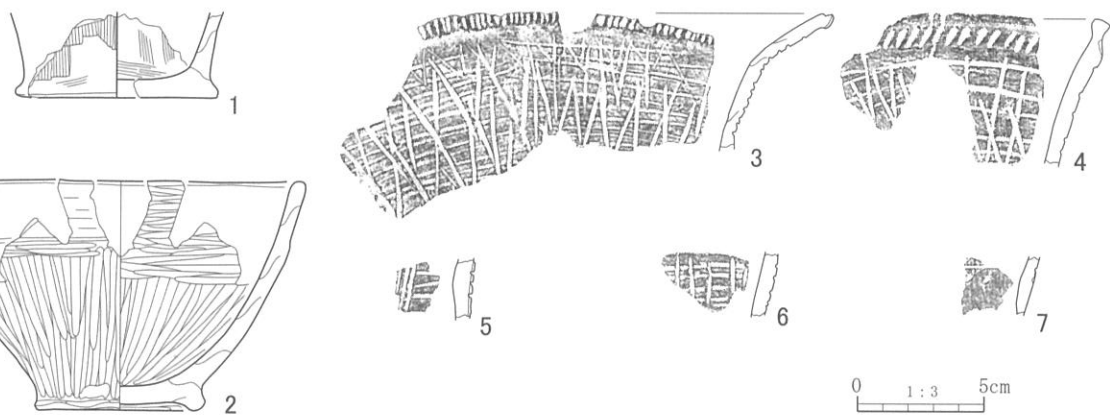
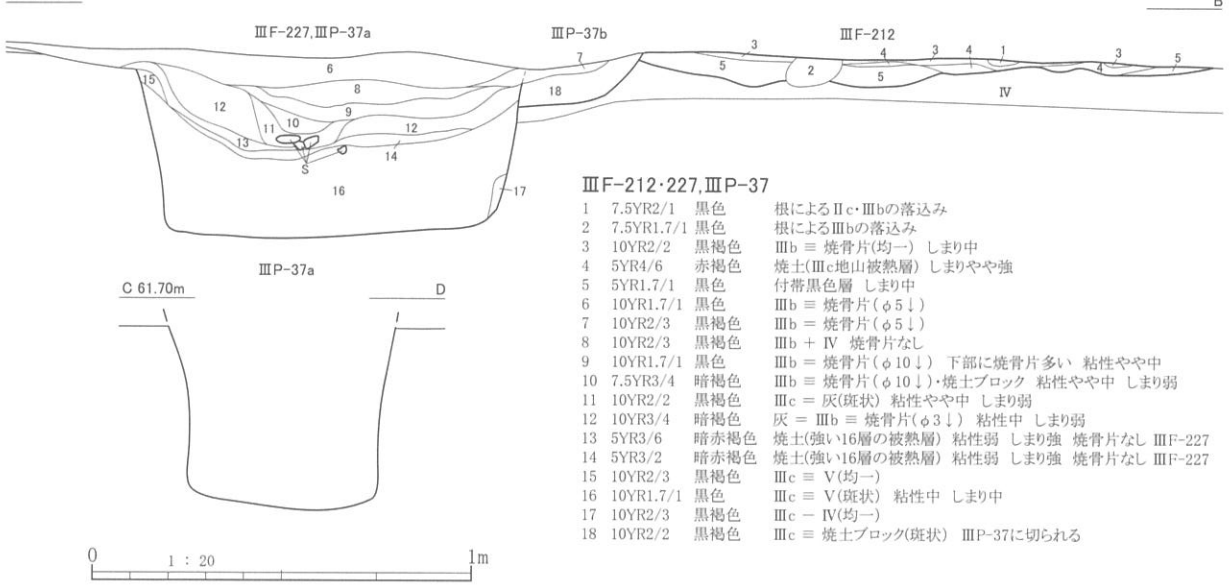
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
III-46・47	39-3	III F-210	W-37	III bL	長楕円	10	5	2	骨	-
III-46・47	39-1・6・8	III F-212	W・V-37	III bL	長楕円	(178)	88	8	骨	-
III-46・47	39-4~6	III F-227	W-37	III bL	楕円形	49	40	3	骨	-



図Ⅲ-46 集中区 38 平面図

ⅢF-212・227,ⅢP-37a-b

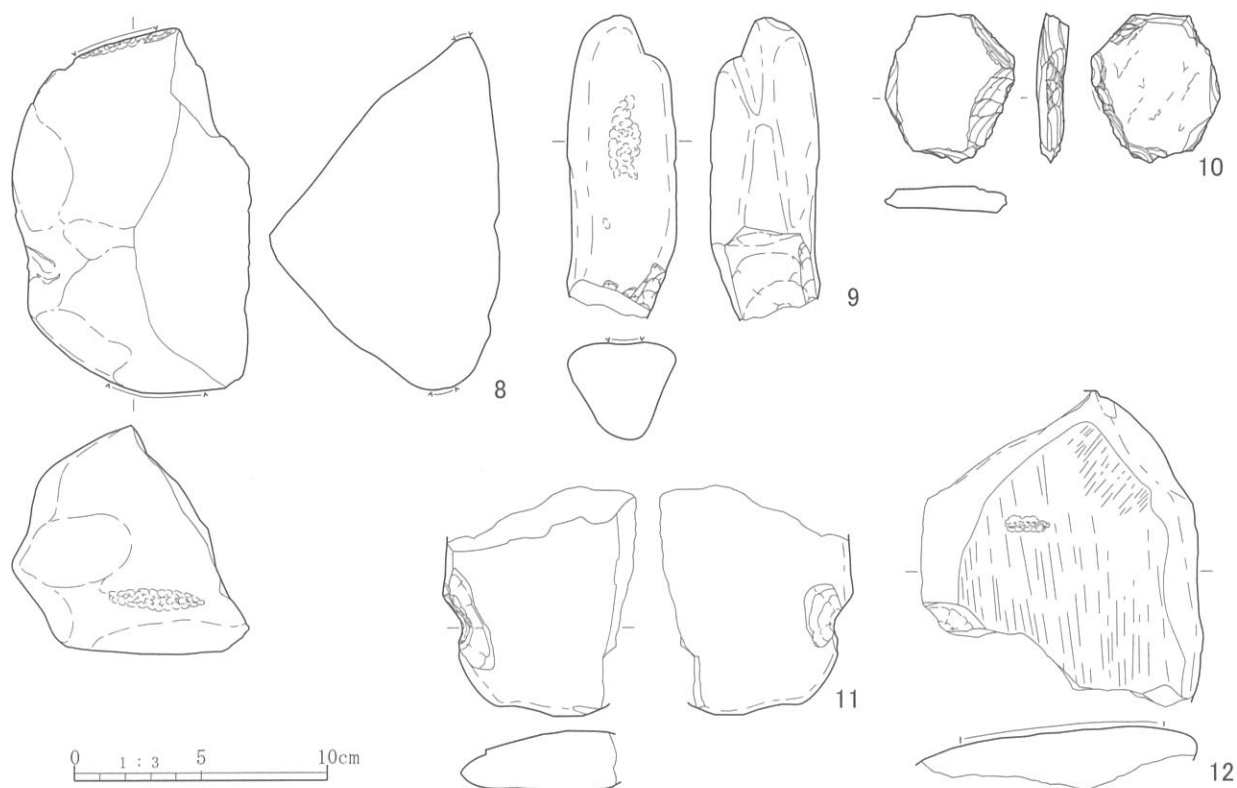
A 61.80m



図Ⅲ-47 集中区 38 関連遺構及び出土遺物(1)

表Ⅲ-72 集中区38出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-47-1	117-6	SP102A	ⅦB	77705	ⅢbL	ⅢF-212	W-37	甕	底部	ハケメ	ハケメ	1	
				74863	ⅢbL	-	W-38			ナデ	ナデ	1	
Ⅲ-47-2	117-9	SP554A	ⅦC2	77278	ⅢbL	ⅢF-215	W-39	坏	口縁～ 台部	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ	1	
				75342.76858.76862他	ⅢbL	-	W-37					4	
				74870.76881.81772他	ⅢbL	-	W-38					4	
Ⅲ-47-3	117-1	SP098A	ⅦB2a	85522	ⅢbL	-	X-38						
				76730	1	ⅢF-212	W-37	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	1	
73899	ⅢbL	V-36	1										
Ⅲ-47-4	117-2	SP147A	ⅦB2a	75340.75345.75346他	ⅢbL	-	W-37	甕	口縁	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	5	
Ⅲ-47-5	117-3	SP167A	ⅦB2a	79992	ⅢbL	ⅢP-37	W-37	甕	胴部	ミガキ	ナデ	1	
Ⅲ-47-6	117-4	SP169A	ⅦB	76735	1	ⅢF-212	W-37	甕	胴部	ミガキ	ナデ	1	
Ⅲ-47-7	117-5	SP168A	ⅦB2	79996	ⅢbL	ⅢP-37	W-37	甕	胴部	ハケメ	ハケメ	1	



図Ⅲ-48 集中区出土遺物(2)

表Ⅲ-73 集中区38出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-48-8	117-15	-	80718	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	ⅢSB-49	W-37	143.0	(94.0)	91.0	1200.0	Gra.	
Ⅲ-48-9	117-12	-	80820	たたき石	I a1	ⅢbL	ⅢSB-49	W-37	119.0	43.0	38.0	250.0	Sa.	
Ⅲ-48-10	117-20	-	73962	加工痕のある礫	-	ⅢbL	-	W-38	59.0	51.0	10.0	50.0	Cha.	
Ⅲ-48-11	117-21	-	80716	加工痕のある礫	-	ⅢbL	ⅢSB-49	W-37	91.0	76.0	24.0	210.0	Sa.	
Ⅲ-48-12	117-22	-	75327	線状痕のある礫	-	ⅢbL	-	W-37	112.0	125.0	74.0	330.0	Sa.	
-	117-10	-	75094	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	X-37	(86.0)	(74.0)	44.0	275.0	Sa.	
-	117-11	-	75143	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	X-38	(101.0)	(78.0)	56.0	560.0	Sa.	
-	117-13	-	76807	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	W-37	(97.0)	59.0	33.0	180.0	Sa.	
-	117-14	-	76837	たたき石	I a1	ⅢbL	-	W-37	(102.0)	57.0	29.0	240.0	Sa.	
-	117-16	-	76842	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	W-37	(60.0)	55.0	23.0	120.0	Sa.	
-	117-17	-	75132	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	X-38	(58.0)	70.0	23.0	140.0	Sa.	
-	117-18	-	76815	たたき石	Ⅱ a2	ⅢbL	-	W-37	82.0	48.0	25.0	115.0	Sa.	
-	117-19	-	76251	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	X-37	(98.0)	(97.0)	44.0	670.0	Sa.	
-	117-23	-	73934	台石	-	ⅢbL	-	W-38	164.0	144.0	46.0	1715.0	Sa.	
-	-	-	73989	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	V-37	(44.7)	(51.5)	35.4	80.0	Sa.	
-	-	-	75303	たたき石	Ⅱ b3	ⅢbL	-	W-37	71.0	43.0	36.0	150.0	Sa.	
-	-	-	80733	台石	Ⅱ	ⅢbL	ⅢSB-49	W-37	290.0	156.0	134.0	6500.0	Sa.	
-	-	-	80744	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	ⅢSB-49	W-37	(62.0)	58.0	34.0	140.0	Sa.	
-	-	-	80817	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	ⅢSB-49	W-37	(89.0)	61.0	38.0	340.0	Sa.	
-	-	-	75085	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	X-37	(85.8)	(87.7)	40.6	350.0	Sa.	
-	-	-	76391	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	X-38	(85.3)	58.2	37.4	265.0	Sa.	
-	-	-	81735	たたき石	Ⅳ	Ⅶ	ⅢF-227	W-37	103.8	56.3	26.0	225.0	Sa.	
-	-	-	75329	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	W-37	(39.8)	(36.6)	28.9	45.0	Sa.	

表Ⅲ-74 ⅢSB-49属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	80776	ⅢbL	完形	15.8	-44.3	9.0	-24.4	7.1	-14.2	1.8	-0.1	1.2	-	Sa.	
-	-	-	80719	ⅢbL	完形	17.4	-42.7	16.6	-16.8	6.4	-14.9	1.0	-0.8	2.4	-	Sa.	
-	-	-	80711	ⅢbL	完形	20.8	-39.3	19.4	-14.0	12.3	-9.0	1.1	-0.8	5.7	-	Sa.	
-	-	-	80769	ⅢbL	完形	24.7	-35.4	20.6	-12.8	17.7	-3.6	1.2	-0.7	9.3	-	Sa.	
-	-	-	80721	ⅢbL	完形	28.1	-32.0	16.5	-16.9	7.8	-13.5	1.7	-0.1	4.7	-	Sa.	
-	-	-	80745	ⅢbL	完形	42.3	-17.8	31.0	-2.4	11.2	-10.1	1.4	-0.5	18.8	-	Sa.	
-	-	-	80818	ⅢbL	完形	43.5	-16.6	33.1	-0.3	11.9	-9.4	1.3	-0.5	23.2	-	Sa.	
-	-	-	80756	ⅢbL	完形	61.8	1.7	47.9	14.5	18.0	-3.3	1.3	-0.6	80.9	-	Sa.	
-	-	-	80798	ⅢbL	完形	64.2	4.1	37.0	3.6	25.8	4.5	1.7	-0.1	82.5	-	Sa.	
-	-	-	80801	ⅢbL	完形	65.5	5.4	33.5	0.1	15.9	-5.4	2.0	0.1	48.0	-	Sa.	
-	-	-	80816	ⅢbL	完形	65.2	5.1	44.7	11.3	8.9	-12.4	1.5	-0.4	39.9	-	Sa.	
-	-	-	80751	ⅢbL	完形	63.7	3.6	38.3	4.9	24.6	3.3	1.7	-0.2	75.4	-	Sa.	
-	-	-	80710	ⅢbL	完形	66.9	6.8	37.7	4.3	28.2	6.9	1.8	-0.1	106.6	-	Sa.	
-	-	-	80753	ⅢbL	完形	67.0	6.9	33.7	0.3	16.7	-4.6	2.0	0.1	65.2	-	Sa.	
-	-	-	80752	ⅢbL	完形	67.4	7.3	32.7	-0.7	23.6	2.3	2.1	0.2	65.8	-	Sa.	
-	-	-	80819	ⅢbL	完形	67.3	7.2	34.0	0.6	26.2	4.9	2.0	0.1	89.5	-	Sa.	
-	118-24	-	80803	ⅢbL	完形	70.6	10.5	30.3	-3.1	29.1	7.8	2.3	0.5	101.9	-	Sa.	
-	-	-	80754	ⅢbL	完形	74.7	14.6	49.5	16.1	20.2	-1.1	1.5	-0.3	99.7	-	Sa.	
-	-	ⅢS1404	80782	ⅢbL	完形	74.8	14.7	43.2	9.8	21.5	0.2	1.7	-0.1	107.2	-	Sa.	他1点
-	-	-	80734	ⅢbL	完形	73.1	13.0	42.5	9.1	25.3	4.0	1.7	-0.1	100.7	-	Sa.	
-	-	ⅢS1405	80725	ⅢbL	完形	73.7	13.6	35.0	1.6	17.9	-3.4	2.1	0.3	73.3	-	Sa.	他1点
-	-	-	80800	ⅢbL	完形	74.3	14.2	34.7	1.3	19.6	-1.7	2.1	0.3	67.7	-	Sa.	
-	-	-	80824	ⅢbL	完形	74.2	14.1	34.5	1.1	19.1	-2.2	2.2	0.3	84.7	-	Sa.	
-	-	-	80774	ⅢbL	完形	77.4	17.3	47.0	13.6	18.0	-3.3	1.6	-0.2	85.5	-	Sa.	
-	-	-	80764	ⅢbL	完形	77.7	17.6	41.6	8.2	35.3	14.0	1.9	0.0	159.0	-	Sa.	
-	-	ⅢS1403	80762	ⅢbL	完形	78.0	17.9	42.3	8.9	23.2	1.9	1.8	0.0	84.1	-	Mud.	他1点
-	-	-	80799	ⅢbL	完形	82.1	22.0	44.4	11.0	19.2	-2.1	1.8	0.0	97.8	-	Sa.	
-	-	-	80793	ⅢbL	完形	83.8	23.7	49.1	15.7	28.8	7.5	1.7	-0.1	179.0	-	Sa.	
-	-	-	80728	ⅢbL	欠損	87.0	26.9	48.8	15.4	34.5	13.2	1.8	-0.1	145.3	-	Sa.	
-	-	-	80804	ⅢbL	略完形	85.9	25.8	42.5	9.1	22.3	1.0	2.0	0.2	116.9	-	Sa.	
-	-	-	80767	ⅢbL	完形	94.0	33.9	35.3	1.9	19.1	-2.2	2.7	0.8	82.8	-	Sa.	
-	-	-	80826	ⅢbL	完形	88.0	27.9	49.3	15.9	49.0	27.7	1.8	-0.1	120.9	-	Sa.	
-	-	-	80765	ⅢbL	完形	96.9	36.8	32.4	-1.0	18.0	-3.3	3.0	1.1	113.8	-	Sa.	
平均						60.1		33.4		21.3		1.85		79.3			

総点数 134点 ※完形 32点

F-212 を攪拌した際の土が堆積していた。37a では埋土上位の窪み中にⅢF-210・227 が形成されている。覆土の土壌サンプルからシカ、ウグイ、サケ属の骨と、アワ、キビをはじめとする炭化種子が得られているが、この土坑に直接伴うのではなく、ⅢF-210・227 のいずれかに伴うものと考えられる。37a は規模や堆積状態より土壙墓の可能性を想定した調査を行ったが、坑底面からの出土遺物や遺体層は検出していない。

焼土(図Ⅲ-46・47) : ⅢF-212 はⅢP-37 に切られているが、長さ 178 cm以上の規模を測る焼土である。上面を根により攪乱されているため、焼土層本来の厚さは不明である。土壌サンプルからはシカ、ウグイ、サケ属の骨とクルミ属をはじめとする炭化種子が得られた。ⅢF-210・227 はⅢP-37a 埋土中に検出した焼土で、ⅢF-210 は投棄された焼土粒であった。ⅢF-227 は窪み内で形成され、湾曲した燃焼面をもつ。土壌サンプルからはⅢF-212 と同じ組み合わせで骨と炭化種子が得られた。本集中区における焼土と土坑との重複状態は集中区 36・37 と類似し、同じ性格の遺構群の可能性が高い。

礫集中(図Ⅲ-46) : ⅢF-227 の南側約 150 cmの位置で検出した。200×150 cmの範囲で棒状を中心とする 134 点の礫が出土している。完形個体は 32 点で欠損率がやや高い。また礫集中内にたたき石、台石といった礫石器も多く含まれていた。

出土遺物(図Ⅲ-47・48):1・3~7は甕の破片で、いずれもⅧB2aに属すると考えられる資料である。1と7は内外面のハケメ調整痕が類似しているため同一個体片となる可能性がある。4と5についても沈線を引く際の工具が同じと思われることから同一個体の可能性がある。2はⅧC2に分類したが上げ底に成形された坏である。口縁部下位に段状沈線が廻り、内外面共丁寧にミガキ調整が加えられている。8・9・11はⅢSB-49で出土したもので、8は長軸両端部を使用した花崗岩製、9は平坦面を使用した砂岩製のたたき石、11は加工痕のある礫である。10は緑色チャート製の加工痕のある礫で、縁辺に微細な剥離が認められることから、火打石として利用された可能性が高い資料である。12は礫面に線状痕が形成された礫である。

集中区 39 (図Ⅲ-49~51 図版 40・41)

位置: V・W-38~40区 規模: 975×950cm

関連遺構: 土坑 ⅢP-42・43・46 焼土 ⅢF-209・211・213・215・220・222

礫集中 ⅢSB-50・57

確認・調査: V・W-38~40区のⅢb層調査時に礫を中心とする多数の遺物と共に複数の焼土を検出した。この場所では下位に続縄文時代の遺構・遺物が検出される可能性があったため、検出層位の把握に努め、ⅢF-209・211・213・215・220・222の6カ所を擦文文化期の焼土として捉えた。また多数出土した遺物の内、2カ所でまとまって出土した棒状礫の集中をⅢSB-50・57として設定した。それぞれ個別に記録を作成し、遺物の取上げを行った。取上げ終了後、周囲をⅢc上面まで掘削した際、Ⅲbの落込みを3カ所で確認したため半截して断面を観察した結果、底面が水平で基本土層が掘り込まれていることを確認したため土坑と判断し、ⅢP-42・43・46として設定した。

土坑(図Ⅲ-50): ⅢP-42・43は円形、46は楕円形の土坑で、いずれも壁面はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土はいずれも壁面崩落土と窪みに堆積した自然堆積土で構成されている。

焼土(図Ⅲ-50): 6カ所検出した焼土の内、ⅢF-209・211・213・215は焼骨片を伴う。ⅢF-220は燃焼面が攪乱を受けていたが、周囲で若干の焼骨片を確認したことから、本来は焼骨片を伴う焼土であったと考えられる。土壌サンプルからはシカを中心とする骨が主体として得られた。ただしこの場所は下位に形成された続縄文時代の焼骨片集中の骨も上がっていたため、擦文文化期の焼土に伴うものとは限らない。一方炭化種子については基本的に続縄文時代の焼土、焼骨片集中から雑穀類は検出されていないことから、ⅢF-220で得られたキビはこの焼土に伴うものと考えられる。

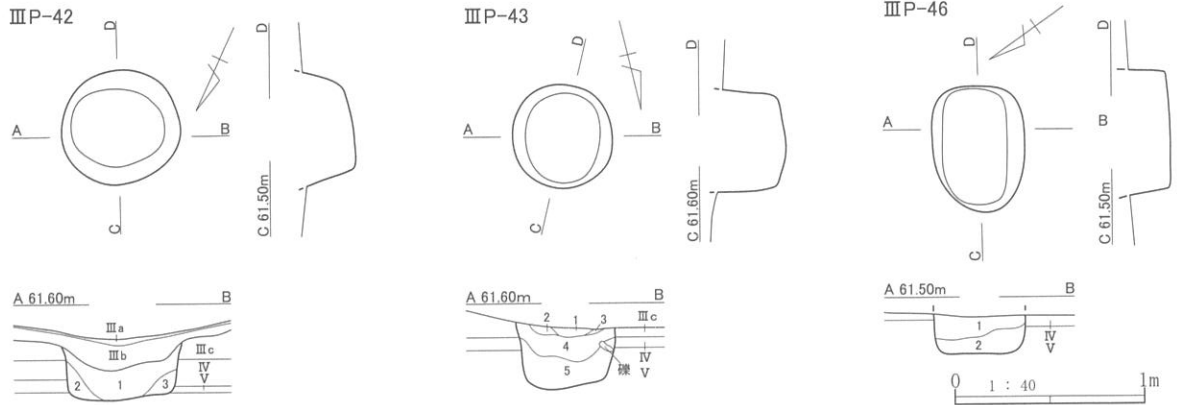
礫集中(図Ⅲ-49): ⅢSB-50はⅢF-220の北東側で出土した。110×70cmの範囲で216点の棒状を中心とする礫が出土した。完形個体は66点で欠損率は平均的である。ⅢSB-57はⅢF-220の東側で出土した礫集中で、独立した礫集中として現場段階で設定したが、出土位置・状態を考慮するとⅢSB-50の礫が動いたものと考えられる。

出土遺物(図Ⅲ-51): 1はⅢSB-50の東~南側で出土したⅧE4cの坏である。酸化炎焼成により色調は赤味を帯びるが本遺跡出土のロクロ製坏と比べ硬質の土器である。内外面に十字の火摺痕が残り、体部外面下方に「H」字形のヘラ記号が刻まれている。2はⅧC2の坏で、内外面共に精緻なミガキ調整が加えられ、平滑な器面を呈している。3・4は同一個体片で、ⅧB2aに属する甕の破片である。浅いが明瞭な沈線で胴部に施文されている。5はⅧB2aの別個体口縁部片で、やや深く細い沈線で施文されている。6はⅢSB-50で出土したたたき石で棒状礫の礫面と側縁を使用している。

集中区 39



図III-49 集中区39平面図



III P-42

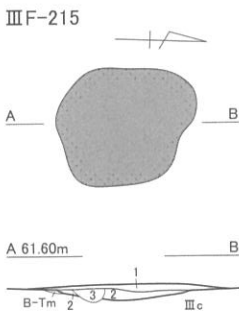
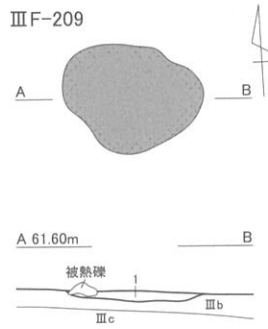
- 1 2.5Y3/2 黒褐色 IIIc = IV(斑状) 粘性弱 しまり強
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色 IV - IIIc(均一) 粘性弱 しまり中
- 3 2.5Y4/1 黄灰色 IIIc - IV(斑状) 粘性弱 しまり弱

III P-43

- 1 10YR2/1 黒色 IIIb 粘性中 しまりやや強
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色 IV = IIIc(斑状) 粘性弱 しまり中
- 3 10YR3/2 黒褐色 IIIc - IV(斑状) 粘性弱 しまり弱
- 4 10YR2/2 黒褐色 IIIc = B-Tm(斑状) 粘性中 しまり中
- 5 10YR2/2 黒褐色 IIIc = IV(斑状) 粘性中 しまり中

III P-46

- 1 10YR3/1 黒褐色 IIIc
- 2 10YR3/1 黒褐色 IIIc = IV(斑状)



III F-209

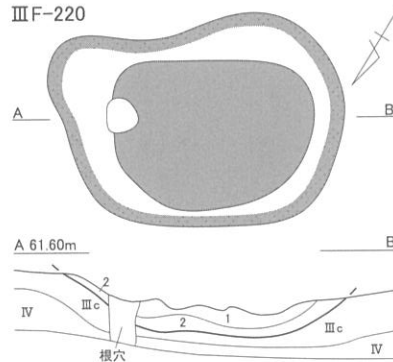
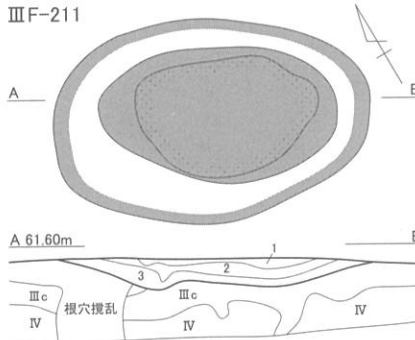
- 1 7.5YR4/6 褐色 焼土(IIIb地山被熱層) ≡ 焼骨片(均一)

III F-211

- 1 7.5YR2/2 黒褐色 IIIb = 焼骨片(均一)
- 2 7.5YR4/6 褐色 焼土(IIIc地山被熱層) やや硬くしまる
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 付帯黒色層

III F-213

- 1 7.5YR4/6 褐色 焼土(弱いIIIb地山被熱層) = 焼骨片(斑状) 粘性やや強
- 2 10YR2/2 黒色 付帯黒色層



III F-215

- 1 7.5YR3/4 暗褐色 IIIb ≡ 焼骨片(均一) 土壌化灰層
- 2 7.5YR5/4 にぶい褐色 焼土(IIIc地山被熱層)
- 3 7.5YR2/1 黒色 IIIc ≡ 焼骨片(均一)

III F-220

- 1 7.5YR4/4 褐色 焼土(IIIc地山被熱層) ≡ 焼骨片(均一) しまりやや中 粘性弱
- 2 10YR3/3 暗褐色 付帯黒色層 しまりやや中 粘性弱

III F-222

- 1 10YR3/4 暗褐色 焼土(IIIc地山被熱層) しまり中 粘性弱
- 2 10YR2/2 黒褐色 IIIc ≡ 焼土(斑状) 粘性中

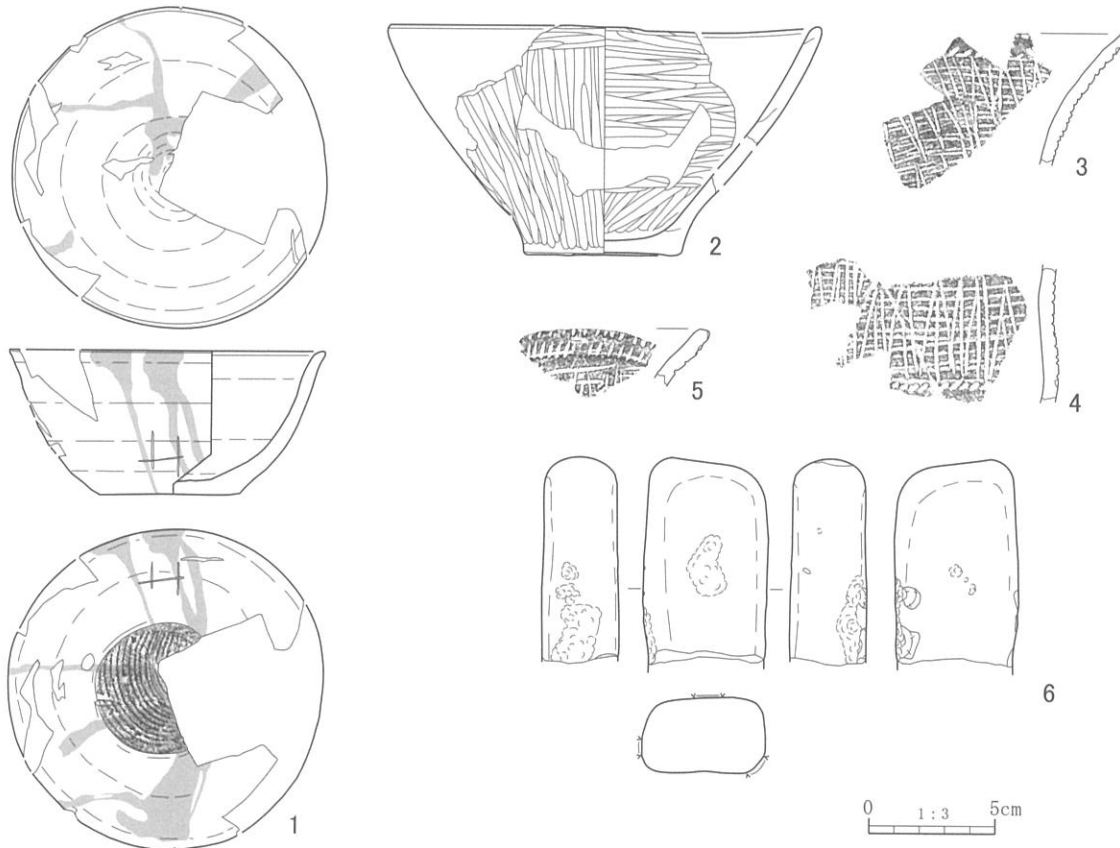
図III-50 集中区 39 関連遺構

表Ⅲ-75 集中区39土坑属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	調査面長短比	坑底面長短比	出土遺物	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-50	41-3・4	ⅢP-42	V-40	Ⅲc	楕円形/楕円形	64	60	48	42	28	N-53°E	1.07	1.14	—	
Ⅲ-50	41-5・6	ⅢP-43	V・W-39	Ⅲc	楕円形/楕円形	56	52	48	40	36	N-15°E	—	—	—	
Ⅲ-50	41-7・8	ⅢP-46	V-39	Ⅲc	楕円形/長楕円形	68	48	60	34	22	N-55°W	1.42	1.76	—	

表Ⅲ-76 集中区39焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-49・50	40-1・2	ⅢF-209	V-39	ⅢbL	楕円形	37	28	2	骨	
Ⅲ-49・50	40-3・4	ⅢF-211	V-39	ⅢbL	長楕円	84	54	8	骨	
Ⅲ-49・50	40-5・6	ⅢF-213	V-38	ⅢbL	長楕円	60	31	6	骨	
Ⅲ-49・50	40-7・8	ⅢF-215	W-39	ⅢbL	不整形	38	32	3	—	
Ⅲ-49・50	41-1	ⅢF-220	W-39	ⅢbL	楕円形	80	58	6	—	
Ⅲ-49・50	41-2	ⅢF-222	W-39	ⅢbL	楕円形	54	42	6	—	



図Ⅲ-51 集中区 39 出土遺物

表Ⅲ-77 集中区39出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-51-1	118-1	SP907A	ⅦE4C	82047.82048.82049	ⅢbL	ⅢSB-57	W-39	坏	口縁～ 底部	ロクロナデ	ロクロナデ	3	
				74869.76770.74871	ⅢbL							3	
				74787.78530.78535他	ⅢbL							11	
Ⅲ-51-2	118-5	SP551A	ⅦIC2	73969.73974.76765他	ⅢbL	-	W-38	坏	口縁～ 台部	ハケメ ミガキ	ミガキ	5	
				74959	ⅢbL							1	
Ⅲ-51-3	118-2	SP095A	ⅦIB2a	76865	ⅢbL	-	W-37	甗	口縁	ハケメ ミガキ (黒色処理)	ハケメ ナデ	1	
				74862.79372	ⅢbL							2	
Ⅲ-51-4	118-3	SP095B	ⅦIB2a	74955.76796	ⅢbL	-	W-39	甗	胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	2	
				76390	ⅢbL							1	
				82052	ⅢbL							1	
Ⅲ-51-5	118-4	SP108A	ⅦIB2a	74951.74952	ⅢbL	-	V-39	甗	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	2	

表Ⅲ-78 集中区39出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-51-6	118-6	-	80197	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	ⅢSB-50	W-39	(82.0)	49.0	30.0	170.0	Sa.	
-	118-7	-	79373	たたき石	I a1	ⅢbL	-	W-38	(101.0)	63.0	16.0	155.0	Sa.	
-	118-8	-	76792	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	W-39	(100.0)	50.0	(32.0)	245.0	Sa.	
-	118-9	-	80333	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	ⅢSB-50	W-39	(87.0)	53.0	25.0	155.0	Sa.	
-	118-10	-	76762	たたき石	Ⅱb1	ⅢbL	-	W-38	120.0	106.0	56.0	750.0	Sa.	
-	-	-	73780	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	W-40	(85.6)	60.7	24.9	200.0	Sa.	
-	-	-	79242	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	W-38	(111.0)	(82.3)	51.4	450.0	Sa.	
-	-	-	73929	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	-	W-38	(55.5)	67.6	36.2	165.0	Sa.	

表Ⅲ-79 ⅢSB-50属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
-	-	-	80207	ⅢbL	完形	35.7	-24.8	28.7	-0.2	13.8	-5.6	1.24	-0.76	24.5	-	Mud.	
-	-	-	80211	ⅢbL	完形	41.6	-18.9	28.3	-0.6	14.8	-4.6	1.47	-0.5	24.8	-	Sa.	
-	-	ⅢS1347	80203	ⅢbL	完形	40.4	-20.1	37.6	8.7	19.9	0.5	1.07	-0.9	44.4	-	Sa.	他3点
-	-	ⅢS1338	80297	ⅢbL	完形	43.2	-17.3	34.9	6.0	18.4	-1.0	1.24	-0.8	36.9	-	Sa.	他1点
-	-	-	80254	ⅢbL	完形	45.8	-14.7	28.1	-0.8	15.8	-3.6	1.63	-0.4	30.7	-	Sa.	
-	-	-	80174	ⅢbL	完形	44.0	-16.5	24.3	-4.6	13.7	-5.7	1.81	-0.2	28.2	-	Sa.	
-	-	-	80308	ⅢbL	完形	40.0	31.5	27.5	-1.4	23.0	3.6	1.45	-0.5	39.5	-	Sa.	
-	-	ⅢS1333	80309	ⅢbL	完形	38.8	-21.7	28.1	-0.8	18.8	-0.6	1.38	-0.6	34.1	-	Mud.	他1点
-	-	-	80237	ⅢbL	完形	48.7	-11.8	25.5	-3.4	18.6	-0.8	1.91	-0.1	28.1	-	Sa.	
-	-	-	80282	ⅢbL	完形	47.2	-13.3	30.3	1.4	26.5	7.1	1.56	-0.4	46.6	-	Sa.	
-	-	-	80224	ⅢbL	完形	47.1	-13.4	28.8	-0.1	19.4	0.0	1.64	-0.4	40.7	-	Sa.	
-	-	-	80168	ⅢbL	完形	49.5	-11.0	28.5	-0.4	18.6	-0.8	1.74	-0.3	24.0	-	Mud.	
-	-	-	80256	ⅢbL	完形	46.9	-13.6	28.3	-0.6	22.2	2.8	1.66	-0.3	39.5	-	Sa.	
-	-	-	80173	ⅢbL	完形	51.6	-8.9	23.9	-5.0	19.2	-0.2	2.16	0.2	19.5	-	Mud.	
-	-	ⅢS1344	80244	ⅢbL	完形	47.3	-13.2	27.3	-1.6	11.4	-8.0	1.73	-0.3	23.9	-	Mud.	他1点
-	119-14	-	80255	ⅢbL	完形	51.9	-8.6	35.0	6.1	11.7	-7.7	1.48	-0.5	33.1	-	Sa.	
-	-	-	80187	ⅢbL	完形	55.5	-16.6	40.0	11.1	22.2	2.8	1.10	-0.9	44.6	-	Sa.	
-	-	-	80300	ⅢbL	完形	55.4	-5.1	33.5	4.6	13.9	-5.5	1.65	-0.3	39.2	-	Sa.	
-	-	-	80301	ⅢbL	完形	53.6	-6.9	27.8	-1.1	11.9	-7.5	1.93	-0.1	24.1	-	Sa.	
-	-	-	80182	ⅢbL	完形	53.5	-7.0	34.5	5.6	11.6	-7.8	1.55	-0.4	30.0	-	Sa.	
-	-	-	80200	ⅢbL	完形	54.6	-5.9	29.5	0.6	22.5	3.1	1.85	-0.1	38.6	-	Sa.	
-	-	ⅢS1349	80158	ⅢbL	完形	57.1	-3.4	23.3	-5.6	17.9	-1.5	2.45	0.5	25.3	-	Mud.	他1点
-	-	-	80239	ⅢbL	完形	54.4	-6.1	33.1	4.2	15.4	-4.0	1.64	-0.4	33.7	-	Sa.	
-	-	-	80189	ⅢbL	完形	56.7	-3.8	33.7	4.8	12.6	-6.8	1.68	-0.3	27.3	-	Sa.	
-	-	-	80304	ⅢbL	完形	54.5	-6.0	29.0	0.1	19.2	-0.2	1.88	-0.1	33.0	-	Mud.	
-	-	-	80241	ⅢbL	完形	54.9	-5.6	35.1	6.2	15.8	-3.6	1.56	-0.4	33.9	-	Sa.	
-	-	-	80217	ⅢbL	完形	54.3	-6.2	33.9	5.0	13.6	-5.8	1.60	-0.4	40.0	-	Sa.	
-	-	-	80154	ⅢbL	完形	53.5	-7.0	26.2	-2.7	24.9	5.5	2.04	0.0	56.5	-	Sa.	
-	-	-	80185	ⅢbL	完形	57.5	-3.0	28.5	-0.4	22.5	3.1	2.02	0.0	43.9	-	Sa.	
-	-	-	80330	ⅢbL	完形	56.9	-3.6	32.9	4.0	17.1	-2.3	1.73	-0.3	41.2	-	Sa.	
-	-	ⅢS1341	80139	ⅢbL	完形	55.0	-5.5	27.1	-1.8	12.9	-6.5	2.03	0.0	33.7	-	Sa.	他3点

表Ⅲ-79 ⅢSB-50属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	80214	ⅢbL	完形	57.8	-2.7	24.9	-4.0	20.5	1.1	2.32	0.3	37.6	-	Sa.	
-	-	-	80258	ⅢbL	完形	58.3	-2.2	27.3	-1.6	13.3	-6.1	2.14	0.1	29.6	-	Sa.	
-	-	-	80169	ⅢbL	完形	58.4	-2.1	22.0	-6.9	21.6	2.2	2.65	0.7	29.3	-	Sa.	
-	-	-	80285	ⅢbL	完形	57.5	-3.0	30.6	1.7	15.3	-4.1	1.88	-0.1	40.0	-	Sa.	
-	ⅢS1340	-	80247	ⅢbL	完形	56.1	-4.4	23.9	-5.0	26.9	7.5	2.35	0.3	35.3	-	Mud.	他1点
-	-	-	80262	ⅢbL	完形	58.6	-1.9	26.4	-2.5	18.4	-1.0	2.22	0.2	32.5	-	Sa.	
-	-	-	80283	ⅢbL	完形	51.9	-8.6	23.1	-5.8	21.6	2.2	2.25	0.2	35.5	-	Sa.	
-	-	-	80162	ⅢbL	完形	60.2	-0.3	20.5	-8.4	15.8	-3.6	2.94	0.9	22.1	-	Mud.	
-	-	-	80209	ⅢbL	完形	61.0	0.5	26.2	-2.7	21.1	1.7	2.33	0.3	38.8	-	Mud.	
-	-	-	80188	ⅢbL	完形	62.7	2.2	26.0	-2.9	16.3	-3.1	2.41	0.4	32.2	-	Sa.	
-	-	-	80284	ⅢbL	完形	59.1	-1.4	37.9	9.0	18.0	-1.4	1.56	-0.4	45.0	-	Mud.	
-	-	-	80201	ⅢbL	完形	61.7	1.2	37.7	8.8	14.2	-5.2	1.64	-0.4	33.2	-	Mud.	
-	-	-	80171	ⅢbL	完形	63.9	3.4	29.3	0.4	20.2	0.8	2.18	0.2	33.5	-	Sa.	
-	-	-	80288	ⅢbL	完形	61.5	1.0	35.4	6.5	15.3	-4.1	1.74	-0.3	43.8	-	Sa.	
-	ⅢS1354	-	80289	ⅢbL	略完形	64.0	3.5	30.0	1.1	21.2	1.8	2.13	0.1	51.0	-	Sa.	他2点
-	-	-	80216	ⅢbL	完形	63.1	2.6	34.7	5.8	17.1	-2.3	1.82	-0.2	49.4	-	Sa.	
-	ⅢS1348	-	80199	ⅢbL	完形	68.1	7.6	35.2	6.3	15.6	-3.8	1.93	-0.1	44.7	-	Sa.	他1点
-	-	-	80348	ⅢbL	完形	70.2	9.7	35.1	6.2	15.2	-4.2	2.00	0.0	59.4	-	Sa.	
-	ⅢS1350	-	80183	ⅢbL	完形	68.5	8.0	27.0	-1.9	21.5	2.1	2.54	0.5	55.3	-	Sa.	他1点
-	-	-	80243	ⅢbL	完形	69.4	8.9	25.0	-3.9	14.1	-5.3	2.78	0.8	30.4	-	Sa.	
-	-	-	80146	ⅢbL	完形	69.9	9.4	25.4	-3.5	11.2	-8.2	2.75	0.8	27.3	-	Sa.	
-	-	-	80240	ⅢbL	完形	71.8	11.3	32.4	3.5	19.4	0.0	2.2	0.2	50.2	-	Sa.	
-	-	-	80295	ⅢbL	完形	72.6	12.1	36.6	7.7	22.3	2.9	2.0	0.0	106.5	-	Sa.	
-	-	-	80347	ⅢbL	完形	75.8	15.3	40.1	11.2	25.7	6.3	1.9	-0.1	90.8	-	Sa.	
-	-	-	80165	ⅢbL	完形	75.0	14.5	46.3	17.4	28.5	9.1	1.6	-0.4	156.4	-	Sa.	
-	-	-	80334	ⅢbL	完形	76.3	15.8	30.0	1.1	25.4	6.0	2.5	0.5	105.2	-	Sa.	
-	-	-	80276	ⅢbL	完形	78.9	18.4	35.6	6.7	29.8	10.4	2.2	0.2	127.3	-	Sa.	
-	-	-	80248	ⅢbL	完形	81.0	20.5	39.1	10.2	31.0	11.6	2.1	0.1	117.0	-	Sa.	
-	-	-	80263	ⅢbL	完形	79.1	18.6	28.0	-0.9	33.4	14.0	2.8	0.8	124.6	-	Sa.	
-	-	-	80343	ⅢbL	完形	82.3	21.8	40.2	11.3	17.3	-2.1	2.0	0.0	96.6	-	Sa.	
-	-	-	80268	ⅢbL	完形	79.8	19.3	45.3	16.4	26.4	7.0	1.8	-0.2	147.9	-	Sa.	
-	-	-	80252	ⅢbL	完形	73.7	13.2	47.5	18.6	23.9	4.5	1.6	-0.4	152.1	-	Sa.	
-	-	-	80218	ⅢbL	完形	88.2	27.7	47.8	18.9	23.6	4.2	1.8	-0.2	118.3	-	Sa.	
-	-	-	80160	ⅢbL	完形	97.8	37.3	43.4	14.5	28.6	9.2	2.3	0.3	148.5	-	Sa.	
-	-	-	80327	ⅢbL	完形	165.0	104.5	46.9	18.0	39.5	20.1	3.5	1.5	610.0	-	Sa.	
平均						61.1		30.9		19.5		2.0		60.9			
												総点数	216点	※完形 66点			

表Ⅲ-80 ⅢSB-57属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	82046	ⅢbL	完形	74.9	-38.9	35.7	-35.0	18.8	-14.5	2.1	-0.1	68.5	-	Sa.	
-	-	-	82028	ⅢbL	完形	72.2	-41.6	28.7	-42.0	26.3	-7.0	2.5	0.3	78.8	-	Sa.	
-	-	-	82040	ⅢbL	完形	75.8	-38.0	45.1	-25.6	25.9	-7.4	1.7	-0.5	116.0	-	Sa.	
-	-	-	82029	ⅢbL	完形	78.9	-34.9	44.1	-26.6	29.5	-3.8	1.8	-0.4	120.9	-	Sa.	
-	119-15	-	82038	ⅢbL	完形	87.9	-25.9	33.1	-37.6	24.8	-8.5	2.7	0.4	117.7	-	Sa.	
-	-	-	80546	ⅢbL	完形	101.4	-12.4	84.1	13.4	61.2	27.9	1.2	-1.0	675.0	-	Sa.	
-	-	-	79192	ⅢbL	完形	101.6	-12.2	105.6	34.9	30.4	-2.9	1.0	-1.3	415.0	-	Sa.	
-	-	-	80540	ⅢbL	欠損	167.0	53.2	43.3	-27.4	-13.3	-46.6	3.9	1.6	179.9	-	Bl-Sch.	
-	-	-	80445	ⅢbL	完形	151.0	37.2	145.5	74.8	63.0	29.7	1.0	-1.2	2300.0	-	Sa.	
平均						113.8		70.7		33.3		2.23		509.0			
												総点数	37点	※完形 8点			

集中区 40 (図Ⅲ-52~54 図版 42)

位置：AA~AC-26~28区 規模：1,050×800cm

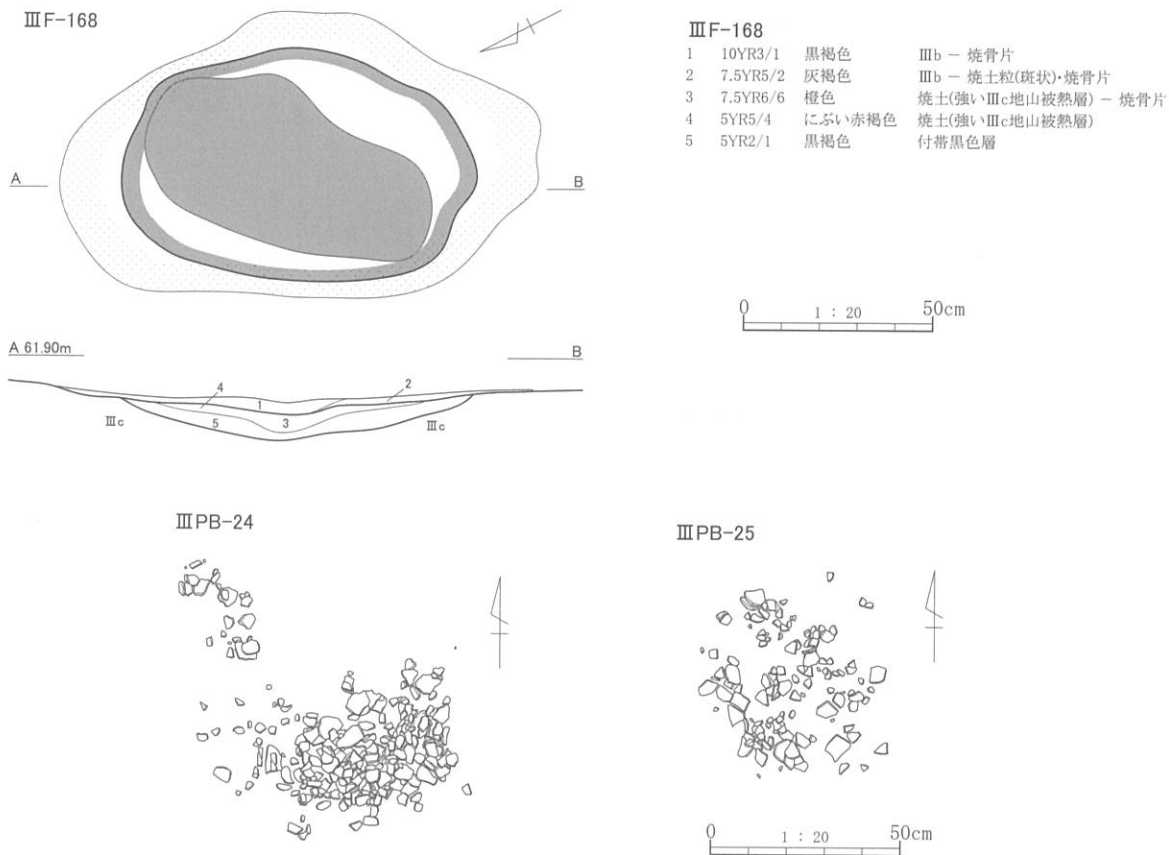
関連遺構：焼土 ⅢF-168 土器集中 ⅢPB-24・25

確認・調査：AA~AC-26~28区のⅢb層調査時に、焼土1カ所(ⅢF-168)と土器集中2カ所(ⅢPB-24・25)を検出した。それぞれ関連する遺構と考えたため検出状態の撮影を行った後、個別に記録を作成

集中区 40



図Ⅲ-52 集中区 40 平面図



図Ⅲ-53 集中区 40 関連遺構

表Ⅲ-81 集中区40焼土属性表

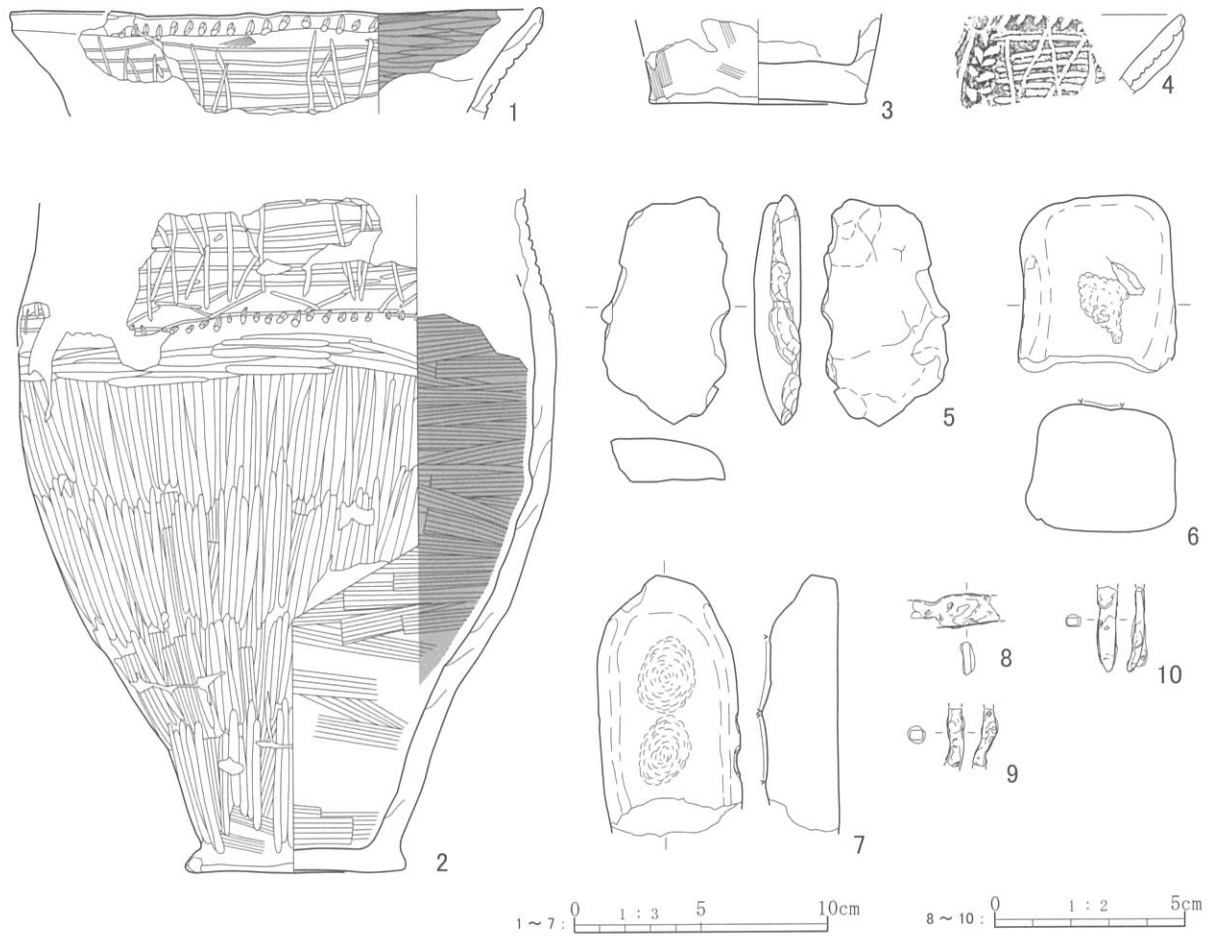
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-52・53	42-2・3	ⅢF-168	AA・AB-26	ⅢbL	長楕円形	94	62	7	骨	

した。なお土器集中出土状態の図化はデジタル写真実測を委託している。遺物取り上げ後、ⅢF-168に関連する杭跡確認のため、Ⅲc～Ⅳ層上面において周囲の精査を行ったが検出には至らなかった。

焼土(図Ⅲ-53)：ⅢF-168は北東-南西方向に長軸を向けた楕円形の焼土である。長さ88cm、焼土層の厚さ4cmの規模を測る。上位に焼骨片を伴い、燃焼面は浅く窪んでいた。土壌サンプルからはウグイ、サケ属といった魚骨を中心とする骨が得られた。またヒエ、キビをはじめとする炭化種子も得ており、ヒエについては今回報告対象の遺構中最も多い数が得られた。

土器集中(図Ⅲ-53)：ⅢPB-24は85×70cmの範囲で338点、ⅢPB-25では60×50cmの範囲で144点の土器片が出土している。共に著しく細片化し、他の集中区との間に接合関係はない。

出土遺物(図Ⅲ-54)：1・2は同一個体で、ⅢPB-24で出土したⅧB2aの甕である。浅い沈線で施文され、外面はミガキ調整、内面は胴部においてハケメ調整、口縁部付近でミガキ調整が行われている。3はⅢPB-25で出土した甕の底部片。4はⅧB2aの口縁部片で、縦位の粘土紐が貼付されており、色調は赤味を帯びている。5は石英片岩を素材とし、縁辺に細かい剥離が形成されている。素材や剥離の特徴から、火打石と考えられる。6・7はたたき石で、棒状礫の平坦面が使用され、7では敲打による窪みが顕著である。8～10は用途不明の板状・棒状鉄片である。



図Ⅲ-54 集中区 40 出土遺物

表Ⅲ-82 集中区40出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-54-1	120-1	SP130B	VII B2a	62505.62539.63119他	ⅢbL	ⅢPB-24	AB-27 AB-26	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	10	
Ⅲ-54-2	120-2	SP130A	VII B2a	60259.60264.60266他	ⅢbL	ⅢF-168	AC-26	甕	胴部～ 底部	ハケメ	ハケメ ミガキ	5	
				60938.62616.63127他	ⅢbL	ⅢPB-24	AB-26					76	
				60937	ⅢbL	ⅢPB-25	AB-27					1	
Ⅲ-54-3	120-4	SP132B	VII B	60846.60900.62125他	ⅢbL	ⅢPB-25	AC-26	甕	底部	ナデ	ハケメ ナデ	7	
Ⅲ-54-4	120-3	SP117A	VII B2a	60260	ⅢbL	ⅢF-168	AB-26	甕	口縁	ミガキ	ハケメ ナデ	1	

表Ⅲ-83 集中区40出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-54-5	120-5	-	60201	火打石	-	ⅢbL	ⅢF-168	AA-26	60.0	33.0	12.0	30.0	Qu-Sch.	
Ⅲ-54-6	120-6	-	58768	たたき石	IV	ⅢbL	-	AC-26	70.0	62.0	50.0	330.0	Sa.	
Ⅲ-54-7	120-7	-	60090	たたき石	-	ⅢbL	ⅢF-168	AA-26	(100.6)	54.3	36.2	240.0	Sa.	
-	120-8	-	60068	たたき石	IV	ⅢbL	ⅢF-168	AA-26	(50.0)	66.0	22.0	85.0	Sa.	
-	120-9	-	60058	たたき石	I b1	ⅢbL	ⅢF-168	AA-26	110.0	44.0	40.0	260.0	Sa.	
Ⅲ-54-8	120-10	-	56007	板状鉄片	-	ⅢbU	-	AA-26	(2.9)	15.0	3.0	1.7	Irn.	
Ⅲ-54-9	120-11	-	60255	棒状鉄片	-	ⅢbL	ⅢF-168	AB-26	(15.5)	5.0	5.0	0.6	Irn.	
Ⅲ-54-10	120-12	-	60256	棒状鉄片	-	ⅢbL	ⅢF-168	AB-26	(23.0)	6.0	3.5	1.0	Irn.	

集中区 41 (図Ⅲ-55~58 図版 43)

位置：AB・AC-28~30区 規模：1,350×650cm

関連遺構：焼土 ⅢF-183・198・202 焼骨片集中 ⅢBB-23 炭化物集中 ⅢCB-86

土器集中 ⅢPB-31・32・45 礫集中 ⅢSB-38・39

確認・調査：火山灰除去中に、試掘トレンチの壁面において焼土を確認した(ⅢF-183)。周囲のⅢb層調査に着手し、焼土形成面まで掘削した際、土器集中(ⅢPB-31・32)と礫集中(ⅢSB-38・39)を2カ所ずつ検出した。周囲でも多数の遺物が出土したため、図化についてはデジタル写真実測を委託した。調査を進めたところ、ⅢF-183と重複する焼土が1カ所(ⅢF-198)と、その北東側で焼骨片集中(ⅢBB-23)と別の焼土1カ所(ⅢF-202)を新たに確認し、ⅢPB-32の東では炭化物の集中1カ所(ⅢCB-86)を確認した。

焼土(図Ⅲ-56)：ⅢF-183・198は重複して検出した焼土で、ⅢF-198が新しい。ⅢF-183は長さ70cm以上、ⅢF-198は長さ110cmで、共に厚さ6cmの良好な焼土層が形成されている。共に焼骨片を伴い、ⅢF-183は燃焼面が窪んでいる。燃焼面直上では黒曜石フレイクその他、石英片岩のフレイク・チップも多数出土している。本遺跡では擦文文化期の遺物として石英片岩製の火打石と考えられる遺物が出土しているが(乾・小野・奈良 2007)、焼土に伴う多数の石英片岩フレイク・チップは、その出土状況から、火打石のかけらと考えられる。ⅢF-202は長さ36cmの小規模な焼土である。焼土上位で確認した焼骨片集中ⅢBB-23はこの焼土に伴うものと考えられる。土壌サンプルからはそれぞれウグイ、サケ属、哺乳綱の骨が得られた他、炭化種子ではⅢF-183で多数のキビを得ている。また同じくⅢF-183からは多数の微細な石英片岩チップが得られた。

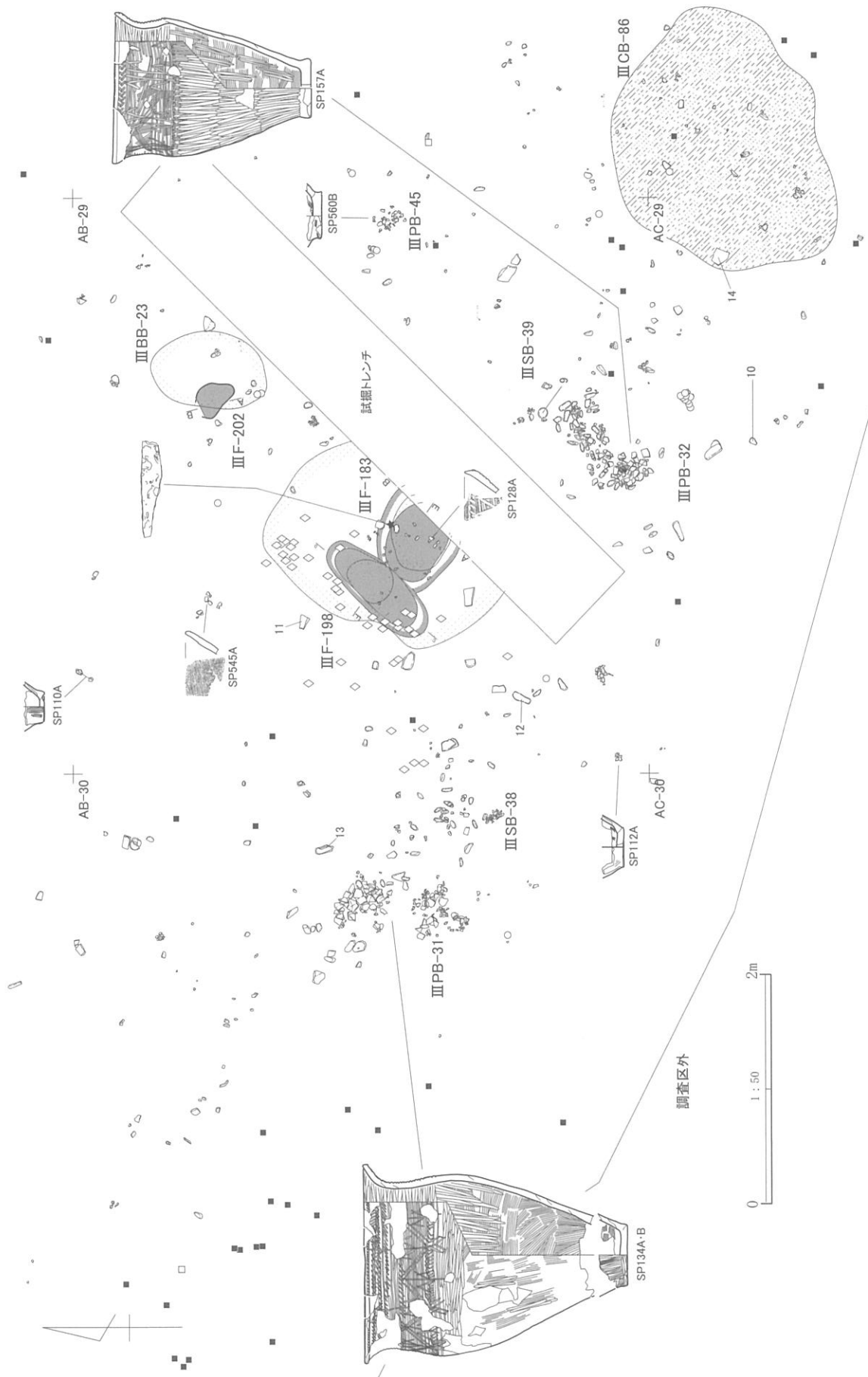
炭化物集中(図Ⅲ-55)：ⅢPB-32の東側で検出した230×200cmの範囲に広がる炭化物の集中である。クルミ属をはじめとする炭化種子が少量含まれていた。

土器集中(図Ⅲ-56)：ⅢPB-31はⅢF-183の西側で出土した土器集中で、ⅢSB-38と重なっている。90×50cmの範囲で117点の土器片が出土した。ⅢPB-32はⅢF-183の東側で出土し、ⅢSB-39と重なっている。50×40cmの範囲で171点の土器片が出土した。共に他の集中区との間に接合関係はない。

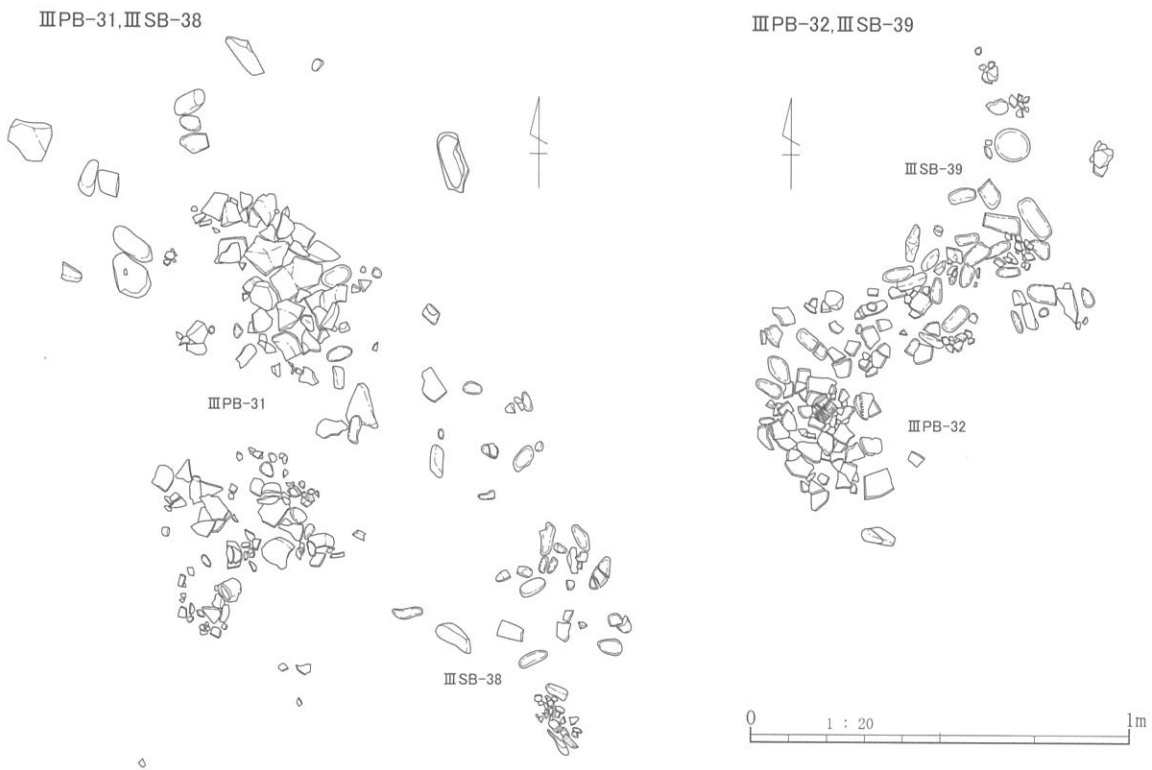
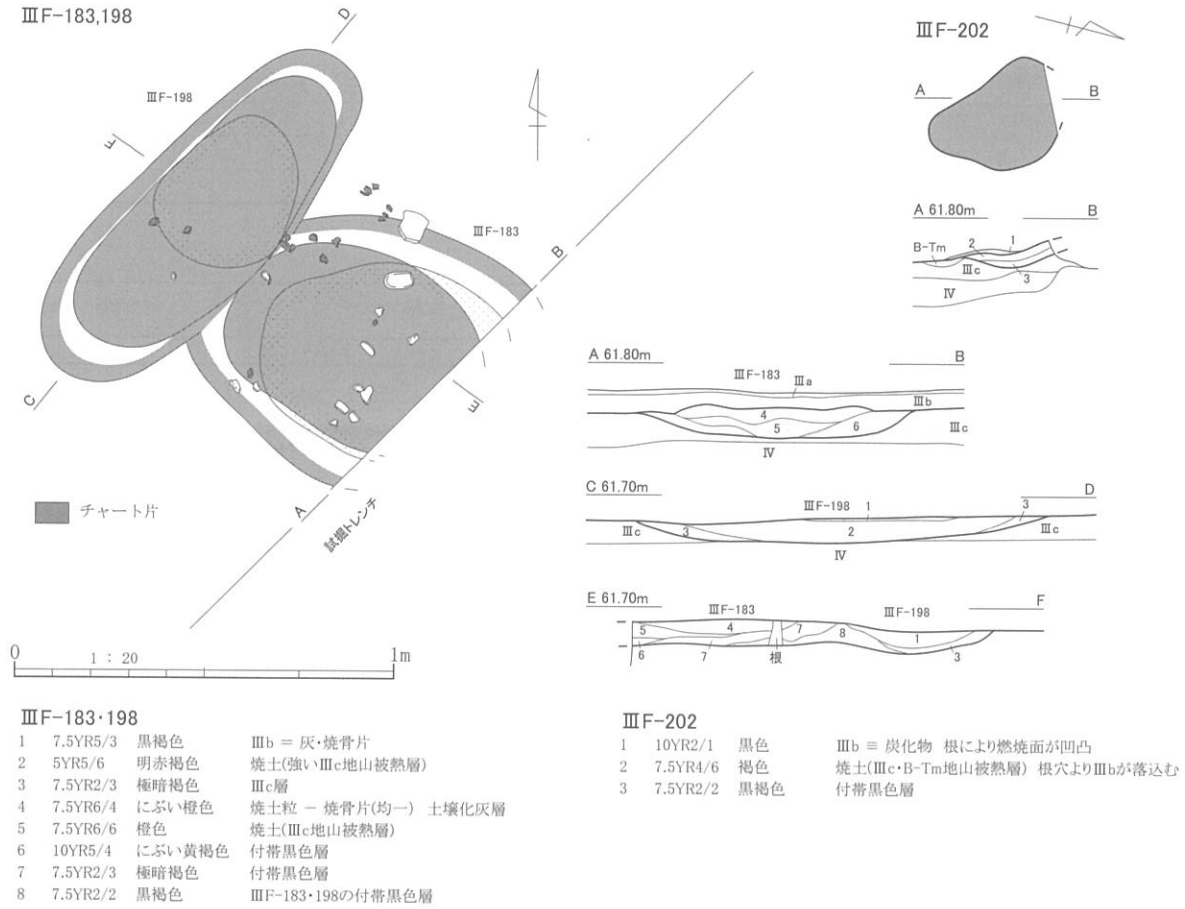
礫集中(図Ⅲ-56)：ⅢSB-38とⅢSB-39は共に棒状礫を主体とする礫集中で、それぞれⅢPB-31、ⅢPB-32と重なっている。ⅢSB-38は210×120cmの範囲で160点の礫が、ⅢSB-39は120cm×60cmの範囲に247点の礫が出土している。

出土遺物(図Ⅲ-57・58)：1・2はⅢPB-31で出土した同一個体の甕で、外面には粗いハケメ調整が加えられ、砂粒の移動が顕著である。ミガキ調整は内外面共に胴上半部のみ行われている。3はⅢPB-32で出土したもので、太く深い沈線で施文され、口縁部と文様帯下縁の刻みには工具の木口面を押し当てた跡が残る。胴部外面はミガキ調整が著しい。4~6は底部片で、4は底部が上げ底に成形されているため続縄文時代の土器の可能性もある。5は甕の底部。6はⅢPB-45で出土した坏の底部片である。7はⅧB3aの口縁部片で、深く明瞭な沈線で施文されている。8は坏の口縁部片で細く浅い沈線で施文されている。9~13はたたき石で、9は円形の扁平礫を素材とし、側縁の下端が使用され、表面に滑沢面が形成されている。14は表面に滑沢面が形成された板状礫である。15・16は鉄製品で、15は刀子片、16は断面方形で、棒状鉄片としたが刀子の茎片の可能性はある。

集中区 41



図III-55 集中区 41 平面図



図III-56 集中区 41 関連遺構

表Ⅲ-84 集中区41焼土属性表

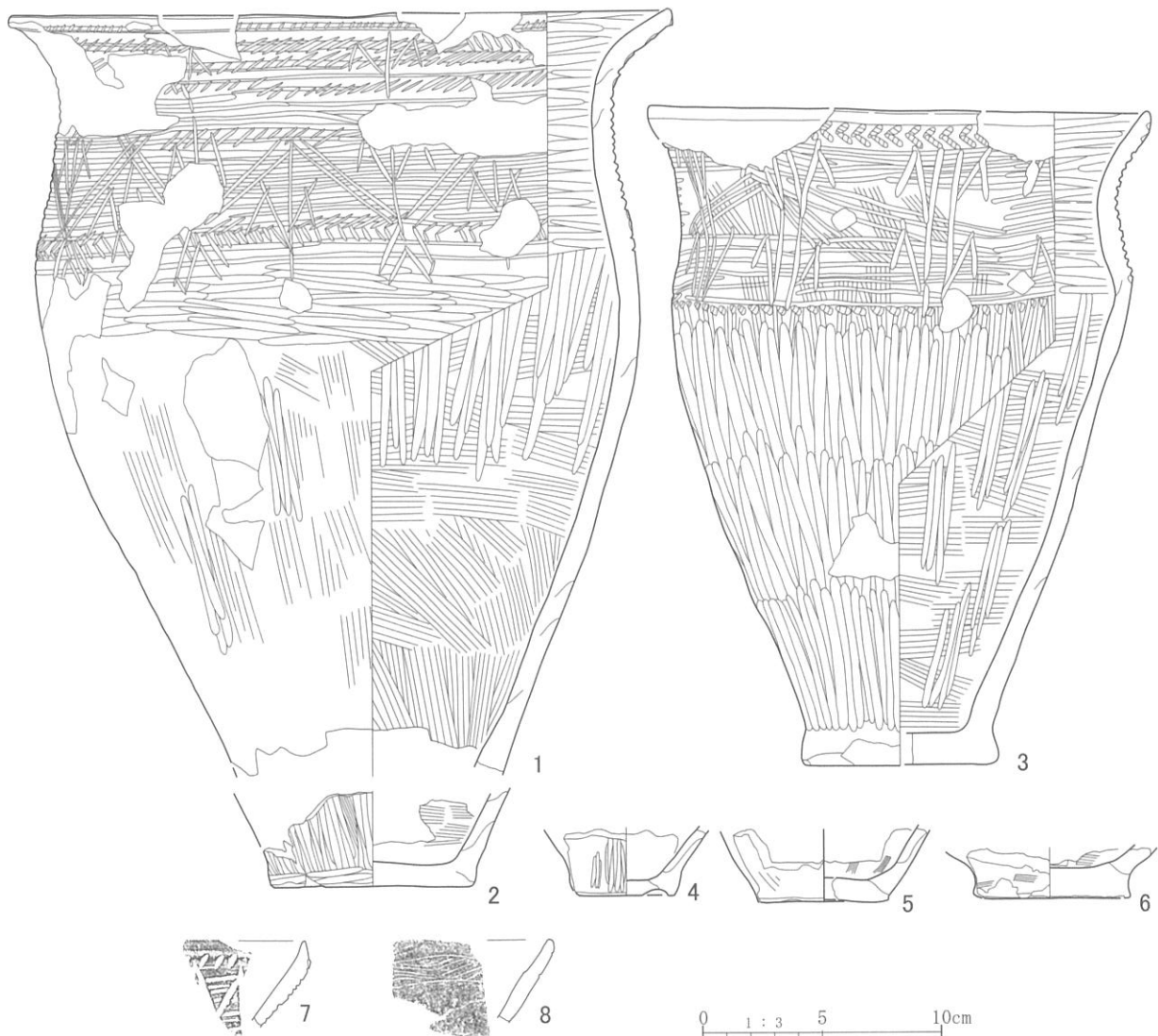
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-55・56	41-2・3	ⅢF-183	AB-29	ⅢbL	長楕円形	(74)	74	8	骨	ⅢF-198と重複
Ⅲ-55・56	41-2・4	ⅢF-198	AB-29	ⅢbL	長楕円形	110	44	8	骨	ⅢF-183と重複
Ⅲ-55・56	41-5	ⅢF-202	AB-29	ⅢbL	不整形	(36)	28	4	—	

表Ⅲ-85 集中区41焼骨片集中属性表

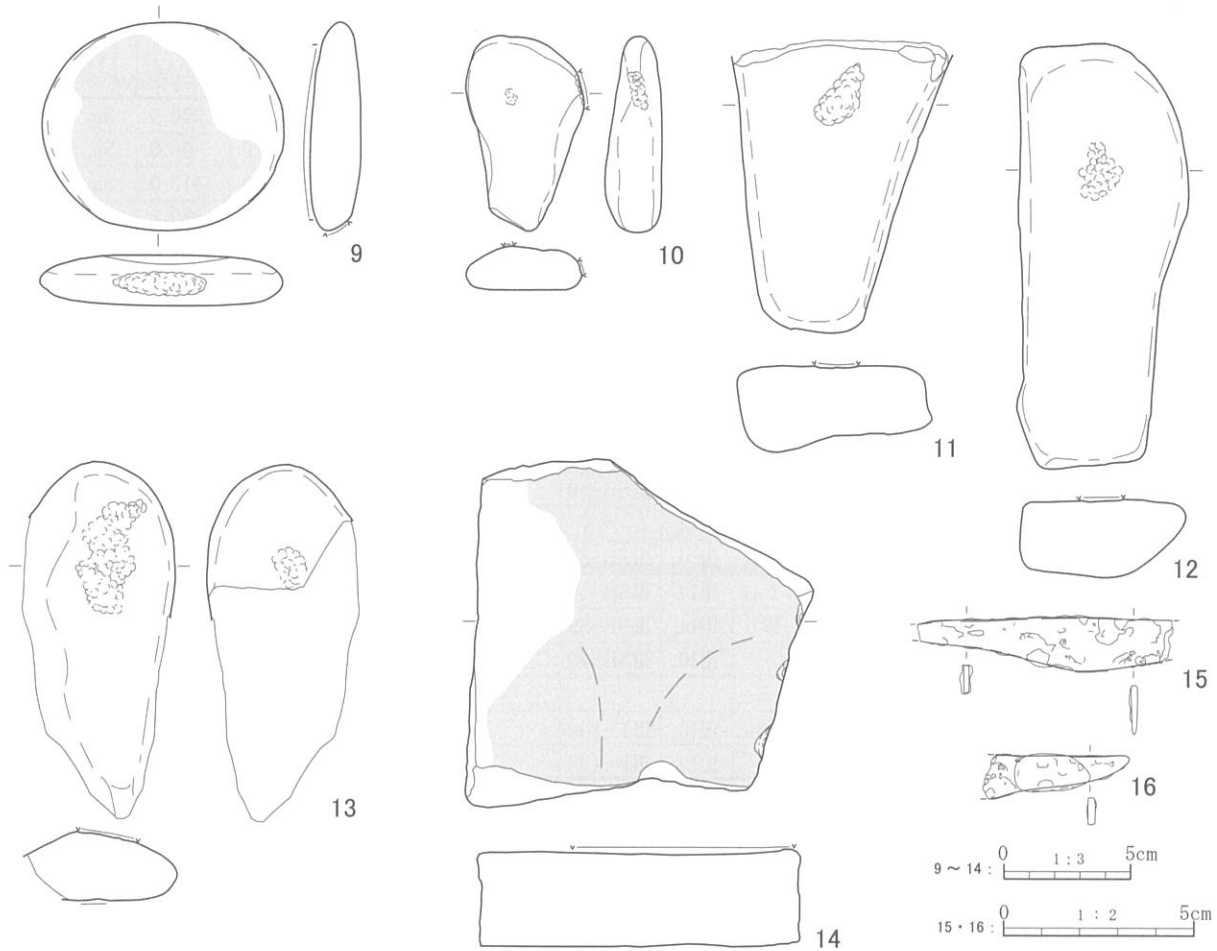
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
Ⅲ-55	—	ⅢBB-23	AB-29	ⅢbL	楕円形	100	65	—	被熱	ⅢF-202	

表Ⅲ-86 集中区41炭化物集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
Ⅲ-55	—	ⅢCB-86	AB・AC -28・29	ⅢbL	不整形円形	230	200	



図Ⅲ-57 集中区 41 出土遺物(1)



図Ⅲ-58 集中区 41 出土遺物(2)

表Ⅲ-87 集中区41出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-57-1	121-1	SP134A	VII B3a	68392.68412.70305他	ⅢbL	ⅢPB-32	AB-30	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ ミガキ	68	
				68495.70071	ⅢbL	ⅢSB-38	AB-30					2	
				71016	Ⅲc		AB-30					1	
				63907.63915.63916他	ⅢbL	—	AB-31					5	
				63582	ⅢbL		X-29					1	
Ⅲ-57-2	121-2	SP134B	VII B3a	68419.68483.70301他	ⅢbL	ⅢPB-32	AB-30	甕	底部	ハケメ	ハケメ ミガキ	20	
Ⅲ-57-3	121-3	SP157A	VII B3a	69502.69561.70404他	ⅢbL	ⅢPB-31	AC-29	甕	口縁～ 底部	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ	52	
				67551	ⅢbL	ⅢSB-43	V-30					1	
				69618	ⅢbL		AB-29					1	
				69619	ⅢbL		AC-28					1	
				67570.67571.67575他	ⅢbL	—	S-30					4	
				67562	ⅢbL		S-31					1	
				65566	ⅢbL		T-28					1	
Ⅲ-57-4	121-5	SP110A	VII C4	70026.70031	ⅢbL	—	AB-29	甕	底部	ナデ	ナデ ミガキ	2	
Ⅲ-57-5	121-6	SP112A	VII B	71020.71023.71024	Ⅲc	—	AB-29	甕	底部	ハケメ ナデ	ナデ	5	
Ⅲ-57-6	121-8	SP560B	VII C3	69856	ⅢbL	ⅢPB-45	AB-29	坏	体部	ハケメ ナデ 黒色処理?	ハケメ ナデ	3	
Ⅲ-57-7	121-4	SP128A	VII B3a	68908	ⅢbL	ⅢF-183	AB-29	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	1	
Ⅲ-57-8	121-7	SP545A	VII C4	70028.70034	ⅢbL	—	AB-29	坏	口縁	ハケメ ミガキ	ミガキ	2	

表Ⅲ-88 集中区41出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-58-9	121-9	-	69633	たたき石	-	ⅢbL	ⅢSB-39	-	82.0	96.0	20.0	270.0	Sa.	
Ⅲ-58-10	122-23	-	69718	たたき石	I a2	ⅢbL	ⅢSB-39	-	77.0	47.0	17.0	90.0	Sa.	
Ⅲ-58-11	121-13	-	69833	たたき石	-	ⅢbL	ⅢSB-39	-	(115.0)	89.0	33.0	415.0	Sa.	
Ⅲ-58-12	122-18	-	69839	たたき石	I a1	ⅢbL	ⅢSB-39	-	168.0	68.0	30.0	550.0	Sa.	
Ⅲ-58-13	122-16	-	70060	たたき石	IV	ⅢbL	ⅢSB-38	-	(85.0)	61.0	31.0	230.0	Sa.	
Ⅲ-58-14	121-10	-	69737	滑沢面のある礫	-	ⅢbL	ⅢSB-39	-	(138.0)	(136.0)	37.0	1090.0	Sa.	
Ⅲ-58-15	122-25	-	62914	刀子片	-	ⅢbL	ⅢF-183	AB-29	(66.5)	15.0	3.5	7.7	Iron.	
Ⅲ-58-16	122-26	-	79395	棒状鉄片	-	ⅢbL	ⅢF-183	AB-29	(38.5)	12.5	2.5	2.5	Iron.	
-	121-11	-	70035	たたき石	IV	ⅢbL	ⅢSB-38	-	(53.0)	52.0	21.0	70.0	Sa.	
-	121-12	-	70043	たたき石	IV	ⅢbL	ⅢSB-38	-	(73.0)	60.0	28.0	150.0	Sa.	
-	121-14	-	69806	たたき石	IV	ⅢbL	ⅢSB-39	-	(62.0)	92.0	47.0	255.0	Sa.	
-	121-15	-	69834	たたき石	IV	ⅢbL	ⅢSB-39	-	(71.0)	50.0	28.0	150.0	Sa.	
-	122-17	-	66571	たたき石	Ⅱ a1	ⅢbL	-	AA-28	(118.0)	72.0	34.0	410.0	Sa.	
-	122-19	-	70087	たたき石	I a1	ⅢbL	ⅢSB-38	-	141.0	61.0	27.0	210.0	Sa.	
-	122-20-21	-	69715	たたき石	I a1	ⅢbL	ⅢSB-39	-	171.0	58.0	27.0	375.0	Sa.	
-	122-22	-	69786	たたき石	IVb	ⅢbL	ⅢSB-39	-	(116.0)	103.0	49.0	790.0	Sa.	
-	122-24	-	69836	台石	-	ⅢbL	ⅢSB-39	-	172.0	97.1	52.1	1080.0	Sa.	
-	-	-	FLT	火打石碎片	-	-	-	-	-	-	-	5.68	Qu-Sch.	44点
-	-	-	68631	RF・UF	B3a	ⅢbL	ⅢF-198	-	23.7	25.4	6.5	3.5	Obs.	
-	-	-	68632	黒曜石転礫	-	ⅢbL	ⅢF-198	-	30.9	45.5	20.1	30.5	Obs.	

表Ⅲ-89 ⅢSB-38属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
-	-	-	70019	ⅢbL	完形	21.1	-41.5	15.2	-16.3	3.5	-11.2	1.4	-0.6	0.9	-	Sa.		
-	-	-	70005	ⅢbL	完形	22.8	-39.8	14.0	-17.5	5.1	-9.6	1.6	-0.4	2.2	-	Sa.		
-	-	-	70020	ⅢbL	完形	23.4	-39.2	13.3	-18.2	7.4	-7.3	1.8	-0.2	3.3	-	Sa.		
-	-	-	70092	ⅢbL	完形	23.3	-39.3	15.0	-16.5	9.3	-5.4	1.6	-0.4	5.2	-	Che.		
-	-	-	70017	ⅢbL	完形	24.1	-38.5	14.7	-16.8	9.0	-5.7	1.6	-0.4	4.4	-	Sa.		
-	-	-	68500	ⅢbL	完形	25.9	-36.7	25.5	-6.0	17.3	2.6	1.0	-1.0	14.7	-	Sa.		
-	-	-	70046	ⅢbL	完形	29.1	-33.5	16.4	-15.1	13.8	-0.9	1.8	-0.2	7.3	-	Sa.		
-	-	-	70142	ⅢbL	完形	27.9	-34.7	15.2	-16.3	8.3	-6.4	1.8	-0.2	4.9	-	Sa.		
-	-	-	76098	ⅢbL	完形	35.1	-27.5	19.6	-11.9	11.8	-2.9	1.8	-0.2	8.5	-	Sa.		
-	-	-	70185	ⅢbL	完形	37.7	-24.9	31.4	-0.1	8.5	-6.2	1.2	-0.8	15.4	-	Sa.		
-	-	-	70086	ⅢbL	完形	39.4	-23.2	25.8	-5.7	6.3	-8.4	1.5	-0.5	7.5	-	Sa.		
-	-	-	70089	ⅢbL	完形	41.4	-21.2	30.8	-0.7	7.3	-7.4	1.3	-0.7	12.1	-	Sa.		
-	-	-	70079	ⅢbL	完形	35.1	-27.5	41.1	9.6	15.8	1.1	0.9	-1.1	30.8	-	Sa.		
-	-	-	70010	ⅢbL	完形	42.0	-20.6	21.8	-9.7	7.8	-6.9	1.9	-0.1	7.6	-	Sa.		
-	-	-	68391	ⅢbL	完形	45.1	-17.5	22.4	-9.1	11.6	-3.1	2.0	0.0	16.8	-	Sa.		
-	-	-	70012	ⅢbL	完形	44.3	-18.3	32.3	0.8	23.9	9.2	1.4	-0.6	43.5	-	Sa.		
-	-	-	70146	ⅢbL	完形	51.5	-11.1	25.0	-6.5	17.8	3.1	2.1	0.1	38.2	-	Sa.		
-	-	-	70078	ⅢbL	完形	52.3	-10.3	33.5	2.0	26.4	11.7	1.6	-0.4	62.6	-	Sa.		
-	-	-	70073	ⅢbL	完形	55.9	-6.7	37.9	6.4	7.7	-7.0	1.5	-0.5	24.8	-	Sa.		
-	-	-	70002	ⅢbL	完形	56.0	-6.6	28.0	-3.5	17.8	3.1	2.0	0.0	41.4	-	Sa.		
-	-	-	70182	ⅢbL	完形	59.2	-3.4	37.3	5.8	17.9	3.2	1.6	-0.4	59.9	-	Sa.		
-	-	-	70105	ⅢbL	完形	57.9	-4.7	36.7	5.2	23.6	8.9	1.6	-0.4	74.2	-	Sa.		
-	-	-	70187	ⅢbL	完形	52.5	-10.1	47.5	16.0	11.9	-2.8	1.1	-0.9	57.4	-	Sa.		
-	-	-	68390	ⅢbL	完形	56.4	-6.2	46.1	14.6	24.1	9.4	1.2	-0.8	89.4	-	Sa.		
-	-	-	ⅢS1370	70095	ⅢbL	完形	66.5	3.9	36.7	5.2	19.6	4.9	1.8	-0.2	72.5	-	Sa.	他1点
-	-	-	-	70044	ⅢbL	完形	68.1	5.5	31.6	0.1	17.1	2.4	2.2	0.2	48.7	-	Sa.	
-	-	-	-	70138	ⅢbL	完形	70.5	7.9	25.6	-5.9	18.0	3.3	2.8	0.8	46.4	-	Sa.	
-	-	-	-	70130	ⅢbL	完形	70.0	7.4	31.5	0.0	17.6	2.9	2.2	0.2	62.0	-	Sa.	
-	-	-	-	70001	ⅢbL	完形	69.3	6.7	33.7	2.2	17.7	3.0	2.1	0.1	56.4	-	Sa.	
-	-	-	-	70104	ⅢbL	完形	72.0	9.4	37.0	5.5	23.4	8.7	1.9	-0.1	83.0	-	Sa.	
-	-	-	-	70144	ⅢbL	完形	72.3	9.7	36.8	5.3	22.2	7.5	2.0	0.0	99.1	-	Sa.	
-	-	-	-	68386	ⅢbL	完形	71.2	8.6	31.3	-0.2	16.3	1.6	2.3	0.3	63.4	-	Sa.	
-	-	-	-	70117	ⅢbL	完形	72.9	10.3	33.4	1.9	22.3	7.6	2.2	0.2	80.2	-	Sa.	
-	-	-	ⅢS1368	70120	ⅢbL	完形	76.2	13.6	27.7	-3.8	21.1	6.4	2.8	0.8	57.9	-	Sa.	他2点

表III-89 III SB-38属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備 考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差							
-	-	-	70004	IIIbL	完形	76.4	13.8	32.4	0.9	14.1	-0.6	2.4	0.4	44.7	-	Sa.		
-	-	-	70102	IIIbL	完形	76.0	13.4	35.9	4.4	22.9	8.2	2.1	0.1	73.9	-	Sa.		
-	-	-	70127	IIIbL	完形	77.4	14.8	39.0	7.5	20.3	5.6	2.0	0.0	68.9	-	Sa.		
-	-	-	70077	IIIbL	完形	77.9	15.3	27.0	-4.5	22.3	7.6	2.9	0.9	61.1	-	Sa.		
-	-	III S1376	70115	IIIbL	完形	80.5	17.9	24.0	-7.5	16.5	1.8	3.4	1.4	53.4	-	Sa.	他1点	
-	-	-	70076	IIIbL	完形	80.5	17.9	28.1	-3.4	14.3	-0.4	2.9	0.9	55.0	-	Sa.		
-	-	-	70113	IIIbL	完形	80.3	17.7	28.0	-3.5	17.7	3.0	2.9	0.9	61.0	-	Sa.		
-	-	-	68387	IIIbL	完形	82.3	19.7	48.4	16.9	14.7	0.0	1.7	-0.3	86.0	-	Sa.		
-	-	III S1375	70067	IIIbL	完形	81.9	19.3	40.1	8.6	27.1	12.4	2.0	0.0	125.4	-	Sa.	他1点	
-	-	-	70036	IIIbL	完形	83.9	21.3	38.3	6.8	18.5	3.8	2.2	0.2	104.3	-	Sa.		
-	-	-	70099	IIIbL	完形	83.3	20.7	51.8	20.3	10.6	-4.1	1.6	-0.4	123.2	-	Sa.		
-	-	-	70119	IIIbL	完形	84.6	22.0	36.6	5.1	8.5	-6.2	2.3	0.3	63.8	-	Sa.		
-	-	-	70122	IIIbL	完形	87.6	25.0	41.7	10.2	8.5	-6.2	2.1	0.1	86.1	-	Con.		
-	-	-	70109	IIIbL	完形	85.9	23.3	29.0	-2.5	8.2	-6.5	3.0	1.0	69.1	-	Sa.		
-	-	-	70141	IIIbL	完形	85.8	23.2	35.3	3.8	8.3	-6.4	2.4	0.4	68.6	-	Sa.		
-	-	-	70038	IIIbL	完形	87.4	24.8	36.4	4.9	7.3	-7.4	2.4	0.4	74.0	-	Sa.		
-	-	-	70072	IIIbL	完形	87.5	24.9	43.5	12.0	16.3	1.6	2.0	0.0	134.0	-	Sa.		
-	-	-	70054	IIIbL	完形	86.7	24.1	34.4	2.9	18.6	3.9	2.5	0.5	100.6	-	Sa.		
-	-	-	70128	IIIbL	完形	93.2	30.6	32.9	1.4	6.7	-8.0	2.8	0.8	66.4	-	Sa.		
-	-	-	70100	IIIbL	完形	97.8	35.2	33.9	2.4	10.1	-4.6	2.9	0.9	76.0	-	Sa.		
-	-	-	68494	IIIbL	完形	99.1	36.5	44.2	12.7	9.2	-5.5	2.2	0.2	101.7	-	Sa.		
平均						62.6		31.5		14.7		2.0		54.5				
														総点数 160点	※完形 55点			

表III-90 III SB-39属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	69768	IIIbL	完形	14.9	-59.6	14.0	-22.6	10.7	-10.2	1.1	-1.0	2.9	-	Sa.	
-	-	-	69727	IIIbL	完形	22.4	-52.1	11.4	-25.2	9.4	-11.5	2.0	-0.1	3.3	-	Sa.	
-	-	-	69662	IIIbL	完形	28.2	-46.3	22.2	-14.4	15.7	-5.2	1.3	-0.8	14.4	-	Sa.	
-	-	-	69686	IIIbL	完形	24.2	-50.3	22.3	-14.3	12.9	-8.0	1.1	-1.0	11.8	-	Sa.	
-	-	-	69775	IIIbL	完形	30.1	-44.4	27.0	-9.6	5.7	-15.2	1.1	-1.0	5.7	-	Mud.	
-	-	-	69817	IIIbL	完形	32.7	-41.8	25.0	-11.6	10.2	-10.7	1.3	-0.8	10.1	-	Sa.	
-	-	-	69694	IIIbL	完形	31.8	-42.7	17.4	-19.2	7.1	-13.8	1.8	-0.3	4.8	-	Mud.	
-	-	-	69656	IIIbL	完形	30.5	-44.0	25.8	-10.8	7.7	-13.2	1.2	-0.9	8.4	-	Sa.	
-	-	-	69842	IIIbL	完形	46.2	-28.3	34.8	-1.8	12.3	-8.6	1.3	-0.8	26.2	-	Sa.	
-	-	-	69780	IIIbL	完形	53.0	-21.5	20.6	-16.0	23.5	2.6	2.6	0.5	31.1	-	Sa.	
-	-	-	69723	IIIbL	完形	56.0	-18.5	34.9	-1.7	10.3	-10.6	1.6	-0.5	24.8	-	Sa.	
-	-	-	69781	IIIbL	完形	55.3	-19.2	33.0	-3.6	19.1	-1.8	1.7	-0.4	37.8	-	Sa.	
-	-	-	69785	IIIbL	完形	56.3	-18.2	31.8	-4.8	14.6	-6.3	1.8	-0.3	32.0	-	Sa.	
-	-	-	69654	IIIbL	完形	58.7	-15.8	19.6	-17.0	15.1	-5.8	3.0	0.9	24.0	-	Sa.	
-	-	III S1388	69784	IIIbL	完形	57.3	-17.2	34.2	-2.4	12.6	-8.3	1.7	-0.4	27.9	-	Sa.	他1点
-	-	-	69831	IIIbL	完形	59.9	-14.6	28.1	-8.5	19.9	-1.0	2.1	0.0	54.5	-	Sa.	
-	-	-	69826	IIIbL	完形	62.5	-12.0	43.7	7.1	28.6	7.7	1.4	-0.7	101.7	-	Sa.	
-	-	-	69793	IIIbL	完形	61.8	-12.7	41.3	4.7	18.0	-2.9	1.5	-0.6	61.9	-	Sa.	
-	-	-	69648	IIIbL	完形	62.8	-11.7	26.7	-9.9	15.7	-5.2	2.4	0.3	38.9	-	Sa.	
-	-	-	69691	IIIbL	完形	68.1	-6.4	32.5	-4.1	25.5	4.6	2.1	0.0	70.1	-	Sa.	
-	-	-	69729	IIIbL	完形	64.8	-9.7	23.9	-12.7	17.1	-3.8	2.7	0.6	37.3	-	Sa.	
-	-	-	69840	IIIbL	完形	66.5	-8.0	29.5	-7.1	22.8	1.9	2.3	0.2	53.2	-	Sa.	
-	-	-	69692	IIIbL	完形	68.1	-6.4	32.5	-4.1	17.1	-3.8	2.1	0.0	50.9	-	Sa.	
-	-	-	69832	IIIbL	完形	68.3	-6.2	38.0	1.4	19.5	-1.4	1.8	-0.3	70.0	-	Sa.	
-	-	-	69754	IIIbL	完形	66.6	-7.9	36.8	0.2	14.6	-6.3	1.8	-0.3	30.0	-	Sa.	
-	-	-	69852	IIIbL	完形	69.7	-4.8	32.9	-3.7	20.4	-0.5	2.1	0.0	69.7	-	Sa.	
-	-	-	69724	IIIbL	完形	71.1	-3.4	45.1	8.5	26.0	5.1	1.6	-0.5	87.8	-	Sa.	
-	-	-	69715	IIIbL	完形	72.2	-2.3	38.6	2.0	21.8	0.9	1.9	-0.2	86.9	-	Sa.	
-	-	-	69689	IIIbL	完形	71.5	-3.0	37.0	0.4	29.3	8.4	1.9	-0.2	111.5	-	Sa.	
-	-	III S1393	69653	IIIbL	完形	70.2	-4.3	28.2	-8.4	13.9	-7.0	2.5	0.4	44.0	-	Sa.	他1点
-	-	-	69688	IIIbL	完形	71.6	-2.9	23.9	-12.7	18.9	-2.0	3.0	0.9	44.2	-	Sa.	
-	-	-	69663	IIIbL	完形	72.8	-1.7	28.9	-7.7	21.9	1.0	2.5	0.4	61.9	-	Sa.	
-	-	-	69827	IIIbL	完形	74.7	0.2	51.1	14.5	17.9	-3.0	1.5	-0.6	93.5	-	Sa.	
-	-	III S1389	69819	IIIbL	完形	74.5	0.0	43.7	7.1	30.8	9.9	1.7	-0.4	139.1	-	Sa.	他2点
-	-	-	69675	IIIbL	完形	75.0	0.5	33.0	-3.6	13.1	-7.8	2.3	0.2	46.6	-	Sa.	
-	-	III S1395	69670	IIIbL	完形	75.7	1.2	32.5	-4.1	25.1	4.2	2.3	0.2	91.9	-	Sa.	他1点

表Ⅲ-90 ⅢSB-39属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	69634	ⅢbL	完形	74.8	0.3	30.4	-6.2	25.3	4.4	2.5	0.4	92.8	-	Sa.	
-	-	-	69830	ⅢbL	完形	78.5	4.0	35.1	-1.5	18.9	-2.0	2.2	0.1	64.1	-	Sa.	
-	-	-	69644	ⅢbL	完形	74.5	0.0	39.3	2.7	16.6	-4.3	1.9	-0.2	77.9	-	Sa.	
-	-	-	69640	ⅢbL	完形	80.5	6.0	27.0	-9.6	16.5	-4.4	3.0	0.9	46.3	-	Sa.	
-	-	-	69693	ⅢbL	完形	80.9	6.4	37.7	1.1	21.7	0.8	2.1	0.0	110.1	-	Sa.	
-	-	-	69714	ⅢbL	完形	83.4	8.9	41.2	4.6	21.3	0.4	2.0	-0.1	77.9	-	Sa.	
-	-	-	69683	ⅢbL	略完形	83.3	8.8	36.1	-0.5	19.2	-1.7	2.3	0.2	56.4	-	Sa.	
-	-	-	69705	ⅢbL	完形	83.3	8.8	46.7	10.1	24.1	3.2	1.8	-0.3	123.2	-	Sa.	
-	-	-	69795	ⅢbL	完形	84.6	10.1	41.3	4.7	23.0	2.1	2.0	-0.1	119.4	-	Sa.	
-	-	-	69688	ⅢbL	完形	85.9	11.4	28.8	-7.8	20.1	-0.8	3.0	0.9	66.8	-	Sa.	
-	-	-	69690	ⅢbL	完形	85.0	10.5	28.7	-7.9	20.9	0.0	3.0	0.9	77.6	-	Sa.	
-	-	-	69710	ⅢbL	完形	88.4	13.9	28.9	-7.7	20.2	-0.7	3.1	1.0	82.2	-	Sa.	
-	-	-	69687	ⅢbL	完形	95.3	20.8	28.8	-7.8	24.3	3.4	3.3	1.2	63.0	-	Sa.	
-	-	-	69789	ⅢbL	完形	95.7	21.2	40.8	4.2	26.0	5.1	2.3	0.2	131.9	-	Sa.	
-	-	-	69665	ⅢbL	完形	107.8	33.3	35.3	-1.3	29.2	8.3	3.1	1.0	205.0	-	Sa.	
-	-	-	69853	ⅢbL	完形	142.0	67.5	73.4	36.8	24.0	3.1	1.9	-0.2	252.0	-	Sa.	
-	-	-	69835	ⅢbL	略完形	166.0	91.5	89.9	53.3	24.8	3.9	1.8	-0.3	660.0	-	Sa.	
-	-	ⅢS1391	69759	ⅢbL	完形	176.0	101.5	86.9	50.3	32.1	11.2	2.0	-0.1	417.0	-	Sa.	他1点
-	-	ⅢS1394	69716	ⅢbL	完形	172.0	97.5	87.1	50.5	47.6	26.7	2.0	-0.1	860.0	-	Sa.	他1点
-	-	-	69798	ⅢbL	完形	190.0	115.5	86.5	49.9	91.2	70.3	2.2	0.1	2480.0	-	Sa.	
平均						74.5		36.6		20.9		2.1		138.8			
													総点数 247点	※完形 56点			

集中区 42 (図Ⅲ-59・60)

位置：S・T-38・39区 規模：850×800cm

関連遺構：ⅢX-02

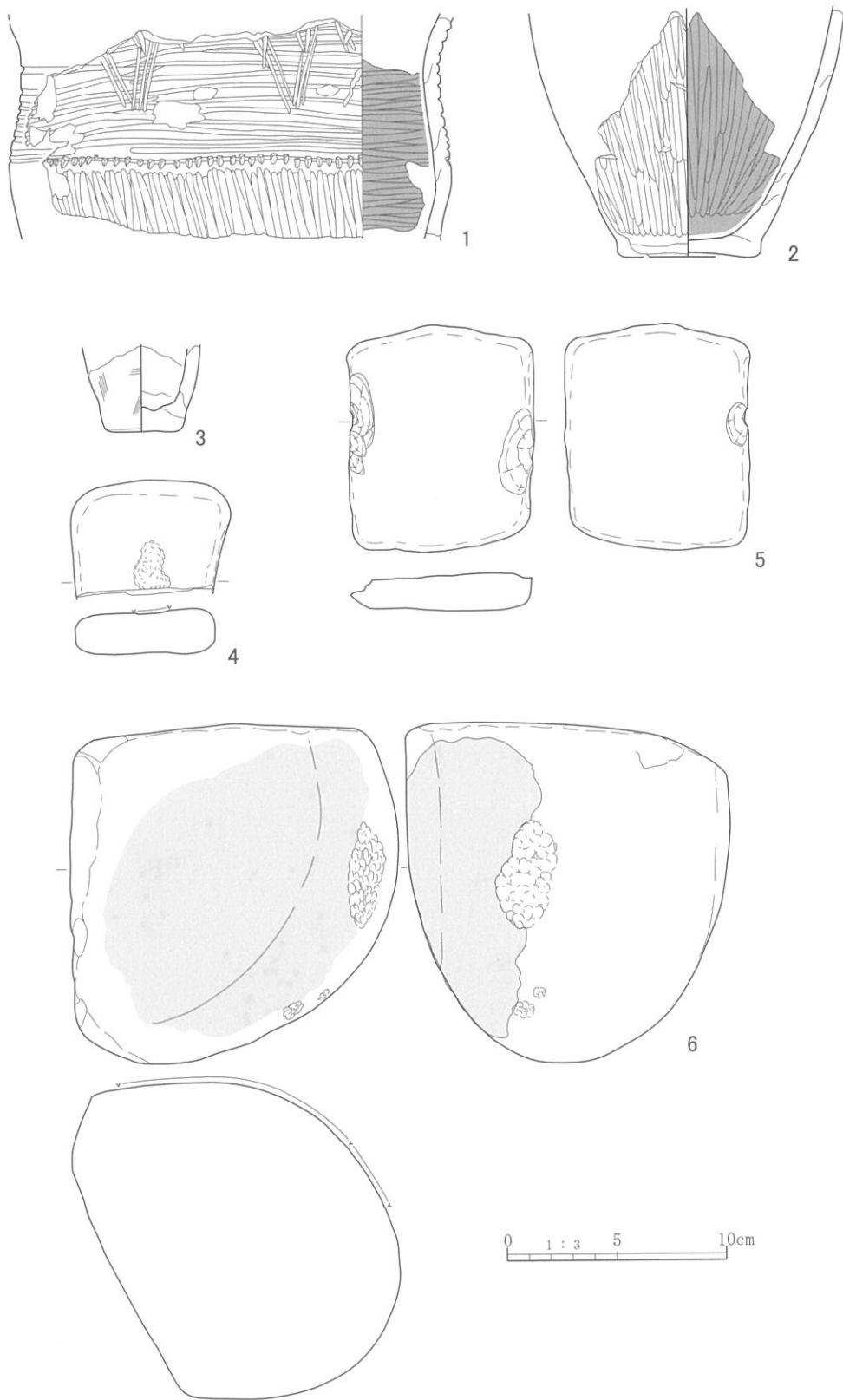
確認・調査：S・T-38・39区のⅢb層調査時にⅢbLにおいて多数の遺物が出土した。周辺には焼土等擦文文化期の遺構は検出していなかったため、出土状態の図化は行わずに取り上げを行った。報告書作成段階において、この場所のすぐ北側にあたる平成17年度調査区内において、擦文文化期の竪穴様遺構(ⅢX-02)が位置していたことを考慮し、集中区として設定した。

出土遺物(図Ⅲ-60)：1は甕の胴部片、2は底部片で、内外面の調整が共通するため同一個体の可能性が高い。深く明瞭な沈線により施文されている。3は小型の土器で粗雑な整形のため器表面の凹凸が著しい。4はたたき石で平坦面を使用している。5は側縁に剥離加工がある礫。6は滑沢面と敲打痕をもつ閃緑岩製の台石である。

集中区 42



図III-59 集中区 42 平面図



図Ⅲ-60 集中区 42 出土遺物

表III-91 集中区42出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
III-60-1	124-1-1	SP094A	VII B3a	74504.78437.78438他	III bL	-	T-38	甕	胴部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	6	
				74514.74515	III bL		T-39					3	
III-60-2	124-1-2	SP104A	VII B	78389	III bL	-	S-38	甕	胴部～ 底部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	1	
				74502.78442.78443他	III bL		T-38					10	
III-60-3	124-1-3	SP113A	VII D2	78450	III bL	-	T-38	甕	底部	ナデ	ナデ	1	

表III-92 集中区42出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
III-60-4	124-1-4	-	81657	たたき石	IV	III bL	-	T-38	(53.0)	73.0	20.0	115.0	Sa.	
III-60-5	124-1-5	-	74570	加工痕のある礫	-	III bL	-	S-38	102.4	83.7	17.0	260.0	Sa.	
III-60-6	124-1-6	-	81695	滑沢面と 敲打痕のある礫	I	III bL	-	T-38	154.0	150.0	147.0	4700.0	Dio.	

集中区 43 (図III-61～63 図版 44)

位置：F・G-47・48区 規模：900×750cm

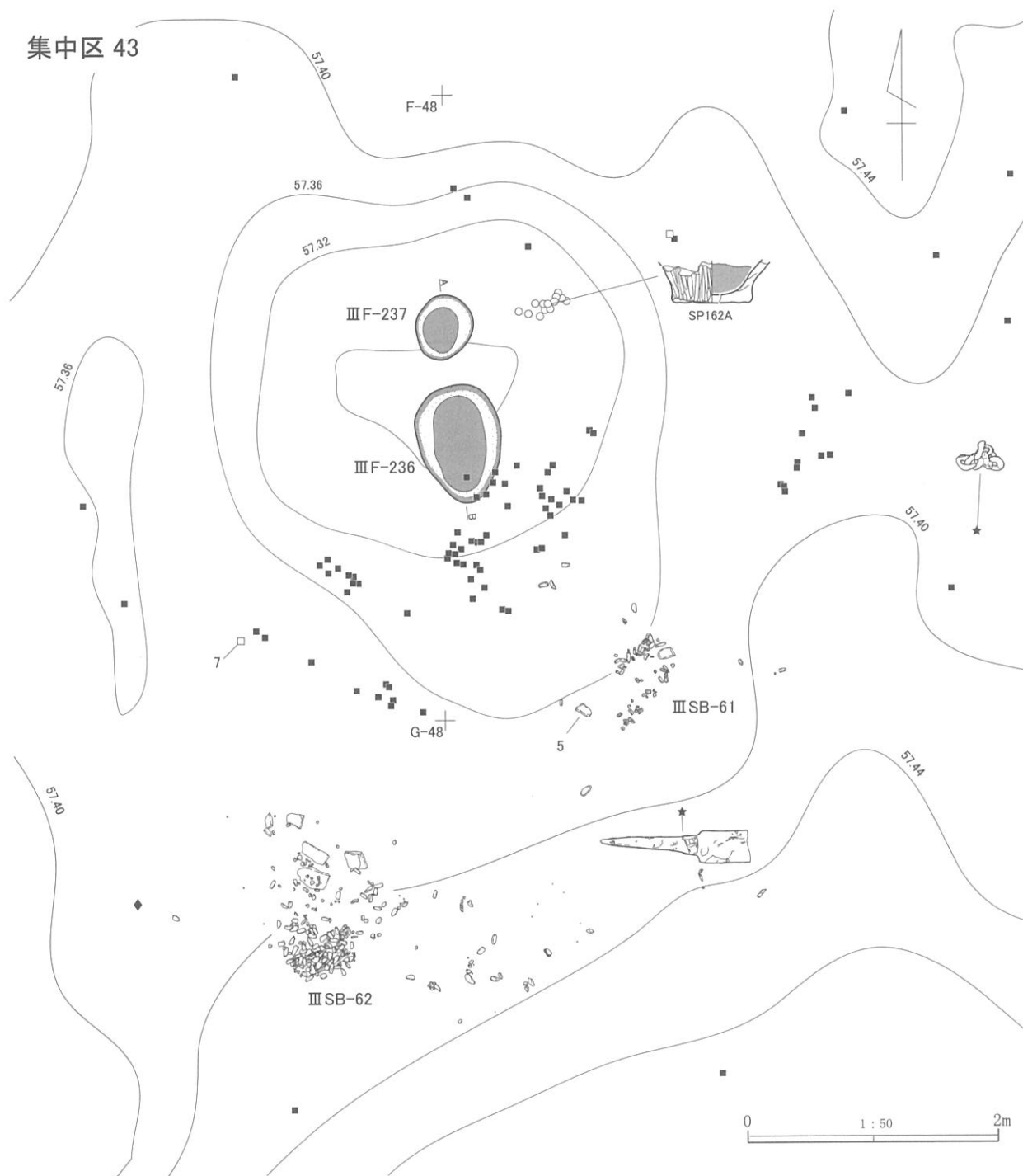
関連遺構：焼土 III F-236・237 礫集中 III SB-61・62

確認・調査：T₁の火山灰除去時にF・G-47・48区においてTa-bが落込んだ円形の窪みを確認した。堅穴住居跡の可能性を想定し、窪み内の火山灰は人力で除去した。調査は窪みの地形測量を行った後、窪みに対し十字に設定したベルトに沿わせトレンチを掘削し、堆積状態の観察を行った。その結果この窪みは人為的に掘り込まれたものではなく、Ta-c降下以前に本集中区西側を流れていた旧河川による自然堤防が2列に並び、結果として堅穴の窪み状になった場所と判断した。しかしこの窪み中央のIII bLにおいて焼土を2カ所、周囲で礫集中を2カ所検出したことから、擦文文化期において窪みを意識して利用されていたことが想定できたため、集中区として設定した。窪みの堆積状態と焼土の記録を作成し、礫集中出土状態の図化を行った。なお図化についてはIII SB-61が技能作業員による実測で、礫の密集度が高かったIII SB-62はデジタル写真実測を委託した。

焼土(図III-61・62)：III F-236・237は窪み中央で南北に並ぶ配置で検出した。共に燃焼面が窪み、上位に焼骨片を伴う。III F-236は厚さ8cmの良好な焼土層が形成されているが、III F-237は極めて弱い焼土であった。土壌サンプルからは哺乳綱の骨と魚骨が少量得られたが、炭化種子で特徴的なものを得る事はできなかった。

礫集中(図III-61)：III SB-61・62共に棒状礫を中心とする礫集中である。III SB-61は85×50cmの範囲で54点の礫が出土し、完形個体は22点であった。III SB-62では130×115cmの範囲で271点の礫が出土し、完形個体は93点であった。共に欠損率は同時期の礫集中よりも低い。III SB-62では礫と共に擦文土器片も数点出土している。

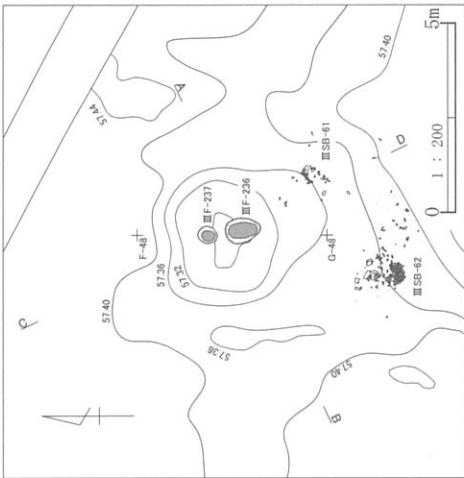
出土遺物(図III-63)：1はIII F-237の東側で出土した甕の底部である。外面はミガキ調整、内面は黒色処理を行っている。胎土に粒径1mm程の砂粒を多く含み、遺跡内出土の他の擦文土器と比べ異質な胎土である。2～4は同一個体の甕の破片である。内外面共にミガキによる調整が加えられ、内面に黒色処理が施されている。3・4で胴部文様帯下縁の刻みが確認できるが、その上位に3では縦位、4では横位の沈線が施文されているため、VII B3aの横走沈線を下地にする土器ではないと考えられる。5・6はたたき石で、5は礫の平坦面の他、頂端、側縁の各部位も使用されている。7は角柱状



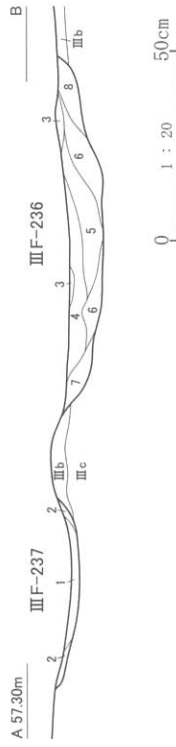
図Ⅲ-61 集中区 43 平面図

表Ⅲ-93 集中区43焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-61・62	44-2	ⅢF-236	F-47	ⅢbL	長楕円	94	68	9	骨	
Ⅲ-61・62	44-3	ⅢF-237	F-48	ⅢbL	楕円形	52	46	2	骨	

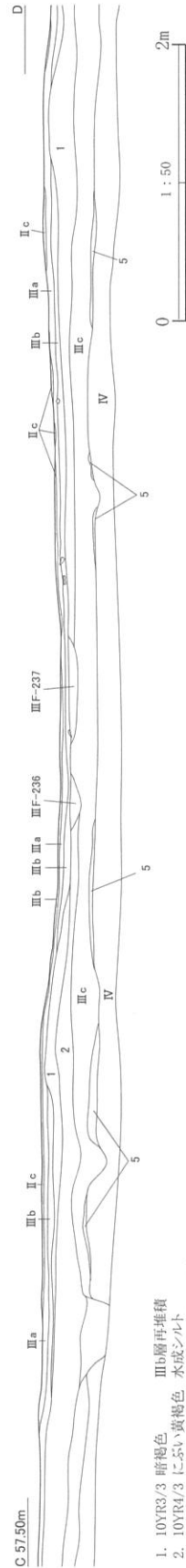
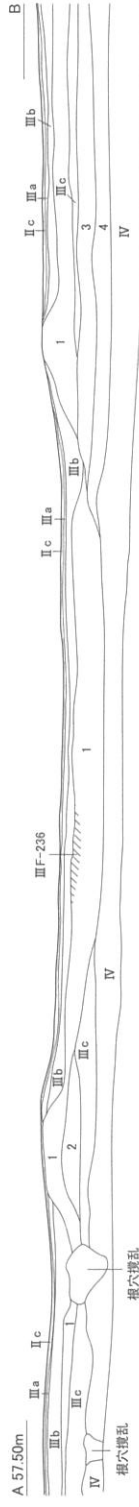


III F-236・237 セクション



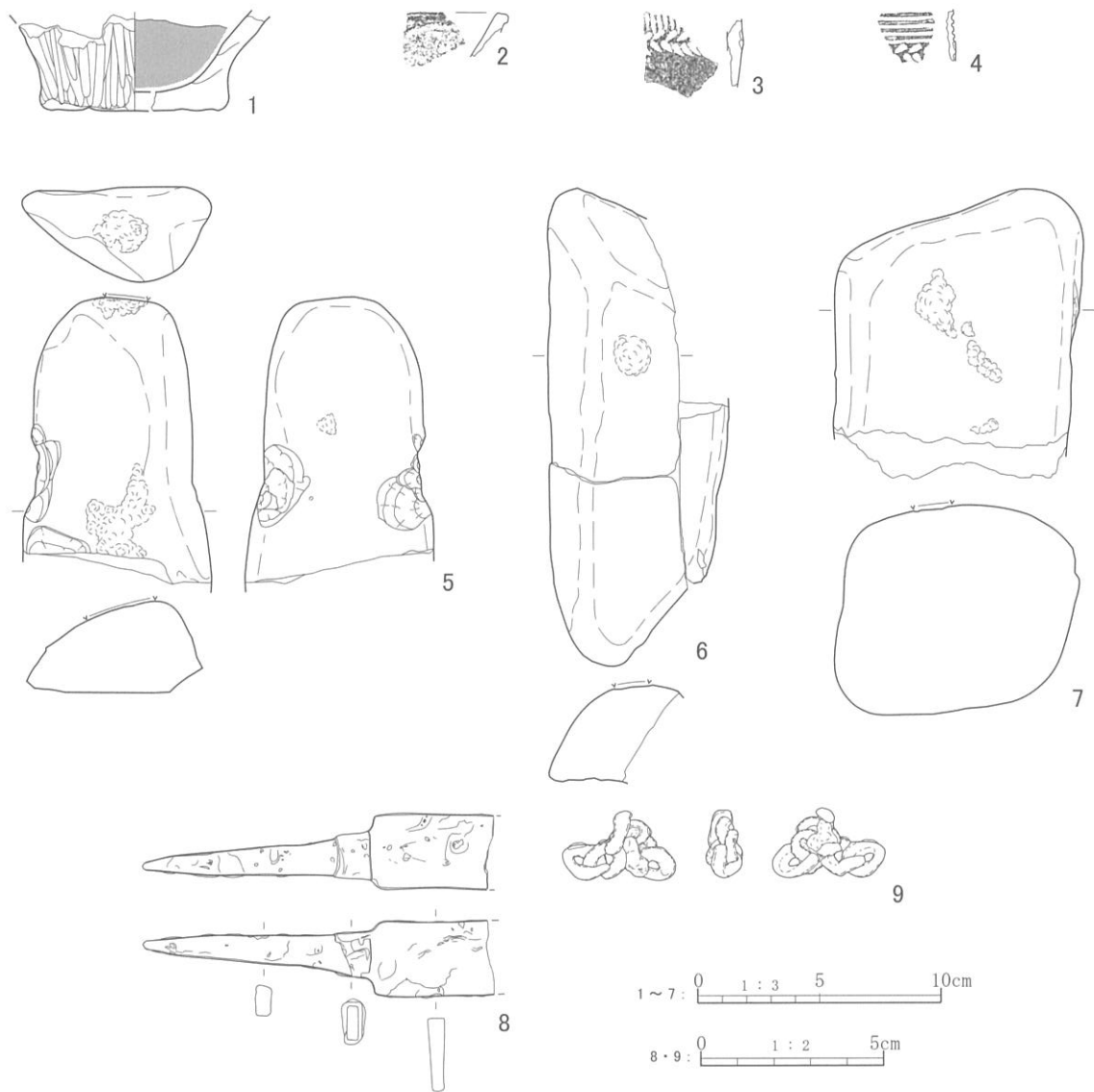
- III F-236・237
- 1 5YR3/2 暗赤褐色 焼土(強い)IIIb~IIIc地山被熱層) = 焼骨片(上位)
 - 2 10YR3/2 黒褐色 付帯黒色層
 - 3 7.5YR2/2 黒褐色 IIIb = 焼土粒・焼骨片炭化物(斑状)
 - 4 5YR4/6 赤褐色 焼土(IIIb地山被熱層) = IIIb(斑状)
 - 5 5YR4/6 赤褐色 焼土(強い)III層下位シルト地山被熱層)
 - 6 5YR4/4 にふい赤褐色 焼土(III層下位シルト地山被熱層)
 - 7 7.5YR3/1 黒褐色 付帯黒色層
 - 8 7.5YR3/2 黒褐色 付帯黒色層

集中区窪地セクション



- 1. 10YR3/3 暗褐色 IIIb層再堆積
- 2. 10YR4/3 にふい黄褐色 水成シルト
- 3. 10YR6/6 明黄褐色 IV層再堆積・粒徑粗い
- 4. 10YR6/6 明黄褐色 IV層 - シルト(的一)
- 5. 10YR3/4 暗褐色 IV層 + シルト

図III-62 集中区43 関連遺構断面図



図Ⅲ-63 集中区 43 出土遺物

表Ⅲ-94 集中区43出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-63-1	124-2-1	SP162A	VIB	116275.116282他	ⅢbL	ⅢX-06	F-47	甕	底部	ナデ 黒色処理	ミガキ	3	
Ⅲ-63-2	124-2-2	SP164B	VIB3	116501	ⅢbL	ⅢSB-62	G-48	甕	口縁	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	1	
Ⅲ-63-3	124-2-3	SP164A	VIB3	116502	ⅢbL	ⅢSB-62	G-48	甕	胴部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	1	
Ⅲ-63-4	124-2-4	SP164C	VIB3	116504	ⅢbL	ⅢSB-62	G-48	甕	胴部	-	ナデ	1	

表Ⅲ-95 集中区43出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-63-5	124-5	-	116189	たたき石	IV	ⅢbL	ⅢX-06	-	(117.0)	78.0	38.0	400.0	Mud.	
Ⅲ-63-6	124-7	-	116358	たたき石	I a1	ⅢbL	ⅢSB-62	-	196.0	74.0	37.0	505.0	Sa.	
Ⅲ-63-7	124-8	-	116212	台石	-	ⅢbL	ⅢX-06	-	(119.0)	182.0	84.0	1600.0	Sa.	
Ⅲ-63-8	124-2-9	-	116136	小刀様製品	-	ⅢbL	ⅢX-06	G-47	(96.5)	21.0	7.0	15.3	Irn.	
Ⅲ-63-9	124-2-10	-	116134	鎖型製品	-	ⅢbL	ⅢX-06	F-47	30.0	18.6	9.4	4.3	Irn.	
-	124-6	-	116287	たたき石	I a2	ⅢbL	ⅢX-06	-	(101.0)	51.0	44.0	320.0	Sa.	

表Ⅲ-96 ⅢSB-61属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-		-	116188	ⅢbL	完形	34.2	-27.7	29.0	-2.3	20.6	3.9	1.2	-0.9	26.9	-	Sa.	
-		-	116183	ⅢbL	完形	48.4	-13.5	22.5	-8.8	12.7	-4.0	2.2	0.1	18.6	-	Sa.	
-		ⅢS1214	116169	ⅢbL	完形	51.1	-10.8	34.6	3.3	11.5	-5.2	1.5	-0.6	28.9	-	Sa.	他1点
-		-	116155	ⅢbL	完形	52.8	-9.1	23.1	-8.2	14.1	-2.6	2.3	0.3	25.5	-	Sa.	
-		-	116145	ⅢbL	完形	53.0	-8.9	29.0	-2.3	18.7	2.0	1.8	-0.2	29.6	-	Sa.	
-		-	116161	ⅢbL	完形	53.3	-8.6	27.4	-3.9	16.2	-0.5	1.9	-0.1	36.1	-	Sa.	
-		-	116150	ⅢbL	完形	55.5	-6.4	31.3	0.0	22.0	5.3	1.8	-0.3	50.9	-	Sa.	
-		-	116148	ⅢbL	完形	55.0	-6.9	30.5	-0.8	17.0	0.3	1.8	-0.2	45.9	-	Sa.	
-		-	116151	ⅢbL	完形	57.0	-4.9	24.8	-6.5	18.0	1.3	2.3	0.3	38.2	-	Sa.	
-		ⅢS1221	116176	ⅢbL	完形	58.9	-3.0	30.3	-1.0	18.9	2.2	1.9	-0.1	44.0	-	Sa.	他1点
-		-	116170	ⅢbL	完形	57.6	-4.3	26.5	-4.8	11.3	-5.4	2.2	0.1	25.1	-	Sa.	
-		-	116141	ⅢbL	完形	59.0	-2.9	29.2	-2.1	19.7	3.0	2.0	0.0	46.9	-	Sa.	
-		-	116186	ⅢbL	完形	62.3	0.4	47.8	16.5	23.5	6.8	1.3	-0.7	44.4	-	Mud.	
-		-	116164	ⅢbL	略完形	55.9	-6.0	30.4	-0.9	12.7	-4.0	1.8	-0.2	21.4	-	Sa.	
-		ⅢS1218	116166	ⅢbL	略完形	61.9	0.0	28.5	-2.8	16.0	-0.7	2.2	0.1	31.9	-	Sa.	他1点
-		-	116139	ⅢbL	完形	68.1	6.2	36.4	5.1	12.9	-3.8	1.9	-0.2	39.8	-	Sa.	
-		-	116149	ⅢbL	略完形	68.1	6.2	41.4	10.1	18.8	2.1	1.6	-0.4	77.2	-	Sa.	
-		-	116144	ⅢbL	完形	73.6	11.7	42.7	11.4	13.1	-3.6	1.7	-0.3	63.9	-	Sa.	
-		-	116174	ⅢbL	略完形	78.0	16.1	30.6	-0.7	13.9	-2.8	2.5	0.5	51.2	-	Mud.	
-		-	116171	ⅢbL	完形	81.6	19.7	24.7	-6.6	22.3	5.6	3.3	1.3	71.6	-	Sa.	
-		-	116158	ⅢbL	完形	84.0	22.1	29.2	-2.1	14.5	-2.2	2.9	0.8	56.3	-	Sa.	
-		ⅢS1215	116162	ⅢbL	完形	92.5	30.6	37.7	6.4	19.6	2.9	2.5	0.4	108.7	-	Sa.	他2点
平均						61.9		31.3		16.7		2.03		44.7			
													総点数	54点	※完形	22点	

表Ⅲ-97 ⅢSB-62属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-		-	116571	ⅢbL	完形	48.7	-19.3	25.5	15.1	15.6	-5.6	1.9	-0.3	26.1	-	Sa.	
-		-	116388	ⅢbL	完形	53.5	-14.5	27.6	19.9	16.7	-4.5	1.9	-0.3	38.6	-	Sa.	
-		-	116556	ⅢbL	完形	56.1	-11.9	25.0	22.5	13.8	-7.4	2.2	0.0	26.2	-	Sa.	
-		-	116578	ⅢbL	略完形	55.0	-13.0	31.5	21.4	13.8	-7.4	1.7	-0.5	26.6	-	Sa.	
-		-	116482	ⅢbL	完形	56.2	-11.8	26.4	22.6	18.4	-2.8	2.1	-0.1	32.4	-	Mud.	
-		-	116564	ⅢbL	完形	57.2	-10.8	28.5	23.6	18.7	-2.5	2.0	-0.2	45.4	-	Sa.	
-		-	116362	ⅢbL	完形	57.8	-10.2	29.9	24.2	17.1	-4.1	1.9	-0.3	42.9	-	Sa.	
-		ⅢS1224	116391	ⅢbL	完形	56.7	-11.3	28.1	23.1	21.9	0.7	2.0	-0.2	56.9	-	Sa.	他1点
-		-	116517	ⅢbL	完形	52.8	-15.2	42.0	19.2	21.8	0.6	1.3	-0.9	88.8	-	Sa.	
-		-	116490	ⅢbL	完形	55.0	-13.0	32.3	21.4	25.8	4.6	1.7	-0.5	97.6	-	Sa.	
-		-	116404	ⅢbL	完形	59.5	-8.5	33.5	25.9	16.4	-4.8	1.8	-0.4	45.4	-	Sa.	
-		-	116565	ⅢbL	略完形	59.3	-8.7	23.5	25.7	20.7	-0.5	2.5	0.3	32.1	-	Sa.	
-		-	116357	ⅢbL	完形	60.5	-7.5	37.5	26.9	16.2	-5.0	1.6	-0.6	42.1	-	Sa.	
-		-	116523	ⅢbL	完形	59.3	-8.7	30.9	25.7	20.4	-0.8	1.9	-0.3	58.8	-	Sa.	
-		-	116487	ⅢbL	完形	60.5	-7.5	24.8	26.9	17.7	-3.5	2.4	0.2	35.1	-	Sa.	
-		ⅢS1213	116430	ⅢbL	完形	61.1	-6.9	29.7	27.5	13.6	-7.6	2.1	-0.1	36.4	-	Sa.	他1点
-		-	116531	ⅢbL	完形	61.2	-6.8	31.5	27.6	21.7	0.5	1.9	-0.3	53.8	-	Sa.	
-		-	116540	ⅢbL	略完形	62.5	-5.5	31.6	28.9	17.5	-3.7	2.0	-0.2	42.4	-	Sa.	
-		125-12	116414	ⅢbL	完形	64.4	-3.6	25.6	30.8	17.2	-4.0	2.5	0.3	45.3	-	Sa.	
-		-	116524	ⅢbL	完形	63.0	-5.0	45.6	29.4	21.0	-0.2	1.4	-0.8	66.6	-	Sa.	
-		-	116446	ⅢbL	完形	65.1	-2.9	32.6	31.5	8.5	-12.7	2.0	-0.2	29.0	-	Sa.	
-		-	16527	ⅢbL	完形	62.6	-5.4	30.9	29.0	19.6	-1.6	2.0	-0.2	42.7	-	Sa.	
-		-	116366	ⅢbL	完形	65.2	-2.8	21.1	31.6	19.8	-1.4	3.1	0.9	40.3	-	Sa.	
-		-	116455	ⅢbL	完形	62.7	-5.3	22.9	29.1	18.9	-2.3	2.7	0.5	53.8	-	Sa.	
-		-	116498	ⅢbL	完形	63.8	-4.2	34.5	30.2	22.2	1.0	1.8	-0.4	62.6	-	Sa.	
-		-	116432	ⅢbL	完形	66.5	-1.5	29.6	32.9	21.2	0.0	2.2	0.0	54.9	-	Sa.	
-		-	116401	ⅢbL	完形	68.1	0.1	35.7	34.5	16.7	-4.5	1.9	-0.3	53.0	-	Sa.	
-		-	116441	ⅢbL	略完形	67.4	-0.6	24.1	33.8	22.0	0.8	2.8	0.6	54.6	-	Sa.	
-		-	116514	ⅢbL	完形	65.9	-2.1	27.7	32.3	13.4	-7.8	2.4	0.2	36.7	-	Sa.	
-		-	116409	ⅢbL	完形	65.7	-2.3	26.7	32.1	19.1	-2.1	2.5	0.3	55.4	-	Sa.	
-		ⅢS1222	116410	ⅢbL	完形	64.1	-3.9	24.0	30.5	17.2	-4.0	2.7	0.5	32.9	-	Sa.	他1点
-		-	116483	ⅢbL	完形	66.4	-1.6	22.3	32.8	24.2	3.0	3.0	0.8	45.5	-	Sa.	
-		-	116519	ⅢbL	完形	65.7	-2.3	25.2	32.1	17.9	-3.3	2.6	0.4	39.2	-	Sa.	
-		-	116479	ⅢbL	完形	65.2	-2.8	33.4	31.6	28.3	7.1	2.0	-0.2	75.0	-	Sa.	
-		ⅢS1225	116431	ⅢbL	完形	67.6	-0.4	23.0	34.0	15.6	-5.6	2.9	0.7	39.7	-	Mud.	他1点
-		-	116460	ⅢbL	完形	66.5	-1.5	40.3	32.9	20.4	-0.8	1.7	-0.5	78.7	-	Sa.	
-		-	116408	ⅢbL	完形	68.2	0.2	27.0	34.6	16.9	-4.3	2.5	0.3	44.2	-	Sa.	

表Ⅲ-97 ⅢSB-62属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量(g)	被 熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差	
-	-	-	116508	ⅢbL	完形	68.0	0.0	39.2	34.4	14.1	-7.1	1.7	-0.5	56.5	-	Sa.		
-	-	-	116396	ⅢbL	完形	68.5	0.5	34.2	34.9	15.0	-6.2	2.0	-0.2	51.8	-	Sa.		
-	-	-	116462	ⅢbL	完形	68.6	0.6	36.0	35.0	18.1	-3.1	1.9	-0.3	56.4	-	Sa.		
-	-	ⅢS1217	116572	ⅢbL	完形	70.1	2.1	31.8	36.5	11.0	-10.2	2.2	0.0	37.2	-	Sa.	他1点	
-	-	-	116413	ⅢbL	完形	69.7	1.7	34.2	36.1	19.8	-1.4	2.0	-0.2	63.9	-	Sa.		
-	-	-	116386	ⅢbL	完形	69.1	1.1	35.3	35.5	22.6	1.4	2.0	-0.2	69.1	-	Sa.		
-	-	-	116481	ⅢbL	完形	72.5	4.5	38.6	38.9	17.5	-3.7	1.9	-0.3	65.2	-	Sa.		
-	-	-	116403	ⅢbL	完形	73.0	5.0	24.6	39.4	23.9	2.7	3.0	0.8	63.8	-	Sa.		
-	-	-	116530	ⅢbL	完形	69.5	1.5	43.8	35.9	19.3	-1.9	1.6	-0.6	79.3	-	Sa.		
-	-	-	116477	ⅢbL	完形	72.2	4.2	25.5	38.6	21.9	0.7	2.8	0.6	54.3	-	Sa.		
-	-	-	116411	ⅢbL	完形	71.2	3.2	29.8	37.6	18.4	-2.8	2.4	0.2	53.9	-	Mud.		
-	-	-	116467	ⅢbL	略完形	71.3	3.3	36.5	37.7	31.7	10.5	2.0	-0.2	105.9	-	Sa.		
-	-	-	116557	ⅢbL	完形	71.5	3.5	34.9	37.9	28.4	7.2	2.0	-0.2	103.2	-	Sa.		
-	-	-	116457	ⅢbL	完形	72.3	4.3	42.5	38.7	17.7	-3.5	1.7	-0.5	77.7	-	Sa.		
-	-	ⅢS1220	116577	ⅢbL	略完形	73.9	5.9	36.6	40.3	20.1	-1.1	2.0	-0.2	80.8	-	Sa.	他1点	
-	-	-	116466	ⅢbL	完形	74.7	6.7	34.2	41.1	19.2	-2.0	2.2	0.0	63.6	-	Sa.		
-	-	-	116552	ⅢbL	完形	75.2	7.2	32.7	41.6	27.2	6.0	2.3	0.1	105.3	-	Sa.		
-	-	-	116402	ⅢbL	完形	74.1	6.1	24.9	40.5	18.9	-2.3	3.0	0.8	48.4	-	Sa.		
-	-	-	116507	ⅢbL	完形	75.1	7.1	37.9	41.5	26.8	5.6	2.0	-0.2	94.9	-	Sa.		
-	-	-	116492	ⅢbL	完形	76.8	8.8	31.4	43.2	16.3	-4.9	2.4	0.2	56.7	-	Sa.		
-	-	-	116555	ⅢbL	略完形	78.1	10.1	34.1	44.5	23.1	1.9	2.3	0.1	78.0	-	Sa.		
-	-	-	116445	ⅢbL	完形	79.5	11.5	39.6	45.9	16.1	-5.1	2.0	-0.2	71.5	-	Sa.		
-	-	-	116532	ⅢbL	完形	75.9	7.9	25.5	42.3	22.2	1.0	3.0	0.8	62.1	-	Sa.		
-	-	-	116522	ⅢbL	完形	80.3	12.3	41.5	46.7	24.4	3.2	1.9	-0.3	111.6	-	Sa.		
-	-	-	116551	ⅢbL	完形	80.7	12.7	33.7	47.1	16.5	-4.7	2.4	0.2	78.0	-	Sa.		
-	-	-	116523	ⅢbL	完形	81.2	13.2	39.1	47.6	19.6	-1.6	2.1	-0.1	99.9	-	Sa.		
-	-	-	116500	ⅢbL	完形	82.3	14.3	38.8	48.7	21.8	0.6	2.1	-0.1	88.5	-	Sa.		
-	-	-	116581	ⅢbL	完形	79.0	11.0	25.2	45.4	17.6	-3.6	3.1	0.9	52.7	-	Mud.		
-	124-12	-	116529	ⅢbL	完形	78.3	10.3	44.7	44.7	19.7	-1.5	1.8	-0.4	127.5	-	Sa.		
-	-	ⅢS1219	116461	ⅢbL	完形	81.8	13.8	36.9	48.2	25.0	3.8	2.2	0.0	107.1	-	Sa.	他1点	
-	-	-	116493	ⅢbL	完形	81.5	13.5	30.0	47.9	14.7	-6.5	2.7	0.5	75.4	-	Sa.		
-	-	-	116447	ⅢbL	完形	83.0	15.0	30.1	49.4	20.8	-0.4	2.8	0.6	73.2	-	Sa.		
-	-	-	116509	ⅢbL	完形	82.4	14.4	38.9	48.8	18.5	-2.7	2.1	-0.1	93.0	-	Sa.		
-	-	-	116478	ⅢbL	完形	83.3	15.3	40.8	49.7	27.6	6.4	2.0	-0.2	110.4	-	Sa.		
-	-	-	116464	ⅢbL	完形	85.1	17.1	35.5	51.5	14.5	-6.7	2.4	0.2	60.9	-	Sa.		
-	-	-	116454	ⅢbL	略完形	85.4	17.4	34.1	51.8	23.1	1.9	2.5	0.3	95.6	-	Sa.		
-	-	-	116510	ⅢbL	完形	86.1	18.1	30.8	52.5	23.9	2.7	2.8	0.6	97.0	-	Sa.		
-	-	-	116458	ⅢbL	完形	86.0	18.0	27.0	52.4	29.5	8.3	3.2	1.0	89.1	-	Sa.		
-	-	ⅢS1216	116554	ⅢbL	完形	93.6	25.6	37.8	60.0	21.9	0.7	2.5	0.3	82.7	-	Sa.		
-	-	-	116546	ⅢbL	完形	102.2	34.2	46.2	68.6	17.4	-3.8	2.2	0.0	105.2	-	Sa.		
-	-	-	116558	ⅢbL	完形	107.2	39.2	36.0	73.6	27.1	5.9	3.0	0.8	134.6	-	Mud.		
-	-	-	116368	ⅢbL	完形	155.0	87.0	152.0	121.4	53.7	32.5	1.0	-1.2	2410.0	-	Sa.		
-	-	-	116369	ⅢbL	完形	246.0	178.0	100.0	212.4	44.2	23.0	2.5	0.3	1970.0	-	Sa.		
-	-	-	116382	ⅢbL	完形	213.0	145.0	160.0	179.4	32.4	11.2	1.3	-0.9	1915.0	-	Sa.		
-	-	-	116452	ⅢbL	完形	58.2	-9.8	32.5	24.6	27.5	6.3	1.8	-0.4	546.0	-	Sa.		
-	-	-	116443	ⅢbL	完形	62.0	-6.0	23.3	28.4	23.1	1.9	2.7	0.5	60.0	-	Sa.		
-	-	-	116423	ⅢbL	完形	66.2	-1.8	31.5	32.6	19.4	-1.8	2.1	-0.1	47.3	-	Sa.		
-	-	-	116427	ⅢbL	完形	66.3	-1.7	35.5	32.7	29.9	8.7	1.9	-0.3	86.8	-	Sa.		
-	-	-	116544	ⅢbL	略完形	68.4	0.4	28.0	34.8	24.4	3.2	2.4	0.2	51.9	-	Sa.		
-	-	-	116550	ⅢbL	完形	71.9	3.9	39.3	38.3	18.0	-3.2	1.8	-0.4	62.0	-	Sa.		
-	-	-	116580	ⅢbL	完形	70.3	2.3	57.8	36.7	15.7	-5.5	1.2	-1.0	108.0	-	Gin.		
-	-	-	116405	ⅢbL	完形	73.7	5.7	31.9	40.1	22.0	0.8	2.3	0.1	54.8	-	Sa.		
-	-	-	116583	ⅢbL	完形	73.4	5.4	53.5	39.8	22.0	0.8	1.4	-0.8	140.2	-	Gin.		
-	-	-	116585	ⅢbL	完形	75.9	7.8	67.7	42.3	23.5	2.3	1.1	-1.1	183.1	-	Gin.		
-	-	-	116543	ⅢbL	完形	79.1	11.1	43.2	45.5	19.6	-1.6	1.8	-0.4	84.6	-	Sa.		
-	-	-	116584	ⅢbL	完形	97.3	29.3	64.6	63.7	24.3	3.1	1.5	-0.7	250.0	-	Gin.		
-	-	-	116168	ⅢbL	欠損	143.7	75.7	86.4	110.1	52.8	31.6	1.7	-0.5	925.0	-	Sa.		
平均						76.4		38.0		21.4		2.2		150.0				
													総点数	271点	※完形	93点		

礫の1面が使用された台石である。8は小刀様の製品だが、刃は形成されていない。茎にあたる部分には錆化しているが帯金具状の痕跡が認められる。半製品、もしくは鑿状の工具かもしれない。9は鎖型の製品で、1つ1つの輪は断面円形で太さ4mmの鉄線で形成され、ねじれが加えられている。連結は各輪を直接絡めて繋げており、Ⅱ-31-4に図示したアイヌ文化期の例とは連結方法が異なる。類例は平取町二風谷遺跡(三浦他1986)で出土しており、擦文文化期の遺物として報告されている。

集中区 44 (図Ⅲ-64~70 図版 45)

位置：0・P-41・42区 規模：900×600cm

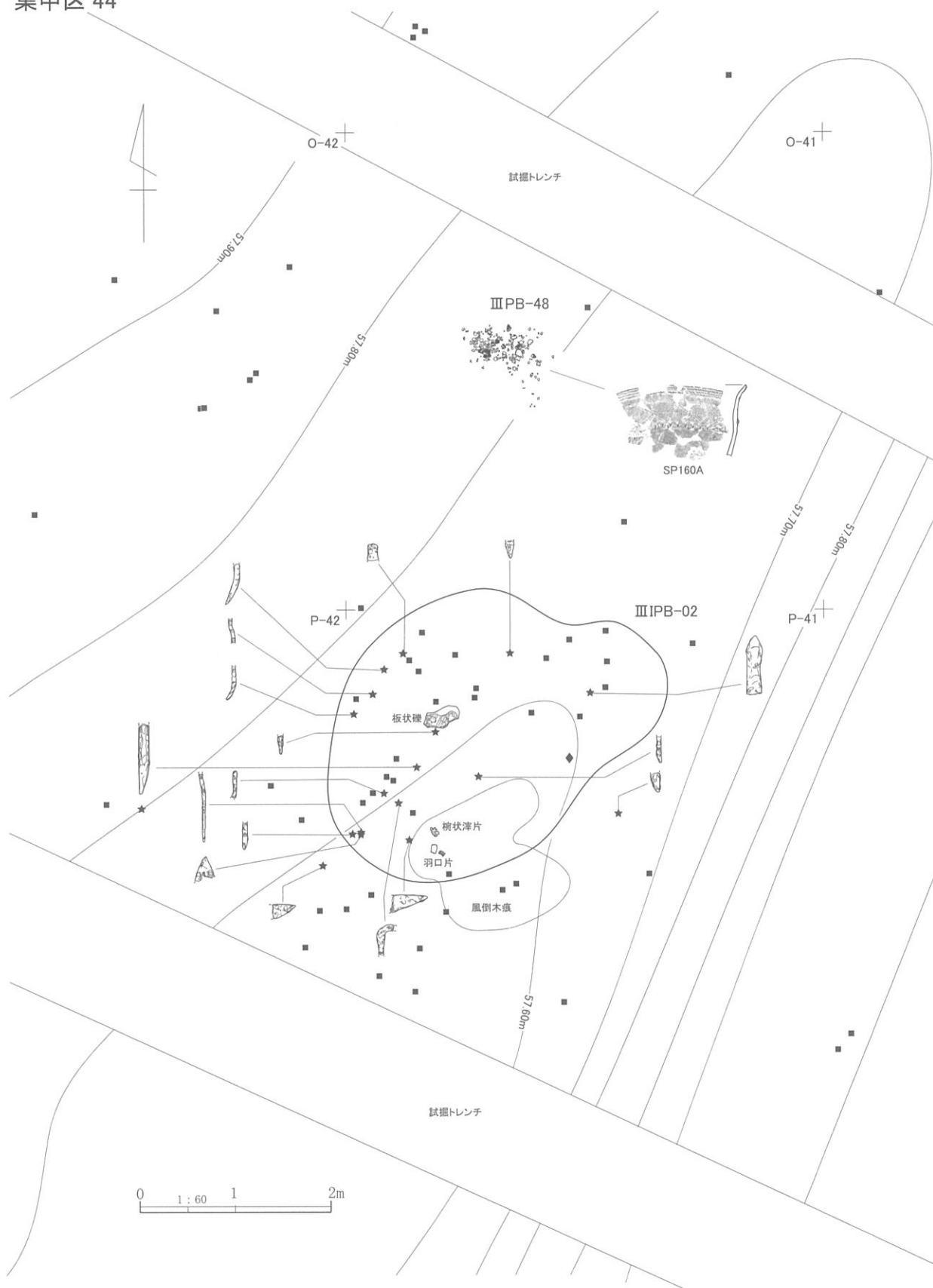
関連遺構：鉄器生産関連遺物集中 ⅢIPB-02 土器集中 ⅢPB-48

確認・調査：T₁の0・P-41・42区においてⅢ層上面清掃中、部分的に溶融した粘土塊を確認した。羽口片の可能性を想定したため、周囲のⅢa層掘削を慎重に行ったところ、同様の粘土塊と微細な剥片状の金属質遺物が多数出土した。鍛冶に関する遺構の存在を想定し、ⅢIPB-02として設定した。調査の結果、鉄器生産関連遺物を風倒木の窪みに投棄した場として判断したが、以下にその過程について記載していく。ⅢIPB-02の調査は、Ⅲb層掘削に入る段階で25cm四方の小グリッドを設定し、土壌サンプルを回収しながら行った。遺物取り上げは1cm以上のもののみをトータルステーションによる位置記録の対象とし、微細な資料に関しては土壌ごと回収し、水洗選別して抽出を行った。掘削中、遺物分布密度が高いP-41区北西において大型の板状礫の表面を確認し、その南東側でⅢb層が落ち込んだ長楕円形の窪みを検出した。金床石と鍛冶炉の窪みの可能性を想定し、窪みに対してトレンチを設定し、堆積状態の観察を行ったところ、基本層Ⅳ層が落込み、Ⅴ層が上がっている状態が観察できた。この堆積状態より、窪みは人為的なものではなく、Ⅲ層中に形成された風倒木痕と判断した。出土遺物に関しては、板状礫がⅢbL面に位置する遺物であることを確認し、また礫と同一面において大型の羽口片と粘土状物質が出土したことから、出土状態の図面を作成した上で取り上げを行った。またⅢIPB-02の北側約260cmの位置で土器集中を1ヵ所(ⅢPB-48)検出したため、デジタル写真実測を委託した上で取上げを行っている。

鉄器生産関連遺物集中(図Ⅲ-65)：羽口片等の集中を鉄器生産関連遺物集中とし、ⅢIPB-02の遺構名を設定した。ⅢIPB-02は風倒木痕の窪み内に鉄器生産関連遺物を投棄した場であり、実際に鉄器の生産が行われた場所はどこか別にあったと考えられる。この場所で出土した遺物の総重量は、板状礫を除くと1,525gで、その大半が風倒木痕の形成されたP-41区で出土している。層位ごとの分布をみると、Ⅲa~ⅢbMで取上げた資料は広範囲に分布しているが、ⅢbLにおいては板状礫北側と風倒木窪み付近に分布範囲を狭めている。また出土遺物の接合状況をみると、接合できた資料は近接した位置で出土した破片同士によるものがほとんどであった。今回接合できた資料はいずれも比較的大きく重量の重い破片間によるものであったことから、もともと風倒木窪み内の狭い範囲にまとまっていた遺物が、軽いものから時間の経過と共に移動し、散逸していったと考えられる。実際調査中にも不慮の大雨に遭遇し、本遺構周辺が水没した際、軽い遺物が流されて移動したことがあった。過去においても同様の事が起きたであろう点は想像に難くない。なお本集中において遺物と共に出土した炭化材に対しAMS年代測定を行っており、第Ⅶ章第1節で報告を行っている。

出土遺物(図Ⅲ-66~68)：1は風倒木痕の北側で出土した被熱板状礫である。表面は焼け弾けによる礫面の剥がれが認められるが、敲打痕は形成されていない。被熱範囲は裏面にまで及び、側縁は

集中区 44



図Ⅲ-64 集中区 44 平面図

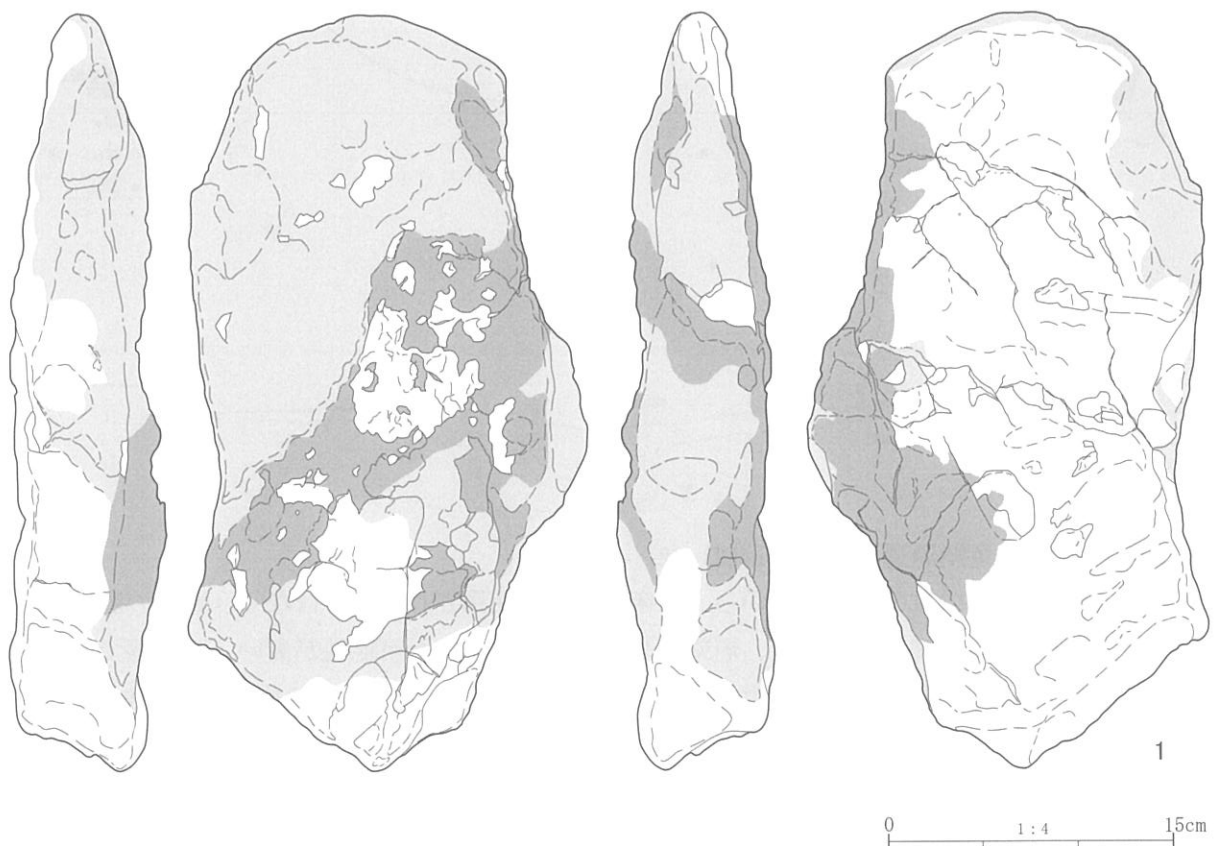


図Ⅲ-65 鉄器生産関連遺物集中(ⅢIPB-02)

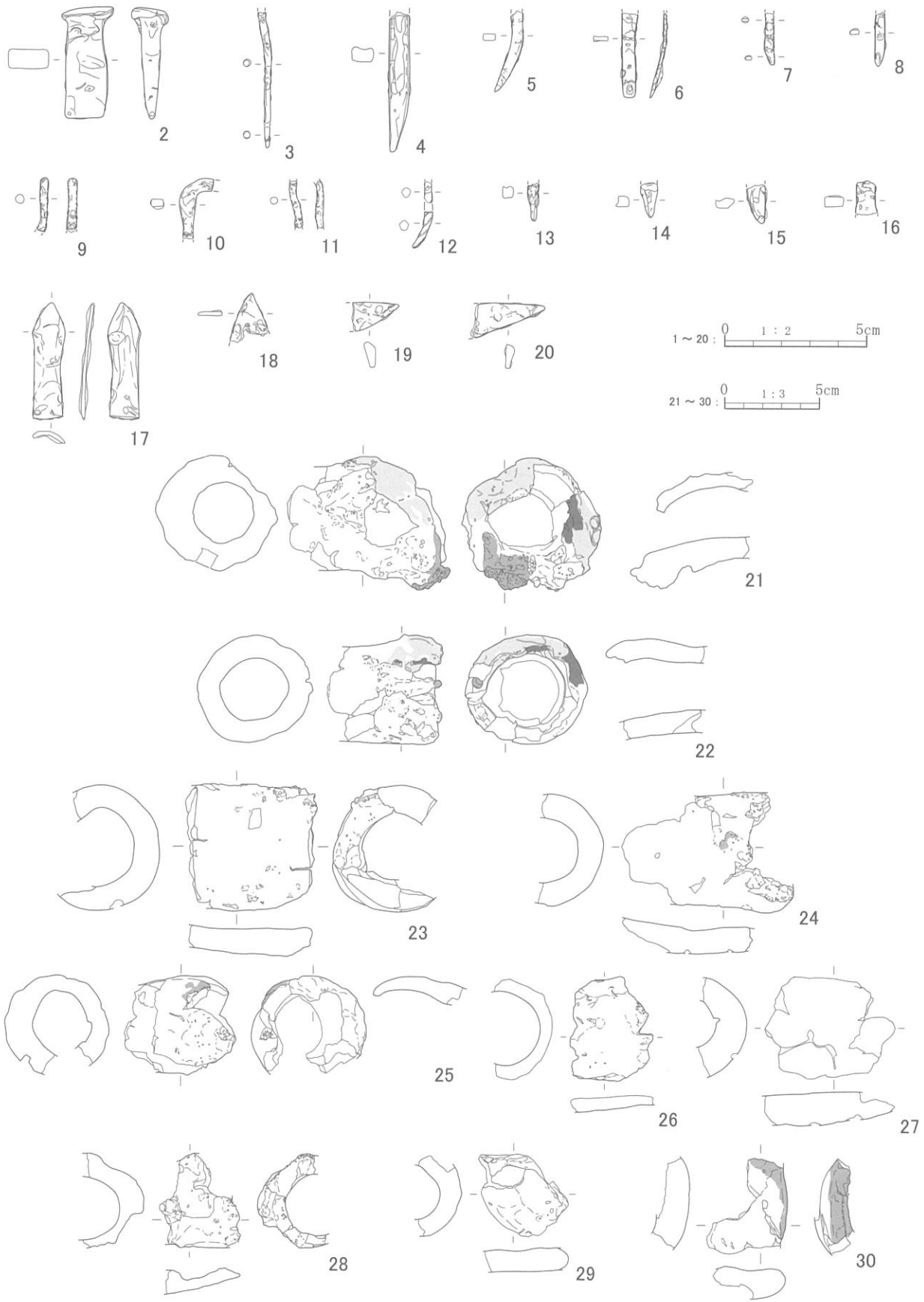
一方のみ強い被熱を受けていることから、金床石として使用されたのではなく、焼土の脇に礫左側面を下に向けた状態で立てて設置し、炉壁として使用されていた可能性が高い。2 は鑿で、上面に潰れが認められる。本遺構で出土した鉄器の中で唯一製品としての形状を成す資料である。3~16 は棒状の鉄片で、3~8・12~15 は端部が尖る。4 は遺跡内で出土する鉤状製品と同様に断面が溝状に変形している。12 ではねじれが認められた。17~20 は板状の鉄片である。17・18 は断面が薄く、端部が尖る。19・20 は厚みもち、端部が刀子の切先状に尖っている。21~30 は羽口片である。本遺構で出土した羽口片は細片化が著しく、さらに多くの個体があったと思われるが、接合し得たもの

は図示した 10 個体のみである。いずれも被熱により変色した羽口先端部付近の破片である。形状は先端部に向けてやや広がりをもよおす筒型のものが多く、内径はいずれも 3~4 cm の範疇に収まり、比較的画一的な形状を呈する。焼成は全体的に甘く、水に浸けると少しずつ溶け出す程軟質な状態である。胎土はいずれも均質な粘土で、砂粒の混入は認められず、スサを混入した痕跡も確認できない。21 では羽口先端部下面側に、以下に記載する椀状滓と同じ砂粒の付着が認められた。31~43 は粘土状物質でこの内 31~33 は椀状滓に分類した資料である。椀のように凹面、凸面をもつ形状が特徴で、凹面は一度溶融した粘土が固まった状態を呈し、表面の起伏が大きく、部分的に陶器の釉に似た黒色の光沢面が形成されている。一方凸面は全体に砂粒が付着し、表面は均質な曲面を形成している。内外面共に炭化物の混入は認められなかった。また今回椀状滓に分類した資料中に磁性をもつものはなかった。こうした形態的特徴は、青森市野木遺跡の P-5 で出土した羽口先端部付着の粘土状物質に類似している(中島他 2000)。34~36 は鉄滓に分類した資料で、粘土状物質の中でも比重が大きく、磁着するものが多い。37~40 は塊状滓で、粘土が発砲した状態で不整形に固結したものだと思われ、非常に軽く磁着しない。41~43 は粒状滓に分類したもので、小さい球形のもので磁着しない。44・45 は剥片状物質の内、剥片状鉄塊としたもので、厚さ 1 mm 以上ある板状の塊であり、色調はやや青味がかり磁着する。

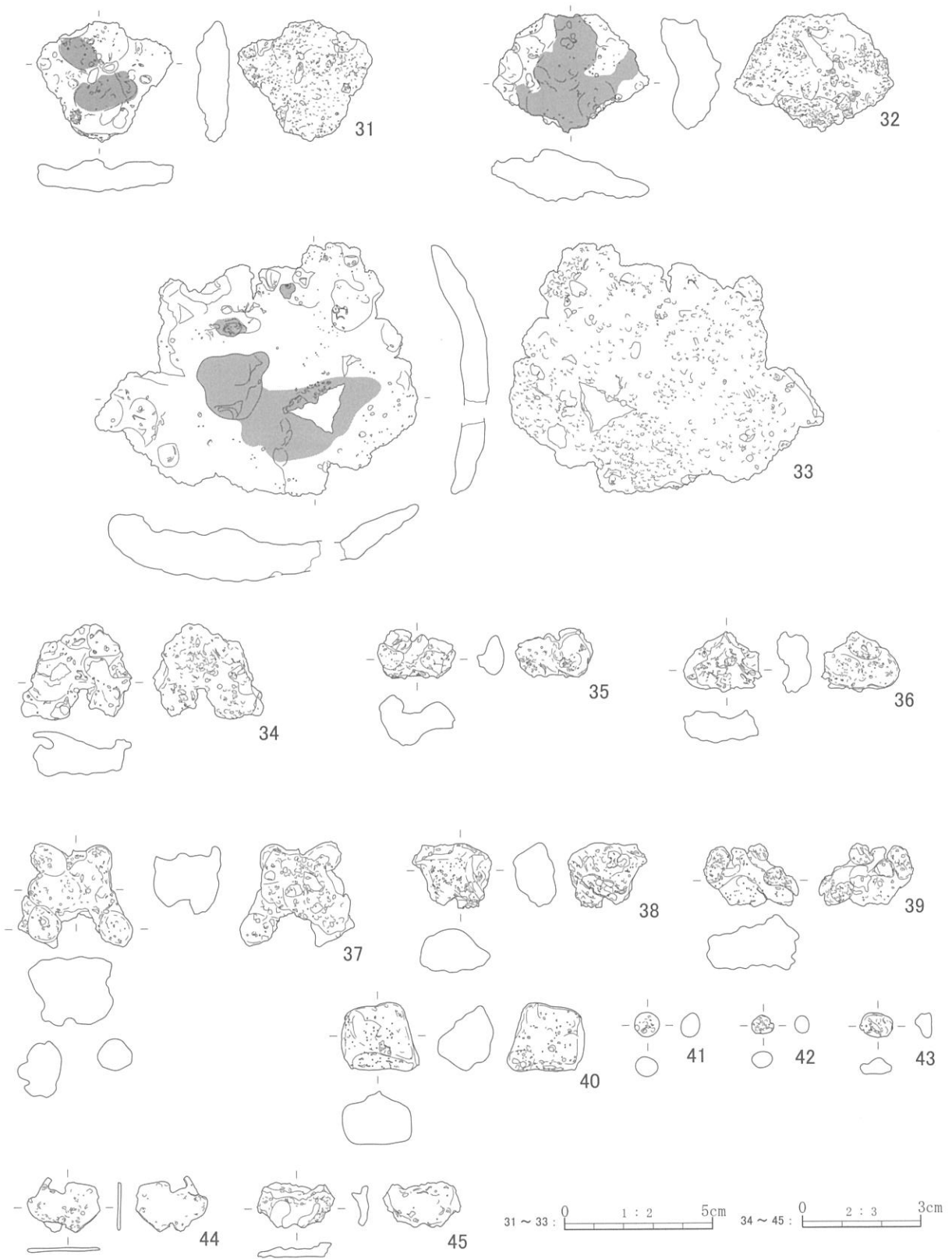
遺物分布(図Ⅲ-69)：遺構内における重量を指標とした分布をみると、羽口片、椀状滓、鉄滓といった重いものは風倒木痕周辺に集中するのに対し、塊状滓、粒状滓、剥片状鉄滓といった軽いものは風倒木痕南東側でも密度が高くなっている。こうした分布状態は、上記の層位ごとの分布範囲と



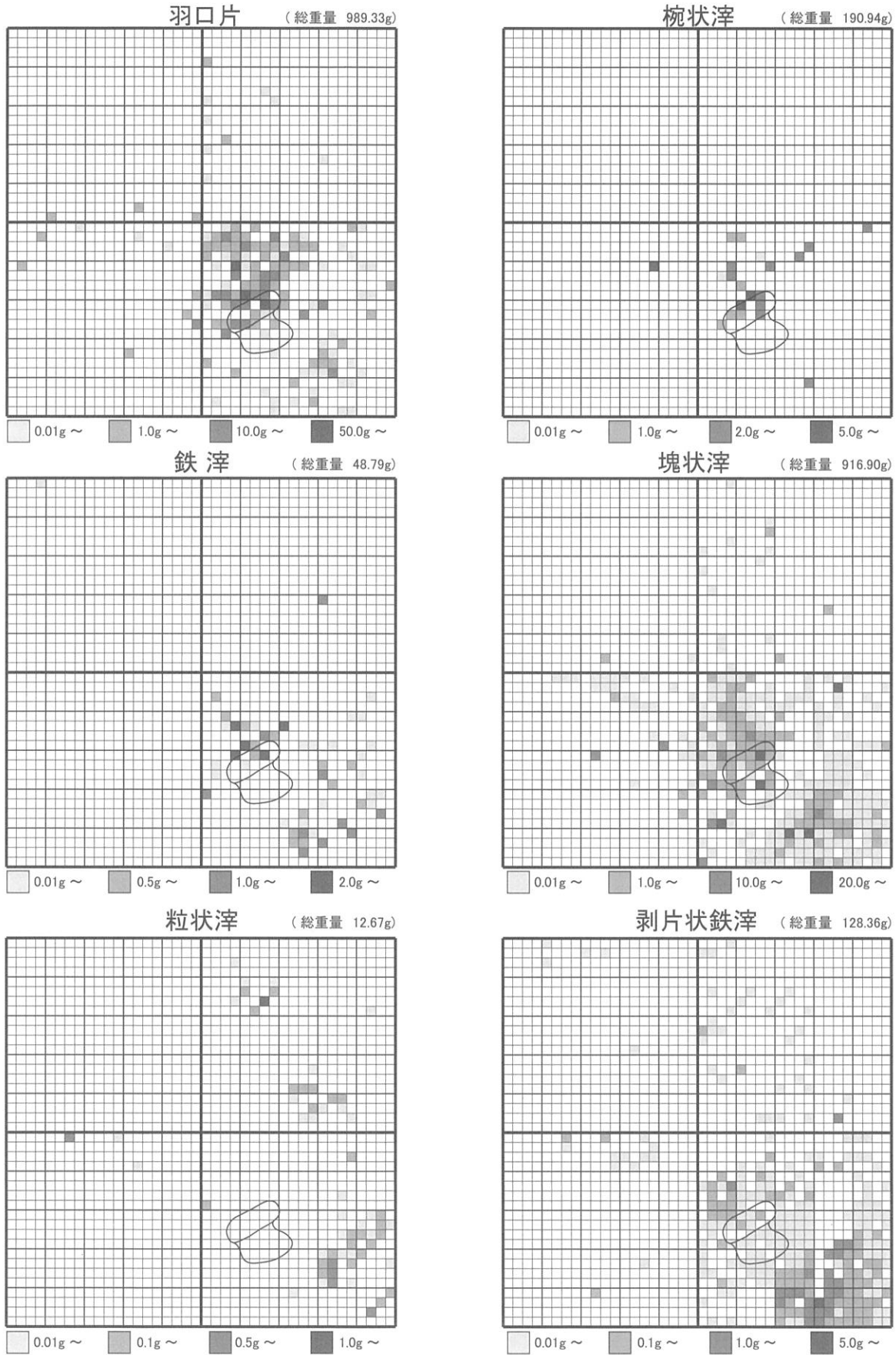
図Ⅲ-66 集中区 44 出土遺物(1)



図Ⅲ-67 集中区 44 出土遺物(2)



図Ⅲ-68 集中区 44 出土遺物 (3)

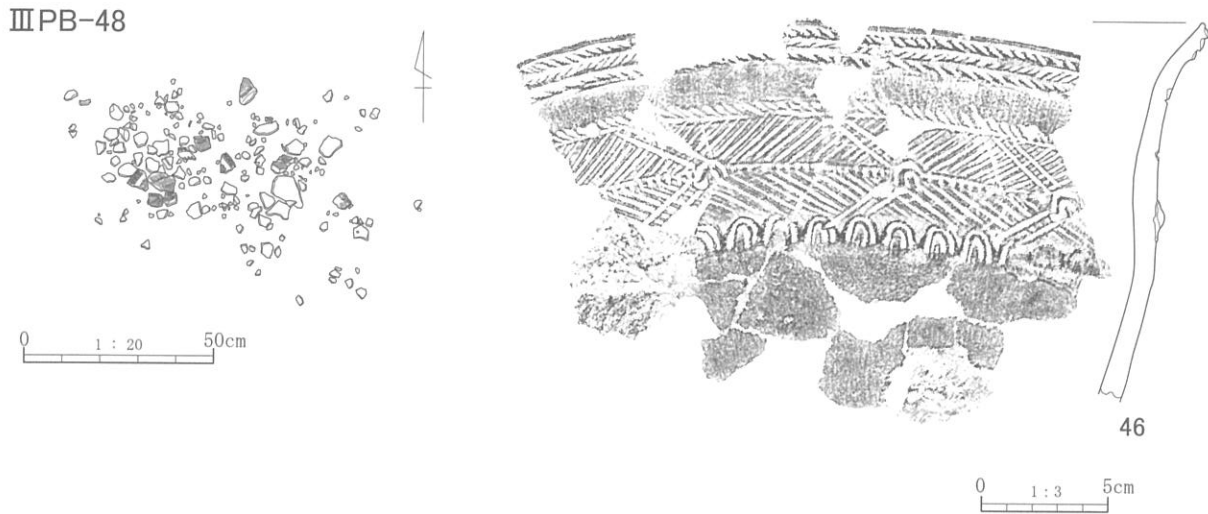


図III-69 IIIIPB-02 種別毎重量分布図

表Ⅲ-98 ⅢIPB-02出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-66-1	126-1	—	77631	被熱板状礫	—	ⅢbL	ⅢIPB-02	P-41	395.6	205.6	84.8	4160.0	Sa.	
Ⅲ-67-2	126-2	—	73676	鏝	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-41	4.0	18.0	7.5	20.5	Irn.	
Ⅲ-67-3	126-3	—	72807	棒状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-42	(48.0)	5.0	3.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-67-4	126-4	—	76691	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(49.0)	8.0	6.0	7.1	Irn.	
Ⅲ-67-5	126-5	—	76541	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(29.0)	10.0	3.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-67-6	126-6	—	82431	棒状鉄片	—	ⅢbL	ⅢIPB-02	P-41	(30.0)	6.0	2.0	1.2	Irn.	
Ⅲ-67-7	126-7	—	76729	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(18.5)	4.0	2.5	0.3	Irn.	
Ⅲ-67-8	126-8	—	76549	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(19.0)	4.5	2.5	0.4	Irn.	
Ⅲ-67-9	126-9	—	76563	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(19.0)	4.0	3.0	0.5	Irn.	
Ⅲ-67-10	126-10	—	76592	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(21.0)	(12.0)	4.0	1.1	Irn.	
Ⅲ-67-11	126-11	—	76099	棒状鉄片	—	ⅢbL	ⅢIPB-02	P-41	(17.0)	5.0	2.5	0.3	Irn.	
Ⅲ-67-12	126-12	—	72813	棒状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-41	(23.0)	7.0	3.5	0.4	Irn.	
Ⅲ-67-13	126-13	—	77573	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(14.0)	4.5	3.5	0.3	Irn.	
Ⅲ-67-14	126-14	—	72868	棒状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-41	(12.0)	6.0	4.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-67-15	126-15	—	74437	棒状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(14.0)	7.5	4.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-67-16	126-16	—	72849	棒状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-41	(12.5)	8.0	4.0	0.8	Irn.	
Ⅲ-67-17	126-17	—	74452	板状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	41.5	12.0	4.0	3.1	Irn.	鐵片?
Ⅲ-67-18	126-18	—	72795	板状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-41	(18.0)	18.5	2.0	0.6	Irn.	鐵片?
Ⅲ-67-19	126-19	—	72793	板状鉄片	—	ⅢbU	ⅢIPB-02	P-42	(17.0)	10.5	3.5	1.5	Irn.	
Ⅲ-67-20	126-20	—	77499	板状鉄片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	(26.5)	13.0	4.0	1.3	Irn.	
Ⅲ-67-21	126-21	ICP04	72820他	羽口	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	8.6	7.0	7.4	139.6	Cray	
Ⅲ-67-22	126-22	ICP01	76936他	羽口	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	6.0	5.8	6.5	98.5	Cray	
Ⅲ-67-23	126-23	ICP08	76940他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	6.9	6.7	5.4	117.2	Cray	
Ⅲ-67-24	126-24	ICP05	72869他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	9.0	6.3	4.0	77.7	Cray	
Ⅲ-67-25	127-25	ICP03	76987他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	5.9	5.3	6.0	68.9	Cray	
Ⅲ-67-26	127-26	ICP07	72974他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	4.4	5.5	3.5	25.2	Cray	
Ⅲ-67-27	127-27	ICP06	76944他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	6.9	5.4	2.6	51.7	Cray	
Ⅲ-67-28	127-28	ICP02	72760他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	5.0	4.3	3.6	18.8	Cray	
Ⅲ-67-29	127-29	ICP10	76514他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	4.8	4.4	2.6	25.1	Cray	
Ⅲ-68-30	—	ICP09	76982他	羽口片	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	5.0	4.2	2.0	20.7	Cray	
Ⅲ-68-31	127-31	—	76501	椀状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	4.6	4.2	1.1	10.3	Cray	
Ⅲ-68-32	127-32	—	72976	椀状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	5.3	4.1	2.0	23.5	Cray	
Ⅲ-68-33	127-30	—	77634	椀状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	10.9	8.6	2.3	93.2	Cray	
Ⅲ-68-34	127-33	—	72955	鉄滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.8	2.4	1.2	5.5	Cray	磁性有
Ⅲ-68-35	127-34	—	72755	鉄滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.0	1.3	0.7	2.5	Cray	磁性有
Ⅲ-68-36	127-35	—	72762	鉄滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.0	1.6	0.9	1.3	Cray	
Ⅲ-68-37	127-36	—	76724	塊状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.9	2.7	1.7	7.1	Cray	
Ⅲ-68-38	127-37	—	76722	塊状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.0	1.7	1.1	2.6	Cray	
Ⅲ-68-39	127-38	—	74427	塊状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.4	1.6	1.4	2.0	Cray	
Ⅲ-68-40	127-39	—	77532	塊状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.0	1.8	1.4	1.7	Cray	
Ⅲ-68-41	127-42	—	76663	粒状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	0.6	0.6	0.5	0.4	Cray	
Ⅲ-68-42	127-43	—	76666	粒状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	0.6	0.5	0.4	0.0	Cray	
Ⅲ-68-43	127-44	—	76669	粒状滓	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	0.9	0.7	0.4	0.0	Cray	
Ⅲ-68-44	127-40	—	76078	剥片状鉄塊	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	1.8	1.4	0.1	0.7	Irn.	磁性有
Ⅲ-68-45	127-41	—	74463	剥片状鉄塊	—	ⅢbM	ⅢIPB-02	P-41	2.0	1.2	0.4	1.7	Irn.	磁性有

同様、重量の違いによる遺物の移動を示すものと考えられる。また同じ分類に属するものは同じ範囲に集中する傾向が強いため、長期に渡る投棄の累積によって形成された遺構ではなく、比較的短期間で形成されたものが個々の重量の差によって散逸した可能性が高い。



図Ⅲ-70 集中区 44 出土遺物 (4)

表Ⅲ-99 集中区44出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-70-46	128-46	SP160A	VIB3C	79477.81015.81207他	ⅢbL	ⅢPB-48	O-41	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	27	

土器集中(図Ⅲ-70)：ⅢPB-48 はⅢIPB-02 の北側 260 cmの位置で検出した。100×50 cmの範囲で240 点の土器片が出土した。土器集中の形成されている層位はⅢbL で、Ⅲc 上面が近いので褐色味が強くなった面であり、ⅢIPB-02 の板状礫検出面と同じであった。出土した土器は 46 に図示した VIB3c の甕で、斜位の深く明瞭な沈線で胴部の文様を施文し、文様帯下縁の貼付帯と文様帯中央にも等間隔に馬蹄形圧痕文を押捺している。貼付帯の剥がれた位置には、貼付前の位置決めと思われる横位の沈線が廻らされている。

集中区の時期：本集中区の主体となるⅢIPB-02 では、直接時期を判別する遺物を伴わず、Ⅲa からⅢbL までの各層順で遺物の出土が認められた。しかし 1) 遺物の垂直・水平分布において、ⅢbL で出土した資料が本来の集中位置に近いことが想定された。2) 板状礫の検出面とⅢPB-48 検出面とが同じである。3) 羽口の観察では、胎土にスサを混入しない点が、道内の擦文文化期の羽口と共通する要素である。4) 第七章第 1 節で報告している AMS 年代測定により 10 世紀後半～11 世紀前半とする結果を得ている。以上の点により、本集中区の遺物は擦文文化期に属するものと判断した。

集中区の性格：ⅢIPB-02 は風倒木痕の窪みに投棄された鉄器生産関連遺物の集中であり、鉄器生産を行った場ではないと考えられる。ただしこうした資料が出土したことで、擦文文化期において遺跡内で鉄器生産が行われていたことは確実といえる。遺跡内で擦文文化期の主な活動の場となっていた T₂ においては既刊報告書に記載した集中区 16 で同時期の羽口片が出土し、今回報告している中でも集中区 31・37 の焼土土壌サンプル中より同時期の剥片状鉄滓が少量得られている。しかしいずれも本集中区で出土した資料数に対応する程の規模ではなく極小規模な活動の痕跡と想定される。また先述のように、遺物出土状態からも本遺構が短期間で形成されたものと推定した。以上より、本集中区は本州、あるいは道南等他地域から一時的にやって来た鉄器生産技術をもつ人間による活動の痕跡である可能性が高い。

第4節 土坑 (図Ⅲ-71・図版 46)

今回報告対象となる遺構の内、集中区に属さない土坑は1基のみである。

ⅢP-24 (図Ⅲ-71 図版 46-1・2)

位置：Z-25区 規模：76×66×52cm 平面形：円形

確認・調査：Z-25区のⅢc層上面を柱穴確認のためジョレン精査した際、Ⅲb層の円形の落込みを検出した。半截し、堆積状態を観察した結果、基本土層を掘り込んでいると判断したため土坑と考え、ⅢP-24として設定した。平面形が円形で、壁面が垂直気味に立ち上がる土坑は、平成17年度の調査でも検出しており、坑底直上の堆積土中に花粉化石が多く含まれていることを把握していたため、本土坑についても同様の分析委託を計画し、堆積状態の記録後に一度調査を中断した。分析委託を北海道開拓記念館の山田悟郎氏に依頼することが決定したため、氏の到着を待ち、調査を再開した。調査は5層下位付近まで掘削した段階で止め、山田氏にサンプルを採取していただいた。サンプルは堆積土5層下位と7層から採取した。採取後土坑の完掘を行い、平面形の記録を作成し調査を終了した。

形態：平面形は南北にやや広い円形を呈する。底面はほぼ水平で、壁面は坑底から中程までほぼ垂直に立上がった後、開口部に向けて開く形状を呈する。

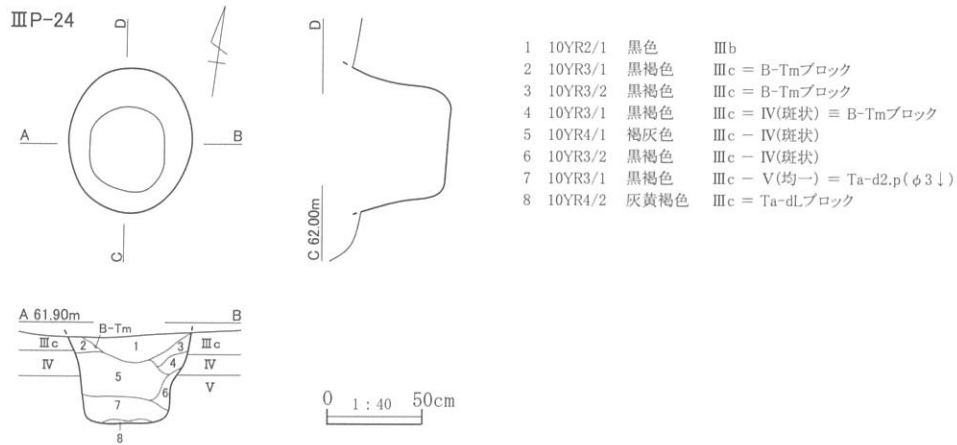
堆積状態：土坑内の堆積土は、7・8層がV層やTa-dLを多く含むため埋め戻しによる土。2～6層はⅢc層、及びⅣ層主体土であるため壁面の崩落土と考えられ、1層は埋没後の窪みに堆積した自然堆積のⅢb層と判断した。

上幌内モイ遺跡検出土坑の概観

ここで遺跡内で検出した擦文文化期の土坑の概観について触れておく。上幌内モイ遺跡では既刊報告書記載分も含め、計44基の土坑を検出したが、これらは大きく3つのタイプに分けられる。1つは焼土に隣接、もしくは焼土と重複する状態で形成されるもので、平面形は不整形で浅いものが多く、堆積土に焼土起源の焼骨片を多く含む埋め戻しの土が認められることが特徴である。2つ目は焼土と共に同じ集中区を形成していても焼土からはやや離れた位置に構築され、平面形は円形に近く、掘り込みも深く垂直気味に立ち上がる壁面が形成されたものである。堆積土は坑底面直上に壁面の崩落による土が堆積し、自然埋没している例が多い。3つ目は上記のⅢP-24のように、他の遺構との関連をもたず単独で検出される例である。それぞれの性格については、1つ目は焼土と密接に関わる点から、焼土使用時の燃焼面更新に伴う灰の埋め戻しが考えられる。2つ目は焼土と集中区としての関連をもちつつも距離を置いて構築している点や、使用時に「穴」の状態であったことを考慮すると貯蔵穴等の目的で形成された土坑の可能性が想定される。3つ目のタイプは2つ目のタイプと形態的に類似するが坑底面直上に埋め戻し土が若干堆積する例が多いため、性格は異なると考えられる。

表Ⅲ-100 擦文文化期土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅲ-71	46-1・2	ⅢP-24	Z-25	Ⅲc	円形/円形	76	66	46	40	52	N-22°W	



図Ⅲ-71 擦文文化期土坑

第5節 焼土 (図Ⅲ-72~74 図版 46・47)

IIIb層下位~IIIc層上面において検出し、他の遺構と有意な関連性を想定できなかった焼土は、合計14カ所確認した。以下個別に記載した上で、既刊報告書掲載分も合わせた焼土の概観について報告する。

III F-187・199 (図Ⅲ-72 図版 46-4~6)

S-34・35区で検出した。当初III F-187の1カ所のみと考えていたが、調査を進めた際、南東側に隣接する別の焼土を検出したことから、III F-199として設定し、合わせて調査を行った。III F-187は長さ約110cm、焼土層の厚さ13cmの規模を測る不整長方形の焼土である。III F-199は長さ約60cm、焼土層の厚さ5cmの規模を測る不整形の焼土である。共に焼骨片が上位に堆積する。周囲は耕作による攪乱でIII層が削平されており、焼土検出位置付近のみが島状に残存していた。土壌サンプル中からは共にウグイ、サケ属、哺乳綱の骨が得られ、炭化種子はIII F-187でムギ類を得ている。また図示していないが中柄と思われる骨角器先端部片もIII F-187サンプル中から得ている。なお周辺のIIIc~IV層上面において円形の黒色土落込みを確認したため半截したところ、いずれも杭跡であると判断した。しかし全て堆積土中にIIIbを多く含んでいたことから、アイヌ文化期に属する杭跡と判断し、本焼土に伴うものではないと考えた。

III F-163・164 (図Ⅲ-73 図版 46-3)

X-18区で2カ所が並ぶ配置で検出した。周囲のIII層は攪乱により削平が著しく、その合間に島状に残る状態であった。III F-163は長さ60cm以上、焼土層の厚さ6cm。III F-164は長さ42cm以上で焼土層の厚さ5cmを測る。共に焼骨片を伴っている。土壌サンプルからはIII F-163で魚骨が、III F-164ではヒエの炭化種子を得ている。

III F-174 (図Ⅲ-73)

AB-24区で検出した。根により攪乱され、焼土層は原形を留めていないが、長さ44cm程の規模であったと考えられる。攪乱により動いた土に焼骨片が混入していたため、骨片を伴う焼土であったと考えられる。土壌サンプルから特筆すべき資料は得ていない。

III F-175 (図Ⅲ-73)

T-22区で検出した。長さ18cm、厚さ2cmの規模を測り、堆積状態の観察により、下底面がレンズ

状でなく、焼土中に焼骨片を含んでいたことから、投棄された焼土と判断した。土壌サンプルからは哺乳綱の骨を得ている。

ⅢF-197 (図Ⅲ-73)

Z-33 区で検出した。検出面はⅢc 上面で、擦文文化期の中でもやや古い時期に形成された可能性が高い。長さ 144cm、焼土層の厚さ 7cm の規模の大きい焼土である。上位に焼骨片を伴い、土壌サンプルからはウグイ、サケ属といった魚骨を得ている。

ⅢF-201 (図Ⅲ-73)

T-30 区で検出した。攪乱で上位が削平されているが、残存部分のみで長さ 18cm、焼土層の厚さ 2cm を測る。土壌サンプルから哺乳綱の骨を少量得ている。

ⅢF-206 (図Ⅲ-73 図版 47-1・2)

T-31 区で検出した。北西側が根による攪乱を受けて壊されている。長さ 20cm 以上、厚さ 2cm を測り、焼骨片を伴う。

ⅢF-208 (図Ⅲ-73)

T₁ の R-42 区で検出した。長さ 33cm、焼土層の厚さ 2cm の規模で、焼骨片を伴う。

ⅢF-232 (図Ⅲ-73 図版 47-3・4)

T₁ の D-36 区で検出した。長さ 84cm、焼土層の厚さ 8 cm の規模を測る。燃焼面中央が窪み、窪み中に灰が堆積していた。土壌サンプルからは哺乳綱の骨を得ている。また焼土周囲からはⅢ-73-1 に図示した擦文土器片が出土した。ⅧB3 の甕口縁部片で、口縁部文様帯下縁に馬蹄形圧痕文が廻らされている。

ⅢF-233 (図Ⅲ-74 図版 47-5・6)

T₁ の I-35 区で検出した。根により攪乱されているが、長さ 40cm 前後、厚さ 4cm の規模を測る。焼骨片の堆積は確認できず、土壌サンプルからはクルミ属の炭化種子を得ている。

ⅢF-234 (図Ⅲ-74 図版 47-7・8)

T₁ の F-38 区で検出した。長さ 56cm、焼土層の厚さ 6cm の規模で、上位にやや広い範囲で焼骨片の分布が認められた。この焼骨片については当初ⅢBB-49 として扱っていたが、報告段階でⅢF-234 に統合している。土壌サンプルからは哺乳綱の骨を得ている。

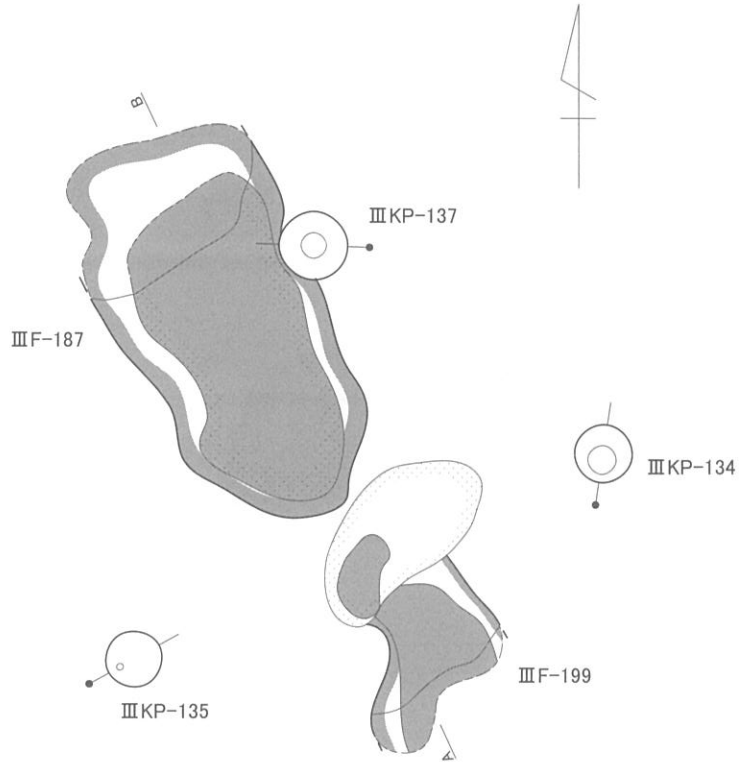
ⅢF-235 (図Ⅲ-74)

T₁ の D-48 区で検出した。長さ 20cm、焼土層の厚さ 4cm の小規模な焼土である。焼骨片が僅かに認められたが、土壌サンプルからは同定可能な骨を得ることはできなかった。

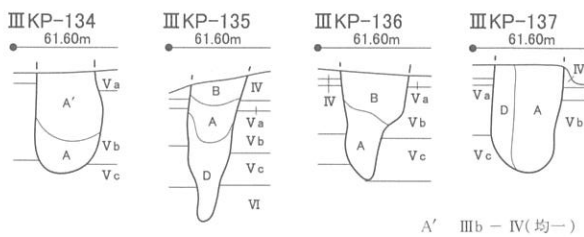
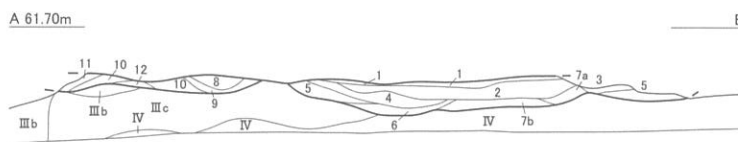
上幌内モイ遺跡検出擦文文化期焼土の概観

既刊報告書では、T₂ 北半部で検出した擦文文化期の焼土(以下 北半部焼土群)について報告を行った。その際、a. 灰層を伴わないこと、b. 付帯黒色層が不明瞭なこと、c. 燃焼面は大半が平坦であること、の 3 点の特徴をあげた。そして a、b の特徴を経年の要素と考え、c については、灰の掻き出し行為の有無と関係し、擦文文化期においては灰の掻き出しを行う例が少ないと考えた。今回報告対象としたものは、主として T₂ 南半部で検出した焼土(以下 南半部焼土群)である。これらを見ると前節の土坑の項でも触れたように、焼土に重なる土坑が形成され、焼土起源の灰を埋め戻すという行為が認められる。また焼土燃焼面が窪む例も南半部焼土群では 57 例中 22 例であり、北半部

ⅢF-187・199

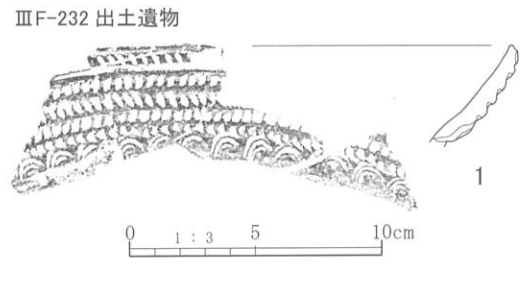
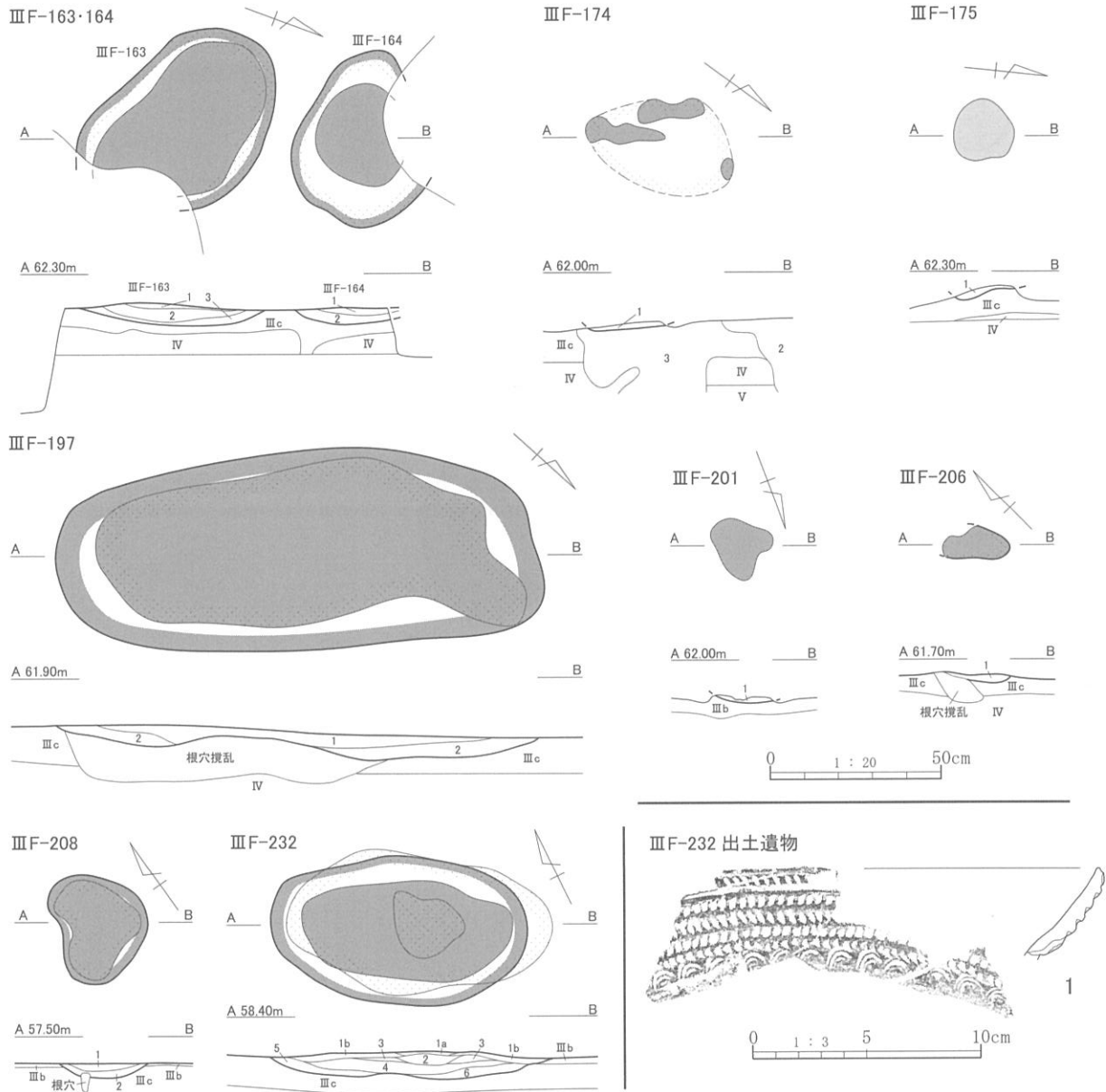


※ⅢKP-134～137はアイヌ文化期のもの



ⅢF-187・199		
1	7.5YR5/4	にぶい褐色 焼土粒 - 焼骨片 = Ⅲb(斑状) ≡ 炭化物 粘性やや強
2	5YR5/6	明赤褐色 焼土(Ⅲc地山被熱層) 粘性なし
3	5YR4/6	赤褐色 焼土(Ⅲc地山被熱層) 粘性あり
4	7.5YR2/2	黒褐色 焼土(弱いⅢc地山被熱層)
5	10YR2/1	黒色 付帯黒色層
6	10YR3/2	黒褐色 Ⅲc ≡ 焼土粒(斑状)
7a	7.5YR4/4	褐色 Ⅲc = 焼土(均一)
7b	10YR5/4	にぶい黄褐色 Ⅳ ≡ 焼土粒(斑状)
8	5YR4/4	にぶい赤褐色 焼土(Ⅲc地山被熱層) - 焼骨片 = Ⅲb(斑状) ≡ 炭化物 粘性有
9	10YR3/2	黒褐色 Ⅲc - Ⅳ(斑状) ≡ 焼骨
10	7.5YR5/4	にぶい褐色 焼土(Ⅲc地山被熱層)
11	7.5YR3/1	黒褐色 Ⅲb = 焼土粒(斑状) ≡ 焼骨片
12	7.5YR4/3	褐色 焼土(Ⅲc地山被熱層)

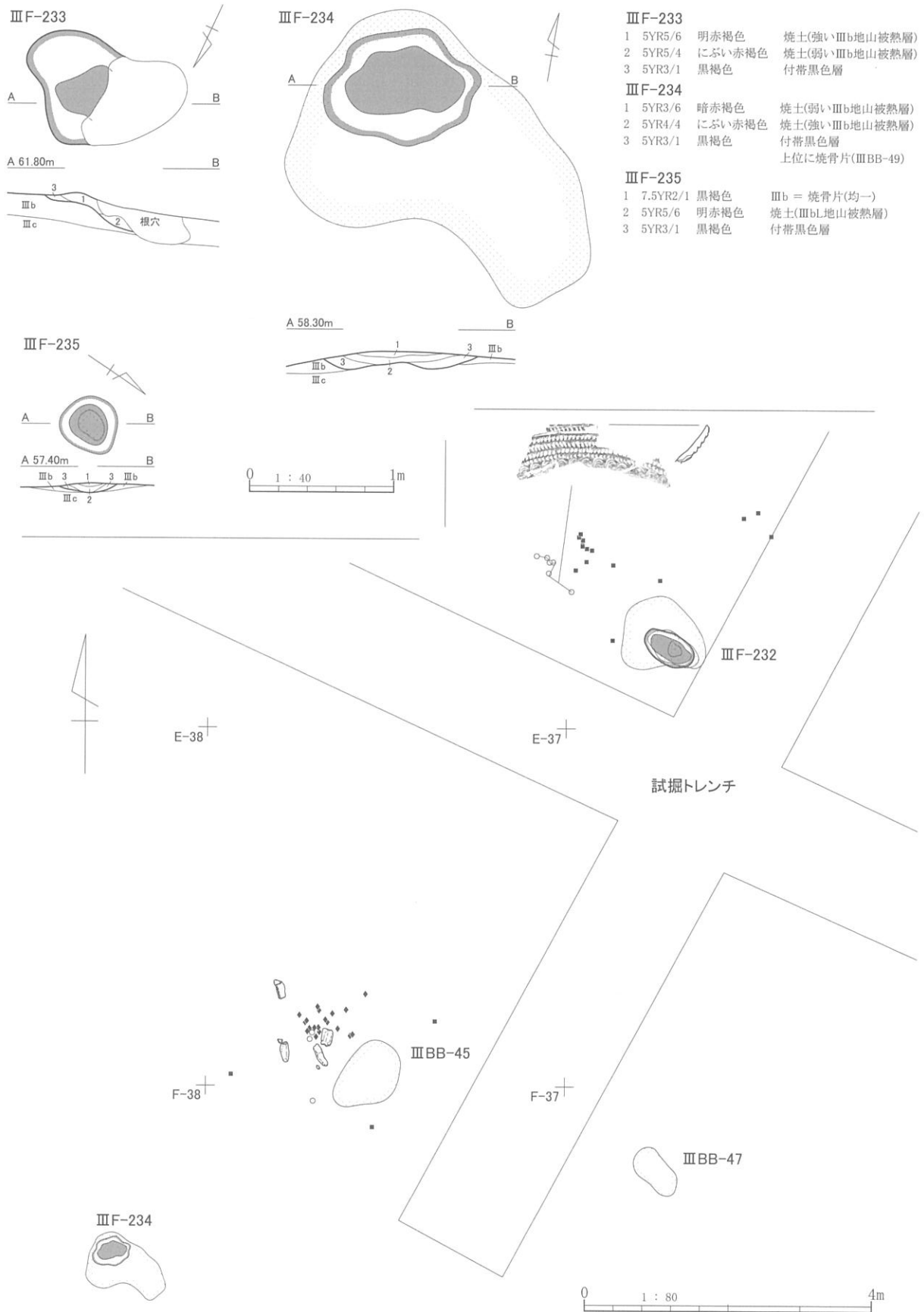
図Ⅲ-72 擦文文化期焼土(1)



- III F-163**
 1 7.5YR2/2 黒褐色 IIIb = 焼骨片(斑状)
 2 7.5YR5/6 明褐色 焼土(IIIbL~IIIc地山被熱層)
 3 10YR3/2 黒褐色 付帯黒色層
- III F-164**
 1 7.5YR5/4 にぶい褐色 焼土(IIIbL~IIIc地山被熱層)
 2 10YR3/2 黒褐色 付帯黒色層
 III F-163に比べ焼骨片少
- III F-174**
 1 7.5YR5/4 にぶい褐色 焼土(IIIb主体土の被熱層) - 焼骨片
 2 7.5YR2/2 黒褐色 IIIbの根穴落ち込み
 3 10YR2/2 黒褐色 IIIcの根穴落ち込み
 根により攪乱された焼土
- III F-175**
 1 7.5YR4/6 褐色 IIIb - 焼土粒(斑状) ≡ 焼骨片
- III F-197**
 1 5YR5/6 明赤褐色 焼土(IIIc地山被熱層)
 2 5YR2/1 黒褐色 付帯黒色層
- III F-206**
 1 7.5YR6/6 橙色 焼土(IIIc地山被熱層) ≡ 焼骨片(斑状)
 付帯黒色層が狭くIII F-195と似る

- III F-201**
 1 10YR5/4 にぶい黄褐色 IIIb - 焼土(斑状) = 焼骨片(均一)
 投棄された焼土が短期間使用の焼土
- III F-208**
 1 7.5YR4/6 褐色 焼土(IIIc地山被熱層)
 2 10YR2/3 黒褐色 付帯黒色層
- III F-232**
 1a 5YR4/1 褐灰色 IIIb - 焼骨片(均一)
 1b 5YR5/3 にぶい赤褐色 IIIb - 焼骨片(均一) = 灰(斑状)
 2 10YR7/1 灰白色 灰 - 焼骨片(均一)
 3 5YR5/6 明赤褐色 焼土(強いIIIb地山被熱層)
 4 2.5Y4/4 にぶい赤褐色 焼土(弱いIIIc地山被熱層)
 5 5YR4/1 褐灰色 付帯黒色層
 6 5YR3/1 黒褐色 付帯黒色層
- III F-233**
 1 5YR5/6 明赤褐色 焼土(強いIIIb地山被熱層)
 2 5YR5/4 にぶい赤褐色 焼土(弱いIIIb地山被熱層)
 3 5YR3/1 黒褐色 付帯黒色層

図Ⅲ-73 擦文文化期焼土(2) 及び出土遺物



図Ⅲ-74 擦文文化期焼土(3)及びT₁検出焼土配置図

表Ⅲ-101 擦文文化期焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-73	46-3	ⅢF-163	X-18	ⅢbL	長楕円形	(60)	44	6	骨	
Ⅲ-73	46-3	ⅢF-164	X-18	ⅢbL	楕円形	(42)	41	5	骨	
Ⅲ-73	-	ⅢF-174	AB-27	ⅢbL	長楕円形	44	29	2	骨	
Ⅲ-73	-	ⅢF-175	T-22	ⅢbL	楕円形	18	19	2	-	焼土粒
Ⅲ-72	46-4~6	ⅢF-187	S-34	ⅢbL	不整形	(108)	58	13	骨	
Ⅲ-73	-	ⅢF-197	Z-33	ⅢcU	長楕円形	144	58	7	骨	
Ⅲ-72	46-4~6	ⅢF-199	S-34	ⅢbL	不整形	(60)	44	5	骨	
Ⅲ-73	-	ⅢF-201	T-30	ⅢbL	不整形	18	16	2	-	
Ⅲ-73	47-1・2	ⅢF-206	T-31	ⅢbL	-	(20)	11	2	骨	
Ⅲ-73	-	ⅢF-208	R-42	ⅢbL	不整形	33	28	2	骨	
Ⅲ-73	47-3・4	ⅢF-232	D-36	ⅢbL	長楕円形	84	43	8	骨・灰	
Ⅲ-74	47-5・6	ⅢF-233	I-35	ⅢbL	-	(34)	40	4	-	
Ⅲ-74	47-7・8	ⅢF-234	F-38	ⅢbL	不整形	56	40	6	骨	
Ⅲ-74	-	ⅢF-235	D-48	ⅢbL	楕円形	21	20	4	骨	

表Ⅲ-102 擦文文化期焼土出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-73-1	129-1-1	SP163A	VIB3	115645.115647.115654他	ⅢbL	ⅢF-232	D-36	甕	口縁	ハクメ ミガキ	ハクメ ナデ	6	

焼土群では94例中22例であったことからみるとやや多い傾向にあるため、cの特徴が当てはまらなくなっている。また焼骨片を伴う例でみると、南半部焼土群では57例中47例と高い確率で焼骨片を伴っていたのに対し、北半部焼土群では94例中41例と骨片を伴う例は半数以下であった。さらに焼土層の厚さも南半部焼土群では厚さ5cm以上の良好な焼土層を形成する例が多く焼土層の規模にも違いが認められた。このように同じT₂に形成された焼土でも、北半と南半とで様相が異なっており、その場で営まれた行為の違いを反映していると考えられる。この内、北半部焼土群の性格については、既刊報告書掲載の集中区1・2のように儀礼的様相を呈する例や、焼土規模の小さいものが多いことから、儀礼の場や短期的なキャンプサイトとして形成された可能性が高い。一方南半部焼土群については、規模が大きく焼骨片を含む例が多いことから、日常的な生業活動の中で形成された焼土としての性格が想定される。

第6節 集中遺物

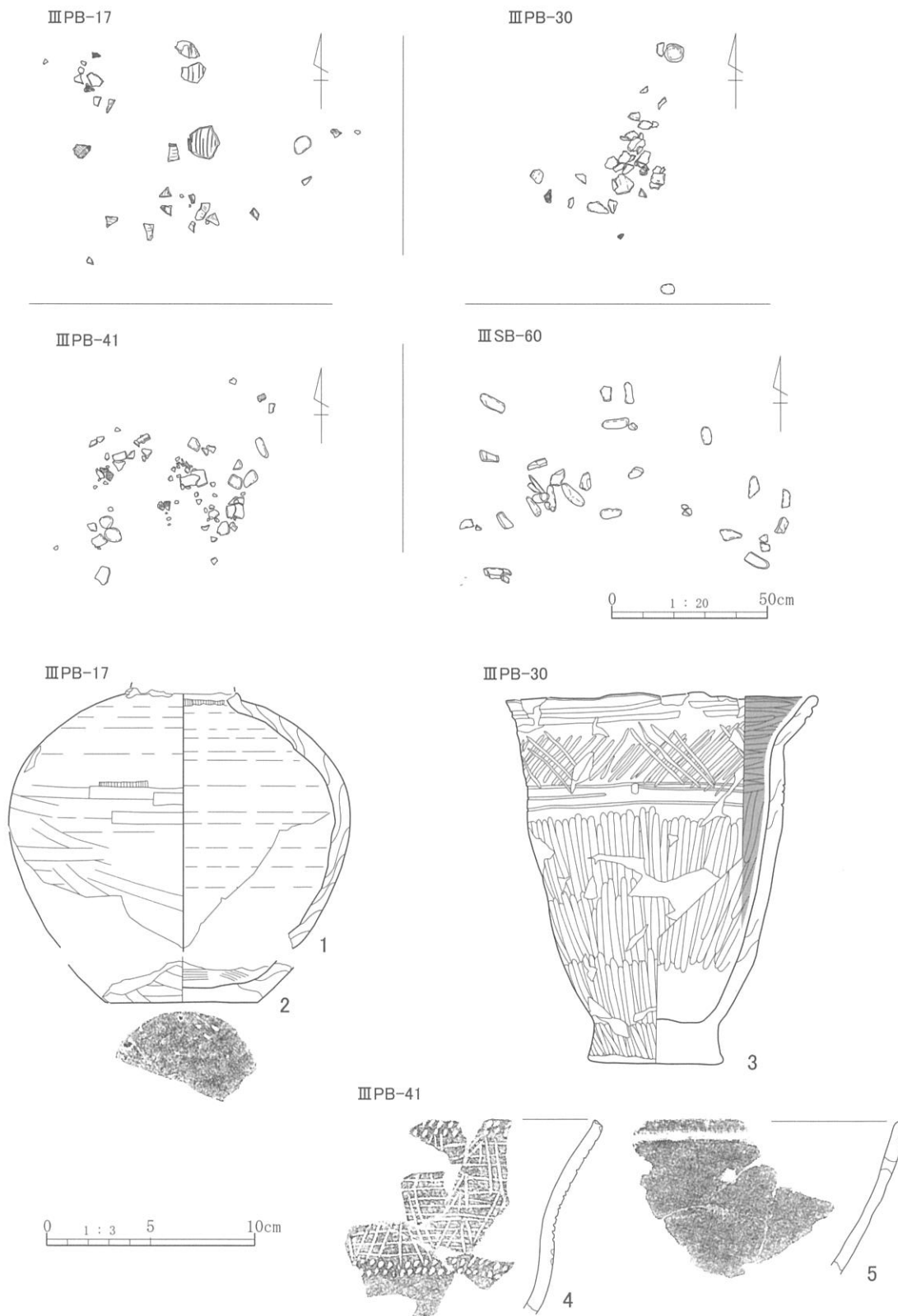
集中区を構成しない単独の集中遺物は、土器集中がⅢPB-17・30・41の3カ所、礫集中がⅢSB-60の1カ所である。以下で個別に記載する。

ⅢPB-17 (図Ⅲ-75 図版 48-1・2)

AC-22区で検出した。80×65cmの範囲に34点の土器片が出土した。構成している土器は1・2の須恵器壺である。破断面で観察できる色調は赤く、内面もやや赤味を帯びている。第Ⅶ章第7節で報告している胎土分析の結果では、五所川原産とする報告を得ている。なおこの土器集中の下位からは続縄文時代の土器集中ⅢPB-18が出土しているが、両者の間にはⅢc層上位の土が堆積しており、明瞭な層位的違いをもって出土していた。

ⅢPB-30 (図Ⅲ-75 図版 48-3)

Z-29区で検出した。52×30cmの範囲で50点の土器片が出土した。出土した土器は3のⅦB3cに分類した甕である。整形は粗雑で器表面の凹凸が著しいが、内外面ともにミガキ調整を行っている。



図Ⅲ-75 集中遺物平面図及び出土遺物

表Ⅲ-103 擦文文化期土器集中属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-75-1	129-2-1	SP904A	VII E2	56510.56600.56614他	ⅢbM	ⅢPB-17	AC-22	壺	胴部	ロクロナデ ヘラナデ	ロクロナデ ケズリ	22	
Ⅲ-75-2	129-2-2	SP904B	VII E2	30559	ⅢbL	ⅢPB-17	AC-22	壺	底部	ヘラナデ	ケズリ	1	
Ⅲ-75-3	129-2-3	SP126A	VII B3c	63477.63513.63549他	ⅢbL	ⅢPB-30	Z-029	甕	口縁～ 底部	ミガキ 黒色処理	ミガキ	35	
				74722	ⅢbL	—	V-35					1	
				63579	ⅢbL	—	X-29					1	
				69050	ⅢcL	—	Z-29					1	
Ⅲ-75-4	129-2-4	SP097C	VII E2a	70244.70255.70257他	ⅢbL	ⅢPB-41	AA-28	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	6	
Ⅲ-75-5	129-2-5	SP557A	VII C	70240.70242.70243他	ⅢbL	ⅢPB-41	AA-28	坏	口縁～ 体部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ミガキ	4	

表Ⅲ-104 ⅢSB-60属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差								
—	—	—	116105	ⅢbL	完形	60.5	19.3	36.8	6.4	14.5	-4.3	1.6	-0.5	42.4	—	Sa.			
—	—	—	116106	ⅢbL	完形	70.1	19.3	37.1	6.4	19.7	0.9	1.9	-0.3	64.5	—	Sa.			
—	—	—	116122	ⅢbL	完形	70.5	19.3	29.0	6.4	14.9	-3.9	2.4	0.3	44.0	—	Sa.			
—	129-3	ⅢS1425	116107	ⅢbL	完形	71.5	19.3	35.1	6.4	13.8	-5.0	2.0	-0.1	49.1	—	Sa.	他1点		
—		—	116113	ⅢbL	完形	72.3	19.3	29.2	6.4	25.5	6.7	2.5	0.3	69.2	—	Sa.			
—		—	116102	ⅢbL	完形	78.5	19.3	39.1	6.4	17.6	-1.2	2.0	-0.2	66.3	—	Sa.			
—		—	116103	ⅢbL	完形	82.6	19.3	38.5	6.4	21.7	2.9	2.1	0.0	86.1	—	Sa.			
—		—	116112	ⅢbL	完形	85.2	19.3	39.0	6.4	18.7	-0.1	2.2	0.0	63.4	—	Sa.			
—		—	116121	ⅢbL	完形	85.9	19.3	36.9	6.4	20.2	1.4	2.3	0.2	84.2	—	Sa.			
—		—	116112	ⅢbL	完形	88.4	19.3	38.9	6.4	20.9	2.1	2.3	0.1	86.4	—	Sa.			
—		—	116119	ⅢbL	完形	97.8	19.3	43.0	6.4	18.9	0.1	2.3	0.1	103.4	—	Sa.			
平均						78.5		36.6		18.8		2.16		69.0					
												総点数	30点	※完形 11点					

文様は太く深い斜位の沈線を重ねているが、口縁部の横位の沈線はさらに太くて浅い沈線が引かれており、異なる工具で施文したと考えられる。

ⅢPB-41 (図Ⅲ-75 図版 48-4・5)

AA-28 区で検出した。56×40cm の範囲で 125 点の土器片が出土している。構成する土器片には SP097 と SP557 の 2 個体分が含まれていた。4 は SP097 個体の甕片で、VII B2a に分類した。浅いが明瞭な沈線で施文され、内外面共にミガキ調整が行われている。内面には黒色処理も施されていた。5 は SP557 個体の坏口縁～体部片である。内外面共ミガキ調整が行われ、内面は黒色処理が施されている。口縁部には段状沈線が廻っている。

ⅢSB-60 (図Ⅲ-75 図版 48-4・5)

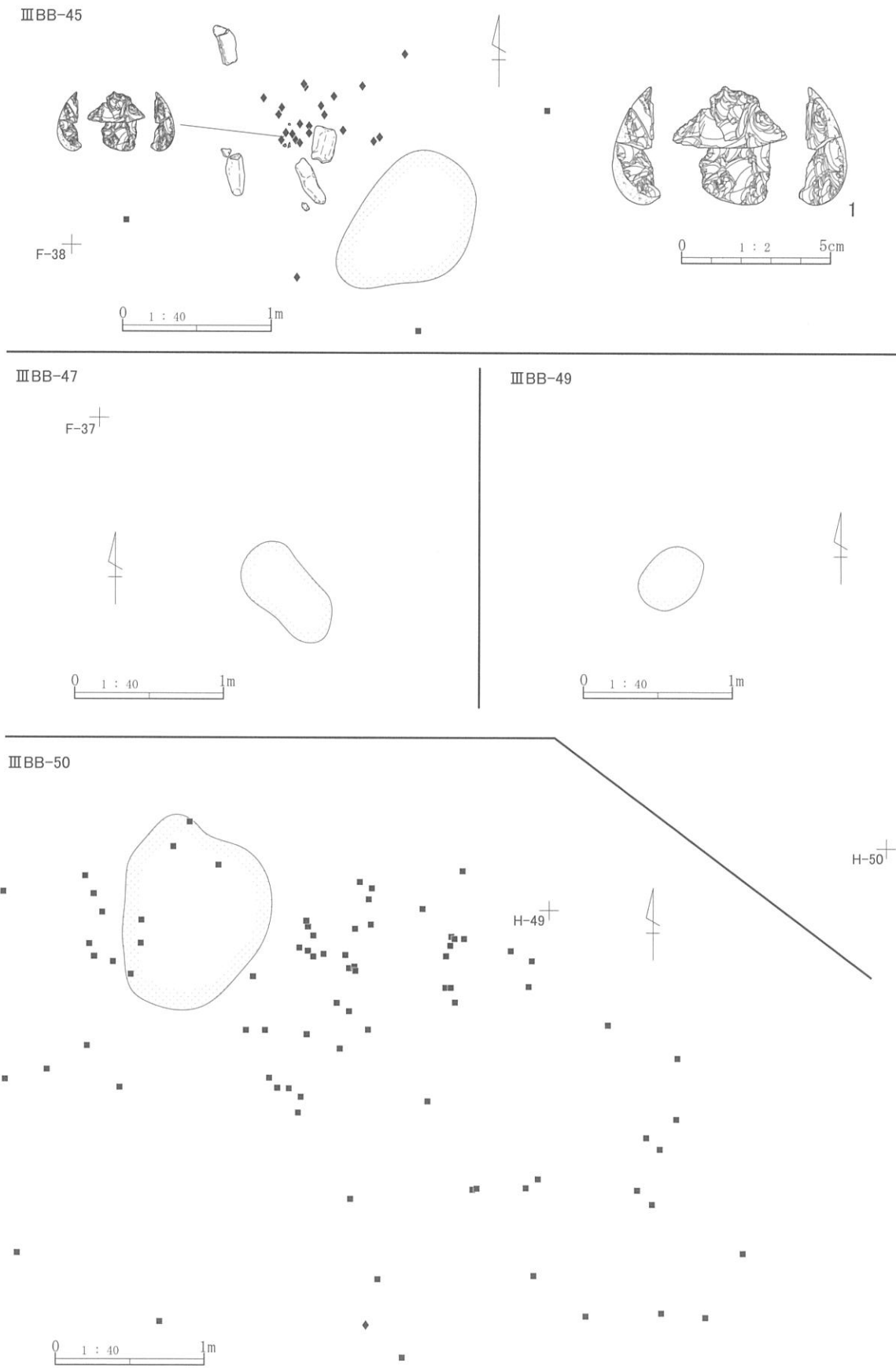
集中区 42 の南東方向にあたる H・I-46 区で検出した。108×72cm の範囲で 30 点の礫がやや散漫な状態で出土した。比較的大型の棒状礫を中心に構成された礫集中で、完形個体は 11 点あり、欠損率は平均的である。

第7節 焼骨片集中

焼土を伴わない焼骨片のみの集中の内、他の遺構との関連性が低い例をここで記載する。全て T₁ で検出した焼骨片集中である。

ⅢBB-45 (図Ⅲ-76)

T₁-T₂ 段丘崖裾にあたる E-37 区で検出した。108×76cm の範囲で広がる焼骨片の集中で、周囲が



図III-76 擦文文化期焼骨片集中

表Ⅲ-105 擦文文化期焼骨片集中属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備考
						長軸	短軸				
Ⅲ-76	—	ⅢBB-45	E・F-37	ⅢbL	楕円形	108	76	—	被熱	—	
Ⅲ-76	—	ⅢBB-47	F-36	ⅢbL	長楕円形	60	40	—	被熱	—	
Ⅲ-76	—	ⅢBB-49	G-50	ⅢbL	楕円形	46	36	—	被熱	—	
Ⅲ-76	—	ⅢBB-50	G・H-49	ⅢbL	楕円形	128	99	—	被熱	—	

表Ⅲ-106 ⅢBB-45出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-76-1	—	—	115612	RF・UF	B2	ⅢbL	ⅢBB-45	E-37	40.1	36.3	16.2	未計測	Obs.	

ら長さ 30cm の規模の礫が 4 点と、黒曜石のフレイクが多数出土した。1 はフレイクと共に出土した RF・UF に分類される石器で、転礫を素材としている。

ⅢBB-47 (図Ⅲ-76)

T₁-T₂ 段丘崖裾にあたる F-36 区で検出した。60×40cm の範囲で広がる焼骨片集中である。

ⅢBB-49 (図Ⅲ-76)

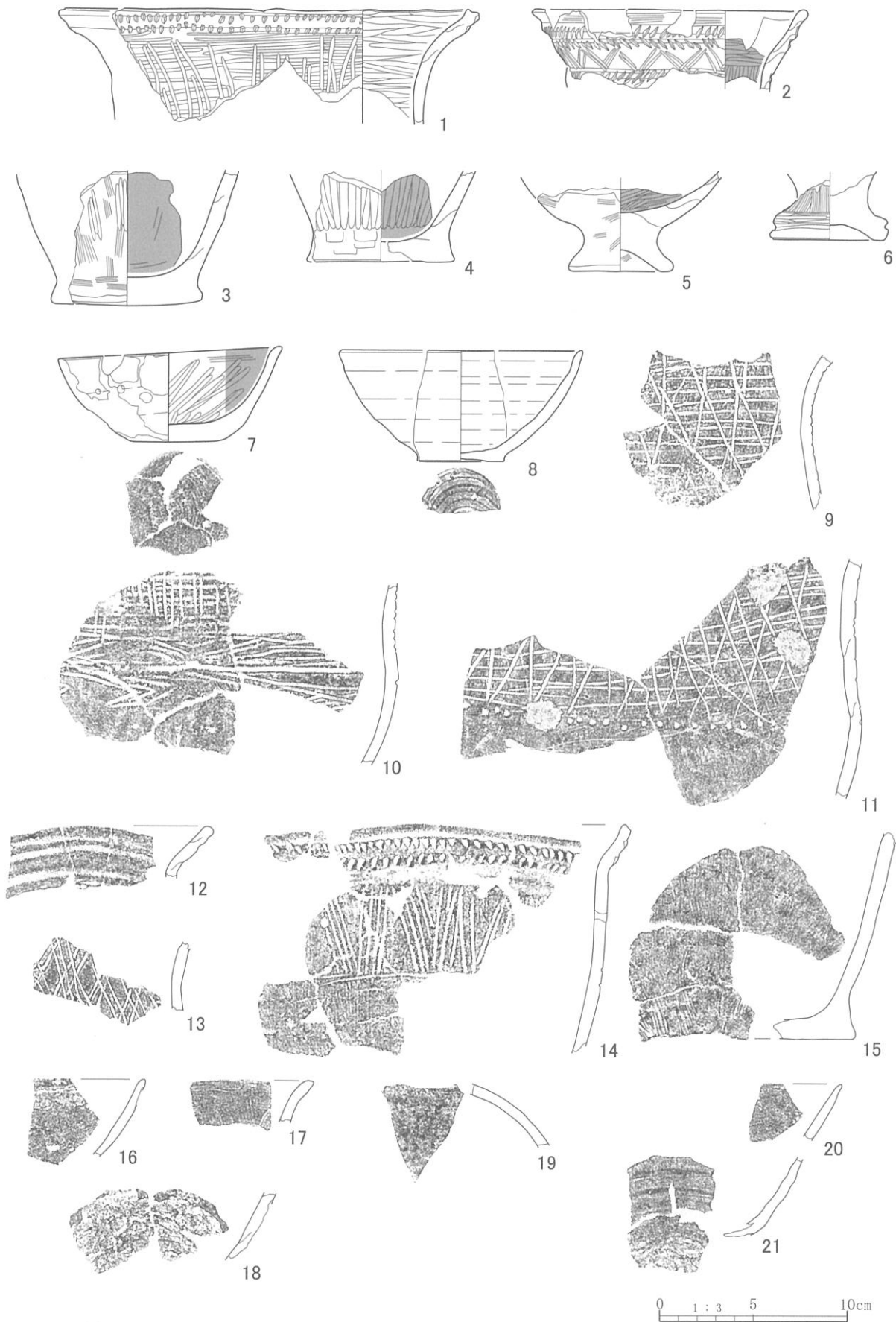
集中区 42 の南西側にあたる T₁ の G-50 区で検出した。46×36cm の範囲で広がる小規模な焼骨片集中である。

ⅢBB-49 (図Ⅲ-76)

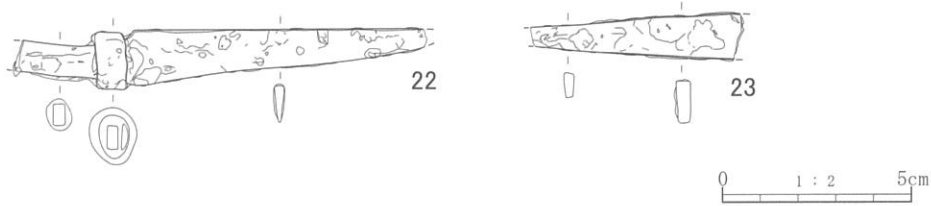
集中区 42 の南西側にあたる T₁ の G・H-49 区で検出した。128×99cm の範囲で広がる小規模な焼骨片集中で、周囲からは棒状を中心とする礫が多く出土していた。

第8節 擦文文化期包含層出土遺物 [図Ⅲ-77・78 図版 130]

1・9~11 はⅧB2a とⅧB3a の甕、2・12~14 はⅧB3c の甕である。1 は 9~11 と比べ深い沈線で施文されている。10 は文様帯が 2 段に分かれる。10・11 は内面黒色処理が施されている。2 は甕の口縁部片で、3 段の刻みを廻らせた間に 2 条一対の鋸歯状沈線を施文している。口縁部文様帯への沈線の施文は遺跡内では他に例がなく、異質な印象を受ける土器である。14 は粗雑な器面調整により器表面の凹凸が著しい。胎土中には粒径 1mm 程の砂粒が多く認められる。5・6・16~18 は坏の破片で、5・6 はⅧC4 の台部片である。5 の内面は黒色処理され、外面はハケメ調整の痕が残る。19 は須恵器壺の破片で、遺跡内で出土した他の壺とは破断面の色調が異なり、暗赤褐色を呈している。出土位置は平成 17 年度調査範囲の L-22 区で、接合資料が出土する可能性が想定されたため既刊報告書への掲載を見合わせていた。しかしその後も同一個体片の出土はなく、破片が 1 点のみであった。第七章第 7 節胎土分析試料の候補としていたが、1 点のみの破片であったため破壊することができず、分析からは除外した。7・8・20・21 はロクロ製作の坏で、内 20・21 は同一個体である。7・20・21 は軟質の製品で、7 は内面にミガキ調整が加えられた後、黒色処理が行われている。20・21 は器表面の色調が赤味を帯び、胎土に粒径 1mm 以下の砂粒が多く含まれている。8 は須恵器と同様の硬質なつくりだが、器面の色調は赤く酸化炎焼成によりつくられた坏である。胎土は 7・20・21 に比べよく精製されており、均質な粘土が使用されている。22 は小刀で、茎部に帯金具が組み合わさっている。茎は錆化が著しく本来の形状は定かでない。23 は断面方形の刀子茎である。



図Ⅲ-77 擦文文化期包含層出土遺物(1)



図Ⅲ-78 擦文文化期包含層出土遺物(2)

表Ⅲ-107 擦文文化期包含層出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-77-1	130-1	SP106A	ⅦB2a	76185	ⅢbL	-	W-36	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	1	
				76264	ⅢbU		X-37				2		
Ⅲ-77-2	130-8	SP150A	ⅦB3f	56487.56975.55102他	ⅢbL	-	AG-15	甕	口縁	ミガキ 黒色処理	ナデ	9	
Ⅲ-77-3	130-9	SP124A	ⅦB	60580.60581	ⅢbL	-	Y-22	甕	底部	ナデ 黒色処理	ハケメ ミガキ	2	
Ⅲ-77-4	130-10	SP088B	ⅦB	62556.63558	ⅢbL	-	W-28	甕	底部	ミガキ 黒色処理	ケズリ ミガキ?	2	
Ⅲ-77-5	130-15	SP537B	ⅦC4	72958	ⅢbL	-	O-40	坏	体部～ 台部	ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	1	
				29912.29915	ⅢbL		R-35					2	
				74725.74726	ⅢbL		V-35					2	
Ⅲ-77-6	130-16	SP555A	ⅦC4	58778	ⅢbL	-	V-23	坏	台部	ナデ	ハケメ ミガキ	1	
Ⅲ-77-7	130-17	SP906A	ⅦE4b	64144.68709.78897他	ⅢbL	-	Z-35	坏	口縁～ 体部	(ロクロナデ) ミガキ 黒色処理	ロクロナデ	12	
Ⅲ-77-8	130-20	SP909A	ⅦE3C	66604	ⅢbL	-	W-32	坏	口縁～ 台部	ロクロナデ	ロクロナデ	1	
Ⅲ-77-9	130-2	SP118A	ⅦB2a	76025.76026.76028	ⅢbL	-	V-41	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	3	
Ⅲ-77-10	130-3	SP107A	ⅦB3a	76261.76262.85511他	ⅢbL	-	X-37	甕	胴部	ミガキ 黒色処理	ナデ	4	
Ⅲ-77-11	130-4	SP138A	ⅦB2a	101380	表採	-	-	甕	胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ	2	
Ⅲ-77-12	130-5	SP088A	ⅦB	32190	ⅢbL	-	R-26	甕	口縁	(ハケメ) ミガキ 黒色処理	ナデ	1	
				60397	ⅢbL		S-26					1	
				59503	ⅢbL		S-27					1	
Ⅲ-77-13	130-6	SP116A	ⅦB2b	81498	ⅢbL	-	U-36	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ	1	
				73896	ⅢbL		V-36					1	
Ⅲ-77-14	130-7	SP099A	ⅦB3C	57869.57875.57876他	ⅢbL	ⅢSB-28	AF-18	甕	口縁～ 胴部	ミガキ 黒色処理?	ハケメ ミガキ	6	
Ⅲ-77-15	130-11	SP151A	ⅦB	63834.63840.63841他	ⅢbL	-	AA-31	甕	胴部～ 底部	ハケメ 黒色処理	ハケメ	4	
Ⅲ-77-16	130-12	SP552A	ⅦC	76388	ⅢbL	-	X-38	坏	口縁	ハケメ ミガキ	ナデ	1	
Ⅲ-77-17	130-13	SP562D	ⅦC	65834	ⅢbL	-	X-30	坏	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ	1	
Ⅲ-77-18	130-14	SP550A	ⅦC	58780.58781	ⅢbL	-	V-23	坏	体部	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ	2	
Ⅲ-77-19	130-21	SP903A	ⅦE2	31259	ⅢbL	-	L-22		胴部	ロクロナデ	ロクロナデ	1	
Ⅲ-77-20	130-18	SP908B	ⅦE4a	64383	ⅢbL	-	U-31	-	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ	1	
Ⅲ-77-21	130-19	SP908A	ⅦE4a	73871	ⅢbL	-	W-39	-	体部～ 底部	ロクロナデ	ロクロナデ	1	
				76410.76411.76412	ⅢbL		X-39					3	

表Ⅲ-108 擦文文化期包含層出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-78-22	130-22	-	55005	刀子	-	ⅢbL	-	V-34	108.1	14.5	12.0	16.8	Irn.	
Ⅲ-78-23	130-23	-	73566	刀子茎	-	ⅢbL	-	P-43	(56.5)	13.0	5.0	5.6	Irn.	